

Groupmax Object Server Version 6 シ ステム管理者ガイド

解説・手引書

3020-3-B56-40

■ 対象製品

P-2446-5154 Groupmax Object Server Version 6 06-82 (適用 OS : Windows 2003, Windows 2008, Windows 2012)

P-2446-5254 Groupmax Object Server Version 6 06-82 (適用 OS : Windows 2003, Windows 2008, Windows 2012)

P-2446-7144 Groupmax High-end Object Server Version 6 06-82 (適用 OS : Windows 2003, Windows 2008, Windows 2012)

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P.のオペレーティングシステムの名称です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Office は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■ 発行

平成 12 年 12 月 (第 1 版) 3020-3-B56 (廃版)

平成 14 年 7 月 (第 2 版) 3020-3-B56-10 (廃版)

平成 22 年 4 月 (第 3 版) 3020-3-B56-20 (廃版)

平成 26 年 6 月 (第 4 版) 3020-3-B56-30 (廃版)

平成 27 年 3 月 (第 5 版) 3020-3-B56-40

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2000, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-B56-40) Groupmax Object Server Version 6 06-82, Groupmax High-end Object Server Version 6 06-82

追加・変更内容	変更箇所
再編成パラメタファイルの記述例を追加しました。	7.7.3
アンロードファイルのサイズの説明を修正しました。	8.4.1(4), 8.5.1(3)
KFXO40401-E 及び KFXO40402-E メッセージの対処を追加しました。	付録 D.6
KFXO40401-E 及び KFXO40402-E メッセージの対処方法を修正しました。	付録 I.6

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容(3020-3-B56-30) Groupmax Object Server Version 6 06-82, Groupmax High-end Object Server Version 6 06-82

追加・変更内容
オブジェクトサーバの環境設定の順序の注意を訂正しました。
環境変数の説明を訂正しました。
表 7-1 でサンプルファイルの項目の作成者の説明を訂正しました。
[Object Server 管理ツール] ウィンドウの起動方法の説明を訂正しました。
Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの起動方法の説明を訂正しました。
[Groupmax 環境設定] ウィンドウの注意を追加しました。
ダイアログで指定する項目の説明を訂正しました。
Windows NT クラスタでのオブジェクトサーバの環境設定の説明を訂正しました。
Windows 2012 使用時の注意事項を追加しました。
ユーザアカウント制御の説明を訂正しました。
環境変数 PATH の説明を訂正しました。
ヘルプ機能で参照できる機能説明を追加しました。

第 4 版では第 3 版の目次の構成を変更しました。第 3 版との対応は次のようになっています。

第 3 版	第 4 版
—	付録 I Object Server 管理ツールのヘルプ
—	付録 J Groupmax 環境設定のヘルプ
付録 I 用語解説	付録 K 用語解説

変更内容(3020-3-B56-20) Groupmax Object Server Version 6 06-80, Groupmax High-end Object Server Version 6 06-80

追加・変更内容
複数のネットワークボード搭載時の注意を追加しました。

追加・変更内容

「2.3 システム管理者による環境設定」及び「3. オブジェクトサーバの起動と終了」を付録 G にまとめました。

インストール及びアンインストールするユーザについて補足しました。

Windows 2008 使用時の注意事項を追加しました。

DBSINT.BAT の内容が変更になりました。xodjnlinit コマンド及び xodstsininit コマンドのパスに%~~X~~O~~O~~D~~D~~I~~R~~%~~%~~bin%を付与しました。

Groupmax Address/Mail Version 6 を Groupmax Address/Mail Version 7 に変更しました。

Esetreco.txt - 構成変更パラメタファイルを%~~e~~setreco.txt - 再構成パラメタファイルに訂正しました。

%~~d~~bsint.bat を%~~D~~BSINT.BAT に訂正しました。

図 C-11, 図 C-15, 図 C-16, 図 C-17, 図 C-21, 図 C-22, 図 C-23, 図 C-24, 図 C-25, 図 C-29 及び説明で、キャンセルを操作するショートカットキー(C)を追加しました。

図 C-21, 図 C-22, 図 C-23, 図 C-24, 図 C-25 及び説明で、OK を操作するショートとカットキー(N)を追加しました。

図 C-21 及び説明で、ヘルプを操作するショートカットキー(H)を(L)に変更しました。

図 C-22, 図 C-23 及び説明で、ヘルプを操作するショートカットキー(H)を追加しました。

操作 2, 3 の順番を入れ替えました。

パラメタ名称(S)の説明を訂正しました。

「ディレクトリ名称(D):」のデフォルト値を訂正しました。

図 C-19 [システム構成の設定] ダイアログで「プログラムの選択」項目に、Object Server の種別(High/Low)を選択するためのコンボボックスを追加しました。また、Object Server の種別を操作するショートカットキー「(9)」も追加しました。

このサーバに登録するユーザ数(U)の選択肢を訂正しました。

OS 種別(Q)の説明を追加しました。

プログラムの選択に選択肢を追加しました。

プログラムの選択の説明を追加しました。

データベース名称 (スキーマ名称) (S)の説明を訂正しました。

表 C-1 で指定内容の「全文書数 (一般文書のみ)」を「全一般文書数 (旧:全文書数 (一般文書のみ))」に訂正しました。

表 C-1 で指定内容及び説明の「ワーク ID 採番用管理情報遅延機能」を「ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能」に訂正しました。

表 C-1 で指定内容の「Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値」を「WF の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値」に訂正しました。

表 C-1 で指定内容の「ワーク下のオブジェクト数」を「ワーク下のオブジェクト数 (最大値)」に訂正しました。

表 C-1 で指定内容の「施設を登録した全階層数(1~9999)」を削除しました。

図 C-21 [オプション設定] ダイアログで「Object Server」及び「High-end Object Server」の項目をラジオボタンから画面上の静的な文字列に訂正しました。

操作 2 の説明を補足しました。

Object Server を使用する場合の設定項目の説明を訂正しました。

追加・変更内容

High-end Object Server を使用する場合の設定項目の説明を訂正しました。

Object Server(Q)の説明を訂正しました。

High-end Object Server(E)の説明を訂正しました。

図 C-24, 図 C-25 のダイアログに, 次のメッセージを追加しました。

※「必要なディスク容量」の項目に表示されている値は, 初期割り当てに必要なディスク容量です。

OK:の説明を追加しました。

図 C-30 [カーネルパラメタ設定] ダイアログで「プログラムの選択」項目に, Object Server の種別(High/Low)を選択するためのコンボボックスを追加しました。また, Object Server の種別を操作するショートカットキー「(9)」も追加しました。

プログラムの選択でデフォルト値を訂正しました。

Windows 2008 時に実行するコマンドを追加しました。

Windows 2003 及び Windows 2008 使用時の注意事項を追加しました。

第 3 版では第 2 版の内容の一部を移動し, 目次の構成を変更しました。第 2 版との対応は次のようになっています。

第 2 版	第 3 版
—	付録 G 各 OS 使用時の注意事項
付録 G メッセージ	付録 H メッセージ
付録 H 用語解説	付録 I 用語解説

変更内容(3020-3-B56-10) Groupmax Object Server Version 6 06-50, Groupmax High-end Object Server Version 6 06-50

追加・変更内容

最大割り当て量及びセグメントサイズの制限値を変更した。

一つのアンロードファイルのサイズが 4 ギガバイトを超える場合にも, データベースを再構成・再編成できるようにした。

システム構成の [詳細設定] ダイアログで, ユーザのユーザヒストリ取得最大数を指定できるようにした。

第 2 版では第 1 版の内容の一部を移動し, 目次の構成を変更しました。第 1 版との対応は次のようになっています。

第 1 版	第 2 版
付録 A 用語解説	付録 H 用語解説
付録 B 初期設定パラメタの指定例	付録 A 初期設定パラメタの指定例
付録 C バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定	付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定
付録 D Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定	付録 C Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定
付録 E 障害予防	付録 D 障害予防
付録 F Windows NT クラスタでのオブジェクトサーバの環境設定	付録 E Windows NT クラスタでのオブジェクトサーバの環境設定

第 1 版	第 2 版
付録 G プロセスの状態表示の出力例	付録 F プロセスの状態表示の出力例
付録 H メッセージ	付録 G メッセージ

はじめに

このマニュアルは、日立のグループウェア Groupmax のデータベースとしてオブジェクト管理ファイルを管理及び運用するための機能と使い方について説明したものです。

Groupmax Object Server Version 6 及び Groupmax High-end Object Server Version 6 は、オペレーティングシステム Windows 2003, Windows 2008 及び Windows 2012 上で動作します。

■ 対象読者

このマニュアルは、オブジェクトサーバのオブジェクト管理ファイルを管理及び運用するシステム管理者を対象にしています。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 概説

オブジェクトサーバの概要について説明しています。

第 2 章 オブジェクトサーバの環境設定

オブジェクトサーバを起動する前に必要な環境設定について説明しています。

第 3 章 オブジェクトサーバの起動と終了

オブジェクトサーバを起動及び終了する方法について説明しています。

第 4 章 データベースの運用

オブジェクトサーバのデータベースの運用方法について説明しています。

第 5 章 システムファイルの運用

オブジェクトサーバのデータベースの運用に使用するシステムファイルの説明と、ステータスファイル及びジャーナルファイルの運用について説明しています。

第 6 章 障害対策

オブジェクトサーバで障害が発生した場合の対処について説明しています。

第 7 章 オブジェクトサーバのファイル

オブジェクトサーバのファイルを一覧で説明しています。また、環境設定時に作成しなくてはならないファイルの記述方法についても説明しています。

第 8 章 オブジェクトサーバで使用するユティリティ

オブジェクトサーバのユティリティの機能及び操作方法について説明しています。

第 9 章 High-end Object Server で使用する運用コマンド

High-end Object Server の運用コマンドの機能及び文法について説明しています。

付録 A 初期設定パラメタの指定例

Groupmax シリーズのプログラムとオブジェクトサーバを組み合わせる使用するときの、初期設定パラメタの指定例を説明しています。

付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定

High-end Object Server では、システムファイルの環境設定を、バッチファイルで実行できます。このバッチファイル及び使用するサンプルファイルについて説明しています。

付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使うと、Groupmax サーバプログラムの通信環境の設定、及びオブジェクトサーバの定義ファイルの作成が簡単にできます。このユーティリティの使用方法について説明しています。

付録 D 障害予防と対処

オブジェクトサーバを運用する上で注意することについて説明しています。

付録 E Windows NT クラスタでのオブジェクトサーバの環境設定

Windows NT のクラスタリング機能の環境を設定する方法について説明しています。

付録 F プロセスの状態表示の出力例

[プロセスの状態表示] ユティリティの処理結果の表示内容について説明しています。

付録 G 各 OS 使用時の注意事項

各 OS でオブジェクトサーバを運用する上で注意することについて説明しています。

付録 H メッセージ

オブジェクトサーバで表示されるアボートコード及び詳細コードについて一覧で説明しています。

付録 I Object Server 管理ツールのヘルプ

Object Server 管理ツールのヘルプ画面の説明やメッセージを記載しています。

付録 J Groupmax 環境設定のヘルプ

Groupmax 環境設定のヘルプについての説明を記載しています。

付録 K 用語解説

オブジェクトサーバで使用する用語について説明しています。

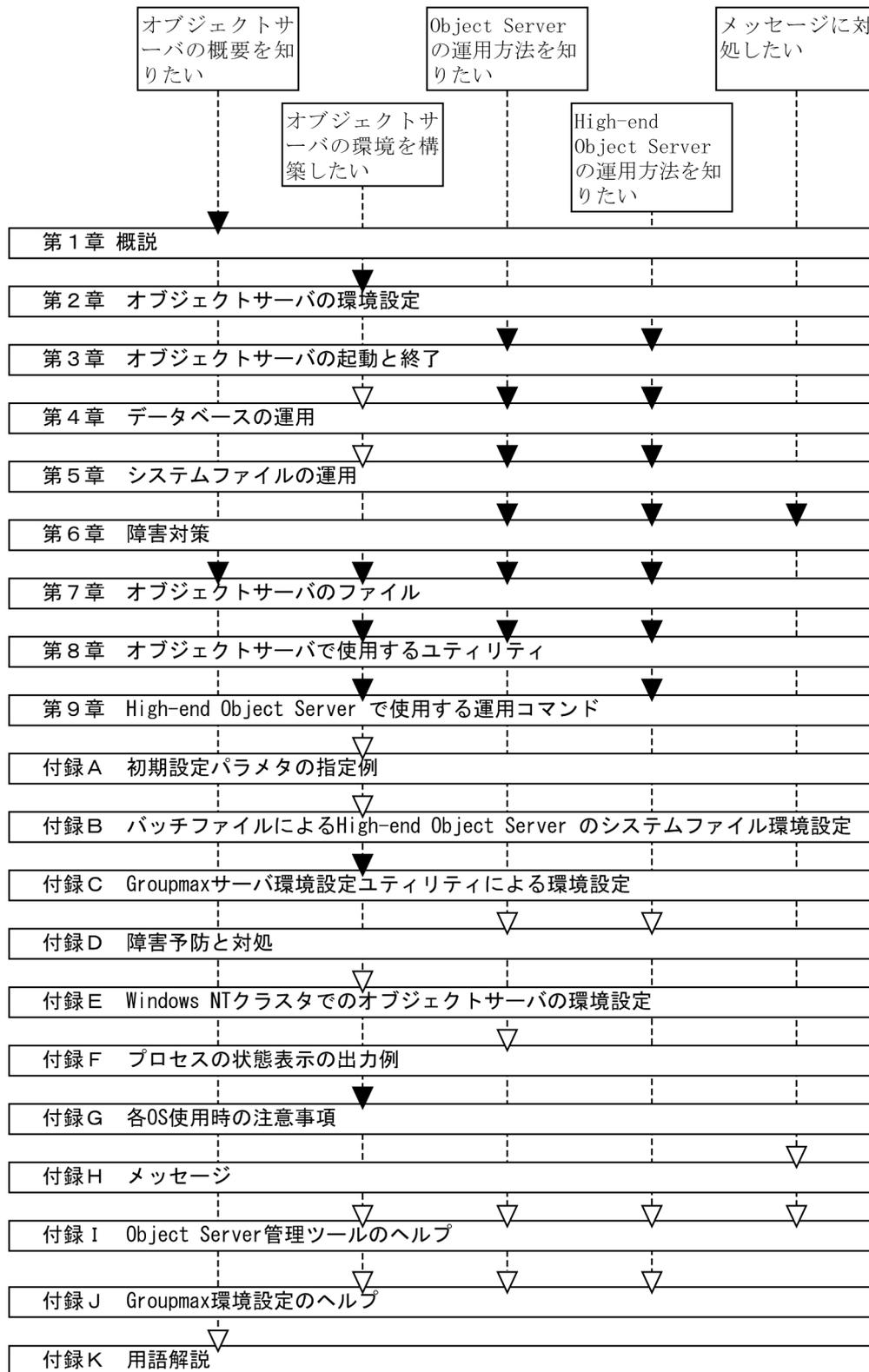
■ 関連マニュアル

このマニュアルは次のマニュアルと関連がありますので、必要に応じてお読みください。

- Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編 (3020-3-D10)
- Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B54)
- Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B59)
- Windows NT Groupmax System Manager - TCP/IP/System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド (3020-3-A82)

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択してお読みいただけます。利用目的別に、次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



(凡例) : 必ず読む項目 : 必要に応じて読む項目

■ マニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を、次のように定義します。

記号	説明
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が縦に複数行にわたって記述されている場合は、そのうちの1行分を選択します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) {A B C} では A, B 又は C のどれかを指定することを示します。
[]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が縦又は横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例) [A] は「何も指定しない」か、「A を指定する」ことを示します。 [B C] では「何も指定しない」か、「B 又は C を指定する」ことを示します。
...	記述が省略されていることを示します。この記号の直前に示された項目を繰り返し複数個指定できます。 (例) A, B, ...では「A の後ろに B を必要個数指定する」ことを示します。
—	括弧で囲まれた複数項目のうち1項目に対し使用され、括弧内のすべてを省略したときシステムがとる標準値を示します。 (例) [A B C] では「A, B, C のどれも指定しなかった場合、システムは C が指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。 [A = {B C D}] では「オペランド A を指定しなかった場合、システムは A = B を指定されたときと同じ処理をする」ことを示します。
< >	項目を記述するとき従わなければならない構文要素を示します。
[]	ユーティリティ、ウィンドウ、ダイアログボックス、ボタン、及びメニューの名称を示します。
↑ 計算式 ↑	計算式の答えの小数点以下を切り上げることを示します。

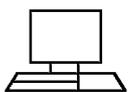
■ マニュアルで使用する構文要素

このマニュアルで使用する構文要素の種類を次に示します。

種類	定義
〈英字〉	A~Z, a~z, _ (アンダーライン) を使った文字列
〈英数字〉	〈英字〉, 0~9 を使った文字列
〈符号なし整数〉	0~9 を使った文字列
〈16進数字〉	0~9, a~f, A~F を使った文字列
〈識別子〉	先頭が〈英字〉である〈英数字〉を使った文字列
〈文字列〉	" (ダブルクォーテーション) を除く任意の文字列。" で囲むと、" を除いた部分を〈文字列〉と見なします。文字として「 」(空白), 「,」(コンマ), 「=」(イコール) を使用するときは、必ず「"」で囲んでください。

■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

●ワークステーション,
パーソナルコンピュータ

●入出力の動作



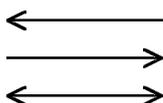
●プログラム



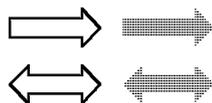
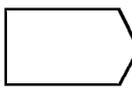
●ファイル



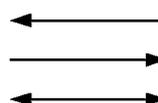
●制御の流れ



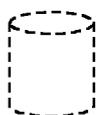
●データの流れ

●工程, 作業項目の
流れ

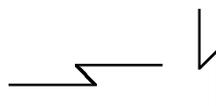
●その他の流れ



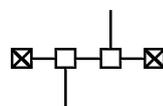
●仮想ファイル



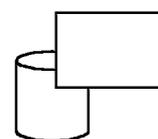
●通信回線



●バス形のLAN



●ファイルの内容



■ マニュアルで使用する用語

このマニュアルで使用する用語について説明します。

- Windows NT などのオペレーティングシステムを OS (Operating System) と呼びます。
- Object Server 及び High-end Object Server の管理するオブジェクト管理ファイルをデータベースと表記する場合があります。
- 本文及びメッセージ中では、次のように用語を呼び替えています。

用語	マニュアルで使用する用語
データベース	DB (Database)
オブジェクトサーバ	OMS (Object Management Server)
ユーザジャーナル	UJ (User Journal)
システムジャーナル	JN (System Journal)
ステータスファイル	STS (Status File)
アプリケーションプログラム	AP (Application Program)
パーソナルコンピュータ	PC (Personal Computer)

■ このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を次に示す略称で表記しています。

製品名称	略称
Groupmax Object Server Version 6	Object Server
Groupmax High-end Object Server Version 6	High-end Object Server
Groupmax Address Server Version 7	Groupmax Address Server

製品名称	略称
Groupmax Document Manager Version 6	Groupmax Document Manager
Groupmax High-end Document Manager Version 6	Groupmax High-end Document Manager
Groupmax Mail Server Version 7	Groupmax Mail Server
Groupmax Mail - X.400 Version 6	Groupmax Mail - X.400
Groupmax Mail-Administrator Utilities Version 3	Groupmax Mail-Administrator Utilities
Groupmax Workflow Server Version 6	Groupmax Workflow Server
Groupmax High-end Workflow Server Version 6	Groupmax High-end Workflow Server
Groupmax Agent Server Version 5	Groupmax Agent Server
Groupmax Agent Server Mail Option Version 5	Groupmax Agent Server Mail Option
Groupmax Agent - Mail Server Version 6	Groupmax Agent - Mail Server
Groupmax Agent - Mail Function Version 6	Groupmax Agent - Mail Function
Groupmax Agent - Document Manager Server Version 5	Groupmax Agent - Document Manager Server
Groupmax Agent - Workflow Server Version 5	Groupmax Agent - Workflow Server
Groupmax Facilities Manager Version 7	Groupmax Facilities Manager
Groupmax Remote Installation Server Version 3	Groupmax Remote Installation Server
Groupmax Scheduler Server Version 7	Groupmax Scheduler Server
Groupmax System Agent - TCP/IP Version 6	Groupmax System Agent - TCP/IP
Groupmax System Manager - TCP/IP Version 6	Groupmax System Manager - TCP/IP
Groupmax World Wide Web Desktop Version 6	Groupmax World Wide Web
Groupmax Form Server-Processing Option Version2.0	Groupmax Form Server
Groupmax Form Client - Design Version 6	Groupmax Form
Groupmax Integrated Desktop Version 7	Groupmax Integrated Desktop
Microsoft ^(R) Windows ^(R) 95 Operating System, Microsoft ^(R) Windows ^(R) 98 Operating System 及び Microsoft ^(R) Windows ^(R) Millennium Edition Operating System	Windows
Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003, Standard Edition 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003, Standard x64 Edition 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003, Enterprise Edition 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003 R2, Standard Edition 日本語版及び	Windows 2003 [※]

製品名称	略称
Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版	Windows 2003 [※]
Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 Enterprise 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 Standard 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 Enterprise x64 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 Standard x64 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 R2 Standard x64 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 R2 Enterprise x64 日本語版	Windows 2008 [※]
Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 R2 Standard x64 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2008 R2 Enterprise x64 日本語版	Windows 2008 R2 [※]
Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2012 Standard 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2012 Datacenter 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2012 R2 Standard 日本語版及び Microsoft ^(R) Windows Server ^(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版	Windows 2012 [※]

注※ 製品名称の総称の注釈を参照ください。

また、このマニュアルでは製品を次に示す総称で表記しています。

製品名称	総称
Object Server High-end Object Server	オブジェクトサーバ
Groupmax Address Server Groupmax Mail Server	Groupmax Address/Mail Server
Groupmax Document Manager Groupmax High-end Document Manager	Groupmax Document Manager (Groupmax High-end Document Manager だけの機能については、そのつど、「Groupmax High-end Document Manager」と表記しています。)
Groupmax Workflow Server Groupmax High-end Workflow Server	Groupmax Workflow Server (Groupmax High-end Workflow Server だけの機能については、そのつど、「Groupmax High-end Workflow Server」と表記しています。)
Groupmax System Agent - TCP/IP Groupmax System Manager - TCP/IP	システム統合運用管理
Groupmax Agent - Mail Server Groupmax Agent - Mail Function Groupmax Agent - Document Manager Server Groupmax Agent - Workflow Server	Groupmax Agent - Application

注※ Windows 2008 と Windows 2008 R2 を併記している場合は、Windows 2008 に Windows 2008 R2 は含みません。

マニュアルの本文中でマニュアル名称のあとに「(Windows 用)」と記述されている場合は、そのマニュアルの適用 OS が Windows 2003, Windows 2008 及び Windows 2012 であることを示します。

■ 表記の読み替えについて

Windows 2003 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2003」に読み替えてください。

Windows 2008 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2008」に読み替えてください。

Windows 2012 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2012」に読み替えてください。

Windows 2012 をご使用の方は、本文中の「[スタート] メニュー」を「[アプリ] 画面」に読み替えてください。

Windows 2008 R2 をご使用の方は、本文中にあるファイアウォールの設定画面の「Windows ファイアウォールによる新しいプログラムのブロック時に通知を受け取る」を「Windows ファイアウォールが新しいプログラムをブロックしたときに通知を受け取る」と読み替えてください。

Windows 2012 をご使用の方は、本文中にあるファイアウォールの設定画面の「Windows ファイアウォールによる新しいプログラムのブロック時に通知を受け取る」を「Windows ファイアウォールが新しいアプリをブロックしたときに通知を受け取る」と読み替えてください。

Windows 2008 をご使用の方は、本文中にある「クラスタアドミニストレータ」を「フェールオーバークラスタ管理」と読み替えてください。

Windows 2008 R2 及び Windows 2012 をご使用の方は、本文中にある「クラスタアドミニストレータ」を「フェールオーバークラスタマネージャー」と読み替えてください。

■ マニュアルとオンラインヘルプの使い分け

オブジェクトサーバでは、オンラインヘルプを提供しています*。マニュアルとオンラインヘルプはそれぞれの用途に応じて使い分けてください。

注※ Windows 2012 以降ではオンラインヘルプを使用できません。詳しくは、「付録 G.5 オンラインヘルプ」を参照してください。

■ マニュアルの用途

- オブジェクトサーバの概要を知りたいとき
- オブジェクトサーバの環境を構築したいとき
- オブジェクトサーバの運用方法を知りたいとき

■ オンラインヘルプの用途

- オブジェクトサーバの操作中に表示される、ウィンドウやダイアログの操作方法及び指定内容について知りたいとき
- オブジェクトサーバの操作中に表示される、メッセージやアボートコードの要因及び対処について知りたいとき

■ KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

目次

1	概説	1
1.1	オブジェクトサーバとは	2
1.2	他のプログラムとの関係	5
2	オブジェクトサーバの環境設定	7
2.1	概要	8
2.2	環境設定の準備	10
2.2.1	データベース容量の決定	10
2.2.2	ディレクトリ構成の決定	10
2.2.3	通信設定ファイルの設定	11
2.2.4	システム管理者の設定	11
2.3	システム管理者による環境設定	12
2.3.1	プログラムの組み込みと削除	12
2.3.2	定義ファイルの作成	14
2.3.3	データベースの初期化	15
2.3.4	システムファイルの作成 (High-end Object Server)	17
3	オブジェクトサーバの起動と終了	19
3.1	起動	20
3.1.1	サービス登録	20
3.1.2	開始方法	20
3.2	終了	23
3.3	起動時と終了時の注意	24
4	データベースの運用	25
4.1	データベースの構成変更	26
4.1.1	エリアの追加	26
4.1.2	エリアの削除	28
4.1.3	ファイルの追加	29
4.1.4	ファイルの属性変更	31
4.2	データベースの再編成	33
4.3	データベースの状態表示	37
4.3.1	スキーマ名の表示	37
4.3.2	データベースエリアの使用状況の表示	37
4.3.3	データベースのエリアの情報表示	42
4.3.4	ディクショナリの情報表示	45

4.4	データベースのバックアップの取得	48
4.4.1	バックアップの対象となるファイル	48
4.4.2	OSの機能による取得方法	49
4.4.3	ユティリティによる取得方法	50
4.5	データベースの回復	53
4.5.1	回復の対象となるファイル	53
4.5.2	バックアップからのデータベースファイルの回復方法	53
4.5.3	データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する	54
4.5.4	データベースを障害発生時点からみて最新の同期点の状態に回復する (High-end Object Server)	55
4.5.5	ユティリティの実行	56
4.6	データベースの再構成	61
4.6.1	エリアの再作成	61
4.7	データベースの再初期化	67
4.7.1	エリアの再初期化	67
5	システムファイルの運用	71
5.1	オブジェクトサーバのシステムファイル	72
5.1.1	システムファイル	72
5.2	ステータスファイルの運用 (High-end Object Server)	74
5.2.1	ステータスファイル	74
5.3	ジャーナルファイルの運用	79
5.3.1	簡易ジャーナル (Object Server)	79
5.3.2	システムジャーナル (High-end Object Server)	80
5.3.3	ユーザジャーナル	85
6	障害対策	87
6.1	異常終了時の回復方法	88
6.1.1	メッセージへの対処	88
6.1.2	データベース障害のメッセージが出力されていないとき	88
6.1.3	データベース障害のメッセージが出力されているとき	88
6.2	その他の障害	90
6.2.1	ユーザジャーナルファイルに障害が起こったとき	90
6.2.2	ステータスファイルに障害が起こったとき (High-end Object Server)	90
6.2.3	その他のファイルに障害が起こったとき	91
6.3	障害時の運用	92
6.3.1	障害発生後の起動環境の修復	92
6.3.2	障害回復に必要なファイル	94

7	オブジェクトサーバのファイル	97
7.1	オブジェクトサーバのファイル一覧	98
7.1.1	システム制御ファイル	98
7.1.2	データベースファイル	101
7.2	システム共通定義ファイル	103
7.2.1	システム共通定義の形式	103
7.2.2	システム共通定義の項目	104
7.3	ステータスサービス定義ファイル(High-end Object Server)	111
7.3.1	ステータスサービス定義の形式	111
7.3.2	ステータスサービス定義の項目	111
7.3.3	ステータスサービス定義の注意事項	112
7.4	システムジャーナルサービス定義ファイル(High-end Object Server)	113
7.4.1	システムジャーナルサービス定義の形式	113
7.4.2	システムジャーナルサービス定義の項目	113
7.5	初期設定パラメタファイル	116
7.5.1	初期設定パラメタの形式	116
7.5.2	初期設定パラメタの項目	117
7.6	構成変更パラメタファイル	124
7.6.1	構成変更パラメタの形式	124
7.6.2	構成変更パラメタの項目	124
7.6.3	構成変更パラメタの指定方法	125
7.7	再編成パラメタファイル	127
7.7.1	再編成パラメタの形式	127
7.7.2	再編成パラメタの項目	127
7.7.3	再編成パラメタファイルの記述例	130
7.8	再構成パラメタファイル	132
7.8.1	再構成パラメタの形式	132
7.8.2	再構成パラメタの項目	132
7.9	バックアップパラメタファイル	135
7.9.1	バックアップパラメタの形式	135
7.9.2	バックアップパラメタの項目	135
8	オブジェクトサーバで使用するユティリティ	137
8.1	ユティリティ一覧	138
8.2	ユティリティの実行方法	140
8.2.1	ダイアログを使用したユティリティの実行	140
8.2.2	コマンドを使用したユティリティの実行	143
8.3	データベース環境設定	146
8.3.1	データベースの初期化	146

8.3.2	データベースへのエリアの追加	149
8.3.3	データベースのエリアの削除	151
8.3.4	データベースへのファイルの追加	153
8.3.5	データベースのファイルの属性変更	155
8.4	データベース保守	158
8.4.1	データベースの再編成	158
8.4.2	データベースのバックアップ	162
8.4.3	データベースのリストア	164
8.4.4	データベースの回復 (High-end Object Server)	166
8.4.5	データベースのバックアウト (High-end Object Server)	170
8.5	データベースの再構成	173
8.5.1	データベースのエリアの再作成	173
8.6	データベースの再初期化	176
8.6.1	データベースのエリアの再初期化	176
8.7	データベース診断	178
8.7.1	スキーマ名の表示	178
8.7.2	データベースエリアの使用状況の表示	179
8.7.3	データベースのエリアの情報表示	180
8.7.4	ディクショナリの情報表示	181
8.8	システム運用支援	182
8.8.1	システムジャーナルの情報の表示とアンロード (High-end Object Server)	182
8.8.2	ステータスファイルの情報 (High-end Object Server)	188
8.8.3	ユーザジャーナルのアンロード	190
8.8.4	アプリケーション実行モードへの変更 (High-end Object Server)	192
8.8.5	ユティリティ実行モードによる開始	193
8.9	障害時の運用に使用するユティリティ	194
8.9.1	障害発生後の起動環境の修復	194
8.10	サーバ管理ユティリティ	195
8.10.1	プロセスの状態表示	195
9	High-end Object Server で使用する運用コマンド	199
9.1	High-end Object Server の運用コマンド	200
9.1.1	コマンド一覧	200
9.1.2	運用コマンドの指定方法	201
9.2	ジャーナルファイル管理	203
	xodjnlchg (ジャーナルファイルのステータス変更)	203
	xodjnlcls (ジャーナルファイルのクローズ)	204
	xodjnlinit (ジャーナルファイルの初期設定)	205
	xodjnlopn (ジャーナルファイルのオープン)	206
	xodjnlrm (ジャーナルファイルの削除)	207

xodjnlswp (ジャーナルファイルのスワップ)	207
xodjnlunl (ジャーナルファイルのアンロード)	208
9.3 ステータスファイル管理	210
xodstscsl (ステータスファイルのクローズ)	210
xodstsinil (ステータスファイルの初期設定)	211
xodstsofn (ステータスファイルのオープン)	212
xodstsrn (ステータスファイルの削除)	213
xodstsswp (ステータスファイルのスワップ)	214

付録	215
付録 A 初期設定パラメタの指定例	216
付録 A.1 指定例	216
付録 A.2 ファイル容量の計算式	218
付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定	221
付録 B.1 サンプルファイル	221
付録 B.2 バッチファイルの使用方法	221
付録 B.3 サンプルファイルの内容	222
付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定	224
付録 C.1 Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能	224
付録 C.2 環境設定の手順	229
付録 C.3 ダイアログボックスの操作	235
付録 C.4 作成ファイルを他のサーバで使用する場合	274
付録 C.5 クラスタ環境で使用する場合の注意事項	276
付録 D 障害予防と対処	277
付録 D.1 バックアップの取得による障害予防	277
付録 D.2 データベースの運用時の障害予防	278
付録 D.3 システム移行時の障害予防	283
付録 D.4 バージョンアップ時の障害予防	284
付録 D.5 ジャーナルファイル容量不足の対処	285
付録 D.6 KFXO40401-E, KFXO40402-E メッセージの対処	286
付録 E Windows NT クラスタでのオブジェクトサーバの環境設定	295
付録 E.1 インストールから環境設定までの流れ	295
付録 E.2 インストールの方法	296
付録 E.3 環境設定	296
付録 E.4 グループとリソースの作成	298
付録 E.5 運用上の注意事項	299
付録 F プロセスの状態表示の出力例	300
付録 G 各 OS 使用時の注意事項	304
付録 G.1 環境設定	304

付録 G.2 サービスの開始・終了	304
付録 G.3 コマンドおよびバッチファイルの実行	305
付録 G.4 ファイアウォール	305
付録 G.5 オンラインヘルプ	305
付録 G.6 スタートメニューの表記	306
付録 H メッセージ	307
付録 H.1 メッセージの形式	307
付録 H.2 アボートコード	307
付録 H.3 詳細コード	334
付録 H.4 errno のコード一覧	338
付録 I Object Server 管理ツールのヘルプ	340
付録 I.1 はじめに	340
付録 I.2 Object Server の概要	341
付録 I.3 Object Server を使う	342
付録 I.4 ダイアログボックスの説明	355
付録 I.5 用語解説	374
付録 I.6 メッセージ	376
付録 J Groupmax 環境設定のヘルプ	833
付録 J.1 通信環境の設定	833
付録 J.2 Object Server 簡易設定	835
付録 J.3 カーネルパラメタ情報設定	852
付録 J.4 使用上の注意	854
付録 K 用語解説	863

索引

867

1

概説

この章では、オブジェクトサーバの概要及び他の Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムとの関係について説明します。

1.1 オブジェクトサーバとは

このマニュアルで「オブジェクトサーバ」と呼んでいるのは、Object Server と High-end Object Server の二つのプログラムです。

この節では、オブジェクトサーバの概要を説明します。

(1) オブジェクトサーバの概要

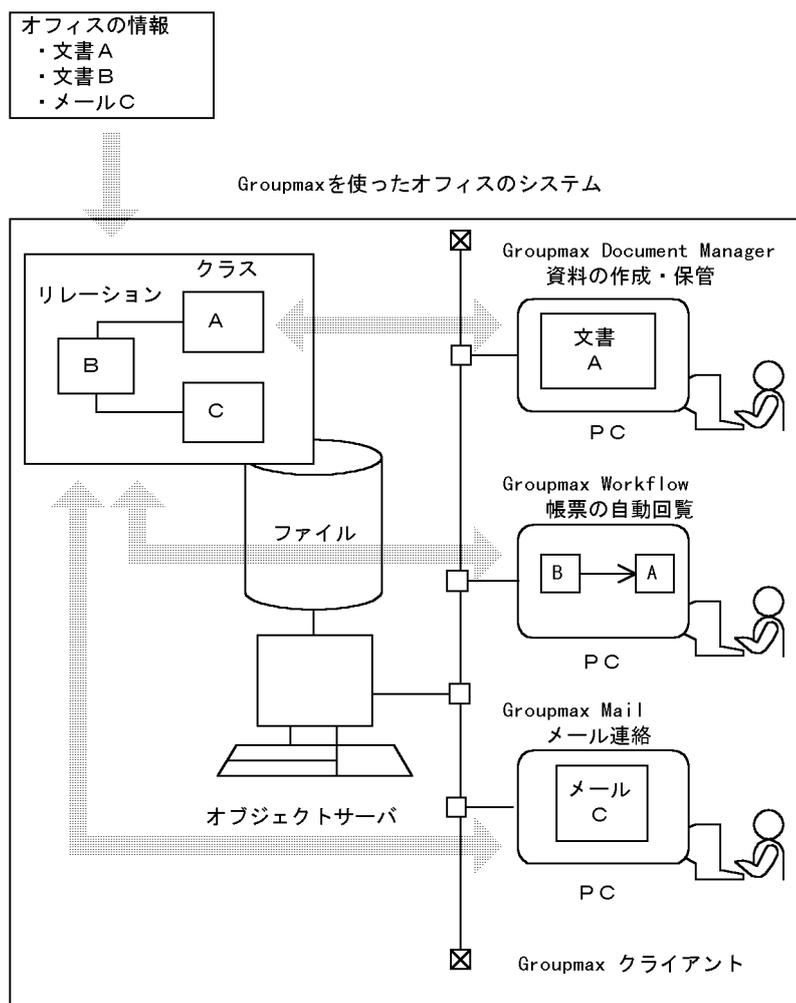
オフィスにパーソナルコンピュータが普及している今、扱う情報は様々です。例えば、そのような情報の一つに文書があります。オフィス内の文書は多様な構造を持ち、互いに密接な関連を持っています。そして、このような情報の全体が、企業の大切な財産です。特に、オフィスでの業務を活性化するグループウェアのデータベースは、このような情報の全体を管理する必要があります。

オブジェクトサーバ (Object Server 及び High-end Object Server) は、グループウェア Groupmax のデータベースとして、ビジネスで使用する、複雑で多様な構造と関連を持つ情報を「オブジェクト」として格納できます。そして、これらのオブジェクトを管理するための、高性能なデータベース管理機能を備えています。オブジェクトサーバは、オブジェクトクラス、属性、リレーションなどの、オブジェクト指向に基づいたデータ構造を持っていますので、オフィスで扱う様々なデータを柔軟に扱えます。

オブジェクトサーバと連携して、データ (オブジェクト) を格納する Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムは、Groupmax Document Manager, Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Address/Mail Server です。オブジェクトサーバのオブジェクトは、これらの Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムを介して操作されます。

図 1-1 に、オフィスで使われるオブジェクトサーバを示します。

図 1-1 オフィスで使われるオブジェクトサーバ



(2) Object Server と High-end Object Server

High-end Object Server は、Object Server に比べて、高い性能及び高い信頼性を実現するために、ステータスファイル及びシステムジャーナルの機能が追加されています。そのため、Object Server と High-end Object Server では、主にジャーナルの運用が異なります。

マニュアル中では、High-end Object Server だけの機能については、その都度「(High-end Object Server)」, Object Server だけの機能については、その都度「(Object Server)」とプログラム名を付けています。特にプログラム名の記載がなく、「オブジェクトサーバ」と表記している機能は、両方のプログラムに共通する機能です。

(3) オブジェクトサーバが提供するユティリティ

オブジェクトサーバは、次に示すように、ユーザの運用を支援するユティリティを提供しています。

- データベース環境設定
データベースの初期化、データベースのエリアやファイルの追加、エリアの削除、及びファイルの属性変更など、データベースの環境を設定します。
- データベース保守

データベースの空き領域やインデックスの乱れを取り除いたり、障害時のデータの回復をしたりなどして効率的なデータベースの処理ができるようにします。

- データベースの再構成
データベースのエリアの再作成をします。
- データベースの再初期化
障害の発生したデータベースを再初期化します。データベースのバックアップを取得していない場合に、データベースのファイルが削除されたなどのファイルの障害を回復するために使用します。
- データベース診断
データベースのスキーマ名を表示したり、データベースエリアの使用状況を表示したりします。
- システム運用支援
システムジャーナルやステータスファイルの情報やユーザジャーナルのアンロードなどシステムの運用を支援します。
- 障害時の運用に使用するユティリティ
障害発生時にシステム管理者が使用する障害情報を、不要になった場合に削除します。

1.2 他のプログラムとの関係

オブジェクトサーバは、Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムの管理するデータを格納します。

この節では、オブジェクトサーバと連携するプログラムについて説明し、それらを使用するときのシステム構成を示します。

なお、オブジェクトサーバは、サーバ上で稼働します。

● 連携するアプリケーションプログラム

オブジェクトサーバと連携する Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムには、Groupmax Document Manager, Groupmax Workflow Server, 及び Groupmax Address/Mail Server があります。それぞれのプログラムで、オブジェクトサーバに格納する情報を次に示します。

Groupmax Document Manager :

Groupmax Document Manager によって付けられた文書の属性

Groupmax Workflow Server :

ワークフロー管理情報

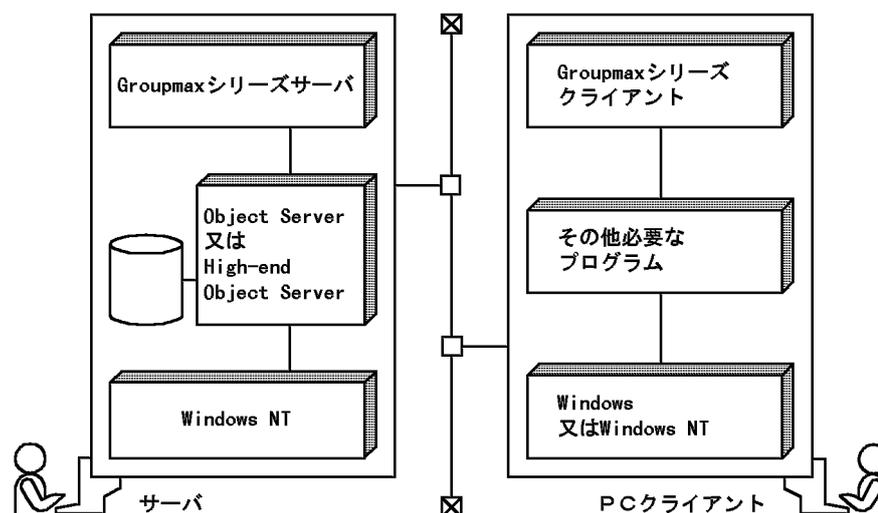
Groupmax Address/Mail Server :

登録情報 (最上位情報, 組織, ユーザ, グループ)

それぞれの Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムでは、PC クライアントから情報を操作します。この情報は、それぞれのプログラムのサーバを介して、オブジェクトサーバに格納されます。

オブジェクトサーバを含む Groupmax シリーズのシステム構成を図 1-2 に示します。

図 1-2 Groupmax シリーズのシステム構成



2

オブジェクトサーバの環境設定

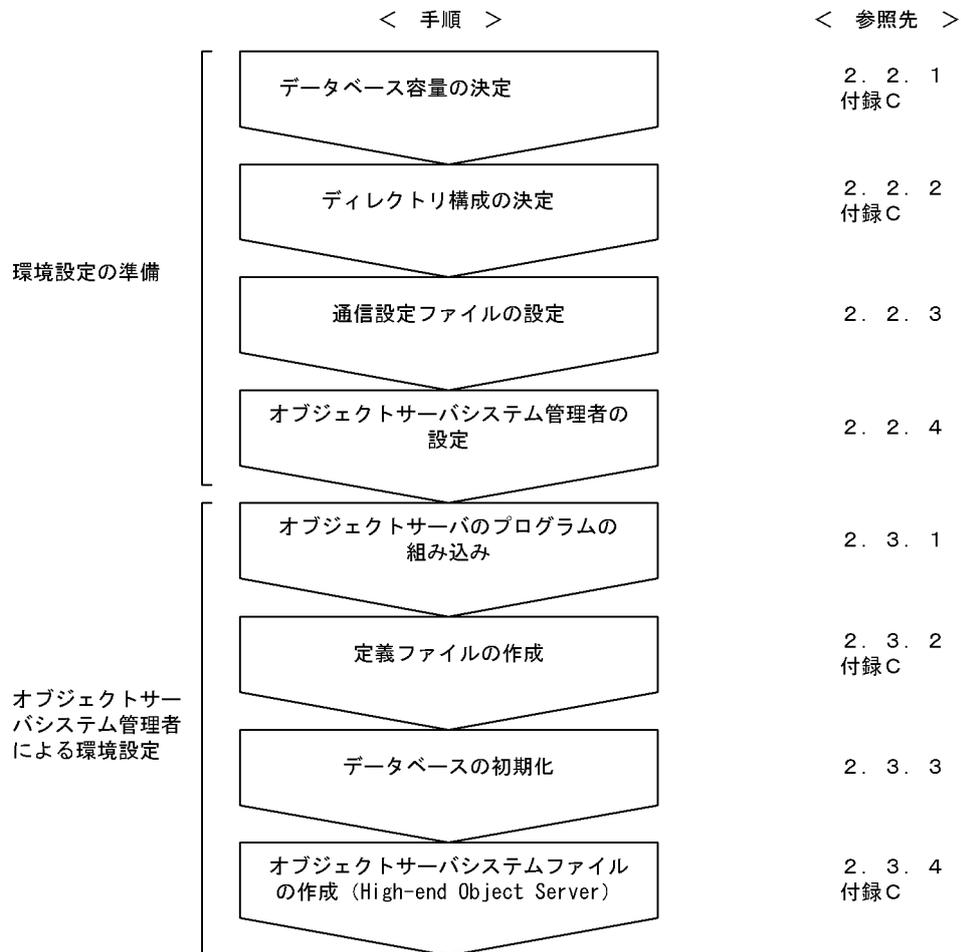
この章では、オブジェクトサーバを起動する前に必要な環境設定について説明します。

オブジェクトサーバを含むシステムの環境を設定するときには、まず OS の環境を設定してから、オブジェクトサーバの環境を設定します。そのあとで、連携するプログラムの環境を設定してください。

2.1 概要

オブジェクトサーバの環境設定の順序を、図 2-1 に示します。

図 2-1 オブジェクトサーバの環境設定の順序



注 1

図 2-1 の手順のうち、下記の設定は、[Groupmax サーバ環境設定] ユティリティを使用すると、ダイアログを使って簡単にできます。

- データベース容量の決定
- 通信設定ファイルの設定
- 定義ファイルの作成
- オブジェクトサーバシステムファイル作成用バッチファイルの作成

[Groupmax サーバ環境設定] ユティリティについては、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定」を参照してください。

注 2

図 2-1 の手順のうち、「オブジェクトサーバシステムファイルの作成」は、

[Groupmax サーバ環境設定] ユティリティで作成されたオブジェクトサーバシステムファイル作成用バッチファイルを使用して作成してください。

[Groupmax サーバ環境設定] ユティリティについては、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定」を参照してください。

2.2 環境設定の準備

オブジェクトサーバの環境を設定するときには、まず、次のような準備をしてください。

2.2.1 データベース容量の決定

連携するプログラムのオブジェクトを管理するため、オブジェクトサーバのデータベースの容量を決定します。決定したデータベース容量によって、組み込み先の環境に問題がないか確認してください。

容量は次の手順で見積もってください。

1. 初期設定パラメタの指定値を見積もる。

「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照して、初期設定パラメタの指定値を見積もってください。連携プログラムの初期設定パラメタは、各プログラムでの見積もり手順に従って見積もってください。

なお、すでにオブジェクトサーバが組み込まれている環境では、初期設定パラメタは、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用して見積もりができます。オブジェクトサーバの組み込み後にデータベース容量を見積もり直す場合は、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用してください。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティについては、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定」を参照してください。

2. 初期設定パラメタの指定値から、データベースで使用するファイルの容量を見積もる。

手でファイル容量を計算する場合の計算式については「付録 A.2 ファイル容量の計算式」を参照してください。連携するプログラムで使用するファイル容量は、各プログラムの手順に従って見積もってください。

なお、すでにオブジェクトサーバが組み込まれている環境では、データベースで使用するファイルの容量の見積もりには Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用することをお勧めします。

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティについては、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定」を参照してください。

2.2.2 ディレクトリ構成の決定

ファイルシステムは、NTFS を使用してください。FAT でも初期設定はできますが、障害調査ができない場合がありますので、使用しないでください。

次のディレクトリに割り当てるファイルシステムを決定します。

- オブジェクトサーバシステムディレクトリ
オブジェクトサーバを組み込むディレクトリです。
- オブジェクトサーバのデータベース用ディレクトリ（任意）
オブジェクトサーバのデータベースを作成するディレクトリです。
ファイルシステムを決定する場合には、次のことに注意してください。
 - バックアップを容易にするため、又は将来の拡張性を確保するため、上記の二つのディレクトリは、それぞれ別のファイルシステムにしてください。
 - 同時にログインするユーザの数に応じて、十分なページファイルを確保してください。
 - [データベースの再編成] ユティリティ用のアンロードファイル及びワークファイルのため、十分な領域を確保してください。

2.2.3 通信設定ファイルの設定

オブジェクトサーバでは、プロセス間通信に Microsoft TCP/IP for Windows NT を使用します。そのため、通信設定ファイル（Windows NT 組み込み先ディレクトリ下の ¥ SYSTEM32 ¥ DRIVERS ¥ ETC ¥ HOSTS）に IP アドレスとホスト名を設定してください。また、Windows NT のネットワークの設定で、ドメインネームシステムの設定に、HOSTS に指定したホスト名と同じものを指定してください。

複数のネットワークボードを搭載している場合、通信に使用される IP アドレスは OS の動作環境により異なりますので、IP アドレスが使用可能であることを確認ください。

2.2.4 システム管理者の設定

オブジェクトサーバを管理・運用するのは、オブジェクトサーバのシステム管理者です。

(1) システム管理者の権限

オブジェクトサーバのシステム管理者の権限は次のとおりです。

- 各種システムファイルやディレクトリの所有者は管理者に設定され、管理者以外のユーザからの書き込みは禁止されます。そのため、システム破壊が防止できます。
- システムの構成変更などを伴うユティリティは、管理者以外からの実行は禁止されます。
- システムサーバプロセスの所有者は管理者に設定され、システムファイルにアクセスできます。

(2) システム管理者の登録

オブジェクトサーバのシステム管理者を、オブジェクトサーバを組み込む前に OS に登録します。

オブジェクトサーバのシステム管理者は、Administrators グループに所属するようにしてください。

2.3 システム管理者による環境設定

オブジェクトサーバのシステム管理者が実施する環境設定について説明します。

なお、オブジェクトサーバのファイルは、ネットワークドライブに作成して使用することはできません。

2.3.1 プログラムの組み込みと削除

オブジェクトサーバはインストールプログラムを実行して組み込みます。

また、オブジェクトサーバが組み込まれた状態でインストールプログラムを使用してプログラムを削除できます。

なお、プログラムを削除する場合又は再インストールする場合は、イベントビューアでオブジェクトサーバの正常終了を確認してから、削除又は組み込みの操作をしてください。また、オブジェクトサーバを組み込んだ後は、OSを再起動してから、ご使用ください。

(1) 組み込み

(a) 組み込み媒体とインストールプログラム

オブジェクトサーバは、統合 CD-ROM から組み込みます。インストールプログラムは HCD_INST.EXE です。

Groupmax の連携プログラムのうち、システム管理者として使用するユーザはマシンで一つとし、同じユーザでプログラムのインストールを行ってください。

プログラムのインストールは、Windows NT を起動させて媒体をドライブにセットした状態で、インストールプログラムをダブルクリックして実行してください。

組み込み時は CD-ROM をセットしたドライブでインストールプログラムを起動してください。エクスプローラやファイルマネージャを使用してファイルをコピーしてインストールすることはできません。

(b) システムディレクトリ

オブジェクトサーバの組み込み時、組み込み先ディレクトリであるシステムディレクトリを指定します。インストールプログラムでの仮定値は、「(システムドライブ) : ¥ Win32app ¥ HITACHI ¥ Groupmax ¥ ObjectSV」です。ディレクトリ所有者はオブジェクトサーバのシステム管理者としてください。

注意

オブジェクトサーバと同じディレクトリに次のプログラムを組み込む場合は、組み込み先ディレクトリのパスの長さには制限があります。

- Groupmax Address Server
- Groupmax Mail Server
- Groupmax Mail - X.400

この場合は、組み込み先ディレクトリのパス名が 32 バイト以内になるように、組み込み先ディレクトリを設定してください。

(c) 環境変数

オブジェクトサーバの組み込み時、システム環境変数に次の環境変数をインストールプログラムが設定しません。

XODDIR :

オブジェクトサーバの組み込みディレクトリが設定されます。

XODCONFPATH :

オブジェクトサーバシステム共通定義ファイルを格納するディレクトリが設定されます。

PATH :

オブジェクトサーバのコマンドを格納するディレクトリが設定されます。

Windows 2008 及び Windows 2012 では設定されません。オブジェクトサーバのコマンドをフルパスで実行してください。個別に PATH 環境に追加した場合、他の製品の動作に影響を与える場合があります。

(d) 作成されるファイル

オブジェクトサーバのインストールプログラムを実行すると、表 2-1 に示すディレクトリファイルが作成されます。

表 2-1 組み込みファイル一覧 (オブジェクトサーバ)

名称	用途
bin [※]	オブジェクトサーバ各種コマンド格納ディレクトリ
conf	オブジェクトサーバのシステム共通定義作成ディレクトリ
eset	オブジェクトサーバ環境設定ユーティリティで使用する情報格納ディレクトリ
lib [※]	オブジェクトサーバのサーバ内で使用するライブラリ格納ディレクトリ
sample [※]	オブジェクトサーバ環境設定のサンプルファイル格納ディレクトリ (High-end Object Server)
spool [※]	オブジェクトサーバ実行中に必要な実行環境作成ディレクトリ
tmp [※]	オブジェクトサーバ実行中に使用する一時ファイル作成ディレクトリ
tools [※]	オブジェクトサーバのトラブルシュート用コマンドファイル

注※ bin, lib, sample, spool, tmp, tools のディレクトリは、Object Server システムが使用するディレクトリです。インストール時及びアンインストール時に削除されるため、これらのディレクトリ下にユーザファイルやデータベースファイルを作成しないでください。

(2) 削除

組み込んだプログラムを削除するには、オブジェクトサーバのインストールプログラムを使用します。オブジェクトサーバをインストールしたユーザでインストールプログラムを起動し、ダイアログで削除を指定します。

(3) 注意事項

- システムにある再配布モジュールよりも Groupmax Enterprise Version 6 が提供するモジュールが新しい場合、Groupmax Enterprise Version 6 では、再配布可能モジュールをインストールします。モジュールを正しくインストールするために、次のことに注意してください。
 - オブジェクトサーバを含む Groupmax 製品を組み込んだ後で、OS を再起動してください。
 - 他社製品を含む Groupmax 以外の製品とオブジェクトサーバを同時に組み込む場合は、Groupmax を組み込む前に OS を再起動してください。

- インストール中に読み取り専用ファイルを検出した場合、上書きをするか、しないかの問い合わせがあります。この場合、上書きするの [はい] を応答してください。
- オブジェクトサーバの組み込みは、TCP/IP が組み込まれている状態で実行してください。
- オブジェクトサーバを組み込む場合及び削除する場合は、次のアプリケーションプログラムを終了させてから実行してください。

- ウィルスをスキャンするためのプログラム

- Find Fast 用インデックス作成ツールアプリケーション (Microsoft Office 95 などが組み込まれている環境の場合)

Microsoft Office 95 などが組み込まれている環境では、スタートアップ時に Find Fast 用インデックス作成ツールアプリケーションが起動している場合があります。タスクマネージャでプロセスビューアを表示して、FindFE プロセスが起動している場合は終了させてください。プロセスビューアがない場合で、スタートアップグループに Find Fast 用インデックス作成ツールのアイコンが登録されている場合は、このアイコンを一時的にスタートアップグループから別のグループに退避して、Windows NT を再起動してください。

- Groupmax の連携プログラム

プログラムによっては、サービスが自動で起動している場合があります。この場合は、サービスを停止してからオブジェクトサーバを組み込んでください。

Groupmax System Agent - TCP/IP が組み込まれている場合は、Groupmax System Agent - TCP/IP を停止するか、又は SNMP サービスを停止させてください。

- コマンドプロンプト

これらのプログラムが停止している状態で、ファイルのコピーに失敗したことが原因で組み込みが中止する場合は、コピー先のファイルを別ディレクトリに移動するか、又はファイルの名称を変更して組み込みを続けてください。組み込み終了後、Groupmax のサービスが停止していることを確認してから、マシンを再起動してください。

- すでにオブジェクトサーバが組み込まれている環境に組み込む場合は、次のことに注意してください。
 - 組み込み先のオブジェクトサーバが正常に終了していることを確認してください。オブジェクトサーバの起動中に Windows NT をシャットダウンして終了した場合は、一度オブジェクトサーバを起動して、正常に停止させてから、組み込みを実行してください。
 - 組み込みは、更新インストールで実行してください。また、Infoshare2/DB が組み込まれている環境に組み込む場合は、Infoshare2/DB を削除してから組み込んでください。
 - 更新インストールで組み込む場合に、誤って途中で中止してしまった場合、又は何らかの障害が発生して組み込みが正常に終了しなかった場合は、オブジェクトサーバを一度削除してから再度組み込んでください。

2.3.2 定義ファイルの作成

オブジェクトサーバの初期設定パラメタファイル及びシステム定義ファイルを作成します。これらの定義ファイルは、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使うと、簡単に作成できます。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティについては、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定」を参照してください。ここでは、手動で作成する場合の定義ファイルの作成方法について説明します。

(1) 初期設定パラメタファイルの作成

初期設定パラメタファイルには、データベースに使用するエリアの初期設定情報を記述します。初期設定パラメタファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。

初期設定パラメタファイルの記述例については「付録 A 初期設定パラメタの指定例」を参照してください。また、初期設定情報の記述方法については、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

(2) システム共通定義ファイルの作成

システム共通定義ファイル(%XODCONFPATH%¥ xodrc)には、オブジェクトサーバのシステムに共通する定義情報を記述します。システム定義ファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。

次に、省略値（ユーザが値を定義しなかった場合に設定される値）を使用した、システム共通定義の例を示します。初期設定パラメタファイルに指定したマスタディレクトリファイルの名称、グローバルキャッシュの面数及びグローバルキャッシュの用途以外の省略値は、標準的な機器構成での定義値です。システム共通定義の定義項目については、「7.2 システム共通定義ファイル」を参照してください。

- 省略値を使用したシステム共通定義の例

```
set system_id = al                               a:
set lck_limit = 6000                             b:
set trn_tran_process_count = 32                 c:
set prc_process_count = 230                     d:
set static_shmpool_size = 5120                 e:
set dynamic_shmpool_size = 10000              f:
set dbm_master = マスタディレクトリのファイル名 g:
set ujerror = CONTINUE                          h:
gcache -n xod_gcache_area -m 200 -u AREA
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX i:j:k:
ujfile -n 正常時用ユーザジャーナル出力ファイル名 ¥ l:
        -e 障害時用ユーザジャーナル出力ファイル名 m:
```

(凡例)

- a:OMS識別子
- b:最大同時排他要求数
- c:並行して実行するトランザクションブランチ数
- d:並行して実行するクライアントプロセス数
- e:システム開始から終了までに占有する共有メモリの総量
- f:アプリケーションプログラムが使用する共用メモリ量
- g:初期設定パラメタファイルに指定したマスタディレクトリファイルの名称
ドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）
- h:ユーザジャーナルの出力に失敗したときに、処理を続けるか、中止するかを指定
- i:-n xod_gcache_oidindex
グローバルキャッシュの名称
- j:-m 100
グローバルキャッシュの面数
- k:-u OIDINDEX
グローバルキャッシュの用途
- l:正常時用のユーザジャーナル出力ファイルの名称
ドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）
- m:障害時用のユーザジャーナル出力ファイルの名称
ドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）

2.3.3 データベースの初期化

初期設定パラメタファイルを作成した後、オブジェクトサーバの環境を初期化します。初期化には、[データベースの初期化] ユティリティを使用します。

(1) データベース用ディレクトリの作成

オブジェクトサーバのデータベースを作成するためのデータベース用ディレクトリを作成します。これは、「2.2.2 ディレクトリ構成の決定」で決めたものです。

(2) [データベースの初期化] ユティリティの実行

[データベースの初期化] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースを初期化します。

2 オブジェクトサーバの環境設定

ユティリティの操作方法については、「8.3.1 データベースの初期化」を参照してください。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されるので、初期化状態を確認してください。エラーが発生した場合には、xodresult にはメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、又はダイアログに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

図 2-2 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 2-2 に示した出力フォーマットの項目を、表 2-2 に示します。図 2-2 と表 2-2 の図中文字は対応しています。

図 2-2 「データベースの初期化」ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaaaa xodbinit(vv-rr)**           DB初期設定           yy-mm-dd hh:mm:ss

** エリア情報リスト **

エリア名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb 用途 = cccccccccccccccccccc           ※1
合計ページ数 = eeeeeeeeeee                セグメントサイズ = ffffffff
利用可能ページ数 = gggggggggg            ページ長 = jiiiiiii
NO. n ファイル名 = jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj           ※2
      初期割当量 = kkkkkkkkkk             [最大割当量 = oooooooooo]           ※3
      : ページ数 = llllllllll
      :
      :
終了メッセージ
  
```

- 注※1 実線内は一つのエリアの情報です。この情報が、初期設定されたエリアの数だけ繰り返し表示されます。
- 注※2 破線内は一つのファイルの情報です。この情報が、初期設定されたエリアのファイルの数だけ繰り返し表示されます。
- 注※3 マスタディレクトリ及びデータディレクトリ用のエリアの場合は表示されません。

表 2-2 「データベースの初期化」ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	11 バイト
vv-rr	バージョン・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	初期化ユティリティ実行開始年月日	西暦の下 2 けた一月一日
hh:mm:ss	初期化ユティリティ実行開始時刻	時：分：秒
bbb...bbb	エリア名	最大 30 バイト
ccc...ccc	エリアの用途	最大 20 バイト
eee...eee	エリア中の合計ページ数	10 進数（右詰め）
fff...fff	エリアのセグメントサイズ	10 進数（右詰め）
ggg...ggg	データベース利用可能ページ数	10 進数（右詰め）

図中文字	項目	表示形式
iii…iii	エリアのページ長	単位はバイト。10進数（右詰め）
n	ファイルの通番	10進数（右詰め）
jjj…jjj	ファイル名	最大 175 バイト
kkk…kkk	ファイルの初期割り当て量	10進数（右詰め）
lll…lll	ファイルのページ数	10進数（右詰め）
ooo…ooo	ファイルの最大割り当て量	10進数（右詰め） 最大割り当て量の指定を省略した場合は、「*****」 と表示されます

2.3.4 システムファイルの作成 (High-end Object Server)

High-end Object Server を御使用の場合は、前述の環境設定のほかに、ステータスファイル及びシステムジャーナルの環境設定をする必要があります。この環境設定は、High-end Object Server のシステム管理者が実施してください。

ステータスファイル及びシステムジャーナルファイルは、NTFS 上に割り当てます。

ユーザジャーナルは、環境設定時に作成しなくても、システム共通定義ファイルにユーザジャーナルの名称を指定することで自動的に作成されます。

(1) ステータスファイルの作成

(a) ステータスファイルの作成

ステータスファイルは、High-end Object Server を開始する前に、NTFS ファイルシステム上に作成します。ステータスファイルは、xodstsinit コマンドで作成します。このとき、A 系及び B 系の二系統のファイルを作成する必要があります。xodstsinit コマンドについては、「9.3 ステータスファイル管理」を参照してください。

次に作成したステータスファイルの名称と論理ファイルの名称を、ステータスサービス定義で定義します。

(b) ステータスサービス定義ファイルの作成

ステータスサービス定義ファイル(%XODDIR%\% conf % st%)には、High-end Object Server の環境下で動作する各システムサービスの状態を管理するための実行環境を定義します。ステータスサービス定義ファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。

なお、ステータスサービス定義の定義項目については、「7.3 ステータスサービス定義ファイル (High-end Object Server)」を参照してください。次に、ステータスサービス定義ファイルの例を示します。

● ステータスサービス定義ファイルの例

```
set sts_file_name_1 = "stsfileA",    ¥           a:
    "c:\usr\OMS\cnt\fsys\xodfile\stsfile1", ¥       b:
    "c:\usr\OMS\cnt\fsys\xodfile\stsfile2"    ¥       c:
set sts_file_name_2 = "stsfileB",    ¥
    "c:\usr\OMS\cnt\fsys\xodfile\stsfile3",    ¥
    "c:\usr\OMS\cnt\fsys\xodfile\stsfile4"
set sts_file_name_3 = "stsfileC",    ¥
    "c:\usr\OMS\cnt\fsys\xodfile\stsfile5",    ¥
    "c:\usr\OMS\cnt\fsys\xodfile\stsfile6"
```

(凡例)

- a:論理ファイル名
- b:A系ステータスファイル名
- c:B系ステータスファイル名

(2) システムジャーナルファイルの作成

(a) ジャーナルファイルの作成

システムジャーナルファイルは、High-end Object Server を開始する前に、NTFS ファイルシステム上に作成します。システムジャーナルファイルは、xodjnlinit コマンドで作成します。なお、xodjnlinit コマンドについては、「9.2 ジャーナルファイル管理」を参照してください。次に、システムジャーナルサービス定義で、物理ファイルとファイルグループの対応関係を定義します。

(b) システムジャーナルサービス定義ファイルの作成

システムジャーナルサービス定義ファイル(%XODDIR%\¥ conf ¥ sysjnl)には、High-end Object Server システムに障害が発生した場合の回復に必要な、システムジャーナルファイルを取得するための環境を定義します。

システムジャーナルサービス定義は、set 形式とコマンド形式があります。システムジャーナルサービス定義ファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。システムジャーナルサービス定義の定義項目については「7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル (High-end Object Server)」を参照してください。

次に、システムジャーナルサービス定義ファイルの例を示します。

● set 形式の例

```
set jnl_unload_check = Y      a:
set jnl_rerun_swap = N       b:
```

(凡例)

- a:交代先を選択するときアンロードチェックをするかどうかの指定
- b:システム再開時のスワップの指定

● コマンド形式の例

```
jnladdfg -g jnlfile1 ONL      a:
jnladdpf -g jnlfile1 -a c:%usr%OMS%cnt%fsys%xodfile%jnlfil01 b:
jnladdfg -g jnlfile2 ONL
jnladdpf -g jnlfile2 -a c:%usr%OMS%cnt%fsys%xodfile%jnlfil02
jnladdfg -g jnlfile3 ONL
jnladdpf -g jnlfile3 -a c:%usr%OMS%cnt%fsys%xodfile%jnlfil03
jnladdfg -g jnlfile4
jnladdpf -g jnlfile4 -a c:%usr%OMS%cnt%fsys%xodfile%jnlfil04
```

(凡例)

- a:ファイルグループ名の指定
- b:物理ファイル名の指定

3

オブジェクトサーバの起動と終了

この章では、オブジェクトサーバ（Object Server 及び High-end Object Server）の起動と終了の方法について説明します。

3.1 起動

オブジェクトサーバの起動・終了は、OS のサービス機能を使用します。サービス機能は Administrator 権限を持っているユーザだけが使用できます。また、オブジェクトサーバのユティリティをバッチファイルなどを使用して自動化する場合は、コマンドでオブジェクトサーバを起動する方法もあります。

3.1.1 サービス登録

ここでは、オブジェクトサーバのサービスへの登録について説明します。

(1) サービス名

Object Server

(2) サービスへの登録

プログラムをインストールしたときに、インストーラによって、サービス名がサービスへ登録されます。

(3) 開始モード

開始モードは、インストール時には「手動」で登録されます。「自動」にする場合は、OS が提供する「サービス」の GUI で設定してください。

3.1.2 開始方法

ここでは、オブジェクトサーバの開始方法について説明します。オブジェクトサーバには、次の四通りの開始方法があります。

- サービスに「自動」を設定して開始する方法
- サービスに「手動」を設定して開始する方法
- コマンドを使用して開始する方法
- システム統合運用管理から開始する方法

それぞれの開始方法について説明します。また、開始時のモードについても説明します。

(1) サービスに「自動」と設定した場合

OS 起動時に、オブジェクトサーバが自動的に起動されます。

(2) サービスに「手動」と設定した場合

サービスメニューでオブジェクトサーバを選び、開始ボタンをクリックします。

スタートアップパラメタの指定と、前回の終了時の状態によって、オブジェクトサーバの開始形態は決定されます。次に開始形態を示します。

- 正常開始

オブジェクトサーバの前回の終了形態が正常終了の場合の開始形態です。このとき、前回終了時の情報（ジャーナルの情報など）を引き継ぎません。

- 再開始

オブジェクトサーバの前回の終了形態が異常終了の場合の開始形態です。このとき、前回終了時の情報（ジャーナルの情報など）を引き継ぎます。したがって、前回終了時の状態でシステムを開始できます。

- **強制正常開始**

オブジェクトサーバが再開できないときに、強制的に開始する場合の開始形態です。前回終了時の状態を引き継がないため、オブジェクトサーバはデータベースの内容を回復できません。したがって、システム管理者がデータベースの内容を回復してください。

スタートアップパラメタに指定するオプションを次に示します。

省略：

前回の終了形態が正常終了の場合、正常開始します。システムダウン又は強制停止だった場合は、再開します。

normal：強制正常開始

前回の終了形態を無視して正常開始します。

utl：ユティリティ実行モードで正常開始

前回の終了形態が正常終了の場合、ユティリティ実行モードで正常開始します。異常終了の場合には、まずデータベースを回復してから、再度、ユティリティ実行モードで正常開始してください。データベースの回復方法については、「6.1 異常終了時の回復方法」を参照してください。

recvutl：回復ユティリティ実行モードで強制正常開始(High-end Object Server)

前回の終了形態を無視して正常開始しますが、モードは回復ユティリティ実行モードになります。

(3) コマンドを使用して開始する場合

コマンドを使用して、ユティリティ実行モードで開始できます。コマンドによる開始方法は、オブジェクトサーバのユティリティをバッチファイルなどで自動化して実行する場合に使用します。起動に使用するコマンドは、[ユティリティ実行モードによる開始] ユティリティの xodusta コマンドです。このコマンドは、前回の終了形態が正常終了の場合に、オブジェクトサーバをユティリティ実行モードで正常開始します。前回の終了形態が異常終了の場合には、まずデータベースを回復してから、[ユティリティ実行モードによる開始] ユティリティを実行してください。

[ユティリティ実行モードによる開始] ユティリティについては、「8.8.5 ユティリティ実行モードによる開始」を参照してください。

(4) システム統合運用管理からオブジェクトサーバを起動する場合

システム統合運用管理からオブジェクトサーバのサービスを開始できます。システム統合運用管理からサービスを開始する方法については、マニュアル「Windows NT Groupmax System Manager - TCP/IP/System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド」を参照してください。

システム統合運用管理からサービスを開始する場合の起動パラメタには、手動でサービスを開始する場合のスタートアップパラメタと同様のオプションを指定します。なお、システム統合運用管理は、Administrator 権限者だけが操作できます。

(5) 開始時のモード

オブジェクトサーバを開始したときのモードには、次の三つがあります。

- アプリケーションプログラム実行モード
Groupmax シリーズのプログラムを実行できます。

- ユティリティ実行モード

オブジェクトサーバのユティリティを実行できます。アプリケーションプログラム、[データベースの回復] ユティリティ及び [データベースのバックアウト] ユティリティの実行はできません。

データベースの構成を変更するユティリティ、及び再編成をするユティリティを実行するときには、ユティリティ実行モードである必要があります。そのため、スタートアップパラメタに「utl」を指定して開始するか、又は [ユティリティ実行モードによる開始] ユティリティを実行して開始してください。

- 回復ユティリティ実行モード

High-end Object Server の [データベースの回復] ユティリティ及び [データベースのバックアウト] ユティリティを実行できます。それ以外のオブジェクトサーバのユティリティ及びアプリケーションプログラムの実行はできません。

High-end Object Server で [データベースの回復] ユティリティ又は [データベースのバックアウト] ユティリティを実行するときは、回復ユティリティ実行モードである必要があります。そのため、スタートアップパラメタに「recvutl」を指定して開始してください。

ユティリティ実行モード又は回復ユティリティ実行モードによるユティリティ実行後、アプリケーションプログラムを実行するときには、その前に次の操作をして、モードをアプリケーションプログラム実行モードに変更してください。

Object Server の場合：

ユティリティ実行後にいったん Object Server を正常終了させて、再度、正常開始させてから、連携プログラムを実行してください。

High-end Object Server の場合：

ユティリティ実行後に、[アプリケーション実行モードへの変更] ユティリティでアプリケーションプログラム実行モードに変更するか、いったんオブジェクトサーバを正常終了させてから、再度、正常開始してください。

3.2 終了

(1) OS のサービス機能を使用する場合

まず、オブジェクトサーバを使用するアプリケーションプログラムを終了させてください。それから、OS の「サービス」メニューでオブジェクトサーバを選択して、停止ボタンをクリックすると、オブジェクトサーバは正常終了します。

オブジェクトサーバを使用しているアプリケーションが動作中で、3 分間待っても停止しない場合は、オブジェクトサーバは強制終了します。必ずアプリケーションを終了させた後にオブジェクトサーバを終了してください。

また、電源を切った場合も、同様にオブジェクトサーバは正常終了処理をしますが、OS の停止時間内に正常終了できなかった場合は、終了処理が中断され、ダウン状態になります。

(2) システム統合運用管理からオブジェクトサーバを終了する場合

システム統合運用管理からオブジェクトサーバのサービスを終了できます。システム統合運用管理からサービスを終了する方法については、マニュアル「Windows NT Groupmax System Manager - TCP/IP/System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド」を参照してください。システム統合運用管理は、Administrator 権限者だけが操作できます。

なお、SEWB+リポジトリセットを使用している場合は、SEWB+/REPOSITORY を停止してから、Object Server を停止させてください。

3.3 起動時と終了時の注意

この節では、オブジェクトサーバの起動時と終了時に注意することについて説明します。

(1) 起動時に定義ファイルがオープンできない場合

メッセージ KFXO00242-E が出力されて定義ファイルをオープンできなかった場合は、次の原因が考えられます。それぞれの項目を確認して、対処してください。

- システム共通定義ファイル (%XODDIR%\¥ conf ¥ xodrc) がない場合
システム共通定義ファイルを作成してください。システム共通定義ファイルの作成については、「2.3.2 定義ファイルの作成」を参照してください。
- システム共通定義ファイルに参照権限がない場合
オブジェクトサーバのシステム管理者のユーザ ID でシステム共通定義ファイルに参照権限を与えてください。
- 環境変数 (XODDIR 又は XODCONFPATH) にオブジェクトサーバのシステム管理者のホームディレクトリへのパス名称が設定されていない場合
オブジェクトサーバを初めてインストールしたサーバで、インストールの後にサーバを再起動していない場合は、再起動してください。それ以外の場合は、[コントロールパネル] の [システム] で [環境] タブを選択した画面で、XODDIR 及び XODCONFPATH が設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、オブジェクトサーバをインストールし直してください。
- 環境変数 (XODDIR) に設定したパス名称が存在しない場合
 1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
cd %XODDIR%
```
 2. 1. で表示されたパス名称をオブジェクトサーバのシステム管理者のホームディレクトリのパス名称と一致させてください。

(2) データベースを作り直した後にオブジェクトサーバを起動できない場合

メッセージ KFXO46044-E が表示されてオブジェクトサーバを起動できなかった場合は、データベースとジャーナルの不整合が発生しています。スタートアップパラメタに「normal」を指定して、オブジェクトサーバを強制正常開始してください。データベースを作り直しているので、再開ではなく強制正常開始します。

4

データベースの運用

システムの保守操作には、データベースの構成変更、データベースの再編成、データベースの状態表示、データベースのバックアップの取得、データベースの回復、及びデータベースの再構成があります。この章では、システムの保守に関する操作について説明します。

4.1 データベースの構成変更

使用中のオブジェクトサーバに対し、新たにオブジェクトサーバと連携するプログラムを追加するなどの理由で、データベースの構成を変更する場合があります。

この節では、データベースの構成を変更するときの運用について説明します。

4.1.1 エリアの追加

すでに使用しているオブジェクトサーバのデータベースに、エリアを追加します。追加できるのはユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。それ以外の用途のエリアは追加できません。

(1) エリアの追加に使用するユティリティ

データベースにエリアを追加するには、[データベースへのエリアの追加] ユティリティを使います。[データベースへのエリアの追加] ユティリティについては、「8.3.2 データベースへのエリアの追加」を参照してください。

(2) 手順

エリアを追加するときの手順を説明します。

(a) 構成変更パラメタファイルの作成

構成変更パラメタファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、追加するエリアの名称、容量などを記述します。また、構成変更パラメタファイルの名称は任意です。構成変更パラメタファイルについては、「7.6 構成変更パラメタファイル」を参照してください。

構成変更パラメタファイルは、Groupmax サーバ環境設定ユティリティを使って、対話形式で作成することもできます。作成方法については、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定」を参照してください。

(b) [データベースへのエリアの追加] ユティリティの実行

[データベースへのエリアの追加] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースにエリアを追加します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されません。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、ダイアログ、又はコマンドプロンプトに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-1 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-1 に示した出力フォーマットの項目を表 4-1 に示します。図 4-1 と表 4-1 の図中の文字は対応しています。

4.1.2 エリアの削除

連携するプログラムの環境の削除などで不要になったエリアをオブジェクトサーバのデータベースから削除します。削除できるのはユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。それ以外の用途のエリアは削除できません。

(1) エリアの削除に使用するユティリティ

データベースからエリアを削除するには、[データベースのエリアの削除] ユティリティを使います。[データベースのエリアの削除] ユティリティについては、「8.3.3 データベースのエリアの削除」を参照してください。

(2) 手順

エリアを削除するときの手順を説明します。

(a) 連携しているプログラム側からのデータベースの削除

削除しようとしているエリアに、連携するプログラムがデータベースを作成している場合は、まず連携プログラム側からそのデータベースを削除してください。連携するプログラムのデータベースがあるエリアは削除できません。

(b) [データベースのエリアの削除] ユティリティの実行

[データベースのエリアの削除] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースからエリアを削除します。指定するエリア名は、削除するエリアを作成又は追加したときに、初期設定パラメタ又は構成変更パラメタで指定したエリア名です。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、ダイアログ、又はコマンドプロンプトに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-2 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-2 に示した出力フォーマットの項目を表 4-2 に示します。図 4-2 と表 4-2 の図中の文字は対応しています。

を追加できますので、データベースの作成後に増設されたディスクボリュームでも、データベースの既存エリアのファイルに利用できます。ファイルを追加できるのは、次の用途のエリアです。マスタディレクトリのエリアには追加できません。

- データディレクトリ
- ディクショナリ
- OID インデクス
- ユーザデータベース
- インデクス

(1) ファイルの追加に使用するユティリティ

データベースにファイルを追加するには、[データベースへのファイルの追加] ユティリティを使います。[データベースへのファイルの追加] ユティリティについては、「8.3.4 データベースへのファイルの追加」を参照してください。

(2) 手順

ファイルを追加するときの手順を説明します。

(a) 構成変更パラメタファイルの作成

構成変更パラメタファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、ファイルが追加されるエリアの名称、これから追加するファイルの名称及び割り当て量を記述します。また、作成する構成変更パラメタファイルの名称は任意です。

構成変更パラメタファイルについては、「7.6 構成変更パラメタファイル」を参照してください。

(b) [データベースへのファイルの追加] ユティリティの実行

[データベースへのファイルの追加] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースにファイルを追加します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、ダイアログ、又はコマンドプロンプトに出力されたメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-3 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-3 に示した出力フォーマットの項目は表 4-1 を参照してください。図 4-3 と表 4-1 の図中の文字は対応しています。

図 4-3 [データベースへのファイルの追加] ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodfladd(vv-rr)**          DB構成変更          yy-mm-dd hh:mm:ss

** 追加ファイル情報リスト **

  エリア名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb 用途 = cccccccccccccccccccc
  NO. n   ファイル名 = jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj
          初期割当量 = kkkkkkkkkk          [最大割当量 = oooooooooo] *
          ページ数   = llllllllll

終了メッセージ

```

注※ データディレクトリ用のエリアの場合は表示されません。

4.1.4 ファイルの属性変更

すでに使用しているオブジェクトサーバのデータベースのファイルの属性を変更します。変更できる属性は、ファイルの最大割り当て量です。

また、属性が変更できるのは、次の用途のエリアのファイルです。それ以外の用途のエリアのファイルの属性は変更できません。

- ディクショナリ
- OID インデクス
- ユーザデータベース
- インデクス

(1) ファイルの属性変更使用するユティリティ

ファイルの属性を変更するには、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを使います。[データベースのファイルの属性変更] ユティリティについては、「8.3.5 データベースのファイルの属性変更」を参照してください。

(2) 手順

ファイルの属性を変更するときの手順を説明します。

(a) 最大割り当て量の見積もり

属性を変更するファイルについての変更後の最大割り当て量を見積もります。指定値については、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」及び「8.3.5 データベースのファイルの属性変更」を参照してください。

(b) [データベースのファイルの属性変更] ユティリティの実行

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースのファイル属性を変更します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、ダイアログ、又はコマンドプロンプトに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-4 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-4 に示した出力フォーマットの項目は表 4-1 を参照してください。図 4-4 と表 4-1 の図中の文字は対応しています。

図 4-4 [データベースのファイルの属性変更] ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodflalt(vv-rr)**          DB構成変更          yy-mm-dd hh:mm:ss

** ファイル属性変更情報リスト **

エリア名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb      用途 = cccccccccccccccccccc
NO.  n   ファイル名 = jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj jjjjjjjjjj
      変更前
      最大割当量 = oooooooooo
      変更後
      最大割当量 = oooooooooo

終了メッセージ

```

4.2 データベースの再編成

データベースの再編成は、データベースにオブジェクトの追加や削除をすることによって生じるデータベースの配置の乱れを直し、適切な配置にします。これによって、オブジェクトのアクセス性能が向上し、データベースのスペース効率が最適になります。また、メッセージとして KFXO41012-I, KFXO41053-I, KFXO41055-I が出力されている場合は、データベースの配置の乱れや容量が満杯に近づいている可能性がありますので、4.3 データベースの状態表示で使用状況を確認し必要に応じてデータベースの再編成、構成変更、再構成を行ってください。

データベースを再編成するときの運用については、次のことを考慮してください。

オブジェクトサーバのエリアの格納領域が不足してデータベースファイルの増分ができない(ディスクに空きがない、又は最大割り当て量に達している) 場合、連携するアプリケーションプログラムからのオブジェクト、インデクスキーの追加が発生する操作(メールの送信など)がエラーになりますので、次に示す 1 と 2、又は 1 と 3 を実行してください。

1. OID インデクスエリア及びインデクスエリアの file パラメタの -m オペランドを指定しないでください。すでに指定している場合は、[データベースのファイル属性変更] ユティリティで最大割り当て量を 0 に変更して、指定を無効にしてください。これは、Groupmax のアプリケーションプログラムで使用するインデクスキーは通番キーが多いため、古く追加された削除キーの占めていた領域が再利用されにくく、ファイルが増分されやすいためです。
2. データベースファイルの増分に備えて、データベースファイルのあるパーティションに常に空き領域を確保してください。各ファイルのサイズやパーティションの空き容量から、ファイルの増分状況やパーティションの空き状況を確認し、必要に応じて [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。
3. オブジェクトの追加や削除の頻繁なアプリケーション (Groupmax Workflow Server, Groupmax Address/Mail Server など) を使用している場合、定期的 (日々のバックアップ後、1 週間ごと、又は 1 か月ごとなど) に、[データベースの再編成] ユティリティを実行してください。Groupmax サーバ環境設定ユティリティで電子アドレス帳/メール/ワークフローの環境設定をした場合は、運用期間を 30 日と仮定しています。運用期間ごとに [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。

(1) データベースの再編成に使用するユティリティ

データベースを再編成するには、[データベースの再編成] ユティリティを使います。このユティリティでは、インデクスも再作成します。[データベースの再編成] ユティリティについては、[8.4.1 データベースの再編成] を参照してください。

(2) 手順

データベースを再編成するときの手順を説明します。

(a) 再編成パラメタファイルの作成

再編成パラメタファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、ファイル名、ディレクトリ名などを記述します。再編成パラメタファイルについては「7.7 再編成パラメタファイル」を参照してください。

再編成パラメタファイルは、Groupmax サーバ環境設定ユティリティを使って、簡単に作成することもできます。作成方法については、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定」を参照してください。

(b) [データベースの再編成] ユティリティの実行

[データベースの再編成] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースを再編成します。データベースのオブジェクトは、いったんファイルにアンロードされ、再びデータベースに登録されることによって再編成されます。また、インデクスも作り直されます。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されません。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、ダイアログ、又はコマンドプロンプトに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-5 にオブジェクトの再編成及び図 4-6 にインデクスの再作成の処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-5 及び図 4-6 に示した出力フォーマットの項目を表 4-3 に示します。図 4-5 及び図 4-6 と表 4-3 の図中の文字は対応しています。

図 4-5 [データベースの再編成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (オブジェクトの再編成)

```

**aaaaaaaaaaaa xodbreog※1(vv-rr)**          DB再編成          yy-mm-dd hh:mm:ss
** ディクショナリ引き上げ情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeee
  最大オブジェクト長 : fffffffffffff
  .
  .
** ユーザエリア引き上げ情報リスト **          ※2
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeee
  最大オブジェクト長 : fffffffffffff
  .
  .
NO. nnnnn
  ユニバーサル関連名 : ggggggggggggggggggg . . .
  総オブジェクト数 : eeeeeeeeeeee
  最大オブジェクト長 : fffffffffffff
  .
  .
** アンロードファイル情報リスト **          ※3
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
容量 : jjjj.jK※4
.
.
総容量 : jjjj.jK※4
** ユーザエリア再登録情報リスト **          ※2
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : eeee . . . . .   OID数 : kkkk . . . . .   PID登録数 : |||| . . . . .※5
  .
  .
** インデクスマンテナンスリスト **
NO. nnnnn
  インデクス名 : |iiiiiiiiiiiiiiii . . . . .
  .
  .
NO. nnnnn
  ユニバーサル関連名 : ggggggggggggggggggg . . . . .
  総オブジェクト数 : eeee . . . . .   OID数 : kkkk . . . . .   PID登録数 : |||| . . . . .※5
  .
  .
** ディクショナリ再登録情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . . . .
  総オブジェクト数 : eeee . . . . .   OID数 : kkkk . . . . .   PID登録数 : |||| . . . . .※5
  .
  .
終了メッセージ

```

- 注※1 処理方式2でデータベースを再編成した場合、「xodbreog2」と表示されます。データベースの再編成の処理方式については、「8.4.1(4) アンロードファイルのサイズについて」を参照してください。
- 注※2 パラメタに指定されたアンロードファイルの名称はすべて表示されます。
- 注※3 作成されたアンロードファイルについて、ディクショナリエリア用、ユーザデータベースエリア用の順にアンロードファイルの名称、容量を表示します。1レコードも出力されなかったアンロードファイルは表示されません。ユーザデータベースエリア用はパラメタの指定順に表示されます。
- 注※4 容量、総容量はjjjj (バイト、右詰め)、jjjj.jK (キロバイト、右詰め)、jjjj.jM (メガバイト、右詰め)、jjjj.jG (ギガバイト、右詰め)のいずれかで表示されます。総容量は、すべてのアンロードファイル容量の合計です。また、各容量は、少数点第2位以下を切り上げて表示されます。
- 注※5 PID登録数とは、当該タイプで、新旧物理オブジェクト識別子対応表に登録されたエントリ数のことです。

図 4-6 [データベースの再編成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (インデクスの再作成)

```

***** xodbreog*(vv-rr)**          DB再編成          yy-mm-dd hh:mm:ss
** インデクス再作成情報リスト **
NO. nnnnn
タイプ名 : cccccccccccccccccccccc . . . .
NO. nnnnn
インデクス名 : iiiiiiiiiiiiiiiiiiiii . . . .
          :
          :
          :
終了メッセージ

```

注※ 処理方式2でデータベースを再編成した場合、「xodbreog2」と表示されます。データベースの再編成の処理方式については、「8.4.1(4) アンロードファイルのサイズについて」を参照してください。

表 4-3 [データベースの再編成] ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	11 バイト
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	ユティリティ実行開始年月日	西暦の下 2 けた一月一日
hh:mm:ss	ユティリティ実行開始時刻	時：分：秒
bbb...bbb	アンロードファイル名	最大 175 バイト
nnnnn	通番	10 進数 (左詰め)
ccc...ccc	タイプ名	最大 95 バイト
eee...eee	タイプ内の総オブジェクト数	10 進数 (左詰め)
fff...fff	最大オブジェクト長	単位はバイト。10 進数 (左詰め)
ggg...ggg	ユニバーサル関連名	最大 95 バイト
iii...iii	インデクス名	最大 95 バイト
jjj.j	アンロードファイルの容量又は総容量	10 進数 (右詰め)
kkk...kkk	タイプ内の OID 数	10 進数 (右詰め)
lll...lll	タイプ内の PID 登録数	10 進数 (右詰め)

4.3 データベースの状態表示

この節では、使用中のオブジェクトサーバの稼働状況を確認するときの運用について説明します。

4.3.1 スキーマ名の表示

使用中のオブジェクトサーバに対して、新たにオブジェクトサーバと連携するプログラムを追加する場合、連携するプログラムの初期設定をするときにオブジェクトサーバのスキーマ名を指定する必要があります。このスキーマ名は、[スキーマ名の表示] ユティリティを使って表示してください。[スキーマ名の表示] ユティリティについては、「8.7.1 スキーマ名の表示」を参照してください。

4.3.2 データベースエリアの使用状況の表示

オブジェクトサーバのデータベースのディクショナリ用エリア、OID インデクス用エリア、ユーザ用エリア及びインデクス用エリアの使用状況を表示します。使用状況は標準出力に出力されます。

データベースエリアの使用状況から、次のことが分かります。

- データベースエリアのファイルの増分
- データベースの再編成が有効なエリア
- データベースの満杯状態に近づいているエリア（ディクショナリ用エリア及びユーザ用エリア）
- エリア再構成パラメタに指定する値の見積もり値

使用状況は定期的を確認してください。

(1) データベースエリアの使用状況の表示に使用するユティリティ

データベースエリアの使用状況を表示するには、[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティを使用します。[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティについては、「8.7.2 データベースエリアの使用状況の表示」を参照してください。

(2) 手順

データベースエリアの使用状況を表示するときの手順を説明します。

(a) [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティの実行

[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティを実行して、データベースエリアの使用状況を標準出力に出力します。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果として、データベースエリアの使用状況が標準出力に出力されます。

図 4-7 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-7 に示した出力フォーマットの項目を表 4-4 に示します。図 4-7 と表 4-4 の図中の文字は対応しています。

図 4-7 [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodbuse (vv-rr)** DBエリア使用状況表示          yy-mm-dd hh:mm:ss
**DBエリア使用状況リスト**
  エリア名                使用      満杯      割当      セグメント
                        ページ数   ページ数   ページ数   数
  -----
  bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb 用途=cccccccccccccccccccc          ※1
  セグメントサイズ=eeeeee 最大割当量=ffffff          ※2
  gggggggggggggg***ggggggggggggggg
  |iiiiiiii| |jjjjjjjj| |kkkkkkkkkk| |llllllll|          ※3
  (nnnnn)  (ooooo)  (ppppp)
  :
  未使用セグメント      qqqqqqqqqq ssssssssss tttttttttt uuuuuuuuuu
  [小計]                wwwwwwwwww xxxxxxxxxx zzzzzzzzzz AAAAAAAAAA
  -----
  bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb 用途=cccccccccccccccccccc          ※4
  セグメントサイズ=eeeeee 最大割当量=ffffff
  :
  未使用セグメント      qqqqqqqqqq ssssssssss tttttttttt uuuuuuuuuu
  :
  -----
  全エリア合計          BBBBBBBBBB          -CCCCCCCCC
  
```

- 注※1 エリア内にタイプ又はインデクスが定義されている時の表示形式です。点線内は一つのエリアの情報です。エリア数分繰り返し表示されます。
- 注※2 破線内は一つのタイプ又は一つのインデクスの情報です。タイプ数分又はインデクス数分繰り返し表示されます。
- 注※3 表示するタイプ名又はインデクス名が短い場合、若しくはタイプID又はインデクスIDを表示する場合は、一つの破線内は改行しないでタイプ名又はインデクス名、若しくはタイプID又はインデクスIDに続いて表示します。
- 注※4 エリア内にタイプ又はインデクスが定義されていない時の表示形式です。点線内は一つのエリアの情報です。エリア数分繰り返し表示されます。

表 4-4 [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	11 バイト
vv-rr	バージョン・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	ユティリティ実行開始年月日	西暦の下 2 けた 一月一日
hh:mm:ss	ユティリティ実行開始時刻	時：分：秒
bbb...bbb	エリア名	最大 30 バイト
ccc...ccc	エリアの用途	最大 20 バイト
eee...eee	該当エリアのセグメントサイズ	10 進数 (右詰め)
fff...fff	該当エリア内のファイルの最大割り当て量の合計	10 進数 (右詰め) 該当エリア内の全ファイルに最大割り当て量が指定されている時だけ表示します
ggg...ggg	・オブジェクトサーバ稼働中にこのユティリティを実行してオブジェクトサーバと接続できた場合は、タイプ名又はインデクス名	・タイプ名又はインデクス名の場合は、最大 95 バイトで表示

図中文字	項目	表示形式
ggg…ggg	・オブジェクトサーバが稼働中でないか、又はオブジェクトサーバと接続できなかった場合は、タイプ ID 又はインデクス ID	・タイプ ID 又はインデクス ID の場合は、0x の後に 16 進数で 8 けた
iii…iii	該当タイプ又はインデクスの使用ページ数	10 進数 (右詰め)
jjj…jjj	該当タイプの満杯ページ数 (満杯状態になっているページのページ数)	10 進数 (右詰め) 対象がインデクスページの場合は、「-」を出力します
kkk…kkk	該当タイプ又はインデクスの割り当てページ数	10 進数 (右詰め)
lll…lll	該当タイプ又はインデクスのセグメント数	10 進数 (右詰め)
nnn…nnn	該当タイプ又はインデクスの最終セグメントの使用ページ数	10 進数 (右詰め) 各タイプ又は各インデクスが二つ以上のセグメントからなる場合に表示します
ooo…ooo	該当タイプ又はインデクスの最終セグメントの満杯ページ数	10 進数 (右詰め)
ppp…ppp	該当タイプ又はインデクスの最終セグメントの割り当てページ数	10 進数 (右詰め)
qqq…qqq	未使用セグメントの使用ページ数	10 進数 (右詰め) 常に 0 を表示します
sss…sss	未使用セグメントの満杯ページ数	10 進数 (右詰め) 対象がインデクスページの場合は、「-」を出力します
ttt…ttt	未使用セグメントの割り当てページ数	10 進数 (右詰め)
uuu…uuu	未使用セグメントのセグメント数	10 進数 (右詰め)
www…www	該当エリア内の使用ページ数合計	10 進数 (右詰め)
xxx…xxx	該当エリア内の満杯ページ数合計	10 進数 (右詰め)
zzz…zzz	該当エリア内の割り当てページ数合計	10 進数 (右詰め)
AAA…AAA	該当エリア内のセグメント数合計	10 進数 (右詰め)
BBB…BBB	表示した全エリアの使用ページ数合計	10 進数 (右詰め)
CCC…CCC	表示した全エリアの割り当てページ数合計	10 進数 (右詰め)

(4) データベースエリアの使用状況の表示から確認できる内容

データベースエリアの使用状況の表示内容の見方について説明します。

データベースエリアの使用状況から、次のことが分かります。

(a) データベースエリアのファイルの増分

ファイルが増分されているエリアは、各エリアの小計の行に表示されているセグメント数から分かります。この行のセグメント数が初期設定時の初期割り当て量よりも大きい場合は、ファイルが増分されています。

また、未使用セグメント数が0に近づいている場合は、間もなくファイルの増分が発生することを示します。

(b) データベースの再編成が有効なエリア

データベースの再編成によって、スペース効率が向上するエリアを判断できます。データベースの再編成が有効なエリアは、次のようなエリアです。

- 未使用セグメント数が0に近づいているエリア
- ファイルが増分されているエリア
- ディクショナリ用エリア及びユーザ用エリアで、各タイプの割り当てページ数から直下行の（ ）内の割り当てページを差し引いたページ数に対して、当該タイプの満杯ページ数から直下行の（ ）内の満杯ページ数を差し引いたページ数の割合が低いエリア

ただし、使用ページ数に対して、満杯ページ数の割合が高いエリアでは、データベースの再編成を実行しても、スペース効率の向上は期待できません。

(c) データベースの満杯状態に近づいているエリア（ディクショナリ用エリア及びユーザ用エリア）

セグメント数が最大割り当て量に達していて、割り当てページ数に対する満杯ページ数の割合が高い場合は、データベースが満杯状態に近づいています。

この場合は、エリアを拡張するか、又は不要なオブジェクトを削除するなどの対処が必要です。対処方法については、「付録 D.2 データベースの運用時の障害予防」を参照してください。

(d) 再構成パラメタに指定する値の見積もり

[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティで表示した数値を利用して、再構成パラメタに指定する値を見積もれます。再構成パラメタは、データベースのユーザエリア及びインデクスエリアの再作成に使用します。

再構成パラメタファイルの形式と項目については、「7.8 再構成パラメタファイル」を参照してください。

見積もりは、次の手順で実行してください。

1. [データベースの再編成] ユティリティを実行する
2. [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティを実行する
3. 出力結果からエリア再作成パラメタの値を見積もる

図 4-8 に [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティの表示例を示します。

図 4-8 「データベースエリアの使用状況の表示」 ユティリティの表示例

.				
.				
.				
IS_system_area_1	用途=ユーザ			
	セグメントサイズ= 1			
0x000100a3	1	0	1	1
0x000100a6	1	0	1	1
.				
.				
未使用セグメント	0	0	38	38
[小計]	15	4	53	53
.				
.				
IS_class_area_1	用途=ユーザ			
	セグメントサイズ= 32			
0x000100bb	1	0	32	1
0x000100c3	14	13	32	1
0x000100d2	1	0	32	1
0x00010181	1	0	32	1
未使用セグメント	0	0	2912	91
[小計]	17	13	3040	95
.				
.				
WF_case_area	用途=ユーザ			
	セグメントサイズ=4416			
0x0001012e	482	481	4416	1
.				
.				
WF_index_area	用途=インデクス			
	セグメントサイズ= 32			
0x00020168	17	-	32	1
0x00020169	8	-	32	1
0x0002016a	4	-	32	1
未使用セグメント	0	-	64	2
[小計]	29	-	160	5
.				
.				
.				

次に、図 4-8 のように表示された場合の、ユーザエリアとインデクスエリアの見積もり方法を説明します。見積もるのは、area パラメタに指定するセグメントサイズと file パラメタに指定する初期割り当て量です。

余裕値は、必要な値の 20%が目安です。ただし、データベースの使用状況の推移から、格納しているデータ量が増大する傾向があるエリアの場合は、余裕値を 50%にするなどして多く見積もる必要があります。

「見積もり例」には、図 4-8 の表示例から見積もった値を示します。

- ユーザデータベースのエリアの見積もり

「セグメントサイズ=1」のエリア

セグメントサイズを変更する必要はありません。初期割り当て量は、現在のデータを格納するのに必要なページ数に余裕値を加えた値を見積もります。

見積もり例 (IS_system_area_1 の見積もり)

- セグメントサイズ：1
- 初期割り当て量：現在のデータを格納するページ「15」+余裕値

「セグメントサイズ≠1」かつ「定義タイプ数> 1」のエリア

- オブジェクト格納時の空きページサーチ効率を優先する場合

セグメントサイズは、エリア内の各タイプの使用ページ数の最大値に余裕値を加えた値を見積もります。初期割り当て量は、タイプ数に余裕値を加えた値を見積もります。

見積もり例 (IS_class_area_1 の見積もり)

- セグメントサイズ：エリア内の各タイプの使用ページの最大値「14」+余裕値
 - 初期割り当て量：タイプ数「4」+余裕値
 - スペース効率 (少ないディスク所要量) を優先する場合
- 各タイプには、セグメント単位でページが割り当てられます。つまり、1 ページしか使用していても1セグメント分のページが割り当てられます。
- スペース効率を優先する場合は、セグメントサイズには各タイプの平均的な使用ページ数を見積もります。初期割り当て量には現在のデータを格納するのに必要なセグメント数に余裕値を加えた値を見積もります。
- なお、この場合はファイルの増分が起こりやすいので、定期的にデータベースの再編成を実行する必要があります。

見積もり例 (IS_class_area_1 の見積もり)

- セグメントサイズ：各タイプの平均的な使用ページ数「1」
- 初期割り当て量：現在のデータを格納するのに必要なセグメント数「17」+余裕値

「セグメントサイズ≠1」かつ「定義タイプ数=1」のエリア

現在のデータを格納するのに必要なページ数に余裕値を加えた値をセグメントサイズに見積もります。初期割り当て量は1にします。

見積もり例 (WF_case_area の見積もり)

- セグメントサイズ：現在のデータを格納するのに必要なページ数「482」+余裕値
- 初期割り当て量：1
- インデクスエリアの見積もり

セグメントサイズには、「MIN (エリア内の各インデクスの使用ページ数の最大値+余裕値, 32)」を見積もります。初期割り当て量には、現在のデータを格納するのに必要なセグメント数に余裕値を加えた値を見積もります。

見積もり例 (WF_index_area の見積もり)

- セグメントサイズ：エリア内の各インデクスの使用ページ数の最大値「17」+余裕値
- 初期割り当て量：現在のデータを格納するのに必要なセグメント数「3」+余裕値

4.3.3 データベースのエリアの情報表示

データベースのエリアの情報表示では、次のデータベースのエリアの情報を表示します。情報は標準出力に出力されます。

- エリア名称

- エリアの用途
- エリア番号
- エリア内の合計ページ数
- エリアのセグメントサイズ
- エリアの利用可能ページ数
- エリアのページ長
- ファイルの通番
- ファイル名称
- ファイルの現在割当量
- ファイルの最大割当量
- ファイルのページ数
- ファイルの初期化日時

(1) データベースのエリアの情報表示に使用するユティリティ

データベースのエリアの情報を表示するには、[データベースのエリアの情報表示] ユティリティを使用します。[データベースのエリアの情報表示] ユティリティについては、「8.7.3 データベースのエリアの情報表示」を参照してください。

(2) 手順

データベースのエリアの情報表示を表示するときの手順を説明します。

(a) [データベースのエリアの情報表示] ユティリティの実行

[データベースのエリアの情報表示] ユティリティを実行して、データベースエリアの情報表示を標準出力に出力します。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果として、データベースのエリアの情報表示が標準出力に出力されます。

図 4-9 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-9 に示した出力フォーマットの項目を表 4-5 に示します。図 4-9 と表 4-5 の図中の文字は対応しています。

図中文字	項目	表示形式
YY-MM-DD	ファイルの初期化年月日 [データベースの初期化], [データベースへのエリアの追加], [データベースへのファイルの追加], [データベースのエリアの再作成], [データベースのエリアの再初期化] ユティリティでファイルを初期化した年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
HH:MM:SS	ファイルの初期化時刻 [データベースの初期化], [データベースへのエリアの追加], [データベースへのファイルの追加], [データベースのエリアの再作成], [データベースのエリアの再初期化] ユティリティでファイルを初期化した時刻	時 : 分 : 秒

4.3.4 デクショナリの情報表示

デクショナリの情報表示では、デクショナリ用エリアのファイルを解析し、デクショナリの情報を表示します。情報は標準出力に出力されます。

(1) デクショナリの情報表示に使用するユティリティ

デクショナリの情報表示を表示するには、[デクショナリの情報表示] ユティリティを使用します。
[デクショナリの情報表示] ユティリティについては、「8.7.4 デクショナリの情報表示」を参照してください。

(2) 手順

デクショナリの情報を表示するときの手順を説明します。

(a) [デクショナリの情報表示] ユティリティの実行

[デクショナリの情報表示] ユティリティを実行して、データベースのデクショナリの情報を標準出力に出力します。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果として、デクショナリの情報が標準出力に出力されます。

図 4-10 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-10 に示した出力フォーマットの項目を表 4-6 に示します。図 4-10 と表 4-6 の図中の文字は対応しています。

図中文字	項目	表示形式
nn	ファイルの通番	10 進数 (右詰め)
ggg…ggg	ファイル名	最大 175 バイト
iii…iii	スキーマ名	最大 63 バイト
jjj…jjj	タイプ ID	16 進数の 8 バイト
kkk…kkk	該当タイプの定義されたエリアのエリア番号	10 進数 (右詰め)
ll	定義種別	通常タイプ時には、空白が表示されます。クラスタードストリングタイプ時には、「CS」が表示されます
ooo…ooo	タイプ名	最大 95 バイト
ppp…ppp	インデクス ID	16 進数の 8 バイト
qqq…qqq	インデクス名	最大 95 バイト
ttt…ttt	ユニバーサル関連 ID	16 進数の 8 バイト
uuu…uuu	該当ユニバーサル関連の定義されたエリアのエリア番号	10 進数 (右詰め)
www…www	ユニバーサル関連名	最大 95 バイト
zzz…zzz	インデクス ID	16 進数の 8 バイト
xxx…xxx	該当インデクスの定義されたエリアのエリア番号	10 進数 (右詰め)
AAA…AAA	該当インデクスの定義されたタイプのタイプ ID	16 進数の 8 バイト
BBB…BBB	インデクス名	最大 95 バイト
YY-MM-DD	ユティリティ実行開始年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
HH : MM : SS	ユティリティ実行開始時刻	時 : 分 : 秒

4.4 データベースのバックアップの取得

ファイルに障害が起こったときのために、各種ファイルのバックアップを定期的にとることをお勧めします。なお、バックアップを取得するときは、Groupmax システムの運用を停止してください。データベースの更新中に取得したバックアップでは、データベースを回復できない場合があります。

バックアップには、OS の機能を使用して取得する方法と「データベースのバックアップ」ユーティリティを使って取得する方法があります。

この節では、バックアップの対象となるファイル及びバックアップの取得方法を説明します。

4.4.1 バックアップの対象となるファイル

バックアップの対象となるファイルを次に示します。

1. オブジェクトサーバ管理ファイル
2. 連携プログラム用データ格納ファイル
3. それぞれの連携プログラムで管理しているファイル

これらのうち、1 と 2 は、初期設定パラメタファイルの中で定義した、オブジェクトサーバのデータベースファイルです。オブジェクトサーバ管理ファイル及び連携プログラム用データ格納ファイルについては、「7.1.2 データベースファイル」を参照してください。

また、2、3 のファイルの詳細は、それぞれの連携プログラムのマニュアルのバックアップについての説明を参照してください。

バックアップを取得するときに取得もれがないようにしてください。特に、データベースを構成変更してエリアを追加又はファイルを追加している場合は、注意が必要です。

なお、%XODDIR%\\$ spool 及び%XODDIR%\\$ tmp の下のファイルは、バックアップを取得しないでください。

オブジェクトサーバのファイルのバックアップは、すべてのデータベースファイルを一括して取得するか、又はそれぞれの Groupmax のアプリケーションプログラムに関するファイルをアプリケーションプログラムごとに取得します。それぞれの場合の注意事項を説明します。

(1) データベースファイルを一括して取得する

情報間の同期がずれないように、すべてのファイルのバックアップを同時に取得する方法です。連携プログラムが多い場合、バックアップ量が多くなりますが、バックアップ及び回復の運用が単純で、確実です。連携するプログラムの環境設定をした場合及びオブジェクトサーバのエリアを追加するなどの構成変更をした場合は、一括してバックアップを取得してください。

[データベースの回復]ユーティリティによってデータベースを回復する場合は、一括してデータベースのバックアップを取得してください。

(2) アプリケーションプログラムごとに取得する

アプリケーションプログラムごとにバックアップを取得するときは、次のファイルが対象になります。

- すべてのオブジェクトサーバ管理ファイル
- 対象となるアプリケーションプログラムの使用する連携プログラム用データ格納ファイル

- 対象となるアプリケーションプログラムが管理するファイル

ファイルのバックアップを取得するときは、同時にバックアップを取るなど、これらの情報間の同期がずれないように気を付けてください。特に、Groupmax Document Manager と連携している場合に、次の操作を行ったときは、オブジェクトサーバ管理ファイルと連携プログラム用データ格納ファイルの同期がずれないように気を付けてください。

- 一般文書データベース及びフォーム文書データベースを新規に定義したとき
- 一般文書データベース及びフォーム文書データベースに属性を追加したとき

! 注意事項

High-end Object Server の [データベースの回復] ユティリティによってデータベースを回復する場合は、アプリケーションプログラムごとに取得したバックアップでは回復できません。

4.4.2 OS の機能による取得方法

ここでは、OS の機能を使用してバックアップを取得する方法について説明します。OS の機能によるバックアップの取得には、次の二通りの方法があります。

- OS のバックアップ機能を使用する方法
- エクスプローラ又はファイルマネージャを使用する方法

それぞれの方法の手順を説明します。

OS のバックアップ機能を使用する方法

1. [管理ツール] グループの [バックアップ] を選択します。
[バックアップ] ウィンドウが表示されます。
2. [4.4.1 バックアップの対象となるファイル] を参照して、必要なファイルのバックアップを取得します。

エクスプローラ又はファイルマネージャを使用する方法

1. エクスプローラ又はファイルマネージャを起動します。
 2. [4.4.1 バックアップの対象となるファイル] を参照して、必要なファイルをコピーして、バックアップを取得します。
- OS のバックアップ機能は、ファイルが使用中であるとそのファイルのバックアップ処理をスキップします。また、エクスプローラやファイルマネージャによるコピーは、ファイルが使用中であってもコピーはできますが、ファイルの更新途中のものをコピーすることになります。したがって、データベースのバックアップを取得する場合は、オブジェクトサーバを停止させてから実行してください。
 - バックアップの実行中にエラーが発生した場合は、途中まで生成したバックアップファイルは壊れています。この場合は、はじめからすべてのファイルのバックアップを取得し直してください。
 - ここで取得したバックアップを使用してデータベースを回復する場合に備えて、現時点のシステムの状態を記録しておいてください。次に示す情報を保管しておくようにしてください。
 - バックアップしたデータベースの容量の記録
 - 現在のメモリ使用量及びディスク使用量の記録
 - オブジェクトサーバシステムディレクトリの xodresult (ユティリティ等結果ファイル)
 - %XODDIR%\¥ conf ¥ xodrc (システム共通定義ファイル)
 - オブジェクトサーバの定義ファイル及びユティリティで使用しているパラメタファイル

4.4.3 ユティリティによる取得方法

[データベースのバックアップ] ユティリティを使ってデータベースのバックアップを取得できます。このとき取得できるのはオブジェクトサーバのデータベースファイル(オブジェクトサーバ管理ファイル及び連携プログラム用データ格納ファイル)です。それぞれの連携プログラムで管理しているファイルは、別途バックアップを取得してください。

また、High-end Object Server を御使用の場合は、ここで取得したバックアップとジャーナルファイルを使用して、障害発生時からみて最新の同期点に回復できます。この時点に回復する場合には、データベースを回復する前にジャーナルをアンロードすることが必要です。

次に、[データベースのバックアップ] ユティリティを使ったデータベースのバックアップの取得手順を説明します。

(1) バックアップパラメタファイルの作成

バックアップパラメタファイルにはデータベースの退避先ファイル名などを記述します。このファイルは、アプリケーションプログラムごとにバックアップを取得する場合に必要です。バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。

(2) [データベースのバックアップ] ユティリティの実行

[データベースのバックアップ] ユティリティを実行して、データベースのバックアップを取得します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、イベントログ、ダイアログ、コマンドプロンプト、又は「xodresult」ファイルに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。ユティリティが正常終了した後で、「xodresult」は保存してください。

また、ここで取得したバックアップを使用してデータベースを回復する場合には、現時点のシステムの状態をつかむために次の情報が必要ですので、保管しておくようにしてください。

- バックアップしたデータベースの容量の記録
- 現在のメモリ使用量及びディスク使用量の記録
- オブジェクトサーバシステムディレクトリの xodresult (ユティリティ等結果ファイル)
- %XODDIR%¥ conf ¥ xodrc (システム共通定義ファイル)
- オブジェクトサーバの定義ファイル及びユティリティで使用しているパラメタファイル

図 4-11 に処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-11 に示した出力フォーマットの項目を表 4-7 に示します。図 4-11 と表 4-7 の図中文字は対応しています。

図 4-11 [データベースのバックアップ] ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodbkup(vv-rr)** DBバックアップ yy-mm-dd hh:mm:ss

** DBバックアップファイル情報 **
ファイル名 = bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb
開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss

** DBエリア情報 **
エリア名 = ccccccccccccccccccccccccccccccccccc 用途 = eeeeeeeeeeeeeeeeeee
エリア番号 = nnnnnnnnnnn ページ長 = ffffffff
開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss

<DBエリア状況>
利用可能ページ数 = gggggg
未使用ページ数(率) = iiiiii( jj. j%)
使用済ページ数(率) = iiiiii( jj. j%) 領域容量 = kkkk. kK
空き容量(率) = llll. lK ( jj. j%)

<DBエリア構成>
NO. 1 ファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
NO. 2 ファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
:
:

** DBエリア情報 **
エリア名 = ccccccccccccccccccccccccccccccccccc
:
:
終了メッセージ

```

注※ マスタディレクトリ及びデータディレクトリ用のエリアの場合は出力されません。

表 4-7 [データベースのバックアップ] ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa…aaa	システム ID	11 バイト
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	年月日	西暦の下 2 けたー月ー日
hh:mm:ss	時刻	時：分：秒
bbb…bbb	バックアップファイル名	最大 175 バイト
ccc…ccc	エリア名	最大 30 バイト
eee…eee	エリアの用途	最大 20 バイト
nnn…nnn	エリア番号	10 進数 (右詰め)
fffff	エリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
gggggg	管理用を除いた利用可能なページ数	10 進数 (右詰め)
iiiiii	ggggg の内での各ページ数	10 進数 (右詰め)
jj.j	比率	%

4 データベースの運用

図中文字	項目	表示形式
kkkk.k	使用済ページ領域の容量	kkkk.kM (メガバイト, 右詰め) kkkk.kK (キロバイト, 右詰め) kkkk (バイト, 右詰め) 少数点以下は, 第 2 位を切り上げて表示されます
llll.l	使用済ページ内の空き領域の容量	llll.lM (メガバイト, 右詰め) llll.l (キロバイト, 右詰め) llll (バイト, 右詰め) 少数点以下は, 第 2 位を切り上げて表示されます
ooo...ooo	エリアの構成ファイル名	最大 175 バイト

4.5 データベースの回復

この節では、データベースの回復方法を説明します。

4.5.1 回復の対象となるファイル

オブジェクトサーバをバックアップから回復する場合に対象となるファイルを次に示します。

1. オブジェクトサーバ管理ファイル
2. 連携プログラム用データ格納ファイル
3. それぞれの連携プログラムで管理しているファイル

4.5.2 バックアップからのデータベースファイルの回復方法

データベースをバックアップから回復するときには、連携プログラム及びオブジェクトサーバを停止させてから実行してください。

オブジェクトサーバのバックアップから回復させる方法は、バックアップを OS の機能を使用して取得しているか、又は [データベースのバックアップ] ユティリティを使用して取得しているかによって異なります。

それぞれの場合について説明します。

(1) OS の機能による回復方法

OS の機能を使用してバックアップを取得した場合は、OS の機能を使用して回復する必要があります。

OS の機能を使用する回復には、OS のバックアップ機能を使用する方法と、エクスプローラ又はファイルマネージャを使用する方法があります。バックアップを取得した方法によって選択してください。それぞれの方法の手順を説明します。

OS のバックアップ機能を使用する方法

OS のバックアップ機能を使用してバックアップを取得した場合に使用します。

1. [管理ツール] グループの [バックアップ] を選択する
[バックアップ] ウィンドウが表示されます。
2. 取得したバックアップからファイルを復元する

エクスプローラ又はファイルマネージャを使用する方法

エクスプローラ又はファイルマネージャを使用してバックアップを取得した場合に使用します。

1. エクスプローラ又はファイルマネージャを起動する
2. 取得したバックアップから、オブジェクトサーバの環境にファイルをコピーする

(2) [データベースのリストア] ユティリティによる回復方法

[データベースのバックアップ] ユティリティを使用してバックアップを取得した場合は、[データベースのリストア] ユティリティを使用してデータベースファイルを回復する必要があります。

[データベースのリストア] ユティリティによる回復手順を示します。

1. データベースファイルがあるディスクに障害が発生した場合は、障害が発生したファイルを削除する

2. バックアップを取得したエリアのうち、特定のエリアだけを回復する場合は、バックアップパラメタファイルを作成する

バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。

3. [データベースのリストア] ユティリティを実行する

[データベースのリストア] ユティリティについては、「8.4.3 データベースのリストア」を参照してください。

4. ユティリティの実行結果を xodresult で確認する

ユティリティが正常終了していない場合は、1.から実行し直してください。

4.5.3 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する

ここではデータベースをバックアップ時点の状態に回復する方法について説明します。この方法では、取得したバックアップだけを使用して回復します。バックアップからデータベースを回復するときには、連携プログラムで管理しているファイルも同時に回復する必要があります。

回復は、連携プログラム及びオブジェクトサーバを停止させてから実行してください。

正常に回復ができたなら、スタートアップパラメタに「normal」を指定して、オブジェクトサーバを強制正常開始してください。

データベースファイルの回復には、データベースファイルを一括して回復する方法と、アプリケーションプログラムごとに回復する方法があります。それぞれの方法について説明します。

(1) データベースファイルを一括して回復する

データベースファイルを一括して取得した最新のバックアップを使用して、すべてのデータベースファイルを回復してください。

(2) アプリケーションプログラムごとに回復する

アプリケーションプログラムごとに回復する方法について説明します。

1. バックアップからデータベースを回復する

連携プログラム用データ格納ファイルをバックアップから回復してください。ただし、次のことに注意してください。

- 次の操作を実行した場合、オブジェクトサーバ管理ファイルが更新されます。この操作を実行した連携プログラムを回復する場合は、オブジェクトサーバ管理ファイルと連携プログラム用データ格納ファイルの同期の取れたバックアップから回復する必要があります。

連携しているプログラムの環境設定をした場合

Groupmax Document Manager で、一般文書データベース及びフォーム文書データベースを新規に定義したとき

Groupmax Document Manager で、一般文書データベース及びフォーム文書データベースに属性を追加したとき

- オブジェクトサーバ管理ファイルを回復する場合は、オブジェクトサーバ管理ファイルと同期の取れた Groupmax Document Manager のプログラム用データ格納ファイルを、バックアップから回復してください。

2. [データベースの再編成] ユティリティを実行して、OID インデクスを再作成する

バックアップから回復した状態では、各ファイルの整合性が取れていません。再編成パラメタファイルの `recreate` パラメタに「`-a` OID インデクスエリア名」を指定して [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。

[データベースの再編成] ユティリティについては「8.4.1 データベースの再編成」を、再編成パラメタファイルについては「7.7 再編成パラメタファイル」を参照してください。

なお、再編成パラメタファイルの `rerog` パラメタ又は `area` パラメタを指定したデータベースの再編成は、各ファイルの整合性が取れていない状態では実行できません。必ず OID インデクスを再作成してから実行してください。

4.5.4 データベースを障害発生時点からみて最新の同期点の状態に回復する (High-end Object Server)

High-end Object Server では、データベースを障害発生時点からみて最新の同期点の状態に回復できます。これには、データベースを一括して取得したバックアップとシステムジャーナルをアンロードしたファイルを使用します。

データベースをバックアップから回復した後で、システムジャーナルをアンロードしたファイルを使用して、データベースを障害発生時点からみて最新の同期点の状態に回復します。データベースをバックアップから回復する方法については、「4.5.2 バックアップからのデータベースファイルの回復方法」を参照してください。

障害発生前の最新の同期点の状態にデータベースを回復するために使用するユティリティの位置付けを図 4-12、各ユティリティの運用の流れを図 4-13 に示します。なお、回復に使用するユティリティを実行する前に、次のことを確認してください。

- 連携プログラムがすべて停止しているか
- バックアップ取得時のシステムの状態と比べて、回復先の環境に十分なディスク容量があるか

図 4-12 データベースの回復に使用するユティリティの位置付け

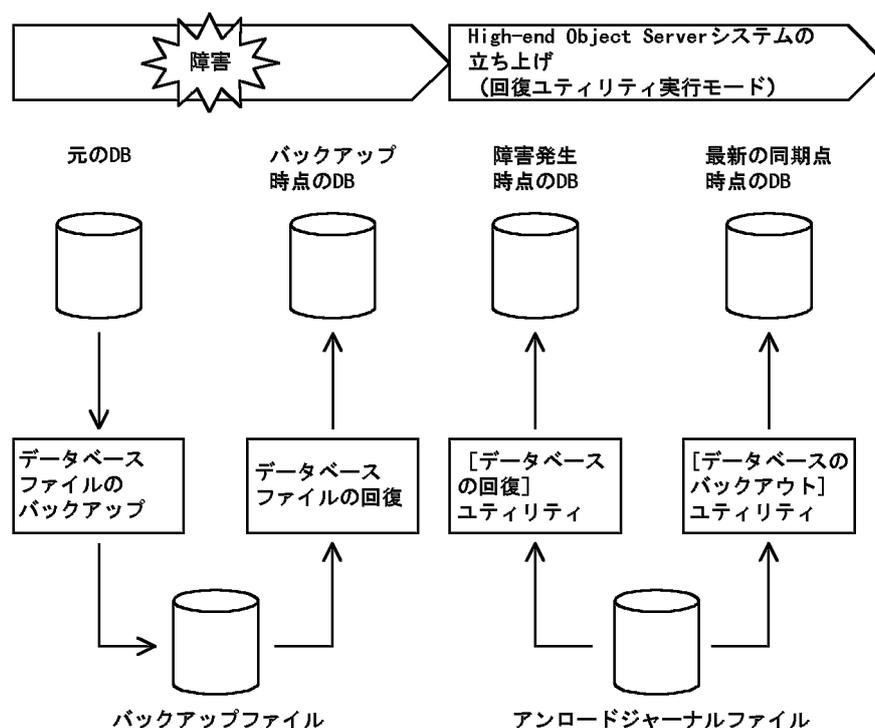
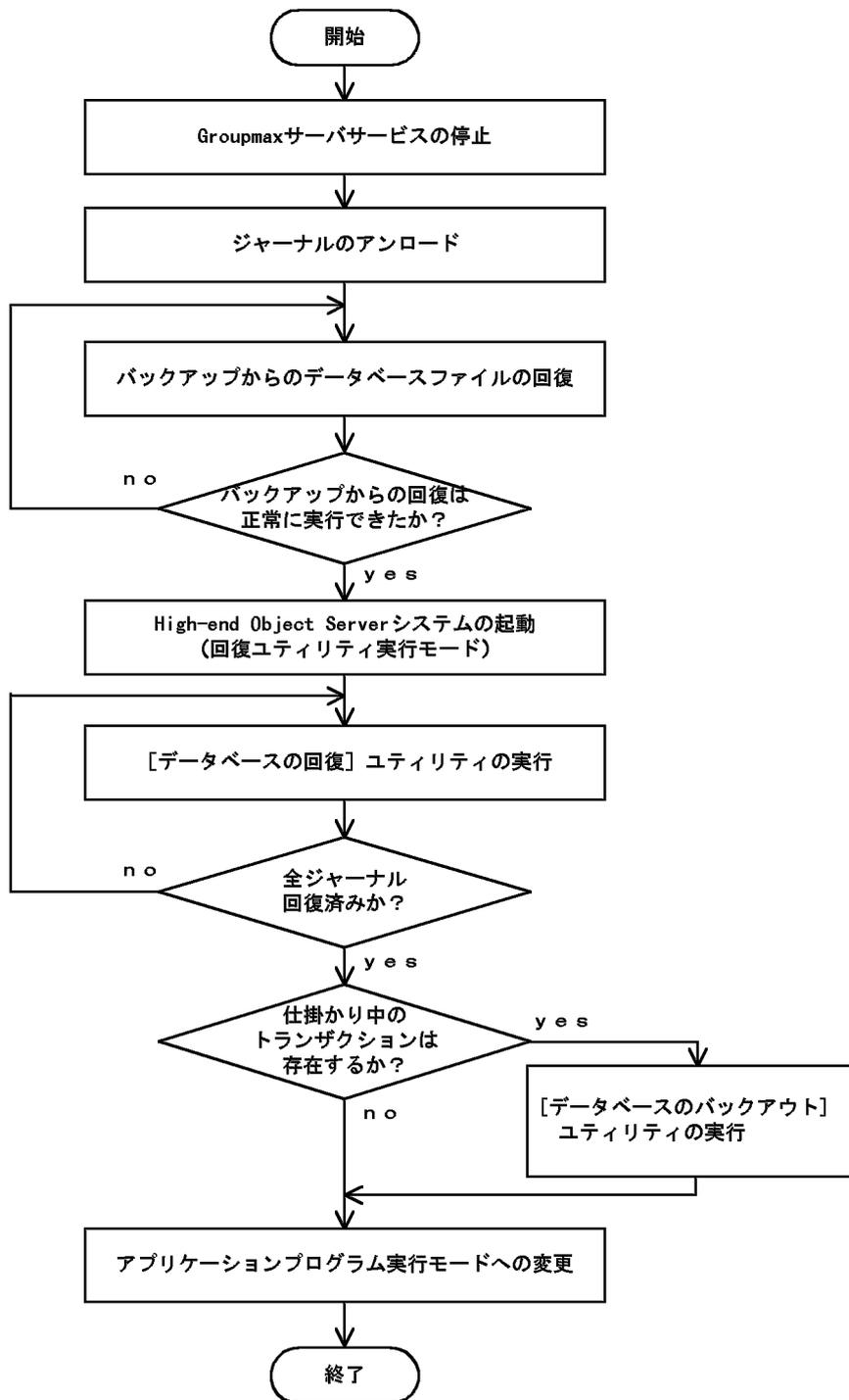


図 4-13 データベースの回復に使用するユーティリティの運用の流れ



[アプリケーション実行モードへの変更] ユティリティについては、「8.8.4 アプリケーション実行モードへの変更 (High-end Object Server)」を参照してください。

4.5.5 ユティリティの実行

データベースの回復に使用するユーティリティの実行方法を説明します。

(1) [データベースのリストア] ユティリティ

[データベースのバックアップ] ユティリティによって取得したデータベースのバックアップファイルを入力して、バックアップ時点の状態にデータベースを回復します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。このファイルの内容を参照してユティリティが正常終了したことを確認してください。ユティリティが正常終了していない場合は、回復中のデータベースは壊れています。この場合は、エラー原因を取り除いて、[データベースのリストア] ユティリティをはじめから実行し直してください。

図 4-14 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-14 に示した出力フォーマットの項目を表 4-8 に示します。図 4-14 と表 4-8 の図中の文字は対応しています。

図 4-14 [データベースのリストア] ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaaaa xodbrstr (vv-rr)**  DBリストア          yy-mm-dd hh:mm:ss

*** DBリストア情報リスト ***

-----*1-----
エリア名 = bbbbbbbb          用途 = cccccccc
ページ長 = eeeeeeee
開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
バックアップ開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
バックアップ終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss          *2
-----*2-----
NO.   n   ファイル名 = ffffffffffffffffffffffffffffffff
      ページ数   = gggggggg
      :
      :
      :
終了メッセージ

```

注※1 点線内は一つのエリアの情報です。この情報が、回復したエリアの数だけ繰り返し表示されます。

注※2 破線内はファイルの情報です。この情報が、回復したエリアのファイルの数だけ繰り返し表示されます。

表 4-8 [データベースのリストア] ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaaa	システム ID	11 バイト
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	年月日	西暦の下 2 けたー月ー日
hh:mm:ss	時刻	時：分：秒
bbb...bbb	回復したエリア名	最大 30 バイト
ccc...ccc	回復したエリアの用途	最大 20 バイト
n	通番	10 進数 (右詰め)

図中文字	項目	表示形式
eee...eee	回復したエリアのページ長	単位はバイト。10進数（右詰め）
fff...fff	回復したファイル名	最大 175 バイト
ggg...ggg	回復したエリアのページ数	10進数（右詰め）

(2) [データベースの回復] ユティリティ

バックアップ時点の状態のデータベースに対して、バックアップ以降のアンロードジャーナルを入力し障害発生時点のデータベースの状態に回復します。アンロードジャーナルファイルはバックアップ時点から障害発生時点までのファイルを過不足なく使用しなければなりません。また、一度のユティリティ実行ですべてのファイルを指定できない場合は、アンロードジャーナルファイルを時系列に複数回に分けて実行してもかまいません。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。このファイルの内容を参照してユティリティが正常終了したことを確認してください。ユティリティが正常終了していない場合は、回復中のデータベースは壊れています。この場合は、エラー原因を取り除いて、[データベースのリストア] ユティリティから実行し直してください。

図 4-15 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-15 に示した出力フォーマットの項目を表 4-9 に示します。図 4-15 と表 4-9 の図中文字は対応しています。

図 4-15 [データベースの回復] ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaaaa xodbrevc(vv-rr)**   DB回復           yy-mm-dd hh:mm:ss

*** DB回復情報リスト ***

----- ※1 -----
エリア名 = bbbbbbbb                用途 = cccccccc
ページ長 = eeeeeeee
ジャーナル開始時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss
ジャーナル終了時刻 = yy-mm-dd hh:mm:ss ※2
NO.   n   ファイル名 = ffffffffffffffffffffffffffffffff
      FJ総数   = gggggggg
-----
:
:
:
終了メッセージ
    
```

- 注※1 点線内は一つのエリアの情報です。この情報が、回復したエリアの数だけ繰り返し表示されます。
- 注※2 破線内はファイルの情報です。この情報が、回復したエリアのファイルの数だけ繰り返し表示されます。

表 4-9 [データベースの回復] ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	11 バイト
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト

図中文字	項目	表示形式
yy-mm-dd	年月日	西暦の下 2 けた - 月 - 日
hh:mm:ss	時刻	時 : 分 : 秒
bbb...bbb	回復したエリア名	最大 30 バイト
ccc...ccc	回復したエリアの用途	最大 20 バイト
n	通番	10 進数 (右詰め)
eee...eee	回復したエリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
fff...fff	回復したファイル名	最大 175 バイト
ggg...ggg	回復したファイルに使用した更新ジャーナル (FJ) 件数	10 進数 (右詰め)

(3) [データベースのバックアウト] ユティリティ

[データベースの回復] ユティリティで作成されたバックアウト情報ファイルとアンロードジャーナルファイルを使用して、データベースの障害発生時からみて最新の同期点で仕掛かり中のトランザクションをロールバックします。このユティリティはアンロードジャーナルファイルに仕掛かり中のトランザクションが含まれる場合だけ必要です。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。このファイルの内容を参照してユティリティが正常終了したことを確認してください。ユティリティが正常終了していない場合は、回復中のデータベースは壊れています。この場合は、エラー原因を取り除いて、[データベースのリストア] ユティリティから実行し直してください。

図 4-16 に処理結果の出力フォーマットを示します。また、図 4-16 に示した出力フォーマットの項目を表 4-10 に示します。図 4-16 と表 4-10 の図中文字は対応しています。

図 4-16 [データベースのバックアウト] ユティリティの処理結果の出力フォーマット

```

**aaaaaaaa xodbkout (vv-rr)**  DBバックアウト      yy-mm-dd hh:mm:ss

*** DBバックアウト情報リスト ***
最古のブロック番号 : bbbbbbbb 出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd
最新のブロック番号 : cccccccc 出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd

UAP情報
ユーザ名称 最古ジャーナルの出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd
fffffff    最新ジャーナルの出力時刻 : hh:mm:ss / yy-mm-dd
レコード数           : eeeeeeee
:
:
終了メッセージ

```

表 4-10 [データベースのバックアウト] ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	11 バイト

4 データベースの運用

図中文字	項目	表示形式
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	開始年月日	西暦の下 2 けた ー月ー日
hh:mm:ss	開始時刻	時：分：秒
bbb…bbb	使用した最古ジャーナルのブロック番号	10 進数 (右詰め)
ccc…ccc	使用した最新ジャーナルのブロック番号	10 進数 (右詰め)
eee…eee	使用したジャーナルの FJ レコード数	10 進数 (右詰め)
fff…fff	ユーザ名称。ただし、オブジェクトサーバと連携するプログラムによって、ユーザ名称が設定されていない場合、「*****」が表示されます	8 バイト

4.6 データベースの再構成

この節では、データベースの再構成の方法を説明します。

4.6.1 エリアの再作成

データベースのエリアの再作成は、ユーザの使用環境の変化によってパス、セグメントサイズ、初期設定割り当て量などが変更となったエリアを作成し直します。再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用エリア、ユーザ用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。

なお、データベースに障害が発生している場合、データベースのエリアの再作成はできません。

(1) データベースのエリアの再作成に使用するユティリティ

データベースのエリアを再作成するには、[データベースのエリアの再作成] ユティリティを使います。[データベースのエリアの再作成] ユティリティについては、「8.5.1 データベースのエリアの再作成」を参照してください。

! 注意事項

エリアの再作成での障害、及びその後の障害に備えるため、[データベースのエリアの再作成] ユティリティを実行する前と後にデータベースファイルのバックアップをすべて取得しておいてください。バックアップの取得方法については、「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。

(2) 手順

データベースのエリアを再作成するときの手順を説明します。

(a) 再構成パラメタファイルの作成

再構成パラメタファイルは、テキスト形式のファイルとして作成します。パラメタには、エリア名、用途などを記述します。再構成パラメタファイルについては「7.8 再構成パラメタファイル」を参照してください。

(b) [データベースのエリアの再作成] ユティリティの実行

[データベースのエリアの再作成] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースのエリアを再作成します。再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用、ユーザ用、OID インデクス用及びインデクス用のエリアです。

ディクショナリ用、又はユーザ用エリアを再作成する場合、該当するエリアをアンロードし、エリアを再初期化した後にリロードします。リロードするときには、該当するエリアだけでなく、OID インデクスエリア、エリア内のオブジェクトに付けられたインデクス、及び関連付けられたオブジェクトを格納するエリアも更新します。

OID インデクス用、又はインデクス用のエリアを再作成する場合、該当するエリアを再初期化した後にインデクスを再作成します。インデクスの再作成では、タイプ中のオブジェクトデータを物理順に検索してインデクスの情報を生成し、その情報を基にインデクスを作り直します。

また、[データベースのエリアの再作成] ユティリティでは、マスタディレクトリ及びディクショナリエリアも更新します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されません。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、又はコマンドプロンプトに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(3) ユティリティの処理結果

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。「xodresult」という名称のファイルがある場合には、ファイルの末尾に追加して出力されます。ファイルがない場合には、「xodresult」というファイルが新規に作成されます。

図 4-17 にディクショナリ用エリアを再作成する場合、図 4-18 にユーザ用エリアを再作成する場合、及び図 4-19 にインデクス用エリアを再作成する場合の処理結果の出力フォーマットを示します。また図 4-17、図 4-18、及び図 4-19 に示した出力フォーマットの項目を表 4-11 に示します。図 4-17、図 4-18、及び図 4-19 と表 4-9 の図中文字は対応しています。

図 4-17 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (ディクショナリ用エリアを再作成する場合)

```

**aaaaaaaaaa xodbrncs*1(vv-rr)**          DB再構成          yy-mm-dd hh:mm:ss

** ディクショナリ引き上げ情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : cccccccccccccccccccc . . . .
  総オブジェクト数 : dddddddddddd
  最大オブジェクト長 : eeeeeeeeeeee
  :

** アンロードファイル情報リスト **          ※2
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . . .
  容量 : www.wk※3
  総容量 : www.wk※3

** 再作成エリア情報リスト **
エリア名 = ffffffffffffffffffffffffffffffff 用途 = gggggggggggggggg
エリア番号 = hhhhhhhhhh
再作成前
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
  NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  現在割当量 = pppppppppp          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :

再作成後
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
  NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  初期割当量 = qqqqqqqqqq          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :

** ディクショナリ再登録情報リスト **
アンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : cccccccccccccccccccc . . . .
  総オブジェクト数 : ddd . . . .   OID数 : xxx . . . .   PID登録数 : zzz . . . .※4
  :
  :

終了メッセージ

```

注※1 処理方式2でデータベースのエリアを再作成した場合、「xodbrncs2」と表示されます。エリアの再作成の処理方式については、「8.5.1(3) アンロードファイルのサイズについて」を参照してください。

注※2 ディクショナリエリアのアンロードファイルについて表示されます。

注※3 容量、総容量はwww (バイト, 右詰め), www.wk (キロバイト, 右詰め), www.wM (メガバイト, 右詰め), www.wG (ギガバイト, 右詰め) のいずれかで表示されます。総容量は、すべてのアンロードファイル容量の合計です。また、各容量は、少数点第2位以下を切り上げて表示されます。

注※4 PID登録数とは、当該タイプで、新旧物理オブジェクト識別子対応表に登録されたエントリ数のことです。

図 4-18 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (ユーザ用エリアを再作成する場合)

```

**aaaaaaaaaaaa xodbrons*1 (vv-rr)**          DB再構成          yy-mm-dd hh:mm:ss
** ユーザエリア引き上げ情報リスト **          ※2
ダウンロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : dddddddddddd
  最大オブジェクト長 : eeeeeeeeeeee
  :
NO. nnnnn
  ユニバーサル関連名 : ttttttttttttttttt . . .
  総オブジェクト数 : dddddddddddd
  最大オブジェクト長 : eeeeeeeeeeee
  :
** アップロードファイル情報リスト **          ※3
アップロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
  容量 : www.wK*4
  :
  総容量 : www.wK*4

** 再作成エリア情報リスト **
エリア名 = ffffffffffffffffffffffffffffffff 用途 = gggggggggggggggg
エリア番号 = hhhhhhhhhh
再作成前
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  現在割当量 = pppppppppp          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :
再作成後
  合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
  利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk      ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
  初期割当量 = qqqqqqqqqq          最大割当量 = ssssssssss
  ページ数 = rrrrrrrrrr
  :
** ユーザエリア再登録情報リスト **
アップロードファイル名 : bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb . . .
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccc . . .
  総オブジェクト数 : dddd . . .      OID数 : xxxx . . .      PID登録数 : zzzz . . . ※5
** インデクスメンテナンスリスト **
NO. nnnnn
  インデクス名 : uuuuuuuuuuuuuuuuu . . .
  :
NO. nnnnn
  ユニバーサル関連名 : ttttttttttttttttt . . .
  総オブジェクト数 : dddd . . .      OID数 : xxxx . . .      PID登録数 : zzzz . . . ※5
終了メッセージ

```

- 注※ 1 処理方式2でデータベースのエリアを再作成した場合、「xodbrons2」と表示されます。エリアの再作成の処理方式については、「8.5.1(3) アップロードファイルのサイズについて」を参照してください。
- 注※ 2 パラメタに指定されたアップロードファイルの名称はすべて表示されます。
- 注※ 3 作成されたユーザエリアのアップロードファイルについて、パラメタの指定順にファイル名、容量が表示されます。1レコードも出力されなかったアップロードファイルは表示されません。
- 注※ 4 容量、総容量はwww (バイト、右詰め)、www.wK (キロバイト、右詰め)、www.wM (メガバイト、右詰め)、www.wG (ギガバイト、右詰め)のいずれかで表示されます。総容量は、すべてのアップロードファイル容量の合計です。また、各容量は、少数点第2位以下を切り上げて表示されます。
- 注※ 5 PID登録数とは、当該タイプで、新旧物理オブジェクト識別子対応表に登録されたエントリ数のことです。

図 4-19 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (インデクス用エリアを再作成する場合)

```

**aaaaaaaaaaaa xodbrcns*1(vv-rr)**          DB再構成          yy-mm-dd hh:mm:ss
** 再作成エリア情報リスト **

エリア名 = fffffffffffffffffffffffffffffff 用途 = gggggggggggggggg
エリア番号 = hhhhhhhhhh
再作成前
合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk          ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = ooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
      現在割当量 = pppppppppp          最大割当量 = ssssssssss
      ページ数 = rrrrrrrrrr
      :

再作成後
合計ページ数 = iiiiiiiiii          セグメントサイズ = jjjjjjjjjj
利用可能ページ数 = kkkkkkkkkk          ページ長 = llllllllll
NO. mファイル名 = ooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo
      初期割当量 = qqqqqqqqqq          最大割当量 = ssssssssss
      ページ数 = rrrrrrrrrr
      :

** インデクス再作成情報リスト **
NO. nnnnn
  タイプ名 : ccccccccccccccccccccc . . . .
NO. nnnnn
  インデクス名 : uuuuuuuuuuuuuuuuuuu . . . .
      :

終了メッセージ

```

注※ 処理方式2でデータベースのエリアを再作成した場合、「xodbrcns2」と表示されます。
エリアの再作成の処理方式については、「8.5.1(3) アンロードファイルのサイズについて」を参照してください。

表 4-11 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力項目

図中文字	項目	表示形式
aaa...aaa	システム ID	11 バイト
vv-rr	バージョン番号・リビジョン番号	5 バイト
yy-mm-dd	ユティリティ実行開始年月日	西暦の下 2 けたー月ー日
hh:mm:ss	ユティリティ実行開始時刻	時：分：秒
bbb...bbb	アンロードファイル名	最大 175 バイト
nnnnn	通番	10 進数 (左詰め)
ccc...ccc	タイプ名	最大 95 バイト
ddd...ddd	タイプ内の総オブジェクト数	10 進数 (左詰め)
eee...eee	最大オブジェクト長	単位はバイト。10 進数 (左詰め)
fff...fff	エリア名	最大 30 バイト
ggg...ggg	エリアの用途	最大 20 バイト
hhh...hhh	エリア番号	10 進数 (右詰め)

4 データベースの運用

図中文字	項目	表示形式
iii…iii	エリア中の合計ページ数	10 進数 (右詰め)
jjj…jjj	エリアのセグメントサイズ	10 進数 (右詰め)
kkk…kkk	データベース利用可能ページ数	10 進数 (右詰め)
lll…lll	エリアのページ長	単位はバイト。10 進数 (右詰め)
m	ファイルの通番	10 進数 (右詰め)
ooo…ooo	ファイル名	最大 175 バイト
ppp…ppp	ファイルの現在の割り当て量	10 進数 (右詰め)
qqq…qqq	ファイルの初期割り当て量	10 進数 (右詰め)
rrr…rrr	ファイルのページ数	10 進数 (右詰め)
sss…sss	ファイルの最大割り当て量	10 進数 (右詰め) 最大割り当て量の指定を省略した場合は, 「*****」と表示されます
ttt…ttt	ユニバーサル関連名	最大 95 バイト
uuu…uuu	インデクス名	最大 95 バイト
www.w	アンロードファイルの容量又は総容量	10 進数 (右詰め)
xxx…xxx	タイプ内の OID 数	10 進数 (右詰め)
zzz…zzz	タイプ内の PID 登録数	10 進数 (右詰め)

4.7 データベースの再初期化

この節では、データベースの再初期化の方法を説明します。

4.7.1 エリアの再初期化

エリアの再初期化は、オペレーティングシステム障害、ファイルシステム障害、運用誤りなどが原因で、データベースエリア中のファイルが削除されたり不正になったりしたデータベースエリアを初期化し直します。再初期化の対象となるエリアは、ユーザ用エリア、インデクス用エリアです。

障害のためにファイルが削除されると、オブジェクトサーバを起動できなくなります。また、ファイルが不正になると、オブジェクトサーバを起動できなくなる場合があります。障害になったファイルのバックアップがない場合には、エリアを再初期化して障害を回復します。

！ 注意事項

エリアの再初期化での障害、及びその後の障害に備えるため、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティを実行する前と後にデータベースファイルのバックアップをすべて取得しておいてください。バックアップの取得方法については、「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。

(1) データベースのエリアの再初期化に使用するユティリティ

エリアを再初期化するには、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティを使います。[データベースのエリアの再初期化] ユティリティについては、「8.6.1 データベースのエリアの再初期化」を参照してください。

(2) 手順

エリアを再初期化するときの手順を説明します。

(a) [データベースのエリアの再初期化] ユティリティの実行

[データベースのエリアの再初期化] ユティリティを実行して、オブジェクトサーバのデータベースエリアを再初期化します。再初期化の対象となるエリアは、ユーザ用、インデクス用のエリアです。

ユーザ用エリアで、再初期化するエリアにタイプが定義されている場合、該当するタイプのオブジェクト数は0件になります。再初期化した後に、[データベースの再編成] ユティリティを使用してデータベース全体を再編成し、そして該当するエリアのデータの再登録や整合性の確保を連携プログラムで実行してください。

インデクス用エリアで、再初期化するエリアにインデクスが定義されている場合、該当するインデクスは未作成状態になります。再初期化した後に、[データベースの再編成] ユティリティのインデクス再作成を使用するか、又はデータベース全体の再編成を実行して、再初期化したエリアのインデクスを再作成してください。

なお、このユティリティではファイルの最大割り当て量は指定できません。必要があれば、再初期化した後で、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを使用して最大割り当て量を設定してください。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

図中文字	項目	表示形式
mmmmmmmmmm	エリア中のオブジェクトサーバ用の管理ページを除いた利用できるページ数	10進数（右詰め）
nnnnnnnnnn	エリアのページ長	10進数（右詰め）
o	ファイルの通番	10進数（右詰め）
pppp	ファイル名	最大 175 バイト
qqqqqqqqqq	ファイルの割り当て量	10進数（右詰め）
rrrrrrrrr	ファイルのページ数	10進数（右詰め）
sssssssss	ファイルの最大割り当て量	最大割り当て量指定なしの場合、「*****」を表示します

5

システムファイルの運用

この章では、オブジェクトサーバのデータベースの運用に使用するシステムファイルの説明と、ステータスファイル及びジャーナルファイルの運用について説明します。

5.1 オブジェクトサーバのシステムファイル

この節では、オブジェクトサーバのデータベースの運用に使用するシステムファイルについて説明します。

5.1.1 システムファイル

システムファイルには、システムの回復に必要な履歴情報のように、信頼性が求められるデータを格納します。Object Server と High-end Object Server では、使用するシステムファイルが異なります。

(1) Object Server で使用するシステムファイル

Object Server で使用するシステムファイルには、次の 2 種類のファイルがあります。Object Server では、障害に備えた最低限の履歴を取得します。

- 簡易ジャーナルファイル
最新のデータベース更新情報を 1 回の更新分だけ出力します。この簡易ジャーナルの情報は、データベースの更新が完了すると消去されますので、データベースに障害が起こった場合、1 回の更新分だけしか回復できません。
- ユーザジャーナルファイル

Groupmax Workflow Server の履歴情報が出力されます。

(2) High-end Object Server で使用するシステムファイル

High-end Object Server で使用するシステムファイルには、次の 3 種類のファイルがあります。High-end Object Server では、高い信頼性を実現するために必要な履歴を取得します。

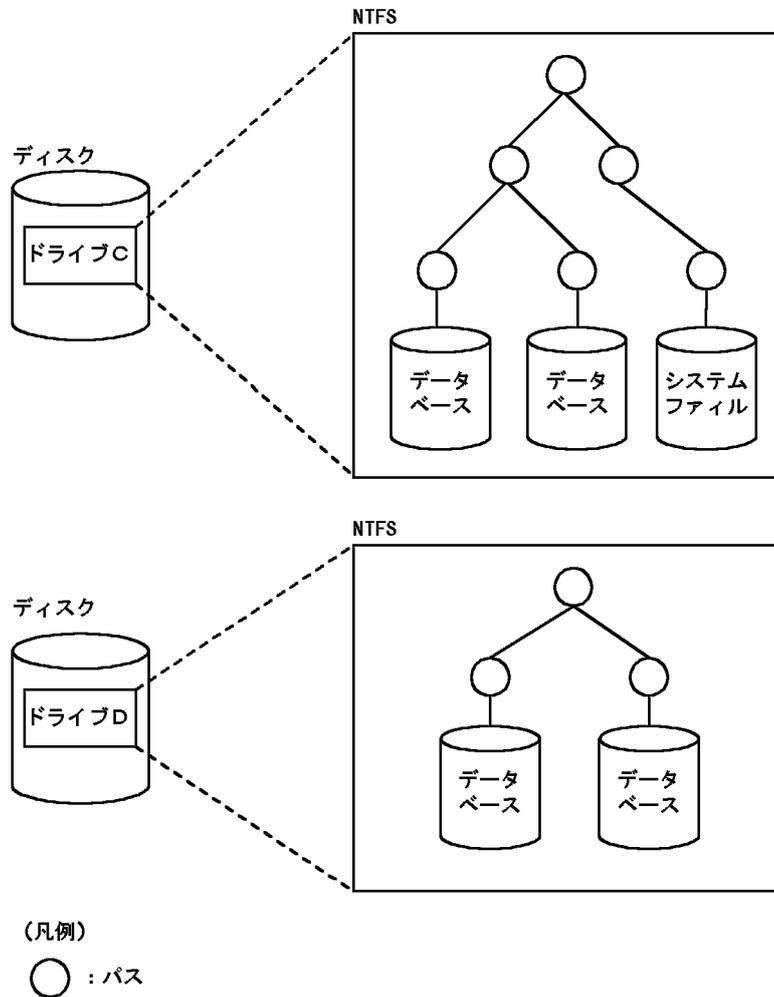
- ステータスファイル
システムの稼働状態や構成状態を格納して、障害が発生した場合の回復に使用します。
- システムジャーナルファイル
処理の履歴情報を格納して、障害が発生した場合の回復に使用します。
- ユーザジャーナルファイル
Groupmax Workflow Server の履歴情報が出力されます。

(3) NTFS、データベースファイルとの関係

オブジェクトサーバのデータベースファイルやシステムファイルは、NTFS 上の複数のドライブに分割して作成することもできます。

システムファイルと NTFS 及びデータベースファイルとの関係を、図 5-1 に示します。

図 5-1 システムファイル、NTFS 及びデータベースファイルの関係



(4) システムファイルの保護

システムファイルには、システムジャーナルファイルやステータスファイルのように重要なファイルを格納します。このため、システムファイルは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけが操作できるように設定します。これによって、他のユーザからのファイルの更新に対してシステムファイルを保護できます。

5.2 ステータスファイルの運用 (High-end Object Server)

この節では、システムの稼働状態や構成状態を格納する、ステータスファイルの運用方法について説明します。

5.2.1 ステータスファイル

(1) ステータスファイルの目的

ステータスファイルはシステムの稼働状態や構成状態を格納して、システムに障害が発生した場合の回復に使用します。ステータスファイルには、前回の終了形態を判断して自動的に再開するためのデータが格納されます。

High-end Object Server を開始するために引き継ぐ情報を、システムステータス情報といいます。システムステータス情報は、サーバの開始時や終了時及びファイルのオープンやクローズなど、状態が変化した時点で格納されます。システムステータス情報は上書きされるため、最新の情報だけが格納されます。

ステータスファイルに格納されるシステムステータス情報は、次のとおりです。

- システムの開始形態を自動的に決定するための情報
 - サーバの構成情報
 - 前回の終了形態
- システムの状態情報
 - システムファイル状態
 - その他の構成情報

(2) ステータスファイルの構成

ステータスファイルは NTFS 上に作成します。作成したファイル名は、ステータスサービス定義ファイルに定義します。

ステータスファイルは、障害が起こったときに High-end Object Server を開始するための重要なファイルです。ステータスファイルに障害が起こった場合でも High-end Object Server を開始できるように、二つのステータスファイルを組みにして二重化にします。二つのステータスファイルを合わせた組みを論理ファイルといいます。また、個々のステータスファイルをそれぞれ **A 系**、**B 系**と区別します。

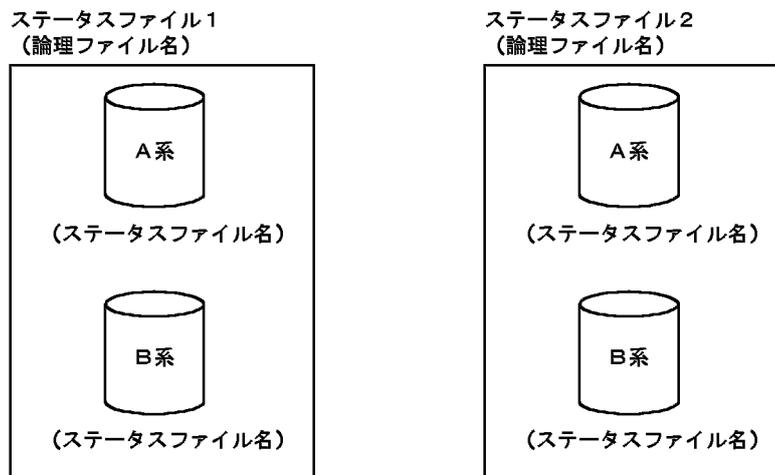
ステータスファイルは、論理ファイル単位で運用します。例えば、論理ファイル名を使用して、A 系及び B 系のステータスファイルを同時にオープンしたりクローズしたりできます。

ステータスファイルは、ステータスサービス定義で定義します。定義する主な内容は次のとおりです。

- 論理ファイル名の指定
- 論理ファイルとステータスファイルの対応付け

ステータスファイルの構成を、図 5-2 に示します。

図 5-2 ステータスファイルの構成



(3) ステータスファイルの状態

ステータスファイルは、次の状態に分けられます。

現用：

現時点でシステムステータス情報の出力対象になっている状態です。このときステータスファイルはオープンしています。

現用の状態のステータスファイルを現用ファイルといいます。

予備：

現用のステータスファイルが入出力障害などで使用できなくなったとき、現用のステータスファイルと切り替えるための状態です。この状態のステータスファイルはオープンしています。

予備の状態のステータスファイルを予備ファイルといいます。

予約：

ステータスサービス定義に定義されていますが、クローズされている状態です。オープンしないと使用できません。

閉塞：

障害が発生して、クローズされている状態です。

High-end Object Server の開始（正常開始）時には、ステータスサービス定義で定義したすべてのステータスファイルがオープンされます。

ステータスサービス定義で最初に指定したステータスファイルが現用になります。残りのステータスファイルのうち、オープンできたものは予備になります。オープンできなかったものは予約になります。ただし障害が発生してオープンできなかったものは、閉塞になります。再開すると、前回の現用ファイルが引き継がれます。

ステータスファイルに障害が発生しないかぎり、システムステータス情報は同じファイルに格納されます。

システムステータス情報は、まず A 系のステータスファイルに書き込まれ、その後、B 系のファイルに書き込まれます。このため、A 系ファイルに書き込み中に High-end Object Server が異常終了しても、B 系ファイルは元の状態を保っています。したがって、全面回復時に B 系ファイルを使用して再開できます。

(4) ステータスファイルの作成と定義

(a) ステータスファイルの作成

ステータスファイルは、NTFS ファイルシステム上に作成します。High-end Object Server のシステム管理者は、High-end Object Server を開始する前に、xodstsinit コマンドでステータスファイルを作成します。その後、作成したステータスファイルの名称と論理ファイルの名称を、ステータスサービス定義で定義します。

(b) ステータスファイルの定義

High-end Object Server は、ステータスファイルを A 系と B 系の組みにして管理します。ステータスファイルは、ステータスサービス定義で A 系、B 系それぞれ 7 個まで指定できます。また、A 系と B 系のステータスファイル名を一組みにするため、論理ファイル名を指定します。

(5) ステータスファイルの操作

(a) ステータスファイルのスイッチ

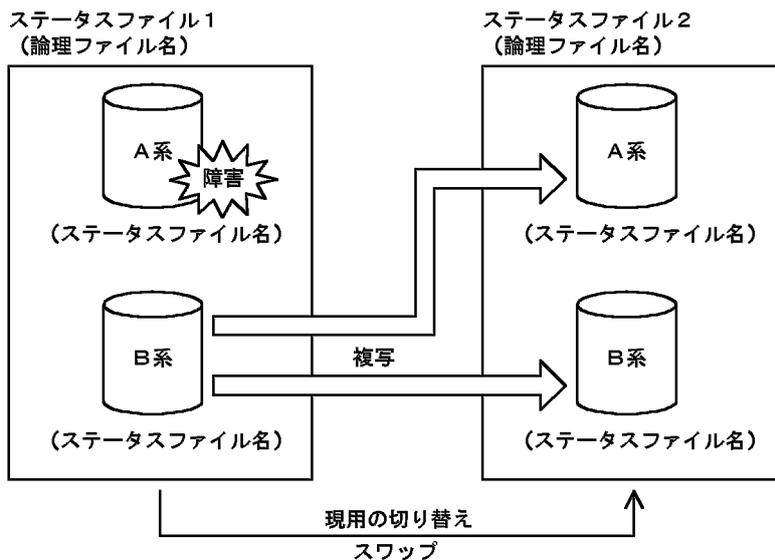
現用ファイル (A 系又は B 系) に入出力障害が起こったとき、High-end Object Server は予備のステータスファイルに切り替えてステータス情報を出力します。このようにシステムステータス情報の出力先を切り替えることをスイッチといいます。ステータスファイルは、xodstsswp コマンドでスイッチすることもできます。

ステータスファイルは論理ファイルの単位でスイッチします。

A 系又は B 系のファイルに障害が発生した場合、まず正常系のファイルから予備の A 系ファイルにシステムステータス情報を複製します。次に予備の B 系ファイルに複製します。複製が終わった時点で、予備と現用を切り替えます。

ステータスファイルのスイッチを、図 5-3 に示します。

図 5-3 ステータスファイルのスイッチ



障害が発生してスイッチしたステータスファイルは、閉塞の状態になります。閉塞したステータスファイルは、次の手順で予備の状態にできます。

1. 閉塞したステータスファイルを xodstsrsm コマンドで削除する
2. xodstsininit コマンドで初期設定する
3. xodstssopn コマンドでオープンする

また、ステータスファイル内のシステムステータス情報は、スワップするとステータスファイルの先頭から再編成されます。High-end Object Server の開始と終了を繰り返すと、ステータスファイルにフラグメンテーションが発生することがあります。このため、High-end Object Server は必要に応じて自動的にステータスファイルのスワップして、フラグメンテーションを解消します。

(b) ステータスファイルの状態表示

ステータスファイルの使用状況は、[ステータスファイルの情報] ユティリティで表示できます。表示内容は、論理ファイル状態、ファイル内のレコード使用率などです。

(c) ステータスファイルのオープンとクローズ

ファイルの実体が現用又は予備の状態のことを、オープンといいます。これに対して、ファイルの実体が予約又は閉塞の状態のことを、クローズといいます。

予約のステータスファイルを xodstssopn コマンドでオープンすると、予備になります。

予備のステータスファイルを xodstsscls コマンドでクローズすると、予約になります。

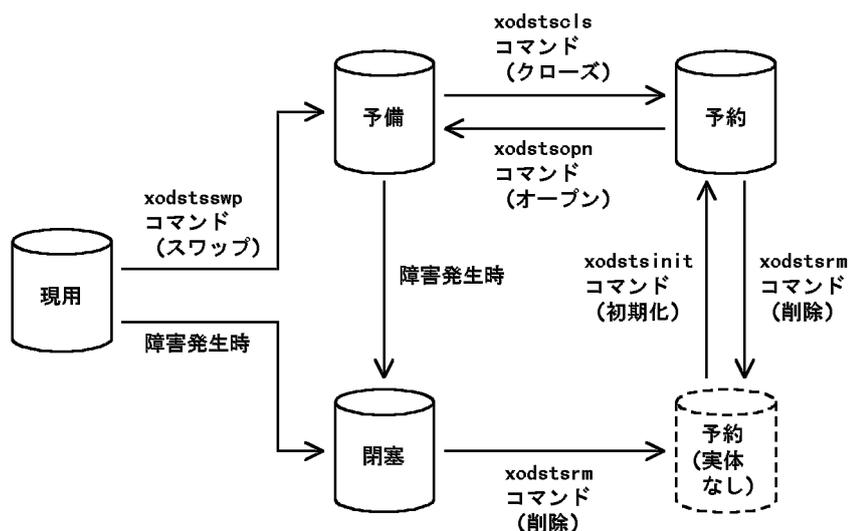
(d) ステータスファイルの削除

予約及び障害が発生して閉塞の状態になったステータスファイルは、xodstsrsm コマンドで削除できます。現用と予備の状態のステータスファイルは削除できません。

(e) ステータスファイルの状態遷移

ステータスファイルの状態遷移を、図 5-4 に示します。

図 5-4 ステータスファイルの状態遷移



(6) ステータスファイルのコマンド

ステータスファイルの運用に使用できるコマンドを、表 5-1 に示します。

表 5-1 ステータスファイルの運用に使用できるコマンド

コマンド名	機能
xodstsinit	ステータスファイルの作成と初期化
xodstsopn	ステータスファイルのオープン
xodstscsls	ステータスファイルのクローズ
xodstsrn	ステータスファイルの削除
xodstsswp	ステータスファイルのスワップ

5.3 ジャーナルファイルの運用

この節では、ジャーナルファイルの運用に関する運用方法について説明します。

オブジェクトサーバが取得するトランザクション処理の履歴情報を、ジャーナルといいます。Object Server の履歴情報は、簡易ジャーナルのファイルに出力されます。一方、High-end Object Server の履歴情報は、システムジャーナルファイルに出力されます。

また、アプリケーションプログラムの履歴情報は、ユーザジャーナルファイルに出力されます。

5.3.1 簡易ジャーナル (Object Server)

(1) 簡易ジャーナルの目的

簡易ジャーナルのファイルには、最新のデータベース更新情報を 1 回の更新分だけ出力します。この簡易ジャーナルの情報は、データベースの更新が完了すると消去されますので、データベースに障害が起こった場合、1 回の更新分だけしか回復できません。必要な時点で、定期的にデータベースのバックアップを取得することをお勧めします。

(2) 簡易ジャーナルの構成

簡易ジャーナルのファイルは、ジャーナルを格納する簡易ジャーナルファイルと、その簡易ジャーナルファイルの情報を格納するジャーナル情報ファイルの二つのファイルで構成されています。両ファイルとも Object Server が作成します。

(3) 簡易ジャーナルファイル

Object Server は簡易ジャーナルファイルとして%XODDIR%¥ spool ¥ jnlfile を使用します。このパス名はシステム共通定義の jnl_output_file パラメータで任意のパス名に変更することもできます。

(4) ジャーナル情報ファイル

簡易ジャーナルファイルは任意のパス名に変更できるため、Object Server では、現在使用している簡易ジャーナルファイルの情報を、ジャーナル情報ファイルで管理します。Object Server は次の開始又は再開始時にこのファイルを参照します。

ジャーナル情報ファイルは、マスタディレクトリファイルが格納されているディレクトリと同じディレクトリ内に、ファイル名 xodjnlinfo として作成されます。パス名は、<マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ> ¥ xodjnlinfo です。

<マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ>とは、システム共通定義の dbm_master パラメータに指定したパス名からファイル名を削除したパス名です。

なお、次の場合は、ジャーナル情報ファイルを Object Server が停止中に削除できます。

- Object Server が正常終了している場合
- Object Server を強制正常開始する場合

5.3.2 システムジャーナル (High-end Object Server)

(1) システムジャーナルファイルの目的

システムジャーナルファイルには、システムに障害が発生した場合の回復に必要な履歴情報が格納されます。履歴情報は、High-end Object Server が停止した場合の全面回復・部分回復に必要です。システムジャーナルファイルに出力される情報は、次のとおりです。

システム回復用ジャーナル情報

ファイルやテーブルの更新履歴情報です。ファイルやテーブルの情報を復元するために使用します。

(2) システムジャーナルファイルの作成

システムジャーナルファイルは、NTFS ファイルシステム上に作成します。High-end Object Server を開始する前にシステムジャーナルファイルを二つ以上作成します。その構成情報を、システムジャーナルサービス定義で定義します。

ハードディスク障害に備えてデータベースとジャーナルを別のディスクに保存してください。また、ジャーナルのディスクは、複数のハードディスクに分割してください。性能の観点からもデータベースとジャーナルを別のディスクに保存することを推奨します。

High-end Object Server のシステム管理者は、High-end Object Server を開始する前に `xodjnlinit` コマンドで物理ファイルを作成します。その後、物理ファイルと論理ファイルの対応付けを、システムジャーナルサービス定義で定義します。

(3) システムジャーナルファイルの構成

システムジャーナルファイルは、**ファイルグループ**という論理的な単位で運用します。ファイルグループを構成するファイルを、**要素ファイル**といいます。これに対して、実際にジャーナルを取得するファイルの実体を、**物理ファイル**といいます。

ファイルグループは、システムジャーナルファイルに 2~30 個まで定義できます。また、一つのファイルグループは、一つの要素ファイルで構成されます。さらに、一つのファイルグループは、一つの物理ファイルで構成されます。

ジャーナルを取得するための実行環境は、システムジャーナルサービス定義に定義します。論理ファイルと物理ファイルの対応付けも、システムジャーナルサービス定義で定義します。

(4) システムジャーナルファイルの状態

システムジャーナルファイルのファイルグループは、次の状態に分けられます。

予約以外のファイルグループは、二つ以上必要です。

High-end Object Server を正常開始すると、システムジャーナルサービス定義で ONL と指定したファイルグループがすべてオープンされます。オープンされたファイルグループのうち、最初に指定したファイルグループが現用になり、その他は待機になります。オープンできなかったファイルグループ及び ONL と指定しなかったファイルグループは予約となります。再開始すると、前回現用だったファイルグループが引き継がれます。

現用：

現時点でジャーナルの出力対象になっている状態です。この状態のシステムジャーナルファイルはオープンしています。また、現用のファイルグループはシステムで一つです。現用の状態のシステムジャーナルファイルを、現用ファイルグループといいます。

待機：

現時点ではジャーナルの出力対象ではありませんが、現用のファイルグループと切り替えられるよう待機している状態です。この状態のステータスファイルはオープンしています。待機の状態のシステムジャーナルファイルを、待機ファイルグループといいます。

予約：

システムジャーナルサービス定義に定義されていますが、クローズされている状態です。オープンしないと使用できません。

(5) システムジャーナルファイルの操作

システムジャーナルファイルの操作について説明します。なお、システムジャーナルファイルのスワップとシステムジャーナルファイルのアンロード、及びシステムジャーナルファイルのステータス変更はバッチファイルなどを作成すると自動化できます。

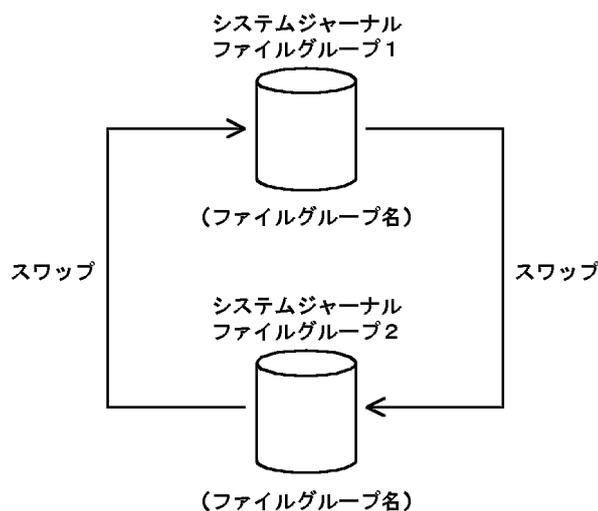
(a) システムジャーナルファイルのスワップ

High-end Object Server は、一つのジャーナルファイルを現用としてジャーナルを出力します。

現用のファイルグループが一杯になると、上書きできる状態又はアンロード済みの待機ファイルグループを現用ファイルグループに切り替えてジャーナルを出力します。これをスワップといいます。定義されたファイルグループがすべて一杯になると、最初のファイルグループに戻ってジャーナルを出力します。

システムジャーナルファイルのスワップを、図 5-5 に示します。

図 5-5 システムジャーナルファイルのスワップ



● 現用のファイルグループが一杯になった場合

現用のファイルグループが一杯になった場合、スワップして待機ファイルグループを現用にします。このとき、以前の現用ファイルは待機になります。

出力しようとした待機ファイルグループがアンロード待ち状態のときは、[システムジャーナルのアンロード] ユティリティでアンロードできます。あるいは、xodjnlchg コマンドでアンロードしないでステータスの状態を変更できます。ただしこの場合は、後からのアンロードはできません。

● 現用のファイルが出力障害になった場合

現用のファイルグループに出力障害が起きた場合は、スワップして待機ファイルグループを現用にします。このとき、以前の現用ファイルは予備になります。

予備になったファイルグループは、次の手順で再使用します。

1. 必要があれば [システムジャーナルのアンロード] ユティリティでアンロードする
2. 障害対策をした後、xodjnlrm コマンドで一度削除する
3. xodjnlinit コマンドでシステムジャーナルファイルを再作成する
4. xodjnlpn コマンドで待機としてファイルグループをオープンする

● コマンドによるスワップ

緊急に現用ファイルグループをアンロードしたり編集したりする場合は、xodjnlswp コマンドでスワップできます。ただしスワップ先のファイルグループがない場合はエラーになります。

(b) システムジャーナルファイルのアンロード

一杯になったシステムジャーナルファイルは、xodjnlunl コマンドで NTFS 上の任意のファイルに複写できます。NTFS 上の任意のファイルにジャーナルを複写することを、アンロードといいます。複写したジャーナルを、アンロードジャーナルファイルと呼び、ユーザファイルの回復に使用します。

アンロードされていない待機ファイルグループは、スワップ先になりません。

一杯になったシステムジャーナルファイルは、[システムジャーナルのアンロード] ユティリティでアンロードできます。ジャーナルをアンロードするまでジャーナルを保存している状態を、アンロード待ち状態といいます。アンロード待ち状態のファイルは、現用にできません。

アンロード待ち状態のファイルグループを [システムジャーナルのアンロード] ユティリティでアンロードした状態を、アンロード済み状態といいます。アンロード待ち状態のファイルグループを xodjnlchg コマンドで破棄した状態もアンロード済み状態になります。

(c) システムジャーナルファイルの上書き

システムの回復に必要なジャーナルを含んでいるため、上書きできないように保護している状態を、上書きできない状態といいます。上書きできない状態のファイルグループは、現用になりません。

上書きできない状態のファイルグループは、High-end Object Server がチェックポイントを取得すると、上書きできる状態になります。

(d) 全面回復時に使用するジャーナルファイル

High-end Object Server の全面回復には、最新のチェックポイントの取得以降に出力されたジャーナルを元に回復します。

チェックポイントとは次の時点をいいます。

- High-end Object Server の開始及び再開処理が完了した時点
- ジャーナルファイルのスワップが発生した時点

- 前回のチェックポイントを取得してから、ジャーナルサービス定義で指定した件数のジャーナル情報を取得した時点
- システムの終了準備処理が完了した時点

(e) 全面回復時の予約状態のオープン

オンライン障害発生後の全面回復時、High-end Object Server はトランザクションを決着するためのジャーナルを出力します。このとき、システムジャーナルファイルにジャーナルを格納しきれなくなると、High-end Object Server は再び異常終了します。

全面回復時にジャーナルファイルが不足したとき、予約状態のファイルをオープンしてジャーナルを格納できます。予約状態のファイルをオープンするかどうかは、システムジャーナルサービス定義で定義します。また、アンロードすればスワップ先としてジャーナルを格納できます。上書きできる状態のシステムジャーナルファイルがある場合には、予約状態のファイルをオープンしません。運用コマンドでジャーナルをアンロードしてください。

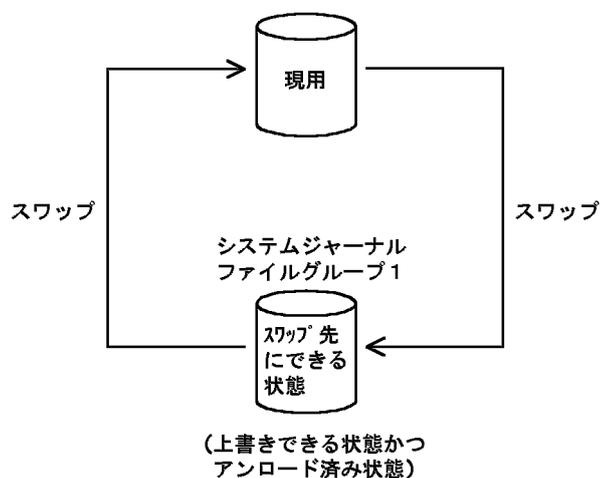
(f) システムジャーナルファイルの再使用

待機状態になったファイルグループを再使用するためには、次の条件を満たす必要があります。これらの条件を満たしている場合は、次回スワップ時に現用として使用できます。

- ファイルグループが上書きできる状態
- ファイルグループがアンロード済み状態
(システムジャーナルサービス定義に `jnl_unload_check=N` を指定している場合はチェックしません)

システムジャーナルファイルの状態遷移を、図 5-6 に示します。

図 5-6 システムジャーナルファイルの状態遷移



(g) スワップ先のファイルグループがない場合

スワップする場合、スワップ先に待機状態のファイルグループがないと異常終了します。したがって High-end Object Server のシステム管理者は、スワップ先にできるファイルグループを必ず用意してください。

スワップ先のファイルグループがなくて異常終了した場合は、次の手順で回復してください。

1. [システムジャーナルのアンロード] ユティリティで、アンロード待ちのファイルグループをアンロードします。

2. 待機ファイルグループを用意して、High-end Object Server を再開始します。
3. High-end Object Server を再開始できない場合は、新たなファイルグループを追加します。新たなファイルグループは、システムジャーナルサービス定義で ONL を指定したファイルグループを指定します。
4. その後再び High-end Object Server を再開始します。

(h) システムジャーナルファイルの情報の表示

システムジャーナルファイル情報は、[システムジャーナルの情報] ユティリティで表示できます。

表示内容はファイルグループ名称、ファイル種別、ファイルグループの状態などです。

(i) システムジャーナルファイルのオープンとクローズ

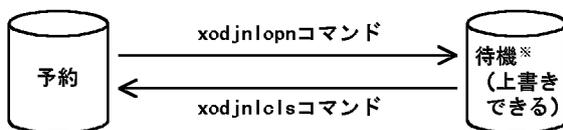
予約のファイルグループを `xodjnl opn` コマンドでオープンすると、待機のファイルグループになります。

また、上書きできる状態のファイルグループを `xodjnl cls` コマンドでクローズすると、予約のファイルグループになります。上書きできない状態のファイルグループは、回復に必要なジャーナルがあるため、クローズできません。

なお、上書きできる状態のファイルグループが一つしかない場合、そのファイルグループはクローズできません。

システムジャーナルファイルのオープンとクローズを、図 5-7 に示します。

図 5-7 システムジャーナルファイルのオープンとクローズ



注※ 再開始の場合は、上書きできない待機のファイルグループになります。

(j) システムジャーナルファイルのステータスの変更

アンロード待ち状態の待機のファイルグループを強制的にアンロード済み状態にするには、`xodjnl chg` コマンドを使用します。強制的にアンロード済み状態にしても、ジャーナルは NTFS 上の任意のファイルにコピーされませんので注意してください。

アンロード済み状態になったファイルグループは、上書きできる状態であれば、次回スワップ時に現用として使用できます。

(k) 全面回復時のシステムジャーナルファイルの状態回復

High-end Object Server を再開始すると、前回の異常終了直前のジャーナルファイルのオープン状態を回復します。また、ファイルグループの状態を回復しようとします。前回の異常終了直前にクローズしていたファイルグループでも、再開始に必要と判断されればオープンして、回復処理に使用します。オープンできないファイルグループがあると、ログにエラーメッセージを出力して再開始を続行します。

(6) システムジャーナルファイルのコマンド

システムジャーナルファイルの運用に使用できるコマンドを、表 5-2 に示します。

表 5-2 システムジャーナルファイルの運用に使用できるコマンド

コマンド名	機能
xodjnlinit	システムジャーナルファイルの初期化
xodjnlopn	システムジャーナルファイルのオープン
xodjnlcls	システムジャーナルファイルのクローズ
xodjnlswp	システムジャーナルファイルのスワップ
xodjnlrm	システムジャーナルファイルの削除
xodjnlchg	システムジャーナルファイルのステータス変更

5.3.3 ユーザジャーナル

ユーザジャーナルのファイルには、アプリケーションプログラムの履歴情報を出力します。ユーザジャーナルには、正常時用ユーザジャーナル出力ファイルと障害時用ユーザジャーナル出力ファイルの二つのファイルを割り当てます。ファイル名はシステム共通定義の `ujfile` で指定します。

正常時用ユーザジャーナル出力ファイルに障害が発生したときには、ユーザジャーナルの出力が障害時用ユーザジャーナル出力ファイルに自動的に切り替えられます。このような場合は、正常時用ユーザジャーナル出力ファイルを別なファイルにアンロードしてください。正常時用ユーザジャーナル出力ファイルが初期化されて、ユーザジャーナル情報を出力できるようになります。また、ユーザジャーナルは追加書きのため、使用しているうちにファイル容量が増加していきますので、定期的にアンロードする必要があります。

障害時用ユーザジャーナル出力ファイルにも障害が起こった場合には、ユーザジャーナルを出力できません。この時に処理を続行するかどうかは、システム共通定義ファイルの `ujerror` の指定値に従います。

6

障害対策

この章では、オブジェクトサーバに障害が起こったときの対処方法について説明します。また、障害時の運用についても説明します。

6.1 異常終了時の回復方法

6.1.1 メッセージへの対処

オブジェクトサーバに各種の障害が起こったときには、「KFXO」で始まるメッセージがイベントログのアプリケーションログに出力されます。このようなときには、まず OS のイベントビューアを使ってログメッセージを調査してください。

イベントログに障害のメッセージが出力されていれば、オンラインヘルプから該当するメッセージを参照して、そこに示された障害の要因を取り除いてください。そしてその後で、「6.1.2 データベース障害のメッセージが出力されていないとき」、又は「6.1.3 データベース障害のメッセージが出力されているとき」に従って対処してください。

ただし、OS に障害が起こった場合には、オブジェクトサーバが異常終了してもメッセージが出力されないことがあります。このようなときは、「6.1.2 データベース障害のメッセージが出力されていないとき」に従って操作してください。

6.1.2 データベース障害のメッセージが出力されていないとき

このような場合は、次の手順で対処してください。最後に実行した処理が取り消されて、データベースが回復されます。

1. オブジェクトサーバを使用するプログラムが動作している場合は、そのプログラムを終了させます。
2. オブジェクトサーバをもう一度起動させます。

6.1.3 データベース障害のメッセージが出力されているとき

データベース障害が発生したときには、データベースをバックアップから回復してください。そのために、システム管理者は、定期的にバックアップを取得する必要があります。バックアップについては、「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。もし、バックアップを取得していない場合にデータベースのファイルが削除されたなどのファイル障害が発生したときには、「データベースのエリアの再初期化」ユーティリティを使用して、データベースを再初期化してください。

ここでは、バックアップからデータベースを回復する手順を示します。

(1) Object Server の場合

1. %XODDIR%¥ spool ¥ jnlfile (又はシステム共通定義ファイルで指定した簡易ジャーナルファイル) が作られていれば、このファイルを削除します。
2. データベースのバックアップからデータベースを回復します。バックアップの取得に「データベースのバックアップ」ユーティリティを使用している場合は、まず「データベースのリストア」ユーティリティでデータベースを回復します。
3. Object Server を強制正常開始させて、バックアップ取得以降の業務をもう一度実行します。

(2) High-end Object Server の場合

1. ジャーナルを取得している場合は、すべてのジャーナルをアンロードします。
2. データベースのバックアップからデータベースを回復します。バックアップの取得に「データベースのバックアップ」ユーティリティを使用している場合は、まず「データベースのリストア」ユーティリティでデータベースを回復します。

3. High-end Object Server を回復ユーティリティ実行モードで起動します。
4. [データベースの回復] ユティリティと [データベースのバックアウト] ユティリティを使用してデータベースを回復します。
5. High-end Object Server を停止し、データベースのバックアップを取得します。

バックアップ時点の状態にデータベースを回復する場合は、手順3～手順5を実行しないで、High-end Object Server を強制正常開始します。

6.2 その他の障害

その他のオブジェクトサーバの障害について説明します。

6.2.1 ユーザジャーナルファイルに障害が起こったとき

ユーザジャーナルファイルに障害が起こったときは、正常用ファイルから異常用ファイルに出力先を切り替えて処理が続けられます。両方のファイルに障害が発生したときは、システム共通定義の `ujerror` の指定値に従って、処理を続行するか、オブジェクトサーバを停止するかを決定します。

ユーザジャーナルファイルは、[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティを実行するとファイルが再作成され、処理が続行されます。

6.2.2 ステータスファイルに障害が起こったとき (High-end Object Server)

オンライン中、ステータスファイルに障害が起こったときの対処方法を説明します。

(1) ステータスファイルの書き込み時に起こったとき

(a) 予備ファイルがある場合

1. High-end Object Server は現用ファイルを予備にスワップします。その後、次の手順で、障害が発生したステータスファイルを初期設定してください。
2. 障害が発生して閉塞したステータスファイルを、`xodstsrn` コマンドで削除します。
3. ステータスファイルを、`xodstsinit` コマンドで作成します。
4. 作成したステータスファイルを `xodstsopn` コマンドでオープンして、予備状態にします。

(b) 予備ファイルがない場合

予備ファイルがない場合、High-end Object Server は異常終了します。したがって、予備ファイルを用意した後、High-end Object Server を再開します。その後、「予備ファイルがある場合」と同じ手順で障害が発生したステータスファイルを初期設定してください。

(2) ステータスファイルの読み込み時に起こったとき

ステータスファイルは二重化された現用ファイルの A 系から読み込まれます。A 系の現用ファイルを読み込み中に障害が起こった場合、A 系の現用ファイルを読み込めるかどうかで対処が異なります。

(a) B 系の現用ファイルが読み込める場合

予備ファイルがある場合、High-end Object Server は読み込みできたファイルの内容を予備ファイルに複製します。

予備ファイルがない場合、High-end Object Server は停止します。予備ファイルを用意した後、High-end Object Server を再開してください。その後、次の手順で新しいステータスファイルを用意してください。

1. 障害が起こって閉塞した物理ファイルを `xodstsrn` コマンドで削除します。
2. 物理ファイルを `xodstsinit` コマンドで初期設定します。
3. 初期設定したファイルを `xodstsopn` コマンドでオープンします。

(b) A系及びB系の現用ファイルが読み込めない場合

この場合、High-end Object Server は停止します。

なお、High-end Object Server の再開はできないため、「6.1.3 データベース障害のメッセージが出力されているとき」に従ってデータベースを回復した後、High-end Object Server を正常開始してください。

6.2.3 その他のファイルに障害が起こったとき

このような場合は、「6.1 異常終了時の回復方法」を参照して、メッセージに従って対処してください。

オブジェクトサーバを使用するプログラムが Object Server ライブラリ中で異常終了したとき、%XODDIR%\spool\save ディレクトリにトレース情報（ファイル名 YYMMDDhhmmss、又は xodtrace）が生成されます。この情報は不要になった時点で削除してください。

6.3 障害時の運用

この節では、障害対策に関する運用について説明します。

6.3.1 障害発生後の起動環境の修復

オブジェクトサーバでは、障害が発生した時に、システム管理者が障害内容の調査に使用する障害情報を出力しています。これらの障害情報はオブジェクトサーバによって自動的に削除されません。したがって、障害情報がハードディスクの容量を圧迫している場合には、ユティリティを使用して不要な障害情報を削除してください。

(1) 障害発生後の起動環境を修復するユティリティ

障害情報の削除には、[障害発生後の起動環境の修復] ユティリティを使用します。[障害発生後の起動環境の修復] ユティリティについては、「8.9.1 障害発生後の起動環境の修復」を参照してください。

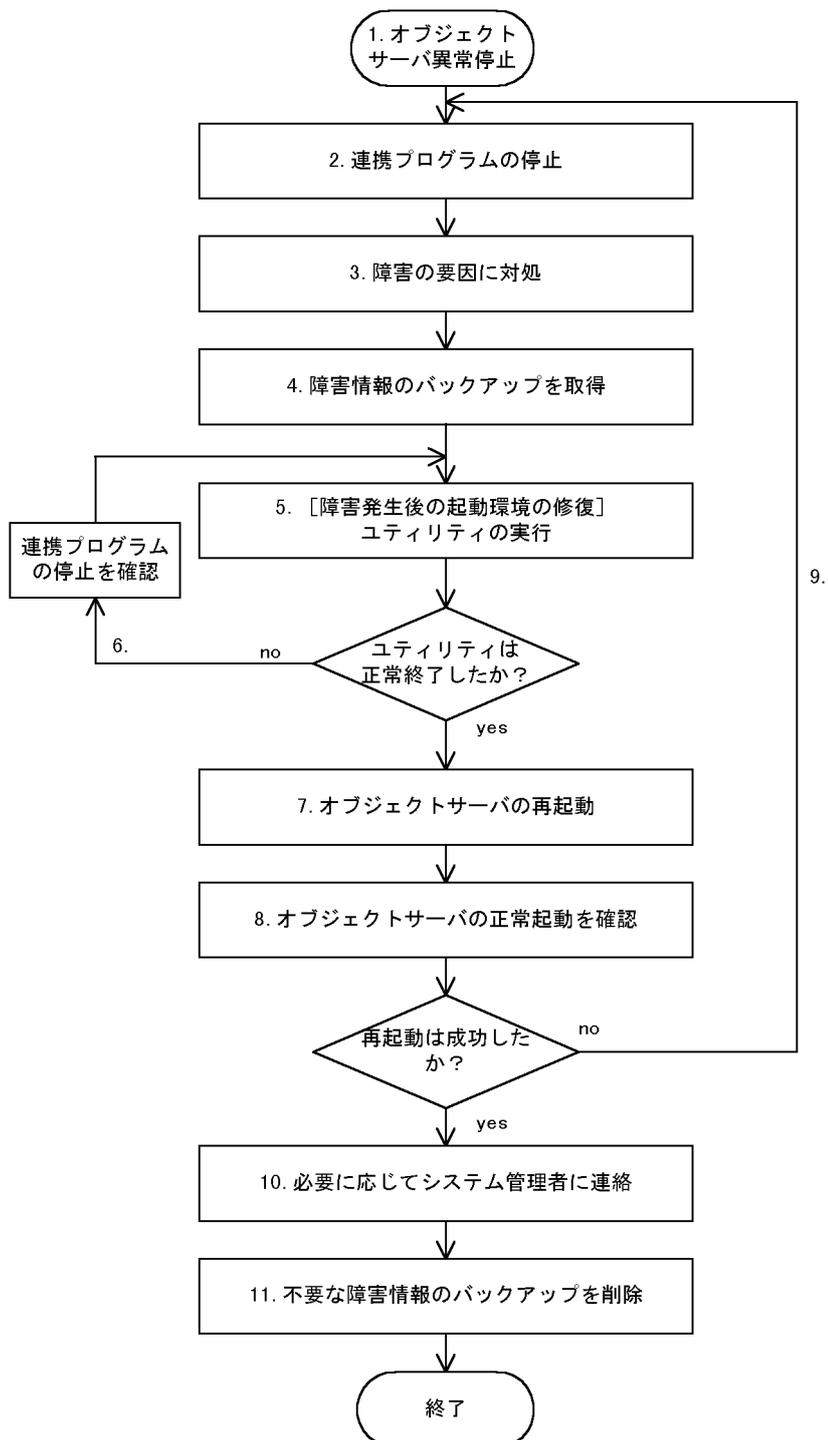
このユティリティはバッチファイル等を使用して自動化できます。

(2) 手順

オブジェクトサーバが異常終了してから、不要な障害情報を削除してオブジェクトサーバを再起動するまでの手順を説明します。なお、[障害発生後の起動環境の修復] ユティリティはオブジェクトサーバを停止させてから実行してください。

図 6-1 にオブジェクトサーバの異常終了時の処置の流れを示します。手順に従って不要な障害情報を削除してください。

図 6-1 オブジェクトサーバの異常終了時の処置の流れ



説明：

1. オブジェクトサーバの異常停止を、サービス及びイベントログから確認します。
2. オブジェクトサーバと連携しているプログラムをすべて終了します。

3. イベントログに出力されている障害メッセージを参照して、障害の要因に対処します。障害の要因は複数出力されている場合がありますので、すべての障害メッセージを参照して要因を調査してください。データベースの障害の場合は、「4.5 データベースの回復」を参照して障害を回復してください。
4. システム管理者に連絡するときに必要な障害情報のバックアップを取得します。%XODDIR%¥ spool 及び%XODDIR%¥ tmp を MO, DAT 又は別ドライブにコピーしてください。また、Object Server で、システム共通定義ファイルに指定する簡易ジャーナルファイルの出力先を変更している場合は、その出力先の簡易ジャーナルファイルもコピーしてください。
5. [障害発生後の起動環境の修復] ユティリティを実行します。このユティリティは障害情報を削除して、%XODDIR%¥ spool 及び%XODDIR%¥ tmp を初期状態にします。
6. [障害発生後の起動環境の修復] ユティリティの実行が失敗した場合は、%XODDIR%¥ spool ¥ xodclear.log に出力されているメッセージ及びメッセージボックスに出力されたメッセージから、失敗の要因を確認してください。
 - KFXO21007-W が出力された場合は、オブジェクトサーバの資源を使用したままのプロセスが存在しています。2.で停止しなかったプログラム及びプロセスがないことを確認してください。連携しているプログラム及びプロセスがすべて停止しているのに失敗する場合は、OS を再起動してください。運用上、OS の再起動が難しい場合は、そのままオブジェクトサーバを再起動してください。ただし、削除できなかった資源の分、ハードディスクが多く使用されます。
 - KFXO01897-E が出力された場合は、%XODDIR%¥ spool が存在しないことが原因です。%XODDIR%¥ spool ディレクトリを作成して、4.で取得したバックアップから%XODDIR%¥ spool ¥ jnlfile (又はシステム共通定義ファイルで指定した簡易ジャーナルファイル) を復元してください。
7. オブジェクトサーバを再起動します。
8. オブジェクトサーバが正常起動したことを示すメッセージ KFXO01809-I がイベントログに出力されているかどうか確認します。
9. 再起動が失敗した場合は、次の要因が考えられます。イベントログに出力されたメッセージを参照して対処してください。
 - 障害の要因が対処できていない
 - オブジェクトサーバのジャーナルなどの資源が再起動によって不足した
 - ディスクの空き容量などの環境の資源が再起動によって不足した
 対処後、再び2.から実行してください。繰り返しオブジェクトサーバの起動が失敗する場合は、システム管理者に連絡してください。
10. システム管理者に連絡する場合、4.で取得した障害情報のバックアップが必要です。異常終了に対する対処、及びシステム管理者による調査が完了したら、障害情報は必要ありません。4.で取得した障害情報のバックアップを削除してください。

6.3.2 障害回復に必要なファイル

オブジェクトサーバでは、障害発生後の再開始時に、表 6-1 に示すファイルを使用して、システム及びデータベースファイルを回復します。これらのファイルは、障害回復に必要な前回の稼働情報が書き込まれているため、バックアップから回復したり新規に作成したりすると、オブジェクトサーバを再開始できないことがあるので注意してください。

表 6-1 回復に使用するファイル

ファイル種別		ファイル名	ファイルの用途
Object Server	簡易ジャーナルファイル	%XODDIR%¥ spool ¥ jnlfile 又はシステム共通定義ファイルで指定した簡易ジャーナルファイル	データベースを回復する
High-end Object Server	システムジャーナルファイル	システムジャーナルサービス定義ファイルで設定したファイル	データベースを回復する
	ステータスファイル	ステータスサービス定義ファイルで設定したファイル	再開処理を決定する

7

オブジェクトサーバのファイル

オブジェクトサーバは、動作するときにいろいろなファイルを使用します。これらのファイルのうち、ユーザは、幾つかのファイルを作成する必要があります。

この章では、まず、オブジェクトサーバの使用するファイルを一覧で示します。そして、ユーザが作成するファイルの記述形式及び項目について説明します。

7.1 オブジェクトサーバのファイル一覧

オブジェクトサーバのファイルについて説明します。

7.1.1 システム制御ファイル

表 7-1 にシステム制御ファイルの一覧を示します。

ファイルの詳細は、表中の参照に示した節又は項を参照してください。

表 7-1 オブジェクトサーバのシステム制御ファイル一覧

ファイル種別		ディレクトリ又はファイル名	作成時期	作成者	Obj ect Serv er	Hig h- en d	参照 先
プログラムライブラリ	OMS サーバ	%XODDIR% ¥ lib ¥ servers	組み込み時	任意部 分：ユー ザ ファイ ル：シス テム	○	○	2.3.1
	コマン ド	%XODDIR% ¥ bin	組み込み時		○	○	2.3.1
定義ファイル	初期設 定パラ メタ	ユーザ任意	初期化ユ ティリティ 実行前	ユーザ	○	○	7.5
	構成変 更パラ メタ	ユーザ任意	構成変更ユ ティリティ 実行前		○	○	7.6
	再編成 パラメ タ	ユーザ任意	再編成ユ ティリティ 実行前		○	○	7.7
	再構成 パラメ タ	ユーザ任意	データベ ースのエリ アの再作成 ユティリ ティ実行前		○	○	7.8
	バック アップ パラメ タ	ユーザ任意	バックア ップ、回復 ユティリ ティ実行前		○	○	7.9
	システ ム共通 定義	%XODDIR% ¥ conf ¥ xodrc	サービス起 動前		○	○	7.2
	ステー タス サービ ス定義	%XODDIR% ¥ conf ¥ sts	ステータ スサービ ス実行前		×	○	7.3

ファイル種別		ディレクトリ又はファイル名	作成時期	作成者	Object Server	Hidden	参照先
定義ファイル	システム ジャーナル サービス 定義	%XODDIR% ¥ conf ¥ sysjnl	ジャーナル サービス実 行前	ユーザ	×	○	7.4
ステータスファイル		ユーザ任意	環境設定時		×	○	2.3.4
システムジャーナルファイル		ユーザ任意			×	○	2.3.4
ユティリティ等結果ファイル		%XODDIR% ¥ xodresult	ユティリ ティ実行時	システ ム	○	○	4.
ダンプ退避ファイル		%XODDIR% ¥ spool ¥ save ¥_サーバ名 N	起動時	システ ム	○	○	—
エラー情報ファイル		%XODDIR% ¥ spool ¥ pdmp プロセ ス ID	エラー検知 時		○	○	—
トレースファイル		%XODDIR% ¥ spool ¥ save ¥ YYMMDDhh mmss %XODDIR% ¥ spool ¥ save ¥ xodtrace	連携プログ ラムの異常 終了時		○	○	—
システム情報ファイル		%XODDIR% ¥ spool ¥	適宜		○	○	—
カレントワーキングディレクトリ		%XODDIR% ¥ tmp ¥ home ¥	ダンプ出力 時		○	○	—
簡易ジャーナルファイル		%XODDIR% ¥ spool ¥ jnlfile (デフォ ルト)	起動時/ DB 更新時		○	×	5.3.1
		%XODDIR% ¥ spool ¥ jnlfile2	起動時		○	×	—
ジャーナル情報ファイル		マスタディレク トリファイルの 格納ディレクト リ ¥ xodjnlinfo	起動時		○	×	5.3.1

ファイル種別	ディレクトリ又はファイル名	作成時期	作成者	Obj ect Serv er	Hig h- end	参照 先
ジャーナル情報ファイル	%XODDIR% ¥ spool ¥ xodjnlinfo2	エラー検知時	システム	○	×	—
	%XODDIR% ¥ spool ¥ PART_PUT_ FILE	DB更新時		○	×	—
サンプルファイル	システムファイル作成用バッチファイル	定義ファイル作成時	システム (システムファイル作成用バッチファイル以外は、[スタート]メニューの [Group max サーバ] 内でも提供)	×	○	—
	ステータスサービス定義ファイルサンプル			×	○	7.3
	システムジャーナルサービス定義ファイルサンプル			×	○	7.4
	システム共通定義ファイルサンプル			○	○	7.2

(凡例)

- ：このプログラムで使用するファイル
- ×
- ：該当する章、節又は項はない

表 7-1 の説明

- %XODDIR%は、インストール時に作成したオブジェクトサーバのシステムディレクトリを環境変数として設定したものです。

- ダンプ退避ファイルについて：カレントワーキングディレクトリの下にダンプがある場合、このディレクトリに退避されます。N は退避ファイルの通番(1~3)です。
- トレースファイルについて：xodtrace は時刻の取得ができないときに作成されます。
- システム情報ファイルについて：システム実行時に生成される各種ファイルが格納されます。
- カレントワーキングディレクトリについて：ダンプ出力時に%XODDIR%¥ tmp ¥ home ¥_サーバ名の下にダンプが出力されます。
- 簡易ジャーナルファイルについて：Object Server を御使用の場合に作成されるファイルです。High-end Object Server を御使用の場合には、システムジャーナルを使用するので、作成されません。
ファイル名はデフォルトでは%XODDIR%¥ spool ¥ jnlfile ですが、システム共通定義ファイルで変更できます。また、Object Server の起動時には、%XODDIR%¥ spool ¥ jnlfile2 として退避されます。
- ジャーナル情報ファイルについて：Object Server を御使用の場合に作成されるファイルです。High-end Object Server を御使用の場合には、システムジャーナルを使用するので、作成されません。
ディレクトリ名の「マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ」名は、システム共通定義の dbm_master パラメタで指定したパス名から取得します。
また、エラー検知時には、%XODDIR%¥ spool ¥ xodjnlinfo2 として退避されます。

7.1.2 データベースファイル

(1) データベースファイル一覧

表 7-2 にデータベースファイルの一覧を示します。

これらのファイルの定義内容は、初期設定パラメタファイル又は構成変更パラメタファイルに記述します。そして、[データベースの初期化] ユティリティ又は [データベースへのエリアの追加]、[データベースへのファイルの追加] ユティリティを実行すると、ファイルが初期化又は追加されます。

これらのファイルは、すべて NTFS 形式です。ファイルの詳細については、「7.5 初期設定パラメタファイル」を参照してください。

表 7-2 オブジェクトサーバのデータベースファイル一覧

ファイル種別	ディレクトリ又はファイル名	作成時期	作成者	参照先
マスタディレクトリ	・ ユーザ任意 ・ ドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名)	ユティリティ 実行時	・ ファイル名はユーザが決定 ・ ファイルはシステムが作成	7.5
データディレクトリ	・ ユーザ任意 ・ ドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名)	ユティリティ 実行時	・ ファイル名はユーザが決定 ・ ファイルはシステムが作成	7.5, 7.6
ディクショナリ	・ ユーザ任意 ・ ドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名)	ユティリティ 実行時	・ ファイル名はユーザが決定 ・ ファイルはシステムが作成	7.5, 7.6
OID インデクス	・ ユーザ任意 ・ ドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名)	ユティリティ 実行時	・ ファイル名はユーザが決定 ・ ファイルはシステムが作成	7.5, 7.6

ファイル種別	ディレクトリ又はファイル名	作成時期	作成者	参照先
ユーザデータベース	・ユーザ任意 ・ドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名)	ユティリティ 実行時	・ファイル名はユーザが決定 ・ファイルはシステムが作成	7.5, 7.6
インデクス	・ユーザ任意 ・ドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名)	ユティリティ 実行時	・ファイル名はユーザが決定 ・ファイルはシステムが作成	7.5, 7.6

(2) ファイルグループ

データベースファイルは、その働きによって、次に示す二つのファイルグループに分けられます。

オブジェクトサーバ管理ファイル

オブジェクトサーバのデータベースを管理するための情報を保存するファイルです。次の4種類のファイルがこれに相当します。

- ・ マスタディレクトリ
- ・ データディレクトリ
- ・ ディクショナリ
- ・ OID インデクス

連携プログラム用データ格納ファイル

オブジェクトサーバと連携するプログラム用のデータベースファイルです。各プログラムごとに名称及び指定数が決まっています。次の2種類のファイルがこれに相当します。

- ・ ユーザデータベース
- ・ インデクス

7.2 システム共通定義ファイル

システム共通定義ファイルには、システムに共通するオブジェクトサーバの環境情報を記述します。

この節では、システム共通定義の定義項目について説明します。

7.2.1 システム共通定義の形式

システム共通定義の形式を示します。括弧内は、省略値（ユーザが値を定義しなかった場合に設定される値）です。gcache パラメタ以外の省略値は、標準的な機器構成での定義値を表します。

システム共通定義ファイルは、必ずオブジェクトサーバを停止してから編集してください。オブジェクトサーバの起動中に変更してしまった場合は、一度元に戻して、オブジェクトサーバを停止してから、変更してください。

システム共通定義の形式

```
[set system_id = OMS識別子(スペース)]
[set lck_limit = 最大同時排他要求数(6000)]
[set prc_process_count = 最大プロセス数(230)]
[set trn_tran_process_count = 並行して実行するトランザクション数(32)]
[set static_shmpool_size =
  システム開始から終了までに占有する共用メモリの総量(5120)]
[set dynamic_shmpool_size =
  システムが一時的に使用する共用メモリの最大量(10000)]
set dbm_master = マスタディレクトリのファイル名
[set add_area_limit = 最大追加エリア数(32)]※1
[set ujerror = CONTINUE | STOP]
[ujfile      -n 正常時uj出力ファイル名
             -e 障害時uj出力ファイル名]
[set jnl_output_file = 簡易ジャーナルの出力先ファイル名(オブジェクトサーバシステムディレ
クトリ¥spool¥jnlfile)]※2
[gcache      -n グローバルキャッシュ名
             [-m グローバルキャッシュ面数(80)]※3
             [-u グローバルキャッシュ用途]※4...
[resipool    -n 常駐ページプール名
             -m 常駐ページプール面数
             [-u 常駐ページプール用途]※5...
[resiobj     -s スキーマ名
             -t タイプ名, ...]※5...
```

注※1 add_area_limit は High-end Object Server を使用する
場合だけに指定します。

注※2 jnl_output_file は Object Server を使用する場合だけに指定します。

注※3 gcache パラメタの-u オペランドに OIDINDEX が指定された場合、グローバルキャッシュ面
数の省略値は 100 になります。

注※4 gcache パラメタがすべて省略された場合は、次の省略値が仮定されます。

```
gcache -n xod_gcache_area      -m 200 -u AREA
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

注※5 resipool パラメタ及び resiobj パラメタの具体的な指定値は、オブジェクトサーバと連携するプ
ログラムでの算出方法に従ってください。

規則

- システム共通定義ファイルは、次に示すように指定します。
- 1行 80 バイト以内で指定します。80 バイトを超える場合は、複数行で指定します。
- 一つの項目を複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を記述してください。
- 定義中に「¥」を文字として指定する場合には、文字列全体を「"」で囲んでください。

- 定義中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲んでください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりすることがあります。
- コメント行の先頭には「#」を指定してください。

7.2.2 システム共通定義の項目

それぞれの項目について説明します。

(1) system_id パラメタ

説明：ここに指定した値が OMS 識別子となります。

OMS 識別子を変更した場合は、ステータスファイルとジャーナルファイルを再度初期設定して、オブジェクトサーバを再起動してください。

規則：

最大 2 文字の <識別子> を半角で指定します。

(2) lck_limit パラメタ

説明：

同時に要求できる、データベースの排他数の最大数を定義します。ここに指定した値に 30（システムで使用する排他数）を加えた値が、複数ユーザからのデータベース更新、及び参照を保証するための制御情報の数（排他制御テーブルのプール数）となります。この値は、同時に参照、又は更新できるデータベースの量によって決まります。

lck_limit の定義値は、次の計算式を参考にして決定してください。

$$\text{lck_limit} = \sum_{x=1}^t \text{bx}$$

t：同時にログインするユーザ数

b：一つのトランザクションで必要とする排他資源数。

オブジェクトサーバを使用するプログラムの見積もり値をすべて加えた値を指定します。

各プログラムの見積もり値については、それぞれのマニュアルを参照してください。

規則：256～32767 の <符号なし整数> を指定します。

(3) prc_process_count パラメタ

説明：

オブジェクトサーバと同時に接続するプロセスの最大数を定義します。定義値には、同時に接続するクライアントの数を指定してください。

規則：1～230 の <符号なし整数> を指定します。

(4) trn_tran_process_count パラメタ

説明：

オブジェクトサーバの下で同時に実行できるトランザクションの最大数を定義します。定義値には、同時にログインするユーザの数を指定してください。

規則：1～255 の<符号なし整数>を指定します。

(5) static_shmpool_size パラメタ

説明：

オブジェクトサーバシステムが、開始から終了までの間に占有する共用メモリを、静的共用メモリといいます。この静的共用メモリの総量をキロバイト単位で指定します。定義値は、次の計算式を使って算出してください。

$$\begin{aligned} &\text{static_shmpool_size (キロバイト)} \\ &= \uparrow \{ 1,952,640 + (\text{lock_limit値} + 30) \times 144 \\ &\quad + 7,904 \times \text{trn_tran_process_count値} \\ &\quad + 37,520 + (3,808 + 4) \times (\text{初期設定パラメタで指定した} \\ &\quad \quad \quad \text{ユーザ用・インデクス用エリ} \\ &\quad \quad \quad \text{アの数} \\ &\quad \quad \quad + \text{構成変更ユーティリティで追加し} \\ &\quad \quad \quad \text{たユーザ用・インデクスエリアの数} \\ &\quad \quad \quad + 58 \times) \\ &\quad + 20,492 + 224 \times (\text{gcacheパラメタ数} + \text{resipoolパラメタ数}) \\ &\quad + 8,416 \times (\text{gcacheパラメタの-mオペランドの合計} \\ &\quad \quad \quad + \text{resipoolパラメタの-mオペランドの合計}) \\ &\quad + 320 \} \div 1,024 \uparrow \end{aligned}$$

注※ Object Serverを使用する場合は、58です。
High-end Object Serverを使用する場合は、
add_area_limit値 + 26として算出してください。

注意：

- [データベースへのエリアの追加] ユティリティでエリアを追加した後でオブジェクトサーバを再起動すると、追加したエリア数分だけ静的共用メモリの総量が増加しますので、指定値を増やす必要があります。static_shmpool_size は、余裕を持って計算してください。
- static_shmpool_size 及び dynamic_shmpool_size で指定した共用メモリ量が大きいと仮想メモリに指定サイズの連続領域を確保できないことがあります。この場合エラーメッセージ (KFXO00100-E) が出力されますので、static_shmpool_size 又は dynamic_shmpool_size の指定値を小さくしてください。

規則：5120～750000 の<符号なし整数>を指定します。

(6) dynamic_shmpool_size パラメタ

説明：

オブジェクトサーバシステムが、ワークエリアとして一時的に使用する共用メモリを、動的共用メモリといいます。この共用メモリの最大量をキロバイト単位で定義します。定義値には、オブジェクトサーバと連携するプログラムごとに次の計算式を使って算出した値の、合計を指定してください。この共用メモリは、実際にオブジェクトサーバにアクセスしているユーザが使用します。計算式中の「同時にアクセスするユーザ数」には、ログインをして、ほかの業務をしているようなユーザは含まれません。

$$\begin{array}{cc} \text{一つのプログラムで使用する} & \times & \text{同時にオブジェクトサーバにアクセス} \\ \text{共用メモリ量} & & \text{するユーザ数} \end{array}$$

- オブジェクトサーバと連携するプログラムで使用する共用メモリ量は、それぞれの仕様に従ってください。
- フラグメンテーションを考慮して、10%程度の余裕を見込んで見積もってください。

注意：

static_shmpool_size 及び dynamic_shmpool_size で指定した共用メモリ量が大きいと仮想メモリに指定サイズの連続領域を確保できないことがあります。この場合エラーメッセージ (KFXO00100-E) が出力されますので、static_shmpool_size 又は dynamic_shmpool_size の指定値を小さくしてください。

規則：0~750000 の<符号なし数字>を指定します。

(7) dbm_master パラメタ

説明：

初期設定パラメタで指定したマスタディレクトリのファイル名を指定します。

規則：

ファイル名を、2~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

(例)

正：C:\groupbase \database \master_dir

誤：\groupbase \database \master_dir

(8) add_area_limit パラメタ(High-end Object Server)

説明：

次の値のうち、どちらか大きい値を定義します。

- 一度 High-end Object Server を起動してから終了するまでの間での、[データベースへのエリアの追加] ユティリティで追加するユーザ用、インデクス用エリアの数の上限値
- データベースのバックアップの取得後、次のデータベースのバックアップを取得するまでの間での、[データベースへのエリアの追加] ユティリティで追加するユーザ用、インデクス用エリアの数の上限値

定義値を超えて追加したエリアは、High-end Object Server を再起動するまで使用できません。

注意：

- 一度 High-end Object Server を起動してから終了するまでの間にエリアを削除した場合は、定義した値に削除したエリアの数を加えた値が上限になります。削除したエリアの領域は、エリアを追加したときに再利用されます。
- データベースのバックアップの取得後追加したエリアがこの数を超えていた場合、そのエリアの更新ジャーナルを含むアンロードジャーナルを使用して [データベースの回復]、[データベースのバックアウト] ユティリティを実行するとエラーになります。この場合、[データベースのリストア] ユティリティの再実行の後、この値を大きくして、オブジェクトサーバを再起動し、[データベースの回復]、[データベースのバックアウト] ユティリティを再実行してください。

規則：32~3173 の<符号なし整数>を指定します。

(9) ujerror パラメタ

説明：

ユーザジャーナルの出力に失敗した際、処理を続行するか中止するかを指定します。

CONTINUE：処理を続行する。

STOP：処理を中止する。

規則：CONTINUE 又は STOP の<識別子>を一つだけ指定します。

省略時は CONTINUE が仮定されます。

(10) ujfile パラメタ

UAP 履歴情報の出力ファイルとして、正常時用ユーザジャーナル出力ファイルと障害時用ユーザジャーナル出力ファイルの二つのファイル名を指定します。この指定は、Groupmax Workflow Server の環境設定ユーティリティで、ワークフローログレベル 0 以外を指定したときに必要です。

(a) -n オペランド

説明：UAP 履歴情報を出力するファイル名を指定します。

規則：

ファイル名は 1~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

(b) -e オペランド

説明：

正常時用ユーザジャーナル出力ファイルへの出力に失敗した場合に切り替えて使用する、UAP 履歴情報出力ファイル名を指定します。

規則：

ファイル名は 1~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

(11) jnl_output_file パラメタ (Object Server)

説明：

簡易ジャーナルの出力先のファイル名を定義します。ファイルのパス名は、システム管理者の権限で作成できるパス名で指定してください。この項目を追加又は変更する場合は、出力先にファイルが存在しないようにしてください。

注意：

オブジェクトサーバの異常終了時には、この項目を追加又は変更しないでください。データベースの回復に必要な前回のジャーナルが読めなくなる場合があります。オブジェクトサーバがこれを検知した場合、メッセージを出力して異常終了します。オブジェクトサーバが正常終了していることを確認してから、追加又は変更してください。追加又は変更後は、オブジェクトサーバがエラーメッセージを出力せずに正常に開始することを確認してください。

規則：

ファイル名を、1~175 バイトのドライブから始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

なお、パス名中のディレクトリはあらかじめ作成しておいてください。

(例)

正：C:¥groupbase¥spool¥jnlfile

誤：¥groupbase¥spool¥jnlfile

(12) gcache パラメタ

gcache パラメタでは、グローバルキャッシュを定義します。グローバルキャッシュとはオブジェクトサーバのデータベースページの入出力用バッファキャッシュです。グローバルキャッシュは共用メモリ上に確保されます。

gcache パラメタは、グローバルキャッシュの用途ごとに 1 個ずつ、4 個まで指定できます。

なお、gcache がすべて省略された場合は、次の省略値が仮定されます。

```
gcache -n xod_gcache_area -m 200 -u AREA
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

(a) -n オペランド

説明：

グローバルキャッシュの名称を指定します。グローバルキャッシュ名は、オブジェクトサーバの中で重複しないように指定してください。

規則：

-n の後ろに 1~30 バイトの<文字列>を指定します。半角文字と全角文字の両方を指定できます（混在も可能）。

(b) -m オペランド

説明：

グローバルキャッシュの面数を指定します。グローバルキャッシュの一面の大きさは、8 キロバイトです。また、グローバルキャッシュの一面に、一つのページを入力できます。

規則：

20~80000 の<符号なし整数>を指定します。-m オペランドを省略すると、-u オペランドの識別子の指定によって、次の値が仮定されます。

-u オペランドに OIDINDEX が指定された場合：100

-u オペランドに OIDINDEX 以外の識別子が指定された場合：80

(c) -u オペランド

説明：グローバルキャッシュの用途を、次の識別子のどれかを使って指定します。

AREA：

グローバルキャッシュを、データベースの各エリアの入出力用に使用します。AREA を指定した gcache パラメタを省略すると、次の省略値が仮定されます。

```
gcache -n xod_gcache_area -m 200 -u AREA
```

INDEX：

グローバルキャッシュをインデクス用のエリアの入出力用に使用します。INDEX を使用した gcache パラメタを省略すると、-u AREA のグローバルキャッシュが、インデクス用のエリアの入出力に使用されます。

OIDINDEX：

グローバルキャッシュを OID インデクス用のエリアの入出力に使用します。OIDINDEX を指定した gcache パラメタを省略すると、次の省略値が仮定されます。

```
gcache -n xod_gcache_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

DICTIONARY：

グローバルキャッシュを、ディクショナリ用のエリアの入出力に使用します。DICTIONARY を指定した gcache パラメタを省略すると、-u AREA のグローバルキャッシュが、ディクショナリ用のエリアの入出力に使用されます。

規則：

-u の後ろに AREA, INDEX, OIDINDEX 又は DICTIONARY の<識別子>を一つだけ指定します。

(13) resipool パラメタ

resipool パラメタでは、常駐ページプールを定義します。常駐ページプールとは、オブジェクトサーバのデータベースページを共用メモリに常駐するために用意するページプールです。

オブジェクトサーバのデータベースを共用メモリに常駐すると、データベースの入出力回数が削減されるので、性能が向上します。

resipool パラメタは、常駐プールの用途ごとに 1 個ずつ、3 個まで指定できます。

また、-u オペランドに USER 又は CSTYPE を指定した resipool パラメタを指定するときは、必ず resiobj パラメタを共に指定してください。どちらか一方だけを指定しても、ページは常駐されません。

(a) -n オペランド

説明：

常駐ページプール名称を指定します。この名称は、オブジェクトサーバの中で重複しないように指定してください。

規則：

1~30 バイトの<文字列>を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。

(b) -m オペランド

説明：

常駐ページプールの面数を指定します。常駐ページプールの 1 面の大きさは、8 キロバイトです。常駐ページプールの 1 面には、1 ページを常駐します。常駐ページをすべて使用したときには、メッセージが表示されます。常駐ページプールの面数を増やす場合には、一度オブジェクトサーバを終了させてから指定し直してください。

規則：1~80000 の<符号なし整数>を指定します。

(c) -u オペランド

説明：常駐ページプールの用途を次の識別子のどれかを使って指定します。

USER：

常駐ページプールをユーザデータベース用エリアのページの常駐に使用します。

CSTYPE：

常駐ページプールをクラスタードストリングタイプオブジェクトのページの常駐に使用します。

DICTIONARY：

常駐ページプールをディクショナリ用エリアのページの常駐に使用します。

規則：USER, CSTYPE, DICTIONARY の中から<識別子>を一つだけ指定します。

(14) resiobj パラメタ

共用メモリに常駐するオブジェクトのタイプを指定します。指定したタイプのオブジェクトが参照又は更新されたときに、そのオブジェクトを含むデータベースページが共用メモリに常駐されます。オブジェクトサーバのデータベースを共用メモリに常駐すると、データベースの入出力回数が削減されるので、性能が向上します。

resiobj パラメタで常駐指定できるタイプ数は、すべてのスキーマのタイプの合計が 32 までです。32 を超えて指定した場合、33 番目以降の指定は無視されます。resiobj パラメタの-t オペランドにタイプを指定す

るときは、必ず-u オペランドに USER を指定した resipool パラメタを共に指定してください。また、resiobj パラメタの-t オペランドにクラスタードストリングタイプを指定するときは、必ず-u オペランドに CSTYPE を指定した resipool パラメタを共に指定してください。resiobj パラメタだけを指定しても、ページは常駐されません。

(a) -s オペランド

説明：

共用メモリ上に常駐するオブジェクトのタイプを定義しているスキーマ名を指定します。指定するスキーマ名は、オブジェクトサーバと連携するプログラムによって決まっています。それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。

規則：

1~63 バイトの<文字列>を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。

(b) -t オペランド

説明：

共用メモリ上に常駐するオブジェクトのタイプを指定します。指定するタイプ名は、オブジェクトサーバを使用するそれぞれのプログラムによって決まっています。それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。常駐の対象となるのは、すでにデータベースに定義されているタイプだけです。つまり、オブジェクトサーバを起動してから現在までに新規に定義したタイプは、常駐の対象となりません。このような場合は、オブジェクトサーバをいったん停止して、再起動する必要があります。また、このオペランドで常駐すると指定したタイプは、オブジェクトサーバの動作中に削除できません。

規則：

1~95 バイトの<文字列>を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。

7.3 ステータスサービス定義ファイル(High-end Object Server)

ステータスサービス定義ファイルには、High-end Object Server の環境下で動作する各システムサービスの状態を管理するための実行環境を記述します。ステータスサービスはシステムの稼働状態や終了状態を格納して、障害が発生した場合の回復に使用します。

この節では、ステータスサービス定義の定義項目について説明します。

7.3.1 ステータスサービス定義の形式

ステータスサービス定義の形式を示します。

ステータスサービス定義の形式

```
set sts_file_name_1="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"
[set sts_file_name_2="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_3="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_4="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_5="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_6="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
[set sts_file_name_7="論理ファイル名", ¥
    "A系ステータスファイル名", "B系ステータスファイル名"]
```

規則

- 1行80バイト以内で指定します。80バイトを超える場合は、複数行で指定します。
- ステータスサービス定義ファイルを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を記述してください。
- 定義中に「¥」を文字として指定する場合には、文字列全体を「"」で囲んでください。
- 定義中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲んでください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりすることがあります。
- コメント行の先頭には「#」を指定してください。

7.3.2 ステータスサービス定義の項目

それぞれの項目について説明します。

(1) sts_file_name_1～sts_file_name_7 パラメタ

説明：

最大7個のステータスファイルを指定できます。1個を現用ファイルとして、残り6個を予備ファイルとして作成します。なお、sts_file_name_1 から sts_file_name_7 に指定する論理ファイル名、A系ステータスファイル名及びB系ステータスファイル名は重複して指定できません。

規則：

論理ファイル名：

ステータスファイルの論理ファイルを、1～8バイトの<識別子>で指定します。

A系ステータスファイル：

論理ファイルを構成する A系ステータスファイル名をドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

B系ステータスファイル：

論理ファイルを構成する B系ステータスファイル名をドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。なお、B系ステータスファイルには、A系ステータスファイルと同じレコード長及びレコード数のファイルを指定します。

7.3.3 ステータスサービス定義の注意事項

- High-end Object Server の正常開始時に、ステータスサービス定義で最初に指定したステータスファイルが現用になります。残りのステータスファイルのうちオープンできたものは予備、オープンできなかったものは予約になります。
- 再開始時には、前回の現用ファイルを引き継ぎます。
- ステータスサービス定義に指定していないステータスファイルは、オンライン中に追加できません。このため、予約の状態を作る場合でも、名称だけはあらかじめ指定しておく必要があります。ファイルの実体は開始時、必ずしもすべて必要ではありません。オンライン中に実体を作成してオープンしてください。

オブジェクトサーバの正常開始時、再開始時又はオンライン中にステータスファイル障害が発生した場合、ステータスファイルをスワップします。ステータスファイルをスワップするには、現用ファイルの他に、予備用のステータス論理ファイルを定義する必要があります。

7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル(High-end Object Server)

システムジャーナルサービス定義ファイルには、High-end Object Server で使用するシステムジャーナルファイルにジャーナルを取得するための実行環境を定義します。システムジャーナルファイルには、システムに障害が発生した場合の回復に必要な履歴情報が格納されます。履歴情報は、High-end Object Server が停止した場合の全面回復・部分回復に必要です。High-end Object Server が取得するトランザクション処理の履歴情報を、ジャーナルといいます。

この節では、システムジャーナルサービス定義の定義項目について説明します。

7.4.1 システムジャーナルサービス定義の形式

(1) set 形式とコマンド形式

システムジャーナルサービス定義には、set 形式とコマンド形式があります。どちらの形式でも、High-end Object Server の開始時に値が決定します。ただしコマンド形式で入力した値は、オンライン中の運用コマンドの入力によって開始時に決定した値の変更ができます。

set 形式は、コマンド形式よりも先に定義してください。

規則

- コメント行の先頭には「#」を指定してください。
- 定義中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲ってください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりする場合があります。

(2) set 形式

```
[set jnl_unload_check = Y|N]
[set jnl_rerun_swap=Y|N]
[set jnl_cdinterval = CDインターバル(100)]
```

(3) コマンド形式

```
{{jnladdfg -g ファイルグループ名 [ONL] }}
{{jnladdpf -g ファイルグループ名 -a 物理ファイル名}}
```

7.4.2 システムジャーナルサービス定義の項目

それぞれの項目について説明します。

(1) set 形式

(a) jnl_unload_check パラメタ

説明：

交代先を選択する時に、アンロードされていないファイルであっても交代選択時の対象とするかどうかを指定します。Y の場合は、アンロードチェックをするため、交代先選択時の対象としません。N を指定した場合、ジャーナルのアンロードをしなくても良いため運用は容易になりますが、ジャーナルによるデータベースのバックアップからの回復はできなくなります。運用方法によって選択してください。

Y：アンロードチェックをするため、交代先選択時の対象としません。

N: アンロードチェックをしないため、交代先選択時の対象とします。

規則: 省略した場合は Y が仮定されます。

(b) jnl_rerun_swap パラメタ

説明:

システム再開時にジャーナルをスワップするかどうかを指定します。スワップすることで、物理的にジャーナルを分けることができます。

Y: ジャーナルをスワップします。

N: ジャーナルをスワップしません。

規則: 省略した場合は N が仮定されます。

(c) jnl_cdinterval パラメタ

説明:

チェックポイントを取得する間隔をジャーナルのブロック数で指定します。1 ブロックは 32 キロバイトです。チェックポイントでは、データベースファイルへ、それまでのデータベースの更新内容がすべて反映されます。オブジェクトサーバの再開時には、チェックポイント以降のジャーナルを基にデータベースが回復されます。データベースの回復時間は、ジャーナル件数に比例するため、再開時間に合ったチェックポイント間隔を指定してください。なお、データベースファイルへの write 回数を削減したい場合など、チューニングのために、この値を大きくすることができます。チューニングについては、連携する各 Groupmax のアプリケーションの指示に従ってください。

規則: 100~32000 の<符号なし整数>を指定します。

(2) コマンド形式

(a) jnladdfg (ジャーナルのファイルグループの指定)

形式:

```
{{jnladdfg -g ファイルグループ名 [ONL] }}
```

機能:

システムジャーナルを構成するファイルグループを指定します。

jnladdfg コマンドは、システムジャーナルサービス定義内に 2~30 個指定できます。なお、ONL を指定した jnladdfg コマンドは 2 個以上必要です。

ただし、ファイルグループ名は、システムジャーナルサービス定義内で一意でなければなりません。

オプション:

-g ファイルグループ名

ファイルグループ名を 1~8 バイトの<識別子>で指定します。

ONL

このファイルグループを、オンライン開始と同時にオープンする場合に指定します。省略した場合は、オンライン開始時にはクローズ状態の予約のファイルグループになります。

運用中にスワップ先のファイルグループがなくて異常終了した場合は、前回起動時にシステムジャーナルサービス定義ファイルの jnladdfg コマンドのオプションに ONL を指定していないファイルグループを ONL に変更しても、再起動時、ONL の指定は有効にはなりません。スワップ先のファイルグループがなくて異常終了した場合は、「5.3.2(5)(g) スワップ先のファイルグループがない場合」に記述しているように対処し、High-end Object Server を再開してください。再開が完了した時点で、ONL の指定は有効になります。

(b) jnladdpf (ジャーナルの物理ファイルの指定)

形式：

```
{jnladdpf -g ファイルグループ名 -a 物理ファイル名}
```

機能：

ファイルグループを構成する物理ファイルを指定します。

jnladdpf コマンドは、ファイルグループに対して 1 個だけ指定します。

なお、物理ファイル名は、システム内で一意でなければなりません。

オプション：

-g ファイルグループ名

ファイルグループ名を 1~8 バイトの<識別子>で指定します。

ここで指定するファイルグループ名は、あらかじめ jnladdfg コマンドで定義しておきます。

-a 物理ファイル名

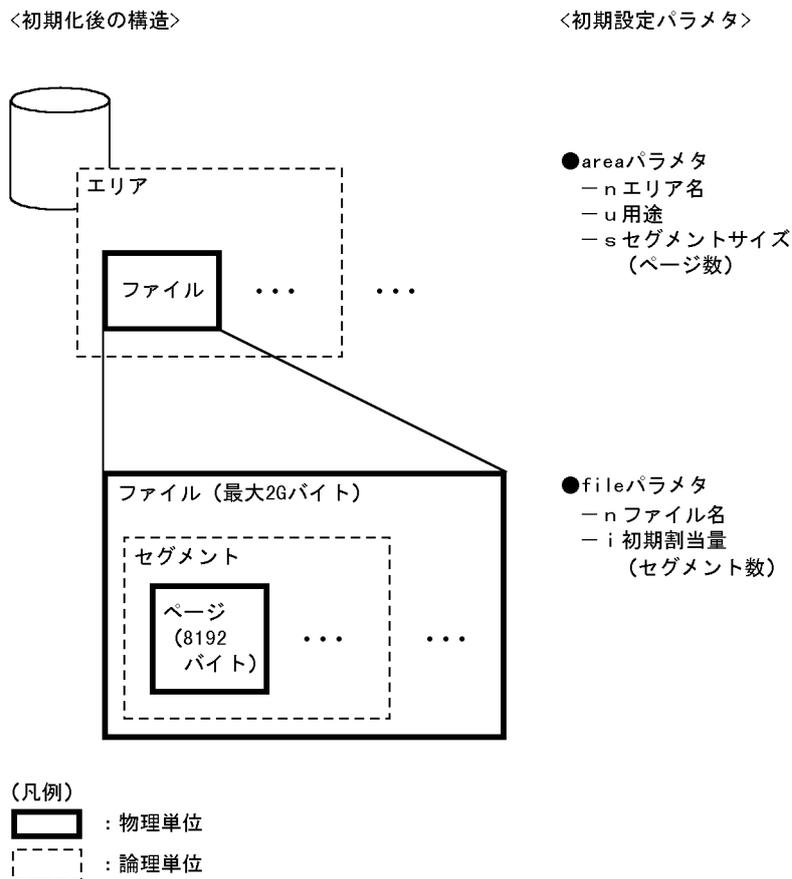
-g オプションで指定したファイルグループを構成する物理ファイル名をドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

この物理ファイルはジャーナル関係のファイル用として作成したファイルを使用します。

7.5 初期設定パラメタファイル

初期設定パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースファイルを初期化するために必要な情報を記述します。[データベースの初期化] ユティリティを実行すると、このファイルに記述した値で、データベースが初期化されます。図 7-1 にデータベース初期化後の構造を示します。

図 7-1 データベース初期化後の構造



データベースを初期化すると、データベースはページという単位に分けられます。1 ページは 8,192 バイトです。複数のページは、セグメントという論理単位にまとめられ、セグメントが集まってファイルとなります。更にファイルは、用途によって、エリアという論理単位にまとめられます。

初期設定パラメタでは、area パラメタにエリアの名称、用途及びセグメントサイズを指定します。エリアに含まれるファイルについては、area パラメタに続く file パラメタによって、名称及び初期割り当て量を指定します。

この節では、初期設定パラメタファイルの定義項目について説明します。

7.5.1 初期設定パラメタの形式

初期設定パラメタの形式を示します。

```
{area -n エリア名
      -u 用途
      -s セグメントサイズ
}{file -n ファイル名
```

```
-i 初期割り当て量
[-m 最大割り当て量] }}...}}...
```

規則

- 1行80バイト以内で定義してください。
- 一つのパラメタを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- パス名の途中に記述された「¥」は「"」で囲むとエラーになります。ただし、パス名が複数行にわたる場合は、継続行の末尾に指定した「¥」を継続指定とみなし、パス名とはみなしません。
- パラメタ中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲んでください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりすることがあります。
- コメント行の先頭には、「#」を指定してください。

(例) Groupmax Document Manager を使用する場合

```
area -n master -u MASTER -s 50
file -n c:%usr%OMSDB%master_dir -i 2
area -n datadir -u DATADIR -s 50
file -n c:%usr%OMSDB%data_dir -i 1
area -n dictionary -u DICTIONARY -s 8
file -n c:%usr%OMSDB%dictionary -i 124
area -n oidindex -u OIDINDEX -s 32
file -n c:%usr%OMSDB%oidindex -i 41
area -n IS_system_area -u USER -s 1
file -n c:%usr%OMSDB%user_db_1 -i 175
area -n IS_class_area_1 -u USER -s 32
file -n c:%usr%OMSDB%user_db_2 -i 233
area -n IS_string_area_1 -u USER -s 1
file -n c:%usr%OMSDB%user_db_3 -i 568
area -n IS_string_area_2 -u USER -s 1
file -n c:%usr%OMSDB%user_db_4 -i 568
area -n IS_version_area -u USER -s 190
file -n c:%usr%OMSDB%version_db_5 -i -1
area -n IS_users_area_1 -u USER -s 26
file -n c:%usr%OMSDB%user_db_6 -i 1
area -n IS_index_1_area_1 -u INDEX -s 1
file -n c:%usr%OMSDB%index_1 -i 3444
area -n IS_index_2_area_1 -u INDEX -s 1
file -n c:%usr%OMSDB%index_2 -i 3444
area -n IS_version_index -u INDEX -s 32
file -n c:%usr%OMSDB%version_index -i 2
area -n IS_users_index -u INDEX -s 32
file -n c:%usr%OMSDB%users_index -i 4
```

初期設定パラメタの指定例については、「付録 A 初期設定パラメタの指定例」を参照してください。

7.5.2 初期設定パラメタの項目

表 7-3 に初期設定パラメタの項目と指定値の一覧を示します。そして、初期設定パラメタとそれぞれのオペランドについて説明します。

表 7-3 初期設定パラメタの指定値一覧

パラメタ	オペランド	指定内容	指定値					
			マスタディレクトリ	データディレクトリ	ディクショナリ	OID インデクス	ユーザデータベース	インデクス
area	-n	エリア名	任意	任意	任意	任意	連携プログラムによる	
	-u	用途	MASTER	DATADIR	DICTIONARY	OIDINDEX	USER	INDEX
	-s	セグメントサイズ (ページ)	50	50	8	見積もり式 (1)	データ量によってディスクアクセス性能とディスク格納効率を考慮	
file	-n	ファイル名	任意。2~175 バイトのドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) を指定					
	-i	初期割り当て量	連携プログラム及び環境による					
	-m	最大割り当て量	不要	不要	<ul style="list-style-type: none"> 省略値の計算あり セグメントサイズと最大割り当て量の積が 256,900 以下。それ以上の場合はオブジェクトサーバが定義値を補正 (計算式あり) 			

- 表中の「見積もり式 (1)」は、本文中の見積もり式と対応しています。
- ユーザデータベース用及びインデクス用のセグメントサイズ(area -s)及び初期割り当て量(file -i)の適切な設定値の見積もり方法は、それぞれの連携プログラムのマニュアルを参照してください。

(1) area パラメタ

area パラメタは、オブジェクトサーバで使用するエリアの数だけ、繰り返して指定します。データベース初期化ユーティリティを実行すると、このパラメタに指定したエリア名を持ち、(2) で説明する file パラメタに指定したファイルから構成されるエリアが作成されます。

area パラメタでは、それぞれのエリアの名称と用途を決定します。用途によっては、定義順序及び定義数が決まっています。表 7-4 に、エリアの用途、定義順序及び定義数を示します。

表 7-4 エリアの用途、定義順序及び定義数

項番	エリアの用途	定義順序	定義数 (個)	エリアの使用目的
1	マスタディレクトリ	1	1	エリアやファイル、ユーザデータベースやインデクスの構成情報を管理
2	データディレクトリ	2	1	ユーザデータベースやインデクスの定義情報を管理
3	ディクショナリ	3	1	
4	OID インデクス	4	1	ユーザデータベースのオブジェクト ID のインデクス
5	ユーザデータベース	5	1 以上	ユーザデータの格納

項番	エリアの用途	定義 順序	定義数 (個)	エリアの使用目的
6	インデクス	6	0 以上 ユーザデータベース用エリア とインデクス用エリアは、合 わせて 3174 個以下にしてく ださい。	ユーザデータベースのインデクスを格納

説明：

項番 1~4 は、オブジェクトサーバのデータベースを管理するためのエリア（オブジェクトサーバ管理ファイル）です。連携するプログラムやシステム的环境によって、設定値が決まります。

項番 5, 6 は、連携するプログラムによって使用されるエリア（連携プログラム用データ格納ファイル）です。エリアの設定値については、それぞれのプログラムの規則に従ってください。ユーザデータベース及びインデクスのエリアの設定値を見積もるための連携プログラムの規則及び見積もり方法については、それぞれのマニュアルを参照してください。

規則：

初期設定パラメタファイルでは、まず項番 1~4 のエリアの設定値を記述します。次に、項番 5, 6 については、それぞれにプログラムごとの設定値を並べて指定します。例えば、ユーザデータベースエリアの場合、まず、Groupmax Document Manager の設定値を記述して、次に Groupmax Workflow Server の設定値を記述し、更に Groupmax Address Server の設定値を記述してください。また、初期設定パラメタの例については、「付録 A 初期設定パラメタの指定例」を参照してください。

(a) -n オペランド

説明：

オブジェクトサーバで使用するエリアの名称を指定します。このエリア名は、オブジェクトサーバの中で重複しないように指定してください。

規則：

-n の後に、1~30 バイトの<文字列>を指定します。半角文字と全角文字の両方が指定できます（混在も可能）。また、連携するプログラムによって、エリアの名称が決まっている場合があります。それぞれのプログラムの規則に従ってエリア名を指定してください。

(b) -u オペランド

説明：

オブジェクトサーバで使用するエリアの用途を、次の識別子を使って指定します。オブジェクトサーバのデータベースには、これらのすべての用途のエリアが必要です。表 7-5 にエリアの用途と識別子を示します。

表 7-5 エリアの用途と識別子

エリアの用途	識別子
マスタディレクトリ	MASTER
データディレクトリ	DATADIR
ディクショナリ	DICTIONARY
OID インデクス	OIDINDEX
ユーザデータベース	USER

エリアの用途	識別子
インデクス	INDEX

規則：-u の後に識別子を一つだけ指定します。

(c) -s オペランド

説明：

一つのセグメントの大きさ（セグメントサイズ）を、ページ数で指定します。1 ページのページ長は、8,192 バイトです。ページは、オブジェクトサーバの入出力の単位です。また、セグメントはファイルの割り当て及び増分の単位です。

次のエリアのセグメントのサイズは固定です。これ以外の数を指定すると、オブジェクトサーバがこのページ数に補正します。

- ・マスタディレクトリのエリア：50 ページ
- ・データディレクトリのエリア：50 ページ
- ・ディクショナリのエリア：8 ページ

また、OID インデクスのセグメントサイズは次の見積もり式で算出してください。なお、OID インデクスの場合は、ディスクのシリンダ容量が不明な場合は、セグメントサイズとして 32 又は 64 を指定してください。

見積もり式 (1)

$$32 \sim \frac{\text{↑ ディスクのシリンダ容量 (キロバイト) ↑}}{8} \text{ ページ}$$

上記以外のエリアのセグメントの大きさは、ディスクアクセス性能と、ディスク格納効率の両方を考慮して決定してください。ただし、セグメントサイズの最大値 16,000 ページを超えないようにしてください。

セグメントのサイズにシリンダサイズを指定すると、アクセス性能が向上します。しかし、セグメントサイズに比べてデータ量が少ない場合には、シリンダサイズより小さい値を指定した方が、格納（スペース）効率が向上します。

また、連携するプログラムによって、エリアのセグメントサイズが決まっている場合があります。それぞれのプログラムの規則に従ってセグメントサイズを指定してください。

シリンダサイズについては、ディスクのハードウェアマニュアルの内容を参照してください。

規則：1～16000 の<符号なし整数>を指定します。

(2) file パラメタ

file パラメタでは、オブジェクトサーバのエリアを構成する、一つ又は複数のファイルを定義します。

file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。[データベースの初期化] ユティリティを実行すると、このパラメタに指定したファイル名、及び大きさ（初期割り当て量）のファイルが作成されます。作成されるファイルの属性を次に示します。

所有者：[データベースの初期化] ユティリティを実行した人

また、一度作成したファイルを増分する場合の割り当て量は、1 回につき 1 メガバイトです（ただし、セグメントサイズで切り上げます）。なおマスタディレクトリ及びデータディレクトリは増分できません。

(a) -n オペランド

説明：

-n オペランドでは、エリアを構成するファイルの名称を指定します。一つのエリアに対して、ファイルは1~16個指定できます。ただし、マスタディレクトリ用エリアには、一つのファイルしか指定できません。

また、一つの連携するプログラムが使用するファイル数とオブジェクトサーバのマスタディレクトリ、データディレクトリ、ディクショナリ、及びOIDインデクスのファイル数との合計が、90個以内になるように定義してください。複数のプログラムと連携している場合は、それぞれが使用するファイル数とオブジェクトサーバのファイル数との合計が、どれも90個以内になるように定義してください。91個以上を指定すると、連携するプログラム及びユーザアプリケーションプログラムの処理を実行するときに、エラーになったり、性能が低下する場合があります（一つのプログラムが使用するファイル数を見積もるとき、Groupmax Mail Server以外のプログラムでは、Groupmax Mail Serverが使用するファイル数も加えてください）。

また、ファイルサイズの最大値は2ギガバイトです。

ファイルを分割すると、一つのファイルのサイズの制限が緩和されます。複数のファイルを別ディスクに割り当てて、負荷を分散させることもできます。

規則：

ファイル名には、2~175バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

このファイル名は、オブジェクトサーバの中で重複しないよう指定してください。また、OSのファイルシステムの規則に合った名称を指定してください。パス名には空白を含まないようにしてください。

(例)

正：C:\usr\OMSDB\master_dir

誤：\usr\OMSDB\master_dir

(b) -i オペランド

説明：

ファイルの初期割り当て量をセグメント数で指定します。ファイルサイズの最大値は2ギガバイトです。次に示す式を満たす値を-iオペランドに指定してください。

$$\begin{array}{l} \text{areaパラメタの} \\ \text{-sオペランドの指定値} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{fileパラメタの} \\ \text{-iオペランドの指定値} \end{array} \leq 256,900$$

オブジェクトサーバ自身が使用するエリアの初期割り当て量の見積もり方法を次に説明します。連携プログラムが使用するエリアの初期割り当て量の固有の規則については、それぞれのマニュアルを参照してください。

マスタディレクトリ

マスタディレクトリ用のエリアのファイルには、2以上の値を指定してください。2未満の値を指定すると、オブジェクトサーバが定義値を2に補正します。

- Groupmax Document Manager だけを使用する場合及び Groupmax Document Manager と Groupmax Workflow Server 及び Groupmax Address Server を使用する場合： マニュアル「Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド」(Windows 用)を参照してください。
- Groupmax Workflow Server, Groupmax Address Server のどちらか一方又は両方を使用する場合：2

データディレクトリ

- Groupmax Document Manager だけを使用する場合及び Groupmax Document Manager とそれ以外のアプリケーションを共に使用する場合：マニュアル「Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド」(Windows 用)を参照してください。
- Groupmax Workflow Server, Groupmax Address Server のどちらか一方又は両方を使用する場合：1

ディクショナリ

ディクショナリ用エリアのファイルには、15 以上の値を指定してください。15 未満の値を指定すると、オブジェクトサーバが定義値を 15 に補正します。

Groupmax Document Manager 使用分 + Groupmax Workflow Server 使用分 + Groupmax Address Server 使用分

それぞれプログラムの使用分については、それぞれのマニュアルを参照してください。

OID インデクス

$$\frac{\text{連携するプログラムが生成するオブジェクト数の合計}}{150 \times \text{OIDインデクスのセグメントサイズ}}$$

注 連携するプログラムが生成するオブジェクト数には、[データベースの再編成] ユティリティによって、OIDインデクスを再編成するまでに削除されたオブジェクト分も含みます。

それぞれプログラムの使用分については、それぞれのマニュアルを参照してください。

マスタディレクトリとデータディレクトリのエリアには、初期割り当て量として所要セグメント数を指定してください。これらのファイルは増分されませんので、将来使用する所要量も見込んで計算してください。なお、データディレクトリの場合は、ファイルは増分されませんが、[データベースへのファイルの追加] ユティリティでファイルを追加して、エリアの容量を増やせます。

ディクショナリ、OID インデクス、ユーザデータベース及びインデクスのエリアはファイルが増分されますので、初期割り当て量は所要セグメント数以下でもかまいません。複数のファイルを使用する場合は、file パラメタを複数指定してください。

規則：

1~256900 の<符号なし整数>を指定します。また、セグメントサイズ (ページ数) と初期割り当て量 (セグメント数) の積が 256,900 以下になるよう指定してください。

(c) -m オペランド

説明：

ファイルの最大割り当て量をセグメント数で指定します。-m オペランドは、ファイルの割り当て量を制限する場合に指定します。次に示す式を満たす値を -m オペランドに指定してください。

$$\text{areaパラメタの} \quad \times \quad \text{fileパラメタの} \quad \leq \quad 256,900$$

$$\text{-sオペランドの指定値} \quad \times \quad \text{-mオペランドの指定値}$$

ファイルは、次の状態のどれかになるまで増分されます。

-m オペランドを指定した場合

- ファイルのセグメント数が -m オペランドで指定した最大割り当て量になる

- ファイルシステムが一杯になる
- ファイルサイズが2ギガバイトになる
- ファイルのセグメント数が次の値になる

$$\frac{\text{初期割り当て量}}{64,000} \times 64,000$$

-m オペランドを省略した場合

- ファイルシステムが一杯になる
- ファイルサイズが2ギガバイトになる
- ファイルのセグメント数が次の値になる

$$\frac{\text{初期割り当て量}}{64,000} \times 64,000$$

ただし-m オペランドは、マスタディレクトリ用及びデータディレクトリ用のエリアに指定しても無視されます。

また、OID インデクスエリア及びインデクスエリアの file パラメタに-m オペランドを指定しないでください。これは、Groupmax のアプリケーションで使用するインデクスキーは通番キーが多いため、古く追加された削除キーの占めていた領域が再利用されにくく、ファイルが増分されやすいためです。

規則：

2~256900 の<符号なし整数>を指定します。最大割り当て量には、初期割り当て量よりも大きい値を指定してください。また、セグメントサイズと最大割り当て量の積が 256,900 以下になるように指定してください。なお、オブジェクトサーバは最大割り当て量の定義値を次の計算式で求められる値に補正します。

$$\frac{\text{最大割り当て量の定義値} - \text{初期割り当て量}}{\frac{128}{\text{セグメントサイズ}}} \times \frac{128}{\text{セグメントサイズ}} + \text{初期割り当て量}$$

値を見積もるときは、次の点も考慮してください。

最大割り当て量が小さすぎると、エリアの容量が不足したときにファイルの増分ができず、データベースへの書き込みができなくなってしまいます。また、最大割り当て量が大きすぎると、むだにディスクを使用し、ディスクフルとなることがあります。

なお、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用して生成されたパラメタの-m オペランドを省略に変更することは好ましくありません。もし、省略に変更した場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。

7.6 構成変更パラメタファイル

構成変更パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベース構成を変更するために必要な情報を記述します。このファイルに、データベースの構成を変更する情報を記述して、データベースの構成を変更するユティリティを実行すると、データベースの構成が変更されます。

7.6.1 構成変更パラメタの形式

構成変更パラメタファイルの形式は、初期設定パラメタの形式と同様です。次に、形式を示します。

```
{area -n エリア名
  -u 用途
  -s セグメントサイズ
  {{file -n ファイル名
    -i 初期割り当て量
    [-m 最大割り当て量]}}...}
```

規則

- 1行80バイト以内で定義してください。
- 一つのパラメタを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- パス名の途中に記述された「¥」は「"」で囲むとエラーになります。パス名が複数行にわたる場合は、継続行の末尾に記述した「¥」を継続指定と見なします。パス名とは見なしません。
- パラメタ中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲んでください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりすることがあります。
- コメント行の先頭には、「#」を指定してください。

7.6.2 構成変更パラメタの項目

構成変更パラメタの項目は、初期設定パラメタと同様です。詳細については「7.5.2 初期設定パラメタの項目」を参照してください。ここでは、それぞれの項目を簡単に説明します。

(1) area パラメタ

追加するエリアの数だけ、繰り返して指定します。初期設定パラメタとは異なり、エリアの定義順は任意です。

構成変更をするときに追加できるのは、ユーザデータベース及びインデクスのエリアです。連携するプログラムによって、指定値が決まっている場合がありますので、それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。

(a) -n オペランド

説明：エリアの名称を指定します。

規則：1～30バイトの<文字列>を指定します。

(b) -u オペランド

説明：エリアの用途を、識別子を使って指定します。

- ・ ユーザデータベース：USER
- ・ インデクス：INDEX

規則：-u の後に<識別子>を一つだけ指定します。

(c) -s オペランド

説明：

セグメントサイズをページ数で指定します。1 ページのページ長は、8,192 バイトです。

規則：1~16000 の<符号なし整数>を指定します。

(2) file パラメタ

file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。

(a) -n オペランド

説明：ファイルの名称を指定します。

規則：2~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

(b) -i オペランド

説明：ファイルの初期割り当て量をセグメント数で指定します。

規則：1~256900 の<符号なし整数>を指定します。また、セグメントサイズと初期割り当て量の積が 256,900 以下になるように指定してください。

(c) -m オペランド

説明：

ファイルの最大割り当て量をセグメント数で指定します。ファイルの割り当て量を制限したい場合にだけ指定してください。ただし、OID インデクスエリア及びインデクスエリアの file パラメタには指定しないでください。

なお、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用して生成されたパラメタの-m オペランドを省略に変更することは好ましくありません。もし、省略に変更した場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。

規則：2~256900 の<符号なし整数>を指定します。また、セグメントサイズと最大割り当て量の積が 256,900 以下になるように指定してください。

7.6.3 構成変更パラメタの指定方法

構成変更の内容ごとに、構成変更パラメタの指定方法を説明します。

(1) エリアの追加

構成変更パラメタのすべての項目を指定できます。

area パラメタは、追加するエリアの数だけ、繰り返して指定します。初期設定パラメタとは異なり、エリアの定義順は任意です。file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。

追加できるのは、ユーザデータベース及びインデクスのエリアです。連携するプログラムによって指定値が決まっている場合がありますので、それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。

(2) ファイルの追加

area パラメタは-n オペランドだけ、file パラメタにはすべてのオペランドを指定できます。それぞれのパラメタは、一つの構成変更パラメタファイルにつき、一つずつしか指定できません。

area パラメタには、ファイルを追加する既成のエリアの名称を指定します。file パラメタには、これから追加するファイルの情報を指定します。

ファイルを追加できるのは、データディレクトリ、ディクショナリ、OID インデクス、ユーザデータベース及びインデクスのエリアです。マスタディレクトリのエリアには追加できません。

7.7 再編成パラメタファイル

再編成パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースを再編成、又はインデクスを再作成するために必要な情報を記述します。このファイルに、再編成するときを使うファイルなどの情報を記述して、[データベースの再編成] ユティリティを実行すると、データベースが再編成されます。

7.7.1 再編成パラメタの形式

データベースを再編成するときには reorg パラメタと area パラメタを、インデクスを作り直すときには recreate パラメタを指定してください。三つのパラメタの形式を次に示します。

データベースの再編成 (reorg パラメタ, area パラメタ)

```
{reorg -u ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称 ¥
  [, ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称]…
  -d ディクショナリエリアのアンロードファイルの名称 ¥
  [-w ワークファイルのディレクトリ名]
  [area -n ユーザエリア名 | ディクショナリエリア名]…} …
```

インデクスの再作成 (recreate パラメタ)

```
{recreate [-d] ¥
  {-t タイプ名 | タイプ番号 [-i インデクス名 | インデクス番号] ¥
  | -a インデクスエリア名 ¥
  [-w ワークファイルのディレクトリ名]} …
```

規則

- 1行 80 バイト以内で定義してください。
- 一つの項目を複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- パス名の途中で記述された「¥」は「"」で囲むとエラーになります。パス名が複数行にわたる場合は、継続行の末尾に記述した「¥」を継続指定とみなし、パス名とはみなしません。
- パラメタ中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲んでください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりすることがあります。
- コメントの先頭行には、「#」を指定してください。

7.7.2 再編成パラメタの項目

それぞれの項目について説明します。

(1) reorg パラメタ

area パラメタを指定していない場合、再編成の対象となるのは、ユーザデータベースとディクショナリのエリア (エリア中のすべてのオブジェクト) です。area パラメタを指定すると、area パラメタで指定したエリアのオブジェクトが再編成の対象となります。

また、オブジェクトの再編成と合わせて、インデクスも再作成されます。area パラメタを指定していない場合、OID インデクスも再作成されます。area パラメタを指定している場合、OID インデクスは、オブジェクトの再編成と合わせて自動的に更新されます。

reorg パラメタの-u 及び-d オペランドで指定したアンロードファイルは、再編成ユーティリティの実行時に作成され、再編成ユーティリティが正常終了したときに削除されます。再編成ユーティリティが異常終了した場合には、このファイルは削除されません。このため同じファイル名で、再度、再編成ユーティリティを実行する場合は、実行前にこのアンロードファイルを削除してください。

reorg パラメタを複数指定する場合は、繰り返して指定します。reorg パラメタを複数指定した場合は、次のように動作します。

- 再編成ユーティリティが正常終了したときには指定されたパラメタは、すべて実行されています。
- パラメタエラーがある場合は、再編成ユーティリティは実行されません。
- 再編成ユーティリティの実行中にエラーが発生した場合は、エラーの発生したパラメタまで実行されていますが、それ以降は実行されずに異常終了します。

(a) -u オペランド

説明：

ユーザデータベースのエリアを再編成するための、アンロードファイルの名称を指定します。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称は、最大 128 個まで指定できます。同じファイル名を指定するとエラーになります。

また、指定されたすべてのユーザデータベースエリアのアンロードファイルは、ユーザデータベースエリアのアンロード処理の開始時にオープンできるかどうか検証されます。

一つのアンロードファイルの所要サイズが、ディスクの空き領域サイズを超えるような大きなデータベースであっても、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称を二つ以上指定することで、再編成ユーティリティを実行できるようになります。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称が二つ以上指定された場合、100 メガバイト出力するごとに、その次に指定されたアンロードファイルに出力先が切り替えられます。最後に指定されたアンロードファイルの次の切り替え先は、最初に指定されたアンロードファイルです。

また、アンロードファイルが、ディスクに十分な空き領域がないため、アンロードファイルへの書き込みができない状態になった場合も、次のアンロードファイルに切り替えられます。この状態になったアンロードファイルは、以後、切り替え先の対象にはなりません。

area パラメタを指定して、-n オペランドにユーザ用エリアのエリア名を指定していない場合、このオペランドは指定しません。

規則：1～175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

(b) -d オペランド

説明：

ディクショナリのエリアを再編成するための、アンロードファイルの名称を指定します。

area パラメタを指定して、-n オペランドにディクショナリ用エリアのエリア名を指定していない場合、このオペランドは指定しません。

規則：1～175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

(c) -w オペランド

説明：ワークファイルを作成するディレクトリの名称を指定します。

規則：

1～175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。省略すると%XODDIR% ¥ spool ¥ work が假定されます。

(2) area パラメタ

再編成パラメタファイルにこのパラメタを指定することで、指定したエリアだけを再編成できます。このパラメタは、reorg パラメタのすぐ後に指定します。複数のエリアを再編成する場合は、繰り返して指定します。

ユニバーサル関連の張られたエリア、及びクラスタードストリングタイプが定義されたエリアを指定した場合、そのユニバーサル関連の管理エリア、及びそのクラスタードストリングタイプを使用しているタイプのあるエリアが指定されていなくてもそれらのエリアにある情報が自動的に更新されます。また、マスタディレクトリエリアについても更新される場合があります。

(a) -n オプション

説明：

再編成の対象となるエリア名を指定します。

規則：

エリア名は重複して指定できません。また、指定できるエリアは、ユーザ用エリアとディクショナリ用エリアだけです。

(3) recreate パラメタ

インデクス中のむだな空き領域をなくしたい場合、又はインデクスの内容が不正になった場合、再編成パラメタファイルにこのパラメタを指定することで、インデクスだけ再作成できます。このときオブジェクトは、再編成されません。インデクスは、タイプ単位（インデクス単位）又はエリア単位で再作成できます。

複数のインデクスを再編成する場合は、繰り返して指定します。recreate パラメタを複数指定した場合は、次のように動作します。

- 再編成ユティリティが正常終了したときには指定されたパラメタは、すべて実行されています。
- パラメタエラーがある場合は、再編成ユティリティは実行されません。
- 再編成ユティリティの実行中にエラーが発生した場合は、エラーの発生したパラメタまで実行されていますが、それ以降は実行されずに異常終了します。

(a) -d オプション

説明：

-d オプションを指定した場合、-i オペランド、-t オペランドでは、インデクス番号及びタイプ番号を指定します。インデクスの障害 (KFXO42121-E エラー) によって、インデクスを再作成する場合、-i オペランド、-t オペランドでは、このメッセージに表示されるインデクス番号、タイプ番号を指定してください。

-d オプションを省略した場合、-i オペランド、-t オペランドでは、インデクスの名称及びタイプ名を指定します。

(b) -t オペランド

説明：再作成するインデクスを定義したタイプ名又はタイプ番号を指定します。

規則：

タイプ名を指定するときは1~95バイトの<文字列>を、タイプ番号を指定するときは1~4294967295の<符号なし整数>を指定します。

(c) -i オペランド

説明：

再作成するインデクスの名称又はインデクス番号を指定します。省略すると、-t オペランドで指定したタイプ中のすべてのインデクスが再作成されます。

規則：

インデクスの名称を指定する時は 1~95 バイトの<文字列>を、インデクス番号を指定するときは 1~4294967295 の<符号なし整数>を指定します。

(d) -a オペランド

説明：再作成するインデクスを定義したインデクスエリア名を指定します。

(e) -w オペランド

説明：ワークファイルを作成するディレクトリの名称を指定します。

規則：

1~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。省略すると%XODDIR% ¥ spool ¥ work が仮定されます。

7.7.3 再編成パラメタファイルの記述例

再編成パラメタファイルの記述例について説明します。オペランドの詳細については、このマニュアル内の「7.7.2 再編成パラメタの項目」を参照してください。

(1) アンロードファイルを複数指定する場合

-u オペランドにカンマ区切りで指定します。なお、最後のアンロードファイルにカンマは不要です。最後のアンロードファイルにカンマをつけると、パラメタ不正でエラーになります。

• 記述例

アンロードファイルを 4 つ指定する場合（エリアの指定なし）

```
reorg -u "D:¥tmp¥user_unload1",¥  
"D:¥tmp¥user_unload2", ¥  
"D:¥tmp¥user_unload3", ¥  
"D:¥tmp¥user_unload4" ¥  
-d "D:¥tmp¥dic_unload1" ¥  
-w "D:¥tmp"
```

(2) 特定のエリアを対象に再編成を実施する場合

reorg パラメタのすぐ後に、area パラメタ及び-n オプションを指定します。

• 記述例 1

ユーザデータベースのエリア 1 つを対象に再編成する場合（アンロードファイルを 4 つ指定）

```
reorg -u "D:¥tmp¥user_unload1",¥  
"D:¥tmp¥user_unload2", ¥  
"D:¥tmp¥user_unload3", ¥  
"D:¥tmp¥user_unload4" ¥
```

```
-w "D:¥tmp"
area -n GMA_RECVMAILMAIN_Type
```

- 記述例 2

ユーザデータベースのエリア 3 つを対象に再編成する場合（アンロードファイルを 4 つ指定）

```
reorg -u "D:¥tmp¥user_unload1", ¥
"D:¥tmp¥user_unload2", ¥
"D:¥tmp¥user_unload3", ¥
"D:¥tmp¥user_unload4" ¥
-w "D:¥tmp"
area -n GMA_RECVMAILMAIN_Type
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_Type
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_ORNAME
```

(3) 特定のインデクスエリアを対象に再編成（再作成）を実施する場合

recreate パラメタのすぐ後に、-a オプションを指定します。

- 記述例

インデクスのエリア 1 つを対象に再編成（再作成）する場合

```
recreate -a GMA_INDEX_MAIL -w D:¥tmp
```

7.8 再構成パラメタファイル

再構成パラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースの再構成をするために必要な情報を記述します。このファイルに、データベースの再構成をする情報を記述して、データベースの再構成をするユーティリティを実行すると、データベースが再構成されます。

なお、再構成パラメタファイルに指定する値は、[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティで出力した使用状況から見積もれます。見積もり方法については「4.3.2 データベースエリアの使用状況の表示」を参照してください。

7.8.1 再構成パラメタの形式

再構成パラメタファイルの形式を次に示します。

```
recreate -u ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称 ¥
          [, ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称]...
          -d ディクショナリエリアのアンロードファイルの名称 ¥
          [-w ワークファイルのディレクトリ名]
{area -n エリア名 ¥
      -u 用途 ¥
      -s セグメントサイズ
{file -n ファイル名 ¥
      -i 初期割り当て量 ¥
      [-m 最大割り当て量]}...}
```

規則

- 1行80バイト以内で定義してください。
- 一つのパラメタを複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- パス名の途中で記述された「¥」は「"」で囲むとエラーになります。パス名が複数行にわたる場合は、継続行の末尾に記述した「¥」を継続指定と見なします。パス名とは見なしません。
- パラメタ中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲んでください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりすることがあります。
- コメント行の先頭には、「#」を指定してください。

7.8.2 再構成パラメタの項目

それぞれの項目について説明します。area パラメタ及び file パラメタの項目は、初期設定パラメタと同様です。詳細については「7.5.2 初期設定パラメタの項目」を参照してください。

(1) recreate パラメタ

再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用エリア、ユーザ用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。

recreate パラメタの-u 及び-d オペランドで指定したアンロードファイルは、再構成ユーティリティの実行時に作成され、再構成ユーティリティが正常終了したときに削除されます。再構成ユーティリティが異常終了した場合には、このファイルは削除されません。このため同じファイル名で、再度、再構成ユーティリティを実行する場合は、実行前にこのアンロードファイルを削除してください。

(a) -u オペランド

説明：

ユーザデータベースのエリアを再作成するための、アンロードファイルの名称を指定します。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称は、最大 128 個まで指定できます。同じファイル名を指定するとエラーになります。

また、指定されたすべてのユーザデータベースエリアのアンロードファイルは、ユーザデータベースエリアのアンロード処理の開始時にオープンできるかどうか検証されます。

一つのアンロードファイルの所要サイズが、ディスクの空き領域サイズを超えるような大きなデータベースであっても、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称を二つ以上指定することで、再構成ユティリティを実行できるようになります。

ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称が二つ以上指定された場合、100 メガバイト出力するごとに、その次に指定されたアンロードファイルに出力先が切り替えられます。最後に指定されたアンロードファイルの次の切り替え先は、最初に指定されたアンロードファイルです。

また、アンロードファイルが、ディスクに十分な空き領域がないため、アンロードファイルへの書き込みができない状態になった場合も、次のアンロードファイルに切り替えられます。この状態になったアンロードファイルは、以後、切り替え先の対象にはなりません。

ユーザデータベースのエリアを再作成しない場合は、このオペランドの指定は不要です。

規則：1～175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

(b) -d オペランド

説明：

ディクショナリのエリアを再作成するための、アンロードファイルの名称を指定します。

ディクショナリのエリアを再作成しない場合は、このオペランドの指定は不要です。

規則：1～175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

(c) -w オペランド

説明：ワークファイルを作成するディレクトリの名称を指定します。

規則：

1～175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。省略すると%XODDIR% ¥ spool ¥ work が仮定されます。

(2) area パラメタ

再作成するエリアの数だけ、繰り返して指定します。エリアの定義順は任意です。

再作成できるのは、ディクショナリ用エリア、ユーザデータベース用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。連携するプログラムによって、指定値が決まっている場合がありますので、それぞれのプログラムの規則に従って指定してください。

(a) -n オペランド

説明：エリアの名称を指定します。

規則：1～30 バイトの<文字列>を指定します。

(b) -u オペランド

説明：エリアの用途を、識別子を使って指定します。

ディクショナリ：DICTIONARY

OID インデクス：OIDINDEX

ユーザデータベース：USER

インデクス：INDEX

規則：-u の後に<識別子>を一つだけ指定します。

(c) -s オペランド

説明：

セグメントサイズをページ数で指定します。1 ページのページ長は、8,192 バイトです。

規則：1~16000 の<符号なし整数>を指定します。

(3) file パラメタ

file パラメタは、一つの area パラメタ中に、そのエリアに含まれるファイルの数だけ、繰り返して指定します。既存のファイルと異なるファイルを指定できます。

(a) -n オペランド

説明：ファイルの名称を指定します。

規則：2~175 バイトのドライブ名で始まるドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

(b) -i オペランド

説明：ファイルの初期割り当て量をセグメント数で指定します。

規則：1~256900 の<符号なし整数>を指定します。また、セグメントサイズと初期割り当て量の積が256,900 以下になるように指定してください。

(c) -m オペランド

説明：

ファイルの最大割り当て量をセグメント数で指定します。ファイルの割り当て量を制限したい場合にだけ指定してください。ただし、OID インデクスエリア及びインデクスエリアの file パラメタには指定しないでください。

なお、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用して生成されたパラメタの-m オペランドを省略に変更することは好ましくありません。もし、省略に変更した場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。

規則：2~256900 の<符号なし整数>を指定します。また、セグメントサイズと最大割り当て量の積が256,900 以下になるように指定してください。

7.9 バックアップパラメタファイル

バックアップパラメタファイルには、オブジェクトサーバのデータベースのバックアップを取得するために必要な情報、又はデータベースのバックアップを回復するために必要な情報を記述します。バックアップパラメタファイルは、特定のエリアのバックアップを取る場合に必要です。データベースのすべてのエリアのバックアップを取得する場合は、作成する必要はありません。

バックアップパラメタファイルにデータベースの退避先のバックアップファイルの名称を記述して、[データベースのバックアップ] ユティリティを実行すると、データベースのバックアップが取得されます。また、[データベースのリストア] ユティリティを実行するとバックアップファイル名で指定されたファイルからデータベースを回復します。

7.9.1 バックアップパラメタの形式

バックアップパラメタファイルの形式を示します。

バックアップパラメタファイルの形式

```
backup -n バックアップファイル名
[area -n 処理対象エリア名]
.
.
```

規則

- 1行 80バイト以内で定義してください。
- 一つの項目を複数行にわたって指定する場合には、継続行の末尾に「¥」を指定してください。ただし、「¥」の後ろに空白などの文字があると「¥」以降を継続行とみなしませんので、注意してください。
- パラメタ中に「¥」を文字として指定する場合は、文字列全体を「"」で囲んでください。
- パスの途中に記述された「¥」は「"」で囲むとエラーになります。
- パス名が複数行にわたる場合は、継続行の末尾に記述した「¥」を継続指定とみなし、パス名とはみなしません。
- パラメタ中のパス名に空白が含まれている場合は、パス名全体を「"」で囲んでください。「"」で囲まないで指定すると、パラメタエラーが発生したり、空白以降のパス名を無視したりすることがあります。
- コメントの先頭行には、「#」を指定してください。

7.9.2 バックアップパラメタの項目

それぞれの項目について説明します。

(1) backup パラメタ

(a) -n バックアップファイル名

説明：

バックアップに使用する場合は、バックアップ先のファイル（データベースバックアップファイル）の名称を指定します。リストアに使用する場合は、[データベースのバックアップ] ユティリティで取得したバックアップファイルの名称を指定します。

規則：データベースバックアップファイルのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定します。

(2) area パラメタ

説明：

バックアップ、及び回復対象のエリアを限定する場合に、エリアの数だけ繰り返して指定します。なお、対象とするエリアを限定するには注意が必要です。詳細については「4.4 データベースのバックアップの取得」を参照してください。

このパラメタの指定内容は、使用するユティリティによって、次のような意味を持ちます。

[データベースのバックアップ] ユティリティで使用する場合

バックアップを取得するエリアを指定します。このパラメタを省略すると、データベース中のすべてのエリアを仮定します。

[データベースのリストア] ユティリティで使用する場合

バックアップファイル中に含まれているエリアのうち、特定のエリアだけを回復したい場合に指定します。このパラメタを省略すると、バックアップファイル中のすべてのエリアを仮定します。

(a) -n 処理対象エリア名

説明：

処理対象とするエリアのエリア名を指定します。エリア名は重複して指定できません。

規則：1～30バイトの<文字列>を指定します。

8

オブジェクトサーバで使用するユティリティ

この章では、オブジェクトサーバ（Object Server 及び High-end Object Server）で使用するユティリティについて説明します。

8.1 ユーティリティー一覧

オブジェクトサーバのユーティリティー一覧を表 8-1 に示します。

なお、オブジェクトサーバのユーティリティーは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけが実行できます。

表 8-1 ユーティリティー一覧

ユーティリティー名称	Object Server		High-end Object Server		
	動作中に実行	停止中に実行	動作中に実行	停止中に実行	
データベース環境設定	[データベースの初期化]	×	◎	×	◎
	[データベースへのエリアの追加]	○	×	○	×
	[データベースのエリアの削除]	○	×	○	×
	[データベースへのファイルの追加]	○	×	○	×
	[データベースのファイルの属性変更]	○	×	○	×
データベース保守	[データベースの再編成]	○	×	○	×
	[データベースのバックアップ]	×	◎	×	◎
	[データベースのリストア]	×	◎	×	◎
	[データベースの回復]	—	—	●	×
	[データベースのバックアウト]	—	—	●	×
データベースの再構成	[データベースのエリアの再作成]	○	×	○	×
データベースの再初期化	[データベースのエリアの再初期化]	×	◎	×	◎
データベース診断	[スキーマ名の表示]	◎	×	◎	×
	[データベースエリアの使用状況の表示]	◎	◎	◎	◎
	[データベースのエリアの情報表示]	◎	×	◎	×
	[ディクショナリの情報表示]	◎	◎	◎	◎
システム運用支援	[システムジャーナルの情報]	—	—	◎	□
	[ステータスファイルの情報]	—	—	◎	△
	[ユーザジャーナルのアンロード]	◎	×	◎	×
	[アプリケーション実行モードへの変更]	—	—	◎	×
	[ユーティリティ実行モードによる開始]	×	◎	×	◎
障害時用	[障害発生後の起動環境の修復]	×	◎	×	◎
サーバ管理	[プロセスの状態表示]	◎	×	◎	×

(凡例)

- ◎：実行できます。
- ×：実行できません。
- ：ユーティリティ実行モードで実行してください。なお、ユーティリティ実行モードでは、連携プログラムの実行はできません。
- ：回復ユーティリティ実行モードで実行してください。なお、回復ユーティリティ実行モードでは、連携プログラムの実行はできません。
- ：High-end Object Server の停止中に実行するとファイルグループだけが表示されます。
- △：High-end Object Server のファイルの状態によって、停止中に実行できる場合がありますが、実行しないでください。
- ：このプログラムでは使用できません。

8.2 ユティリティの実行方法

ユティリティの実行方法には、次の2種類があります。

- 管理ツールウィンドウからダイアログボックスを表示させて対話形式で実行する方法
- コマンドプロンプトからバッチファイルやコマンドを入力して実行する方法

それぞれについて説明します。

8.2.1 ダイアログを使用したユティリティの実行

ダイアログから実行するユティリティは、[Object Server 管理ツール] ウィンドウのアイコンから起動します。[ユティリティ] メニューから起動することもできます。

(1) 管理ツールウィンドウの起動

オブジェクトサーバで使用するユティリティは、[Object Server 管理ツール] ウィンドウのアイコン又はメニューから実行します。図 8-1 に [Object Server 管理ツール] ウィンドウを示します。

図 8-1 [Object Server 管理ツール] ウィンドウ



(a) 起動方法

[Object Server 管理ツール] ウィンドウの起動方法を説明します。

1. OS にオブジェクトサーバシステム管理者でログインする
2. [スタート] メニューから [Groupmax サーバ] の [Object Server 管理ツール] を選択する
[Object Server 管理ツール] ウィンドウが表示されます。

(b) 終了方法

[Object Server 管理ツール] ウィンドウの終了方法を説明します。

1. [ユティリティ] メニューの [終了] を選択する
[Object Server 管理ツール] ウィンドウが終了します。

(c) ヘルプの表示

[Object Server 管理ツール] ウィンドウからオブジェクトサーバのヘルプを表示できます。

- [ヘルプ(H)] メニューの [目次(C)] を選択する
ヘルプの目次が表示されます。
- [ヘルプ(H)] メニューの [ヘルプの使い方(U)] を選択する
ヘルプの使い方が表示されます。
- [ヘルプ(H)] メニューの [バージョン情報(A)] を選択する
オブジェクトサーバのバージョン情報が表示されます。

(2) ダイアログから実行するユーティリティ

図 8-2 に Object Server, 図 8-3 に High-end Object Server のユーティリティで使用するウィンドウとダイアログとの関係を示します。

図 8-2 Object Server のユーティリティで使用するウィンドウとダイアログ

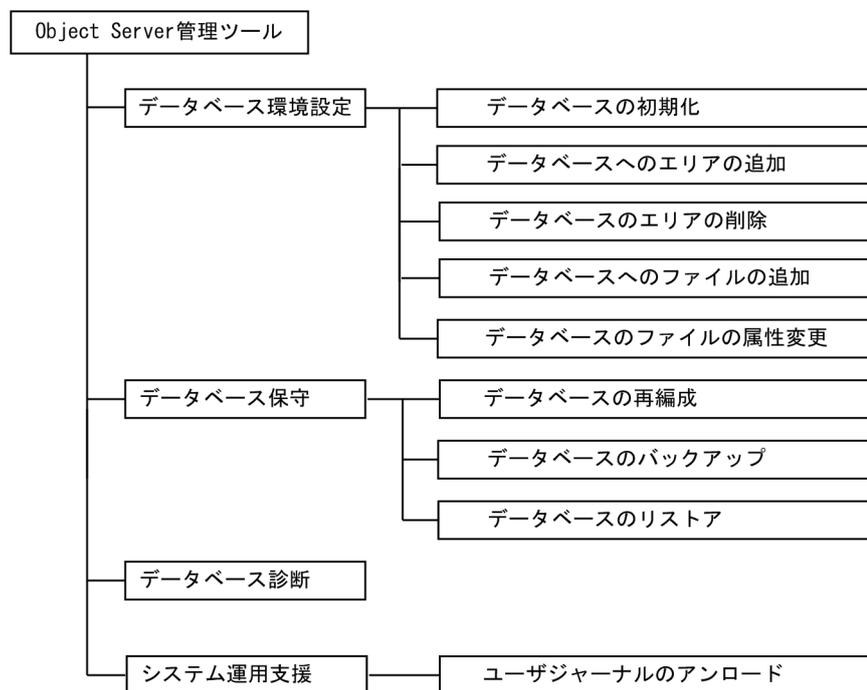
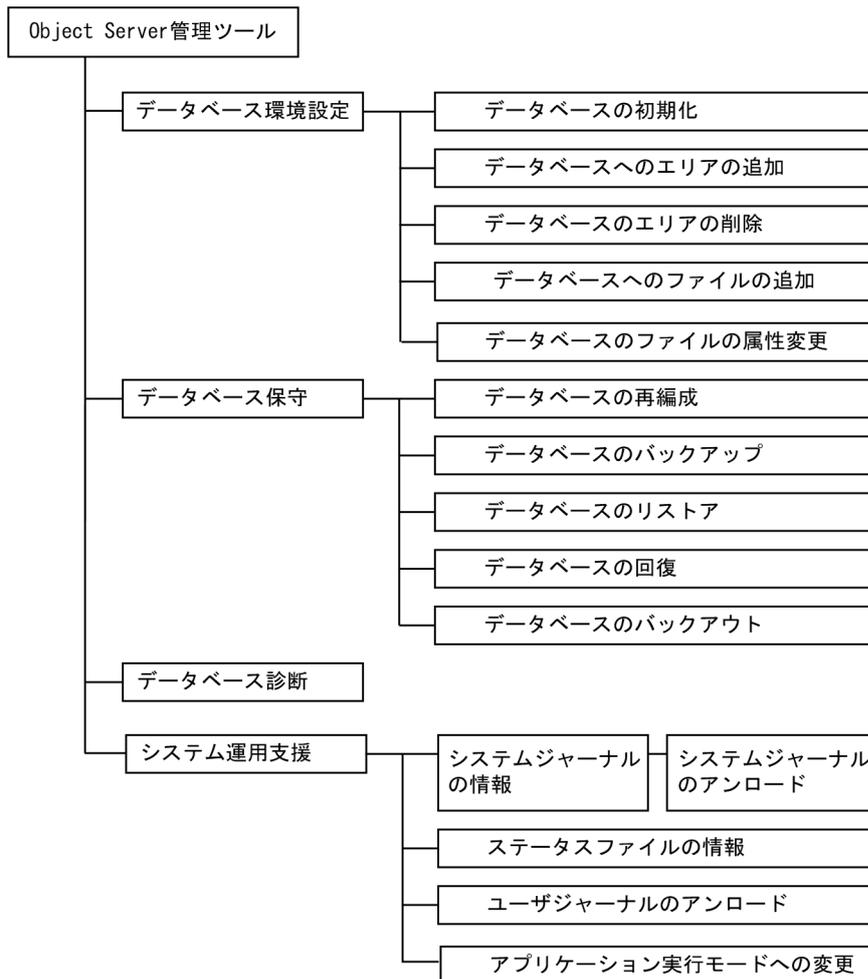


図 8-3 High-end Object Server のユーティリティで使用するウィンドウとダイアログ



次に、ダイアログからのユーティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] ウィンドウのユーティリティのアイコンを選択する
 選択したアイコンのダイアログボックス又は選択したアイコンが示すユーティリティの項目を指定するダイアログが表示されます。
 2. 1. の操作でアイコン名のダイアログが表示された場合は、実行するユーティリティのボタンを選択する
 選択したユーティリティの項目を指定するダイアログが表示されます。
 3. ユーティリティの実行に必要な項目を指定して [OK] を選択する
 ユーティリティが実行されます。ここで [キャンセル] を選択すると、ユーティリティは実行されずに、元のウィンドウ又はダイアログに戻ります。
- [参照] ダイアログ
 ユーティリティの項目にファイルを指定する場合は、ウィンドウの [参照] を選択してください。ファイル名を参照するダイアログを利用できます。図 8-4 に参照ダイアログを示します。

図 8-4 参照ダイアログ



8.2.2 コマンドを使用したユーティリティの実行

コマンドを使用して実行できるユーティリティの種類と実行方法について説明します。

(1) コマンドの文法

コマンドの記述形式を次に示します。

コマンド名 [オプション …] [コマンド引数 …]

(例) `cmd -n -o 99 server1`

cmd : コマンド名

-n, -o 99 : オプション

server1 : コマンド引数

(a) コマンド名

コマンド名は、実行するコマンドのファイル名称です。オブジェクトサーバのシステム管理者だけが、これらのファイルにアクセスできます。

(b) オプション

オプションの入力方法を次に示します。

なお、次の説明中に使用する「cmd」はコマンド名称を表します。

● オプションの形式

オプションはマイナス記号 (-) で始まる文字列で、場合によっては一つの引数をとります。

形式 1 : -オプションフラグ

形式 2 : -オプションフラグ フラグ引数

(凡例)

オプションフラグ : 1 文字の英文字。大文字と小文字は区別されます。

フラグ引数：

オプションフラグに対する引数です。

なお、一つのコマンドに指定できるフラグ引数の長さ（バイト数）の総和は、（256－指定されたフラグ引数の数）以下でなければなりません。

● オプションの指定規則

- フラグ引数をとらないオプションフラグは、一つのマイナス記号の後にまとめて指定できます。

（例）

次の二つは同じ意味です。

```
cmd -a -b -c
```

```
cmd -abc
```

- フラグ引数をとるオプションフラグのフラグ引数は、省略できません。
- オプションフラグとフラグ引数の間には、空白又はタブが必要です。

（例）

誤：cmd-f

正：cmd -f

- フラグ引数中に空白を含める場合は、前後を引用符（"）で囲まなければなりません。

（例）

オプションフラグ：f

フラグ引数：1 2

```
cmd -f "1 2"
```

- 同じオプションフラグを2回以上指定できません。

（例）

誤：cmd -a 1 -a 2

- オプションは、コマンド引数の前に指定しなければなりません。

（例）

オプションフラグ a が引数をとらない場合、file 及び -d はコマンド引数とみなされます。

```
cmd -a file -d
```

- 二つのマイナス記号は、オプションの終わりを示します。

（例）

-b はコマンド引数とみなされます。

```
cmd -a -- -b
```

- マイナス記号だけのオプションは入力できません。

（例）

- は、コマンド引数とみなされます。

```
cmd -
```

(c) コマンド引数

コマンド引数は、コマンドの操作対象を表します。

なお、一つのコマンドに指定できるコマンド引数の長さ（バイト数）の総和は、（256－指定されたコマンド引数の数）以下でなければなりません。

(2) コマンドプロンプトから実行するユーティリティ

次のような場合に、コマンドプロンプトからユーティリティを実行すると便利です。

- バッチファイルにユーティリティのコマンドを記述しておく場合
定期的なユーティリティの実行する場合などにバッチファイルを作成しておくことで、コマンドプロンプトから複数のユーティリティを決められた手順で実行したり、ユーティリティを自動的に実行したりできます。
- よく使うユーティリティをコマンドプロンプトから直接実行する場合

コマンドプロンプトから実行できるユーティリティ

コマンドプロンプトから実行できるユーティリティの種類を次に示します。

- [データベースの初期化] ユティリティ (xodbinit コマンド)
- [データベースへのエリアの追加] ユティリティ (xodaradd コマンド)
- [データベースのエリアの削除] ユティリティ (xodarrm コマンド)
- [データベースへのファイルの追加] ユティリティ (xodfladd コマンド)
- [データベースのファイルの属性変更] ユティリティ (xodflalt コマンド)
- [データベースの再編成] ユティリティ (xodbreog コマンド)
- [データベースのバックアップ] ユティリティ (xodbckup コマンド)
- [データベースのリストア] ユティリティ (xodbrstr コマンド)
- [データベースの回復] ユティリティ (xodbrecv コマンド)
- [データベースのバックアウト] ユティリティ (xodbkout コマンド)
- [データベースのエリアの再作成] ユティリティ (xodbrcons コマンド)
- [データベースのエリアの再初期化] ユティリティ (xodarint) コマンド
- [データベースの使用状況表示] ユティリティ (xodbuse コマンド)
- [データベースのエリアの情報表示] ユティリティ (xodarls コマンド)
- [ディクショナリの情報表示] ユティリティ (xoddicls コマンド)
- [ユーティリティ実行モードによる開始] ユティリティ (xodusta コマンド)
- [障害発生後の起動環境の修復] ユティリティ (xodclear コマンド)
なお、[障害発生後の起動環境の修復] ユティリティは、エクスプローラ及びファイルマネージャなどでダブルクリックしても実行できます。
- [プロセスの状態表示] ユティリティ (xodpinfo コマンド)

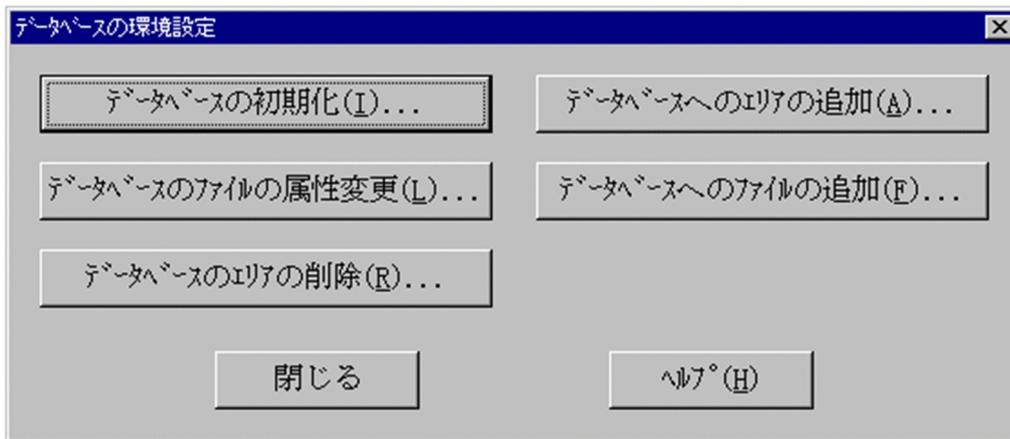
8.3 データベース環境設定

この節では、データベースの環境を設定するためのユーティリティについて説明します。データベース環境設定のユーティリティは次の五つです。

- [データベースの初期化] ユティリティ
- [データベースへのエリアの追加] ユティリティ
- [データベースのエリアの削除] ユティリティ
- [データベースへのファイルの追加] ユティリティ
- [データベースのファイルの属性変更] ユティリティ

図 8-5 にこれらのユーティリティを起動する、[データベースの環境設定] ダイアログを示します。

図 8-5 [データベースの環境設定] ダイアログ



- 起動方法
[Object Server 管理ツール] ウィンドウの [データベースの環境設定] アイコン，又は [ユーティリティ (U)] メニューの [データベースの環境設定(S)] を選択します。
- ボタンの説明

閉じる：

[データベースの環境設定] ダイアログを閉じて，[Object Server 管理ツール] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ(H)：

[データベースの環境設定] ダイアログのヘルプを表示します。

8.3.1 データベースの初期化

この項では，[データベースの初期化] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目，コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

オブジェクトサーバのデータベースを初期化します。オブジェクトサーバを導入するときに，初期設定パラメタファイルを作成した後で実行してください。初期設定パラメタファイルについては，「7.5 初期設定パ

ラメタファイル」を参照してください。簡単に作成する方法については、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定」を参照してください。

ユーティリティの処理結果は、オブジェクトサーバのシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

(2) ダイアログからの実行方法

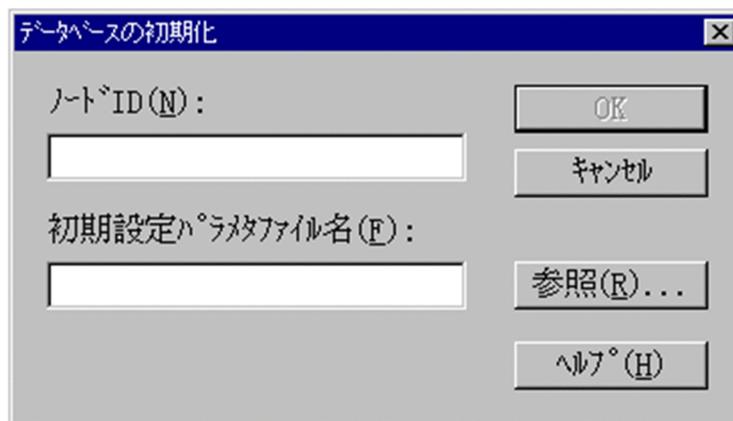
(a) 操作

1. 初期設定パラメタファイルを作成する
2. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースの初期化(I)...] を選択する
[データベースの初期化] ダイアログが表示されます。
3. ノード ID 及び操作 1 で作成した初期設定パラメタファイル名を指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースの初期化] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-6 に [データベースの初期化] ダイアログを示します。

図 8-6 [データベースの初期化] ダイアログ



ノード ID(N) :

ここで指定した値が、このオブジェクトサーバのノード ID になります。マルチサーバ構成で、オブジェクトサーバを運用する場合には、ノード ID によってデータベースを識別しますので、それぞれが異なるノード ID を持つように指定してください。デフォルト値は「0」です。[データベースの初期化] ユティリティの実行時には、同じノード ID を持つデータベースがあるかどうかをチェックしません。

ノード ID を指定すると、オブジェクトを生成するとき、そのデータベースのノード ID がオブジェクト ID の中に設定されます。そのため、すべてのオブジェクト ID が一意な値になります。

シングルサーバ構成の運用をする場合は、特に指定する必要はありません。

- ・ 1~16382 <符号なし整数> を指定してください。

初期設定パラメタファイル名(F) :

初期設定パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

(c) ボタンの説明

OK :

[データベースの初期化] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[データベースの初期化] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

参照(R)... :

[参照] ダイアログを表示します。

ヘルプ(H) :

[データベースの初期化] ダイアログのヘルプを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodbinit [-n ノードID] -f 初期設定パラメタファイル名
```

オプション

- -n ノード ID

ここで指定した値が、このオブジェクトサーバのノード ID になります。マルチサーバ構成で、オブジェクトサーバを運用する場合には、ノード ID によってデータベースを識別しますので、それぞれが異なるノード ID を持つように指定してください。xodbinit コマンド実行時には、同じノード ID を持つデータベースがあるかどうかをチェックしません。

ノード ID を指定すると、オブジェクトを生成するときに、そのデータベースのノード ID がオブジェクト ID の中に設定されます。そのため、すべてのオブジェクト ID が一意の値になります。

シングルサーバ構成の運用をする場合は、特に指定する必要はありません。

- 1~16382 の<符号なし整数>で指定します。
- -f 初期設定パラメタファイル名
初期設定パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- すべてのエリアの初期化が正常に終了したときだけ、このユティリティは正常終了します。ユティリティの実行中にエラーが起こった場合には、エラーの原因を取り除いてから、すべてのエリアを初期化してください。
- [データベースの初期化] ユティリティの処理中にエラーが発生すると、[データベースの初期化] ユティリティで作成したファイルは、すべて削除されます。
- データベースを再度初期化したい場合、まず、[データベースの初期化] ユティリティで作成したファイルをすべて削除してから、[データベースの初期化] ユティリティを実行してください。

- [データベースの初期化] ユティリティでデータベースをすべて初期化する場合を除いて、OS の機能でオブジェクトサーバのデータベースのファイルを削除しないでください。OS の機能によってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、「4.5 データベースの回復」に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。
ファイルを削除する場合は、必ず [データベースのエリアの削除] ユティリティを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。
- High-end Object Server で [データベースの初期化] ユティリティを実行してデータベースを作成し直すときには、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

8.3.2 データベースへのエリアの追加

この項では、[データベースへのエリアの追加] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

オブジェクトサーバのデータベースに、構成変更パラメタファイル中の area パラメタ及び file パラメタで指定されたエリアを追加します。追加できるのは、ユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。

[データベースへのエリアの追加] ユティリティは構成変更パラメタファイルを作成した後で実行してください。構成変更パラメタファイルについては、「7.6 構成変更パラメタファイル」を参照してください。簡単に作成する方法については、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定」を参照してください。

ユーティリティの処理結果は、オブジェクトサーバのシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

(2) ダイアログから実行する方法

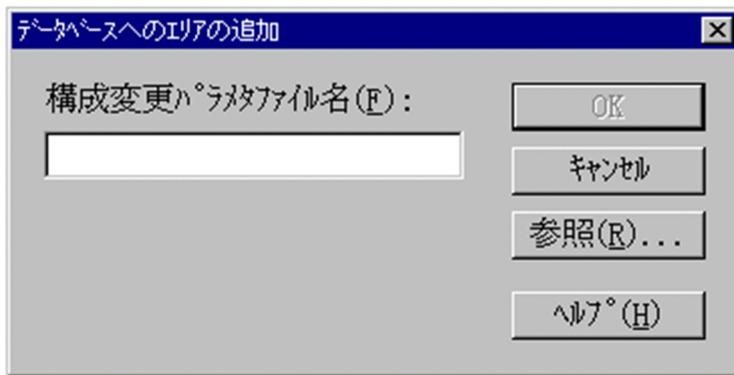
(a) 操作

1. 構成変更パラメタファイルを作成する
2. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースへのエリアの追加(A)...] を選択する
[データベースへのエリアの追加] ダイアログが表示されます。
3. 操作 1 で作成した構成変更パラメタファイル名を指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースへのエリアの追加] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-7 に [データベースへのエリアの追加] ダイアログを示します。

図 8-7 [データベースへのエリアの追加] ダイアログ



構成変更パラメタファイル名(F) :

構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

(c) ボタンの説明

OK :

[データベースへのエリアの追加] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[データベースへのエリアの追加] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

参照(R)... :

[参照] ダイアログを表示します。

ヘルプ(H) :

[データベースへのエリアの追加] ダイアログのヘルプを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodaradd -f 構成変更パラメタ名
```

オプション

- -f 構成変更パラメタファイル名
構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了。すべてのエリアの追加に成功しました。

1 以上 : 異常終了。一部のエリアの追加が成功している場合も含まれます。

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

- オブジェクトサーバの起動から終了までの間に追加できるエリア数の上限値は、Object Server では 32 個、High-end Object Server ではシステム共通定義の `add_area_limit` に指定した値です。この数を超えてエリアを追加した場合、オブジェクトサーバを再起動するまで、そのエリアに対してオブジェクトサーバと連携するプログラムのデータベースの作成、エリアの削除、ファイルの追加、及びファイルの属性変更はできません。ただし、オブジェクトサーバの起動から終了までの間にエリアを削除した場合は、削除したエリアの数だけ上限値が増加します。削除したエリアの領域は、エリアを追加したときに再利用されます。
- オブジェクトサーバのデータベースは、[データベースの初期化] ユティリティですべて再初期化する場合を除いて、OS の機能によってデータベースのファイルを削除しないでください。OS の機能によってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、「4.5 データベースの回復」に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。
ファイルを削除する場合は、必ず [データベースのエリアの削除] ユティリティを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。
- エリアを追加した後で、オブジェクトサーバを再起動すると、追加したエリア数分だけ静的共用メモリの総量が増加するので、システム共通定義で指定する `static_shmpool_size` は、余裕を持って計算してください。
- [データベースへのエリアの追加] ユティリティが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。
- High-end Object Server では、[データベースへのエリアの追加] ユティリティの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合には、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

8.3.3 データベースのエリアの削除

この項では、[データベースのエリアの削除] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

連携するプログラムの環境の削除などで不要になったエリアを、オブジェクトサーバのデータベースから削除します。削除できるのは、ユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバのシステムディレクトリのファイル「`xodresult`」に出力されます。

(2) ダイアログから実行する方法

(a) 操作

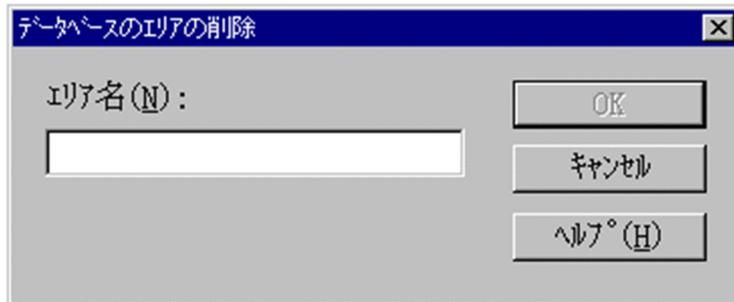
1. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースのエリアの削除(R)...] を選択する
[データベースのエリアの削除] ダイアログが表示されます。
2. エリア名を指定する
指定するエリア名は、削除するエリアを作成又は追加したときに、初期設定パラメタ又は構成変更パラメタで指定したエリア名です。
3. [OK] ボタンを選択する

[データベースのエリアの削除] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-8 に [データベースのエリアの削除] ダイアログを示します。

図 8-8 [データベースのエリアの削除] ダイアログ



エリア名 (N) :

エリア名を 1~30 バイトの<文字列>で指定します。

(c) ボタンの説明

OK :

[データベースのエリアの削除] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[データベースのエリアの削除] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ (H) :

[データベースのエリアの削除] ダイアログのヘルプを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodarrm -n エリア名
```

オプション

- -n エリア名
削除するエリア名を 1~30 バイトの<文字列>で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

- 削除するエリアに連携しているプログラムがデータベースを作成していると、そのエリアを削除することはできません。まず、連携するプログラム側でそれらのデータベースを削除してから、[データベースのエリアの削除] ユティリティを実行してください。
- [データベースのエリアの削除] ユティリティが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。
- High-end Object Server では、[データベースのエリアの削除] ユティリティの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

8.3.4 データベースへのファイルの追加

この項では、[データベースへのファイルの追加] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

構成変更パラメタファイル中の area パラメタで指定されたエリアに、file パラメタで指定されたファイルを追加します。ただし、マスタディレクトリのエリアには、ファイルを追加できません。

[データベースへのファイルの追加] ユティリティは、構成変更パラメタファイルを作成した後で実行してください。構成変更パラメタファイルについては、「7.6 構成変更パラメタファイル」を参照してください。

ユーティリティの処理結果は、オブジェクトサーバのシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

(2) ダイアログから実行する方法

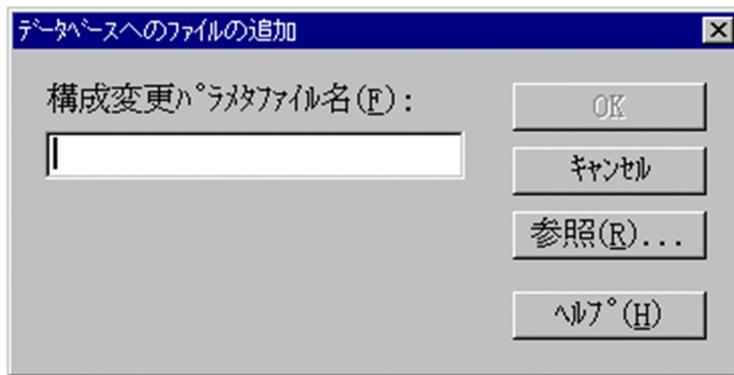
(a) 操作

1. 構成変更パラメタファイルを作成する
2. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースへのファイルの追加(F)...] を選択する
[データベースへのファイルの追加] ダイアログが表示されます。
3. 操作 1 で作成した構成変更パラメタファイル名を指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースへのファイルの追加] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-9 に [データベースへのファイルの追加] ダイアログを示します。

図 8-9 [データベースへのファイルの追加] ダイアログ



構成変更パラメタファイル名(F) :

構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

(c) ボタンの説明

OK :

[データベースへのファイルの追加] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[データベースへのファイルの追加] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

参照(R)... :

[参照] ダイアログを表示します。

ヘルプ(H) :

[データベースへのファイルの追加] ダイアログのヘルプを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodfladd -f 構成変更パラメタ名
```

オプション

- -f 構成変更パラメタファイル名
構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

- オブジェクトサーバのデータベースは、[データベースの初期化] ユティリティですべて再初期化する場合を除いて、OS の機能によってデータベースのファイルを削除しないでください。OS の機能によってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、「4.5 データベースの回復」に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。
ファイルを削除する場合は、必ず [データベースのエリアの削除] ユティリティを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。
- [データベースへのファイルの追加] ユティリティが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。
- High-end Object Server では、[データベースへのファイルの追加] ユティリティの実行後の運用に備えてシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

8.3.5 データベースのファイルの属性変更

この項では、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、xodflalt コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

指定されたファイルの属性を変更します。変更できるのは、ファイルの最大割り当て量です。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバのシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

(2) ダイアログから実行する方法

(a) 操作

1. ファイルの最大割り当て量を見積もる

属性を変更するファイルについての変更後の最大割り当て量を見積もります。指定値については、「7.5.2(2) file パラメタ」及び「(b)ダイアログで指定する項目」の最大割り当て量の説明を参照してください。

2. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースのファイルの属性変更(L)...] を選択する

[データベースのファイルの属性変更] ダイアログが表示されます。

3. 属性を変更するファイルのあるエリア名、ファイル名、及び操作 1 で見積もった最大割り当て量を指定する

4. [OK] ボタンを選択する

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-10 に [データベースのファイルの属性変更] ダイアログを示します。

図 8-10 「データベースのファイルの属性変更」ダイアログ



エリア名(N) :

属性を変更するファイルのあるエリアの名称を 1~30 バイトの<文字列>で指定します。

ファイル名(F) :

属性を変更するファイルの名称を 2~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

最大割り当て量(M) :

変更した後の最大割り当て量をセグメント数で指定します。0~256900 の<符号なし整数>を指定してください。

セグメントサイズと最大割り当て量の積は、256,900 以下にしてください。また、次に示す式の値より小さい数を指定してください。これらが守られなかった場合には、エラーになります。

$$\frac{\text{MAX}(i, m)}{64,000} \times 64,000$$

- (凡例) i : 初期設定パラメタで指定した、このファイルの初期割り当て量 (セグメント)
 m : 初期設定パラメタで指定した、このファイルの最大割り当て量 (セグメント)

最大割り当て量に指定した値によって、変更後の値は次のように扱われます。

指定値	オブジェクトサーバの処理
0	省略値とみなす。 (初期設定パラメタでの省略値と同様) 注： Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用して生成された初期設定パラメタ、構成変更パラメタ、再構成パラメタにおいて、-m オペランドが指定されているエリアの最大割り当て量をこの指定 (0) に変更することは好ましくありません (ファイルを増分させるために一時的に 0 に変更することは構いません)。もし、長期間、最大割り当て量をこの指定 (0) に変更したまま運用する場合は必ず定期的にデータベースの再編成を実行してください。
現在のセグメント数を超える	[データベースのファイルの属性変更] ユティリティの最大割り当て量に指定した値に変更する。

指定値	オブジェクトサーバの処理
現在のセグメント数以下	エラーとなる。最大割り当て量は変更しない。

(c) ボタンの説明

OK:

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを実行します。

キャンセル:

[データベースのファイルの属性変更] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

参照(R)...:

[参照] ダイアログを表示します。

ヘルプ(H):

[データベースのファイルの属性変更] ダイアログのヘルプを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodflalt -n エリア名 -f ファイル名 -m 最大割り当て量
```

オプション

- -n エリア名
属性を変更するファイルのあるエリアの名称を 1~30 バイトの<文字列>で指定します。
- -f ファイル名
属性を変更するファイルの名称を 2~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。
- -m 最大割り当て量
変更後の最大割り当て量をセグメントサイズで指定します。
指定値については、「7.5.2(2) file パラメタ」及び「8.3.5(2)(b) ダイアログで指定する項目」の最大割り当て量の説明を参照してください。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上: 異常終了

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- High-end Object Server では、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティの実行後の運用に備えて、システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合には、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

8.4 データベース保守

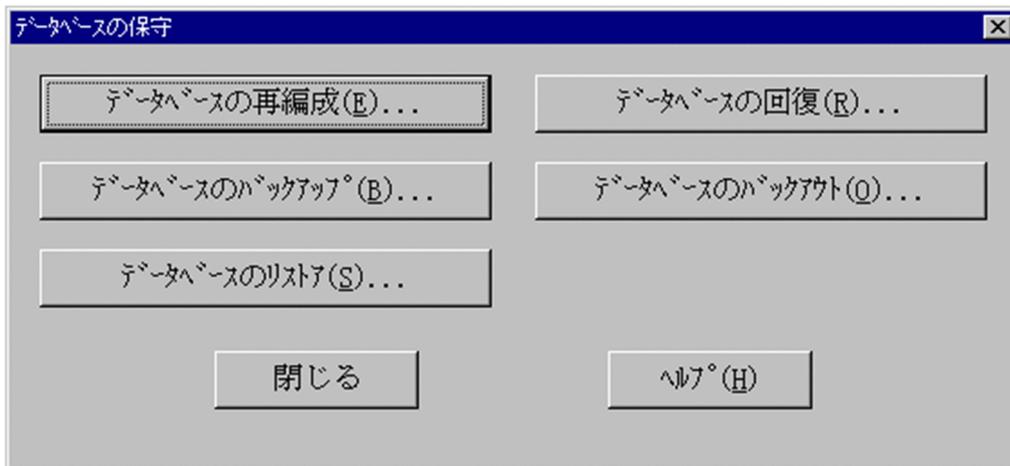
この節では、データベースを保守するためのユティリティについて説明します。データベースの保守ユティリティは次の五つです。

- [データベースの再編成] ユティリティ
- [データベースのバックアップ] ユティリティ
- [データベースのリストア] ユティリティ
- [データベースの回復] ユティリティ
- [データベースのバックアウト] ユティリティ

これらのユティリティのうち、Object Server では、[データベースの再編成] ユティリティ、[データベースのバックアップ] ユティリティ、及び [データベースのリストア] ユティリティが実行できます。

図 8-11 に [データベースの保守] ダイアログを示します。

図 8-11 [データベースの保守] ダイアログ



- 起動方法

1. [Object Server 管理ツール] ウィンドウの [データベースの保守] アイコン、又は [ユティリティ(U)] メニューの [データベースの保守(D)] を選択する
[データベースの保守] ダイアログが表示されます。

- ボタンの説明

閉じる：

[データベースの保守] ダイアログを閉じて、[Object Server 管理ツール] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ(H)：

[データベースの保守] ダイアログのヘルプを表示します。

8.4.1 データベースの再編成

この項では [データベースの再編成] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

データベースにオブジェクトの追加や削除を繰り返すと、オブジェクトの配置に乱れが生じてきます。

[データベースの再編成] ユティリティは、データベースを再編成して、この乱れを修正し、オブジェクトを適切に配置します。この再編成によって、オブジェクトのアクセス性能が向上し、データベースのスペース効率が最適になります。

[データベースの再編成] ユティリティは、再編成パラメタファイルを作成した後で実行してください。再編成パラメタファイルについては、「7.7 再編成パラメタファイル」を参照してください。簡単に作成する方法については、「付録 C Groupmax サーバ環境設定ユティリティによる環境設定」を参照してください。

このユティリティによって再編成されるのは、次に示す用途のエリアです。

- ユーザデータベース
- データディクショナリ
- インデクス
- OID インデクス

このユティリティを実行したときの処理を説明します。

1. オブジェクトの再編成

再編成パラメタファイルに reorg を指定すると、オブジェクトが再編成されます。データベースのオブジェクトは、いったんアンロードファイルに出力されて、再びデータベースに登録されることによって再配置されます。このとき、すべてのオブジェクトが対象となります。

オブジェクトの再編成には、インデクス及び OID インデクスの再作成も含まれます。再作成では、インデクス及び OID インデクスの中のむだな空き領域をなくします。また、インデクスの再作成時には、その後のインデクスキーの追加を高速にするための予備領域を確保します。

2. インデクス再作成

再編成パラメタファイルに recreate を指定すると、インデクスの再作成だけが実行されます。これは、タイプ中のオブジェクトデータを物理順に検索して、インデクスの情報を生成し、その情報を基にインデクスを作り直す機能です。インデクスの中のむだな領域をなくしたい場合、及び何らかの理由によってインデクスの内容が不正になった場合に実行してください。

なお、インデクスの再作成時には、この後のインデクスキーの追加を高速にするため、インデクスペーシ内にインデクスキー追加のための予備領域を確保します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバのシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

(2) ダイアログから実行する方法

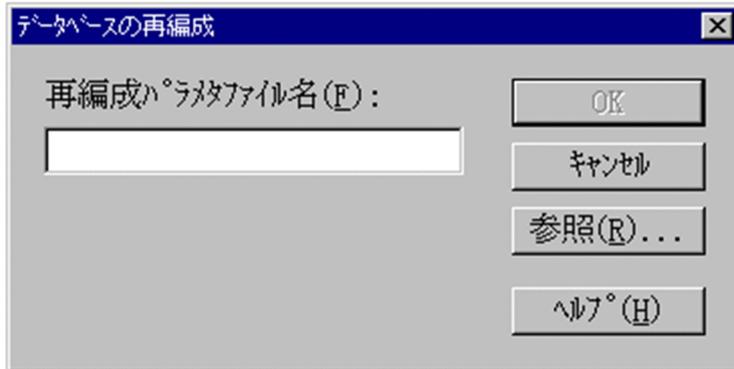
(a) 操作

1. 再編成パラメタファイルを作成する
2. [データベースの保守] ダイアログの [データベースの再編成(E)...] を選択する
[データベースの再編成] ダイアログが表示されます。
3. 操作 1 で作成した再編成パラメタファイル名を指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースの再編成] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-12 に [データベースの再編成] ダイアログを示します。

図 8-12 [データベースの再編成] ダイアログ



再編成パラメタファイル名(F) :

再編成パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

(c) ボタンの説明

OK :

[データベースの再編成] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[データベースの再編成] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

参照(R)... :

[参照] ダイアログを表示します。

ヘルプ(H) :

[データベースの再編成] ダイアログのヘルプを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodbreog -f 再編成パラメタファイル名
```

オプション

- -f 再編成パラメタファイル名

再編成パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(4) アンロードファイルのサイズについて

Object Server のバージョンが 06-50 以降の場合、一つのアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイト以下かどうかによって、[データベースの再編成] ユティリティの処理方式を変更できます。

処理方式 1

一つのアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイト以下の場合に適した処理方式です。処理方式 1 で、[データベースの再編成] ユティリティを実行すると、次のように処理されます。

- アンロードファイルを一つ指定した場合
指定したアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイトを超えるとメッセージ KFXO56627-W が出力され、処理を続行します。
- アンロードファイルを複数指定した場合
 - (a) 指定したアンロードファイルのうち、一つでもファイルのサイズが 2 ギガバイト以上 4 ギガバイト未満の場合、メッセージ KFXO56627-W が出力され、処理を続行します。
 - (b) 指定したアンロードファイルのうち、一つでもファイルのサイズが 4 ギガバイトを超えるとメッセージ KFXO56628-E が出力され、ユーティリティは異常終了します。

メッセージ KFXO56627-W 又は KFXO56628-E が出力された場合、処理方式 2 で [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。なお、メッセージ KFXO56628-E が出力されて異常終了した場合、データベースへの書き込みは行われないため、バックアップからデータベースを回復する必要はありません。

インストール、バージョンアップ直後は、処理方式 1 の設定になっています。いったん処理方式 2 の設定にしたあと、処理方式 1 の設定に戻すときは、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してください。

```
xoduflg -n
```

処理方式 2

一つのアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイトを超える場合に適した処理方式です。

インストール、バージョンアップ直後は、処理方式 1 の設定になっているため、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、設定を変更する必要があります。

```
xoduflg -y
```

(5) 注意事項

- このユーティリティを使用するときは、次のような対処によって障害に備える必要があります。これらのバックアップはそれぞれ別に保管してください。
 - ユティリティ開始前のバックアップを保存する
 - ユティリティ正常終了後にオブジェクトサーバを停止してバックアップを取得する
- このユーティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユーティリティで作成したアンロードファイルは、データベースに障害が起こったときのバックアップに使用できません。障害時の回復に利用するバックアップについては、「4.4 データベースのバックアップの取得」に示す方法で取得してください。
- このユーティリティを実行すると、再編成パラメタファイルの reorg -u 及び -d オペランドで指定したアンロード用のファイルが作成されます。このファイルは、正常終了時には削除されますが、異常終了時には削除されません。そのため、異常終了した後に同じアンロード用ファイルを使って [データベースの再編成] ユティリティを実行するときは、このファイルを削除してください。
- このユーティリティでは、再編成パラメタファイルの -w オペランドで指定した作業領域を使用します。-w オペランドの指定を省略した場合は、%XODDIR%¥ spool ¥ work を作業領域とします。-w オペ

ランドの指定を省略している場合には、ユティリティを実行する前に%XODDIR%\¥ spool ¥ work の空き領域を確認して、領域を確保するようにしてください。

- このユティリティが異常終了した場合、その終了メッセージが KFXO56035-E 又は KFXO56998-E の時はデータベースが不完全な状態になっています。この場合は、ユティリティを実行する前に取得したバックアップによって回復した後で、ユティリティを再実行してください。KFXO56002-E 又は KFXO56999-E という終了メッセージが表示されたときは、データベースの回復は不要です。

8.4.2 データベースのバックアップ

この項では、[データベースのバックアップ] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

データベースの障害・破壊時に備えて、正常なデータベースの内容をファイルに退避します。入力となるデータベース定義情報は、システム共通定義ファイルに指定してあるマスタディレクトリ用ファイルから取得します。退避先のファイルをデータベースバックアップファイルといいます。このユティリティで作成したデータベースバックアップファイルは、[データベースのリストア] ユティリティを使って、回復します。

データベースのバックアップは、OS のバックアップ機能やエクスプローラ又はファイルマネージャによるコピーの機能を使って取得することもできます。しかし、データベースファイル内の使用率が低い場合、このユティリティを使えばバックアップ先の容量の削減やバックアップ時間の短縮が図れます。

特定のエリアのバックアップを取得する場合は、バックアップパラメタファイルを作成した後で実行してください。バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。

(2) ダイアログから実行する方法

(a) 操作

1. バックアップパラメタファイルを作成する

すべてのデータベースのバックアップを一括して取得する場合、[データベースのバックアップ] ダイアログでバックアップファイル名を指定できますので、バックアップパラメタファイルを作成する必要はありません。

2. [データベースの保守] ダイアログの [データベースのバックアップ(B)...] を選択する

[データベースのバックアップ] ダイアログが表示されます。

3. データベースファイルの退避先のファイルであるデータベースバックアップファイルの名称、又は操作 1 で作成したバックアップパラメタファイル名を指定する

すべてのデータベースファイルを一括してバックアップを取得する場合で、バックアップパラメタファイルを作成していない場合は、ダイアログでバックアップファイル名を指定してください。バックアップパラメタファイルを作成している場合は、制御文ファイル名を指定してください。

4. [OK] ボタンを選択する

[データベースのバックアップ] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-13 に [データベースのバックアップ] ダイアログを示します。

図 8-13 「データベースのバックアップ」 ダイアログ

**バックアップファイル名(B) :**

データベース全体のバックアップを取得するときに指定します。バックアップファイル名のチェック欄を選択して、データベースファイルの退避先ファイルであるデータベースバックアップファイルの名称を1~175バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。なお、バックアップファイルは、新しく作成されるので、すでに使用しているファイル名は指定しないでください。

バックアップファイルを作成するボリュームに、データベース全体をバックアップするのに十分な空き領域がない場合は、制御文ファイル名指定によってエリア単位にバックアップを取得し、複数のバックアップファイルに分割してください。

参照(R)... : [参照] ダイアログを表示します。

制御文ファイル名(F) :

データベースの中にある特定のエリアのバックアップを取得するときに指定します。制御文ファイル名のチェック欄を選択して、制御文を記述しているバックアップパラメタファイル名を1~175バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

参照(S)... : [参照] ダイアログを表示します。

(c) ボタンの説明**OK :**

[データベースのバックアップ] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[データベースのバックアップ] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[データベースのバックアップ] ダイアログのヘルプを表示します。

参照(R)..., 参照(S)... :

[参照] ダイアログを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法**形式**

```
xodbckup { -b バックアップファイル名 | -f バックアップパラメタファイル名 }
```

オプション

- -b バックアップファイル名

データベース全体のバックアップを取得するときに指定します。

データベースファイルの退避先ファイルであるデータベースバックアップファイルの名称を1~175バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。なお、バックアップファイルは、新しく作成されるので、すでに使用しているファイル名は指定しないでください。

バックアップファイルを作成するボリュームに、データベース全体をバックアップするのに十分な空き領域がない場合は、-b オプション指定ではなく、-f オプション指定でエリア単位にバックアップを取得し、複数のバックアップファイルに分割してください。

- -f バックアップパラメタファイル名

データベースの中にある特定のエリアのバックアップを取得するときに指定します。バックアップパラメタファイル名を1~175バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユティリティはオブジェクトサーバの停止時に実行してください。したがって、データベースのバックアップを取得する場合は、オブジェクトサーバを正常停止させた後に [データベースのバックアップ] ユティリティを実行してください。オブジェクトサーバがすでに停止していて、前回の停止状態が分からない場合には、一度オブジェクトサーバを起動して、正常停止してから実行してください。

8.4.3 データベースのリストア

この項では、[データベースのリストア] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

オブジェクトサーバのデータベースに障害が発生した場合（ディスク障害、アプリケーションプログラムによるデータ破壊、ディレクトリとディクショナリの不整合など）に、データベースをバックアップ取得時点まで戻します。このユティリティは、ある時点の [データベースのバックアップ] ユティリティで取得したバックアップファイルを読み込み、障害が発生したデータベースを回復します。

バックアップしたエリア内の特定のエリアをリストアする場合は、バックアップパラメタファイルを作成した後で実行してください。バックアップパラメタファイルについては、「7.9 バックアップパラメタファイル」を参照してください。

(2) ダイアログから実行する方法

(a) 操作

1. バックアップパラメタファイルを作成する

データベースバックアップファイルの中に退避されているすべてのエリアのファイルを回復する場合、[データベースのリストア] ダイアログで、バックアップファイル名を指定できますので、バックアップパラメタファイルの作成を省略できます。

2. [データベースの保守] ダイアログの [データベースのリストア(S)...] を選択する

[データベースのリストア] ダイアログが表示されます。

3. リストア元のデータベースバックアップファイル名, 又は操作 1 で作成したバックアップパラメタファイル名を指定する

データベースバックアップファイルの中に退避されているすべてのエリアのファイルを回復する場合で、バックアップパラメタファイルを作成していない場合は、ダイアログでバックアップファイル名を指定してください。バックアップファイル名を作成している場合は、制御文ファイル名を指定してください。

4. [OK] ボタンを選択する

[データベースのリストア] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-14 に [データベースのリストア] ダイアログを示します。

図 8-14 [データベースのリストア] ダイアログ



バックアップファイル名(B):

バックアップしたすべてのエリアをリストアするときに指定します。バックアップファイル名のチェック欄を選択して、[データベースのバックアップ] ユティリティで取得したデータベースバックアップファイルの名称を 1~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

参照(R)... : [参照] ダイアログを表示します。

制御文ファイル名(F):

バックアップしたエリア内の特定のエリアをリストアするときに指定します。制御文ファイル名のチェック欄を選択して、バックアップパラメタファイルの名称を 1~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

参照(S)... : [参照] ダイアログを表示します。

(c) ボタンの説明

OK:

[データベースのリストア] ユティリティを実行します。

キャンセル:

[データベースのリストア] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H):

[データベースのリストア] ダイアログのヘルプを表示します。

参照(R)..., 参照(S)...:

[参照] ダイアログを表示します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodbrstr { -b バックアップファイル名 | -f バックアップパラメタファイル名}
```

オプション

- -b バックアップファイル名
バックアップしたすべてのエリアをリストアするときに指定します。[データベースのバックアップ] ユティリティで取得したデータベースバックアップファイルの名称 1~175 バイトのドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。
- -f バックアップパラメタファイル名
データベースの中にある特定のエリアをリストアするときに指定します。バックアップパラメタファイル名を 1~175 バイトのドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- オブジェクトサーバのデータベースがあるディスクに障害が発生した場合には、このユティリティを実行する前に、障害の発生したファイルを削除しておいてください。
- このユティリティは、データベースのファイルだけ回復します。ファイルシステムのディレクトリは回復できません。
- このユティリティを実行中にエラーが発生した場合は、エラー原因に対処して、ユティリティをはじめから実行し直してください。
- このユティリティはオブジェクトサーバの停止時に実行してください。

8.4.4 データベースの回復 (High-end Object Server)

この項では、[データベースの回復] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。このユティリティは、High-end Object Server で使用します。

このユティリティは回復ユティリティ実行モードで実行します。回復ユティリティ実行モードでの起動方法については、「3.1.2 開始方法」を参照してください。

(1) 機能

オブジェクトサーバのデータベースに障害が発生した場合 (ディスクの障害、アプリケーションプログラムによるデータ破壊、ディレクトリとディクショナリの不整合等) に、ある時点の正常な状態にデータベースを回復します。

このユティリティはデータベースのバックアップ取得以後のアンロードジャーナルファイルを読み込んで、障害が発生したデータベースを回復します。このユティリティは、あらかじめ [データベースのリストア] ユティリティ、又は OS の機能 (OS のバックアップ機能やエクスプローラ及びファイルマネージャによるコピー) によって、データベースのバックアップ取得時点の状態にデータベースを回復してから実行してください。

回復に使用するアンロードジャーナルファイルは、システムジャーナルファイルのアンロードコマンド (xodjnlunl コマンド) で作成されたファイルです。

(2) ダイアログから実行する方法

(a) 操作

1. High-end Object Server を回復ユーティリティ実行モードで起動する
2. [データベースの保守] ダイアログの [データベースの回復(R)...] を選択する
[データベースの回復] ダイアログが表示されます。
3. データベースの回復に使用するアンロードジャーナルファイル名及びアンロードジャーナルファイルをソートするかどうかを指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースの回復] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-15 に [データベースの回復] ダイアログを示します。

図 8-15 [データベースの回復] ダイアログ



ファイル名(U) :

アンロードジャーナルファイルの名称を指定します。アンロードジャーナルファイルは、システムジャーナルファイルのアンロードコマンド (xodjnlunl コマンド) で作成されたファイルです。

参照(R)... : [参照] ダイアログを表示します。

ファイル名一覧(I) :

回復に使用するアンロードジャーナルファイル名を次に示す操作で指定します。

追加(A) :

ファイル名(U)にアンロードジャーナル名を指定して、[追加(A)] ボタンを選択すると、ファイル名一覧にそのアンロードジャーナル名が追加されます。この操作を繰り返すことによって、回復に使用するアンロードジャーナルファイル名の一覧が表示されます。

削除(D) :

ファイル一覧に表示されているファイルを選択し、[削除(D)] ボタンを選択すると、該当するファイルが一覧から削除されます。

なお、ファイル名一覧に指定できるファイル数 (n) は、次に示す式を満足する必要があります。

$$255^* \geq (n-1) + \sum_i^n \text{ファイル } i \text{ の名称の長さ}$$

注※ アンロードジャーナルファイルのソートを「行う(E)」を指定した場合は、253を指定してください。

アンロードジャーナルファイルのソートを「行う(E)」を指定し、さらに、ディレクトリ名及びバッファサイズを指定した場合、ファイル名一覧に指定できるファイル数 (n) は、次に示す式を満足する必要があります。

$$253 - d - b \geq (n-1) + \sum_i^n \text{ファイル } i \text{ の名称の長さ}$$

(凡例)

d: ディレクトリ名の指定けた数+1 (バイト数) (指定しない場合, 0)

b: バッファサイズの指定けた数+1 (バイト数) (指定しない場合, 0)

アンロードジャーナルファイルのソート:

アンロードジャーナルファイルをソートする場合は「行う(E)」を、ソートしない場合は「行わない(N)」を指定します。同じページに対する更新が多く発生している場合には、ソートをするように設定した方が高性能が期待できます。なお、「行う(E)」を指定する場合、SORT プログラムが組み込まれている必要があります。

ディレクトリ名(I):

SORT プログラムが使用する一時ファイルを作成するディレクトリ名を指定します。省略すると、%XODDIR%¥ spool ¥ work が仮定されます。一時ファイルの容量は、アンロードジャーナルファイルの合計ファイル長分が必要です。

バッファサイズ(Y):

SORT プログラムが使用するワークバッファサイズをキロバイト単位 (1 キロバイト = 1,024 バイト) で指定します。ワーク用バッファサイズが大きいほど処理時間が短縮されます。128 キロバイト未満の値を指定又は省略すると、1,024 キロバイトになります。

(c) ボタンの説明

OK:

[データベースの回復] ユティリティを実行します。

キャンセル:

[データベースの回復] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H):

[データベースの回復] ダイアログのヘルプを表示します。

参照(R)...:

[参照] ダイアログを表示します。

削除(D):

ファイル名一覧(I)から、選択したファイルを削除します。

追加(A):

ファイル名(U)に指定したファイルをファイル名一覧(I)に追加します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodbrecv -j アンロードジャーナルファイル名, . . . [ -s ソートオプション] [ -t
ソート用一時ファイルのディレクトリ名] [ -y ソート用ワークバッファサイズ]
```

オプション

- -j アンロードジャーナルファイル名
アンロードジャーナルファイルの名称を指定します。アンロードジャーナルファイルは、システムジャーナルファイルのアンロードコマンド (xodjnlunl コマンド) で作成されたファイルです。
このオプションで指定できるアンロードジャーナルファイル名, . . . の文字数の最大は、255- (このオプション以外のオプションの指定数+このオプション以外のオプションに指定された引数のバイト数の総和) バイトです。
- -s ソートオプション
アンロードジャーナルをソートする場合には"y"を、ソートしない場合は"n"を指定します。同じページに対する更新が多く発生している場合には、ソートするように設定した方が高性能が期待できます。
なお、このオプションの指定を省略した場合、"n"が仮定されます。
次のオプションは、-s オプションに"y"を指定した場合だけ有効です。
 - -t ソート用一時ファイルのディレクトリ名
Windows NT SORT が使用する一時ファイルを作成するディレクトリ名を指定します。省略した場合は、%XODDIR%¥ spool ¥ work が仮定されます。
一時ファイルの容量は、アンロードジャーナルファイルの合計ファイル長分必要です。
 - -y ソート用ワークバッファサイズ
Windows NT SORT が使用するワークバッファサイズをキロバイト単位 (1 キロバイト=1,024 バイト) で指定します。ワークバッファサイズが大きいほど、処理時間は短縮されます。
指定値が 128 キロバイト未満の場合及び指定を省略した場合は、1,024 キロバイトになります。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

- 0 : 正常終了
- 1 以上: 異常終了

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- 回復に使用するジャーナルファイルは、バックアップ取得以降から障害発生時点 (発生時使用中のジャーナルを含む) までのアンロードジャーナルファイルを過不足なく指定してください。また、1 回のユティリティ実行ですべてのファイルを指定できない場合、アンロードジャーナルの時系列順に複数に分けて実行してください。
- このユティリティに指定するアンロードジャーナルファイルは、必ずディスク上にある必要があります。
- このユティリティは、[データベースのバックアウト] ユティリティへの引き継ぎ情報としてのバックアウト情報ファイル(%XODDIR%¥ spool ¥ xodbrecinf)を作成します。このユティリティでエラーが発生すると、バックアウト情報ファイルが削除されて、処理が中断されます。エラーの要因を取り除いて、[データベースのリストア] ユティリティから再度実行してください。

- OSの機能を使用してデータベースファイルのバックアップ及びリストアをしている場合、1回目の[データベースの回復]ユティリティを実行する前にバックアウト情報ファイルがあるかどうかを確認してください。バックアウト情報ファイルがあれば、ファイルを削除してください。
- [データベースの再編成]ユティリティ及び[データベースのエリアの再作成]ユティリティは、ユティリティの実行中にジャーナルを取得しません。ユティリティ実行時点以降の状態にデータベースを回復するために、ユティリティ実行後にデータベースファイルのバックアップを取得してください。
また、連携するプログラムの中にジャーナルを取得しないユティリティ、コマンドを持ったものがありますので、連携するプログラムのユティリティ、コマンドを実行する場合のバックアップの手順については、各ユティリティ、コマンドの指示に従ってください。

8.4.5 データベースのバックアウト(High-end Object Server)

この項では、[データベースのバックアウト]ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。このユティリティは、High-end Object Serverで使用します。

このユティリティは回復ユティリティ実行モードで実行します。

(1) 機能

[データベースの回復]ユティリティで使用したアンロードジャーナル中にオブジェクトサーバが異常終了した時点で仕掛かり中だったトランザクションが含まれている場合(KFXO54002-Iメッセージが出力されている)、回復されたデータベースは、仕掛かり中のトランザクションの更新内容が無効にされていない場合もあります。このユティリティを実行することで障害が発生した時点の仕掛かり中トランザクションの更新内容が無効になります。

このユティリティでは、ファイル名一覧(I)に指定されたアンロードジャーナルファイルと[データベースの回復]ユティリティ実行時に出力されたバックアウト情報ファイル(%XODDIR%¥ spool ¥ xodrecinf)を基にロールバックが実行されます。

(2) ダイアログから実行する方法

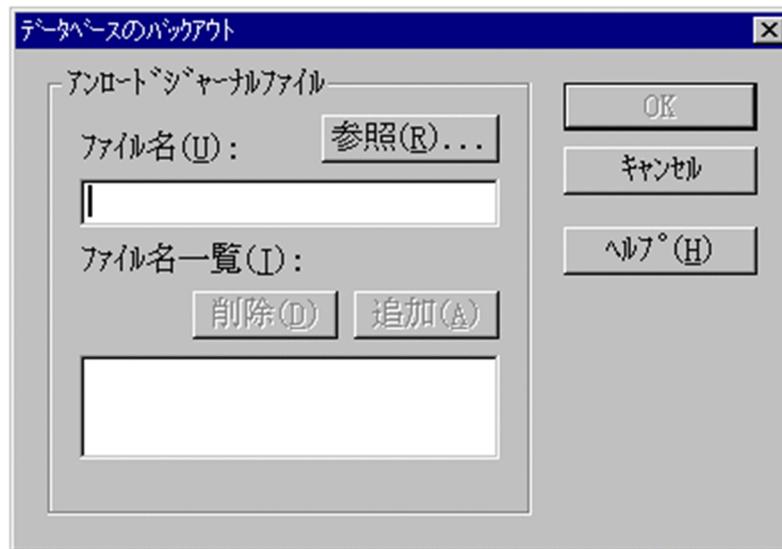
(a) 操作

1. [データベースの保守] ダイアログの [データベースのバックアウト(O)...] を選択する
[データベースのバックアウト] ダイアログが表示されます。
2. データベースのバックアウトに使用するアンロードジャーナルファイル名を指定する
3. [OK] ボタンを選択する
[データベースのバックアウト] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図8-16に[データベースのバックアウト]ダイアログを示します。

図 8-16 「データベースのバックアウト」 ダイアログ



ファイル名(U) :

アンロードジャーナルファイルの名称を指定します。

参照(R)... : [参照] ダイアログを表示します。

ファイル名一覧(I) :

回復に使用するアンロードジャーナルファイル名を次に示す操作で指定します。

追加(A) :

ファイル名(U)にアンロードジャーナル名を指定して、[追加(A)] ボタンを選択すると、ファイル名一覧にそのアンロードジャーナル名が追加されます。この操作を繰り返すことによって、回復に使用するアンロードジャーナルファイル名の一覧が表示されます。

このファイル名一覧には、仕掛かり中のトランザクションのジャーナルのすべてを含むアンロードジャーナルファイルを指定してください。

削除(D) :

ファイル名一覧に表示されているファイルを選択し、[削除(D)] ボタンを選択すると、該当するファイルが一覧から削除されます。

なお、ファイル名一覧に指定できるファイル数 (n) は、次に示す式を満足する必要があります。

$$255 \geq (n-1) + \sum_i^n \text{ファイル } i \text{ の名称の長さ}$$

(c) ボタンの説明

OK :

[データベースのバックアウト] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[データベースのバックアウト] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[データベースのバックアウト] ダイアログのヘルプを表示します。

参照(R)... :

[参照] ダイアログを表示します。

削除(D) :

ファイル名一覧(I)から、選択したファイルを削除します。

追加(A) :

ファイル名(U)に指定したファイルをファイル名一覧(I)に追加します。

(3) コマンドプロンプトから実行する方法

形式

```
xodbkout -j アンロードジャーナルファイル名, . . .
```

オプション

- -j アンロードジャーナルファイル名
アンロードジャーナルファイルの名称を指定します。アンロードジャーナルファイルは、システムジャーナルファイルのアンロードコマンド (xodjnlunl コマンド) で作成されたファイルです。
このオプションには、仕掛中のトランザクションのジャーナルを含むすべてのアンロードジャーナルファイルを指定してください。このオプションで指定できるアンロードジャーナルファイル名、...の文字数の最大は 255 バイトです。

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユティリティに指定するアンロードジャーナルファイルは必ずディスク上にある必要があります。
- このユティリティでエラーが発生した場合、エラーの要因を取り除いて、[データベースのリストア] ユティリティから再実行してください。

8.5 データベースの再構成

この節では、ユーザの使用環境の変化によって構成が不適切となったエリアを指定されたパラメタで作成し直すための [データベースのエリアの再作成] ユティリティの機能について説明します。再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用エリア、ユーザ用エリア、OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアです。

なお、データベースに障害が発生している場合、データベースのエリアの再作成はできません。

8.5.1 データベースのエリアの再作成

この項では、[データベースのエリアの再作成] ユティリティの機能について説明します。このユティリティは、コマンドプロンプトから実行します。

(1) 機能

オブジェクトサーバのデータベースのエリアを再作成します。再作成の対象となるエリアは、ディクショナリ用、ユーザ用、OID インデクス用及びインデクス用のエリアです。

ディクショナリ用、又はユーザ用エリアを再作成する場合、該当するエリアをアンロードし、エリアを再初期化した後にリロードします。リロードするときには、該当するエリアだけでなく、OID インデクスエリア、エリア内のオブジェクトに付けられたインデクス、及び関連付けられたオブジェクトを格納するエリアも更新します。

OID インデクス用及びインデクス用のエリアを再作成する場合、該当するエリアを再初期化した後にインデクスを再作成します。インデクスの再作成では、オブジェクトデータを物理順に検索してインデクスの情報を生成し、その情報を基にインデクスを作り直します。

また、[データベースのエリアの再作成] ユティリティでは、マスタディレクトリ及びディクショナリエリアも更新します。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、又はコマンドプロンプトに出力されたエラーメッセージを参照して、エラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(2) コマンド

形式

```
xodbrcons -f 再構成パラメタファイル名
```

オプション

- -f 再構成パラメタファイル名
再構成パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

- 0 : 正常終了
- 1 以上 : 異常終了

(3) アンロードファイルのサイズについて

Object Server のバージョンが 06-50 以降の場合、一つのアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイト以下かどうかによって、[データベースのエリアの再構成] ユティリティの処理方式を変更できます。

処理方式 1

一つのアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイト以下の場合に適した処理方式です。処理方式 1 で、[データベースのエリアの再構成] ユティリティを実行すると、次のように処理されます。

- アンロードファイルを一つ指定した場合
指定したアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイトを超えるとメッセージ KFXO56627-W が出力され、処理を続行します。
- アンロードファイルを複数指定した場合
 - (a)指定したアンロードファイルのうち、一つでもファイルのサイズが 2 ギガバイト以上 4 ギガバイト未満の場合、メッセージ KFXO56627-W が出力され、処理を続行します。
 - (b)指定したアンロードファイルのうち、一つでもファイルのサイズが 4 ギガバイトを超えるとメッセージ KFXO56628-E が出力され、ユティリティは異常終了します。

メッセージ KFXO56627-W 又は KFXO56628-E が出力された場合、処理方式 2 で [データベースのエリアの再構成] ユティリティを実行してください。なお、メッセージ KFXO56628-E が出力されて異常終了した場合、データベースへの書き込みは行われなため、バックアップからデータベースを回復する必要はありません。

インストール、バージョンアップ直後は、処理方式 1 の設定になっています。いったん処理方式 2 の設定にしたあと、処理方式 1 の設定に戻すときは、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してください。

```
xoduflg -n
```

処理方式 2

一つのアンロードファイルのサイズが 2 ギガバイトを超える場合に適した処理方式です。

インストール、バージョンアップ直後は、処理方式 1 の設定になっているため、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、設定を変更する必要があります。

```
xoduflg -y
```

(4) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユティリティでは、再作成するエリア、及びリロードで更新するエリアの更新情報をジャーナルファイルに出力しないため、障害発生時にジャーナルを使ったデータベースの回復ができません。障害に備えてユティリティ実行前にデータベースのバックアップを取得してください。また、ユティリティが正常終了した場合もその後の障害に備えてバックアップを取得してください。
- このユティリティで作成したアンロードファイルは、データベースの障害時のバックアップには使用できません。データベースの障害を回復するためのバックアップは、[データベースのバックアップ] ユティリティを使用して取得しておいてください。
- このユティリティを実行すると再構成パラメタファイルの `recreate -u` 及び `-d` オペランドで指定したアンロード用ファイルが作成されます。このファイルは正常終了時には削除されますが、異常終了時には削除されません。そのため異常終了した後に同じアンロード用ファイルを使って [データベースのエリアの再構成] ユティリティを実行するときは、このファイルを削除してください。

- このユーティリティが異常終了した場合、その終了メッセージが KFXO57977-E のときはデータベースが不完全な状態になっています。この場合、再構成パラメタファイルの file パラメタで指定したファイルが残っていることがあるので削除してください。その後、データベースをバックアップによって回復してください。終了メッセージが KFXO57032-E のときには、データベースの回復は必要ありません。
- High-end Object Server では、[データベースのエリアの再作成] ユティリティの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

8.6 データベースの再初期化

この節では、データベースのバックアップを取得していない場合に、データベースのファイルが削除されたなどのファイル障害を回復するための、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティの機能について説明します。

8.6.1 データベースのエリアの再初期化

この項では、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティの機能及びコマンドの指定方法、文法について説明します。このユティリティは、コマンドプロンプトから実行します。

(1) 機能

オブジェクトサーバのデータベースのエリアを再初期化します。再初期化の対象となるエリアは、ユーザ用及びインデクス用のエリアです。

ユーザ用エリアで、該当するエリアにタイプが定義されている場合、エリアを再初期化した後、マスタディレクトリを参照してタイプ定義を復旧します。このとき、該当するタイプのオブジェクト数は0件になります。再初期化した後に、[データベースの再編成] ユティリティを使用してデータベース全体を再編成し、そして該当するエリアのデータの再登録や整合性の確保を連携プログラムで実行してください。

インデクス用エリアで、該当するエリアにインデクスが定義されている場合、エリアを再初期化した後、マスタディレクトリを参照して、インデクス定義を復旧します。このとき、該当するインデクスは未作成の状態になります。再初期化した後に、[データベースの再編成] ユティリティのインデクス再作成を使用するか、又はデータベース全体の再編成を実行して、再初期化したエリアのインデクスを再作成してください。

なお、再初期化時、エリアの用途、セグメントサイズ、及びファイル名は、再初期化前の情報を引き継ぎます。

ユティリティの処理結果は、オブジェクトサーバシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。ユティリティが正常に終了した場合には、処理結果の末尾に正常終了のメッセージが出力されます。

エラーが発生した場合には、正常終了のメッセージが出力されません。このときには、イベントログ、又はコマンドプロンプトに出力されたエラーメッセージを参照してエラーの原因を取り除き、ユティリティを再実行してください。

(2) コマンド

形式

```
xodarint -n エリア名 [-i 割り当て量]
```

オプション

- -n エリア名
再初期化するエリア名を1~30バイトまでの<文字列>で指定します。全角・半角のどちらの文字も使用できます。
- -i 割り当て量
-n オプションで指定したエリアの割り当て量をセグメント数で指定します。1~256900の<符号なし整数>を指定してください。

指定を省略した場合は、割り当て量 1 として再初期化されます。また、ファイルサイズが 2 ギガバイトを超える場合も、割り当て量 1 として再初期化されます。

ただし、再初期化するエリア中に正常なファイルがある場合には、その正常なファイルに対しては割り当て量の指定は無視され、再初期化前の割り当て量で再初期化されます。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

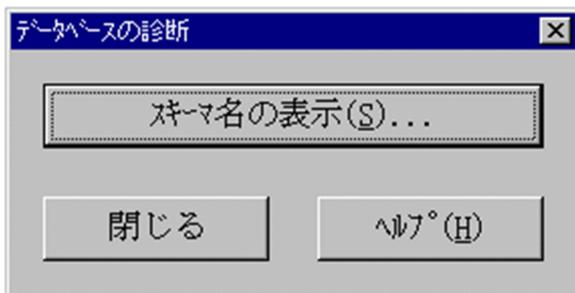
(3) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユティリティは、オブジェクトサーバを停止させてから実行してください。オブジェクトサーバの起動中には実行しないでください。
- 再初期化するエリア中のすべてのファイル実体のサイズが 0 ではなく、すべてのファイル実体が存在しているときにこのユティリティを実行すると、エラーメッセージが出力されて終了します。この状態のときに再初期化を実行したい場合は、該当するエリア中のファイルの一部又はすべてを削除してから、ユティリティを実行してください。
- このユティリティでは、ファイルの最大割り当て量を指定できません。最大割り当て量を指定したい場合は、再初期化を実行した後で、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを使用して、最大割り当て量を設定してください。ただし、再初期化するエリア中に正常なファイルがある場合、その正常なファイルは、再初期化前の最大割り当て量で再初期化されますので、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを使用して最大割り当て量を設定する必要はありません。
- ユティリティ実行時の障害や、誤ったエリアを再初期化してしまった場合に備えて、ユティリティを実行する前にデータベースのバックアップを取得しておくようにしてください。また、ユティリティが正常終了した場合、その後の障害に備えて、ユティリティ実行後のデータベースのバックアップを取得しておいてください。

8.7 データベース診断

この節では、データベースの内容を調査するためのユーティリティの機能について説明します。このユーティリティは、[スキーマ名の表示] ユティリティです。図 8-17 にこのユーティリティを起動する、[データベースの診断] ダイアログを示します。

図 8-17 [データベースの診断] ダイアログ



- 起動方法

[Object Server 管理ツール] ウィンドウの [データベース診断] アイコン、又は [ユーティリティ(U)] メニューの [データベース診断(G)] を選択する。

- ボタンの説明

閉じる：

[データベースの診断] ダイアログを閉じて、[Object Server 管理ツール] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ(H)：

[データベースの診断] ダイアログのヘルプを表示します。

8.7.1 スキーマ名の表示

この項では、[スキーマ名の表示] ユティリティの機能について説明します。このユーティリティはダイアログから実行します。

(1) 機能

データベースに定義されているスキーマ名称を表示します。

すでに稼働している Groupmax システムに連携プログラムを追加する場合、連携プログラムのデータベースの初期化時に、オブジェクトサーバのスキーマ名を指定する必要があります。スキーマ名は、すでに稼働している連携プログラムの初期化をするときに定義されています。オブジェクトサーバの [スキーマ名の表示] ユティリティで確認してください。

(2) 操作

[スキーマ名の表示] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [データベースの診断] ダイアログの [スキーマ名の表示(S)...] を選択する
メッセージボックスにスキーマ名が表示されます。

(3) 注意事項

このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

8.7.2 データベースエリアの使用状況の表示

この項では、[データベースエリアの使用状況の表示]ユティリティの機能について説明します。このユティリティは、コマンドプロンプトから実行します。

(1) 機能

データベースエリアの使用状況の表示では、ディクショナリ用エリア、OID インデクス用エリア、ユーザ用エリア及びインデクス用エリアの使用状況を表示します。使用状況は標準出力に出力されます。設定によってファイルに出力することもできます。

データベースエリアの使用状況から、次のことが分かります。

- データベースエリアのファイルの増分
- データベースの再編成が有効なエリア
- データベースが満杯に近づいているエリア（ユーザ用エリア及びインデクス用エリア）
- エリア再構成パラメタに指定する値の見積もり値

出力した表示の見方については、「4.3.2 データベースエリアの使用状況の表示」を参照してください。

(2) コマンド

形式

```
xodbuse [-m マスタディレクトリのファイル名称] [-a エリア名称 [,エリア名称…]]
```

オプション

- -m マスタディレクトリのファイル名称
使用状況を表示するデータベースのマスタディレクトリのファイル名称を指定します。2～175バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。このオプションを省略すると、システム共通定義ファイル(%XODCONFPATH%¥ xodrc) で定義しているマスタディレクトリのファイル名称を仮定します。
- -a エリア名称 [,エリア名称…]
表示対象エリアを限定する場合に、表示するエリアの数だけ繰り返して指定します。1～30バイトの<文字列>で指定します。このオプションを省略すると、すべてのエリアを表示対象にします。
なお、このオプションで指定できるエリア名称,…の文字数の最大は、-m オプションを指定する場合は(254-指定したマスタディレクトリのファイル名のバイト数)バイト、指定しない場合は255バイトです。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

- 0 : 正常終了
- 1 以上: 異常終了

<実行例>

[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティで出力した表示状況を、ファイルに出力する実行方法の例を次に示します。

- ファイル「result.txt」にデータベースエリアの使用状況を出力する

```
xodbuse > result.txt
```

(3) 注意事項

このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。

8.7.3 データベースのエリアの情報表示

この項では、[データベースのエリアの情報表示] ユティリティの機能について説明します。このユティリティは、コマンドプロンプトから実行します。

(1) 機能

データベースのエリアの情報表示では、次のデータベースのエリアの情報を表示します。情報は標準出力に出力されます。

- エリア名称
- エリアの用途
- エリア番号
- エリア内の合計ページ数
- エリアのセグメントサイズ
- エリアの利用可能ページ数
- エリアのページ長
- ファイルの通番
- ファイル名称
- ファイルの現在割当量
- ファイルの最大割当量
- ファイルのページ数
- ファイルの初期化日時

出力した表示の見方については、「4.3.3 データベースのエリアの情報表示」を参照してください。

(2) コマンド

形式

```
xodarls
```

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(3) 注意事項

オブジェクトサーバを起動してから停止するまでの間に追加できるエリア数の上限値を超えて追加したエリアの情報は、オブジェクトサーバを再起動すると表示されます。

8.7.4 ディクショナリの情報表示

この項では、[ディクショナリの情報表示] ユティリティの機能について説明します。このユティリティは、コマンドプロンプトから実行します。

(1) 機能

ディクショナリの情報表示では、ディクショナリに登録されているノード ID、エリア情報、スキーマ名、タイプ情報、ユニバーサル関連情報及びインデクス情報を表示します。情報は標準出力に出力されます。

出力した表示の見方については、「4.3.4 ディクショナリの情報表示」を参照してください。

(2) コマンド

形式

```
xoddicls [-d ディクショナリ用エリアのファイル名称] [-a]
```

オプション

- -d ディクショナリ用エリアのファイル名称
情報を表示するディクショナリ用エリアのファイル名称を指定します。2~175 バイトのドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。このオプションを省略すると、システム共通定義ファイル (%XODCONFPATH%\% xodrc) で定義しているマスタディレクトリのファイル名よりマスタディレクトリを参照し、ディクショナリエリアのファイル名称を求めてファイル名称を仮定します。
ただし、オブジェクトサーバの動作中は、このオプションの指定を無視します。
- -a 名称順ソートオプション
各名称（エリア名称、タイプ名称、インデクス名称、ユニバーサル関連名称）順にソートされて表示されます。このオプションを省略すると、各番号（エリア番号、タイプ ID、インデクス ID、ユニバーサル関連 ID）順にソートされて表示されます。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

- 0 : 正常終了
- 1 以上 : 異常終了

8.8 システム運用支援

この節では、システムの運用を支援するためのユーティリティ及びコマンドについて説明します。システム運用支援のユーティリティは次の四つです。

- [システムジャーナルの情報] ユティリティ
- [ステータスファイルの情報] ユティリティ
- [ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティ
- [アプリケーション実行モードへの変更] ユティリティ

これらのユーティリティのうち、Object Server では、[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティだけが実行できます。

図 8-18 にこれらのユーティリティを起動する、[システムの運用支援] ダイアログを示します。

図 8-18 [システムの運用支援] ダイアログ



- 起動方法

1. [Object Server 管理ツール] ウィンドウの [システム運用支援] アイコン、又は [ユーティリティ(U)] メニューの [システムの運用支援(U)] を選択する
[システムの運用支援] ダイアログが表示されます。

- ボタンの説明

閉じる：

[システムの運用支援] ダイアログを閉じて、[Object Server 管理ツール] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ(H)：

[システムの運用支援] ダイアログのヘルプを表示します。

8.8.1 システムジャーナルの情報の表示とアンロード(High-end Object Server)

この項では、[システムジャーナルの情報] ユティリティ、[システムジャーナルの情報] ユティリティから [アンロード] ボタンを選択して表示する [システムジャーナルのアンロード] の機能及びダイアログに指定する項目について説明します。これらのユーティリティは、High-end Object Server で使用します。このユーティリティはダイアログから実行します。

(1) [システムジャーナルの情報] ユティリティ(High-end Object Server)

(a) 機能

ジャーナルファイルについての情報を表示します。

オブジェクトサーバ停止中に実行すると、ファイルグループ名だけが表示されます。

(b) 操作

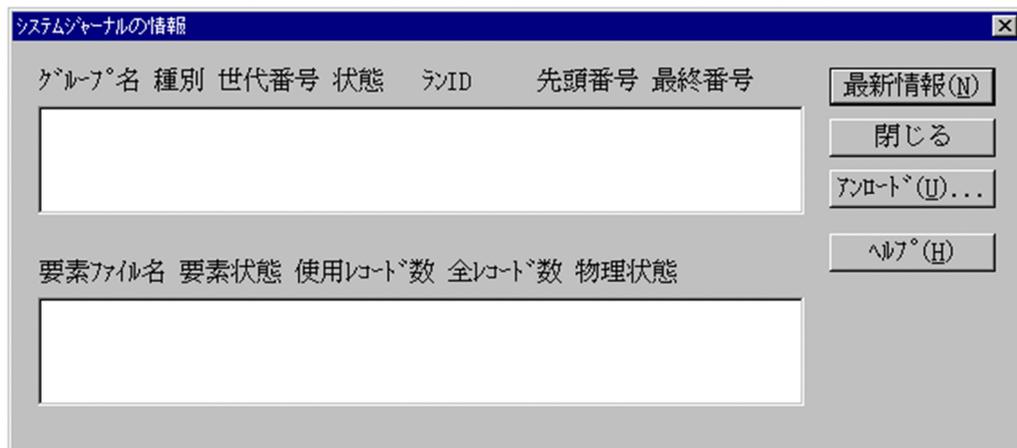
[システムジャーナルの情報] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [システムの運用支援] ダイアログの [システムジャーナルの情報(J)...] を選択する
[システムジャーナルの情報] ダイアログに詳細情報が表示されます。

(c) ダイアログに表示される項目

図 8-19 に [システムジャーナルの情報] ダイアログを示します。

図 8-19 [システムジャーナルの情報] ダイアログ



グループ名：ファイルグループ名

種別：ファイル種別

sys：システムジャーナルファイル

世代番号：ファイルの世代番号（16 進数）

状態：ファイルの状態が、6 文字で表されます。それぞれの意味は次のとおりです。

- ファイルグループのオープン状態
 - o：オープン中
該当するファイルグループを構成する要素ファイルがオープンされています。
 - c：クローズ中
該当するファイルグループを構成する要素ファイルがクローズされています。
- ファイルグループの状態
 - c：現用
ファイルグループが有効な要素ファイルで構成されていて、現時点でジャーナルの出力対象になっています。

s: 待機

ファイルグループが有効な要素ファイルで構成されていて、現時点でジャーナルの出力対象になっていません。

n: 予約

ファイルグループが有効な要素ファイルで構成されていません。

- **ファイルグループのアンロード状態**

u: アンロード待ち

スワップされて現用でなくなり、アンロードする必要のあるジャーナルを含んでいます。

-: アンロード済み

- **ファイルグループが上書きできるかできないかの状態**

d: 上書きできません

システムの回復に必要なジャーナルを含んでいます。

-: 上書きできます

システムの回復に必要なジャーナルを含んでいません。

- **ファイルグループのオブジェクトサーバでの状態**

b: [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ, xodjnlchg コマンドで使用するか又は回復処理で使用中の状態です。

-: [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ, xodjnlchg コマンドで使用するか又は回復処理で使用でない状態です。

- **ファイルグループの不整合状態**

c:

過去に現用として使われていたときに、障害によって管理情報が現用のままとっている要素ファイルがあります。例えば現用中にジャーナルの出力障害が発生したファイルグループなどです。

-:

過去に現用として使用され、正しく処理されているファイルです。

ラン ID: (16 進数)

ファイルが使用されたときのジャーナルサービスのラン ID です。

先頭番号: 先頭ブロック番号 (16 進数)

最終番号: 最終ブロック番号 (16 進数)

要素ファイル名: 要素ファイルの名称

要素状態:

要素ファイルの状態が、5 文字で表されます。それぞれの意味は次のとおりです。

- **要素ファイルのオープン状態**

o: オープン状態

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルがオープンされています。

c: クローズ状態

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルがクローズされています。

- **要素ファイルが使用できるかどうかの状態**

n: 要素ファイルが、オンラインで使用できる物理ファイルで構成されていません。

u: 要素ファイルが、オンラインで使用できる物理ファイルで構成されています。

- 要素ファイルのアンロード状態

u: アンロード待ち

アンロードする必要のあるジャーナルを含んでいます。

-: アンロード済み

- 要素ファイルの閉塞状態

h: 閉塞中

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルで障害が発生したため、以降ジャーナルを取得していない物理ファイルを含む要素ファイルです。

-: 閉塞中ではありません (正常な要素ファイルです)

- 要素ファイルが読み込みできるかどうかの状態

r:

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルが読み込みできない状態です。全面回復又は部分回復しようとしても、ジャーナルが消去 (初期化) されていて、読み込みできません。システムジャーナルファイルの障害の要因を取り除いた後、物理ファイルを再作成してオープンした場合、この状態になります。

-:

該当する要素ファイルを構成する物理ファイルが読み込みできる状態です。

使用レコード数: 該当するファイルでの使用済みレコード数 (16 進表示)

ジャーナルを出力したオブジェクトサーバファイルシステム上のレコード数です。0 が表示されているときは、ジャーナルが 1 件も出力されていない場合です。全面回復完了後、現用以外の状態の場合、使用済みレコード数の内容が正しくなくなることがあります。

全レコード数: 該当するファイル内の全レコード数 (16 進表示)

ジャーナルを出力できるオブジェクトサーバファイルシステム上のレコード数です。ファイル内の全レコード数はジャーナルサービスがジャーナルブロックを出力できるオブジェクトサーバファイルのレコード数です。この値は xodjnlinit コマンドの -n オプションで指定したレコード数から 4 を引いて求めます。

物理状態:

物理ファイルの状態が、5 文字で表されます。それぞれの意味は次のとおりです。

- u: 物理ファイルのオープン状態

o: オープン中

ジャーナルサービスが該当する物理ファイルをオープンしています。

c: クローズ中

ジャーナルサービスが該当する物理ファイルをオープンしていません。

- 物理ファイルの状態

c: 現用

ファイルグループの状態が現用のとき:

実際にジャーナルの出力対象になっていることを示します。

ファイルグループの状態が現用でないとき:

過去に現用だったときに障害が発生し、回復されていないためにシステムステータス情報が残っている状態です。この場合は、次のどちらかの処理をしないと再使用できません。

- [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ又は xodjnlchg コマンドで状態を回復する。

- xodjnlinit コマンドで初期設定する。

s：待機

• 物理ファイルのアンロード状態

o：アンロード待ち

該当する物理ファイルに、アンロードする必要のあるジャーナルがあります。

-：アンロード済み

該当する物理ファイルには、アンロードする必要のあるジャーナルはありません。

• 物理ファイルの閉塞状態

h：閉塞中

ジャーナルの出力、又はジャーナルファイルヘッダの入出力で障害が発生し、以降ジャーナルを出力していません。

-：閉塞中ではありません

ジャーナルを出力できます。

• 物理ファイルが読み込みできるかどうかの状態

r：読み込みできない状態

全面回復、部分回復しようとしても、ジャーナルが消去（初期化）されていて、読み込みできません。システムジャーナルファイルの障害の要因を取り除いた後、物理ファイルを再作成してオープンした場合、この状態になります。

-：読み込みできる状態です。

1 レコードとは、ジャーナルサーバで管理するファイルシステム上の 4,096 バイトのエリアのことです。

(d) ボタンの説明

最新情報(N)：

システムジャーナルの最新情報を表示します。

閉じる：

[システムジャーナルの情報] ダイアログを閉じて、[システムの運用支援] ダイアログに戻ります。

アンロード(U)...：

[システムジャーナルの情報] ダイアログのリストで選択したファイルグループをアンロードするための、[システムジャーナルのアンロード] ダイアログを表示します。

ヘルプ(H)：

[システムジャーナルの情報] ダイアログのヘルプを表示します。

(e) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- ファイルグループの状態を変更中に [システムジャーナルの情報] ユティリティを実行すると、正しい状態が表示されないこともあります。ファイルグループの状態変更とは、次のような場合です。
 - スワップ中
 - ファイルグループを操作するユティリティ、又は運用コマンドの処理中

(2) [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ (High-end Object Server)

(a) 機能

指定したファイルグループを出力先のファイルへアンロードします。さらに、ファイルグループをアンロード済み状態にします。

ただし、次に示すファイルグループはアンロードできません。

- 現用ファイルグループ
- アンロード済みのファイルグループ

(b) 操作

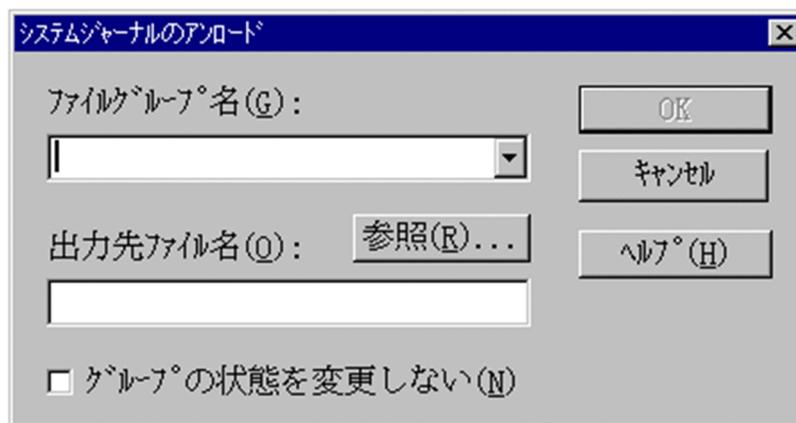
[システムジャーナルのアンロード] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [システムジャーナルの情報] ダイアログのリストで、アンロードするファイルグループを選択する
2. [システムジャーナルの情報] ダイアログで [アンロード(U)...] を選択する
[システムジャーナルのアンロード] ダイアログが表示されます。
3. アンロードするファイルグループ名、出力先のファイル名及び状態変更の有無を指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[システムジャーナルのアンロード] ユティリティが実行されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 8-20 に [システムジャーナルのアンロード] ダイアログを示します。

図 8-20 [システムジャーナルのアンロード] ダイアログ



ファイルグループ名(G) :

アンロードするシステムジャーナルファイルのファイルグループ名を 1~8 バイトの<識別子>で指定します。

出力先ファイル名(O) :

出力先のファイル名称を 1~63 バイトのドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

グループの状態を変更しない(N) :

ファイルグループの状態を変更しない場合に指定します。

(d) ボタンの説明

OK :

[システムジャーナルのアンロード] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[システムジャーナルのアンロード] ダイアログを閉じて、[システムジャーナルの情報] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[システムジャーナルのアンロード] ダイアログのヘルプを表示します。

参照(R)... :

[参照] ダイアログを表示します。

(e) 注意事項

- このユーティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユーティリティは、ジャーナルサービス開始中に実行できません。実行した場合、システムジャーナルファイルの状態が、オブジェクトサーバに反映されないことがあります。この場合、次の手順で実行するとシステムジャーナルファイルの状態が反映されます。
 - ジャーナルサービスの開始又は再開始処理完了後に xodjnlcls コマンドで、該当するファイルグループをクローズする
 - その後 xodjnlopn コマンドでオープンする

8.8.2 ステータスファイルの情報(High-end Object Server)

この項では、[ステータスファイルの情報] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目について説明します。このユーティリティは、High-end Object Server で使用します。このユーティリティはダイアログから実行します。

(1) 機能

ステータスファイルの状態を表示します。

(2) 操作

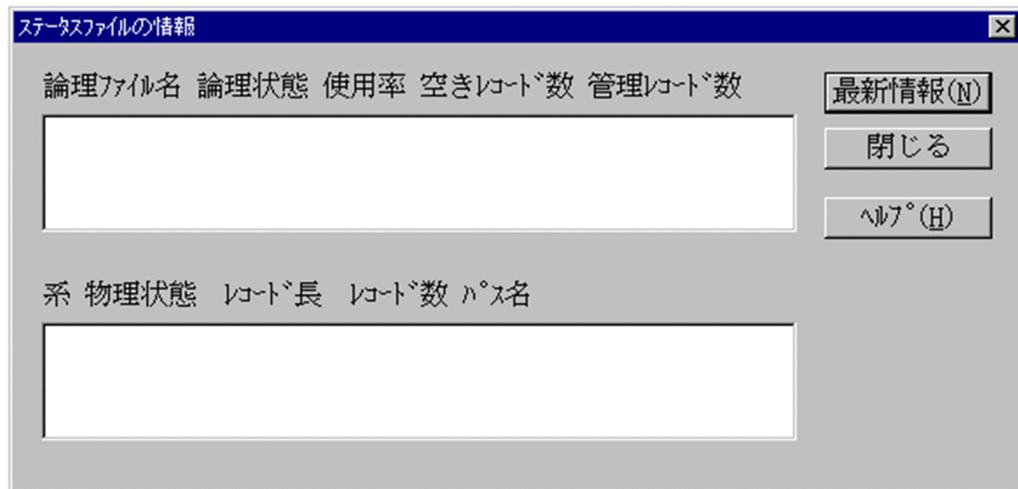
[ステータスファイルの情報] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [システムの運用支援] ダイアログの [ステータスファイルの情報(S)...] を選択する
[ステータスファイルの情報] ダイアログに詳細情報が表示されます。

(3) ダイアログに表示する項目

図 8-21 に [ステータスファイルの情報] ダイアログを示します。

図 8-21 「ステータスファイルの情報」 ダイアログ



論理ファイル名：論理ファイル名（8バイト以内）

論理状態：論理ファイルの状態

- ACTIVE：現用ファイル
- BLOCKADE：障害閉塞ファイル
- CLOSE：予約ファイル（クローズファイル）
- NONE：ファイル実体がない
- STANDBY：予備ファイル

使用率：ファイル内のレコード使用率（3けたの%表示）

空きレコード数：ファイル内の連続空きレコード数（10進数）

管理レコード数：ファイル内管理レコード数（10進数）

系：物理ファイルの系の表示

- A：A系
- B：B系

物理状態：物理ファイル状態

- a：現用ファイル
- b：障害閉塞ファイル
- c：クローズファイル
- i：初期設定状態
- l：論理エラー
- n：ファイル実体がない状態
- o：オープンファイル
- p：物理エラー
- r：障害情報によるファイル状態回復
- s：予備ファイル
- u：使用済みファイル

レコード長：レコード長（10進数）

レコード数：レコード数（10進数）

パス名：物理ファイル名（63バイト以内）

(a) ボタンの説明

最新情報(N)：

ステータスファイルの最新情報を表示します。

閉じる：

[ステータスファイルの情報] ダイアログを閉じて、[システムの運用支援] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H)：

[ステータスファイルの情報] ダイアログのヘルプを表示します。

(4) 注意事項

- このユーティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- ステータスサーバが動作中のときだけ、ステータスファイルの状態を管理しています。
このため、ステータスサービスの動作中に次のコマンドを実行しても、表示されるファイル状態は変わりません。

- クローズ状態のファイルに xodstsinit コマンドを実行する。
- クローズ状態のファイルに xodstsrn コマンドを実行する。

注 クローズ状態とは次の状態を指します。

CLOSE（予約ファイル）

NONE（ファイル実体がない）

BLOCKADE（障害閉塞ファイル）

- 現在のファイル状態は次の手順で表示できます。
xodstsinit 又は xodstsrn コマンドを実行する。
xodstsopn コマンドを実行する。
[ステータスファイルの情報] ユティリティを実行する。

8.8.3 ユーザジャーナルのアンロード

この項では、[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティの機能及びダイアログに指定する項目、コマンドの指定方法及び文法について説明します。

(1) 機能

指定されたユーザジャーナルファイルをアンロード先ファイルにアンロードします。

(2) ダイアログから実行する方法

(a) 操作

1. [システムの運用支援] ダイアログで [ユーザジャーナルのアンロード(U)...] を選択する
[ユーザジャーナルのアンロード] ダイアログが表示されます。
2. アンロードするファイルの種別及び出力先のファイル名を指定する
3. [OK] ボタンを選択する

[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティが実行されます。

(b) ダイアログで指定する項目

図 8-22 に [ユーザジャーナルのアンロード] ダイアログを示します。

図 8-22 [ユーザジャーナルのアンロード] ダイアログ



ファイル種別

アンロードするユーザジャーナルファイルの種別を指定します。システム共通定義で ujfile パラメタの -n オプションに指定した正常時用又は障害時用のファイルに対応します。正常時用ファイルの場合は「正常時用(N)」を、異常時用ファイルの場合は「異常時用(E)」を選択します。

アンロード先ファイル名(Q)

ユーザジャーナルファイルをアンロードするためのアンロード先ファイル名を指定します。

(c) ボタンの説明

OK :

[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティを実行します。

キャンセル :

[ユーザジャーナルのアンロード] ダイアログを閉じて、[システムの運用支援] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[ユーザジャーナルのアンロード]
ダイアログのヘルプを表示します。

参照(R)... :

[参照] ダイアログを表示します。

(3) コマンドから実行する場合

形式

```
xodujunl -f {n|e} -o アンロード先ファイル名 [-r]
```

オプション

- -f {n|e} -o アンロード先ファイル名

アンロードするアンロード先ファイル名のパス名を指定します。

パス名は、フルパス名、相対パス名のどちらも指定できます。処理結果は、メッセージボックスに表示されます。

n：正常時用ユーザジャーナルファイル

e：異常時用ユーザジャーナルファイル

- -r

このオプションを指定するとコマンド開始、終了時に、メッセージボックスによる応答待ちはしません。また、コマンドエラーメッセージは、コマンドプロンプト（標準エラー出力）に表示します。ただし、コマンドのパラメタエラーは、指定に関係なくメッセージボックスに出力されます。これによって、ユーザジャーナルのアンロードをバッチファイルなどを使用して自動化することができます。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0：正常終了

1以上：異常終了

(4) 注意事項

- このユーティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユーティリティは、オブジェクトサーバが動作中の時だけ実行できます。

8.8.4 アプリケーション実行モードへの変更 (High-end Object Server)

この項では、[アプリケーション実行モードへの変更]ユーティリティの機能について説明します。このユーティリティはダイアログから実行します。

(1) 機能

[データベースの回復] ユティリティ及び [データベースのバックアウト] ユティリティを実行する「回復ユーティリティ実行モード」、及びそれ以外のオブジェクトサーバのユーティリティを実行する「ユーティリティ実行モード」になっている場合に、Groupmax Address/Mail Server, Groupmax Document Manager 及び Groupmax Workflow Server が実行できるモードに変更します。

(2) 操作

[システムの運用支援] ダイアログで [アプリケーション実行モードへの変更(P)] を選択する

(3) 注意事項

- このユーティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- ユティリティ実行中の場合はモードを変更できません。
- このユーティリティによってモードを変更した後では、オブジェクトサーバを起動したままで「ユーティリティ実行モード」又は「回復ユーティリティ実行モード」に戻せません。ユーティリティを実行する場合は、いったんオブジェクトサーバを正常終了させた後に、ユーティリティ実行モード又は回復ユーティリティ実行モードで再起動してください。

8.8.5 ユティリティ実行モードによる開始

この項では、[ユティリティ実行モードによる開始] ユティリティの機能について説明します。このユティリティはコマンドプロンプトから実行します。

(1) 機能

オブジェクトサーバをユティリティ実行モードで正常開始します。OS のサービス機能を利用してスタートアップパラメタに「utl」を指定した場合と同じ状態で開始します。これによって、ユティリティ実行モードで実行するユティリティを、バッチファイルなどを使用して自動で実行できます。ユティリティ実行モードで実行するユティリティは、次のユティリティです。

- データベースの構成を変更するユティリティ
- データベースを再編成するユティリティ
- データベースを再構成するユティリティ

[ユティリティ実行モードによる開始] ユティリティの処理でエラーが発生した場合は、標準出力にエラーメッセージを出力します。また、このユティリティ実行時に、すでにオブジェクトサーバが起動している場合は、イベントログにメッセージを出力します。

(2) コマンド

形式

xodusta

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

- 0 : 正常終了
- 1 以上 : 異常終了

(3) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- このユティリティは、前回の終了形態が正常終了の場合、ユティリティ実行モードで正常開始します。前回の終了形態が異常終了の場合には、まずデータベースを回復してから、ユティリティを実行してください。

8.9 障害時の運用に使用するユティリティ

この節では、障害時の運用に使用するユティリティについて説明します。このユティリティは [障害発生後の起動環境の修復] ユティリティです。

8.9.1 障害発生後の起動環境の修復

オブジェクトサーバでは、障害が発生した時に使用する障害情報を出力しています。これらの障害情報はオブジェクトサーバによって自動的に削除されません。したがって、障害情報がハードディスクの容量を圧迫している場合には、不要な障害情報を削除してください。

(1) 機能

不要になった障害情報を削除します。障害情報とは、システム管理者が障害の原因を調査するために使用する情報のことです。[障害発生後の起動環境の修復] ユティリティを実行すると、次のことが実行されます。

- 共有メモリにアタッチしたままのプロセスがあるか調べて、ある場合にはメッセージで通知します。メッセージは%XODDIR%¥ spool ¥ xodclear.log に出力します。
なければ共有メモリを削除します。
- %XODDIR%¥ spool 及び%XODDIR%¥ tmp を初期化します。
- %XODDIR%¥ spool が存在しない場合、メッセージでディレクトリの作成とジャーナルファイルの復元を促します (Object Server)。

(2) コマンド

形式

```
xodclear [-r]
```

オプション

- -r
このオプションを指定するとコマンド開始及び終了時に、メッセージを標準出力に出力して、メッセージボックスには出力しません。ただし、オプション指定が不正の場合のエラーメッセージは常にメッセージボックスに出力します。これによって、[障害発生後の起動環境の修復] ユティリティをバッチファイルなどを使用して自動化できます。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

```
0      : 正常終了
1以上 : 異常終了
```

(3) 注意事項

- このユティリティを実行できるのは、オブジェクトサーバのシステム管理者だけです。
- 障害情報ファイル (shmdump, core など) を削除するので、障害情報が必要な場合は%XODDIR%¥ spool 及び%XODDIR%¥ tmp のバックアップを取得しておいてください。また、Object Serverで簡易ジャーナルファイルの出力先を変更している場合は、その出力先のファイルのバックアップも取得しておいてください。

8.10 サーバ管理ユーティリティ

この節では、サーバ管理ユーティリティについて説明します。このユーティリティは [プロセスの状態表示] ユーティリティです。

8.10.1 プロセスの状態表示

データベースを操作するプロセスはオブジェクトサーバに接続して、各々の操作を行います。そのプロセスの状態を表示します。

稼働中バックアップ開始コマンドが長時間終了しない時に、その要因となるプロセスを特定する場合、その時点で動作しているトランザクションがないか確認する必要があります。その場合、[プロセスの状態表示] ユーティリティを利用します。

(1) 機能

オブジェクトサーバプロセスとオブジェクトサーバに接続中のプロセスの状態を表示します。また、トランザクションの状態を表示します。

(2) コマンド

形式

```
xodpinfo
```

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

(3) 注意事項

システムに影響を与えないように排他制御を行わないため、更新中の情報を出力する場合があります。

(4) ユーティリティの処理結果

ユーティリティの処理結果として、プロセスの状態の情報が標準出力に出力されます。図 8-23 に処理結果の出力フォーマットを示します。なお、図 8-23 に示した出力フォーマットの項目の詳細は「付録 F プロセスの状態表示の出力例」の説明を参照してください。

図 8-23 【プロセスの状態表示】ユーティリティの処理結果の出力フォーマット

```

** a...a xodpinfo(vv-rr) **
ExecuteTime = b...b
HostName = c...c
XODDIR = d...d
SystemID = ee
** PROCESS_INFOMATION **
== MANAGER_INFO ==
ProcessCount=a...a
ConnectProcessCount=b...b
ServerMode = c...c
PrdPid = d...d
OnlineBackup = ee      WaitProcess = f...f
== PROCESS_INFO ==
Pid = a...a      Status = b
Uid = c...c      Gid = d...d
ServerName = e...e
LoadName = f...f
ServiceGroupName = g...g
CriticalCount = h...h CriticalMask = 0xi...i
CreateTime = j...j
FirstDownTime = k...k
DupCheckStatus = l...l
:
** End (PROCESS_INFOMATION) **
** TRANSACTION_INFOMATION **
== MANAGER_INFO ==
RunID = a...a
Status = b...b
TransactionCount = c...c
TransactionSequence = d...d
StartTime = e...e
== TRANSACTION_INFO ==
PID = a...a(b...b) TransactionID = c...c
Status1 = d...d Status2 = e
JNL = f...f
DBAccessMode = h
OnlineBackup = iii
RpcAddress = 0xj...j      RpcPort = k...k
:
** End (TRANSACTION_INFOMATION) **
** End (xodpinfo) **

```

- 注※1 実線内はこのユーティリティの情報が表示されます。
注※2 点線内はプロセスの状態が表示されます。
注※3 破線内はプロセスの管理情報が表示されます。
注※4 破線内は個々のプロセス情報が表示されます。サーバプロセスとコマンド/ユーティリティ/アプリケーションプロセスの数分表示されます。
注※5 点線内はトランザクションの状態が表示されます。
注※6 破線内はトランザクションの管理情報が表示されます。
注※7 破線内は個々のトランザクション情報が表示されます。実行中トランザクションの数分表示されます。

(5) このユーティリティで確認できる内容

稼働中バックアップ開始コマンドで長時間終了しない場合、その要因となるプロセスを特定します。次に示す手順で要因となるプロセスを特定してください。

- すべてのトランザクション情報から、図の※7 枠内の「iii」に示す値が「ON」であるトランザクション情報を探してください。
- 該当するトランザクション情報の「a...a」に示すPIDを確認してください。

3. すべてのプロセス情報から、図の※4 枠内の「a・・・a」に示す値が上記PID と一致するプロセス情報を探してください。
4. 該当するプロセス情報の「g・・・g」に示すサービスグループ名でプログラム名と実行ファイル名を確認してください。

9

High-end Object Server で使用する運用コマンド

この章では、High-end Object Server をご使用の場合に作成する、ステータスファイル及びシステムジャーナルファイルを操作するための運用コマンドについて説明します。

9.1 High-end Object Server の運用コマンド

9.1.1 コマンド一覧

(1) 運用コマンド一覧

High-end Object Server の運用コマンドを表 9-1 に示します。

表 9-1 High-end Object Server の運用コマンド一覧

機能		コマンド名称	動作中に実行	停止中に実行	実行権限
ジャーナルファイル管理	ジャーナルファイルのステータス変更	xodjnlchg	○	○	オブジェクトサーバのシステム管理者
	ジャーナルファイルのクローズ	xodjnlcls	○	×	
	ジャーナルファイルの初期設定	xodjnlinit	○	○	
	ジャーナルファイルのオープン	xodjnl opn	○	×	
	ジャーナルファイルの削除	xodjnlrm	○	○	
	ジャーナルファイルのスワップ	xodjnlswp	○	×	
	ジャーナルファイルのアンロード	xodjnlunl	○	○	
ステータスファイル管理	ステータスファイルのクローズ	xodstscls	○	×	
	ステータスファイルの作成と初期化	xodstsinit	○	○	
	ステータスファイルのオープン	xodstsofn	○	×	
	ステータスファイルの削除	xodstsrn	○	○	
	ステータスファイルのスワップ	xodstsswp	○	×	

(凡例)

- ：実行できる
- ×：実行できない

(2) 運用コマンド実行時の注意事項

- 運用コマンドは、オブジェクトサーバのシステム管理者が実行してください。

- ステータスファイルの作成と初期化(xodstsininit)及びステータスファイルの削除(xodstsrnm)は、現用又は予備状態のファイルには実行できません。

9.1.2 運用コマンドの指定方法

High-end Object Server の運用コマンドの指定方法について説明します。

(1) コマンドの入力方法

High-end Object Server の運用コマンドは、次のどちらかの方法で入力します。

- コマンドプロンプトから実行する
- 名称を指定して実行する

名称を指定して実行する場合は、次の手順で実行してください。

1. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)...] コマンドを選択する
2. コマンドを入力する

(2) コマンドの記述形式

コマンドの記述形式を次に示します。

コマンド名 [オプション …] [コマンド引数 …]

(例) `cmd -n -o 99 server1`

`cmd` : コマンド名

`-n, -o 99` : オプション

`server1` : コマンド引数

(a) コマンド名

コマンド名は、実行するコマンドのファイル名称です。オブジェクトサーバのシステム管理者だけが、これらのファイルにアクセスできます。

(b) オプション

オプションの入力方法を次に示します。

なお、次の説明中に使用する「cmd」はコマンド名称を表します。

● オプションの形式

オプションはマイナス記号 (-) で始まる文字列で、場合によっては一つの引数をとります。

形式 1 : -オプションフラグ

形式 2 : -オプションフラグ フラグ引数

(凡例)

オプションフラグ : 1 文字の英文字。大文字と小文字は区別されます。

フラグ引数 : オプションフラグに対する引数です。

● オプションの指定規則

- フラグ引数をとらないオプションフラグは、一つのマイナス記号の後にまとめて指定できます。

(例)

次の二つは同じ意味です。

```
cmd -a -b -c
```

```
cmd -abc
```

- フラグ引数をとるオプションフラグのフラグ引数は、省略できません。
- オプションフラグとフラグ引数の間には、空白又はタブが必要です。

(例)

誤：cmd-f

正：cmd -f

- フラグ引数中に空白を含める場合は、前後を引用符 (") で囲まなければなりません。

(例)

オプションフラグ：f

フラグ引数：1 2

```
cmd -f "1 2"
```

- 同じオプションフラグを 2 回以上指定できません。

(例)

誤：cmd -a 1 -a 2

- オプションは、コマンド引数の前に指定しなければなりません。

(例)

オプションフラグ a が引数をとらない場合、file 及び-d はコマンド引数とみなされます。

```
cmd -a file -d
```

- 二つのマイナス記号は、オプションの終わりを示します。

(例)

-b はコマンド引数とみなされます。

```
cmd -a -- -b
```

- マイナス記号だけでのオプションは入力できません。

(例)

- は、コマンド引数とみなされます。

```
cmd -
```

(c) コマンド引数

コマンド引数は、コマンドの操作対象を表します。

9.2 ジャーナルファイル管理

この節では、ジャーナルファイル管理に使用するコマンドの文法を説明します。それぞれのコマンドの形式、機能、オプション及び終了コードを記載しています。

この節で説明するコマンドを次に示します。

- xodjnlchg (ジャーナルファイルのステータス変更)
- xodjnlcls (ジャーナルファイルのクローズ)
- xodjnlinit (ジャーナルファイルの初期設定)
- xodjnlopn (ジャーナルファイルのオープン)
- xodjnlrm (ジャーナルファイルの削除)
- xodjnlswp (ジャーナルファイルのスワップ)
- xodjnlunl (ジャーナルファイルのアンロード)

xodjnlchg (ジャーナルファイルのステータス変更)

形式

```
xodjnlchg -j sys -g ファイルグループ名 [-d システムジャーナルサービス定義ファイル名] [-r]
```

機能

指定したファイルグループをアンロード済み状態にします。ただし、現用ファイルグループ及びアンロード済みのファイルグループのステータスは変更できません。

オプション

-j sys

システムジャーナルファイルのステータスを変更します。必ず指定してください。

-g ファイルグループ名

ステータスを変更するシステムジャーナルファイルのファイルグループ名を 1~8 バイトの<識別子>で指定します。

-d システムジャーナルサービス定義ファイル名

アンロードするファイルグループを定義している、システムジャーナルサービス定義ファイル名を次のどちらかの方法で指定します。

- ドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) を指定
- 定義ファイル名だけを指定
定義ファイル名だけを指定する場合は、環境変数 XODCONFPATH にあらかじめ定義ファイルが格納されているディレクトリをセットしておく必要があります。

このオプションの指定を省略すると、名称が%XODCONFPATH%¥ sysjnl である、システムジャーナルサービス定義ファイルで指定されているファイル名を仮定します。

-r

このオプションを指定すると、コマンドのエラーメッセージは標準出力に表示されます。ただし、コマンドのパラメタ指定に関するエラーメッセージは、このオプションの指定に関係なく、メッセージボックスに出力されます。

このオプションを指定することによって、ジャーナルファイルのステータス変更をバッチファイルを使用して実行できるようになります。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

注意事項

- このコマンドはオブジェクトサーバのシステム管理者だけが実行できます。
- xodjnlchg コマンドは、ジャーナルサービス開始中に実行しないでください。誤って実行した場合は、システムジャーナルファイルの状態が High-end Object Server に反映されないことがあります。このような場合は、次の手順でシステムジャーナルファイルの状態を High-end Object Server に反映させてください。
 1. ジャーナルサービスの開始又は再開始処理完了後に xodjnlcls コマンドで、該当するファイルグループをクローズする。
 2. その後 xodjnlopn コマンドでオープンする。

xodjnlcls (ジャーナルファイルのクローズ)

形式

```
xodjnlcls -j sys -g ファイルグループ名
```

機能

指定したファイルグループを構成するオープン中の物理ファイルをクローズして、オンラインで使用しないようにします。ただし、次のファイルグループを構成する物理ファイルはクローズできません。

- 現用及びシステムジャーナルの情報ユティリティで上書きできない状態のシステムジャーナルファイル

なお、xodjnlcls コマンドは、High-end Object Server が動作中で、かつジャーナルサーバが動作中のときだけ入力できます。

オプション

-j sys

システムジャーナルファイルをクローズします。必ず指定してください。

-g ファイルグループ名

クローズするジャーナル関係のファイルグループ名を 1~8 バイトの識別子で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

注意事項

xodjnlcls コマンドをスワップ処理中か、又は他の運用コマンドの処理中に入力するとエラーになることがあります。

xodjnlinit (ジャーナルファイルの初期設定)

形式

xodjnlinit -j jnl -f 物理ファイル名 {-n レコード数 | -s 作成サイズ}

機能

NTFS ファイルシステム下にシステムジャーナルファイルを作成します。さらに、オンラインで使用できるように初期設定します。

オプション

-j jnl

システムジャーナルファイルを初期設定します。必ず指定してください。

-f 物理ファイル名

初期設定する物理ファイル名を 63 バイト以下のドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

コマンドを実行すると、ここで指定したファイルが作成されますので、すでにある物理ファイルを指定するとエラーになります。

-n レコード数

初期設定するファイルのレコード数を 20~262144 の<符号なし整数>で指定します。なお、ここでいうレコードとはジャーナルサーバが管理するファイルシステム上のエリアの単位です。1 レコードは 4,096 バイトです。

-s 作成サイズ

初期化するファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。指定できる範囲は、80~1048576 です。なお、指定された値は、4 キロバイト単位に切り上げられます。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上: 異常終了

注意事項

- このコマンドはオブジェクトサーバのシステム管理者だけが実行できます。
- すでに、存在する物理ファイル名を指定するとエラーとなります。
- 作成する物理ファイルの容量は次の計算式で求められます。
 - 「xodjnlinit -j jnl -f 物理ファイル名 -n レコード数」と入力した場合
物理ファイルの容量 (バイト) = 4,096 × レコード数
 - 「xodjnlinit -j jnl -f 物理ファイル名 -s 作成サイズ」と入力した場合

$$\text{物理ファイルの容量 (バイト)} = \left\lceil \frac{\text{指定サイズ}}{4} \right\rceil \times 4,096$$

xodjnl opn (ジャーナルファイルのオープン)

形式

xodjnl opn -j sys -g ファイルグループ名

機能

指定したファイルグループを構成するクローズ中の物理ファイルをオープンして、オンラインで使用できるようにします。

xodjnl opn コマンドは、High-end Object Server が動作中で、かつジャーナルサーバが動作中のときだけ入力できます。

オプション

-j sys

システムジャーナルファイルをオープンします。必ず指定してください。

-g ファイルグループ名

オープンするジャーナル関係のファイルのファイルグループ名を 1~8 バイトの<識別子>で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上: 異常終了

注意事項

xodjnl opn コマンドをスワップ処理中又は他の運用コマンドの処理中に入力すると、エラーになることがあります。

xodjnlrm (ジャーナルファイルの削除)

形式

```
xodjnlrm -f 物理ファイル名
```

機能

ジャーナル関係のファイルを削除します。指定したファイルがオープン中の場合は、削除できません。

オプション

-f 物理ファイル名

削除する物理ファイル名をドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

xodjnlswp (ジャーナルファイルのスワップ)

形式

```
xodjnlswp -j sys [-r]
```

機能

現用のファイルグループを即時に切り替えます。スワップ先のファイルグループがない場合は、エラーになります。

xodjnlswp コマンドは、High-end Object Server が動作中で、かつジャーナルサーバが動作中のときだけ入力できます。

オプション

-j sys

システムジャーナルファイルをスワップします。必ず指定してください。

-r

このオプションを指定すると、コマンドのエラーメッセージは標準出力に表示されます。ただし、コマンドのパラメタ指定に関するエラーメッセージは、このオプションの指定に関係なく、メッセージボックスに出力されます。

このオプションを指定することによって、ジャーナルファイルのスワップをバッチファイルを使用して実行できるようになります。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

- 0 : 正常終了
- 1 以上: 異常終了

注意事項

xodjnlpn コマンドをスワップ中に実行すると、エラーになります。

xodjnlunl (ジャーナルファイルのアンロード)

形式

```
xodjnlunl -j sys -g ファイルグループ名 -o 出力先ファイル名
          [-d システムジャーナルサービス定義ファイル名] [-n] [-r]
```

機能

指定されたファイルグループを出力先のファイル又は標準出力へアンロードします。これによって、ファイルグループはアンロード済みの状態になります。

ただし、次のファイルグループのアンロードはできません。

- 現用のファイルグループ
- アンロード済みのファイルグループ

オプション

-j sys

システムジャーナルファイルのステータスをアンロードします。必ず指定してください。

-g ファイルグループ名

アンロードするシステムジャーナルファイルのファイルグループ名を1~8バイトの<識別子>で指定します。必ず、システムジャーナルファイルのファイルグループ名を指定してください。

-o 出力先のファイル名

アンロード先のファイル名を指定します。ファイル名として「*」を指定すると、標準出力へ出力されます。

-d システムジャーナルサービス定義ファイル名

アンロードするファイルグループを定義している、システムジャーナルサービス定義ファイル名を次のどちらかの方法で指定します。

- ドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）を指定
- 定義ファイル名だけを指定
定義ファイル名だけを指定する場合は、環境変数 XODCONFPATH にあらかじめ定義ファイルが格納されているディレクトリをセットしておく必要があります。

このオプションの指定を省略すると、名称が%XODCONFPATH%¥ sysjnl である、システムジャーナルサービス定義ファイルで指定されているファイル名を仮定します。

-n

このオプションを指定すると、ファイルグループの状態を変更しないで、アンロード待ちの状態を継続します。このように指定することによって、ファイルに対して繰り返しアンロードできます。そして、複数のアンロードファイルを作成できます。

-r

このオプションを指定すると、コマンドのエラーメッセージは標準出力に表示されます。ただし、コマンドのパラメタ指定に関するエラーメッセージは、このオプションの指定に関係なく、メッセージボックスに出力されます。

このオプションを指定することによって、ジャーナルのアンロードをバッチファイルを使用して実行できるようになります。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

注意事項

このコマンドはオブジェクトサーバのシステム管理者だけが実行できます。

9.3 ステータスファイル管理

この節では、ステータスファイル管理に使用するコマンドの文法を説明します。それぞれのコマンドの形式、機能、オプション及び終了コードを記載しています。

この節で説明するコマンドを次に示します。

- xodstscs (ステータスファイルのクローズ)
- xodstsininit (ステータスファイルの初期設定)
- xodststopn (ステータスファイルのオープン)
- xodstsrn (ステータスファイルの削除)
- xodstsswp (ステータスファイルのスワップ)

xodstscs (ステータスファイルのクローズ)

形式

xodstscs -n 論理ファイル名

xodstscs -f 物理ファイル名

機能

オープン状態のステータスファイルをクローズします。ただし、現用で使用中のファイルはクローズできません。

xodstscs コマンドでクローズできるファイルはステータスサービス定義で指定したステータスファイルだけです。さらに、ステータスサーバが動作中のときに有効です。

オプション

-n 論理ファイル名

クローズする論理ファイルの名称を 1~8 バイトの<識別子>で指定します。指定した論理ファイルを構成する A 系及び B 系の両方のファイルをクローズします。

論理ファイル名は、次の状態のときに指定できます。

- A 系又は B 系のどちらかのファイルがオープンしている
- A 系及び B 系の両方のファイルがオープンしている

論理ファイル名を指定すると、ステータスファイルの実体のパス名を意識する必要はありません。

-f 物理ファイル名

クローズする物理ファイルの名称をドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

-f オプションは、正常な系をクローズするときに指定します。したがって、ステータスファイルに障害が発生して閉塞状態になった系をクローズする場合には指定できません。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

注意事項

次の指定方法は同じ意味を表します。

- 「xodstscsls -f A 系物理ファイル名」, 「xodstscsls -f B 系物理ファイル名」と 2 回入力する
- 「xodstscsls -n 論理ファイル名」と入力する

xodstsininit (ステータスファイルの初期設定)

形式

xodstsininit -f 物理ファイル名 [-c レコード数]

機能

NTFS ファイルシステムをステータスサーバが使用できる形式に初期設定します。

ステータスサーバがオンラインで使用中（現用, 又は予備の状態）のステータスファイルは初期設定できません。

オプション

-f 物理ファイル名

初期設定する物理ファイルの名称を 63 バイト以下のドライブ名から始まるパス名（絶対パス名）で指定します。

-c レコード数

ステータスファイルのレコード数（32～4194304）を指定します。

指定を省略した場合は、256 が設定されます。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

注意事項

- ステータスサーバが起動中のときだけ、現用ステータスファイルを管理しています。そのため、xodstsininit コマンドを実行する場合、次のことに注意してください。
 - オンライン中に使用した現用のステータスファイルを初期設定しないでください。
 - 障害が発生して閉塞状態になったステータスファイルだけを初期設定してください。

- 一つの論理ファイルを構成する A 系と B 系の物理ファイルは、レコード数が等しくなるように初期設定してください。ただし、論理ファイルごとであれば、レコード数を変えてもかまいません。
- ステータスファイルのレコード数は High-end Object Server のシステム構成に依存します。オンライン中の場合は [ステータスファイルの情報] ユティリティでステータスファイルのレコード使用率を確認できます。レコード使用率を参考にしてレコード数を変更してください。オンライン中にレコード使用率が高くなった場合、現用のファイルよりレコード数の多いステータスファイルを予備のファイルとして初期設定できます。
- ステータスファイルの容量は次の計算式で求められます。
ステータスファイルの容量 (バイト) = 4,608 × レコード数

xodstsopn (ステータスファイルのオープン)

形式

xodstsopn -n 論理ファイル名

xodstsopn -f 物理ファイル名

機能

次のどちらかの状態のステータスファイルをオープンします。

- xodstsinit コマンドで初期設定したステータスファイル
- xodstscs コマンドを実行してクローズ状態にしたステータスファイル
ただし、xodstsopn コマンドでオープンできるステータスファイルは、ステータスサービス定義で指定したステータスファイルだけです。さらに、ステータスサーバが動作中のときに有効です。

オプション

-n 論理ファイル名

オープンする論理ファイルの名称を 1~8 バイトの<識別子>で指定します。指定した論理ファイルを構成する A 系及び B 系の両方のファイルをオープンします。

論理ファイル名は、次の状態のときに指定できます。

- A 系又は B 系のどちらかのファイルがクローズしている
- A 系及び B 系の両方のファイルがクローズしている

論理ファイル名を指定すると、ステータスファイルの実体のパス名を意識する必要はありません。

-f 物理ファイル名

オープンする物理ファイルの名称をドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

-f オプションは、次のどちらかの状態であるファイルをオープンする場合に指定します。

- ステータスファイルに障害が発生し、閉塞状態になったステータスファイル
- 容量を拡張するために xodstsinit コマンドで初期設定した物理ファイル

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

注意事項

次の指定方法は同じ意味を表します。

- 「xodstsopn -f A 系物理ファイル名」, 「xodstsopn -f B 系物理ファイル名」と 2 回入力する
- 「xodstsopn -n 論理ファイル名」と入力する

xodstsrn (ステータスファイルの削除)

形式

xodstsrn -f 物理ファイル名

機能

High-end Object Server 停止中にステータスファイルを削除します。

ステータスサーバがオンラインで使用 (現用, 又は予備の状態) のステータスファイルは削除できません。

オプション

-f 物理ファイル名

削除する物理ファイルの名称をドライブ名から始まるパス名 (絶対パス名) で指定します。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

注意事項

ステータスサーバが起動中のときだけ、現用ステータスファイルを管理しています。

そのため、xodstsrn コマンドを実行する場合、次のことに注意してください。

- オンライン中に使用した現用のステータスファイルを削除しないでください。
- 障害が発生して閉塞状態になったステータスファイルだけを削除してください。

xodstsswp (ステータスファイルのスワップ)

形式

xodstsswp

機能

ステータスファイルの状態を切り替えます。

現用のステータスファイルを予備として、予備のステータスファイルを現用とします。

終了コード

コマンドの終了コードを示します。

0 : 正常終了

1 以上 : 異常終了

付録

付録 A 初期設定パラメタの指定例

オブジェクトサーバを Groupmax シリーズのプログラムと連携して使用する場合は、初期設定パラメタの指定例と、ファイル容量の計算式を示します。連携プログラムによる見積もり方法については、Groupmax Address/Mail Server Groupmax Document Manager 及び Groupmax Workflow Server の各マニュアルを参照してください。

付録 A.1 指定例

(1) 初期設定パラメタファイルの例

初期設定パラメタファイルの記述例です。オブジェクトサーバの初期設定パラメタは、オブジェクトサーバ管理ファイルを指定します。指定方法については、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」を参照してください。また、ユーザデータベースは、連携プログラム用データ格納ファイルを指定します。

● 初期設定パラメタファイルの記述例

```

#####
***      Object Server      ***-これ以降は、
#####      オブジェクトサーバ
***      マスタディレクトリ      ***      管理ファイルを
#####      指定します。
area -n master -u MASTER -s 50
file -n c:\usr\%OMSDB%\master_dir -i 2
#####
***      データディレクトリ      ***
#####
area -n datadir -u DATADIR -s 50
file -n c:\usr\%OMSDB%\data_dir -i 1
#####
***      ディクショナリ      ***
#####
area -n dictionary -u DICTIONARY -s 8
file -n c:\usr\%OMSDB%\dictionary -i 124
#####
***      OIDインデクス      ***
#####
area -n oidindex -u OIDINDEX -s 32
file -n c:\usr\%OMSDB%\oidindex -i 41
#####
***      ユーザデータベース      ***-これ以降は、
#####      連携プログラム用
***      Document manager      ***      データ格納ファイル
#####      を指定します。
area -n IS_system_area -u USER -s 1
file -n c:\usr\%OMSDB%\user_db_1 -i 175
area -n IS_class_area_1 -u USER -s 32
file -n c:\usr\%OMSDB%\user_db_2 -i 233
area -n IS_string_area_1 -u USER -s 1
file -n c:\usr\%OMSDB%\user_db_3 -i 568
area -n IS_string_area_2 -u USER -s 1
file -n c:\usr\%OMSDB%\user_db_4 -i 568
area -n IS_version_area -u USER -s 190
file -n c:\usr\%OMSDB%\version_db_5 -i 1
area -n IS_users_area_1 -u USER -s 26
file -n c:\usr\%OMSDB%\user_db_6 -i 1
#####
***      Workflow      ***
#####
area -n WF_is_system -u USER -s 1
file -n C:\usr\%OMSDB%\wf_db_1 -i 32
area -n WF_is_class -u USER -s 192
file -n C:\usr\%OMSDB%\wf_db_2 -i 5
area -n WF_is_string -u USER -s 64
file -n C:\usr\%OMSDB%\wf_db_3 -i 16
area -n WF_manager_area -u USER -s 32

```

```

file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_mng -i 2
area -n WF_bp_area -u USER -s 128
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_bp -i 1
area -n WF_work_area -u USER -s 576
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_work -i 1
area -n WF_case_area -u USER -s 544
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_case -i 1
area -n WF_role_area -u USER -s 128
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_role -i 1
area -n WF_user_area -u USER -s 256
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_user -i 1
area -n WF_op_list_area -u USER -s 128
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_op_list -i 1
area -n WF_case_inf_area -u USER -s 128
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_case_inf -i 1
area -n WF_counter_area -u USER -s 352
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_counter -i 1
area -n WF_class_lock_area -u USER -s 1
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_class_lock -i 1
area -n WF_send_area -u USER -s 32
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_send -i 1
area -n WF_relation_area -u USER -s 128
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_relation -i 1
area -n WF_auto_deliver_area -u USER -s 320
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_auto_deliver -i 1
area -n WF_case_add_area -u USER -s 192
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_case_add -i 1
area -n WF_data_obj_area -u USER -s 320
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_data_obj -i 1
area -n WF_mb_master_bp_manager_area -u USER -s 32
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_mb_master_bp_manager -i 1
area -n WF_db_bp_distribution_area -u USER -s 32
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_db_bp_distribution -i 1
area -n WF_dr_role_distribution_area -u USER -s 288
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_dr_role_distribution -i 1
area -n WF_oa_operation_auth_area -u USER -s 192
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_oa_operation_auth -i 1
area -n WF_or_role_manager_area -u USER -s 32
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_or_role_manager -i 1
area -n WF_ua_user_auth_area -u USER -s 32
file -n C:¥usr¥OMSDB¥wf_ua_user_auth -i 1
#*****#
##*          Address          **#
#*****#
area -n GMA_LASTSEQNO_Type -u USER -s 2
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_LASTSEQNO_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USERCONFIG_Type -u USER -s 14
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_USERCONFIG_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USERCONFIG_ORNAME -u USER -s 3
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_USERCONFIG_ORNAME -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDMAILMAIN_Type -u USER -s 627
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_SENDMAILMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_Type -u USER -s 1297
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_SENDRECIPIENTS_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_SENDRECIPIENTS_ORNAME -u USER -s 856
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_SENDRECIPIENTS_ORNAME -i 1 -m 3
area -n GMA_KMLT_Type -u USER -s 6
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_KMLT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_RECVMAILMAIN_Type -u USER -s 3247
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_RECVMAILMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_REPORTMAIN_Type -u USER -s 710
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_REPORTMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NOTICEMAIN_Type -u USER -s 6526
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_NOTICEMAIN_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_RODATA_Type -u USER -s 1
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_RODATA_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_AORT_Type -u USER -s 4
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_AORT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_CMPT_Type -u USER -s 1
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_CMPT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_IORT_Type -u USER -s 9
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_IORT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_LORT_Type -u USER -s 2
file -n C:¥usr¥OMSDB¥GMA_LORT_Type -i 1 -m 3

```

```

area -n GMA_LUST_Type -u USER -s 15
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_LUST_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NXCT_Type -u USER -s 1
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_NXCT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NXIT_Type -u USER -s 3
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_NXIT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_NXIT_OR_NAME -u USER -s 2
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_NXIT_OR_NAME -i 1 -m 3
area -n GMA_NXLT_Type -u USER -s 4
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_NXLT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_TEMT_Type -u USER -s 2
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_TEMT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_TERMT_Type -u USER -s 1
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_TERMT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USRT_Type -u USER -s 25
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_USRT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_USRT_OR_NAME -u USER -s 7
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_USRT_OR_NAME -i 1 -m 3
area -n GMA_BDIT_Type -u USER -s 3
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_BDIT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_BRDT_Type -u USER -s 2
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_BRDT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_KAIRANDB_Type -u USER -s 1
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_KAIRANDB_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_HUST_Type -u USER -s 30
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_HUST_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_UDAT_Type -u USER -s 9
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_UDAT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_UDNT_Type -u USER -s 14
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_UDNT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_GMAT_Type -u USER -s 4
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_GMAT_Type -i 1 -m 3
area -n GMA_GMAT_ATTR -u USER -s 14
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_GMAT_ATTR -i 1 -m 3
#####
***      インデクス      ***
#####
***      Document manager      ***
#####
area -n IS_index_1_area_1 -u INDEX -s 1
file -n c:\usr\OMSDB\index_1 -i 3444
area -n IS_index_2_area_1 -u INDEX -s 1
file -n c:\usr\OMSDB\index_2 -i 3444
area -n IS_version_index -u INDEX -s 32
file -n c:\usr\OMSDB\version_index -i 2
area -n IS_users_index -u INDEX -s 32
file -n c:\usr\OMSDB\users_index -i 4
#####
***      Workflow      ***
#####
area -n WF_index_area -u INDEX -s 160
file -n c:\usr\OMSDB\wf_index -i 7
#####
***      Address      ***
#####
area -n GMA_INDEX_MAIL -u INDEX -s 290
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_INDEX_MAIL -i 14
area -n GMA_INDEX_USER -u INDEX -s 4
file -n C:\usr\OMSDB\GMA_INDEX_USER -i 32

```

付録 A.2 ファイル容量の計算式

初期設定パラメタの指定値から、データベースで使用するファイルの容量（キロバイト）を見積もるための計算式を示します。

なお、計算式の文字で「s」はセグメントサイズ（ページ）、「i」は初期割り当て量（キロバイト）及び「m」は最大割り当て量（キロバイト）を表します。「m」は、初期設定パラメタで指定を省略した場合、0としてください。

(1) マスタディレクトリ

マスタディレクトリのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

$$(70 + 51 \times i) \times 8$$

(2) データディレクトリ

データディレクトリのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

- 先頭ファイル

$$(44 + 51 \times i) \times 8$$

- 2 番目以降のファイル

$$(1 + 51 \times i) \times 8$$

(3) ディクショナリ及びユーザデータベース

ディクショナリ及びユーザデータベースのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

- 先頭ファイル

$$\left(6 + \left\lceil \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \right\rceil + \left\lceil \frac{i}{40 + \left\lceil \frac{s}{32} \right\rceil \times 12} \right\rceil + s \times i \right) \times 8$$

- 2 番目以降のファイル

$$\left(1 + \left\lceil \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \right\rceil + \left\lceil \frac{i}{40 + \left\lceil \frac{s}{32} \right\rceil \times 12} \right\rceil + s \times i \right) \times 8$$

(4) OID インデクス及びインデクス

OID インデクス及びインデクスのファイル容量を見積もるための計算式を次に示します。

- 先頭ファイル

$$\left(8 + \left\lceil \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \right\rceil + \left\lceil \frac{i}{40 + \left\lceil \frac{s}{32} \right\rceil \times 12} \right\rceil + s \times i \right) \times 8$$

- 2 番目以降のファイル

$$\left(1 + \frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} + \frac{i}{40 + \frac{s}{32} \times 12} + s \times i \right) \times 8$$

付録 B バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定

High-end Object Server では、環境設定時に実施するシステムファイルの作成及び初期化を、バッチファイルで提供しています。このバッチファイルを利用すると、システムファイルの環境を容易に設定できます。

ここでは、提供しているサンプルファイル及びその使い方を説明します。

付録 B.1 サンプルファイル

サンプルファイルはインストール時に作成されるサンプルディレクトリ(%XODDIR%\sample)にインストールされます。

提供するサンプルファイルは次の四つです。

- バッチファイル (1 ファイル)

High-end Object Server のシステムファイルを作成するためのコマンド xodstsinit(ステータスファイルの初期化)及び xodjnlinit(ジャーナルファイルの初期化)を一連で実行するためのバッチファイルです。

- バッチファイルに対応する定義ファイル (それぞれ 1 ファイル, 計 3 ファイル)
- システムジャーナルサービス定義
- ステータスサービス定義
- システム共通定義

付録 B.2 バッチファイルの使用方法

バッチファイルを使った環境設定の手順を説明します。

(1) 各定義ファイルの編集

1. サンプルディレクトリから各定義ファイルを環境変数%XODCONFPATH%のディレクトリにコピーします。
2. コピーした各定義ファイルを、メモ帳などのエディタで開き、パス名などをそれぞれの環境に合わせて変更します。

(2) バッチファイルの実行

1. サンプルディレクトリからバッチファイルをユーザ任意のディレクトリにコピーします。再インストール時に上書きされますので、必ずコピーしてください。
2. コピーしたバッチファイルを、メモ帳などのエディタで開き、パス名などをそれぞれの環境に合わせて変更します。
3. 名称を指定して実行する
[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)...] コマンドを選択して、コマンドを入力してください。

付録 B.3 サンプルファイルの内容

提供するサンプルファイルの内容を示します。下線の箇所は、システムの環境によって変更のある値です。御使用の環境に合った値に編集してお使いください。

(1) システムファイル作成用バッチファイル

ファイル名：DBSINT.BAT

```
@echo off
REM *****
REM * ALL RIGHTS RESERVED,COPYRIGHT (C) 1996, 2010, HITACHI, LTD.
REM * LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
REM *****
REM * Object Serverシステムファイルの作成
REM *****

set local
set FILE_SYSTEM_JNL1=C:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1
set FILE_SYSTEM_JNL2=D:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2
set FILE_SYSTEM_STS1=C:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS1
set FILE_SYSTEM_STS2=D:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS2

@echo ジャーナルファイルシステムを構築します。
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL1%¥jnlfile1 -n 1000
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL1%¥jnlfile2 -n 1000
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL1%¥jnlfile3 -n 1000
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL1%¥jnlfile4 -n 1000
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL2%¥jnlfile5 -n 1000
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL2%¥jnlfile6 -n 1000
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL2%¥jnlfile7 -n 1000
"%XODDIR%¥bin¥xodjnlinit" -j jnl -f %FILE_SYSTEM_JNL2%¥jnlfile8 -n 1000
@echo ステータスファイルシステムを構築します。
"%XODDIR%¥bin¥xodstsinit" -f %FILE_SYSTEM_STS1%¥stsfile1A -c 32
"%XODDIR%¥bin¥xodstsinit" -f %FILE_SYSTEM_STS2%¥stsfile1B -c 32
"%XODDIR%¥bin¥xodstsinit" -f %FILE_SYSTEM_STS1%¥stsfile2A -c 32
"%XODDIR%¥bin¥xodstsinit" -f %FILE_SYSTEM_STS1%¥stsfile2B -c 32
"%XODDIR%¥bin¥xodstsinit" -f %FILE_SYSTEM_STS2%¥stsfile3A -c 32
"%XODDIR%¥bin¥xodstsinit" -f %FILE_SYSTEM_STS2%¥stsfile3B -c 32

endlocal
@echo **** 終了しました。 ****
```

(2) システムジャーナルサービス定義

ファイル名：sysjnl

```
# *****
# ALL RIGHTS RESERVED,COPYRIGHT (C) 1996,HITACHI, LTD.
# LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
# *****
jnladdfg -g jnlfile1 ONL
jnladdpf -g jnlfile1 -a C:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile1
jnladdfg -g jnlfile2 ONL
jnladdpf -g jnlfile2 -a C:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile2
jnladdfg -g jnlfile3 ONL
jnladdpf -g jnlfile3 -a C:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile3
jnladdfg -g jnlfile4 ONL
jnladdpf -g jnlfile4 -a C:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL1¥jnlfile4
jnladdfg -g jnlfile5 ONL
jnladdpf -g jnlfile5 -a D:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile5
jnladdfg -g jnlfile6 ONL
jnladdpf -g jnlfile6 -a D:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile6
jnladdfg -g jnlfile7 ONL
jnladdpf -g jnlfile7 -a D:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile7
jnladdfg -g jnlfile8 ONL
jnladdpf -g jnlfile8 -a D:¥OBJSVFILE¥XODFILEJNL2¥jnlfile8
```

(3) ステータスサービス定義

ファイル名 : sts

```
# *****
# ALL RIGHTS RESERVED, COPYRIGHT (C) 1996, HITACHI, LTD.
# LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
# *****
set sts_file_name 1 = "stsfile1", ¥
"C:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS1¥stsfile1A", ¥
"D:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS2¥stsfile1B"
set sts_file_name 2 = "stsfile2", ¥
"C:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS1¥stsfile2A", ¥
"C:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS1¥stsfile2B"
set sts_file_name 3 = "stsfile3", ¥
"D:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS2¥stsfile3A", ¥
"D:¥OBJSVFILE¥XODFILESTS2¥stsfile3B"
```

(4) システム共通定義

ファイル名 : xodrc

```
# *****
# ALL RIGHTS RESERVED, COPYRIGHT (C) 1996, 2010, HITACHI, LTD.
# LICENSED MATERIAL OF HITACHI, LTD.
# *****
set system_id = a1
set lck_limit = 6000
set trn_tran_process_count = 32
set static_shmpool_size = 5120
set dbm_master = d:¥OBJSVFILE¥DB¥master01
# グローバルキャッシュ定義
gcache -n xod_gcach_area -m 200 -u AREA
gcache -n xod_gcach_oidindex -m 100 -u OIDINDEX
```

付録 C Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境設定

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティでは、Groupmax サーバの通信環境設定及びオブジェクトサーバの定義ファイルの作成が、画面を使って簡単にできます。

ここでは、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能及び操作方法を説明します。

付録 C.1 Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能

(1) Groupmax 環境設定を支援します

ここでは、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能の概要と、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用できるシステム構成について説明します。

(a) Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの概要

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティは、次に示す機能によって、環境設定を支援します。

- 通信環境の設定

サーバプログラムのポート番号をまとめて設定できます。

- 定義ファイルの作成

それぞれの環境でのユーザ数などのデータを入力するだけで、オブジェクトサーバの定義ファイルが自動生成されます。作成された定義ファイルは、データベースの初期化、構成変更、再構成、又は再編成を実行するときに使用します。

High-end Object Server 指定時は、ステータスサービス定義ファイル、システムジャーナルサービス定義ファイル、及びそれらを初期化するためのバッチファイルを作成します。

また、UNIX 環境の初期化に使用する定義ファイルも作成できます。

- カーネルパラメタ変更情報の作成

UNIX サーバで Groupmax を運用する場合に必要なカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルを、それぞれの環境でのユーザ数などのデータを入力するだけで自動生成できます。

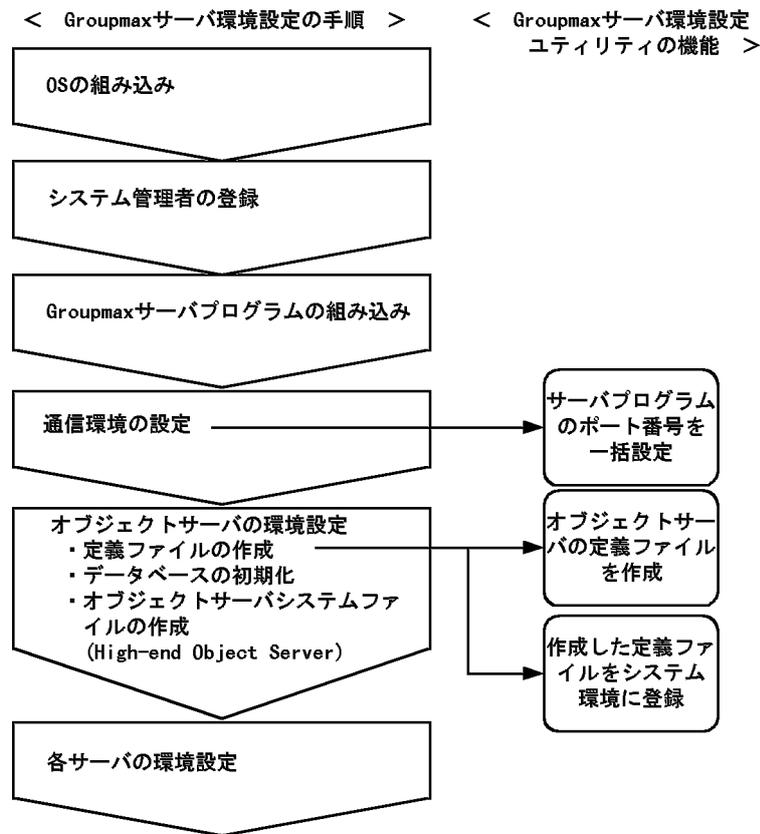
また、システム構成の変更によってカーネルパラメタの値を見積もり直す場合に必要なカーネルパラメタの変更情報を作成できます。

次のような場合には、カーネルパラメタ変更情報を作成して、カーネルパラメタの値を変更してください。

- Groupmax サーバ環境設定ユーティリティ以外で UNIX サーバの環境を設定した場合
- Groupmax Version2.0 以前のバージョンから移行した場合
- Groupmax の運用形態、ユーザ数及びデータ件数を変更した場合

図 C-1 に、Groupmax のサーバ環境を初期化するときの、全体の操作手順の中での Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能を示します。

図 C-1 Groupmax のサーバ環境設定の中での Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能



(b) Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用できる範囲

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによってデータベースの環境設定に使用するパラメタファイルを作成できるのは、次に示す条件を満たしている場合です。

- すべてのサーバプログラムについての条件
 - それぞれのプログラムの設定可能な範囲でパラメタの値を入力した場合
 - データベースの運用期間（データベースの再編成までの期間）が 30 日以内の場合
- Groupmax Address/Mail Server を使用する場合の条件
 - (システム内の全ユーザ数) ÷ (このサーバに登録するユーザ数) が 400 以下の場合
 - システム内の全ユーザ数が 32500 以下の場合
 - このサーバに登録するユーザ数が 5000 以下の場合
- Groupmax Workflow Server を使用する場合の条件
 - ワーク処理日数とワーク保存日数の合計が 30 日以内の場合

これらの条件を満たさない場合、Groupmax サーバ環境設定ユーティリティでは正しい値のパラメタファイルを作成できません。この場合は、それぞれのプログラムの手順に従ってパラメタファイルを作成してください。Groupmax Address/Mail Server でのパラメタファイルの指定値の見積もりについては、「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を、Groupmax Workflow Server でのパラメタファイルの指定値の見積もりについては、「Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド」(Windows 用)を参照してください。

(2) 通信環境設定

Groupmax サーバプログラムで使用するポート番号を、まとめて services ファイルに設定します。設定できるサーバプログラムを次に示します。

- Groupmax Address Server
- Groupmax Mail Server
- Groupmax Mail - Administrator Utilities
- Groupmax Scheduler Server
- Groupmax Facilities Manager
- Groupmax Document Manager
- Groupmax Form Server
- Groupmax Workflow Server
- Groupmax Remote Installation Server
- Groupmax System Manager - TCP/IP
- Groupmax System Agent - TCP/IP
- Groupmax Agent Server
- Groupmax Agent Server Mail Option
- Groupmax Agent - Application

(3) オブジェクトサーバ簡易設定 (定義ファイルの作成)

オブジェクトサーバで使用する定義ファイルを作成します。作成するファイルを次に示します。

- Windows NT 環境用
 - 初期設定パラメタファイル
 - 構成変更パラメタファイル
 - 再編成パラメタファイル
 - 再構成パラメタファイル
 - ステータスサービス定義ファイル
 - システムジャーナルサービス定義ファイル
 - システムファイル作成用バッチファイル
 - システム共通定義ファイル
- UNIX 環境用
 - 初期設定パラメタファイル
 - 再構成パラメタファイル
 - ステータスサービス定義ファイル
 - システムジャーナルサービス定義ファイル
 - システムファイル作成用バッチファイル
 - システム共通定義ファイル
 - カーネルパラメタの変更情報の通知ファイル

それぞれについて簡単に説明します。

(a) 初期設定パラメタファイル

初期設定パラメタが、ユーザ数や実装メモリなどのシステム構成情報を基に自動生成されます。パラメタが格納されるファイルは `esetinit.txt` です。同時にシステム共通定義ファイルも作成されます。High-end Object Server 指定時は、ステータスサービス定義ファイル、システムジャーナルサービス定義ファイル及びシステムファイル作成用バッチファイルも同時に作成されます。

作成されたファイルをシステム環境へ登録すると、オブジェクトサーバのユーティリティに引き継がれます。その後、オブジェクトサーバの [データベースの初期設定] ユティリティを実行してください。

UNIX 用のファイルを作成した場合は、作成ファイルを、ftp を使って UNIX サーバに転送してから、`xodbninit` を実行してください。

(b) 構成変更パラメタファイル

オブジェクトサーバのデータベースにエリアを追加するときに使用する構成変更パラメタが、追加プログラム名及びシステム構成情報を基に自動生成されます。

パラメタが格納されるファイルは `esetcons.txt` です。同時にシステム共通定義ファイルも作成されます。High-end Object Server 指定時は、ステータスサービス定義ファイル、システムジャーナルサービス定義ファイル及びシステムファイル作成用バッチファイルも同時に作成されます。

作成されたファイルをシステム環境へ登録すると、オブジェクトサーバのユーティリティに引き継がれます。`xodrc` ファイルが更新されます。その後、オブジェクトサーバの [データベースへのエリアの追加] ユティリティを実行してください。

なお、UNIX 用のファイルは、UNIX 用の Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成してください。

また、データベースにファイルを追加するユーティリティで使用する構成変更パラメタファイルは作成できません。

(c) 再編成パラメタファイル

再編成パラメタファイルの再編成用パラメタ `reorg` が自動生成されます。インデクスの再作成用パラメタ `recreate` は作成されません。パラメタが格納されるファイルは `esetreog.txt` です。

作成されたファイルをシステム環境へ登録すると、オブジェクトサーバのユーティリティに引き継がれます。その後、オブジェクトサーバの [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。

なお、UNIX 用のファイルは、UNIX 用の Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成してください。

(d) 再構成パラメタファイル

再構成パラメタファイルの再構成用パラメタ `recreate` が自動生成されます。パラメタが格納されるファイルは `esetreco.txt` です。

作成されたファイルを、[データベースエリアの再作成] ユティリティで実行してください。ユーティリティの操作方法は、「8.5 データベースの再構成」を参照してください。

UNIX 用のファイルを作成した場合は、作成ファイルを、ftp を使って UNIX サーバに転送してから、`xodbrcons` を実行してください。

(e) システム共通定義ファイル

初期設定パラメタファイル、構成変更パラメタファイル又は再構成パラメタファイルの作成と同期して、システム共通定義ファイルが作成されます。作成されるファイルは esetrc.txt です。作成されたパラメタファイルをシステム環境へ登録すると、システム共通定義ファイルは %XODDIR%\conf\xodrc にコピーされます。

UNIX 用のファイルを作成した場合は、定義ファイルを、ftp を使って UNIX サーバに転送してから、\$XODDIR/conf/xodrc というファイル名でコピーしてください。

(f) ステータスサービス定義ファイル

定義画面で入力した内容を基に、High-end Object Server を使用する場合に必要なステータスサービス定義ファイルが自動作成されます。

作成された定義ファイル(esetsts.txt)は%XODDIR%\conf\sts というファイル名でコピーしてください。

UNIX 用のファイルを作成した場合は、定義ファイルを、ftp を使って UNIX サーバに転送してから、\$ XODDIR/conf/sts というファイル名でコピーしてください。

(g) システムジャーナルサービス定義ファイル

定義画面で入力した内容を基に、High-end Object Server を使用する場合に必要なシステムジャーナルサービス定義ファイルが自動作成されます。

作成された定義ファイル(esetjnl.txt)は%XODDIR%\conf\sysjnl というファイル名でコピーしてください。

UNIX 用のファイルを作成した場合は、定義ファイルを、ftp を使って UNIX サーバに転送してから、\$ XODDIR/conf/sysjnl というファイル名でコピーしてください。

(h) システムファイル作成用バッチファイル

ステータスファイルとジャーナルファイルを初期化するバッチファイルです。

作成されたファイル(DBSINT.BAT)を実行してください。

UNIX 用のファイルを作成した場合は、バッチファイルを、ftp を使って UNIX サーバに転送してから、実行してください。

(4) カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルの作成

UNIX サーバでの Groupmax の環境設定に関連して変更が必要なカーネルパラメタとその変更値が、変更情報の通知ファイル (esetknl.txt) に出力されます。変更情報の通知ファイルはシステム構成を基に自動生成できます。

このファイルを参考にして、OS のカーネルパラメタの設定コマンドを使って、カーネルパラメタを変更してください。

(5) 作成されるファイル

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成されたパラメタを格納する、ファイル及びディレクトリを図 C-2 に示します。ファイルシステムは、Windows NT の NTFS を使用します。

図 C-2 Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成されるファイル

オブジェクトサーバ システムディレクトリ(組み込みディレクトリ)

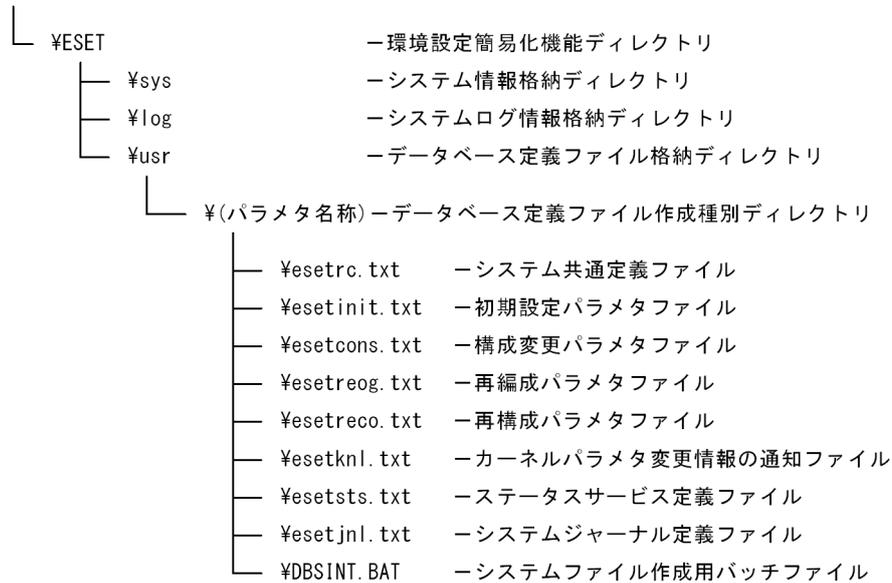


図 C-2 に示したディレクトリの中で、ESET, sys, log, 及び usr のディレクトリは、オブジェクトサーバの組み込み時に作成されます。

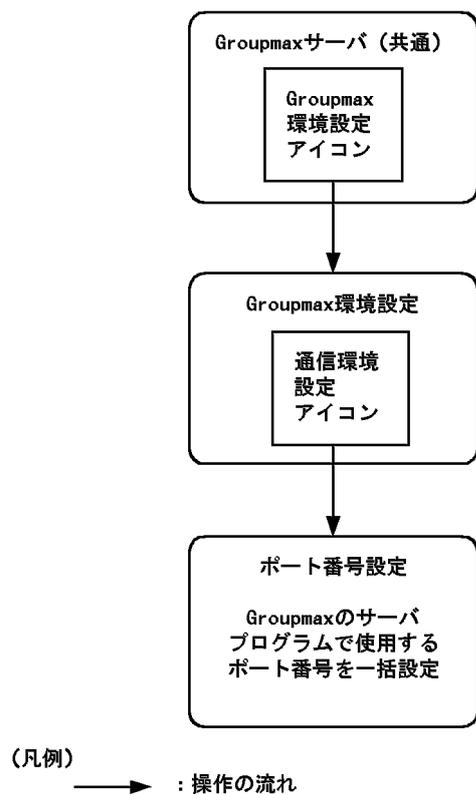
付録 C.2 環境設定の手順

環境設定の手順を、ダイアログボックスを追って説明します。ここで紹介するのは、作成した定義ファイルをそのまま自サーバで使用する場合の手順です。他のサーバで使用する場合は、「付録 C.4 作成ファイルを他のサーバで使用する場合」を参照してください。

(1) 通信環境設定

通信環境は、[ポート番号設定] ダイアログで設定します。図 C-3 に手順を示します。

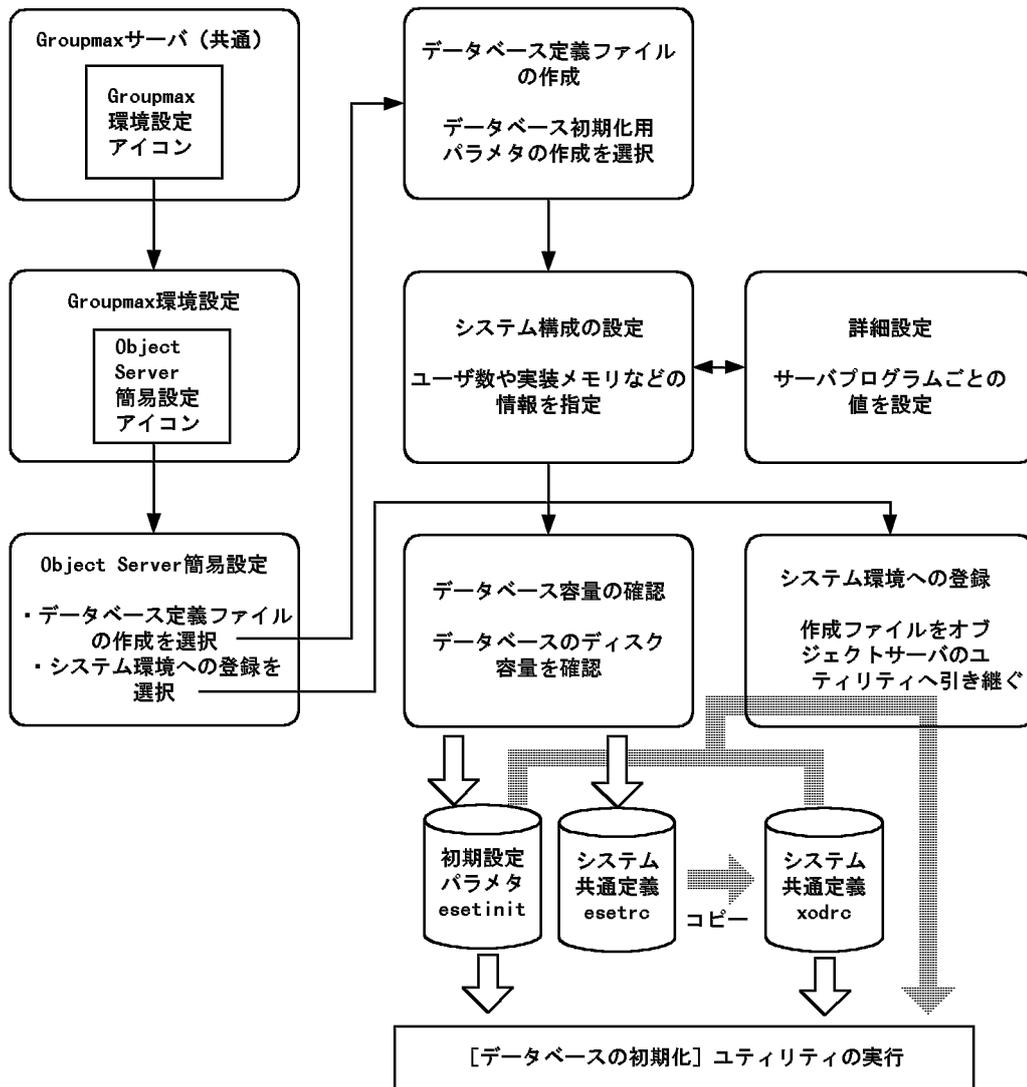
図 C-3 通信環境設定の手順



(2) データベース初期化

データベース初期化のための情報は、[システム構成の設定] ダイアログで設定します。図 C-4 に手順を示します。

図 C-4 データベース初期化の手順



(凡例)

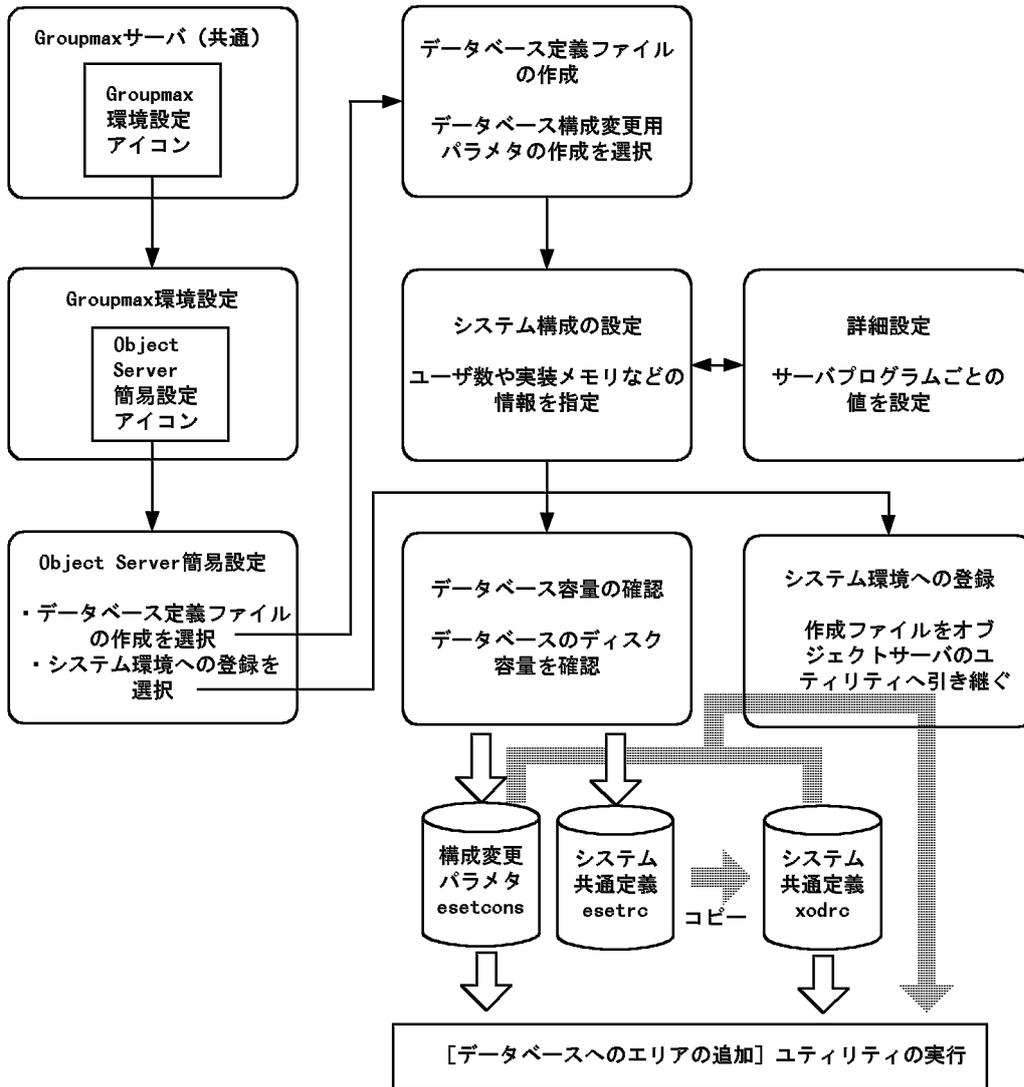
- : 操作の流れ
- ⇒ : 定義ファイルのデータの流れ
- ⇒ (影付き) : システム環境への登録でのデータの流れ

初期設定パラメタファイル(esetinit.txt)及びシステム共通定義ファイル(esetrc.txt)が作成されたら、作成ファイルを [システム環境への登録] ダイアログを使って、システム環境へ登録してから、オブジェクトサーバの [データベースの初期化] ユティリティを実行してください。[データベースの初期設定] ユティリティの操作方法は、「8.3.1 データベースの初期化」を参照してください。

(3) データベース構成変更

データベース構成変更のための情報は、[システム構成の設定] ダイアログで設定します。図 C-5 に手順を示します。

図 C-5 データベース構成変更の手順



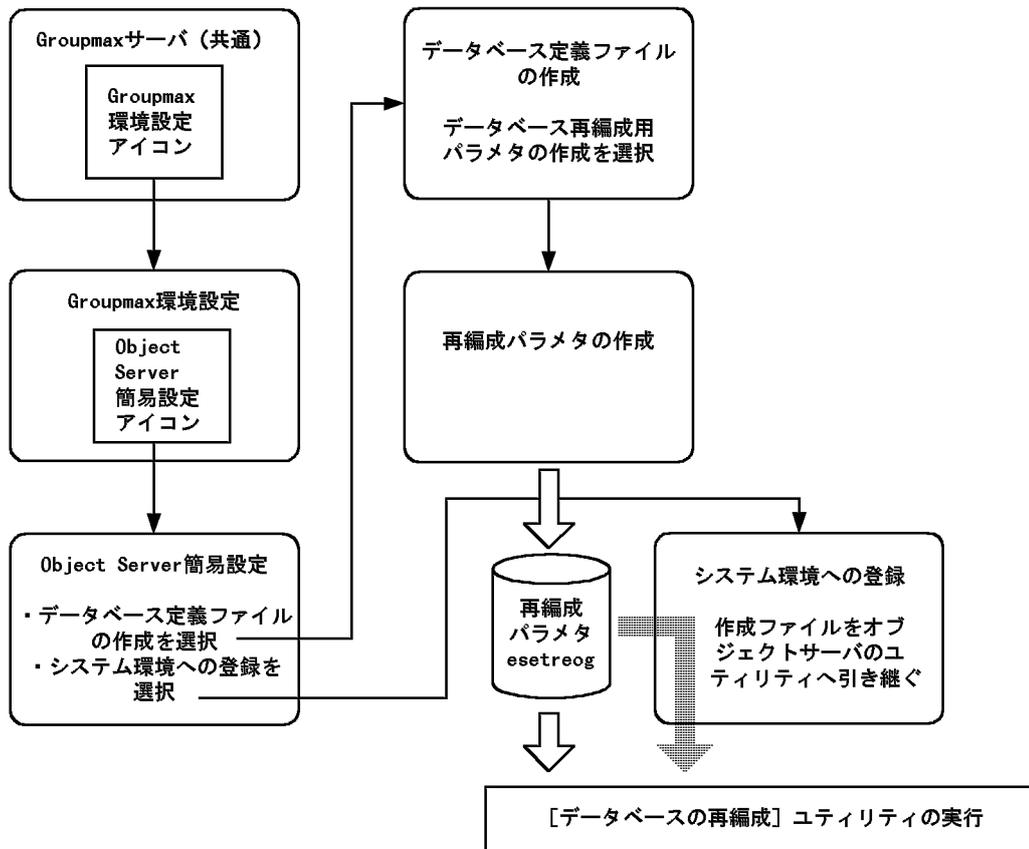
- (凡例)
- : 操作の流れ
 - ⇒ : 定義ファイルのデータの流れ
 - ⇒ (影線) : システム環境への登録でのデータの流れ

構成変更パラメタファイル(esetcons.txt)及びシステム共通定義ファイル(esetrc.txt)が作成されたら、作成ファイルを [システム環境への登録] ダイアログを使って、システム環境へ登録してから、オブジェクトサーバの [データベースへのエリアの追加] ユティリティを実行してください。[データベースへのエリアの追加] ユティリティの操作方法は、「8.3.2 データベースへのエリアの追加」を参照してください。

(4) データベース再編成

データベース再編成のための情報は、[再編成パラメタの作成] ダイアログで設定します。図 C-6 に手順を示します。

図 C-6 データベース再編成の手順



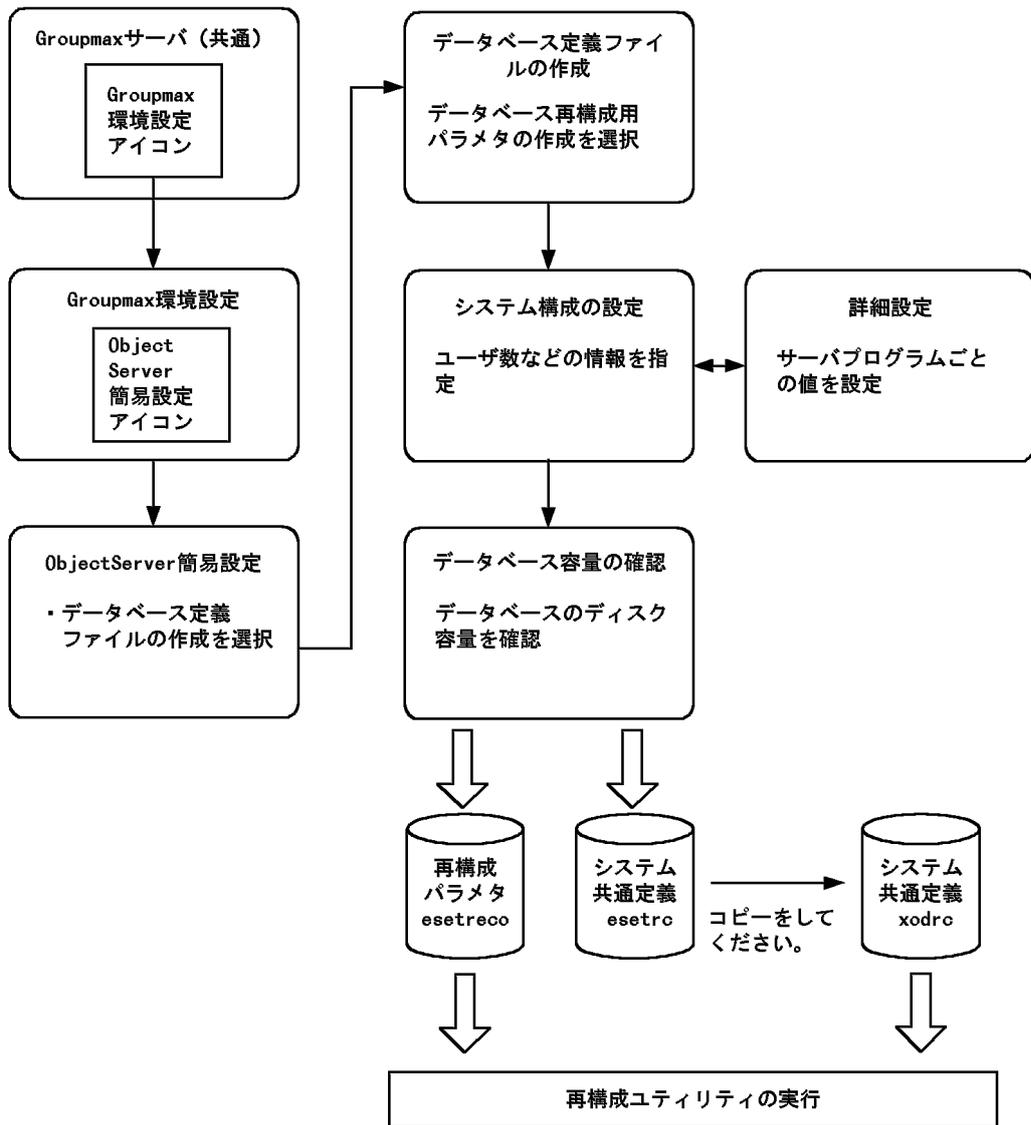
- (凡例)
- : 操作の流れ
 - ⇒ : 定義ファイルのデータの流れ
 - ⇒ : システム環境への登録でのデータの流れ

再編成パラメタファイル(esetreog.txt)が作成されたら、作成ファイルを [システム環境への登録] ダイアログを使って、システム環境へ登録してから、オブジェクトサーバの [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。[データベースの再編成] ユティリティの操作方法は、「8.4.1 データベースの再編成」を参照してください。

(5) データベース再構成

データベース再構成のための情報は、[再構成パラメタの作成] ダイアログで設定します。図 C-7 に手順を示します。

図 C-7 データベース再構成の手順



(凡例)
 → : 操作の流れ
 ⇨ : 定義ファイルの流れ

再構成パラメタファイル(esetreco.txt)が作成されますので、オブジェクトサーバの [データベースエリアの再作成] ユティリティを実行してください。[データベースエリアの再作成] ユティリティの操作方法は、「8.5 データベースの再構成」を参照してください。

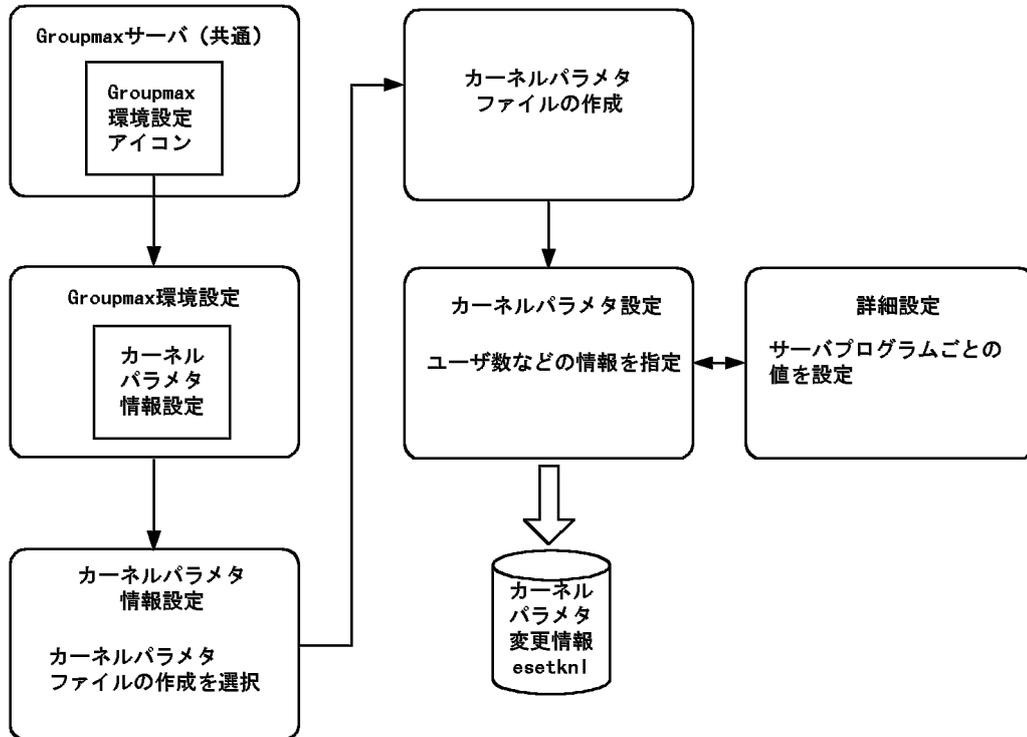
再構成をする前に文書管理のデータベースの特定のエリアが複数存在している場合、及び再構成によってエリアの追加又は削除が発生する場合は再構成パラメタファイルが使用できません。

また、複数グループアクセス機能を新たに設定した場合も、エリアが追加されます。この場合も、再構成パラメタファイルが使用できません。

(6) カーネルパラメタの変更情報の作成

カーネルパラメタの変更情報は、[カーネルパラメタ設定] ダイアログで作成します。図 C-8 に手順を示します。

図 C-8 カーネルパラメタの変更情報の作成手順



- (凡例)
- : 操作の流れ
 - ⇒ : 定義ファイルの流れ

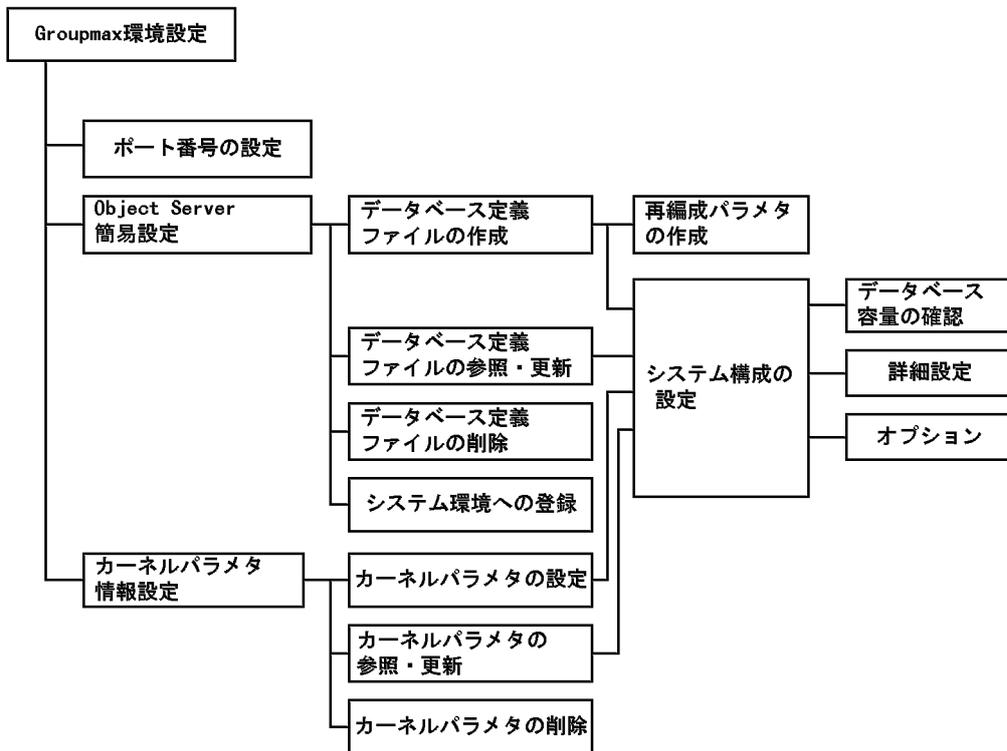
Groupmax サーバ環境設定ユーティリティを使用しないで Groupmax の環境を作成した場合、又は Groupmax のシステム構成や運用形態を変更する場合は、作成したカーネルパラメタの変更情報を基に、カーネルパラメタの値を変更してください。

付録 C.3 ダイアログボックスの操作

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティのダイアログボックスについて説明します。

図 C-9 に Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで使用するウィンドウとダイアログとの関係を示します。

図 C-9 Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで使用するウィンドウとダイアログ



(1) [Groupmax 環境設定] ウィンドウ

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの起動方法を説明します。

1. [スタート] メニューから [Groupmax サーバ] の [Groupmax 環境設定] を選択する
[Groupmax 環境設定] ウィンドウが表示されます。

図 C-10 に [Groupmax 環境設定] ウィンドウを示します。

図 C-10 [Groupmax 環境設定] ウィンドウ



注意：

[Groupmax 環境設定] ウィンドウでは、[Enter] キーと同様の動作をする操作キーがあります。表 C-1 に [Enter] キーの動作内容及び [Enter] キーと同様の動作をする操作キーについて示します。

表 C-1 [Enter] キー及び [Enter] キーと同様の動作をする操作キー一覧

操作キー	動作説明
[Enter] キー	選択したアイコンに対するダイアログを表示します。
[Esc] キー	
[BackSpace] キー	
[スペース] キー	
テンキー ([NumLock] キーを除く)	
文字キー (A~Z, 0~9, 記号)	

(2) [ポート番号の設定] ダイアログ

(a) 機能

[ポート番号の設定] ダイアログでは、Groupmax のサーバプログラムのポート番号を Windows NT 組み込みディレクトリ下の¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥SERVICES に設定します。

ダイアログで設定したポート番号を SERVICES ファイルに登録するときに、重複する番号があった場合は、ポート番号の設定処理が中止されます。

注意：

通信設定ファイル (SERVICES) の内容不正で設定できない状態になる場合があります。このユーティリティでは、すでに設定しているアプリケーションのサービスを追加できません。なお、このユーティリティで通信環境を再設定する場合は、Groupmax サーバ関連のサービス名、ポート番号、及びコメントをすべて削除した後、再実行をしてください。

(b) 操作

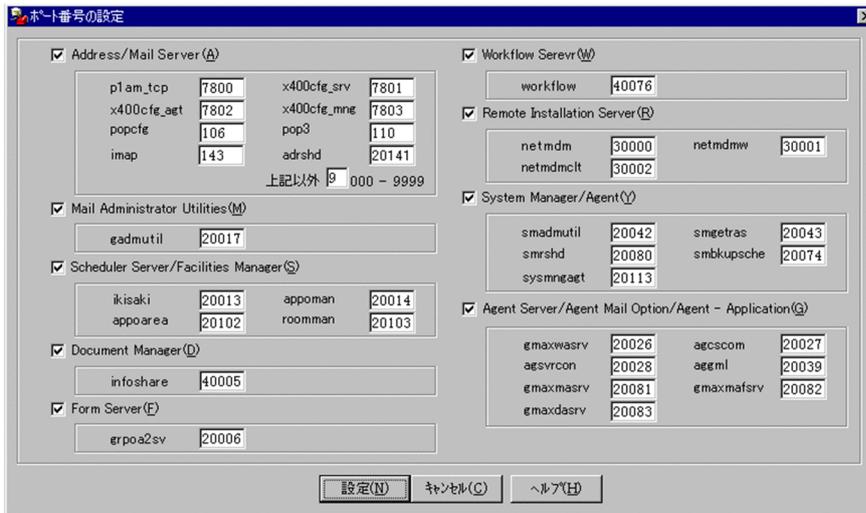
[ポート番号の設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [Groupmax 環境設定] ウィンドウの [通信環境設定] アイコンを選択する
[ポート番号の設定] ダイアログが表示されます。
2. 設定対象及びポート番号を設定する
3. [設定] ボタンを選択する
ポート番号が設定されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-11 に [ポート番号の設定] ダイアログを示します。

図 C-11 [ポート番号の設定] ダイアログ



設定対象：

ポート番号を設定するプログラム名称の左側の設定対象のチェックボックスを選択します。

ポート番号：

各プログラムのポート番号の推奨値を表示します。推奨値は変更できます。各プログラムで使用するポート番号のサービス名が services に登録済みの場合は、その番号が表示されて、変更できません。なお、Groupmax Mail Server と Groupmax Address Server は使用するポート番号数が多いため、使用範囲を表示します。

設定：

指定したポート番号が設定されます。

キャンセル(C)：

ポート番号を設定しないで [ポート番号の設定] ダイアログを終了します。その後、[Groupmax 環境設定] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ(H)：

[ポート番号の設定] ダイアログのヘルプを表示します。

(3) [Object Server 簡易設定] ダイアログ

(a) 機能

[Object Server 簡易設定] ダイアログでは、定義ファイルに対してどのような操作をするかを指定します。

! 注意事項

[Object Server 簡易設定] ダイアログは、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログと同時に起動することはできません。[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログを終了させてから実行してください。

(b) 操作

[Object Server 簡易設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [Groupmax 環境設定] ウィンドウの [Object Server 簡易設定] アイコンを選択する

[Object Server 簡易設定] ダイアログが表示されます。

2. 該当する項目を選択する

3. [次へ(N)...>] ボタンを選択する

選択した操作を実行する，次のダイアログが表示されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-12 に [Object Server 簡易設定] ダイアログを示します。

図 C-12 [Object Server 簡易設定] ダイアログ



データベース定義ファイルの作成(M)：

データベース定義ファイルを作成する場合に選択します。選択すると，次に [データベース定義ファイルの作成] ダイアログが表示されます。

データベース定義ファイルの参照・更新(R)：

作成済みのデータベース定義ファイルの内容を参照したり，更新したりする場合に選択します。選択すると，次に [データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログが表示されます。

データベース定義ファイルの削除(D)：

作成済みのデータベース定義ファイルの内容を削除する場合に選択します。選択すると，次に [データベース定義ファイルの削除] ダイアログが表示されます。

システム環境への登録(E)：

作成したデータベース定義ファイルをシステム環境に登録する場合に選択します。システム環境に登録すると，Object Server 管理ツール内の各ユーティリティに定義ファイル名が引き継がれます。例えば，この Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成した初期設定パラメタファイル名をシステム環境に登録すると，オブジェクトサーバの [データベースの初期化] ダイアログの [初期設定パラメタファイル名] に，登録したファイル名がデフォルトで表示されます。

[データベースの構成変更] ダイアログ，[データベースの再編成] ダイアログにも同様に引き継がれます。

注意：

データベースの初期設定又は構成変更を実行するときには，各パラメタファイルとシステム共通定義ファイルが必要です。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成したパラメタファイルは，

何度でもシステム環境に登録できますが、登録と同時にシステム共通定義の内容も変更されますので、ご注意ください。

次へ(N)...> :

選択した項目に対するダイアログを開きます。

閉じる(C) :

[Object Server 簡易設定] ダイアログを終了して、[Groupmax 環境設定] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ(H) :

[Object Server 簡易設定] ダイアログのヘルプを表示します。

(4) [データベース定義ファイルの作成] ダイアログ

(a) 機能

[データベース定義ファイルの作成] ダイアログでは、作成する定義ファイルの内容を指定します。定義ファイルには次の4種類があります。

- データベース初期化用パラメタ
- データベース構成変更用パラメタ
- データベース再編成用パラメタ
- データベース再構成用パラメタ

なお、データベース定義ファイルは、[システム構成の設定] ダイアログで、メール(M)、文書管理(F)、電子アドレス帳(A)、及びワークフロー(W)を選択した場合に作成されます。

(b) 操作

[データベース定義ファイルの作成] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [Object Server 簡易設定] ダイアログの「データベース定義ファイルの作成」を選択する
[データベース定義ファイルの作成] ダイアログが表示されます。
2. 作成する定義ファイルを選択する
3. パラメタ名称を入力する
4. [次へ(N)...>] ボタンを選択する
選択した操作を実行すると、次のダイアログが表示されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-13 に [データベース定義ファイルの作成] ダイアログを示します。

図 C-13 「データベース定義ファイルの作成」ダイアログ



パラメタ名称(S) :

データベース定義ファイルに付ける論理的な名称を 1~31 バイトの半角英数字で入力します。すでに存在するパラメタ名称を入力すると、エラーとなります。パラメタ名称は、これから作成する定義ファイルを特定する名称です。物理的には、パラメタ名称のディレクトリに、定義ファイルが格納されます。

デフォルト値として、次の文字列が表示されます。

- データベース初期化用パラメタ : "myhost"
- データベース構成変更用パラメタ : "consprm"
- データベース再編成用パラメタ : "reogprm"
- データベース再構成用パラメタ : "recoprpm"

データベース初期化用パラメタの作成(I) :

データベースの初期設定パラメタとシステム共通定義パラメタを作成する場合に選択します。システム導入後、最初にデータベースを作成する場合は、このメニューを選択してください。選択すると、次に [システム構成の設定] ダイアログが表示されます。

なお、UNIX 用パラメタを作成する場合は、カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルも作成します。

データベース構成変更用パラメタの作成(A) :

データベースの構成変更パラメタとシステム共通定義パラメタを作成する場合に選択します。すでにデータベースが存在していて、新規に Groupmax サーバプログラムを追加する場合に選択してください。選択すると、次に [システム構成の設定] ダイアログが表示されます。

データベース再編成用パラメタの作成(R) :

データベース再編成パラメタを作成する場合に選択します。データベース内のオブジェクト配置の乱れを修正する場合に選択してください。選択すると、次に [再編成パラメタの作成] ダイアログが表示されます。

データベース再構成用パラメタの作成(E) :

データベース再構成パラメタを作成する場合に選択します。データベースのエリアのサイズを変更する場合に選択してください。選択すると、次に [再構成パラメタの作成] ダイアログが表示されます。なお、UNIX 用パラメタを作成する場合は、カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルも作成します。

ただし、データベースのディレクトリ名は変更できません。

データベースのディレクトリ名を変更する場合は、パラメタファイル作成後 (オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) `¥ESET¥usr¥` (パラメタ名称) のディレクトリにある `esetrec0.txt` ファイルをエディタで修正してください。

閉じる(C) :

[データベース定義ファイルの作成] ダイアログを終了して、[Groupmax 環境設定] ウィンドウに戻ります。

<戻る(B) :

[データベース定義ファイルの作成] ダイアログを終了して、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

次へ(N)...> :

選択した項目に対するダイアログを開きます。

ヘルプ(H) :

[データベース定義ファイルの作成] ダイアログのヘルプを表示します。

(5) [データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログ

(a) 機能

[データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログでは、参照・更新するパラメタ名称を指定します。指定したファイルの設定情報が、[システム構成の設定] ダイアログ及び [詳細設定] ダイアログに表示されます。

なお、データベース定義ファイルは、[システム構成の設定] ダイアログで、メール(M)、文書管理(F)、電子アドレス帳(A)、及びワークフロー(W)の選択を変更した場合に更新されます。

ただし、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログで作成したパラメタ名称を指定した場合は、参照だけができます。更新はできません。

(b) 操作

[データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [Object Server 簡易設定] ダイアログの「データベース定義ファイルの参照・更新」を選択する
[データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [次へ(N)...>] ボタンを選択する
[システム構成の設定] ダイアログが表示されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-14 に [データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログを示します。

図 C-14 [データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログ



パラメタ名称(S) :

データベース定義ファイル作成時に付けた論理的な名称を、リストから選択できます。

<戻る(B) :

[データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログを終了して、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

次へ(N)...> :

[システム構成の設定] ダイアログを開きます。

ヘルプ(H) :

[データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログのヘルプを表示します。

(6) [データベース定義ファイルの削除] ダイアログ

(a) 機能

[データベース定義ファイルの削除] ダイアログで、指定した定義ファイルを削除します。

(b) 操作

[データベース定義ファイルの削除] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [Object Server 簡易設定] ダイアログの「データベース定義ファイルの削除」を選択する
[データベース定義ファイルの削除] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [削除(D)] ボタンを選択する
指定したファイルが削除されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-15 に [データベース定義ファイルの削除] ダイアログを示します。

図 C-15 「データベース定義ファイルの削除」ダイアログ



パラメタ名称(S) :

データベース定義ファイル作成時に付けた論理的な名称を、リストから選択できます。

削除(D) :

指定した定義ファイルを削除します。その後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル(C) :

定義ファイルを削除しないで [データベース定義ファイルの削除] ダイアログを終了します。その後 [Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[データベース定義ファイルの削除] ダイアログのヘルプを表示します。

(7) 「システム環境への登録」ダイアログ

(a) 機能

[システム環境への登録] ダイアログで指定した定義ファイルを、システム環境に登録します。

このユーティリティで、作成した定義ファイルをシステム環境に登録すると、次に実行するオブジェクトサーバのユーティリティに、次に示す定義ファイルの情報が引き継がれます。また、初期設定の場合はデータベース作成ディレクトリが作成されます。

- 初期設定パラメタ又は構成変更パラメタのファイル名
- システム共通定義ファイルのファイル名

定義ファイルをシステムに登録して、オブジェクトサーバのユーティリティのダイアログを表示すると、引き継がれたファイル名がすでに入力された状態で表示されます。また、データベース作成ディレクトリも作成されます。そのため、[OK] ボタンをクリックするだけで、ユーティリティを実行できます。

(b) 操作

[システム環境への登録] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [Object Server 簡易設定] ダイアログの「システム環境への登録」を選択する
[システム環境への登録] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [登録(E)] ボタンを選択する
指定したファイルがシステム環境に登録されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-16 に [システム環境への登録] ダイアログを示します。

図 C-16 [システム環境への登録] ダイアログ



パラメタ名称(S) :

データベース定義ファイル作成時に付けた論理的な名称を、リストから選択できます。

登録(E) :

指定した定義ファイルをシステム環境に登録します。その後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル(C) :

定義ファイルをシステム環境に登録しないで [システム環境への登録] ダイアログを終了します。その後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[システム環境への登録] ダイアログのヘルプを表示します。

(8) [再編成パラメタの作成] ダイアログ

(a) 機能

[再編成パラメタの作成] ダイアログで指定した内容を基に、再編成パラメタファイルが作成されます。

(b) 操作

[再編成パラメタの作成] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [データベース定義ファイルの作成] ダイアログの「データベース再編成用パラメタの作成」を選択する

[再編成パラメタの作成] ダイアログが表示されます。

2. ディレクトリ名称を入力する

3. [完了] ボタンを選択する

データベース再編成用パラメタが作成されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-17 に [再編成パラメタの作成] ダイアログを示します。

図 C-17 [再編成パラメタの作成] ダイアログ



再編成のための一時ファイル格納ディレクトリの設定

ディレクトリ名称(D) :

データベース再編成のアンロードファイル及びワークファイルを作成するディレクトリを指定します。デフォルト値として、「オブジェクトサーバのシステムディレクトリ（組み込みディレクトリ）¥spool¥work」が表示されています。

デフォルト値を変更する場合は、「オブジェクトサーバのシステムディレクトリ（組み込みディレクトリ）」を含まないディレクトリ名称にしてください。

参照(R)... :

ファイルシステムから一時ファイル格納ディレクトリを選択できます。

完了 :

データベース再編成パラメタを作成します。その後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル(C) :

データベース再編成パラメタを作成しないで [再編成パラメタの作成] ダイアログを終了します。その後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[再編成パラメタの作成] ダイアログのヘルプを表示します。

(9) [再構成パラメタの作成] ダイアログ

(a) 機能

[再構成パラメタの作成] ダイアログで指定した内容を基に、再構成パラメタファイルが作成されます。

(b) 操作

[再構成パラメタの作成] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [データベース定義ファイルの作成] ダイアログの「データベース再構成用パラメタの作成」を選択する

[再構成パラメタの作成] ダイアログが表示されます。

2. パラメタ名称を入力する
3. ディレクトリ名称を入力する
4. [次へ...>] ボタンを選択する

データベース再構成用パラメタが作成されます。

[データベースエリアの再作成] ユティリティ実行後に、作成された esetrc.txt を xodrc に上書きしてください。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-18 に [再構成パラメタの作成] ダイアログを示します。

図 C-18 [再構成パラメタの作成] ダイアログ



パラメタ名称(S) :

データベース定義ファイル作成時に付けた論理的な名称を、リストから選択できます。パラメタ名称は、データベース初期化用パラメタのパラメタ名称を指定してください。他のパラメタを選択した場合、[次へ...>] ボタンが活性化されません。

再構成のための一時ファイル格納ディレクトリの設定

ディレクトリ名称(D) :

データベース再構成のアンロードファイル及びワークファイルを作成するディレクトリを指定します。デフォルト値として、以下のように表示されます。

Windows NT の場合

[オブジェクトサーバのシステムディレクトリ (組み込みディレクトリ) %spool%work]

HI-UX/WE2, HP-UX 及び AIX の場合

[/usr/OMSDB]

デフォルト値を変更する場合、「オブジェクトサーバのシステムディレクトリ (組み込みディレクトリ)」を含まないディレクトリ名称にしてください。

参照(R)... :

ファイルシステムから一時ファイル格納ディレクトリを選択できます。

<戻る(B) :

[再構成パラメタの作成] ダイアログを終了して、[データベース定義ファイルの作成] ダイアログに戻ります。

次へ(N)...> :

[システム構成の設定] ダイアログを開きます。

ヘルプ(H) :

[再構成パラメタの作成] ダイアログのヘルプを表示します。

(10) [システム構成の設定] ダイアログ

(a) 機能

[システム構成の設定] ダイアログでは、データベース初期化用パラメタ、データベース構成変更用パラメタ又はデータベース再構成用パラメタを作成するための情報を設定します。

ここで指定するのは、システム全体の情報です。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティは、この情報をそれぞれのサーバプログラムの詳細な指定値へと展開し、それを基にパラメタの指定値を決めます。各サーバプログラムの詳細な指定値は、[詳細(Y)...] ボタンを選択して表示される [詳細設定] ダイアログで参照及び変更できます。

これらで指定した内容を基に、パラメタファイル及びシステム共通定義ファイルが作成されます。OS 種別に UNIX(HI-UX/WE2, HP-UX, 又は AIX)を設定した場合は、カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルも作成されます。

(b) 操作

[システム構成の設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [データベース定義ファイルの作成] ダイアログの「データベース初期化用パラメタの作成」又は「データベース構成変更用パラメタの作成」を選択する

[システム構成の設定] ダイアログが表示されます。

2. 構築する環境に見合う値をそれぞれの項目に入力する

詳細設定が必要な場合は、[詳細(Y)...] を選択すると表示される [詳細設定] ダイアログで指定してください。

3. [完了] ボタンを選択する

データベース初期化用パラメタ又はデータベース構成変更用パラメタが作成されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-19 に [システム構成の設定] ダイアログを示します。

図 C-19 「システム構成の設定」ダイアログ



システム環境の設定

システム内の全ユーザ数(T)：

各サーバで登録するユーザ数の総数を指定します。

次の固定値を選択できます。また、任意のユーザ数を直接入力することもできます。デフォルト値として、1~100が表示されています。

- 1~100
- 101~1000
- 1001~5000
- 5001~10000
- 10001~20000

このサーバに登録するユーザ数(U) :

設定しようとしているサーバに登録するユーザ数を指定します。

次の固定値を選択できます。また、任意のユーザ数を直接入力することもできます。デフォルト値として、1~10が表示されています。

- 1~10
- 11~50
- 51~100
- 101~500
- 501~1000
- 1001~2000
- 2001~3000
- 3001~4000
- 4001~5000

メモリサイズ(E) :

このサーバのハードウェアに実装されたメモリサイズを入力します。指定できる値は64~2048です。

OS 種別(Q) :

パラメタを作成するシステムの OS を次の中から選択します。デフォルト値として、Windows NT が表示されています。

使用する OS が Windows 2003, Windows 2008, Windows 2012 の場合でも、Windows NT と表示されます。

- Windows NT
- HI-UX/WE2
- HP-UX
- AIX

性能優先モード (共用メモリ上限値拡大) (Q) :

Groupmax サーバの動作性能を向上するために、共用メモリ (static_shmpool_size) の上限値を拡大するかどうかを指定します。デフォルト値は拡大しない (チェックなし) です。

チェックしない場合、最大で73500になります。チェックした場合、最大で745000で値を計算します。

なお、構成変更用パラメタの作成時は、初期化用パラメタの作成時と同じ値を指定してください。

プログラムの選択 :

パラメタ作成の対象となるサーバプログラムのチェックボックスを選択します。対象となるサーバプログラムがインストールされていなくても、選択して、パラメタを作成できます。

- メール(M) : Groupmax Mail Server
- 文書管理(E) : Groupmax Document Manager
- 文書管理(高機能版)(E) : Groupmax High-end Document Manager(ただし、表示では「ハイエンド文書管理」)
- 電子アドレス帳(A) : Groupmax Address Server
- ワークフロー(W) : Groupmax Workflow Server

- ワークフロー(高機能版) (W) : Groupmax High-end Workflow Server(ただし、表示では「ハイエンドワークフロー」)
- ワークフロー(ドメイン間連携機能使用時) (W) : Groupmax Workflow Server + Groupmax Workflow Server Connection(ただし、表示では「ワークフロー(ドメイン)」)
- ワークフロー(高機能版:ドメイン間連携機能使用時) (W) : Groupmax High-end Workflow Server + Groupmax Workflow Server Connection(ただし、表示では「ハイエンド WF(ドメイン)」)
- スケジュール管理(I) : Groupmax Scheduler Server
- 施設管理(C) : Groupmax Facilities Manager
- WWW(Z) : Groupmax World Wide Web
- リモートインストール(R) : Groupmax Remote Installation Server
- 統合運転席(K) : Groupmax System Agent - TCP/IP
- エージェントサーバ(G) : Groupmax Agent Server
- エージェントメールオプション(X) : Groupmax Agent Server Mail Option
- エージェントメールサーバ(L) : Groupmax Agent - Mail Server
- エージェントメールファンクション(I) : Groupmax Agent - Mail Function
- エージェント文書管理サーバ(N) : Groupmax Agent - Document Manager Server
- エージェントワークフローサーバ(V) : Groupmax Agent - Workflow Server
- オブジェクトサーバ(9) : Groupmax Object Server(ただし、表示では「Object Server」)
- オブジェクトサーバ(高機能版)(9) : Groupmax High-end Object Server(ただし、表示では「High-end Object Server」)

なお、OS 種別で Windows NT を選択した場合は、メール(M)、文書管理(F)、電子アドレス帳(A)、ワークフロー(W)、及びスケジュール管理(I)だけが選択できます。他のプログラムの選択は不要です。メールを選択すると、電子アドレス帳も選択されます。それ以外のプログラムはそれぞれ単独で選択できます。

また、文書管理とワークフローは高機能版かどうかをリストボックスから選択します。

オブジェクトサーバ及びオブジェクトサーバ(高機能版)は前提必須のサーバとなるため、チェックボックスはなく、種別を選択するリストボックスだけとなります。また、文書管理(高機能版)又はワークフロー(高機能版)を選択した場合はオブジェクトサーバ(高機能版)が前提となるため、自動的にオブジェクトサーバ(高機能版)が選択されて、種別の変更が不可(項目が非活性)となります。文書管理、ワークフローの両方で高機能版以外を再度選択した場合、オブジェクトサーバの種別の変更は可(項目が活性)となりますが、オブジェクトサーバ(高機能版)が選択されたままとなりますのでご注意ください。

データベースの作成

データベース名称(スキーマ名称) (S) :

初期設定時は、データベースに付けるスキーマ名称を設定します。構成変更時は、スキーマ名称にはすでに設定されているもの又は"*****"が表示され、非活性となります。

データベース作成ディレクトリ (D) :

データベースファイルを作成するディレクトリを指定します。デフォルト値として、「e:¥OBJECTSV¥DATABASE」が表示されています。

なお、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ)下のディレクトリにはデータベースを作成しないでください。(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ)下のディレクトリは、Object

Server システムが使用するディレクトリであり、インストール時及びアンインストール時に削除されることがあります。保守性及び拡張性の観点から、データベースは、Object Server のインストールボリュームとは別のボリュームに作成することを推奨します。Object Server が使用するシステムディレクトリについては、「2.3.1 プログラムの組み込みと削除」の「表 2-1 組み込みファイル一覧 (オブジェクトサーバ)」を参照してください。

性能及び運用の観点から、データベースは Windows や Groupmax サーバのインストールボリュームとは別の独立したボリュームに作成することを推奨します。

また、

参照(R)... :

ファイルシステムからデータベースを作成するディレクトリを選択できます。

なお、[参照] ボタンによるディレクトリの参照時、デフォルトでは、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) %bin ディレクトリが表示されますが、このディレクトリ下にはデータベースを作成しないでください。

プログラム毎の設定(P) :

チェックボックスを選択すると、プログラムごとにデータベース作成ディレクトリを分けられます。ディレクトリ名称は、[詳細設定] ダイアログで指定します。

詳細(Y)... :

[詳細設定] ダイアログが表示されます。

オプション(O)... :

[オプション設定] ダイアログが表示されます。

完了 :

データベース容量を確認してから、データベース初期設定用パラメタ又はデータベース構成変更用パラメタを作成します。その後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

パラメタを作成しないで [システム構成の設定] ダイアログを終了します。その後 [Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[システム構成の設定] ダイアログのヘルプを表示します。

(11) [詳細設定] ダイアログ

(a) 機能

[詳細設定] ダイアログでは、データベース初期化用パラメタ、データベース構成変更用パラメタ又は再構成用パラメタを作成するための情報を設定します。

ここで指定するのは、各サーバプログラムの詳細な指定値です。[システム構成の設定] ダイアログで選択したサーバプログラムの指定値を参照、更新できます。

この内容を基に、パラメタファイル及びシステム共通定義ファイルが作成されます。[システム構成の設定] ダイアログの OS 種別に UNIX(HI-UX/WE2, HP-UX, 又は AIX)を設定すると、カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルも作成されます。

なお、[詳細設定] ダイアログで設定値を変更、確定した後に [システム構成の設定] ダイアログでの指定値を変更すると、[詳細設定] ダイアログでの設定値は無効になりますので、ご注意ください。

また、OS 種別で Windows NT を選択した場合は、次の詳細情報は設定できません。

- ワークフローの 1 ユーザあたりの同時セッション数
- ワークフローのキャッシュメモリサイズ
- ワークフローの最大ログインユーザ数(02-10 より前のバージョン)
- エージェントサーバ
- スケジュール管理/施設管理

(b) 操作

[詳細設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [システム構成の設定] ダイアログの [詳細(Y)...] を選択する

[詳細設定] ダイアログが表示されます。

2. 構築する環境に見合う値をそれぞれの項目に入力する

3. [更新] ボタンを選択する

指定値を確定して、[詳細設定] ダイアログを終了し、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-20 に [詳細設定] ダイアログを示します。

図 C-20 [詳細設定] ダイアログ



それぞれのサーバプログラムでの設定項目：

[電子アドレス帳／メール／文書管理] 又は [ワークフロー] のタグを選択すると、それぞれのサーバプログラムでの詳細な設定項目が表示されます。ここで、[システム構成の設定] ダイアログで選択したプログラムの指定値の参照、更新ができます。それぞれの項目には、[システム構成の設定] ダイアログで設定した値から算出された値が表示されています。

表 C-2 にそれぞれのサーバプログラムでの設定項目を示します。

表 C-2 それぞれのサーバプログラムでの設定項目

プログラム名	指定内容	説明
電子アドレス帳	全組織数 (1~9999)	一人以上のユーザから構成される集まりが組織です。会社の構造に例えると部や課に相当します。この組織の総数を指定します。
電子アドレス帳	1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均(1~8)	見出し(項目)の数を指定します。ユーザ任意情報を使用しない場合は 1 を指定します。

プログラム名	指定内容	説明
メール	送信メール 1 通あたりの宛先数の平均 (1~999)	メールを送信する場合の宛先数の平均値を入力します。個人メール中心であれば 1~2、業務上、宛先数が多いことが判明している場合は、その値を指定します。
メール	全マスタ掲示板数 (1~9999)	掲示物を登録するものが掲示板であり、マスタ掲示板とレプリカ (マスタ掲示板の複写) 掲示板から構成されます。すべての掲示板のうち、レプリカ掲示板を除いた掲示板の総数を指定します。
メール	1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均 (1~999)	メールボックスは組織、ユーザ単位に作成します。この一つのメールボックスが保持する受信メール数の平均を指定します。
メール	1 人が 1 日に送信するメール数 (1~999)	一人のユーザが 1 日に送信するメール数の平均を指定します。
メール	サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均 (1~999999)	1 台のサーバが 1 日に受信するメール数の平均を指定します。
メール	E-mail アドレスの平均長 (1~256)	E-mail アドレスの平均長を指定します。
文書管理	1 ユーザあたりの同時アクセス文書数 (1~999)	一人のユーザがログイン中に参照・編集などの操作を実施する一般文書とフォーム文書の平均の数を指定します。
文書管理	全フォーム文書数 (0~1000000)	すべてのフォーム文書データベースに格納されるフォーム文書の総数を指定します。
文書管理	文書あたりに保持するバージョン数 (0~99)	一つの一般文書が保持するバージョン数を指定します。Groupmax Document Manager の環境設定で「文書の最大バージョン数」に設定した値を指定します。
文書管理	分類、分類索引の総数 (0~1000000)	分類索引とは、一般文書を分類する分類体系の一つです。サーバに対して複数の分類索引を定義できます。分類とは、分類索引を構成する節のことです。ここでは、分類索引と分類の総数を指定します。
文書管理	全一般文書数 (旧: 全文書数 (一般文書のみ)) (0~1000000)	すべての一般文書データベースに格納される文書の総数を指定します。
文書管理	フォーム文書データベース数 (0~5000)	フォーム文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。定型文書の種類ごとにフォーム文書データベースを定義して使用します。定型文書固有の情報はユーザ定義属性として定義します。属性の登録には、Groupmax Form で作成したフォーム (電子帳票) を使用します。アプリケーションファイルは添付ファイルとして操作できます。ここでは、フォーム文書データベースの総数を指定します。
文書管理	一般文書データベース数 (1~5000)	一般文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。システム文書データベースの属性として定義されている文書の書誌情報のほかに、ユーザが文書群に共通の情報をユーザ定義属性として個別に定義して一般文書データベースを作成できます。ここでは、システム文書データベースとユーザが作成する一般文書データベースの総数を指定します。

プログラム名	指定内容	説明
文書管理	配布文書グループ数 (0~1500)	一つのサーバの一般文書を別のサーバに配布することを文書配布といいます。文書を配布する側のサーバを配布元サーバ、配布される側のサーバを配布先サーバといいます。文書は、配布元サーバで配布対象となる文書を定義して配布します。これらの文書群を文書配布対象グループ数といいます。ここでは、この文書配布対象グループの総数を指定します。
文書管理	配布で取り込まれた文書の総数 (0~1000000)	文書配布機能を使用して取り込まれる一般文書の総数を指定します。配布元サーバでは、一般文書数の中に含まれます。
文書管理	1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値 (0~100)	一般文書データベースにはユーザ固有の情報を定義できます。この情報をユーザ定義属性と呼びます。例えば、「会議録」データベースに「開催日」という属性を定義できます。ここでは、一般文書データベースに登録する文字列型のユーザ定義属性の平均値を指定します。
文書管理	1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値 (0~100)	フォーム文書データベースに指定する可変長文字列型のユーザ定義属性の定義数の平均値を指定します。フォーム文書の項目の定義にはリッチテキストも含まれます。
文書管理	フォルダ数 (2~1000000)	フォルダとは、一般文書を分類する体系の一つです。一つのサーバに一つのフォルダ体系が存在します。通常、Groupmax Integrated Desktop の共用キャビネット下に表示されます。フォルダは、物理的格納位置との対応付けができます。ここでは、サーバ上に作成されるフォルダの総数を指定します。
文書管理	同時ログインユーザ数 (1~256。ただし、Groupmax High-end Document Managerを使用する場合は1~1000)	同時にログインするユーザ数の最大値を指定します。
文書管理	複数グループアクセス権機能(ON,OFF)	一つしかできないデータベースへのグループアクセス権を複数個設定できる機能を、使用するかどうかを指定します。
ワークフロー	1日あたりのワーク数 (1~9999)	1日に発生するワーク数を指定します。
ワークフロー	ワーク処理日数 (1~999)	ソースから投入した回覧データがシンクで終了するまでの平均処理日数を指定します。
ワークフロー	ワーク保存日数 (1~999)	終了したワークを保存するための日数を指定します。保存日数を過ぎたワークはワーク削除ユーティリティで削除できます。
ワークフロー	1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数 (1~999)	ビジネスプロセス上で、ユーザ又はシステムが何らかの処理をする場所をノードと呼びます。ビジネスプロセス上の平均ノード数を指定します。
ワークフロー	ビジネスプロセス定義数 (1~9999)	基本フローモデルに基づいて表現した業務の流れをビジネスプロセスといいます。このビジネスプロセス定義の総数を指定します。

プログラム名	指定内容	説明
ワークフロー	ワーク内のケース数 (1~999)	ワークフローで閲覧される文書又はメモを格納する入れ物をケースといいます。ケースには、ビジネスプロセス定義で定義するケースの他にシステムが自動的に作成するルートケースがあります。ワークに投入される平均ケース数を指定します。
ワークフロー	ケース内の文書数 (1~999)	ケースに格納して送付する書類を文書といいます。文書は、各種アプリケーション固有の形式で作成された文書実体ファイルと、文書全体を管理する文書オブジェクトで構成されます。ケースに格納する平均文書数を指定します。
ワークフロー	ロール数 (1~9999)	ロールは仕事をする上での役割です。複数のユーザをロールとしてグループ化し、ビジネスプロセス定義のノード上の作業者として割り当てることができます。このロールの総数を指定します。
ワークフロー	最大ログインユーザ数 (1~1000。ただし、Groupmax High-end Workflow Server を使用する場合は1~4096)	ログインするユーザ数の最大値を指定します。
ワークフロー	1 ユーザあたりの同時接続セッション数 (1~5)	1 ユーザあたりの同時に接続するセッション数の最大値を設定します。
ワークフロー	キャッシュメモリサイズ (MB) (1~32)	キャッシュのメモリサイズを指定します。単位はメガバイトです。
ワークフロー	ワークフローデータベースへの同時アクセス数 (1~32)	ワークフローデータベースへの同時アクセス数を指定します。
ワークフロー	マルチサーバの総サーバ数 (0~400)	マルチサーバ構成時のサーバ数を指定します。シングルサーバ構成の場合は0を指定してください。
ワークフロー	管理者用最大ログインユーザ数 (1~200)	同時にログインする管理者用のユーザ数の最大値を指定します。
ワークフロー	ワーク ID 採番管理情報遅延更新機能 (ON,OFF)	ワーク ID 採番管理情報遅延更新機能を使用するかどうかを指定します。
ワークフロー	1日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数 (0~8000)	1日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数を指定します。
ワークフロー	1日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数 (0~9999)	1日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数を指定します。ただし、ワークフローの1日あたりのワーク数の内数で指定します。
ワークフロー	WFの環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値 (0~70560)	Workflowの環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値を指定します。単位は分です。
ワークフロー	ユーザ内履歴数 (50~1023)	ユーザのユーザ履歴取得最大数を指定します。

プログラム名	指定内容	説明
ワークフロー	ワーク下のオブジェクト数 (最大値) (1~32767)	ワーク下のオブジェクト数を指定します。
エージェントサーバ	同時に動作するエージェント数 (クラス B) (1~32)	同時に動作させるクラス B のエージェントの数を指定します。
エージェントサーバ	同時に動作するエージェント数 (クラス C) (1~32)	同時に動作させるクラス C のエージェントの数を指定します。
エージェントサーバ	接続する PP サーバ数の最大(1~64)	エージェントサーバに接続する最大 PP サーバ数を指定します。
エージェントサーバ	同時に接続するユーザ数の最大(1~256)	エージェントサーバに同時に接続する最大ユーザ数を指定します。
スケジュール管理 /施設管理	ユーザが所属する組織の数(旧:全組織数) (1~9999)	組織の総数を指定します。ここで指定する組織とは、一人以上のユーザから構成される集まりです。会社の構造に例えると部や課に相当します。
スケジュール管理 /施設管理	施設が所属する組織の数 (1~9999)	組織の総数を指定します。ここで指定する組織とは、1 か所以上の施設から構成される集まりです。会社の構造に例えると部や課に相当します。
スケジュール管理 /施設管理	当該サーバに登録する施設数(1~10000)	会議室や体育館などの施設の総数を指定します。
スケジュール管理 /施設管理	ユーザを登録する組織の階層数の最大値 (1~50)	ユーザを階層化したときの階層数を指定します。
スケジュール管理 /施設管理	施設を登録する組織の階層数の最大値(旧:施設を登録した全階層数) (1~50)	施設を階層化したときの階層数を指定します。

電子アドレス帳/メール/ワークフローの場合、データベース運用期間 (データベースの再編成までの期間) は 30 日を仮定しています。運用期間ごとに [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。又は、データベースのファイルの増分に備えて、ディスクのパーティションの空きが十分か定期的に確認してください。

ここで求められる値は 1 サーバの値です。OS に HP-UX を使用していて、workflow の複数サービス機能を使用する場合は、各サーバの値で作成した個々のカーネルパラメタ変更情報ファイルを手作業でマージする必要があります。

ディレクトリ名称(F), (P), (K) :

[システム構成の設定] ダイアログで、[プログラム毎の設定] を選択すると、入力できます。プログラムごとに異なるディレクトリにデータベースファイルを作成する場合に指定します。

なお、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) 下のディレクトリにはデータベースを作成しないでください。(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) 下のディレクトリは、Object Server システムが使用するディレクトリであり、インストール時及びアンインストール時に削除されることがあります。保守性及び拡張性の観点から、データベースは、Object Server のインストールボリュームとは別のボリュームに作成することを推奨します。Object Server が使用するシステムディレクトリにつ

いては、「2.3.1 プログラムの組み込みと削除」の「表 2-1 組み込みファイル一覧 (オブジェクトサーバ)」を参照してください。

参照(I)..., (L)..., (R)... :

プログラムごとに異なるディレクトリにデータベースファイルを作成する場合に、ファイルシステムからデータベースを作成するディレクトリを選択できます。

なお、[参照] ボタンによるディレクトリの参照時、デフォルトでは、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) %bin ディレクトリが表示されますが、このディレクトリ下にはデータベースを作成しないでください。

デフォルト(D) :

手前に表示しているプログラムの設定値が、[システム構成の設定] ダイアログの内容からシステムが算出したデフォルト値に戻ります。

更新 :

指定値を確定して、[詳細設定] ダイアログを終了し、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル :

指定値を確定しないで [詳細設定] ダイアログを終了し、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[詳細設定] ダイアログのヘルプを表示します。

(12) [オプション設定] ダイアログ

(a) 機能

[オプション設定] ダイアログでは、Object Server 又は High-end Object Server で必要な、次に示す項目を設定します。

- Object Server で使用する簡易ジャーナルの設定
- High-end Object Server で使用するステータスファイル及びシステムジャーナルファイルの定義ファイルの作成
- ステータスファイル及びシステムジャーナルファイルを初期化する、バッチファイルの作成
- マルチサービス対応の設定 (OS 種別で HI-UX/WE2, HP-UX 又は AIX を選択した場合)

カーネルパラメタ変更情報作成時にはボタンを押すことはできません。

(b) 操作

[オプション設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [システム構成の設定] ダイアログの [オプション(B)...] を選択する

[オプション設定] ダイアログが表示されます。

2. 必要な情報を入力します。

[システム構成の設定] ダイアログの「プログラムの選択」で、Object Server 又は High-end Object Server のどちらを選択しているかにより、必要な入力情報が変わります。

Object Server を使用する場合の設定項目 :

- 簡易ジャーナルファイル名を指定します。

High-end Object Server を使用する場合の設定項目 :

- ステータスファイルを定義する。新たに追加する場合は [追加] ボタンを押す。
- 削除する場合は削除する項目を選択後, [削除] ボタンを押す。
- 設定した内容を修正する場合は修正する項目を選択後, [修正] ボタンを押す。
- ステータスファイルの項目を最大で七つまで定義する。
ステータスファイルの障害に備えて, A 系, B 系はそれぞれ別々のパーティション上に作成してください。
- システムジャーナルサービスを定義する。
操作はステータスファイルの作成と同じです。ジャーナルファイルも物理ファイルを複数のディスクに分けてください。
- マルチサービス対応の設定をする。
マルチサービス対応を使用する場合, マルチサービス対応(M)のチェックボックスを選択して, OMS 識別子(S)を入力します。OMS 識別子は, 半角英字で始まる, 半角英数字 2 文字で入力してください。

3. [OK] ボタンを選択する

指定値を確定して, [オプション設定] ダイアログを終了し, [システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-21 に [オプション設定] ダイアログを示します。

図 C-21 「オプション設定」ダイアログ

**Object Server(O) :**

「プログラムの選択」で Object Server を選択している場合に指定できる項目のグループです。

簡易ジャーナルファイル名(H) :

簡易ジャーナルファイルの出力先ファイル名を指定します。デフォルト値として、「(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) ¥spool¥sysjnl」が表示されています。

クラスタ環境で使用する場合を除いて、デフォルト値を設定してください。

OS 種別を HI-UX/WE2, HP-UX 又は AIX とした場合、デフォルト値は空欄のままです。

デフォルト値を変更する場合は、「(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ)」を含まないファイル名称にしてください。

指定を省略した(空欄にする)場合、次に示すファイル名が仮定されます。

OS 種別が Windows NT の場合 :

%XODDIR%¥spool¥sysjnl

OS 種別が HI-UX/WE2, HP-UX 又は AIX の場合 :

\$XODDIR/spool/sysjnl

参照(K)... :

ファイルシステムから簡易ジャーナルファイルを格納するディレクトリを指定できます。ファイル名は記述してください。

なお、[参照] ボタンによるディレクトリの参照時、デフォルトでは、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) %bin ディレクトリが表示されますが、このディレクトリ下には簡易ジャーナルファイルを作成しないでください。クラスタ環境で使用する場合を除いて、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) %spool%sysjnl と指定してください。

High-end Object Server(E) :

「プログラムの選択」で High-end Object Server を選択している場合に指定できる項目のグループです。

追加(A)..., 追加(X)... :

新たにステータスサービス定義又はシステムジャーナルサービス定義をする場合に選択します。

削除(D)..., 削除(Y)... :

選択したステータスサービス定義又はシステムジャーナルサービス定義を削除します。

修正(F)..., 修正(Z)... :

選択したステータスサービス定義又はシステムジャーナルサービス定義を修正します。

マルチサービス対応(M) :

マルチサービス対応を使用する場合に選択します。

OMS 識別子(S) :

OMS 識別子を指定します。

OK(N) :

設定した内容を確定して、[オプション設定] ダイアログを終了し、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル(C) :

設定した内容を確定しないで [オプション設定] ダイアログを終了し、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

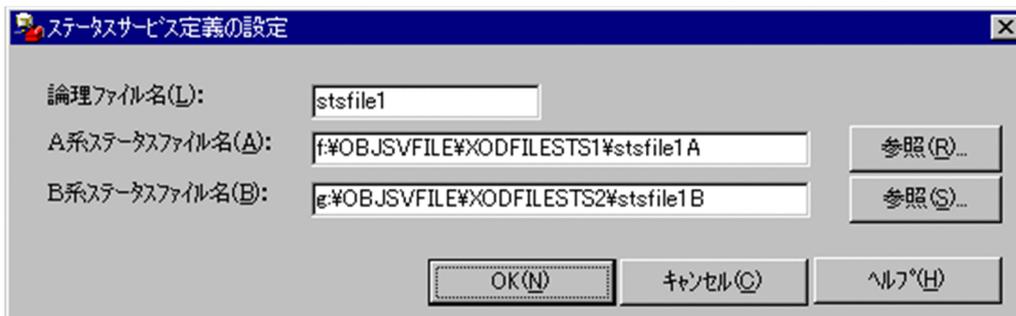
ヘルプ(L) :

[オプション設定] ダイアログのヘルプを表示します。

(d) ステータスサービス定義の設定画面で指定する項目

図 C-22 に [ステータスサービス定義の設定] ダイアログを示します。

図 C-22 [ステータスサービス定義の設定] ダイアログ



論理ファイル名 (L) :

ステータスファイルの論理ファイル名を先頭が英字で 1~8 バイトの半角英数字で指定します。

A 系ステータスファイル名 (A) :

B 系ステータスファイル名 (B) :

論理ファイルを構成する A 系及び B 系ステータスファイル名を 63 バイト以下のドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。

性能及び運用の観点から、ステータスファイルはデータベースが格納されているドライブとは別のディスクに作成することを推奨します。

ハードディスクの障害によってすべてのステータスファイルが障害とならないようにするため、A 系ファイル名と B 系ファイル名はできるだけ別ディスクに作成することを推奨します。また、それぞれの論理ファイルも、できるだけ別ディスクに作成することを推奨します。

※すべてのステータスファイルが障害となった場合、High-end Object Server は異常終了して、再開できない状態になります。

なお、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) 下のディレクトリにはステータスファイルを作成しないでください。(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) 下のディレクトリは、Object Server システムが使用するディレクトリであり、インストール時及びアンインストール時に削除されることがあります。保守性及び拡張性の観点から、ステータスファイルは、Object Server のインストールボリュームとは別のボリュームに作成することを推奨します。Object Server が使用するシステムディレクトリについては、「2.3.1 プログラムの組み込みと削除」の「表 2-1 組み込みファイル一覧 (オブジェクトサーバ)」を参照してください。

参照(R)..., 参照(S)... :

ファイルシステムからステータスファイルを格納するディレクトリを指定できます。ファイル名は記述してください。

なお、[参照] ボタンによるディレクトリの参照時、デフォルトでは、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) %bin ディレクトリが表示されますが、このディレクトリ下にはステータスファイルを作成しないでください。

OK(N) :

設定を有効にして、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル(C) :

設定を破棄して、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[ステータスサービス定義の設定] ダイアログのヘルプを表示します。

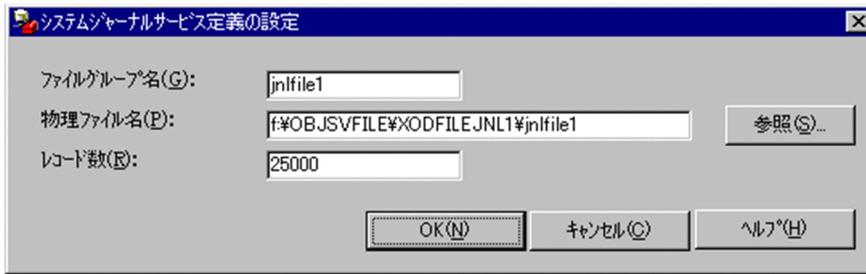
※注意事項

- A 系, B 系ステータスファイルのレコード数は 32 固定となります。
High-end Object Server は、レコード数 32 を超えて使用しないので、生成されたパラメタを変更する必要はありません。
- 1 レコードは 4608 バイトです。

(e) システムジャーナルサービス定義の設定画面で指定する項目

図 C-23 に [システムジャーナルサービス定義の設定] ダイアログを示します。

図 C-23 「システムジャーナルサービス定義の設定」 ダイアログ



ファイルグループ名 (G) :

ジャーナルファイルのグループ名を 1~8 バイトの半角英数字で指定します。ただし、先頭文字に数字を用いることができません。

物理ファイル名 (P) :

ファイルグループを構成する物理ファイル名を 63 バイト以下のドライブ名から始まる絶対パス名で指定します。

なお、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) 下のディレクトリには物理ファイルを作成しないでください。(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) 下のディレクトリは、Object Server システムが使用するディレクトリであり、インストール時及びアンインストール時に削除されることがあります。保守性及び拡張性の観点から、物理ファイルは、Object Server のインストールボリュームとは別のボリュームに作成することを推奨します。Object Server が使用するシステムディレクトリについては、「2.3.1 プログラムの組み込みと削除」の「表 2-1 組み込みファイル一覧 (オブジェクトサーバ)」を参照してください。

性能及び運用の観点から、物理ファイルはデータベースが格納されているドライブとは別のディスクに作成することを推奨します。

ハードディスクの障害によってすべての物理ファイルが障害とならないようにするため、複数のディスクに物理ファイルを作成することを推奨します。

参照(R)... :

ファイルシステムから物理ファイルを格納するディレクトリを指定できます。

ファイル名は記述してください。

なお、[参照] ボタンによるディレクトリの参照時、デフォルトでは、(オブジェクトサーバの組み込みディレクトリ) %bin ディレクトリが表示されますが、このディレクトリ下には物理ファイルを作成しないでください。

レコード数 (R) :

初期設定するレコード数(20~262144)を指定します。

OK(N) :

設定を有効にして、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル(C) :

設定を破棄して、[オプション設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[システムジャーナルサービス定義の設定] ダイアログのヘルプを表示します。

※注意事項

- レコード数のデフォルト値は 25000 です。
- 1 レコードは 4096 バイトです。

- jnl_unload_check=Y になります。
- jnl_return_swap=N になります。
- jnl_cdinterval には、次の値を設定します。連携する Groupmax アプリケーションの指示に従ってチューニングしてください。
この項目については「7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル(High-end Object Server)」をご覧ください。

【設定値】

- メール及びワークフローを使用しない場合：100
- メールを使用する場合：200
- メール及びワークフローを使用する場合：300

(f) ジャーナルファイルの見積もりについて

ジャーナルの容量は、次に示した方法で見積もることをお勧めします。なお、次に示す方法は、毎日夜間にジャーナルをアンロードするという運用を前提にしています。

1. 1日のジャーナル出力量を Groupmax の各 PP の計算式から見積もる。
2. 次の指針から、一つのジャーナルファイルの容量を求める。
 - ジャーナルのスワップ回数は、数回/日が推奨。
 - ジャーナルファイルの障害に備えて、アンロードしなくても、1日ですべてのジャーナルファイルを使い切らないように（例えば、八つのジャーナルファイルがあれば3~4個は使わず残るように）、一つのファイルサイズを決定する。
3. 運用後、ジャーナルファイルの使用状況を監視し、ジャーナル量の見積もり値を検証する。

1日のジャーナル出力量を Groupmax の各 PP の計算式から見積もることが困難な場合は、次の手順で見積もってください。

1. 仮のジャーナルサイズでジャーナルファイルを複数作成する（例：デフォルトサイズ及び個数）。
2. High-end Object Server のシステムサービス定義の、ジャーナルアンロードチェックの指定 (jnl_unload_check) を、一時的に N 指定（ジャーナルアンロードチェックをしない）に変更する。
※Nを指定した場合、ジャーナルのアンロードをしなくても、自動的にジャーナルファイルが再利用されます。しかし、ジャーナルによるデータベースの回復ができなくなりますので、データベースのバックアップを毎日取得するなどによって、障害に備えてください。
3. ジャーナルファイルのスワップ回数などの監視などによって、ジャーナルの使用状況を監視して、1日で必要なジャーナル容量を求める。
4. 求められた値によって、ジャーナルファイルを再作成する。
5. High-end Object Server のシステムサービス定義のジャーナルアンロードチェックの指定 (jnl_unload_check) を元に戻す。

(13) [データベース容量の確認] ダイアログ

(a) 機能

[データベース容量の確認] ダイアログでは、作成したパラメタを使用してデータベースを作成したときの、データベース容量を確認できます。

(b) 操作

[データベース容量の確認] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [システム構成の設定] ダイアログの [完了] を選択する

[データベース容量の確認] ダイアログが表示されます。

2. データベース容量を確認する

データベース容量が不足していても、パラメタ作成に支障はありませんが、データベース初期設定、又は構成変更を実行するまでに、必要なディスク容量を確保してください。ディスク容量を確保できない場合は、[システム構成の設定] ダイアログ及び [詳細設定] ダイアログで、設定値を見直してください。

3. 確認後、問題がなければ [OK] ボタンを選択する

データベース初期化用パラメタ又はデータベース構成変更用パラメタが作成されます。作成後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

(c) ダイアログで表示する項目及び指定する項目

図 C-24 に [データベース容量の確認] ダイアログ(Windows NT)を、図 C-25 に [データベース容量の確認] ダイアログ(UNIX)を示します。

図 C-24 [データベース容量の確認] ダイアログ(Windows NT)

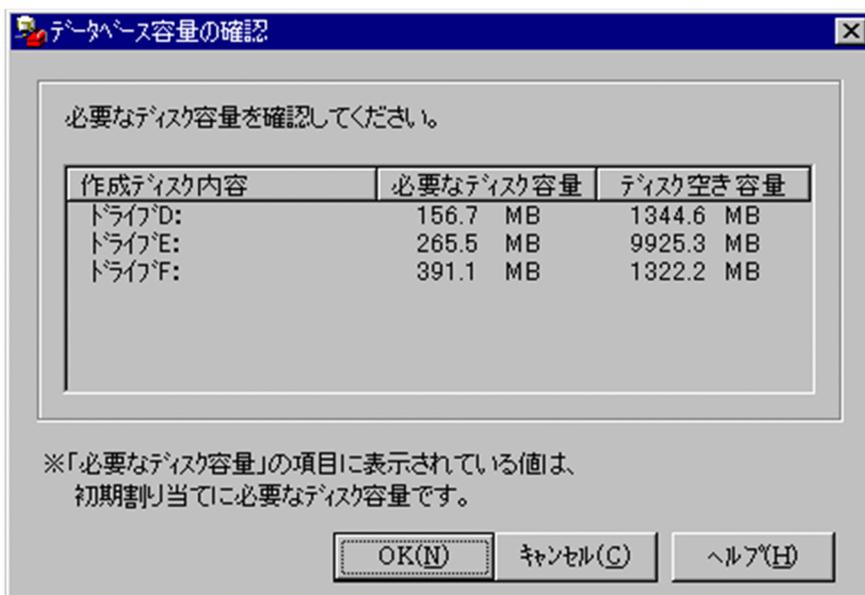
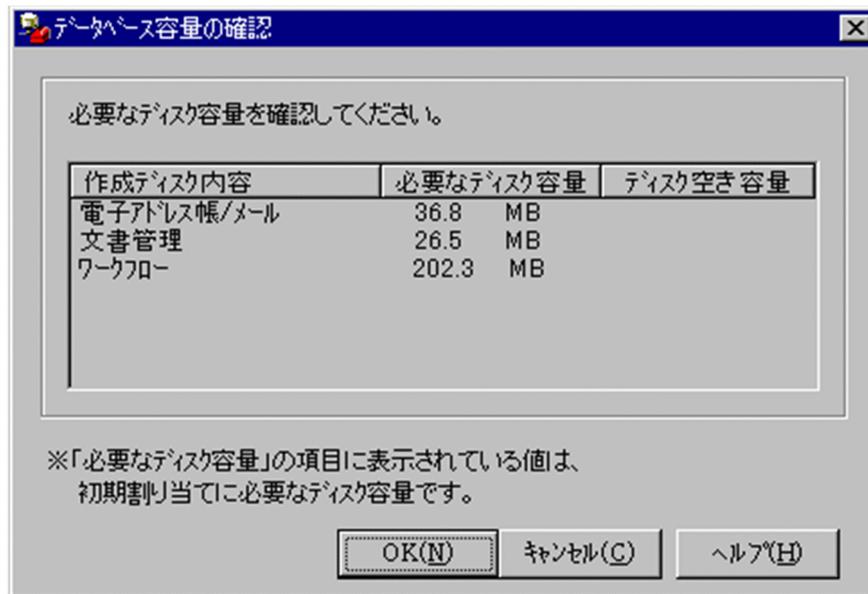


図 C-25 「データベース容量の確認」ダイアログ(UNIX)

**必要なディスク容量：**

必要なディスク容量が表示されます。Windows NT の場合はドライブ単位に、UNIX の場合はプログラム単位に表示されます。

ディスク空き容量：

データベース作成のディレクトリとして指定したドライブのディスクの空き容量が表示されます。Windows NT の場合だけ表示されます。

OK(N)：

データベース初期化用パラメタ又はデータベース構成変更用パラメタを作成します。その後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

なお、システム共通定義ファイルの static_shmpool_size が上限を超え、通常の丸め処理では丸めされない場合、以下のメッセージが表示されます。

KFXO90315-W static_shmpool_size の値が上限を超えました。

resipool パラメタ DICTIONARY の -m オペランド値を減らしてパラメタ生成処理を続行する場合「OK」をクリックして下さい。

但し、この場合、Groupmax システム全体の性能が低下する可能性があります。

パラメタの調整を行う場合は、「キャンセル」をクリックして、以下のパラメタの見直しを行ってください。

- 一般文書データベース数
- フォーム文書データベース数
- 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- 複数グループアクセス権機能

また、データベースのエリアを構成するファイル数が 90 を超える場合は、以下のメッセージが表示されます。

KFXO90314-W 初期設定/構成変更/再構成パラメタファイルの file パラメタの指定が 90 個を超えました。(作成 file パラメタ: xxx 個)

file パラメタの指定が 90 個を超えると、エラーが発生したり性能が低下する場合があります。

生成されたパラメタファイルを修正して、file パラメタの指定が 90 個以内になるように調整してください。

xxx には、数字が入ります。

キャンセル(C) :

パラメタを作成しないで [データベース容量の確認] ダイアログを終了し、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[データベース容量の確認] ダイアログのヘルプを表示します。

(14) [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログ

(a) 機能

[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログでは、UNIX サーバで用いるカーネルパラメタ変更情報ファイルに対する操作種別を指定します。

! 注意事項

[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログは、[Object Server 簡易設定] ダイアログと同時に起動することはできません。[Object Server 簡易設定] ダイアログを終了させてから実行してください。

(b) 操作

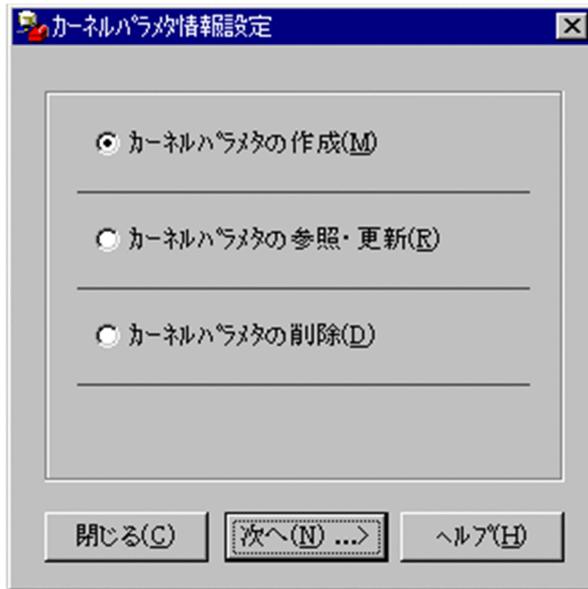
[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [Groupmax 環境設定] ウィンドウの [カーネルパラメタ情報設定] アイコンを選択する
[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログが表示されます。
2. 該当する項目を選択する
3. [次へ(N)...>] ボタンを選択する
選択した操作を実行する、次のダイアログが表示されます。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-26 に [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログを示します。

図 C-26 [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログ



カーネルパラメタの作成(M) :

UNIX で用いるカーネルパラメタ変更情報ファイルを作成する場合に選択します。選択すると、次に [カーネルパラメタの作成] ダイアログが表示されます。

カーネルパラメタの参照・更新(R) :

作成済みのカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容を参照したり、更新したりする場合に選択します。選択すると、次に [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログが表示されます。

カーネルパラメタの削除(D) :

作成済みのカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容を削除する場合に選択します。選択すると、次に [カーネルパラメタの削除] ダイアログが表示されます。

(15) [カーネルパラメタの作成] ダイアログ

(a) 機能

[カーネルパラメタの作成] ダイアログでは、UNIX サーバの環境設定に必要なカーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを新規に作成するための設定をします。

ここで指定するのは、カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルの論理的な名称です。

(b) 操作

[カーネルパラメタの作成] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログの [カーネルパラメタの作成] を選択する
[カーネルパラメタの作成] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [次へ(N)...>] ボタンを選択する
[カーネルパラメタ設定] ダイアログが表示されます。

(c) ダイアログで設定する項目

図 C-27 に [カーネルパラメタの作成] ダイアログを示します。

図 C-27 [カーネルパラメタの作成] ダイアログ



パラメタ名称(S) :

カーネルパラメタ変更情報通知ファイルに付ける論理的な名称を 1~31 バイトの半角英数字で入力します。すでに存在するパラメタ名称を入力すると、エラーになります。

デフォルト値として"myhost"が表示されます。

閉じる(C) :

[カーネルパラメタの作成] ダイアログを終了して、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

次へ(N) :

[カーネルパラメタ設定] ダイアログを開きます。

ヘルプ(H) :

[カーネルパラメタの作成] ダイアログのヘルプを表示します。

(16) [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログ

(a) 機能

[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログでは、参照・更新するパラメタ名称を指定します。指定したファイルの設定情報が、[カーネルパラメタ設定] ダイアログ及び [詳細設定] ダイアログに表示されます。

(b) 操作

[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログの [カーネルパラメタの参照・更新] を選択する
[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [次へ(N)...>] ボタンを選択する
[カーネルパラメタ設定] ダイアログが表示されます。

(c) ダイアログで設定する項目

図 C-28 に [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログを示します。

図 C-28 [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログ



パラメタ名称(S) :

カーネルパラメタの作成時に付けた論理的な名称を，リストから選択できます。

戻る(B) :

[カーネルパラメタの参照・設定] ダイアログを終了して，[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

次へ(N) :

[カーネルパラメタ設定] ダイアログを開きます。

ヘルプ(H) :

[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログのヘルプを表示します。

(17) [カーネルパラメタの削除] ダイアログ

(a) 機能

[カーネルパラメタの削除] ダイアログでは，指定したカーネルパラメタファイルを削除します。

(b) 操作

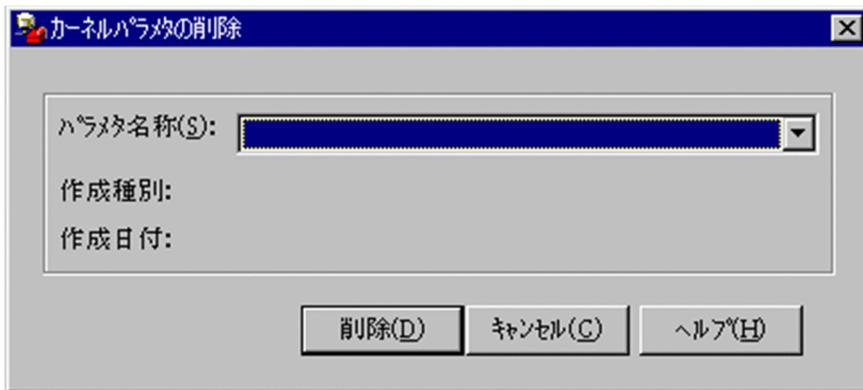
[カーネルパラメタの削除] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログの [カーネルパラメタの削除] を選択する
[カーネルパラメタの削除] ダイアログが表示されます。
2. パラメタ名称を入力する
3. [削除(D)] ボタンを選択する
指定したファイルが削除されます。

(c) ダイアログで設定する項目

図 C-29 に [カーネルパラメタの削除] ダイアログを示します。

図 C-29 [カーネルパラメタの削除] ダイアログ



パラメタ名称(S) :

カーネルパラメタファイル作成時に付けた論理的な名称を、リストから選択できます。

削除(D) :

指定したカーネルパラメタファイルを削除します。その後 [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル(C) :

カーネルパラメタファイルを削除しないで [カーネルパラメタの削除] ダイアログを終了します。その後 [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H) :

[カーネルパラメタの削除] ダイアログのヘルプを表示します。

(18) [カーネルパラメタ設定] ダイアログ

(a) 機能

[カーネルパラメタ設定] ダイアログでは、カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成するための情報を設定します。

ここで指定するのは、システム全体の情報です。Groupmax サーバ環境設定ユーティリティは、この情報をそれぞれのサーバプログラムの詳細な指定値へと展開し、それを基にパラメタの指定値を決めます。各サーバプログラムの詳細な指定値は、[詳細(Y)...] ボタンを選択して表示される [詳細設定] ダイアログで参照及び変更できます。

これらで指定した内容を基に、カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルが作成されます。

(b) 操作

[カーネルパラメタ設定] ダイアログの操作方法を説明します。

1. [カーネルパラメタの作成] ダイアログ又は [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログの [次へ(N)...>] を選択する

[カーネルパラメタ設定] ダイアログが表示されます。

2. 構築する環境に見合う値をそれぞれの項目に入力する

詳細設定が必要な場合は、[詳細(Y)...] を選択すると表示される [詳細設定] ダイアログで指定してください。

[オプション(B)] は選択できません。

3. [完了] ボタンを選択する

カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成します。

(c) ダイアログで指定する項目

図 C-30 に [カーネルパラメタ設定] ダイアログを示します。

図 C-30 [カーネルパラメタ設定] ダイアログ



次に示す項目については、[システム構成の設定] ダイアログの「付録 C.3(10)(c)ダイアログで指定する項目」の説明を参照してください。

- システム内の全ユーザ数(T)
- このサーバに登録するユーザ数(U)
- メモリサイズ(E)

- OS 種別(O)
- プログラムの選択

なお、プログラムの選択には、デフォルト値として Object Server(9), メール(M), 文書管理(F), 電子アドレス帳(A), ワークフロー(W)が選択されています。必要に応じて使用するプログラムを選択してください。

データベースの作成:

このダイアログでデータベースの作成はできません。

完了:

カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成して、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

キャンセル:

カーネルパラメタ変更情報の通知ファイルを作成しないで、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

ヘルプ(H):

[カーネルパラメタ設定] ダイアログのヘルプを表示します。

付録 C.4 作成ファイルを他のサーバで使用する場合

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティで作成した定義ファイルを他のサーバで使用する手順を説明します。

定義ファイルを他のサーバで使用する場合は、システム環境への登録はできません。ファイルの転送後に、システム共通定義ファイルを%XODDIR%*conf*xodrcとして格納すること、及びデータベース作成ディレクトリを作成してあるかどうか確認することを忘れないでください。

(1) Windows NT サーバの場合

次の手順でユーティリティを実行してください。

1. 作成した*ESET*usr* (パラメタ名称) 下の初期設定パラメタファイル(esetinit.txt), 構成変更パラメタファイル(esetcons.txt), 又は再構成パラメタファイル(esetreco.txt), 及びシステム共通定義ファイル(esetrc.txt)を他のサーバにコピーする。

High-end Object Server を使用する場合は、更に、ステータスサービス定義ファイル(esetsts.txt), システムジャーナルサービス定義ファイル(esetjnl.txt), システムファイル作成用バッチファイル(DBSINT.BAT)もコピーする。

2. コピー先のサーバにログオンする。
3. データベースの初期化, 構成変更又は再構成をする場合は、システム共通定義ファイルを、%XODDIR%*conf*xodrcとして格納する。
4. オブジェクトサーバの [データベースの初期化] ユティリティ, [データベースへのエリアの追加] ユティリティ又は [データベースリアの再作成ユーティリティ] を実行する。

実行時に、コピーされてきたファイルの名称を入力します。

High-end Object Server を使用する場合は、初期設定時、システムファイル作成用バッチファイルを起動してください。その後、ステータスサービス定義ファイルを%XODDIR%*conf*sts, システムジャーナルサービス定義ファイルを%XODDIR%*conf*sysjnlとしてそれぞれ格納します。

(2) UNIX サーバの場合

(a) 実行手順

次の手順で xodbinit コマンドを実行してください。

1. UNIX 用として作成した`¥ESET¥usr¥` (パラメタ名称) 下の初期設定パラメタファイル(esetinit.txt) 又は再構成パラメタファイル(esetreco.txt)及びシステム共通定義ファイル(esetrc.txt)を ftp で他のサーバに転送する。

High-end Object Server を使用する場合は、更に、ステータスサービス定義ファイル(esetsts.jnl.txt)、システムジャーナルサービス定義ファイル(esetjnl.txt)、システムファイル作成用バッチファイル(DBSINT.BAT)も転送する。

2. 転送先のサーバにログインする。
3. データベースの初期化をする場合は、システム共通定義ファイルを、`$XODDIR/conf/xodrc`として格納する。
4. esetknl.txt の内容を参考にして、OS のカーネルパラメタの設定コマンドを使ってカーネルパラメタ値を変更する。

カーネルパラメタ値の変更方法は「(b) カーネルパラメタ値の変更」を参照してください。

5. オブジェクトサーバの xodbinit コマンドを実行する。

実行時に、転送されてきた初期設定パラメタファイルの名称を指定します。

High-end Object Server を使用する場合は、初期設定時、システムファイル作成用バッチファイルを起動してください。その後、ステータスサービス定義ファイルを`$XODDIR/conf/sts`、システムジャーナルサービス定義ファイルを`$XODDIR/conf/sysjnl`としてそれぞれ格納します。

(b) カーネルパラメタ値の変更

UNIX では、xodbinit コマンドを実行する前に、カーネルパラメタ値を変更する必要があります。HI-UX/WE2 又は HP-UX の場合、カーネルパラメタ値の変更には、sam コマンドを使ってください。AIX の場合、カーネルパラメタ値の変更には、chuser コマンド、chdev コマンド、又は smit コマンドを使ってください。また、このユーティリティで作成したカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルに記載されたパラメタごとの指定方法に従ってください。

次に、パラメタごとの指定方法を説明します。

- nfile, nflocks, ninode, maxuprc, nproc, semmnu, msgmni, msgtql, shmmni, semmns, semmni, msgmax, msgmnb, msgseg, msgssz パラメタ
カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルに記載された値は、Groupmax を運用するために必要となる値です。初期設定パラメタ、構成変更パラメタを作成した場合は、現在設定されている値に、通知ファイルの値を加算した値を設定してください。再構成を行った場合は、Groupmax として今までに加算した値より増えた分だけを加算してください。ただし、すでに、Groupmax を含むシステム環境を運用するために十分な値が設定されていれば、変更する必要はありません。また、システムの上限值を超えない範囲で値を加算してください。
- shmmmax, maxdsize パラメタ
現在設定されている値とカーネルパラメタの変更情報の通知ファイルに記載された値を比較して、大きい方の値を設定してください。
- ncallout パラメタ

HI-UX/WE2 04-00, 04-01, 05-00 での変更は不要です。それ以外のシステムでは、カーネルパラメタの変更情報の通知ファイルに記載された nproc パラメタの値に、64 を加算した値以上を設定してください。

- maxfiles, maxfiles_lim パラメタ
3050RX シリーズ, 3500 シリーズ, HP-UX 版だけで使用できます。
- nofiles, data_hard, maxuproc パラメタ
AIX の場合だけ使用できます。

付録 C.5 クラスタ環境で使用する場合の注意事項

クラスタ環境で環境設定ユーティリティを使用する場合、共有ドライブ上にファイルを作成しようとした場合、

「KFXO90100-I フロッピーディスクや、ネットワークドライブは指定できません」

のエラーメッセージが出る場合があります。

これは共有ドライブがシステム上ネットワークドライブと扱われるために起こる現象です。

ファイルをローカルドライブで仮に指定し、定義ファイル作成後にドライブ文字を、共有ドライブ名に変えて、各種データベースユーティリティを実行してください。

付録 D 障害予防と対処

オブジェクトサーバを運用していく上で注意する必要がある項目について説明します。また、障害が発生したときに備えて必要な作業について説明します。

付録 D.1 バックアップの取得による障害予防

障害の発生に備えてバックアップを取得します。バックアップの取得方法とバックアップからの回復方法については、「4.4 データベースのバックアップの取得」、「4.5 データベースの回復」を参照してください。

(1) バックアップの取得する時点

オブジェクトサーバの運用時には、障害の発生に備えて次の時点でバックアップを取得するようにしてください。

- **定期的な取得**
ファイル障害などに備えて、バックアップは定期的に取得するようにしてください。
- **データベースを構成変更及び再編成するユティリティの実行前**
データベースを構成変更又は再編成したときに障害が発生した場合に備えて、バックアップを取得します。次に示すユティリティを実行する前には、すべてのファイルのバックアップを取得してください。
 - [データベースへのエリアの追加] ユティリティ
 - [データベースのエリアの削除] ユティリティ
 - [データベースへのファイルの追加] ユティリティ
 - [データベースのエリアの再作成] ユティリティ
 - [データベースの再編成] ユティリティ
- **データベースを構成変更及び再編成するユティリティの実行後**
次に示すユティリティが正常終了した時に、すべてのファイルのバックアップを取得してください。なお、このバックアップは、安全のためにユティリティ実行前に取得したバックアップとは別に保存してください。
 - [データベースへのエリアの追加] ユティリティ
 - [データベースのエリアの削除] ユティリティ
 - [データベースへのファイルの追加] ユティリティ
 - [データベースのエリアの再作成] ユティリティ
 - [データベースの再編成] ユティリティ
- システムを移行するとき
- システムをバージョンアップするとき

(2) バックアップの運用時の注意事項

バックアップを取得するとき、及びバックアップからデータベースを回復するときに注意することについて説明します。

- **バックアップを取得するとき**
 - 連携プログラムはすべて停止してください。

- オブジェクトサーバを正常終了させてください。オブジェクトサーバがすでに停止していて前回の停止時の状態が分からない場合は、一度オブジェクトサーバを起動させてから、正常終了してください。
- バックアップの取得漏れがないようにしてください。特に、データベースにエリアを追加した場合、及びファイルを追加した場合は注意してください。
- **バックアップから回復するとき**
 - バックアップからデータベースを回復するときには、使用するバックアップファイルが、どの時点のバックアップファイルかを確認してください。確認には、バックアップを取得した時に記録したシステムの状態や保管したファイル、及びログ情報などを参照してください。
 - データベースの回復中にエラーが発生した場合は、回復中のデータベースは壊れています。この場合は、エラーの原因に対処した後で、回復をはじめから実行し直してください。

付録 D.2 データベースの運用時の障害予防

データベースの運用中に注意することについて説明します。

(1) システム環境を設定及び変更するとき

- **ディスク容量の確認**
データベースを運用中に発生するファイルの増分を考慮してください。初期設定パラメタの file パラメタで -m オペラント（ファイルの最大割り当て量）の指定を省略している場合は、ファイルは最大 2 ギガバイトまで増分します。増分に十分なファイルシステムを用意するか又はファイルの最大割り当て量を設定してください。
- **ファイルの変更時の注意**
オブジェクトサーバの起動中に、次のファイルは変更しないでください。
 - 通信設定ファイル（Windows NT 組み込み先ディレクトリ¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC ¥HOSTS）
 - システム共通定義
誤ってオブジェクトサーバの起動中にシステム共通定義を変更してしまった場合は、システム共通定義を元に戻して、オブジェクトサーバを停止してください。その後、システム共通定義を変更してオブジェクトサーバを起動してください。

(2) データベースファイルを削除するとき

オブジェクトサーバのデータベースファイルは、[データベースのエリアの削除] ユティリティを使用して削除してください。エクスプローラやファイルマネージャなどの OS の機能を使用して削除しないでください。

なお、[データベースのエリアの削除] ユティリティで削除できるエリアの種別については、「8.3.3 データベースのエリアの削除」を参照してください。

(3) データベースを再編成するとき

- **作業領域の確認**
再編成を実行するときは、再編成パラメタファイルの -w オペラントで指定した作業領域を使用します。-w オペラントの指定を省略した場合は、%XODDIR%¥spool¥work を作業領域として使用します。-w オペラントの指定を省略している場合には、事前に%XODDIR%¥spool¥work の空き領域を確認して、領域を確保するようにしてください。

- 再編成によってデータベースの不整合が発生した場合の対処

[データベースの再編成] ユティリティを実行したときに、メッセージ KFXO56035-E が出力されてユティリティが異常終了した場合は、データベースファイルが不整合になっている可能性があります。この場合は、連携プログラムとオブジェクトサーバを停止して、データベースをバックアップから回復してください。

(4) データベース満杯状態の回避

データベース運用中にデータベースが満杯状態になるのを防ぐための方法について説明します。データベースの使用状況は、[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティによって確認できます。[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティについては、「8.7.2 データベースエリアの使用状況の表示」を参照してください。なお、メッセージとして KFXO41012-I, KFXO41053-I, KFXO41055-I が出力されている場合についても、データベースの容量が満杯に近づいている可能性がありますので、同様にデータベースの使用状況の表示で使用状況を確認し必要に応じて対処を行ってください。出力した使用状況の見方については、「4.3.2 データベースエリアの使用状況の表示」を参照してください。これによって、データベースが満杯状態に近づいていることを確認した場合は、次に示す方法で対処してください。

- データベースのエリアを拡張する
- 不要なオブジェクトを削除する

また、メッセージ KFXO40401-E 及び KFXOE40402-E が出力された場合も、オブジェクトサーバのデータベースエリアの容量が不足していますので、対処が必要です。

(a) データベースのエリアを拡張する

データベースエリアを拡張する方法について説明します。

Groupmax Address/Mail Server, Groupmax Document Manager 及び Groupmax Workflow Server のユーザ数増加や業務への適用範囲拡張など、環境の変更に伴うエリアの拡張作業が必要な場合にも、次に示す方法で実行してください。

- エリアの拡張方法の検討
- データベースのファイルの属性変更
次のような場合に利用してください。
 - 「最大割り当て量」の指定があるファイルで、データベースが満杯状態になっているか、又は満杯状態に近づいており、至急にエリアを拡張したい場合にお勧めします。
- データベースへのファイルの追加
次のような場合に利用してください。
 - ファイルのあるパーティションに十分な空き領域がないとき、別のパーティションにファイルを追加します。
- データベースのエリアの再構成
次のような場合に利用してください。
 - ユーザ追加などによるエリアの再構成をする場合
 - サーバ統合などによるサーバの再構築時にエリアの再構成をする場合
 - 一時的にデータベースのファイルの属性変更及びデータベースへのファイルの追加で、エリア拡張の対処をしてきた後にエリアの再構成をする場合
 - データベースのファイルの属性変更及びデータベースへのファイルの追加で、対処できない場合

[データベースのエリアの再作成] ユティリティを実行することによって、エリアのセグメントサイズ、エリアを構成するファイル、ファイルの初期割り当て量及びファイルの最大割り当て量を変更できます。

- 事前準備

エリアを拡張するために「最大割り当て量」の変更が必要かどうか検証します。

なお、この検証は、「最大割り当て量」の指定のあるファイルのエリアを拡張する場合にだけ必要です。

ただし、インデクス用エリア及びOID インデクス用エリアの場合は不要です。

[エリアのファイルの「最大割り当て量」の変更を検証する式]

a = 再見積もり後の area パラメタの-s オペランド×再見積もり後の file パラメタの-m オペランドの値

b = 現在の area パラメタの-s オペランド×現在の file パラメタの-m オペランドの値^{*1} ^{*2}

- 上記式が「 $a > b$ である」時、file パラメタの-m オペランド（最大割り当て量）の変更が必要です。

変更後の-m オペランドの値は、「 $a / \text{現在の area パラメタの-s オペランドの値}$ 」を切り上げた値です。

なお、変更後の-m オペランドの値は、a 式の「再見積もり後の file パラメタの-m オペランドの値」に代入してください。

- 上記式が「 $a > b$ でない」時でも、そのデータベースのファイルが満杯になっている場合は、file パラメタの-m オペランド（最大割り当て量）の変更が必要です。

この場合、a 式の値の見積もり誤りが考えられますので、現在の file パラメタの-m オペランドの値^{*1} ^{*2}の 1.2 倍（適当な安全係数を設定してください）などの値を変更後の-m オペランドの値にしてください。なお、変更後の-m オペランドの値は、a 式の「再見積もり後の file パラメタの-m オペランドの値」に代入してください。

[a 式の求め方]

a 式への代入値は、次の方法で求めることができます。

[Groupmax サーバ環境設定] ユティリティで [Object server の簡易設定] - [データベース定義ファイルの作成] - [データベース構成変更用パラメタの作成] を選択します。

再見積もり後のシステム構成情報を入力してデータベース構成変更パラメタを作成します（(オブジェクトサーバ組み込みディレクトリ) %ESET%usr% (パラメタ名称) のディレクトリ下に esetrc.txt 及び esetcons.txt のファイルが作成されます）。

パラメタに指定された再見積もり後の「セグメントサイズ」及び「最大割り当て量」を a 式へ代入してください。

[b 式の求め方]

b 式への代入値は、次のどれかの方法で求めることができます。

- Object Server 02-30 及び High-end Object Server 02-30 以降のシステムを運用している場合
データベースエリア情報出力ツール (xodarls) による表示結果から確認できます。
データベースエリア情報出力ツール (xodarls) で表示される「セグメントサイズ」及び「最大割当量」を b 式へ代入してください。
- Object Server 02-30 及び High-end Object Server 02-30 より前のシステムを運用している場合
次のユティリティ処理結果リストの表示内容から確認してください。
 - [データベースの初期化] ユティリティ
 - [データベースのエリアの追加] ユティリティ

- ・ [データベースへのファイルの追加] ユティリティ
- ・ [データベースのファイルの属性変更] ユティリティ

現在の「セグメントサイズ」及び「最大割当量」※¹をb式へ代入してください。

- Object Server 02-30 及び High-end Object Server 02-30 より前のシステムを運用しており、上記の [データベースの初期化]、[データベースのエリアの追加]、[データベースへのファイルの追加] 又は [データベースのファイルの属性変更] ユティリティのユティリティ処理結果リストがない場合

次のユティリティの実行時に使用したパラメタファイルの内容から確認してください。

- ・ [データベースの初期化] ユティリティの初期設定パラメタファイル
- ・ [データベースのエリアの追加] ユティリティの構成変更パラメタファイル
- ・ [データベースへのファイルの追加] ユティリティの構成変更パラメタファイル

パラメタファイルに指定した「セグメントサイズ」及び「最大割り当て量」※²をb式へ代入してください。

注※1：

当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」は、指定した値よりも大きな値に補正されている場合があります。その場合、現在のセグメント数は、当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」よりも大きくなっている場合があります。

補正の仕方については、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」の file パラメタ-m オペランドの説明を参照してください。

注※2：

当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」は、指定した値よりも大きな値に補正されている場合があります。その場合、現在のセグメント数は、当該エリアを初期化した時に指定したファイルの「最大割り当て量」よりも大きくなっている場合があります。

「最大割り当て量」が補正されている場合は、補正後の「最大割り当て量」をb式へ代入してください。

補正の仕方については、「7.5.2 初期設定パラメタの項目」の file パラメタ-m オペランドの説明を参照してください。

• エリアを拡張する手順

1. オブジェクトサーバのシステム管理者のユーザ ID でログオンしてください。
2. オブジェクトサーバを正常停止してください。すでにオブジェクトサーバが停止していて前回の停止状態が不明である場合は、いったんオブジェクトサーバを起動して、正常停止してください。
3. オブジェクトサーバのデータベースのファイルをバックアップします。
構成変更の失敗時に備えます。
なお、次の手順で、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティだけを実行する場合、データベースのファイルのバックアップの取得を省略してもかまいません。
4. オブジェクトサーバをユティリティモードで起動してください。
5. ファイルを追加する場合、[データベースへのファイルの追加] ユティリティを実行します。
6. ファイルを拡張する場合、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを実行します。
[最大割り当て量] には変更後の最大割り当て量を指定してください。
7. エリアを再作成する場合、[データベースのエリアの再作成] ユティリティを実行します。

8. インデクス用エリア及び OID インデクス用エリアの file パラメタに -m オペランドを指定していた場合、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを実行して、-m の指定値を無効にします。

[最大割り当て量] には「0」を指定してください。

その後、データベースを再編成してください。

今後も、定期的にデータベースの再編成を実施してください。

9. オブジェクトサーバを正常停止します。

10. オブジェクトサーバのデータベースのファイルをバックアップします。

• エラー発生時の対処

• [データベースのエリアの再作成] ユティリティ及び [データベースのファイルの追加] ユティリティを実行中にエラーが発生した場合は、次の手順で対処してください。

1. オブジェクトサーバを停止します。

2. 作成中のデータベースのファイルが残っていれば、削除します。

3. バックアップからリストアします。

4. エラー要因を取り除いて、上記の手順の 4 からやり直します。

• [データベースのファイルの属性変更] ユティリティを実行中にエラーが発生した場合は、エラーの要因を取り除いて、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを再度実行してください。

• エリアを拡張するときの注意事項

エリアを拡張するときには、次のことに注意してください。

• ファイルの属性を変更するときに、最大割り当て量に「0」を指定して -m オペランドの指定を無効にした場合は、ファイルはファイルシステムが一杯になるか、又は 2 ギガバイトまで増分します。この場合は定期的に [データベースの再編成] ユティリティを実行してください。また、定期的に [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティを実行して、ファイルシステムが一杯にならないように確認するようにしてください。

[データベースの再編成] ユティリティについては、[8.4.1 データベースの再編成] を、[データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティについては、[8.7.2 データベースエリアの使用状況の表示] を参照してください。

• ファイルを追加及びエリアの再作成をする場合は、ファイルを追加するための十分な空き領域があることを確認してください。空き領域がない場合は不要なファイルを削除するか、又は領域を作成してからユティリティを実行してください。

• ファイルを追加する場合は構成変更パラメタファイル、エリアの再作成をする場合は再構成パラメタファイルの、file パラメタの -n オペランドに指定するファイル名称に空白を含まないようにしてください。

• ファイルを追加する場合は構成変更パラメタファイル、エリアの再作成をする場合は再構成パラメタファイルの OID インデクス用エリア及びインデクス用エリアの file パラメタに -m オペランドは指定しないでください。

• ファイルを追加及びエリアの再作成をする場合は、データベースのバックアップ及びデータベースの回復の運用も見直してください。

(b) 不要なオブジェクトを削除する

データベースの満杯状態が近づいてエリアのページ不足が発生した場合に、不要なオブジェクトを削除して空きページを作成する方法について説明します。

- Groupmax Mail Server の自動削除デーモンの起動

データベースが満杯に近づいているエリアが Groupmax Address/Mail Server で使用しているエリアの場合は、Groupmax Mail Server の自動削除デーモンを起動して、不要なオブジェクトを削除できます。ただし、この場合、エリアからユーザのメールを削除することになるので、計画的な運用をしてください。Groupmax Mail Server の自動削除デーモンについては、「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

また、自動削除デーモンを使用した運用をする場合は、定期的に [データベースの再編成] ユティリティを実行してデータベースを再編成することをお勧めします。不要なオブジェクトを削除して空きページを作った後でデータベースの再編成を実行すると、まとまった空き領域を確保できます。[データベースの再編成] ユティリティについては、「8.4.1 データベースの再編成」を参照してください。

付録 D.3 システム移行時の障害予防

(1) システム移行時の注意

システムを移行するときに注意することについて説明します。

- 移行先環境の確認
移行先のサーバ環境の仮想メモリやディスク容量を確認して、必要に応じてスワップ領域やディスク空き領域を確保してください。
- データベースの互換性の確認
 - 移行可能なバージョンは、アンインストールした Object Server のバージョン・レビジョン以降 (同一バージョンも含む) の High-end Object Server への移行ができます。
移行前のバージョン・レビジョン ≤ 移行後バージョン・レビジョン
例：
[移行可の例]
 - Object Server 06-00 → High-end Object Server 06-00
 - Object Server 03-00 → High-end Object Server 03-10
 - Object Server 03-10 → High-end Object Server 06-00
 [移行不可の例]
 - Object Server 03-10 → High-end Object Server 03-00
 - Object Server 06-00 → High-end Object Server 03-10
 - Object Server で作成したデータベースは、High-end Object Server で使用できます。
 - High-end Object Server で作成したデータベースは、Object Server では使用できません。また、Object Server で作成したデータベースを High-end Object Server で更新した場合は、Object Server で使用できなくなります。
したがって、Object Server から High-end Object Server に移行する場合は、データベースのバックアップをあらかじめ取得して、Object Server に戻す場合は、データベースもバックアップから戻してください。

(2) Object Server から High-end Object Server への移行手順

- 手順
 1. Object Server を正常停止
 - Object Server のシステム管理者のユーザ ID でログオンしてください。
 - 連携プログラム (各 Groupmax 製品) が稼働中であればすべて正常終了させてください。

・ Object Server が稼働中であれば正常終了してください。すでに、Object Server が停止状態であり、前回の停止状態が不明である場合、いったん Object Server を起動して、正常停止してください。

2. データベースのバックアップ

バックアップは Object Server のすべてのデータベースファイル及び連携プログラム分のファイルを同時に取得する必要があります。バックアップの取得方法には、OS のバックアップ機能（プログラムマネージャの [管理ツール] グループに含まれているバックアッププログラム）を使用する方法と、Object Server の [データベースのバックアップ] ユティリティを使用する方法があります。使用方法は、「8.4.2 データベースのバックアップ」の説明を参照してください。

なお、[データベースのバックアップ] ユティリティは Object Server 02-31 以降の製品及び High-end Object Server の製品で使用することができます。

3. Object Server をアンインストールします。

4. High-end Object Server をインストールします。

5. High-end Object Server の環境設定

システム管理者の登録と環境設定

- ・ システム管理者を変更しない場合は移行前の管理者をそのまま使用できます。
- ・ 通信設定に変更がない場合は移行前の設定をそのまま使用できます。
- ・ システム共通定義(%XODDIR%¥conf¥xodrc)の設定は見積もり直しによって、変更が必要な場合があります。設定内容の詳細は、「7.2 システム共通定義ファイル」の説明を参照してください。

6. システムファイルの作成

次のファイルを作成してください。

- ・ ステータスサービス定義ファイル
- ・ ステータスファイル
- ・ システムジャーナルサービス定義ファイル
- ・ システムジャーナルファイル

作成方法の詳細は、「7.3 ステータスサービス定義ファイル(High-end Object Server)」及び「7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル(High-end Object Server)」の説明を参照してください。

7. High-end Object Server のサービス起動

付録 D.4 バージョンアップ時の障害予防

システムをバージョンアップするときに注意することについて説明します。

・ システムの停止の確認

バージョンアップするシステムがすべて正常に停止していることを確認してください。すでにオブジェクトサーバが停止していて、前回の停止状態が分からない場合は、一度オブジェクトサーバを起動してから正常終了してください。

・ バージョンアップ前のバックアップの取得

システムの停止後、システム全体のバックアップを取得してください。

・ データベースの互換性の確認

Object Server で作成したデータベースは、High-end Object Server で使用できます。High-end Object Server で作成したデータベースは、Object Server では使用できません。また、Object Server で作成したデータベースを High-end Object Server で更新した場合は、Object Server で使用できなくなります。

- **連携プログラムのバージョンアップ**

連携プログラムのバージョンアップは、各プログラムの手順に従ってください。

バージョンアップに伴ってエリアが追加される場合は、追加したエリアの数分システム共通定義の静的共用メモリの総数が増加します。この場合はシステム共通定義ファイルの `static_shmpool_size` の値を増やしてください。

- **オブジェクトサーバを組み込むときの注意**

Groupmax Enterprise Version 6 では、再配布可能モジュールをインストールする場合があります。これは、システムにある再配布モジュールよりも Groupmax Enterprise Version 6 が提供するモジュールが新しい場合です。

モジュールを正しくインストールするために、次のことに注意してください。

- オブジェクトサーバを含む Groupmax 製品を組み込んだ後で、OS を再起動してください。
- 他社製品を含む Groupmax 以外の製品とオブジェクトサーバを同時に組み込む場合は、Groupmax を組み込む前に OS を再起動してください。

付録 D.5 ジャーナルファイル容量不足の対処

High-end Object Server は、全面回復時に回復用ジャーナルを出力することがあります。そのため、ジャーナルファイルが満杯になってシステムダウンした直後にそのまま起動すると、再びジャーナルファイルが満杯となってシステムダウンする場合があります。ここでは、不足したジャーナルファイルの容量を拡張するときの注意することについて説明します。

(1) 要因

ジャーナルファイルが容量不足になる要因は次のとおりです。

- ジャーナル容量見積もりが少なすぎた場合
- `sysjnl` に `jnl_unload_check = Y` を指定しているのに、使用済みジャーナルファイルをアンロードしていない場合
- 以前に High-end Object Server がシステムダウンした後、強制正常開始したときに、以前に使用していたジャーナルファイルのアンロード又は初期化を行っていない場合
`sysjnl` に `jnl_unload_check = N` を指定していてもアンロードしないと再使用しないため、すべてのジャーナルをアンロードする必要があります。
- ディスク障害などで、ジャーナルファイルが使用できなくなった場合
- OMS 識別子（システム共通定義ファイルに定義する `system_id`）を変更した後、ジャーナルファイルを初期化しないでそのまま使用した場合

(2) 対処方法

通常は障害要因を調査し、使用可能なジャーナルファイルを作成すると再起動できます。ただし、調査に時間がかかることが予想される場合は、次に示す事前準備及び対策をして、システムダウン時間を短縮してください。

(a) 事前準備

ファイル容量不足によって追加ジャーナルが作成できないことを予測して、予備のジャーナルファイルをあらかじめ作成しておいてください。

(b) システムダウン時の対処

予備のジャーナルファイルをシステムジャーナルサービス定義 (sysjnl) に追加して再起動してください。

(c) ジャーナルファイルを追加して再起動した後の対処

次に示す方法のうち、どちらかを選択して対処してください。

- ジャーナルファイルを追加したまま業務を続行し、別の予備のジャーナルファイルを用意してください。ただし、並行してジャーナルファイル容量を再度見積もり直し、業務をやめるタイミングでジャーナルファイルを追加、又はファイル容量を拡張してください。
- High-end Object Server を正常終了させ、データベースのバックアップを取り直してください。その後、ジャーナルファイルを作り直してサーバを起動し、業務を続行してください。使用できないジャーナルファイルが残っており、他に対処が分からない場合はこの対処を実施してください。

(3) 運用時の注意

ジャーナルファイルはデータベースの更新履歴を蓄積するファイルであり、データベースの障害が発生した場合の回復に必要な情報が出力されています。システムダウンした後にサーバを再起動したり、データベースを回復する前にジャーナルファイルを削除又は再初期化しないでください。

回復に必要な情報を含むジャーナルファイルが消去されるとデータベースを回復できなくなります。High-end Object Server を正常停止させた後にジャーナルファイルを削除又は再初期化してください。

付録 D.6 KFXO40401-E, KFXO40402-E メッセージの対処

KFXO40401-E 及び KFXO40402-E メッセージが出力された場合の対処について説明します。はじめに、「付録 D.6(1) エリアの見方」を参照し、エリアの使用状況を確認してください。使用状況を確認後、「付録 D.6(2) エリアの拡張方法」または「付録 D.6(3) データベース再編成」を参照し、メッセージの対処をしてください。

(1) エリアの見方

各エリアの使用状況の確認方法について説明します。

各エリアは「セグメントサイズ×最大割当量」まで増分します。この際の最大値は「256,900」（実容量では 2GB）となります。

エリアの増分量については、エリアごとに確認する必要がありますが、用途が「OID インデクス、インデクス」となっているエリアは自動で「256,900」まで拡張します。その他に、最大割当量が記載されていないエリアについては、最大値まで拡張します。

エリアパンクが発生した場合、エリアは下記のいずれかの状態になっています。

- 最大割当量を指定したエリアの場合
 - 最大割当量まで増分し、すべてのページを使用した（満杯ページが一杯になる）
 - ファイルシステムが一杯になる
 - ファイルサイズが 2GB になる
 - ファイルのセグメント数が次の値になる
↑初期割り当て量（-iでの指定値）／64000 ↑×64000
（↑ ↑の間は切り上げという意味になります。）

- 最大割当量の指定 (-m オペランド) を省略したエリアの場合
 - ファイルシステムが一杯になる
 - ファイルサイズが 2GB になる
 - ファイルのセグメント数が次の値になる
 \uparrow 初期割り当て量 (-iでの指定値) / 64000 \uparrow × 64000
 (\uparrow \uparrow の間は切り上げという意味になります。)

エリアの使用状況については、「割当ページ数」に対する「使用ページ数」と「満杯ページ数」の割合で確認できます。

(a) 各ページの意味

各ページ数の意味について説明します。

- 割当ページ数
 該当のエリアに現在割り当てられているページ数になります。これが「セグメントサイズ×最大割当量」の値と同じ場合、最大までページを割り当てていることになります。
- 使用ページ数
 割り当てられているページ数の中で、使用されているページ数になります。割当ページ数が最大まで割り当てられている状態で、使用ページ数が割当ページ数と同じくらいの値になっている場合、該当のエリアが上限まで使用されつつあることになります。
- 満杯ページ数
 使用ページ数の中で、満杯になっているページ数になります。使用ページ数が多くても、満杯になっているページ数が少なければ、まだ使用できることになるため、このページ数の確認も必要となります。

上記より、エリアの使用状況については「付録 D.6(1)(b) 確認手順」の手順で確認します。※確認はエリアごとに実施します。

(b) 確認手順

1. 「ページの最大値 (セグメントサイズ×最大割当量)」と割当ページ数を比較し、最大まで拡張しているか確認します。最大まで拡張していなければ、空き容量があると考えられます。
2. 最大まで拡張している場合、使用ページ数を確認します。使用ページ数が少なかった場合、空き容量があると考えられます。
3. 使用ページ数も最大まで近づいていた場合、満杯ページ数を確認します。満杯ページ数が少なければ、空き容量があると考えられます。
4. 満杯ページ数が使用ページ数と同じか、同じくらいだった場合、エリアの拡張が必要となります。

(c) エリア使用状況の出力例

エリアの使用状況について、下記出力例をもとに説明します。

- 出力例 1


```

**P-2446-5 xodbuse(06-52)** DBエリア使用状況表示 XX-XX-XX 09:00:00
** DBエリア使用状況リスト **
エリア名          使用      満杯      割当      セグメント
                  ページ数 ページ数 ページ数 数
GMA_TERMT_Type    用途=ユーザ
                  セグメントサイズ= 10 最大割当量= 129
_GM_TERMT_Type    0          0          0          0
      
```

未使用セグメント	0	0	10	1
[小計]	0	0	10	1

出力例 1 は、セグメントサイズが「10」、最大割当量が「129」となっているため、最大「1290」まで拡張します。使用ページ数が「0」となっており、割当ページ数が最大ではないため、該当のエリアはほとんど使用されていない状態となります。

• 出力例 2

```

**P-2446-5 xodbuse(06-52)** DBエリア使用状況表示 XX-XX-XX 09:00:00
** DBエリア使用状況リスト **
エリア名          使用      満杯      割当      セグメント
                  ページ数 ページ数 ページ数   数

GMA_TERMT_Type    用途=ユーザ
                  セグメントサイズ= 10 最大割当量= 129
GM_TERMT_Type     1290      100      1290      129
未使用セグメント 0          0         0          0
[小計]            1290     100      1290      129
    
```

出力例 2 は、最大割当量が「129」に対し、セグメント数が「129」となっており、最大まで拡張されています。使用ページ数も「1290」となっており、すべてのページを使用している状態となります。しかし、満杯ページ数は「100」となっており、まだエリアパンクは起きていない状態となります。

これは、すべてのページを使用している状態ですが、ページの中にも空きがあり、満杯とはならず、書き込みができる状態になっているためとなります。しかし、最大割当量まで増分し、使用ページ数も「最大割当量×セグメントサイズ」の値となっている時に、満杯ページ数が使用ページ数と同じくらいの値だった場合、エリアパンクが近い状態となるため、拡張を検討する必要があります。

• 出力例 3

```

**P-2446-5 xodbuse(06-52)** DBエリア使用状況表示 XX-XX-XX 09:00:00
** DBエリア使用状況リスト **
エリア名          使用      満杯      割当      セグメント
                  ページ数 ページ数 ページ数   数

GMA_TERMT_Type    用途=ユーザ
                  セグメントサイズ= 10 最大割当量= 129
GM_TERMT_Type     1290     1290     1290     129
未使用セグメント 0          0         0          0
[小計]            1290     1290     1290     129
    
```

出力例 3 は、エリアパンクした状態となります。セグメント数が最大割当量「129」まで増分し、すべてのページを使用して、そのページがすべて満杯となっている状態となります。

(d) ファイルセグメント数の例

ファイルセグメント数によるファイルの増分上限について、例をもとに説明します。

$$\uparrow \text{初期割り当て量 (-iでの指定値)} / 64000 \uparrow \times 64000$$

(↑ ↑の間は切り上げという意味になります。)

• 初期割当量が 1、セグメントサイズが 1 だった場合の例

$$\uparrow 1 / 64000 \uparrow \times 64000 = 1 \times 64000 = 64000 \text{ (最大64000セグメントまで増分する)}$$

1 セグメントが 1 ページ (セグメントサイズが 1 のため) となり、1 ページ 8KB のため、下記計算式で実際のファイル容量が出ます。

$$64000 \times 8 = 512000 \text{ (512MB)}$$

上記条件、計算式より、ファイルの増分上限は 512MB となります。

• 初期割当量が 1、セグメントサイズが 3 だった場合の例

$$\uparrow 1 / 64000 \uparrow \times 64000 = 1 \times 64000 = 64000 \text{ (最大64000セグメントまで増分する)}$$

1 セグメントが3 ページ (セグメントサイズが3 のため) となり, 1 ページ 8KB のため, 下記計算式で実際のファイル容量が出ます。

$$64000 \times 3 \times 8 = 1536000 \text{ (1.5GB)}$$

上記条件, 計算式より, ファイルの増分上限は 1.5GB となります。

- 初期割当量が 150000, セグメントサイズが 1 だった場合の例

$$\uparrow 150000 / 64000 \uparrow \times 64000 = 3 \times 64000 = 192000 \text{ (最大192000セグメントまで増分する)}$$

1 セグメントが 1 ページ (セグメントサイズが 1 のため) となり, 1 ページ 8KB のため, 下記計算式で実際のファイル容量が出ます。

$$192000 \times 8 = 1536000 \text{ (1.5GB)}$$

上記条件, 計算式より, ファイルの増分上限は 1.5GB となります。

なお, xodbuse コマンドの見方や, エリアの拡張方法については, このマニュアル内の下記も参照してください。

- 4.3.2 データベースエリアの使用状況の表示
- 8.7.2 データベースエリアの使用状況の表示
- 付録 D.6(2) エリアの拡張方法

(2) エリアの拡張方法

エリアの拡張方法について説明します。本手順に記載されているエリアについては, エリアパンクが発生しているエリアに置き換え, 実施してください。

(a) 対応手順に関する説明

データベースエリアが不足した時の対応として, 以下 2 つの対応があります。

- 最大割当量を拡張する
- データベースファイルを追加する

なお, データベースファイルが 2GB (データベースファイルの上限サイズ) になっている場合やエリアの最大割当量に数字が記載されていない場合は, 「最大割当量を拡張する」の対応はできません。この場合は, 「データベースファイルを追加する」の対応になります。

そのため, (b)手順の 2 まで実行し, ファイルサイズと最大割当量を確認してください。

(b)手順の 2 の確認結果が以下の場合は, (b)手順の 3 と 4 を参照してください。

- ファイルサイズが 2GB になっている場合
- ファイルサイズが 2GB になっていない場合で, 最大割当量に数字が記載されていない場合

(b)手順の 2 の確認結果が以下の場合は, (b)手順の 5 を参照してください。

- ファイルサイズが 2GB になっていない場合で, 最大割当量に数字が記載されている場合

(b) 手順

1. OS のイベントビューア (アプリケーション) に出力されている下記メッセージを参照し, パンクしている「エリア名」を確認します。

- KFXO40401-E
- KFXO40402-E

注 下記出力例の場合, エリア: GMA_INDEX_MAIL がパンクしていることとなります。

- 出力例

KFXO40402-E エリア中のインデクスページが不足しました。エリア名=GMA_INDEX_MAIL

- 不足したエリアの物理ファイルが 2GB になっているかをエクスプローラで確認し、最大割当量を xodarls (DB エリア情報表示コマンド) で確認します。なお、エリア名と物理ファイルの対応付けは、xodarls (DB エリア情報表示コマンド) で確認できます。

- xodarls コマンド確認手順

Object Server のサービスが起動している状態で、コマンドプロンプト上で、xodarls (DB エリア情報表示コマンド) を実行し、「NO.X ファイル」と最大割当量を確認します (X は、数値になります)。

下記表示例の場合、「D:¥Groupmax¥OBJECTSV¥DATABASE¥GMA_INDEX_MAIL」ファイルのサイズが 2GB になっているかを確認します。

- コマンド実行例

```
C:¥win32app¥hitachi¥Groupmax¥ObjectSV¥BIN¥xodarls > C:¥xodarls.txt
```

注 上記のように実行すると、C ドライブ直下に、xodarls.txt が作成されるので、このファイルを確認します。

- 表示例

エリア名	=	GMA_INDEX_MAIL	用途	=	インデクス
エリア番号	=	93			
合計ページ数	=	178	セグメントサイズ	=	12
利用可能ページ数	=	168	ページ長	=	8192
NO.1ファイル	=	D:¥Groupmax¥OBJECTSV¥DATABASE¥GMA_INDEX_MAIL			
現在割当量	=	14	最大割当量	=	*****
ページ数	=	178	初期化日時	=	02-10-18 20:57:45

- データベースファイルの追加時に使用する構成変更パラメタファイルを、下記の形式で作成します。

<形式>

area -n エリア名

file -n "追加するデータベースファイルのフルパス名" -i 初期割当量

- 例

```
area -n GMA_INDEX_MAIL
file -n "D:¥Groupmax¥OBJECTSV¥DATABASE¥GMA_INDEX_MAIL_01" -i 1
```

注 作成に関する補足

データベース初期化時に使用した初期化パラメタファイルをもとにすると、容易に構成変更パラメタファイルを作成できます。詳細は、このマニュアル内の「付録 D.6(2)(c)(c-1)」を参照してください。

- 下記手順にて、Object Server 管理ツールからデータベースファイルの追加をします。

- Object Server のサービスを停止します。

- 下記いずれかの方法で、Object Server をユーティリティモードで起動します。

(a) OS のサービス管理画面から Object Server サービスのプロパティ画面を開き、全般タブの開始パラメタに "utl" を記述してサービスを起動する。

(b) コマンドプロンプト上で xodusta を実行し、サービスを起動する。

注 引数を意識する必要はありません。

- Object Server 管理ツールを起動します。

データベース環境設定を開き、「データベースへのファイルの追加」をクリックします。次に、構成変更パラメタファイル名(F:)に、手順 3 で作成したファイル名を入力後、OK ボタンを押下し、ファイルを追加します。

- 下記メッセージが表示されることを確認します。

「KFXO57019-I DB 構成変更ユーティリティ (ファイル追加) が正常終了しました。」

5.xodresult ファイルにて実行結果を確認します。

xodresult ファイルをテキストエディタ等で開き、下記の表示例のように、「KFXO57019-I DB 構成変更ユティリティ (ファイル追加) が正常終了しました。」が出力されていれば、ファイルの追加処理が正常に終了したと判断できます。

- 表示例

```
**P-2446-5    xodfladd(06-52)**  DB構成変更           03-08-22 15:18:06
** 追加ファイル情報リスト **
エリア名 = GMA_INDEX_MAIL           用途 = インデクス
NO.2ファイル=D:¥Groupmax¥OBJECTSV¥DATABASE¥GMA_INDEX_MAIL_01
初期割当量 = 1                       最大割当量 = *****
ページ数 = 15
```

KFXO57019-I DB 構成変更ユティリティ (ファイル追加) が正常終了しました。

6.Object Server のサービスを停止します。

7.Object Server を通常モード (開始パラメタ指定なし) で起動します。

以上で、ファイル追加の作業は終了となります。

5. 下記手順にて、最大割当量を拡張します。

1.Object Server のサービスを停止します。

2. 下記いずれかの方法で、Object Server をユティリティモードで起動します。

(a) OS のサービス管理画面から Object Server サービスのプロパティ画面を開き、全般タブの開始パラメタに"utl"を記述してサービスを起動する。

(b) コマンドプロンプト上で xodusta を実行し、サービスを起動する。

注 引数を意識する必要はありません。

3.Object Server 管理ツールを起動します。

データベース環境設定を開き、「データベースのファイルの属性変更」を選択し、下記 3 項目を入力します。

エリア名：手順 1 で確認したエリア名

ファイル名：手順 2 で確認したファイル名のフルパス

最大割り当て量：任意の値※

注※：最大割当量の指定は、任意の値となります。

このマニュアル内の下記を参照のうえ、値を決定してください。2GB になるまで増分しても問題がない場合は、0 を設定してください。

7.5.2(2) file パラメタ

8.3.5(2)(b) ダイアログで指定する項目

4. エリア名、ファイル名、最大割り当て量を入力後、OK ボタンをクリックし、下記メッセージが表示されることを確認します。

「KFXO57022-I DB の構成変更ユティリティ (ファイル属性変更) が正常終了しました」

5.xodresult ファイルにて実行結果を確認します。

xodresult ファイルをテキストエディタ等で開き、下記の表示例のように、「KFXO57022-I DB 構成変更ユティリティ (ファイル属性変更) が正常終了しました。」が出力されていれば、最大割り当て量の変更処理が正常に終了したと判断できます。

- 表示例

```
**P-2446-5    xodflalt (06-52)**  DB構成変更           03-08-22 15:53:57
**  ファイル属性変更情報リスト **
エリア名 = GMA_RODATA_Type           用途 = ユーザ
NO.1ファイル=D:¥Groupmax¥OBJECTSV¥DATABASE¥GMA_RODATA_Type
変更前
最大割当量 = 129
```

変更後
最大割当量 = 130

KFXO57022-I DB 変更ユーティリティ (ファイル属性変更) が正常終了しました。

6.Object Server を停止します。

7.Object Server を通常モード (開始パラメタ指定なし) で起動します。

以上で、最大割当量の拡張作業は終了となります。

(c) 手順に関する補足

(c-1) esetinit.txt を利用した構成変更パラメタファイルの作成手順

esetinit.txt を利用した構成変更パラメタファイルの作成手順について、説明します。

1. 初期化パラメタファイルをコピーし、コピーしたファイルを開きます。

注 Object Server 簡易設定で初期化した場合、`¥ObjectSV¥ESET¥usr¥myhost¥esetinit.txt` がデフォルトの初期化パラメタファイルとなります。

2. 下記の例のように、拡張対象となるエリアに関する行 (area, file の 2 行) を残し、それ以外を削除します。

・例

```
area -n GMA_INDEX_MAIL -u INDEX -s 12
```

```
file -n "D:¥Groupmax¥OBJECTSV¥DATABASE¥GMA_INDEX_MAIL" -i 1
```

3. 構成変更パラメタファイルのフォーマットに合わせ、修正します。

変更箇所

・ area から始まる行

下記のように、「area -n エリア名」のみの記述にします。

```
area -n GMA_INDEX_MAIL
```

・ file から始まる行

下記のように、「file -n 追加するデータベースファイル名のフルパス -i 初期割当量」を記述します。また、ファイル名に通番をつけるなどし、重複しないようにします。

```
file -n "D:¥Groupmax¥ObjectSV¥Database¥GMA_INDEX_MAIL_01" -i 1
```

【補足】

[-i] に指定する初期割当量の値は、ファイルの追加時点で割り当てるサイズです。構築当初と同じサイズを最初から割り当てる場合は、初期化パラメタファイルに記載の値を指定してください。

なお、「1」を指定すると初めの領域は小さくなりますが、上限まで拡張されるという動作に違いはありません。

(c-2) エリアファイル追加時の注意事項

ファイル追加時の構成変更パラメタファイルには、一つの area と file のパラメタしか記述できません (複数の area と file のパラメタを指定すると、エラーになります)。そのため、複数のエリアについてファイルを追加する際は、追加するエリア分、構成変更パラメタファイルを作成する必要があります。

(c-3) サービス管理画面の表示方法

OS のコントロールパネル→管理ツール→サービスを実行することで、サービスの管理画面が表示されます。

(c-4) Object Server の起動モード (通常モード or ユティリティモード) の確認方法

OS のイベントビューア (アプリケーション) に出力されているメッセージで確認します。

「KFXO01809-I OMS がオンライン状態になりました。」の後に、「KFXO01827-I OMS をユーティリティ実行モードで起動しました。」が出力されているかで判断します。

「KFXO01827-I OMS をユティリティ実行モードで起動しました。」が出力されている場合は、ユティリティモードでの起動となり、出力されていない場合は、通常モードでの起動となります。

(c-5) KFXO40401-E と KFXO40402-E の違い

どちらもページの不足により出力されるメッセージになりますが、どのページが不足したかにより、出力されるメッセージが決まります。

- KFXO40401-E

エリア中のデータページが不足した場合に出力されます。

各エリアで管理している不要なデータ（例：メール、案件等）を削除することで空きを確保できた場合、空き領域を再利用するため、一時的にデータを格納できるようになります。

- KFXO40402-E

エリア中のインデクスページが不足した場合に出力されます。

各エリアで管理している不要なデータ（例：メール、案件等）を削除しても、再編成を行わないと空き領域はほとんど再利用されないため、再編成やエリアの拡張を行い、空き領域を確保する必要があります。

注 再編成は、データベースの容量を増やさずメッセージの対処ができます。しかし、データの削除を行わない運用の場合、効果は期待できません。また、再編成の方が、エリアの拡張に比べ時間がかかります。

(c-6) 参考

各コマンド、パラメタファイル等の詳細、および操作内容については、このマニュアル内の下記を参照してください。

- xodarls コマンド
 - 4.3.3 データベースのエリアの情報表示
 - 8.7.3 データベースのエリアの情報表示
- 構成変更パラメタファイル
 - 7.6 構成変更パラメタファイル
- 初期設定パラメタファイル
 - 7.5 初期設定パラメタファイル
- ファイルの追加
 - 4.1.3 ファイルの追加
 - 8.3.4 データベースへのファイルの追加
- 最大割当量の変更
 - 4.1.4 ファイルの属性変更
 - 8.3.5 データベースのファイルの属性変更

(3) データベース再編成

メッセージの対処として、エリアの拡張のほかに、データベースの再編成を行い、空き領域を確保する方法があります。再編成の手順は、このマニュアル内の「4.2 データベースの再編成」及び「8.4.1 データベースの再編成」を参照してください。

(a) 再編成に関する補足

(a-1) 効果について

再編成は、データの削除を行わない運用の場合、効果は期待できません。

(a-2) 再編成にかかる時間の目安について

再編成は、エリアの拡張に比べ時間がかかります。実測値として下記がありますが、テスト環境にて再編成を実施し、その時間を目安とすることを推奨します。

実測値：下記条件で、1 時間程度となります。

- Pentium4 3.2GHz メモリ 2GB
- データベースファイル容量：約 6300MB

また、最遅値としては、100MB につき 5 分という値があります。最遅時間の目安としてください。

(a-3) 再編成に失敗した場合について

再編成に失敗した場合、バックアップからデータベースをリストアし、「強制正常開始」※を行う必要があります。

詳細は、このマニュアル内の「6.1.3 データベース障害のメッセージが出力されているとき」を参照してください。

注※ OS のサービス管理画面から Object Server サービスのプロパティ画面を開き、全般タブの開始パラメータに"normal"を記述してサービスを起動することで、「強制正常開始」となります。

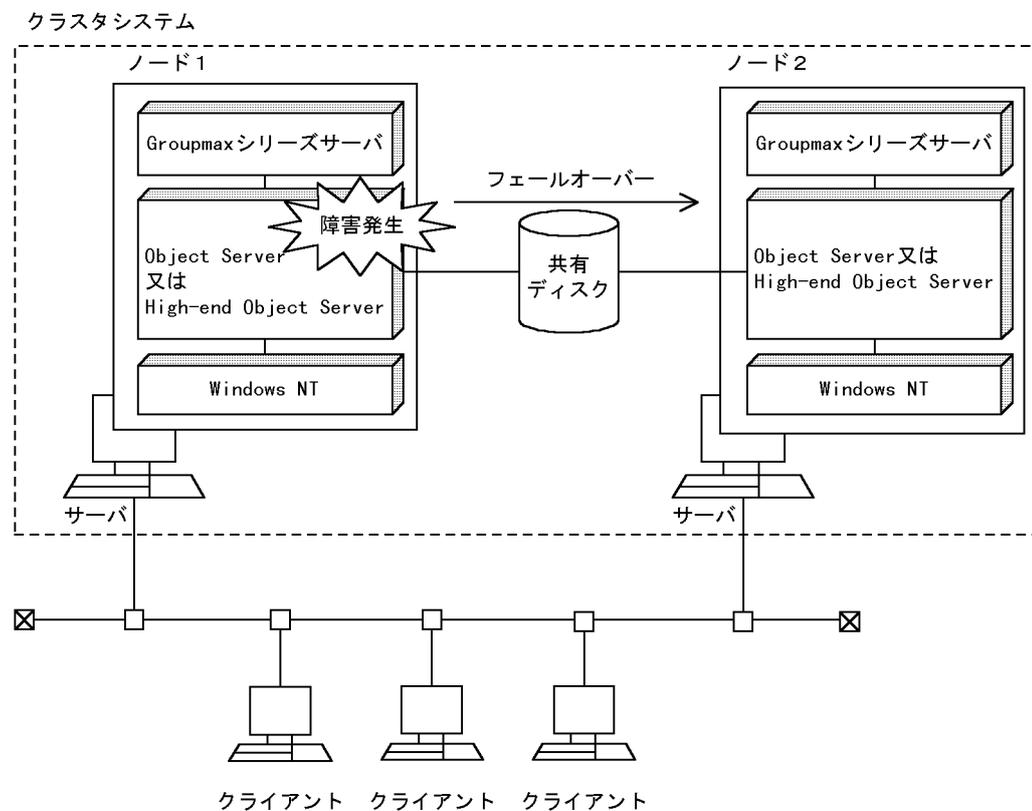
付録 E Windows NT クラスタでのオブジェクトサーバの環境設定

オブジェクトサーバでは、Windows NT のクラスタリング機能を使用して、データベース及びジャーナルファイルを共有ディスクで管理することで、可用性と信頼性の向上を計れます。

クラスタリング機能を使うと、サーバに障害が発生した時、短時間でもう一方のサーバのノードへ自動的に切り替えられます。そのため、サーバの停止時間を最小限にできます。なお、手動でサーバを切り替えることもできます。

クラスタリング機能を使用するときのシステム構成を図 E-1 に示します。

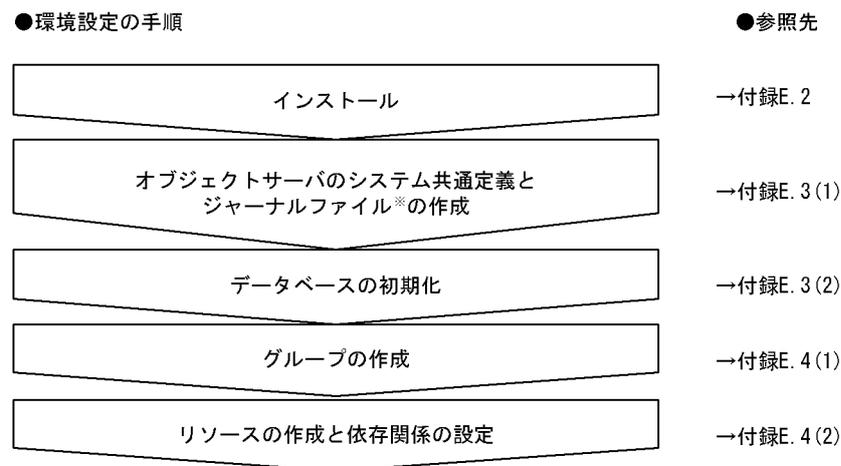
図 E-1 クラスタリング機能でのシステム構成



付録 E.1 インストールから環境設定までの流れ

環境設定の流れを図 E-2 に示します。

図 E-2 環境設定の流れ (クラスタリング機能)



注※ High-end Object Serverの場合だけ。

付録 E.2 インストールの方法

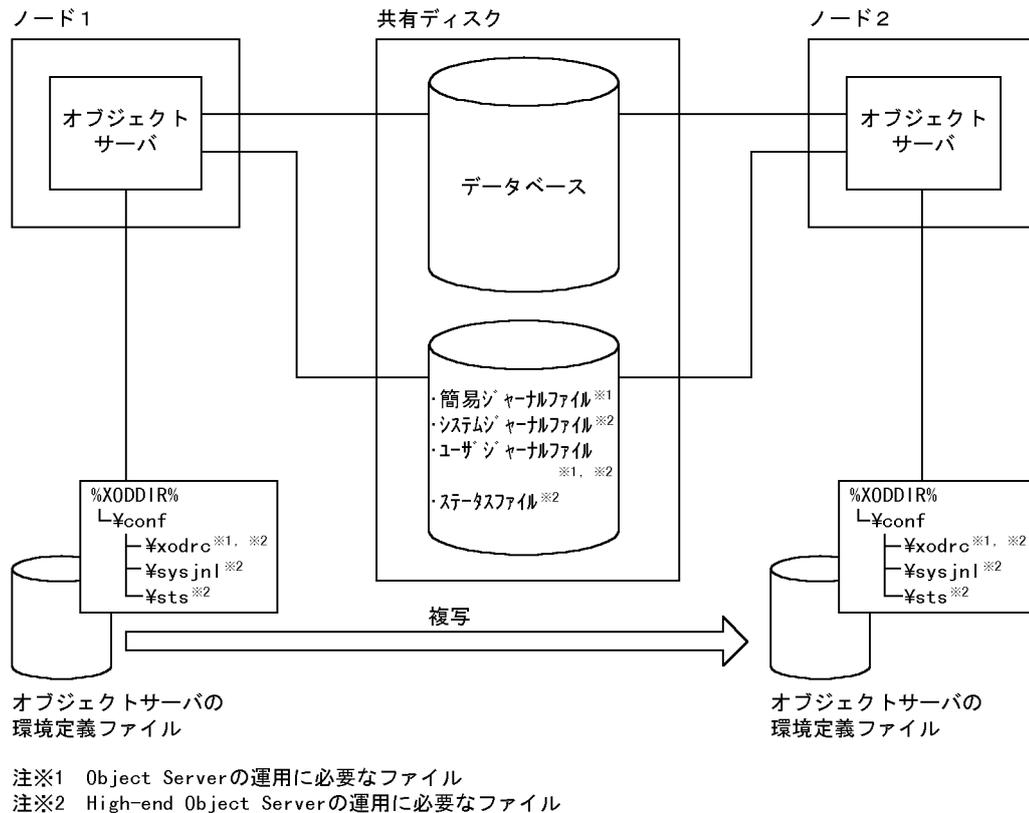
次の作業は、Groupmax の各サーバで行う共通の作業です。

1. オブジェクトサーバを各サーバマシンにインストールします。その際、共有ディスクへインストールしないようにしてください。
2. インストールした各サーバマシンをリブートします。

付録 E.3 環境設定

次に、環境設定を行ってください。環境設定の概要を、図 E-3 に示します。

図 E-3 オブジェクトサーバの環境設定



(1) オブジェクトサーバのシステム共通定義とジャーナルファイルの作成

次に示すファイルを、%XODDIR%\conf 下に作成して、各サーバへ複写してください。

Object Server の場合

- システム共通定義ファイル (xodrc) の定義
システム共通定義ファイルに jnl_output_file パラメタを追加してください。
なお、指定する簡易ジャーナルファイルは、必ず共有ディスク上に作成してください。
また ujfile パラメタを指定する場合、設定するユーザジャーナル出力ファイルは、必ず共有ディスク上に作成するように、定義ファイルに定義してください。
設定の詳細は、「7.2 システム共通定義ファイル」を参照してください。

High-end Object Server の場合

- システム共通定義ファイル (xodrc) の定義
ujfile パラメタを指定する場合、設定するユーザジャーナル出力ファイルは、必ず共有ディスク上に作成するように、定義ファイルに定義してください。
- ステータスサービス定義ファイル、システムジャーナルサービス定義ファイル (sts 及び sysjnl) の定義
ステータスファイル、システムジャーナルファイルは、必ず共有ディスク上に作成するように、各定義ファイルに定義してください。
- ステータスファイル、システムジャーナルファイルの作成

ステータスファイル、システムジャーナルファイルを作成する前に、共有ディスクをコマンド実行側のノードの実行可能な所有者にしてください。

設定の詳細は「7.2 システム共通定義ファイル」、 「7.3 ステータスサービス定義ファイル (High-end Object Server)」及び「7.4 システムジャーナルサービス定義ファイル (High-end Object Server)」を参照してください。

(2) データベースの初期化

[データベースの初期化] ユティリティを実行してください。そのとき、データベースのファイルはすべて共有ディスク上に作成してください。

また、[データベースの初期化] ユティリティを実行する前に、共有ディスクをユティリティ実行側のノードの実行可能な所有者にしてください。

設定の詳細は、「8.3.1 データベースの初期化」を参照してください。

付録 E.4 グループとリソースの作成

次に、グループとリソースを作成してください。

(1) グループの作成

クラスタアドミニストレータのグループウィザードを使用して、Groupmax のグループを作成してください。

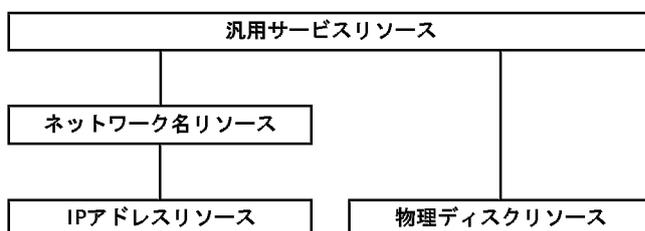
(2) リソースの作成と依存関係の設定

オブジェクトサーバのサービスをフェールオーバーするためには、次に示すリソースが必要です。

- IP アドレスリソース
- ネットワーク名リソース
- 物理ディスクリソース
- 汎用サービスリソース

各リソースの関係を図 E-4 に示します。

図 E-4 各リソースの関係



クラスタアドミニストレータのリソースウィザードを使用して、オブジェクトサーバのサービスに対するリソースの依存関係を設定してください。設定内容は、次のとおりです。

IP アドレスリソース

システム管理者から、クラスタに追加する Groupmax のリソースのグループに割り当てる IP アドレスとサブネットマスクを取得して設定してください。

ネットワーク名リソース

上記の IP アドレスリソースと依存関係を構成するように設定してください。

物理ディスクリソース

オブジェクトサーバが依存する物理ディスクリソースは、データベース及びジャーナルを格納する共有ディスクのドライブです。

汎用サービスリソース

汎用サービス名には「GroupmaxGWL」を設定してください。また、上記のネットワーク名リソース及び物理ディスクリソースと依存関係を構成するように設定してください。

Windows 2008 の場合、cluster コマンドを使用して、汎用サービスリソースの StartupParameters プライベートプロパティを空に設定してください。

設定例

管理者権限で起動したコマンドプロンプトにて以下のコマンドを実行してください。

```
cluster res "汎用サービスリソースの名前" /priv StartupParameters=""
```

なお、[実行可能な使用者] には、自ノード及びフェールオーバーするノードの実行可能な所有者を設定してください。

付録 E.5 運用上の注意事項

- 障害時にオブジェクトサーバの再起動を試みるか、フェールオーバーするかは、あらかじめ各リソースの [プロパティ] - [詳細設定] の「グループに適用する」チェックボックスをオンにし、[しきい値]、[期間] で設定してください。
- システム共通定義ファイル (xodrc)、システムジャーナルサービス定義ファイル (sysjnl) 及びステータスサービス定義ファイル (sts) の定義内容は、各ノードで同じ設定値にしてください。
- データベースの構成を変更したり、データベースのエリアを再構成したりする場合などには、データベースのファイルはすべて共有ディスク上に作成してください。

付録 F プロセスの状態表示の出力例

ここでは、「8.10.1 プロセスの状態表示」の「図 8-23 [プロセスの状態表示] ユティリティの処理結果の出力フォーマット」の表示内容について説明します。

- ※1 枠内の説明

a . . . a

システム ID (最大 11 バイト)。

b . . . b

ユティリティを実行した時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)。

未取得時は「****/**/** **:**:**」と表示されます。

c . . . c

ユティリティを実行したホスト名 (最大 144 バイト)。

未取得時は「*****」と表示されます。

d . . . d

ユティリティを実行した環境変数「XODDIR」の値 (最大 144 バイト)。

ee

システム共通定義ファイル「xodrc」内の system_id の値 (最大 2 バイト)。

未設定の場合は空白。未取得時は「**」と表示されます。

vv-rr

バージョン・リビジョン (5 バイト)。

- ※2 枠内の説明

プロセスの状態が表示されます。

- ※3 枠内の説明

プロセスの管理情報が表示されます。

a . . . a

接続可能なプロセス数 (10 進数左詰め)。

システム共通定義ファイル「xodrc」の prc_process_count の値を示します。

b . . . b

接続中プロセス数 (10 進数左詰め)。

c . . . c

オブジェクトサーバの開始モード (最大 7 バイト)。

- AP: アプリケーションモード

- UTL: ユティリティモード

- RECVUTL: 回復ユティリティモード

d . . . d

サーバプロセス「prcd」のプロセス ID (10 進数左詰め)。

ee

稼働中バックアップを取得できるかどうかを示します (最大 2 バイト)。

- NG: 稼働中バックアップの取得は不可。

- OK: 稼働中バックアップの取得は可能。

f . . . f

稼働中バックアップによってウェイト中プロセス有無を示します (10 進数左詰め)。

- ・ 0: ウェイト中のプロセスは存在しません。
- ・ 1 以上: ウェイト中のプロセスが存在します。

• ※4 枠内の説明

個々のプロセス情報が表示されます。サーバプロセスとコマンド/ユティリティ/アプリケーションプロセス (以下、接続中プロセス) の数分表示されます。

a . . . a

プロセス ID (10 進数左詰め)。

b

ステータス (1 バイト)。

- ・ s: サーバプロセスが開始処理中
- ・ l: オブジェクトサーバに接続要求中
- ・ r: オブジェクトサーバに接続中
- ・ e: オブジェクトサーバに終了通知をして終了処理中の状態
- ・ d: オブジェクトサーバに終了通知をしないで終了した状態
- ・ f: オブジェクトサーバが強制終了中

c . . . c

ユーザ ID (10 進数左詰め)。

接続中プロセスの場合は 0 と表示されます。Windows NT の場合は 0 と表示されます。

d . . . d

グループ ID (10 進数左詰め)。

接続中プロセスの場合は 0 と表示されます。Windows NT の場合は 0 と表示されます。

e . . . e

サーバ名 (最大 9 バイト)。

接続中プロセスの場合は「OMS」と表示されます。

f . . . f

ロードモジュール名 (最大 15 バイト)。

接続中プロセスの場合は「****」と表示されます。

g . . . g

サービスグループ名 (最大 32 バイト)。

接続中プロセスの場合は「プログラム名,実行ファイル名」が表示されます。プログラム名が特定できない場合, 実行ファイル名が特定できない場合及び設定されていない場合は,「*****」と表示されます。

h . . . h

クリティカル状態監視カウンタ (10 進数左詰め)。

0 以外の場合はクリティカル状態であることを示します。

i . . . i

クリティカル状態監視マスク (16 進数の 8 バイト)。

クリティカル状態のステータスが表示されます。

j . . . j

プロセス生成時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)。

プロセスが生成された時刻を示します。

k . . . k

プロセス異常終了検知時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)。

プロセスの終了通知をしないで終了したことを検知した時の時間が表示されます。

「****/**/** **:**:**」以外の場合はプロセスの終了要求をしないで終了したことを示します。

l . . . l

重複プロセス ID 接続要求ステータス (10 進数左詰め)。

0 以外の場合はこのプロセス情報に関する後処理が完了していない時に、このプロセス情報の

「a . . . a」に示すプロセス ID と同じプロセス ID を持つプロセスから接続を要求されたことを示します。

• ※5 枠内の説明

トランザクションの状態が表示されます。

• ※6 枠内の説明

トランザクションの管理情報が表示されます。

a . . . a

ラン ID (10 進数左詰め)。

b . . . b

トランザクションマネージャ状態 (最大 10 バイト)。

- ・ START : マネージャ開始
- ・ INIT1 : テーブルエリア確保
- ・ INIT2 : テーブル初期化
- ・ INIT3 : チェーン回復
- ・ INIT4 : テーブル生成完
- ・ PROCESS : 関連プロセス起動済み
- ・ ONLINE : マネージャオンライン
- ・ PREPARE : 終了準備処理中
- ・ PREPAREEND : 終了準備処理終了
- ・ END : 終了開始

c . . . c

システム共通定義ファイル「xodrc」の tm_tran_process_count の値 (10 進数左詰め)。

d . . . d

カレントトランザクション通番 (10 進数左詰め)。

e . . . e

サーバプロセス「trnd」を開始した時刻 (YYYY/MM/DD hh:mm:ss)。

• ※7 枠内の説明

個々のトランザクション情報が表示されます。実行中トランザクションの数分表示されます。

a . . . a

トランザクション実行中のプロセスのプロセス ID (異常終了時は 0) (10 進数左詰め)。

b . . . b

トランザクション実行中に異常終了したプロセスのプロセス ID (実行中は 0) (10 進数左詰め)。

c . . . c

トランザクション通番 (10 進数左詰め)。

d . . . d

トランザクション第 1 状態 (最大 15 バイト)。

- ・ BEGINNING : トランザクション開始処理中状態
- ・ ACTIVE : 実行中状態
- ・ PREPARE : コミット (一相目) 処理中状態
- ・ COMMIT : コミット処理中状態
- ・ ROLLBACK_ACTIVE : ロールバック処理待ち状態
- ・ ROLLBACK : ロールバック処理中状態
- ・ FORGETTING : トランザクション終了処理中状態

e

トランザクション第 2 状態 (1 バイト)。

- ・ u : コマンド/ユティリティ/アプリケーションプロセス実行中状態
- ・ r : 回復プロセス実行中状態
- ・ p : 回復プロセス解放待ち

f . . . f

ジャーナル取得状態 (最大 6 バイト)。

- ・ c : cj 取得済み
- ・ h : hj 取得済み
- ・ p : pj 取得済み
- ・ d : dj 取得済み
- ・ t : tj 取得済み
- ・ b : bj 取得済み

cj 取得済みと pj 取得済みの場合, JNL=cp と表示されます。

h

データベースへのアクセスモード (1 バイト)。

- ・ r : 更新モード (このトランザクションではデータベースを更新する可能性あり)
- ・ s : 参照モード (このトランザクションではデータベースだけの参照)

iii

稼働中バックアップ開始ユティリティがこのトランザクションの終了を待っているかどうかを示します (最大 3 バイト)。

稼働中バックアップ開始ユティリティの実行中に有用な情報です。

- ・ ON : このトランザクションの終了を待っています。
- ・ OFF : このトランザクションの終了を待っていません。

j . . . j

通信情報, IP アドレス (16 進数の 8 バイト)。

k . . . k

通信情報, データ受信用ポート番号 (10 進数左詰め)。

付録 G 各 OS 使用時の注意事項

使用する OS により注意事項が異なります。該当する OS の節を参照ください。

- Windows 2003 の場合、付録 G.1, 付録 G.2 (1), 付録 G.4
- Windows 2008 の場合、付録 G.1, 付録 G.2 (1), (2), 付録 G.3, 付録 G.4
- Windows 2012 の場合、付録 G.1, 付録 G.2 (1), (2), 付録 G.3, 付録 G.4, 付録 G.5, 付録 G.6

付録 G.1 環境設定

(1) ファイル及びフォルダの暗号化

該当 OS は Windows 2003, Windows 2008, Windows 2012 です。

- ファイル及びフォルダ（以降、ディレクトリと呼ぶ）の暗号化についてオブジェクトサーバが使用するファイル及びディレクトリ（サブディレクトリも含む）を暗号化しないでください。

次に示すファイル及びディレクトリを暗号化した場合、オブジェクトサーバがダウンしたり、アクセスエラーとなることがあります。

1. オブジェクトサーバの組み込み先ディレクトリ下。
2. (該当 OS のインストールディレクトリ)*HITACHI 下。

該当 OS のインストールディレクトリのデフォルトは以下です。

Windows 2003 の場合、C:*Windows

Windows 2008 の場合、C:*Windows

Windows 2012 の場合、C:*Windows

3. データベースファイルを格納するディレクトリ下。
4. システムジャーナルファイルを格納するディレクトリ下。
5. ステータスファイルを格納するディレクトリ下。
6. ユティリティ及びコマンドが使用するファイルや、そのファイルを格納するディレクトリ下。
すなわち、ユティリティ及びコマンドに指定する定義ファイル（パラメタファイル）や、その定義ファイルで指定するファイルやディレクトリ及び、ユティリティ及びコマンドが出力するファイルや、そのファイルを格納するディレクトリなどです。

付録 G.2 サービスの開始・終了

(1) 「サービスが失敗したときの回復」機能

該当 OS は Windows 2003, Windows 2008, Windows 2012 です。

該当 OS の「サービスが失敗したときの回復」機能はオブジェクトサーバではサポートしていません。オブジェクトサーバのサービスの [プロパティ] ダイアログの「回復」タブで、次のように設定してください。

- [最初のエラー], [次のエラー], 及び [その後のエラー] には「何もしない」を設定してください。
- [エラーカウントのリセット] には 0 (日後に行う) を設定してください。

(2) サーバの開始の種類

該当 OS は Windows 2008, Windows 2012 です。

該当 OS のサーバの開始の種類で、「自動 (遅延開始)」はサポートしておりません。オブジェクトサーバのサービスの [プロパティ] ダイアログの「全般」タブで、次のように設定してください。

- スタートアップの種類は、「手動」又は「自動」を設定してください。

付録 G.3 コマンドおよびバッチファイルの実行

(1) ユーザアカウント制御

該当 OS は Windows 2008, Windows 2012 です。

該当 OS ではユーザアカウント制御が有効になっていると、コマンド実行時にユーザアカウント制御ダイアログが出力されることがあります。コマンドは管理者権限で実行する必要があるため、ユーザアカウント制御ダイアログの [続行] ボタンを押してコマンドを実行します。コマンド実行時にユーザアカウント制御ダイアログを表示したくない場合や、コマンドをバッチで実行する場合は、以下の設定が必要です。

- コマンドおよびバッチファイルを実行する場合、管理者として起動したコマンドプロンプトで実行してください。コマンドプロンプトを管理者として起動するには該当 OS の [スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、ショートカットメニューから [管理者として実行] を選択します。なお、ユーザアカウント制御が無効の場合、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要はありません。
- タスクスケジューラからコマンドおよびバッチファイルを実行する場合、[タスクの作成] ダイアログの「全般」タブで、「最上位の特権で実行する」を ON にしてください。

(2) 環境変数 PATH

該当 OS は Windows 2008, Windows 2012 です。

該当 OS ではオブジェクトサーバの組み込み時、システム環境変数の環境変数 PATH にオブジェクトサーバのコマンドを格納するディレクトリを設定しません。オブジェクトサーバのコマンドおよびバッチファイルをフルパスにて実行してください。他のプログラムが誤動作するおそれがあるため、環境変数 PATH にオブジェクトサーバのコマンドを格納するディレクトリを設定しないでください。

付録 G.4 ファイアウォール

該当 OS は Windows 2008, Windows 2012 です。

Windows ファイアウォールの [Windows ファイアウォールによる新しいプログラムのブロック時に通知を受け取る] オプションを OFF してください。本オプションを ON にした場合、ブロックされたことを通知する「Windows セキュリティの重要な警告」ダイアログが表示されます。「Windows セキュリティの重要な警告」ダイアログが表示された場合は「ブロックを解除する」ボタンを押してください。

付録 G.5 オンラインヘルプ

該当 OS は Windows 2012 です。

該当 OS ではオンラインヘルプを使用できません。

このマニュアル内の「付録 I」および「付録 J」を参照してください。

該当 OS ではオンラインヘルプを表示しようとする、以下のメッセージダイアログが表示されます。

「本 OS ではヘルプを表示しません。対象画面の説明はマニュアルを参照ください。マニュアル名称：
Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」

付録 G.6 スタートメニューの表記

該当 OS は Windows 2012 です。

「[スタート] メニュー」と表記している箇所は「[アプリ] 画面」に読み替えてください。

付録 H メッセージ

付録 H.1 メッセージの形式

ここでは、オブジェクトサーバのメッセージの記述形式、アボートコード、コード及び errno のコードについて説明します。

(1) メッセージの形式

システムが出力するメッセージは、メッセージ ID とそれに続くテキストから構成されるメッセージの形式を次に示します。

XXXXnnnnn-Y メッセージテキスト

それぞれの項目について説明します。

XXXXnnnnn-Y：メッセージ ID

XXXX：メッセージを出力したプログラムを表します。

KFXO：オブジェクトサーバ

nnnnn：

メッセージの番号です。それぞれのメッセージに 5 けたの固有の番号が付いています。

Y：メッセージの種類を表します。次にその意味を示します。

I：システムの動作を通知します。

E：障害が発生したので、処理を中断します。

R：出力メッセージに対するユーザからの応答を待っています。

メッセージテキスト：メッセージの内容を説明しています。

! 注意事項

メッセージが標準出力に出力された場合、先頭に(nnn)の形式でプロセス ID が付けられる場合があります。

付録 H.2 アボートコード

アボートコードは、オブジェクトサーバが異常終了した場合に、メッセージ KFXO00105-E に表示されるコードで、異常終了の原因を表す保守情報です。表 H-1 にオブジェクトサーバのアボートコードを示します。なお、このメッセージの前に KFXO46999, KFXO57999, 又は KFXO30000 のメッセージが出力されている場合は、それによって、異常が発生したファイル及びファイル中の行番号を調べられます。

また、表にないアボートコードが表示された場合、直前にメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って対処してください。メッセージが出力されていない場合は、コアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%*spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください。

表 H-1 オブジェクトサーバのアボートコード

コード	要因	ユーザの処置
areau21	サーバの起動中にエラーが発生しました	直前に表示されているメッセージに

コード	要因	ユーザの処置
areau21	サーバの起動中にエラーが発生しました	従って対策してください
areau22	同上	同上
areau23	同上	同上
areau25	同上	同上
areau26	同上	同上
areau28	同上	同上
areru21	同上	同上
areru22	同上	同上
areru24	同上	同上
areru25	同上	同上
areru26	同上	同上
atpre09	サーバの終了中にエラーが発生しました	ログ、又は標準エラー出力に出力されている KFXO20006-Iのメッセージに従って対処してください
fa00000	ファイルサービスで異常が発生しました	正しくインストールされているか確認の上、再実行し、それでも発生する場合は取得情報を退避して、システム管理者に連絡してください
fa00001	同上	同上
fa00002	同上	同上
fa00003	同上	同上
fa10000	同上	同上
fa10002	同上	同上
fa10003	同上	同上
fa10004	同上	同上
fa10006	同上	同上
fa10007	同上	同上
fa20000	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
fa20001	同上	同上
fa20003	同上	同上
fa20004	同上	同上
fa20005	同上	同上
fa30000	同上	同上
fa30001	同上	同上
fa30002	同上	同上
fa30003	同上	同上
fa30004	同上	同上
fa30005	同上	同上
fa30006	同上	同上
fa30007	同上	同上
fa30008	同上	同上
fa30009	同上	同上
fa40000	同上	同上
fa40001	同上	同上
fa50000	同上	同上
fa50001	同上	同上
fa50002	同上	同上
fa50003	同上	同上
fa50004	同上	同上
fa00005	同上	同上
fa60000	同上	同上
fa60001	同上	同上
fa70000	同上	同上
fa70001	同上	同上
fa80000	同上	同上
fa80001	同上	同上
fa80002	同上	同上
fa80003	同上	同上
fa80004	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
fa90000	同上	同上
fa90001	同上	同上
fa90002	同上	同上
g000001	ログサービスで異常が発生しました	このコード及び直前に出力されたメッセージがあればその内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
g000051	同上	同上
g000052	同上	同上
g000053	同上	同上
g000054	同上	同上
g000055	同上	同上
g000056	同上	同上
g000100	同上	同上
g100001	同上	同上
g200001	メッセージを出力しようとしたが、メッセージテキストが編集できませんでした	オブジェクトサーバが正しくインストールされているか確認して、再実行してください。それでもエラーが発生する場合は取得情報を退避してシステム管理者に連絡してください

コード	要因	ユーザの処置
jclos20	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jcmdc25	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください
jjcmdc27	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jcnt151	ジャーナルファイルサービスプロセス、又はコマンドサービスプロセスの停止中にエラーが発生しました	KFXO01108-E メッセージに従って対策してください
jcnt152	チェックポイントサービスプロセスの停止中にエラーが発生しました	KFXO01108-E メッセージに従って対策してください
jcnt160	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください
jcnt194	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jcom06	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jcom15	同上	同上
jcsta04	同上	同上
jefio25	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください
jefio52	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jfct140	ジャーナル IO プロセスの停止中にエラーが発生しました	KFXO01108-E メッセージに従って対策してください
jfct184	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	オブジェクトサーバが正しく組み込まれているか確認してください
jfct189	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください

コード	要因	ユーザの処置
jlock07	管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。又は、待ち状態で、異常が発生しました	エラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください。エラーメッセージが出力されていない場合は、コアファイルを保存し、システム管理者に連絡してください
jlock08	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jlock12	同上	同上
jlock17	同上	同上
jmio103	ネットワーク障害が発生しました	KFXO01204-E メッセージの理由 コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください
jmio104	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jmio105	同上	同上
jmio111	ネットワーク障害が発生しました	KFXO01204-E メッセージの理由 コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください
jmio227	メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました	KFXO01204-E メッセージの理由 コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください
jmio228	同上	同上
jmio229	同上	同上
jmio230	同上	同上
jopen20	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jput08	スワップ先がありません	ファイルを追加するか、アンロード

コード	要因	ユーザの処置
jput08	スワップ先がありません	し、ファイルが使用できるようにしてください
jput20	続行不可能なエラーが発生しました	KFXO02111-E メッセージの理由 コードからエラー の原因を調査し対 策してから、再度 実行してください
jput21	管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。又は、待ち状態で、異常が発生しました	エラーメッセージ が出力されている 場合は、そのメッ セージに従って対 策してください。 エラーメッセージ が出力されていな い場合は、コア ファイルを保存 し、システム管 理者に連絡してく ださい
jput27	メモリ不足、ネットワーク障害、又はタイムアウトが発生しました	KFXO01223-E メッセージの理由 コードから、原因 を調査し、対策し てから、再度実行 してください
jput29	メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました	原因を調査し対策 してから、再度実 行してください
jput35	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積 もってください
jput36	同上	同上
jput38	同上	同上
jput41	同上	同上
jput45	同上	同上
jput47	同上	同上
jput49	同上	同上
jput52	同上	同上
jput54	同上	同上
jput55	同上	同上
jput57	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
jput59	同上	同上
jswp104	同上	同上
jswp202	同上	同上
jswp204	同上	同上
jput81	スワップ先がありません	ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください
jput84	同上	同上
jput85	同上	同上
jstat03	メモリ不足が発生しました	不要なプロセスを消してください
jswp107	スワップ先がありません	ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください
jswp116	続行不可能なエラーが発生しました	KFXO02111-E メッセージの理由 コードからエラーの原因を調査し対策してから、再度実行してください
jswp205	メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました	原因を調査し、対策してから、再度実行してください
jswp210	メモリ不足、ネットワーク障害、又はタイムアウトが発生しました	KFXO01223-E メッセージに従って対策してください
1040018	システムが異常終了しました	直前に出力されているメッセージに従って対策してください
namdmnA	ネームサービス(内部プロセス)を開始できないエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存

コード	要因	ユーザの処置
namdmnA	ネームサービス(内部プロセス)を開始できないエラーが発生しました	してください。同時に%XODDIR% %\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前にshmdump ファイルも同時に保存してください
namdmnB	同上	同上
namdmnC	同上	同上
namdmnD	ネームサービス(内部プロセス)を終了できないエラーが発生しました	同上
namdmnE	同上	同上
namdmnF	同上	同上
namdmnG	同上	同上
namdmn1	ネームサービス(内部プロセス)を開始できないエラーが発生しました	同上
namdmn2	同上	同上
namdmn3	同上	同上
namdmn4	同上	同上
namdmn5	同上	同上
namdmn6	同上	同上
namdmn7	同上	同上
namdmn8	同上	同上
namdmn9	同上	同上
namsrv1	ネームサービス(内部プロセス)の実行中に異常が発生しました	同上
namsrv2	同上	同上
namuti1	同上	同上
namuti2	同上	同上
namuti3	同上	同上
namuti4	同上	同上
namuti5	同上	同上
namuti6	同上	同上
namuti7	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
namuti8	同上	同上
olkti01	内部での排他処理中にシステムダウンを検知しました	システムダウンの原因を取り除き、再実行してください
olkts01	同上	同上
olksl01	同上	同上
p000201	開始処理中に、システム障害が発生しました	このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
p000202	プロセスサーバが使用している共用メモリの内容が破壊されています	このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください

コード	要因	ユーザの処置
p000406	通信関連のエラーが発生しました	Windows NT 組み込み先ディレクトリ下の ¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC ¥HOSTS, DNS, 又は WINS のうちどれかの設定が誤っている可能性があります。正しい値にしてください
p000415	開始処理中にメモリ不足が発生しました	メモリを再度見積もり、再実行してください
p000416	同上	同上
p000702	共用メモリの排他確保に失敗しました	このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
p000710	共用メモリの排他解除に失敗しました	同上
p000713	開始処理中に、定義ファイルのオープンエラー又は I/O エラーが発生しました	同上
p000715	同上	同上
p000717	開始処理中に解析エラーが発生しました	定義ファイルの内容に誤りがあります。定義ファイルの内容を見直し、再実行してください
p000719	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
p000721	同上	同上
p000726	同上	同上
p000733	開始処理中に、setgid システムコールがエラーリターンしました	直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査し、再実行してください
p000734	開始処理中に、setuid システムコールがエラーリターンしました	直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査し、再実行してください
p000736	開始処理中に、メモリ不足が発生しました	メモリを再度見積もり、再実行してください
p000737	同上	同上
p000738	同上	同上
p000739	開始処理中に、定義ファイルの解析エラーが発生しました	定義ファイルの内容に誤りがあります。定義ファイルの内容を見直し、再実行してください
p000741	同上	同上
p000743	同上	同上
p000745	開始処理中にメモリ不足又は通信障害が発生しました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p000748	xodstart コマンドの実行時に、exec システムコールがエラーリターンしました	直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査

コード	要因	ユーザの処置
p000748	xodstart コマンドの実行時に、exec システムコールがエラーリターンしました	して、再実行してください
p000749	開始処理中に、定義情報の解析中にメモリ不足が発生しました	メモリを見積もり直して、再実行してください
p000750	同上	同上
p001005	共用メモリの排他確保に失敗しました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% %spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p002001	共用メモリの排他解除に失敗しました	同上
p100155	強制停止時に排他解除に失敗しました	同上
p100211	終了処理が完了した時に、システム障害が発生しました	同上
p100212	同上	同上
p200001	システム管理者のユーザ id、グループ id の取得に失敗しました	同上
p200004	開始時に、共用メモリの初期化に失敗しました	直前に表示されているメッセージからエラーの原因を調査して、再実行してください
p200007	開始時に、カレントディレクトリの作成に失敗しました	同上
p200008	開始時に、定義ファイルの I/O エラーが発生しました	同上
p200009	開始時に、定義ファイルの解析エラーが発生しました	定義ファイルの内容を見直して、再実行してください
p200011	共用メモリプールを対応付けるために十分なサイズの仮想空間がありません	メモリを見積もり直して、再実行してください
p200012	システムで規定されている許容最大共用メモリアタッチ数の限度を超えました	直前に表示されているメッセージからエラーの原因を

コード	要因	ユーザの処置
p200012	システムで規定されている許容最大共用メモリアタッチ数の限度を超えました	調査して、再実行してください
p200013	共用メモリの確保に失敗しました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% %spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p200017	開始時に、ネットワーク障害が発生しました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% %spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p200018	開始時に、ネームサービス情報の登録に失敗しました	同上
p200019	開始時に、シグナルハンドラの登録に失敗しました	同上
p200020	同上	同上
p200024	開始時に、ネットワーク障害が発生しました	同上
p200051	開始時に、共用メモリの入出力エラーが発生しました	同上
p200052	同上	同上
p210003	共用メモリの排他解除に失敗しました	同上
p212007	異常終了後の後処理時に、メモリ不足が発生しました	メモリを見積もり直して、再実行してください

コード	要因	ユーザの処置
p212008	共用メモリの内容が破壊されました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% %spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p212009	同上	同上
p212010	内部プロセスの異常終了後の後処理に失敗しました	同上
p260000	共用メモリの内容が破壊されました	同上
p260012	プロセスの固有メモリが確保できません。又は、内部プロセス開始処理中、終了処理中、停止中のどれかの状態です	同上
p260013	RPC に失敗しました	同上
q005040	API サービスプロセスの起動に失敗しました	OS システム上で起動可能なプロセス数、又は1ユーザが起動可能なプロセス数が上限を超えていないか確認してください
q0050d0	API サービスプロセスの起動に失敗しました	正しくインストールされているか確認してください。 OS システム上で起動可能なプロセス数、又は1ユーザが起動可能なプロセス数が上限を超えていないか確認してください
r140002	内部で開始処理が2回実行されました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% %spool ディレクトリ下に

コード	要因	ユーザの処置
r140002	内部で開始処理が2回実行されました	shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
r140004	同上	同上
r230091	プロセス間通信でエラーが発生しました	ネットワーク環境を見直してください。物理的な障害が発生している可能性があります。このエラーが繰り返し発生する場合は、コアファイルを保存してシステム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% %spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
r320002	プロセス間通信に失敗しました	システムのファイル識別子の上限を超えました。不要なプロセスを終了させるか、又はシステムのファイル識別子の上限値を大きくしてください
r320013	作業領域の確保に失敗しました	直前に表示されたメッセージに従って対策してください
r390001	スタックオーバーフローが発生しました	システム共通定義のメインスタック量を適正值にチューニング(メインスタック量の

コード	要因	ユーザの処置
r390001	スタックオーバーフローが発生しました	定義値を増やす)してください
tb03002	メモリ不足が発生しました	プロセス数を見直して、不要なプロセスを終了させてください。このエラーが繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください
td00002	同上	同上
t860004	トランザクションサービスを開始できないエラーが発生しました	直前に表示されたメッセージに従って対策してください
xc0c001	プロセス開始時にトレースエリアが取得できません	メモリを再度見積もり、再実行してください
xc0s000	オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。 同時に %XODDIR% *spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
xc0s001	同上	同上
xc0s002	同上	同上
xc0s003	同上	同上
xc0s004	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
xc0s005	同上	同上
xc0s006	同上	同上
xc0s007	同上	同上
xc0s008	同上	同上
xc0s009	同上	同上
xc0s010	同上	同上
xc0s011	同上	同上
xc0s012	同上	同上
xc0s013	同上	同上
xc0s014	同上	同上
xc0s015	同上	同上
xc0s016	同上	同上
xc0s017	同上	同上
xc0s018	同上	同上
xc0s019	同上	同上
xc0s020	同上	同上
xc0s021	同上	同上
xc0s022	同上	同上
xc0s023	同上	同上
xc0s024	同上	同上
xc0s025	同上	同上
xj00001	オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました	直前に表示されたメッセージに従って対策してください
xj00002	同上	同上
xj00003	同上	同上
xj00004	同上	同上
xj00005	同上	同上
xj00006	同上	同上
xj00021	簡易ジャーナルファイルの設定でエラーが発生しました	同上
xj00022	同上	同上
xj00024	簡易ジャーナルファイルのチェック処理でエラーが発生しました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm0E000	XO_connect 関数で予期しないエラーが発生しました	このコード及び以前に出力されているメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください
xm0E001	XO_trn_begin 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E002	格納制御の関数(xo_sd_get_used_indexpage_inf)で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E003	格納制御の関数(xo_sd_get_ext_reog_inf)で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E004	XO_trn_commit 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E005	XO_trn_rollback 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E006	xo_bucp_parse_start 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0M001	OMS と接続するときのエラーコードに不正な値が返されました	このコード及び直前に出力されている KFXO57999-E の内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください
xm0M002	トランザクション開始処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M003	エリア存在チェック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M004	OID インデクスのエリア存在チェック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M005	ディレクトリ管理にエリアの追加を要求するときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M006	グローバルキャッシュを割り当てるときに、エリアのページサイズを満たすバッファ長を持つグローバルキャッシュが見つかりません	同上
xm0M007	グローバルキャッシュを割り当てるときに、追加エリアの用途にあたるグローバルキャッシュが見つかりません	同上
xm0M008	グローバルキャッシュを割り当てるときに、追加エリアが共用メモリ上の管理領域で管理されていませんでした	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm0M009	ディクショナリ管理にエリアの追加を要求したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M010	ディクショナリ管理にファイルの追加を要求したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M011	エリア名からエリア情報を取得したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M012	エリア名からファイル情報を取得したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M013	ディレクトリ管理にファイルの変更を要求するときの回復不能なエラーが発生しました	同上
xm0M014	ディクショナリ管理からシステム情報を取得するときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M015	ディクショナリ管理からファイル名を検査するときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M017	コミット処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M018	ディレクトリ管理にファイル追加を要求したときに回復不能なエラーが発生しました	同上
xm0M019	ロールバック処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M022	グローバルキャッシュ割り当て時に要因コード xm0M006～xm0M008 以外のエラーが発生しました	同上
xm0M023	バッファフラッシュ処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M024	コミット開始処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M977	データベースを再構成するユーティリティで、データベースの更新処理でエラーが発生しました。	直前に出力されている KFXO57977-E メッセージに従って 対策してください
xm0M998	データベースの構成を変更するユーティリティで、データベースの更新処理でエラーが発生しました	直前に出力されている KFXO57998-E メッセージに従って 対策してください
xm0O000	[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドで、処理結果出力要求でエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。 コアファイルが出

コード	要因	ユーザの処置
xm0O000	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 処理結果出力要求でエラーが発生しました	力されている場合は, コアファイルを保存してください
xm0O001 xm0O002	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, ワークファイルの入出力処理でエラーが発生しました	同上
xm0O003	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, ワークファイルのオープン処理でエラーが発生しました	同上
xm0O004	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, パラメタファイルの解析処理でエラーが発生しました	同上
xm0O005	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, コネクト関数でエラーが発生しました	同上
xm0O006	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, トランザクション開始処理でエラーが発生しました	同上
xm0O007	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, パラメタ解析処理でエラーが発生しました	同上
xm0O008	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, コミット処理でエラーが発生しました	同上
xm0O009	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 格納制御でエラーが発生しました	同上
xm0O010	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, タイプ定義情報の定義種別でエラーが発生しました	同上
xm0O011	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 論理オブジェクト種別でエラーが発生しました	同上
xm0O020	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, オブジェクトデータ追加処理でエラーが発生しました	同上
xm0O021	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, ディクショナリ情報にエラーが発生しました	同上
xm0O022	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, インデクス再編成処理でエラーが発生しました	同上
xm0O023	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, ワークファイルのオープン処理でエラーが発生しました	同上
xm0O024	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, タイプ定義情報取得処理でエラーが発生しました	同上
xm0O025	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, ユニバーサル関連情報取得処理でエラーが発生しました	同上
xm0O026	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, タイプ定義情報取得処理でエラーが発生しました	同上
xm0O030	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, インデクス情報ファイルにエラーが発生しました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm0O031	同上	同上
xm0O040	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 定義情報取得処理でエラーが発生しました	同上
xm0O041	同上	同上
xm0O042	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, ディクショナリ管理処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0O043	同上	同上
xm0O044	同上	同上
xm0O045	同上	同上
xm0O046	同上	同上
xm0O050	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 格納制御処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0O051	同上	同上
xm0O052	同上	同上
xm0O053	同上	同上
xm0O055	同上	同上
xm0O056	同上	同上
xm0O057	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 内部処理でエラーが発生しました	同上
xm0O058	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 格納制御処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0O059	同上	同上
xm0O060	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, サポートされていないデータ型を検知しました	同上
xm0O061	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 内部矛盾でエラーが発生しました	同上
xm0O062	同上	同上
xm0O063	同上	同上
xm0O064	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 内部矛盾が検知されました	同上
xm0O065	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, オブジェクトのソート情報に不正が検知されました	同上
xm0O066	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, タイプ定義情報処理でエラーが発生しました	同上
xm0O067	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, タイプ番号不正が検知されました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm0O070	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, アンロード ファイルアクセス要求でエラーが発生しました	同上
xm0O071	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 処理結果 ファイルアクセス要求でエラーが発生しました	同上
xm0O072	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, 物理 OID 対応表アクセス要求でエラー発生しました	同上
xm0O073	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドで, ハッシュ テーブル終了処理でエラーが発生しました	同上
xo0O001	内部矛盾を検出しました	このコード及び直前に出力されている KFXO30001-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は, コアファイルを保存してください。同時に %XODDIR% ¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は, オブジェクトサーバを再起動する前に, shmdump ファイルも同時に保存してください。
xo0O002	コミット処理中にエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO30002-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば, コアファイルを保存してください。同時に %XODDIR% ¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は, オブ

コード	要因	ユーザの処置
xo0O002	コミット処理中にエラーが発生しました	ジェクトサーバを再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
xs0B000	ファイル中のマスタディレクトリページの更新カウンタが不一致です	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時 に%XODDIR% *spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、オブジェクトサーバを再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
xs0B001	バッファ中のマスタディレクトリページの更新カウンタが不一致です	同上
xs0B002	データベース初期化時のバッファ中のページ更新カウンタが不一致です	同上
xs0B003	データベース初期化時のバッファ中のページ更新カウンタが不一致です	同上
xs0B004	システム運用時のファイル中のページ(データ/インデクス/スレーブディレクトリ)の更新カウンタが不一致です	同上
xs0B005	要求されたページ種別と GET したページ種別が異なります	同上
xs0B006	ページ中のエリア番号とページの存在するエリアが異なります	同上
xs0B007	ページ中の ID タイプ番号とページの存在する物理タイプが異なります	同上
xs0B008	ファイル中のページ番号がページ位置と対応していません	同上
xs0B010	バッファ制御ブロックの status 値が不正です	同上
xs0B011	ロックモードが不正です	同上
xs0B012	ロック要求エラーリターンしました	同上
xs0B100	データ/インデクスページ GET 関数に対してディレクトリページの GET 要求がされました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0B103	ディレクトリページ GET 関数に対してデータページ/インデクスページの GET 要求がされました	同上
xs0B104	同一ディレクトリに対して 2 度以上の参照要求がありました	同上
xs0B105	参照 GET されているディレクトリページに対する更新要求 GET がされました	同上
xs0B106	参照/更新 GET されていないページに対する解放要求がされました	同上
xs0B107	更新要求されていないページに対するフリー要求がされました	同上
xs0B108	未更新データページに対する PUT 要求, 又はデータページ PUT 関数を用いてディレクトリ/インデクスページの PUT 要求がされました	同上
xs0B109	未更新データページに対する PUT 要求, 又はインデクスページ PUT 関数を用いてデータ/ディレクトリページの PUT 要求がされました	同上
xs0B110	未更新ディレクトリページに対する PUT 要求, 又はディレクトリページ PUT 関数を用いてディレクトリ/インデクスページの PUT 要求がされました	同上
xs0B111	未更新ページに対する PUT & FREE 要求がされました	同上
xs0B112	指定タイプ ID のページが GET 中にタイプ ID のフリー要求がされました	同上
xs0B113	指定インデクス ID のページが GET 中にインデクス ID のフリー要求がされました	同上
xs0B114	指定 ID ページフリー関数で ID 種別に誤りがあります	同上
xs0B115	要求モードに誤りがあります	同上
xs0B117	グローバルバッファのスレッド間ロック処理で, xo_bolk_thdlock 関数がエラーリターンしました	同上
xs0B118	グローバルバッファのスレッド間アンロック処理で, xo_bolk_thdunlock 関数がエラーリターンしました	同上
xs0B119	不当にローカルキャッシュ満杯エラーが発生しました	同上
xs0B120	不当に OID インデクス用キャッシュ満杯エラーが発生しました	同上
xs0B121	RELEASE 時, GET カウンタ不正です	同上
xs0B122	FREE 時, GET カウンタ不正です	同上
xs0B123	FREE 又は PFREE 以外の要求コードが指定されました	同上
xs0B124	PUT 時, GET カウンタ不正。	同上
xs0B125	参照 GET ページに対して PUT 要求されました	同上
xs0B126	マスタディレクトリページの実更新に失敗しました	同上
xs0B127	未確保新ページを入力しようとした	同上
xs0B128	スレッド間ウエイトでエラーが発生しました	同上
xs0B129	スレッド間ポストでエラーが発生しました	同上
xs0B130	PUT 時, ページ種別不正です	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0B131	スレッドウエイトでエラーが発生しました	同上
xs0B138	キャッシュページ破壊を検知しました	同上
xs0F000	ファイル read 時の lseek の引数に誤りがありました	同上
xs0F001	書き込み時にファイルに割当てられたページ番号より大きなページ番号が指定されました	同上
xs0F002	ファイル write 時の lseek の引数に誤りがありました	同上
xs0F003	ディスク容量が不足し、1 ページ分の書き込みができません	同上
xs0F004	引数が不正です	同上
xs0F005	非同期 write 出力要求時、ステータスフラグの取り出し、及びセットのため、fcntl システムコールがエラーリターンしました	同上
xs0M001	ページ使用中のときディレクトリ管理からページ未使用エラーが返されました	同上
xs0M002	データ操作のロック要求で引数不正を検出しました	同上
xs0M003	8 バイトバウンダリ調整後のオブジェクト長に不正があります	同上
xs0M004	フリーページ時の割当てでスロット数が 0 ではありません	同上
xs0M005	割当てスロット数と使用スロット数が異なるにもかかわらず、削除スロットが存在しません	同上
xs0M006	スロットのオフセット値に不正があります	同上
xs0M007	ページ GET でエラーが発生しました	同上
xs0M010	オブジェクトが存在しません	同上
xs0M012	ロード挿入ページサーチ時に新ページ以外のページが返されました	同上
xs0M014	作業領域が確保されていません	同上
xs0M015	指定されていない物理オブジェクト形式が格納されています	同上
xs0M016	データ制御情報である使用スロット数が正しく格納されていない。	同上
xs0M017	割当てたスロット番号とページ制御情報が一致しません	同上
xs0M019	インデクスメンテナンス及びインデクス ID リスト作成関数から、引数不正エラーが返却されました	同上
xs0M020	インデクス ID メンテナンスリスト作成関数から、不正なエラーコードが返されました	同上
xs0M021	インデクス再作成用インデクス情報レコード作成関数から、不正なエラーコードが返されました	同上
xs0M022	インデクスロード関数から、不正なエラーコードが返されました	同上
xs00000	ファイルオープン時、指定されたエリア番号が大きすぎます	同上
xs00001	オープンできるファイル数をオーバーしてオープンしようとした	同上
xs0T001	オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0T002	同上	同上
xs0T010	同上	同上
xs0T020	同上	同上
xs0T021	同上	同上
xs0T022	同上	同上
xs0T023	同上	同上
xs0T024	同上	同上
xs0T030	同上	同上
xs0T031	同上	同上
xs0T032	同上	同上
xs0T033	同上	同上
xs0T040	同上	同上
xs0T041	同上	同上
xs0T042	同上	同上
xs0T043	同上	同上
xs0T050	同上	同上
xs0T051	同上	同上
xs0T052	同上	同上
xs0T060	Cのライブラリ関数(fopen)でエラーが発生しました	同上
xs0T061	Cのライブラリ関数(fwrite)でエラーが発生しました	同上
xs0T062	Cのライブラリ関数(fputc)でエラーが発生しました	同上
xs0T070	オブジェクトサーバの内部で続行不可能な障害が発生しました	同上
xs0T071	同上	同上
xs0T080	同上	同上
xs0T081	同上	同上
xs0T090	同上	同上
xs0T100	同上	同上
xs0T101	同上	同上
xs0T110	同上	同上
xs0x011	ワークファイルのオープン時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X012	ワークファイルの入力時のエラーコードに不正な値が返されました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0X013	ワークファイルの出力時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X014	物理オブジェクト NEXT 検索時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X015	物理オブジェクト NEXT 検索中断時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X016	インデクスエントリ追加時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X017	ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました (インデクス ID が不正です)	同上
xs0X018	ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました (キーが上昇順ではありません)	同上
xs0X019	ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました (レコード数が不正です)	同上
xs0X020	新ページへのインデクスエントリ追加時に満杯を検知しました	同上
xs0X021	インデクス情報ファイル作成開始及びインデクス情報レコード作成関数のコールシーケンスに不正を検知しました	同上
xs0X022	インデクス情報ファイル作成開始及びインデクス情報ファイル作成終了関数のコールシーケンスに不正を検知しました	同上
xs0X023	OID インデクスの追加時, 同一 OID を検知しました	同上
xs03001	ロック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs03002	アンロック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs03011	キャッシュ管理のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs03033	内部関数のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs03101	ユーザ用エリアにタイプがない, インデクス用エリアにインデクスがない, 又はディレクトリ管理に対する入力情報に不正があります	同上
xs03540	インデクスの定義情報に不正がありました	同上
xs03550	解放するインデクス管理情報が存在しません	同上
xs05003	グローバルキャッシュの用途が不正です	同上

付録 H.3 詳細コード

オブジェクトサーバの詳細コードは、オブジェクトサーバを使用するプログラム、又はオブジェクトサーバのメッセージに表示されるコードです。表 H-2 にオブジェクトサーバの詳細コードを示します。メッセージの説明中に指示があったときには、次の表から対処を調べてください。

表 H-2 オブジェクトサーバの詳細コード

コード	要因	ユーザの処置
-106	このサーバは起動していません	システムが異常終了している場合は、異常終了時の対策をとってください
-450	このリソースは使用中です	操作を再実行してください

コード	要因	ユーザの処置
-452	デッドロックが発生しました	操作を再実行してください
-453	排他制御の待ち時間が経過して要求がキャンセルされました	操作を再実行してください
-454	排他資源が不足しています	システム共通定義の lck_limit の値を増やして、オブジェクトサーバを再起動してください。又は、データベースの排他資源の使用数が多くならないように、エラーになった又は実行中の Groupmax アプリケーションプログラムの指定を見直してください
-714	最大接続プロセス数を超えました	クライアントの終了を待って再実行してください
-725	オブジェクトサーバが終了処理中です	オブジェクトサーバを再起動してください
-726	このサービスを提供するプロセスがありません	オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください
-727	RPC 環境が開始されていません	オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください
-734	共用メモリを確保していません	オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください
-738	初期化できませんでした	次のどれかの方法で対処してください (1) オブジェクトサーバが起動処理中の場合は、オブジェクトサーバが動作してから操作を再実行してください (2) オブジェクトサーバのシステムディレクトリを示す環境変数が正しいかどうか見直してください (3) メモリ不足の場合は、不要なプロセスを終了させて、再実行してください
-739	次の要因が考えられます (1) オブジェクトサーバが起動されていません (2) ファイルシステム、メモリなどの資源不足によって接続できませんでした	オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください。動作中の場合はファイル及びメモリ使用状況を調べ、不足していれば、不要ファイル又はプロセスを終了させてください
-741	オブジェクトサーバの開始時のモードが不正です	このアプリケーションを実行できる開始時のモードでオブジェクトサーバを起動してください
-742	ほかのユーティリティが動作中です	動作中のユーティリティが終了してから、操作を再実行してください。
-905	関数は不当なコンテキストです	このプロセスを終了させて、再実行してください
-906	リソースマネージャにエラーが発生しました	メモリ不足のため、不要なプロセスを終了させて再実行してください
-907	次の要因が考えられます (1) オブジェクトサーバがダウンしました (2) トランザクション管理領域のメモリ割り当てに失敗しました。 (3) 並行して実行するトランザクション数の上限を越えました	(1) オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください (2) メモリ不足の場合は、不要なプロセスを終了させて再実行してください (3) システム共通定義の, tm_tran_process_count の値を増やして、オブジェクトサーバを再起動してください

コード	要因	ユーザの処置
-907	次の要因が考えられます (1) オブジェクトサーバがダウンしました (2) トランザクション管理領域のメモリ割り当てに失敗しました。 (3) 並行して実行するトランザクション数の上限を越えました	trn_tran_process_count の値がクライアント数よりも多い場合は、メモリ不足のため、不要なプロセスを終了させて再実行させてください
-1814	サーバが起動していません	オブジェクトサーバが動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください。オブジェクトサーバをインストール後、システムをリポートしていない場合は、リポートし直してから再実行してください
-1816	環境変数が設定されていません	オブジェクトサーバのシステムディレクトリを示す環境変数が正しいかどうか見直してください
-1907	メッセージテキストファイル中に指定メッセージ ID が存在していません (オブジェクトサーバが正しく組み込まれていません)	オブジェクトサーバの組み込み手順に誤りがないか確認し、再実行してください
-1909	指定メッセージテキストファイルが存在しません(オブジェクトサーバが正しく組み込まれていません)	オブジェクトサーバの組み込み手順に誤りがないか確認し、再実行してください
-1910	メッセージテキストファイルの I/O エラーです	ファイルの I/O エラーの要因を取り除き、再実行してください
-1911	メッセージテキストファイルのアクセス権限がありません	誤ってアクセス権限が変更されていないか確認し、再実行してください
2 17	システム作業用メモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
83	ロックの取得に失敗しました	排他資源が不足している場合は、システム共通定義の lck_limit の値を増やして、オブジェクトサーバを再起動してください。その他の場合は、操作を再実行してください
85 166	システム作業用メモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
188	OID インデクスが定義されていません	OID インデクス用エリアを追加して、再実行してください
31030	フェッチ管理情報の割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
31055	指定したオブジェクトはすでに削除されています	すでに削除したオブジェクトの OID を指定していないか確認してください
32002	ディクショナリ操作でキャッシュが一杯です	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
32003	スキーマ定義中に OID をすべて使用しました	今後オブジェクトの生成はできません。オブジェクトの参照だけができます
32005	ディクショナリ操作でメモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください

コード	要因	ユーザの処置
33001	ハッシュ登録時にメモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
33004	ハッシュディレクトリのサイズが大きくなり過ぎました	操作を再実行してください
34001	検索処理用のメモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
34511	SCB 領域のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
34522	インデクス情報作成領域のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
35001	システム作業領域の割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
36001	カーソル処理用のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
40109	指定した OID がありません	すでに削除されたオブジェクトの OID を指定していないか確認してください
40110	OID 指定のオブジェクトがありません	すでに削除されたオブジェクトの OID を指定していないか確認してください
40111	オブジェクト転送領域のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
42122	ロールバック処理が完了していない (KFXO42121-E エラーになったままインデクスが再作成されていない)インデクスをアクセスしました	オブジェクトサーバの再開始時、トランザクションの異常終了時及び [データベースのバックアップ] ユティリティでのインデクスのロールバック処理中に出力された KFXO42121-E エラーメッセージの対処に従ってください
42123	[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドが正常に終了していないためインデクスが正しく作成されていません。又は、アクセスしようとしたインデクスは、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティ (xodarint コマンド) で再初期化されたため未作成状態です	[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドの実行前に取得したバックアップによってデータベースを回復してください。又は、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティ (xodarint コマンド) で出力された KFXO59104-I メッセージの対処に従って、[データベースの再編成] ユティリティ又は xodbreog コマンドを使用してインデクスを再作成するか、データベース全体を再編成してください
44110	連携するプログラムが、一つのプロセスから、90 個を超えたファイルにアクセスしました	このエラーが多発する場合は、オブジェクトサーバの一つの初期設定パラメタで指定したマスタディレクトリ、データディレクトリ、ディクショナリ、OID インデクスのファイルの総数と、連携する一つのプログラムが使用するエリアのファイルの総数との和が 90 個以下になるように、オブジェクトサーバのデータベースをデータベース初期化ユティリティで初期化し、再作成してください
4xyyy (x, y は 0~9 のどれか)	オブジェクトサーバの格納制御でエラーが発生しました。又は、オブジェクトサーバのオブジェクト管理の指定したパラメタに誤りがありました(内部矛盾発生)	オブジェクトサーバのログメッセージを調査して、KFXO4xnnn(4x はコードと共通。n は 0~9 のどれか)のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処に従ってください。 出力されていない場合(内部矛盾発生時)には、このコードの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

コード	要因	ユーザの処置
上記以外	内部矛盾が発生しました	システム管理者に連絡してください

付録H.4 errno のコード一覧

errno は、一つのコードで複数の要因を記述している場合があります。この場合は、そのエラーを出力した使用状況から要因を特定してください。表 H-3 に errno の一覧を示します。

表 H-3 errno のコード一覧

コード	要因
2	指定されたパス又はファイルがありません
	指定された関数がありません
	ファイルシステムの破壊を検知しました
3	ファイルのアクセスに失敗しました
	指定された関数がありません
5	指定されたデバイスの入出力に失敗しました
6	デバイスが使用できません
	ファイルのオープンに失敗しました
	指定された関数がありません
11	スレッドの生成に失敗しました
12	メモリ不足が発生しました
13	アクセス権がありません
	ファイルは書き込み禁止です
	ほかのユーザによって該当ファイルは暗号化されています
	ディレクトリ又はファイルの作成に失敗しました
	ファイルのロックに失敗しました
14	メモリ破壊を検知しました
	メモリ不足が発生しました
17	指定されたファイルは、すでに作成されています
19	指定されたドライブがありません
21	ディレクトリの削除に失敗しました
	指定されたものはディレクトリです
22	指定された資源に対する操作が不正です。資源はすでに削除されています
	ファイルポインタの設定に失敗しました
	シグナルの操作に失敗しました

コード	要因
24	ファイルのオープンに失敗しました
	共用ファイルのオープン数が多過ぎます
27	セマフォの操作に失敗しました
28	ディスクが満杯になりました
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。 メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください

付録I Object Server 管理ツールのヘルプ

付録I.1 はじめに

(1) このヘルプの使い方

Object Server は、ユーザの手引としてマニュアルとオンラインヘルプを提供しています。

ヘルプには、操作方法やエラーメッセージなど、作業中にすぐ知りたい情報が入っています。

次のような場合には、ヘルプを検索してご覧ください。

■操作方法がわからない

ヘルプ目次の「Object Server を使う」を開いて、ヘルプを検索してください。

■作業中ダイアログの項目の意味がわからない

ヘルプ目次の「ダイアログの説明」を開いて、ヘルプを検索してください。

■エラーメッセージが表示されたが…

Object Server に何らかの支障があってエラーメッセージが表示された場合は、ヘルプの目次から「メッセージ」を開いて、メッセージ ID でヘルプを検索してご覧ください。エラーの原因と対処が参照できるようになっています。

メッセージ ID をキーワードにして、キーワード検索もできます。

■わからない用語がある

ヘルプの目次から「用語解説」を開いて、ヘルプを検索してください。

■こんなときはマニュアルをお読みください

- Object Server の概要や機能を知りたい
- Object Server の構築や環境設定の方法を知りたい

(2) このヘルプでの表記

- このヘルプでは、「Groupmax Object Server Version 6」、及び「Groupmax High-end Object Server Version 6」を「Object Server」と表記しています
- このヘルプでは、「Groupmax High-end Object Server Version 6」だけで使用できる機能や注意事項などについては、目次の項目、トピックタイトル、及び本文中に[High-end]と表記しています。
- Windows 2000 をご使用の方は、本文中の Windows NT を Windows 2000 に読み替えてください。
- Windows Server 2003 をご使用の方は、本文中の Windows NT を Windows Server 2003 に読み替えてください。
- Windows Server 2008 をご使用の方は、本文中の Windows NT を Windows Server 2008 に読み替えてください。

(3) 他社商標

- Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp.の登録商標です。
- Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp.の登録商標です。
- Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp.の登録商標です。
- Windows Server は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp.の商標です。

- Win32 は、米国 Microsoft Corp.の登録商標です。

付録 I.2 Object Server の概要

(1) Object Server とは

オフィスにパーソナルコンピュータが普及している今、扱う情報は様々です。例えば、そのような情報の一つに文書があります。オフィス内の文書は多様な構造を持ち、互いに密接な関連を持っています。そして、このような情報の全体が、企業の大切な財産です。特に、オフィスでの業務を活性化するグループウェアのデータベースは、このような情報の全体を管理する必要があります。

Object Server は、グループウェア Groupmax のデータベースとして、ビジネスで使用する、複雑で多様な構造と関連を持つ情報を「オブジェクト」として格納できます。そして、これらのオブジェクトを管理するための、高性能なデータベース管理機能を備えています。Object Server は、オブジェクトクラス、属性、リレーションなどの、オブジェクト指向に基づいたデータ構造を持っていますので、オフィスで扱う様々なデータを柔軟に扱えます。

Object Server と連携して、データ（オブジェクト）を格納する Groupmax シリーズのアプリケーションプログラムは、「Groupmax Document Manager Version 6」, 「Groupmax Workflow Version 6」, 及び「Groupmax Mail/Address Version 6」です。Object Server のオブジェクトは、これらのシリーズのアプリケーションプログラムを介して操作されます。

(2) 各ユティリティの機能概要

Object Server で使用するユティリティは、「Object Server 管理ツール」ウィンドウ内のアイコン又はメニューから実行します。

「Object Server 管理ツール」ウィンドウの各ユティリティの機能概要を次に示します。



データベース環境設定ユティリティ

データベースの初期化、データベースのエリアやファイルの追加、データベースのエリアの削除、及びファイルの属性を変更してデータベースの環境を設定します。



データベース保守ユティリティ

データベースの再編成、バックアップ、リストア、回復、及びバックアウトができます。



データベース診断ユティリティ

データベースのスキーマ名を表示できます。



システム運用支援ユティリティ

システムジャーナルの情報表示とアンロード、ステータスファイルの情報表示、ユーザジャーナルのアンロード、及びアプリケーション実行モードへの変更ができます。

なお、上記の各ユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。

■関連項目

「Object Server 管理ツール」ウィンドウを起動する

付録I.3 Object Server を使う

(1) 「Object Server 管理ツール」ウィンドウを起動する

Object Server で使用するユーティリティは、「Object Server 管理ツール」ウィンドウ内にアイコンとしてまとめられています。Object Server を使うには、まず「Object Server 管理ツール」ウィンドウを起動します。

■「Object Server 管理ツール」ウィンドウの起動の操作

1. Windows NT に「Object Server のシステム管理者」でログインする
2. 「Groupmax サーバ(共通)」グループの「Object Server 管理ツール」のアイコンを開く
「Object Server 管理ツール」ウィンドウが表示されます。

ウィンドウ上のアイコンをクリックすると、アイコンの説明が表示されます。



- 「データベース環境設定」アイコン
データベースの初期化、データベースのエリアやファイルの追加、データベースのエリアの削除、及びファイルの属性を変更してデータベースの環境を設定します。
ダブルクリックすると、[データベースの環境設定] ダイアログが表示されます。
- 「データベース保守」アイコン
データベースの再編成、バックアップ、リストア、回復、及びバックアウトができます。
ダブルクリックすると、[データベースの保守] ダイアログが表示されます。
- 「データベース診断」アイコン
データベースのスキーマ名を表示できます。
ダブルクリックすると、[データベースの診断] ダイアログが表示されます。
- 「システム運用支援」アイコン
システムジャーナルの情報表示とアンロード、ステータスファイルの情報表示、ユーザジャーナルのアンロード、及びアプリケーション実行モードへの変更ができます。
ダブルクリックすると、[システムの運用支援] ダイアログが表示されます。

(a) Object Server のシステム管理者

Object Server を運用管理するユーザです。Object Server のシステム管理者が Object Server のコマンドを実行できます。Object Server のシステム管理者は、Windows NT の Administrators グループに所属するように設定してください。

(2) データベースを初期化する

■機能

Object Server のデータベースを初期化します。Object Server を導入するときに、初期設定パラメタファイルを作成した後で実行してください。

■操作

[データベースの初期化] ユティリティの実行方法を説明します。

1. 初期設定パラメタファイルを作成する
初期設定パラメタファイルについては、マニュアルを参照してください。
2. [Object Server 管理ツール] の [データベース環境設定] アイコンを選択する
[データベースの環境設定] ダイアログが表示されます。
3. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースの初期化(I)...] を選択する
[データベースの初期化] ダイアログが表示されます。
4. ノード ID 及び操作 1. で作成した初期設定パラメタファイル名を指定する
5. [OK] ボタンを選択する
[データベースの初期化] ユティリティが実行されます。

■処理結果

ユティリティの処理結果は、Object Server のシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- すべてのエリアの初期化が正常に終了したときだけ、このユティリティは正常終了します。ユティリティの実行中にエラーが起こった場合には、エラーの原因を取り除いてから、すべてのエリアを初期化してください。
- [データベースの初期化] ユティリティの処理中のエラーが発生すると、[データベースの初期化] ユティリティで作成したファイルは、すべて削除されます。
- [データベースの初期化] ユティリティを再度実行する場合は、まず、[データベースの初期化] ユティリティで作成したファイルをすべて削除してから、[データベースの初期化] ユティリティを実行してください。
- [データベースの初期化] ユティリティでデータベースをすべて初期化する場合を除いて、OS の機能でオブジェクトサーバのデータベースのファイルを削除しないでください。OS の機能によってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、マニュアルのデータベースの回復に従って情報の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。
ファイルを削除する場合は、必ず [データベースのエリアの削除] ユティリティを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。

- [High-end] で [データベースの初期化] ユティリティを実行してデータベースを作成し直すときには、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

(3) データベースにエリアを追加する

■機能

Object Server のデータベースに、構成変更パラメタファイル中の area パラメタ及び file パラメタで指定されたエリアを追加します。追加できるのは、ユーザデータベース用及びインデクスのエリアです。

■操作

[データベースへのエリアの追加] ユティリティの実行方法を説明します。

1. 構成変更パラメタファイルを作成する
構成変更パラメタファイルについては、マニュアルを参照してください。
2. [Object Server 管理ツール] の [データベース環境設定] アイコンを選択する
[データベースの環境設定] ダイアログが表示されます。
3. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースへのエリアの追加(A)...] を選択する
[データベースへのエリアの追加] ダイアログが表示されます。
4. 操作 1. で作成した構成変更パラメタファイル名を指定する
5. [OK] ボタンを選択する
[データベースへのエリアの追加] ユティリティが実行されます。

■処理結果

ユティリティの処理結果は、Object Server のシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- Object Server の起動から終了までの間に追加できるエリア数の上限値は、32 個また [High-end] の場合システム共通定義の add_area_limit に指定した値です。この数を超えてエリアを追加した場合、Object Server を再起動するまで、そのエリアに対して Object Server と連携するプログラムのデータベースの作成、エリアの削除、ファイルの追加、及びファイルの属性変更はできません。ただし、Object Server の起動から終了までの間にエリアを削除した場合は、削除したエリアの数だけ上限値が増加します。削除したエリアの領域は、エリアを追加したときに再利用されます。
- オブジェクトサーバのデータベースは、[データベースの初期化] ユティリティですべて再初期化する場合を除いて、OS の機能によってデータベースのファイルを削除しないでください。OS の機能によってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、マニュアルのデータベースの回復に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。
ファイルを削除する場合は、必ず [データベースのエリアの削除] ユティリティを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。
- エリアを追加した後で、Object Server を再起動すると、追加したエリア数分だけ静的共用メモリの総量が増加するので、システム共通定義で指定する static_shmpool_size は、余裕を持って計算してください。

- [データベースへのエリアの追加] ユティリティが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。
- [High-end] では、[データベースへのエリアの追加] ユティリティの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

(4) データベースのエリアを削除する

■機能

連携するプログラムの環境の削除などで不要になったエリアを、Object Server のデータベースから削除します。削除できるのは、ユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。

■操作

[データベースのエリアの削除] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [データベース環境設定] アイコンを選択する
[データベースの環境設定] ダイアログが表示されます。
2. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースのエリアの削除(R)...] を選択する
[データベースのエリアの削除] ダイアログが表示されます。
3. エリア名を指定する
指定するエリア名は、削除するエリアを作成又は追加したときに、初期設定パラメタ又は構成変更パラメタで指定した名称です。
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースのエリアの削除] ユティリティが実行されます。

■処理結果

ユティリティの処理結果は、Object Server のシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- 削除するエリアに連携しているプログラムがデータベースを作成している場合、そのエリアを削除することはできません。まず、連携するプログラム側でそれらのデータベースを削除してから、[データベースのエリアの削除] ユティリティを実行してください。
- [データベースのエリアの削除] ユティリティが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。
- [High-end] では、[データベースのエリアの削除] ユティリティの実行後の運用に備えて、システムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

(5) データベースのファイルの属性を変更する

■機能

指定されたファイルの属性を変更します。変更できるのは、ファイルの最大割り当て量です。

■操作

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティの実行方法を説明します。

1. ファイルの最大割り当て量を見積もる
属性を変更するファイルについての変更後の最大割り当て量を見積もります。指定値については、マニュアルを参照してください。
2. [Object Server 管理ツール] の [データベース環境設定] アイコンを選択する
[データベースの環境設定] ダイアログが表示されます。
3. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースのファイルの属性変更(L)...] を選択する
[データベースのファイルの属性変更] ダイアログが表示されます。
4. 属性を変更するファイルのあるエリア名、ファイル名、及び操作 1. で見積もった最大割当量を指定する
5. [OK] ボタンを選択する
[データベースのファイルの属性変更] ユティリティが実行されます。

■処理結果

ユティリティの処理結果は、Object Server のシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- [High-end] では、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティの実行後の運用に備えて、システムジャーナルサービス定義で、set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合には、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

(6) データベースにファイルを追加する

■機能

構成変更パラメタファイル中の area パラメタで指定されたエリアに、file パラメタで指定されたファイルを追加します。ただし、マスタディレクトリのエリアには、ファイルを追加できません。

■操作

[データベースへのファイルの追加] ユティリティの実行方法を説明します。

1. 構成変更パラメタファイルを作成する
構成変更パラメタファイルについては、マニュアルを参照してください。
2. [Object Server 管理ツール] の [データベース環境設定] アイコンを選択する
[データベースの環境設定] ダイアログが表示されます。
3. [データベースの環境設定] ダイアログの [データベースへのファイルの追加(F)...] を選択する
[データベースへのファイルの追加] ダイアログが表示されます。
4. 操作 1. で作成した構成変更パラメタファイル名を指定する
5. [OK] ボタンを選択する
[データベースへのファイルの追加] ユティリティが実行されます。

■処理結果

ユティリティの処理結果は、Object Server のシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。

- オブジェクトサーバのデータベースは、[データベースの初期化] ユティリティですべて再初期化する場合を除いて、OS の機能によってデータベースのファイルを削除しないでください。OS の機能によってファイルを削除した場合、マスタディレクトリとの不整合が発生し、オブジェクトサーバが起動できなくなります。誤って削除してしまった場合は、マニュアルのデータベースの回復に従って情報間の同期ずれが発生しないようにデータベースを回復してください。
ファイルを削除する場合は、必ず [データベースのエリアの削除] ユティリティを使用してエリア単位で削除してください。エリアの削除によって、エリアを構成するすべてのファイルが削除されます。
- [データベースへのファイルの追加] ユティリティが正常終了した時点で、バックアップを取得してください。
- [High-end] では、[データベースへのファイルの追加] ユティリティの実行後の運用に備えてシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。システムジャーナルサービス定義で set 形式に「set jnl_unload_check=Y」を指定した場合又は set 形式の指定を省略した場合は、必ずシステムジャーナルファイルの容量を見直してください。

(7) データベースを再編成する

■機能

データベースにオブジェクトの追加や削除を繰り返すと、オブジェクトの配置に乱れが生じてきます。[データベースの再編成] ユティリティは、データベースを再編成して、この乱れを修正し、オブジェクトを適切に配置します。この再編成によって、オブジェクトのアクセス性能が向上し、データベースのスペース効率が最適になります。

このユティリティによって再編成されるのは、次に示す用途のエリアです。

- ユーザデータベース
- データディクショナリ
- インデクス
- OID インデクス

このユティリティを実行したときの処理を説明します。

オブジェクトの再編成

再編成パラメタファイルに reorg を指定すると、オブジェクトが再編成されます。データベースのオブジェクトは、いったんアンロードファイルに出力されて、再びデータベースに登録されることによって再配置されます。このとき、すべてのオブジェクトが対象となります。

オブジェクトの再編成には、インデクス及び OID インデクスの再作成も含まれます。再作成では、インデクス及び OID インデクス中のむだな空き領域をなくします。また、インデクスの再作成時には、その後のインデクスキーの追加を高速にするための予備領域を確保します。

インデクス再作成

再編成パラメタファイルに recreate を指定した場合は、インデクスの再作成だけが実行されます。これは、タイプ中のオブジェクトデータを物理順に検索して、インデクスの情報を生成し、その情報を基にインデクスを作り直す機能です。インデクス中のむだな領域をなくしたい場合、及び何らかの理由によってインデクスの内容が不正になった場合に実行してください。

なお、インデクスの再作成時には、この後のインデクスキーの追加を高速にするため、インデクスページ内にインデクスキー追加のための予備領域を確保します。

■操作

[データベースの再編成] ユティリティの実行方法を説明します。

1. 再編成パラメタファイルを作成する

再編成パラメタファイルについては、マニュアルを参照してください。

2. [Object Server 管理ツール] の [データベース保守] アイコンを選択する
[データベースの保守] ダイアログが表示されます。
3. [データベースの保守] ダイアログの [データベースの再編成(E)...] を選択する
[データベースの再編成] ダイアログが表示されます。
4. 操作 1. で作成した再編成パラメタファイル名を指定する
5. [OK] ボタンを選択する
[データベースの再編成] ユティリティが実行されます。

■処理結果

ユティリティの処理結果は、Object Server のシステムディレクトリのファイル「xodresult」に出力されます。

■注意事項

- このユティリティを使用するときは、次のような対処によって障害に備える必要があります。
 - ・ユティリティ開始前のバックアップを保存する
 - ・ユティリティ正常終了後に Object Server を停止してバックアップを取得する
- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- このユティリティで作成したアンロードファイルは、データベースに障害が起こったときのバックアップに使用できません。障害時の回復に利用するバックアップについては、マニュアルに示す方法で取得してください。
- このユティリティを実行すると、再編成パラメタファイルの reorg -u 及び -d オペランドで指定したアンロード用のファイルが作成されます。このファイルは、正常終了時には削除されますが、異常終了時には削除されません。そのため、異常終了した後に同じアンロード用ファイルを使って [データベースの再編成] ユティリティを実行するときは、このファイルを削除してください。
- このユティリティでは、再編成パラメタファイルの -w オペランドで指定した作業領域を使用します。-w オペランドの指定を省略した場合は、%XODDIR%¥ spool ¥ work を作業領域とします。-w オペランドの指定を省略している場合には、ユティリティを実行する前に %XODDIR% ¥ spool ¥ work の空き領域を確認して、領域を確保するようにしてください。
- このユティリティが異常終了した場合、その終了メッセージが KFXO56035-E の時はデータベースが不完全な状態になっているので、このユティリティを再実行する前にデータベースをバックアップによって回復する必要があります。KFXO56002-E という終了メッセージが表示されたときは、データベースの回復は不要です。

(8) データベースのバックアップをとる

■機能

データベースの障害・破壊時に備えて、正常なデータベースの内容をファイルに退避します。入力となるデータベース定義情報は、システム共通定義ファイルに指定してあるマスタディレクトリ用ファイルから取得します。退避先のファイルをデータベースバックアップファイルといいます。このユティリティで作成したデータベースバックアップファイルは、[データベースの回復] ユティリティを使って、回復します。

データベースのバックアップは、OS のバックアップ機能やファイルマネージャによるコピーの OS の機能を使って取得することもできます。しかし、データベースファイル内の使用率が低い場合、このユティリティを使えばバックアップ先の容量の削減やバックアップ時間の短縮が図れます。

■操作

[データベースのバックアップ] ユティリティの実行方法を説明します。

1. バックアップパラメタファイルを作成する
バックアップパラメタファイルについては、マニュアルを参照してください。
2. [Object Server 管理ツール] の [データベース保守] アイコンを選択する
[データベースの保守] ダイアログが表示されます。
3. [データベースの保守] ダイアログの [データベースのバックアップ(B)...] を選択する
[データベースのバックアップ] ダイアログが表示されます。
4. データベースファイルの待避先のファイルであるデータベースバックアップファイルの名称、又は操作 1. で作成したバックアップパラメタファイル名を指定する
すべてのデータベースファイルを一括してバックアップを取得する場合で、バックアップパラメタファイルを作成していない場合は、ダイアログでバックアップファイル名指定してください。バックアップパラメタファイルを作成している場合は、制御文ファイル名を指定してください。
5. [OK] ボタンを選択する
[データベースのバックアップ] ユティリティが実行されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- このユティリティはプログラムが停止しているときだけ、実行できます。したがってデータベースのバックアップを取得する場合は、Object Server を停止させた後に [データベースのバックアップ] ユティリティを実行してください。

(9) データベースをリストアする**■機能**

Object Server のデータベースに障害が発生した場合（ディスク障害、アプリケーションプログラムによるデータ破壊、ディレクトリとディクショナリの不整合など）に、データベースをバックアップ取得時点まで戻します。このユティリティはある時点の [データベースのバックアップ] ユティリティで取得したバックアップファイルを読み込み、障害が発生したデータベースを回復します。

■操作

[データベースのリストア] ユティリティの実行方法を説明します。

1. バックアップパラメタファイルを作成する
バックアップパラメタファイルについては、マニュアルを参照してください。データベースバックアップファイル中に待避されているすべてのエリアのファイルを回復する場合、[データベースのリストア] ダイアログで、バックアップファイル名を指定できますので、バックアップパラメタファイルの作成を省略できます。
2. [Object Server 管理ツール] の [データベース保守] アイコンを選択する
[データベースの保守] ダイアログが表示されます。
3. [データベースの保守] ダイアログの [データベースのリストア(S)...] を選択する
[データベースのリストア] ダイアログが表示されます。
4. リストア元のデータベースバックアップファイル名、又は操作 1 で作成したバックアップパラメタファイル名を指定する
データベースバックアップファイル中に待避されているすべてのエリアのファイルを回復する場合で、バックアップパラメタファイルを作成していない場合は、ダイアログでバックアップファイル

名を指定してください。バックアップファイル名を作成している場合は、制御文ファイル名を指定してください。

5. [OK] ボタンを選択する

[データベースのリストア] ユティリティが実行されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- Object Server のデータベースがあるディスクに障害が発生した場合には、このユティリティの実行前に障害の発生したファイルを削除しておいてください。
- このユティリティは、データベースのファイルだけ回復します。ファイルシステムのディレクトリは回復できません。
- このユティリティを実行中にエラーが発生した場合は、エラー原因に対処して、ユティリティをはじめから実行し直してください。
- このユティリティは Object Server の停止時にだけ起動できます。

(10) データベースを回復する [High-end]

■機能

Object Server のデータベースに障害が発生した場合（ディスクの障害、アプリケーションプログラムによるデータ破壊、ディレクトリとディクショナリの不整合等）に、ある時点の正常な状態にデータベースを回復します。

このユティリティはデータベースのバックアップ取得以後のアンロードジャーナルファイルを読み込んで、障害が発生したデータベースを回復します。このユティリティは、あらかじめ [データベースのリストア] ユティリティ、又は OS の機能（OS のバックアップ機能やファイルマネージャによるコピー）によって、データベースのバックアップ取得時点の状態にデータベースを回復してから実行してください。

回復に使用するアンロードジャーナルファイルは、システムジャーナルファイルのアンロード（`xodjnlunl` コマンド）で作成されたファイルです。

■操作

[データベースの回復] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [データベース保守] アイコンを選択する
[データベースの保守] ダイアログが表示されます。
2. [データベースの保守] ダイアログの [データベースの回復(R)...] を選択する
[データベースの回復] ダイアログが表示されます。
3. データベースの回復に使用するアンロードジャーナルファイル名及びアンロードジャーナルファイルをソートするかどうかを指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースの回復] ユティリティが実行されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- 回復に使用するジャーナルファイルは、バックアップ取得以降から障害発生時点（発生時使用中のジャーナルを含む）までのアンロードジャーナルファイルを過不足なく指定してください。また、1回のユティリティ実行ですべてのファイルを指定できない場合、アンロードジャーナルの時系列順に複数に分けて実行してください。

- このユティリティに指定するアンロードジャーナルファイルは、必ずディスク上にある必要があります。
 - このユティリティは、[データベースのバックアウト] ユティリティへの引き継ぎ情報としてのバックアウト情報ファイル(%XODDIR%¥spool¥xodrecinf)を作成します。このユティリティでエラーが発生した場合は、バックアウト情報ファイルを削除し、直ちに処理を中断します。そしてエラーの要因を取り除き、[データベースのリストア] ユティリティから再度実行してください。
 - OSの機能を使用してデータベースファイルのバックアップ及びリストアをしている場合、1回目の[データベースの回復] ユティリティを実行する前にバックアウト情報ファイルがあるか確認してください。バックアウト情報ファイルがあれば、ファイルを削除してからデータベースファイルのバックアップ及びリストアをしてください。
 - [データベースの再編成] ユティリティは、ユティリティの実行中にジャーナルを取得しません。ユティリティ実行時点以降の状態にデータベースを回復するために、ユティリティ実行後にデータベースファイルのバックアップを取得してください。
- また、連携するプログラムの中にジャーナルを取得しないユティリティ、コマンドを持ったものがありますので、連携するプログラムのユティリティ、コマンドを実行する場合のバックアップの手順については、各ユティリティ、コマンドの指示に従ってください。

(11) データベースをバックアウトする [High-end]

■機能

[データベースの回復] ユティリティで使用したアンロードジャーナル中に Object Server が異常終了した時点で仕掛かり中だったトランザクションが含まれている場合 (KFXO54002-I メッセージが出力されている)、回復されたデータベースは、仕掛かり中のトランザクションの更新内容が無効にされていない場合もあります。このユティリティを実行することで障害が発生した時点の仕掛かり中トランザクションの更新内容を無効にします。

このユティリティは、[ファイル名一覧(J)] に指定されたアンロードジャーナルファイルと [データベースの回復] ユティリティ実行時に出力されたバックアウト情報ファイル(%XODDIR%¥spool ¥xodrecinf)を基にロールバックを実行します。

■操作

[データベースのバックアウト] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [データベース保守] アイコンを選択する
[データベースの保守] ダイアログが表示されます。
2. [データベースの保守] ダイアログの [データベースのバックアウト(O)...] を選択する
[データベースのバックアウト] ダイアログが表示されます。
3. データベースのバックアウトに使用するアンロードジャーナルファイル名を指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[データベースのバックアウト] ユティリティが実行されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- このユティリティに指定するアンロードジャーナルファイルは必ずディスク上にある必要があります。
- このユティリティでエラーが発生した場合、エラーの要因を取り除き、[データベースのリストア] ユティリティから再実行してください。

(12) スキーマ名を表示する

■機能

データベースに定義されているスキーマ名称を表示します。

既に稼働している Groupmax システムに連携プログラムを追加する場合、連携プログラムのデータベースの初期化時に、Object Server のスキーマ名を指定する必要があります。スキーマ名は、既に稼働している連携プログラムの初期化をするときに定義されています。Object Server の [スキーマ名の表示] ユティリティで確認してください。

■操作

[スキーマ名の表示] ユティリティでスキーマ名を表示する方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [データベース診断] アイコンを選択する
[データベースの診断] ダイアログが表示されます。
2. [データベースの診断] ダイアログの [スキーマ名の表示(S)...] を選択する
メッセージボックスにスキーマ名が表示されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。

(13) システムジャーナルの情報を表示する [High-end]

■機能

システムジャーナルファイルについての情報を表示します。Object Server 停止中に実行すると、ファイルグループ名だけが表示されます。

■操作

[システムジャーナルの情報] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [システム運用支援] アイコンを選択する
[システムの運用支援] ダイアログが表示されます。
2. [システムの運用支援] ダイアログの [システムジャーナルの情報(J)...] を選択する
[システムジャーナルの情報] ダイアログが表示されます。
3. [システムジャーナルの情報] ダイアログに詳細情報が表示されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- ファイルグループの状態を変更中に[システムジャーナルの情報]ユティリティを実行すると、正しい状態が表示されないこともあります。ファイルグループの状態変更とは、次のような場合です。
 - ・スワップ中
 - ・ファイルグループを操作するユティリティ、又は運用コマンドの処理中

(14) システムジャーナルをアンロードする [High-end]

■機能

指定されたファイルグループを出力先のファイルにアンロードします。さらに、ファイルグループをアンロード済み状態にします。ただし、次に示すファイルグループはアンロードできません。

- 現用ファイルグループ
- アンロード済みのファイルグループ

■操作

[システムジャーナルのアンロード] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [システム運用支援] アイコンを選択する
[システムの運用支援] ダイアログが表示されます。
2. [システムの運用支援] ダイアログの [システムジャーナルの情報(J)...] を選択する
[システムジャーナルの情報] ダイアログが表示されます。
3. [システムジャーナルの情報] ダイアログのリストで、アンロードするファイルグループを選択する
4. [システムジャーナルの情報] ダイアログで [アンロード(U)...] を選択する
[システムジャーナルのアンロード] ダイアログが表示されます。
5. アンロードするファイルグループ名、出力先のファイル名及び状態変更の有無を指定する
6. [OK] ボタンを選択する
[システムジャーナルのアンロード] ユティリティが実行されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
 - このユティリティは、ジャーナルサービス開始中に実行できません。実行した場合、システムジャーナルファイルの状態が、Object Server に反映されない場合があります。この場合、次の手順で実行するとシステムジャーナルファイルの状態が反映されます。
1. ジャーナルサービスの開始又は再開始処理完了後に xodjnlcls コマンドで、該当するファイルグループをクローズする。
 2. その後 xodjnl opn コマンドでオープンする。

(15) ステータスファイルの情報を表示する [High-end]**■機能**

ステータスファイルの状態を表示します。

■操作

[ステータスファイルの情報] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [システム運用支援] アイコンを選択する
[システムの運用支援] ダイアログが表示されます。
2. [システムの運用支援] ダイアログの [ステータスファイルの情報(S)...] を選択する
[ステータスファイルの情報] ダイアログが表示されます。
3. [ステータスファイルの情報] ダイアログに詳細情報が表示されます。

■注意事項

- このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- ステータスサーバが動作中のときだけ、ステータスファイルの状態を管理しています。このため、ステータスサービスの動作中に次のコマンドを実行しても、表示されるファイル状態は変わりません。
 - ・クローズ状態のファイルに xodstsinit コマンドを実行する。
 - ・クローズ状態のファイルに xodstsrn コマンドを実行する。

注 クローズ状態とは次の状態を指します。

CLOSE (予約ファイル)

NONE (ファイル実体がない)

BLOCKADE (障害閉塞ファイル)

- ・現在のファイル状態は次の手順で表示できます。
 1. xodstsinit 又は xodstsrn コマンドを実行する。
 2. xodstsopn コマンドを実行する。
 3. [ステータスファイルの情報] ユティリティを実行する。

(16) ユーザジャーナルをアンロードする

■機能

指定されたユーザジャーナルファイルをアンロード先ファイルにアンロードします。

■操作

[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [システム運用支援] アイコンを選択する
[システムの運用支援] ダイアログが表示されます。
2. [システムの運用支援] ダイアログの [ユーザジャーナルのアンロード(U)...] を選択する
[ユーザジャーナルのアンロード] ダイアログが表示されます。
3. アンロードするファイルの種類及び出力先のファイル名を指定する
4. [OK] ボタンを選択する
[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティが実行されます。

■注意事項

- ・このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- ・このユティリティは、Object Server が動作中のときだけ実行できます。

(17) アプリケーション実行モードに変更する [High-end]

■機能

ユティリティが実行可能な [ユティリティ実行モード] になっている場合に、アプリケーションプログラムが実行できるモードに変更します。

■操作

[アプリケーション実行モードへの変更] ユティリティの実行方法を説明します。

1. [Object Server 管理ツール] の [システム運用支援] アイコンを選択する
[システムの運用支援] ダイアログが表示されます。
2. [システムの運用支援] ダイアログの [アプリケーション実行モードへの変更(P)] を選択する

■注意事項

- ・このユティリティを実行できるのは、Object Server のシステム管理者だけです。
- ・ユティリティ実行中の場合はモードを変更できません。
- ・このユティリティによってモードを変更した後では、Object Server を起動したままで「ユティリティ実行モード」に戻せません。ユティリティを実行する場合は、いったん Object Server を正常終了させた後に、ユティリティ実行モードで再起動してください。

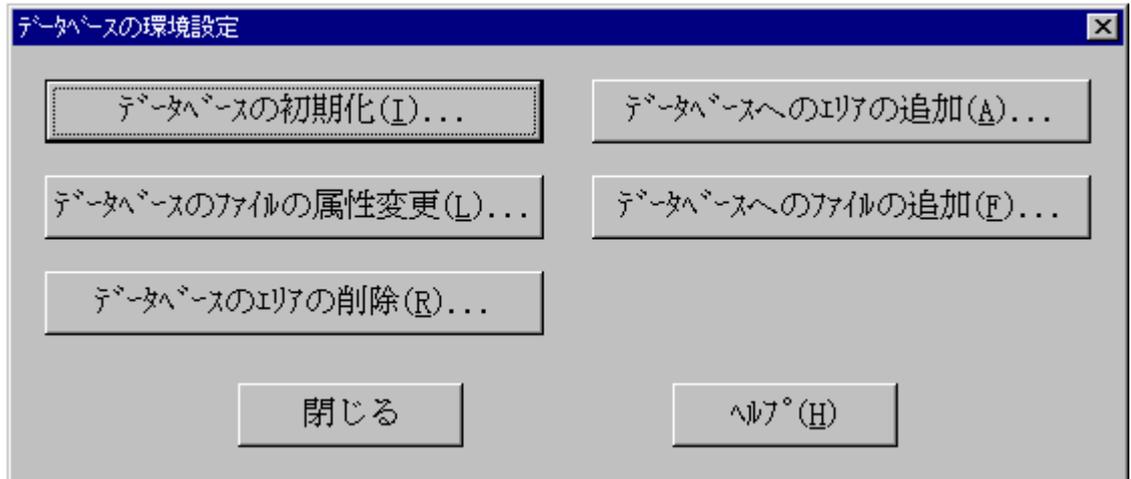
付録 I.4 ダイアログボックスの説明

(1) 「データベースの環境設定」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースの初期化、データベースのエリアやファイルの追加、データベースのエリアの削除、及びファイルの属性を変更してデータベースの環境を設定します。



「データベースの初期化」ボタン

選択すると、「データベースの初期化」ダイアログが表示されます。

「データベースへのエリアの追加」ボタン

選択すると、「データベースへのエリアの追加」ダイアログが表示されます。

「データベースのファイルの属性変更」ボタン

選択すると、「データベースのファイルの属性変更」ダイアログが表示されます。

「データベースへのファイルの追加」ボタン

選択すると、「データベースへのファイルの追加」ダイアログが表示されます。

「データベースのエリアの削除」ボタン

選択すると、「データベースのエリアの削除」ダイアログが表示されます。

[閉じる]ボタン

[データベースの環境設定] ダイアログを閉じて、[Object Server 管理ツール] ウィンドウに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

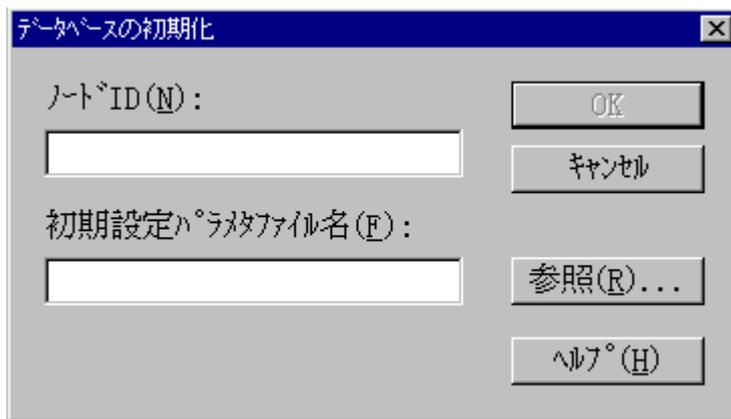
ダイアログのヘルプを表示します。

(2) 「データベースの初期化」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースを初期化します。



ノード ID

ここで指定した値が、この Object Server のノード ID になります。マルチサーバ構成で、Object Server を運用する場合には、ノード ID によってデータベースを識別しますので、それぞれが異なるノード ID を持つように指定してください。デフォルト値は「0」です。[データベースの初期化] ユティリティの実行時には、同じノード ID を持つデータベースがあるかどうかをチェックしません。

ノード ID を指定すると、オブジェクトを生成するときに、そのデータベースのノード ID がオブジェクト ID の中に設定されます。そのため、すべてのオブジェクト ID が一意な値になります。

シングルサーバ構成の運用をする場合は、特に指定する必要はありません。

- 1~16382 <符号なし整数>を指定してください。

初期設定パラメタファイル名

初期設定パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で指定します。

[OK]ボタン

[データベースの初期化] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースの初期化] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

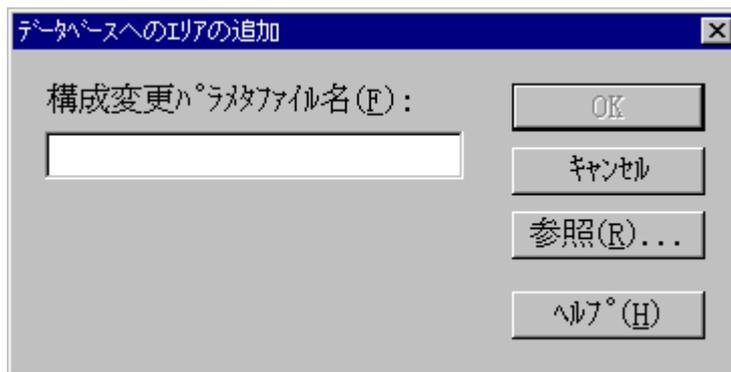
[データベースを初期化する]

(3) 「データベースへのエリアの追加」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

Object Server のデータベースに、構成変更パラメタファイル中の area パラメタ及び file パラメタで指定されたエリアを追加します。追加できるのは、ユーザデータベース用及びインデクス用のエリアです。



構成変更パラメタファイル名

構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で指定します。

[OK]ボタン

[データベースへのエリアの追加] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースへのエリアの追加] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

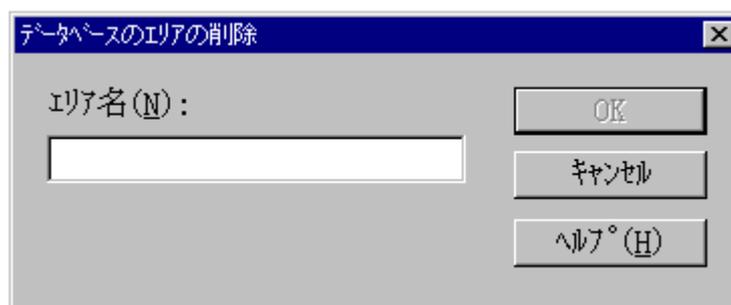
「データベースにエリアを追加する」

(4) 「データベースのエリアの削除」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースのエリアを削除します。



エリア名

エリア名を 1~30 バイトの<文字列>で指定します。

[OK]ボタン

[データベースのエリアの削除] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースのエリアの削除] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

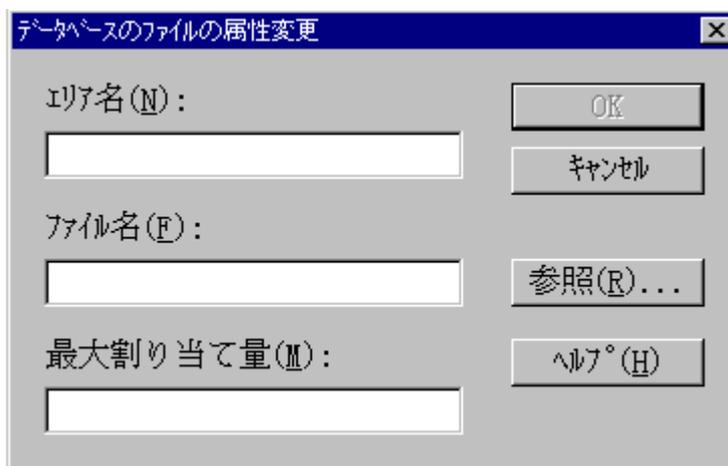
[データベースのエリアを削除する]

(5) 「データベースのファイルの属性変更」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースのファイルの属性を変更します。



エリア名

属性を変更するファイルのあるエリアのエリア名を1~30バイトの<文字列>で指定します。

ファイル名

属性を変更するファイルのファイル名を2~175バイトのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で指定します。

最大割り当て量

変更後の最大割り当て量をセグメント数で指定します。0~524288の<符号なし整数>を指定してください。

セグメントサイズと最大割り当て量の積は、524,288以下にしてください。また、次に示す式の値より小さい数を指定してください。これらが守られなかった場合には、エラーになります。

$$\frac{\text{MAX}(i, m)}{64000} \text{ (小数点以下切り上げ)} \times 64000$$

(凡例)

i:初期設定パラメタで指定した、このファイルの初期割り当て量 (セグメント)

m:初期設定パラメタで指定した、このファイルの最大割り当て量 (セグメント)

最大割り当て量に指定した値によって、変更後の値は次のように扱われます。

指定値	Object Server の処理
0	省略値とみなす (初期設定パラメタでの省略値と同様)
現在のセグメント数を超える	[データベースのファイルの属性変更] ユティリティの最大割り当て量に指定した値に変更する
現在のセグメント数以下	エラーとなる。最大割り当て量は変更しない

[OK]ボタン

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースのファイルの属性変更] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

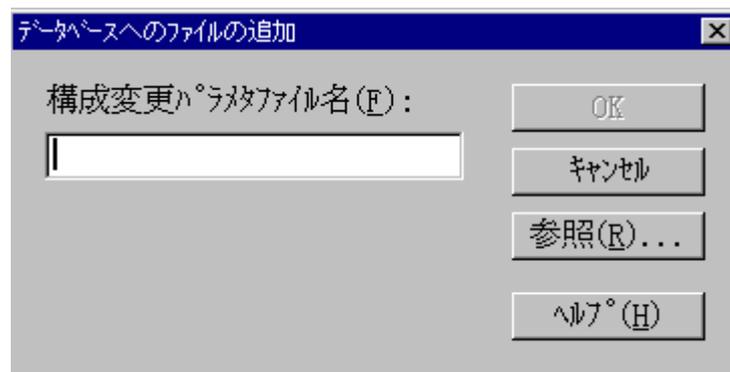
「データベースのファイルの属性を変更する」

(6) 「データベースへのファイルの追加」 ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースにファイルを追加します。

**構成変更パラメタファイル名**

構成変更パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で指定します。

[OK]ボタン

[データベースへのファイルの追加] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースへのファイルの追加] ダイアログを閉じて、[データベースの環境設定] ダイアログに戻ります。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

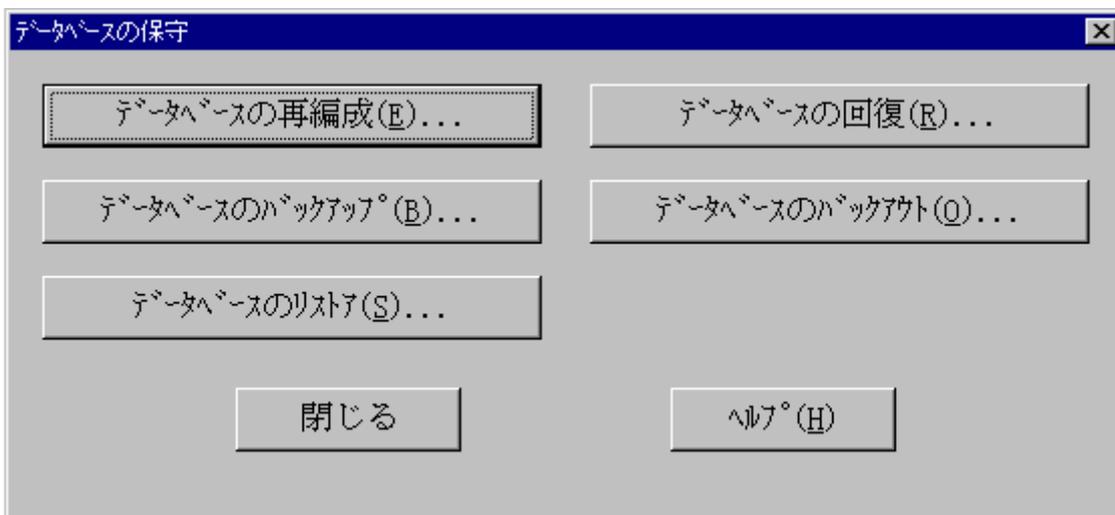
「データベースにファイルを追加する」

(7) 「データベースの保守」 ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースの再編成、バックアップ、リストア、回復、バックアウトができます。



「データベースの再編成」ボタン

選択すると、「データベースの再編成」ダイアログが表示されます。

「データベースのバックアップ」ボタン

選択すると、「データベースのバックアップ」ダイアログが表示されます。

「データベースのリストア」ボタン

選択すると、「データベースのリストア」ダイアログが表示されます。

「データベースの回復」ボタン [High-end]

選択すると、「データベースの回復」ダイアログが表示されます。

「データベースのバックアウト」ボタン [High-end]

選択すると、「データベースのバックアウト」ダイアログが表示されます。

[閉じる]ボタン

[データベースの保守] ダイアログを閉じて、[Object Server 管理ツール] ウィンドウに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

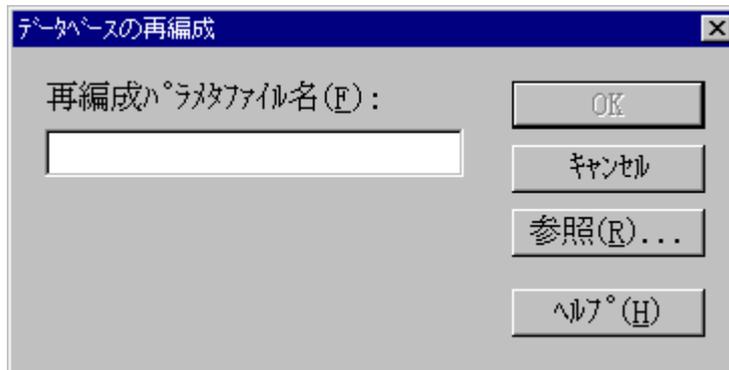
ダイアログのヘルプを表示します。

(8) 「データベースの再編成」 ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースの空き領域やインデクスの乱れを取り除いたり、適切な配置にしたりして効率的なデータベース処理をします。



再編成パラメタファイル名

再編成パラメタファイル名を 255 バイト以下のドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で指定します。

[OK]ボタン

[データベースの再編成] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースの再編成] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

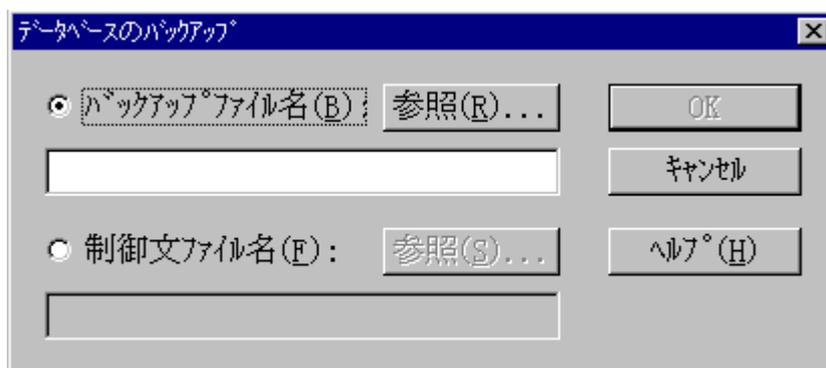
「データベースを再編成する」

(9) 「データベースのバックアップ」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形になるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースの障害・破壊時に備えて、正常なデータベースの内容をファイルに待避します。



バックアップファイル選択ボタン

データベース全体をバックアップするときに指定します。

バックアップファイル名

1~175バイトのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)でデータベースバックアップファイルの名称を指定します。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

制御文ファイル選択ボタン

データベース中の特定のエリアをバックアップするときに指定します。

制御文ファイル名

1~175バイトのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で制御文ファイル名を指定します。

[OK]ボタン

[データベースのバックアップ] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースのバックアップ] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

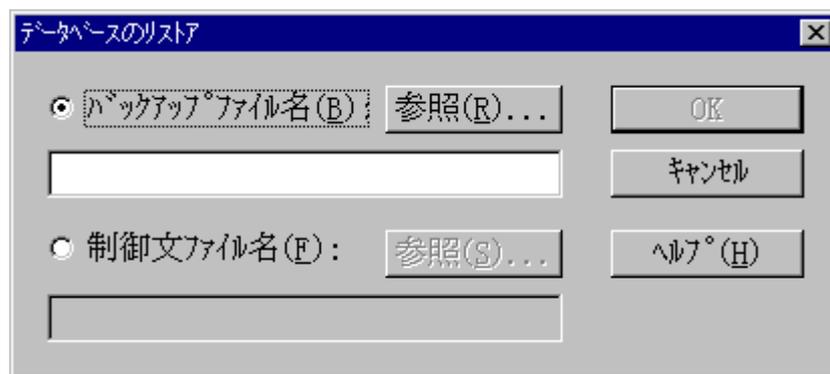
[データベースのバックアップをとる]

(10) 「データベースのリストア」 ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

Object Server のデータベースに障害が発生した場合に、データベースをバックアップ取得時点まで戻します。



バックアップファイル選択ボタン

バックアップしたすべてのエリアをリストアするときに指定します。

バックアップファイル名

1~175バイトまでのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で[データベースのバックアップ]ユティリティで取得したデータベースバックアップファイルの名称を指定します。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

制御文ファイル選択ボタン

データベース中の特定のエリアをリストアするときに指定します。

制御文ファイル名

1~175 バイトまでのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)で制御文ファイル名を指定します。

[OK]ボタン

[データベースのリストア] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースのリストア] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

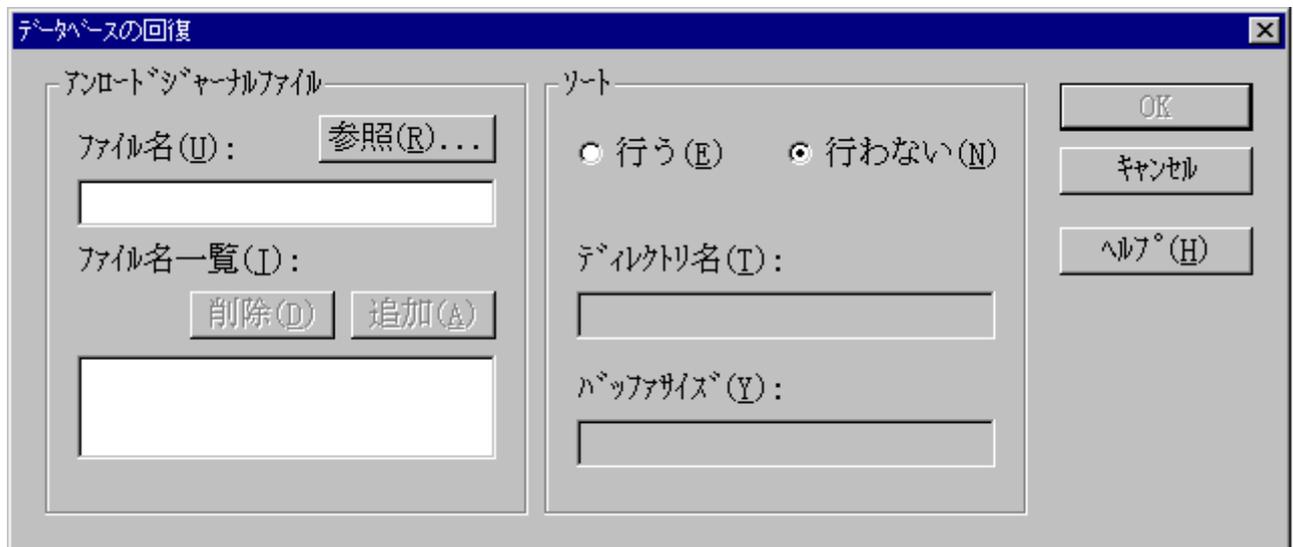
[データベースのリストアをする]

(11) 「データベースの回復」ダイアログ [High-end]

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

Object Server のデータベースに障害が発生した場合に、ある時点の正常な状態にデータベースを回復します。

**[参照...]ボタン**

[参照] ダイアログを表示します。

ファイル名

1~255 バイトまでのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)。

[システムジャーナルのアンロード]ユティリティで取得したアンロードジャーナルファイル名を指定します。[追加]ボタンによってファイル名一覧に追加したファイルが回復の対象になります。

ファイル名一覧

データベースの回復の対象となるアンロードジャーナルファイルの一覧を表示します。

[削除]ボタン

ファイル名一覧で選択されたアンロードジャーナルファイル名を削除します。

[追加]ボタン

指定されたアンロードジャーナルファイルをファイル名一覧へ追加します。

ソート

アンロードジャーナルのソートを行うか行わないかを指定します。

ディレクトリ名

1~255 バイトのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)

[データベースの回復]ユーティリティはアンロードジャーナルのソートを行う時に一時的にファイルを作成します。このファイルを作成するためのディレクトリ名を指定します。一時的に作成するファイルの容量はアンロードジャーナルファイルの合計長分必要です。省略時は、%XODDIR%¥spool¥work を仮定します。

バッファサイズ

0~2147483647 の<符号なし整数>。

アンロードジャーナルファイルのソートを行う時に一時的に使用するバッファサイズをキロバイト単位 (1 キロ = 1024 バイト) で指定します。バッファサイズが大きいくほど処理時間が短縮されます。指定値が 128 キロバイト未満の場合、又は省略した場合は 1024 キロバイトになります。

[OK]ボタン

[データベースの回復] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースの回復] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

「データベースを回復する」

(12) 「データベースのバックアウト」ダイアログ [High-end]

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

障害が発生した時点の仕掛かり中トランザクションの更新内容を無効にします。

**[参照...]ボタン**

[参照] ダイアログを表示します。

ファイル名

1～255 バイトのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)。

[システムジャーナルのアンロード]ユーティリティで取得したアンロードジャーナルファイル名を指定します。[追加]ボタンによりファイル名一覧に追加したファイルがバックアウトの対象になります。

ファイル名一覧

データベースのバックアウトの対象となるアンロードジャーナルファイルの一覧を表示します。

[削除]ボタン

ファイル名一覧で選択されたアンロードジャーナルファイルを削除します。

[追加]ボタン

指定されたアンロードジャーナルファイルをファイル名一覧へ追加します。

[OK]ボタン

[データベースのバックアウト] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[データベースのバックアウト] ダイアログを閉じて、[データベースの保守] ダイアログに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

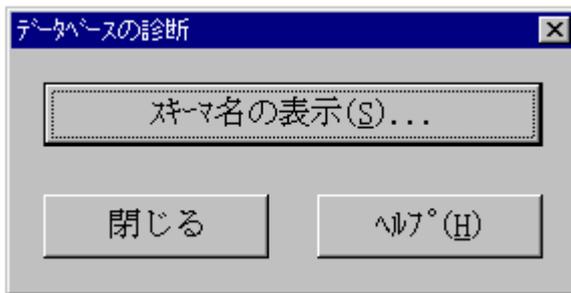
「データベースをバックアウトする」

(13) 「データベースの診断」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形になるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

データベースのスキーマ名を表示できます。



「スキーマ名の表示」ボタン

選択すると、メッセージボックスにスキーマ名が表示されます。

「閉じる」ボタン

「データベース診断」ダイアログを閉じて、「Object Server 管理ツール」ウィンドウに戻ります。

「ヘルプ」ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

「スキーマ名を表示する」

(14) 「システムの運用支援」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

システムジャーナルの情報表示とアンロード、ステータスファイルの情報表示、ユーザジャーナルのアンロード、アプリケーション実行モードへの変更ができます。



「システムジャーナルの情報」ボタン [High-end]

選択すると、「システムジャーナルの情報」ダイアログが表示されます。

「ステータスファイルの情報」ボタン [High-end]

選択すると、「ステータスファイルの情報」ダイアログが表示されます。

「ユーザジャーナルのアンロード」ボタン

選択すると、「ユーザジャーナルのアンロード」ダイアログが表示されます。

「アプリケーション実行モードへの変更」ボタン [High-end]

■機能

ユーティリティが実行可能な「ユーティリティ実行モード」になっている場合に、アプリケーションプログラムが実行できるモードに変更します。

[閉じる]ボタン

[システム運用支援] ダイアログを閉じて、[Object Server 管理ツール] ウィンドウに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

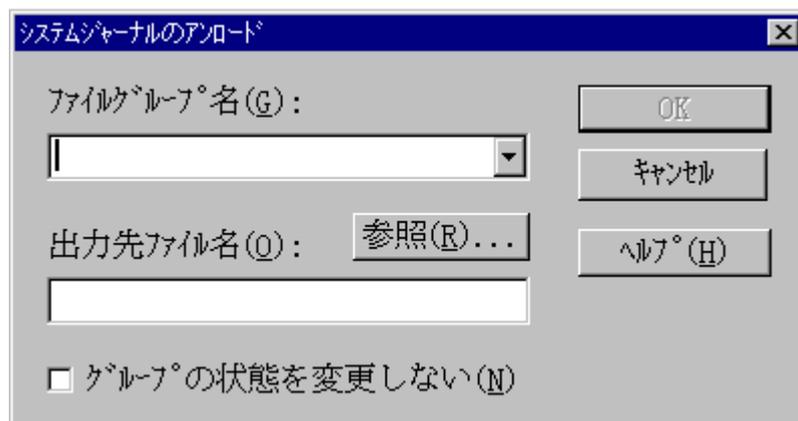
ダイアログのヘルプを表示します。

(15) 「システムジャーナルの情報」ダイアログ [High-end]

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

システムジャーナルファイルについての情報を表示します。



グループ名

ファイルグループ名を表示します。

種別

ファイル種別を表示します。

sys:システムジャーナルファイル

世代番号

世代番号 (16 進数) を表示します。

状態

状態の詳細は、それぞれの英字をクリックすると表示されます。

d e f g h i :ファイルグループステータス

d:ファイルグループのオープン状態

o:オープン中

c:クローズ中

e:ファイルグループの状態

c:現用

s:待機

n:予約

f:ファイルグループのアンロード状態

u:アンロード待ち

- : アンロード済み
- g: ファイルグループが上書きできるかできないかの状態
 - d: 上書きできません
 - : 上書きできます
- h: ファイルグループの Object Server での状態
 - b: [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ, xodjnlchg コマンドで使用中か, 又は回復処理で使用中の状態です。
 - : [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ, xodjnlchg コマンドで使用中でなく, かつ回復処理でも使用中でない状態です。
 - i: ファイルグループの不整合状態
 - c: 過去に現用として使われていたときに, 障害によって管理情報が現用のままとっている要素ファイルがあります。例えば現用中にジャーナルの出力障害が発生したファイルグループなどです。
 - : 過去に現用として使用され, 正しく処理されているファイルです。

ラン ID

ファイルが使用されたときのジャーナルサービスのラン ID (16 進数) を表示します。

先頭番号

先頭ブロック番号 (16 進数) を表示します。

最終番号

最終ブロック番号 (16 進数) を表示します。

要素ファイル名

要素ファイル名称を表示します。

要素状態

状態の詳細は, それぞれの英字をクリックすると表示されます。

- n o p q r : 要素ファイル状態
- n: 要素ファイルのオープン状態
 - o: オープン状態
 - c: クローズ状態
- o: 要素ファイルが使用できるかどうかの状態
 - n: 要素ファイルがオンラインで使用できる物理ファイルで構成されていません。
 - u: 要素ファイルがオンラインで使用できる物理ファイルで構成されています。
- p: 要素ファイルのアンロード状態
 - u: アンロード待ち (アンロードする必要があるジャーナルを含んでいます)
 - : アンロード済み
- q: 要素ファイルの閉塞状態
 - h: 閉塞中
 - : 閉塞中ではありません (正常な要素ファイル)
- r: 要素ファイルが読み込みできるかどうかの状態
 - r: 該当する要素ファイルを構成する物理ファイルが読み込みできない状態です (全面回復又は部分回復しようとしても, ジャーナルが消去 (初期化) されていて, 読み込みできません。システムジャーナルファイルの障害の要因を取り除いた後, 物理ファイルを再作成してオープンした場合, この状態になります。)

-: 該当する要素ファイルを構成する物理ファイルが読み込みできる状態です。

使用レコード数

該当するファイルでの使用済みレコード数 (16 進数) を表示します。

注※ 1 レコードとは、ジャーナルサーバで管理する Object Server ファイルシステム上の 4096 バイトのエリアのことです。

全レコード数

該当するファイルでの全レコード数 (16 進数) を表示します。

注※ 1 レコードとは、ジャーナルサーバで管理する Object Server ファイルシステム上の 4096 バイトのエリアのことです。

物理状態

物理状態の詳細は、それぞれの英字をクリックすると表示されます。

u v w x y : 物理ファイルステータス

u: 物理ファイルのオープン状態

o: オープン中 (ジャーナルサービスが該当する物理ファイルをオープンしています。)

c: クローズ中 (ジャーナルサービスが該当する物理ファイルをオープンしていません。)

v: 物理ファイルの状態

c: 現用

ファイルグループの状態が現用のとき:

実際にジャーナルの出力対象になっていることを示します。

ファイルグループの状態が現用でないとき:

過去に現用だったときに障害が発生し、回復されてないためにシステムステータス情報が残っている状態です。この場合は、次のどちらかの処理をしないと再利用できません。

- [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ又は xodjnlchg コマンドで状態を回復する。
- xodjnlinit コマンドで初期設定する。

s: 待機

w: 物理ファイルのアンロード状態

u: アンロード待ち (該当する物理ファイルに、アンロードする必要のあるジャーナルがあります。)

-: アンロード済み (該当する物理ファイルに、アンロードする必要のあるジャーナルはありません。)

x: 物理ファイルの閉塞状態

h: 閉塞中 (ジャーナルの出力、又はジャーナルファイルヘッダの入出力で障害が発生し、以降ジャーナルを出力していません。)

-: 閉塞中ではありません (ジャーナルを出力できます。)

y: 物理ファイルが読み込みできるかどうかの状態

r: 読み込みできない状態 (全面回復、部分回復しようとしても、ジャーナルが消去 (初期化) されていて、読み込みできません。システムジャーナルファイルの障害の要因を取り除いた後、物理ファイルを再作成してオープンした場合、この状態になります。)

-: 読み込みできる状態です。

[最新情報] ボタン

最新のシステムジャーナルの情報を表示します。

[閉じる]ボタン

[システムジャーナルの情報] ダイアログを閉じて、[システムの運用支援] ダイアログに戻ります。

[アンロード]ボタン

[システムジャーナルのアンロード] ダイアログを表示します。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

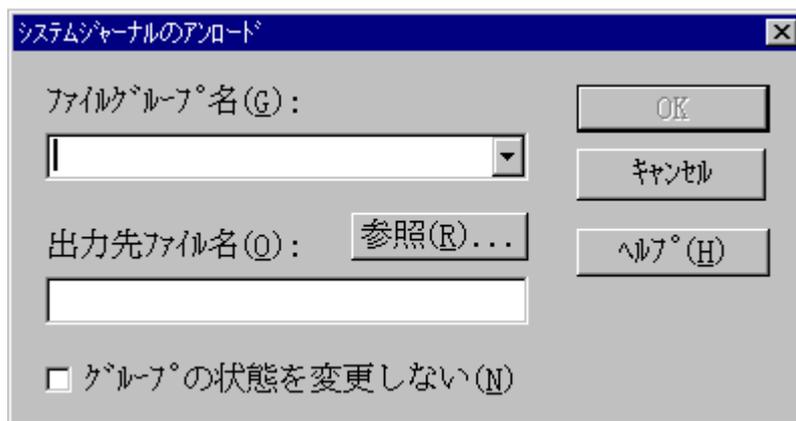
「システムジャーナルの情報を表示する」

(16) 「システムジャーナルのアンロード」ダイアログ [High-end]

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

システムジャーナルのアンロードをします。



ファイルグループ名

1～8 バイトの<識別子>。

アンロードするファイルグループ名を指定します。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

出力先ファイル名

1～63 バイトのドライブ名から始まるパス名(絶対パス名)

パス名にアスタリスク (*) や疑問符 (?) を含むことはできません。

システムジャーナルファイルをアンロードするための出力先ファイル名を指定します。

グループの状態を変更しない

ここをチェックするとファイルグループの状態を変更しません。(アンロード待ちの状態を継続します)。これにより同一世代に対して繰り返しアンロードすることができ、複数のアンロードファイルを作成できます。

[OK]ボタン

[システムジャーナルのアンロード] ユティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

[ユーザジャーナルのアンロード] ダイアログを閉じて、[システムジャーナルの情報] ダイアログに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

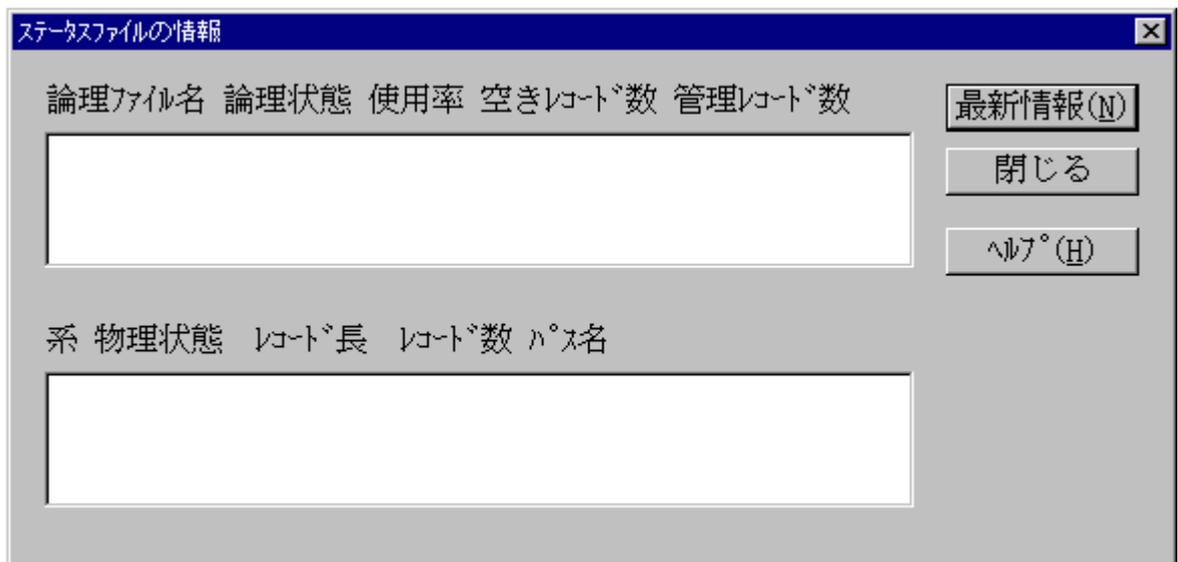
「ジャーナルファイルをアンロードする」

(17) 「ステータスファイルの情報」ダイアログ [High-end]

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

ステータスファイルの状態を表示します。

**論理ファイル名**

論理ファイル名を表示します。

論理状態

論理状態の詳細は以下の通りとなります。

bbbbbbb: 論理ファイル状態

ACTIVE: 現用ファイル

BLOCKADE: 障害閉塞ファイル

CLOSE: 予約ファイル (クローズファイル)

NONE: ファイル実体がない

STANDBY: 予備ファイル

使用率

ファイル内のレコード使用率 (3けたの%表示) を表示します。

空きレコード数

ファイル内の連続空きレコード数 (10進数) を表示します。

注※ 1レコードとは、ステータスサーバで管理する Object Server ファイルシステム上の 4608 バイトのエリアのことです。

管理レコード数

ファイル内管理レコード数 (10 進数) を表示します。

注※ 1レコードとは、ステータスサーバで管理する Object Server ファイルシステム上の 4608 バイトのエリアのことです。

系

物理ファイルの系の表示を表示します。

A : A 系

B : B 系

物理状態

物理状態の詳細は以下のとおりとなります。

gggggggg:物理ファイル状態

a:現用ファイル

b:障害閉塞ファイル

c:クローズファイル

i:初期設定状態

l:論理エラー

n:ファイル実体がない状態

o:オープンファイル

p:物理エラー

r:障害情報によるファイル状態回復

s:予備ファイル

u:使用済みファイル

レコード長

レコード長 (10 進数) を表示します。

注 1レコードとは、ステータスサーバで管理する Object Server ファイルシステム上の 4608 バイトのエリアのことです。

レコード数

レコード数 (10 進数) を表示します。

注 1レコードとは、ステータスサーバで管理する Object Server ファイルシステム上の 4608 バイトのエリアのことです。

パス名

物理ファイル名を表示します。

[最新情報]ボタン

最新のステータスファイルの情報を表示します。

[閉じる]ボタン

[ステータスファイルの情報] ダイアログを閉じて、[システムの運用支援] ダイアログに戻ります。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

「ステータスファイルの情報を表示する」

(18) 「ユーザジャーナルのアンロード」ダイアログ

ポインタの表示が、手の形に変わるところをクリックすると、ダイアログの説明が表示されます。

■機能

ユーザジャーナルのアンロードをします。



ファイル種別

アンロードするユーザジャーナルファイルの種別を指定します。システム共通定義で `ujfile` パラメタの `-n` オプションに指定した正常時用又は障害時用のファイルに対応します。正常時用ファイルの場合は「正常時用(N)」を、異常時用ファイルの場合は「異常時用(E)」を選択します。

アンロード先ファイル名

ユーザジャーナルファイルをアンロードするためのアンロード先ファイル名を指定します。

[OK]ボタン

「ユーザジャーナルのアンロード」ユーティリティを実行します。

[キャンセル]ボタン

「ユーザジャーナルのアンロード」ダイアログを閉じて、[システムの運用支援] ダイアログに戻ります。

[参照...]ボタン

[参照] ダイアログを表示します。

[ヘルプ]ボタン

ダイアログのヘルプを表示します。

■関連項目

「ユーザジャーナルをアンロードする」

付録I.5 用語解説

〔ア行〕

エリア

Object Server のディレクトリ、ディクショナリ及びユーザデータベースなどを格納する領域です。エリアは、一つ又は複数のファイルから構成されます。その名称などは初期設定パラメタ又は構成変更パラメタで定義します。

オブジェクト

Object Server で管理されるデータのことです。

オブジェクト管理ファイル

Object Server のデータである、オブジェクトを格納するファイルのことです。マニュアル中では、オブジェクト管理ファイルのことをデータベースとも呼んでいます。

〔カ行〕

簡易ジャーナル

データベースの整合性を保証するために、その時点でのデータベース更新情報を一時的に保存するファイルです。連携するプログラムに障害が起こったとき、Object Server は、簡易ジャーナルの情報によって、データベースを障害発生時の処理が開始される前の状態へと復旧します。

クライアント

データベースを利用する側を指します。Object Server では、Groupmax シリーズのクライアントプログラムが動作するパーソナルコンピュータを指します。

グローバルキャッシュ

Object Server のデータベースページの入出力用のバッファキャッシュです。グローバルキャッシュは、システム共通定義ファイルの gcache パラメタに定義します。

構成変更

いったん初期化した Object Server の、データベースの構成を変更することです。データベース構成変更ユーティリティを使って、エリアを追加するなどの構成変更ができます。

例えば、新たに Object Server と連携するプログラムを追加するときは、データベースの構成を変更する必要があります。

〔サ行〕

サーバ

データベースを提供する側を指します。Object Server が動作するサーバマシンのことです。

再編成

オブジェクトの追加、削除による、データベース中のオブジェクトの配置の乱れを修正して、オブジェクトを適切に配置し直すことです。データベースの再編成を実行すると、データベースのオブジェクトはいったんファイルにアンロードされてから、再びデータベースに登録されます。

システム共通定義

Object Server システムに共通する環境を決めるための情報です。システム共通定義は、システム共通定義ファイル「%XODCONFPATH%\%xodrc」に記述します。このファイルは、Object Server のシステム管理者が環境を設定するときに作成します。

システムジャーナル

[High-end]が取得する履歴情報です。次に示すような履歴情報を取得します。

- システムの全面回復・部分回復に必要な情報
- システムのトレース情報

システムジャーナルは、システムに障害が発生したときに、データベースを回復するために使用します。

システムディレクトリ

Object Server のプログラムを組み込むためのディレクトリです。Administrator は、プログラムを組み込む前にシステムディレクトリを決定してください。

初期設定パラメタ

Object Server のデータベースファイルを初期化するための情報です。初期設定パラメタの設定値は、初期設定パラメタファイル（名称は任意）に記述します。このファイルは、Object Server のシステム管理者がデータベースを初期化する前に作成します。

ステータスファイル

[High-end]で、システムの稼働状況や構成状況を格納するファイルです。ステータスファイルに格納される情報をシステムステータス情報といい、次のような情報が記録されます。

- システムの開始状態を自動的に決定するための情報
- システムの状態情報

システムステータス情報は、サーバの開始、終了、ファイルのオープン、クローズなど、状態が変化した時点で、最新の情報が格納されます。格納された情報は、システムに障害が発生した場合の回復に使用します。

セグメント

Object Server のデータベースファイルの初期割り当て及び増分の単位です。セグメントの大きさは、初期設定パラメタ「area -s」に、ページ数で指定します。

〔ハ行〕

ページ

Object Server での、データの入出力の単位です。1 ページは 8,192 バイトです。

〔ヤ行〕

ユーザジャーナル

アプリケーションプログラムの履歴情報を出力するファイルです。出力する情報の内容は、アプリケーションプログラムによって決まっています。Object Server では、正常時用ユーザジャーナル出力ファイル及び障害時用ユーザジャーナル出力ファイルを割り当てて使用します。

〔英字〕

Object Server のシステム管理者

Object Server を運用管理するユーザです。Object Server のシステム管理者が Object Server のコマンドを実行できます。Object Server のシステム管理者は、Windows NT の Administrators グループに所属するように設定してください。

OMS

Object Management Server。システムで使用される略語で、Object Server を指しています。

OMS 識別子

Object Server を識別する記号です。ログメッセージなどに出力されます。OMS 識別子は、システム共通定義の「system_id」で定義します。

付録I.6 メッセージ

(1) メッセージの見方

Object Server で出力されるメッセージの要因及び対処を、メッセージ番号ごとに参照できます。メッセージ一覧では、各メッセージは番号順に分類されていますので、参照するメッセージの分類をクリックしてください。

(2) メッセージの形式

出力されるメッセージは、メッセージ ID とそれに続くテキストから構成されます。メッセージの形式は次のとおりです。

XXXXnnnnn-Y メッセージテキスト

XXXX :

メッセージを出力したプログラムを表わします。

KFXO : Object Server

nnnnn :

メッセージの番号です。それぞれのメッセージに 5 けたの固有の番号がついています。

Y :

メッセージの種類を表わします。次にその意味を示します。

I : システムの動作を通知します。

W : 処理は続行しますが、障害が発生したので警告します。

E : 障害が発生したので、処理を中断します。

メッセージテキスト :

出力されるメッセージのテキストを示します。なお、メッセージテキストの「XX」や「YY」などの文字は、メッセージが出力される状況によって変わる値です。説明が必要なものについては、メッセージテキストの後ろにその内容を示します。

また、メッセージの説明に「システムコール」のエラー情報 (errno) が載っている場合があります。エラー情報 (errno) が載っている場合は、「errno のコード一覧」を参照してください。

(3) メッセージの出力先

Object Server に各種の障害が起こったときには、「KFXO」で始まるメッセージがイベントログのアプリケーションログに出力されます。このようなときには、まず OS のイベントビューアを使ってログメッセージを調査してください。

ただし、OS に障害が起こった場合には、Object Server が異常終了してもメッセージが出力されないことがあります。このようなときは、マニュアルを参照してください。

(4) 保守情報について

メッセージの説明中の「内部コード」は、プログラムの内部処理で使用する情報のため、ヘルプではその詳細を説明していません。システム管理者に連絡する必要がある場合は、表示されている保守情報も併せてご連絡ください。

(5) KFXO00000-KFXO09999

KFXO00100-E

XX システムコールでエラーが発生しました。リターン情報= YY エラーが発生した関数: ZZ

XX: 発行したシステムコール名(31 文字以内)

YY: システムコールのリターンコード(erno)

ZZ: エラーが発生した関数名(31 文字以内)

■要因

Object Server の関数内で発行したシステムコールでエラーが発生しました。

■対処

リターンコード (erno) を参照して原因を調査し、必要であればシステム定義を変更してください。コアファイルが出力されている場合は、そのダンプを保存し、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00101-W

共用メモリプールの使用量が XX%になりました。

XX: 共用メモリプール全体での使用中エリアの割合。けた数は 2 けたから 3 けた

■要因

共用メモリプールの使用量が 80%を超え、加えて未使用量が 2MB 以下になった場合に出力されます。Object Server の起動が完了すれば、動作上の問題はありますが、データベースへのエリアの追加など、共用メモリの使用量が変化する運行をする場合には注意してください。

■対処

システム共通定義の static_shmpool_size に指定した値を見直してください。定義値を変更するときは、Object Server を停止してください。システム管理者に連絡して今後の運用に影響しないか確認してください。

KFXO00102-W

共用メモリサブプールの使用量が XX%になりました。

XX: 共用メモリサブプール全体での使用中エリアの割合。けた数は 3 けた

■要因

共用メモリサブプールの使用量が 100%になった場合に出力されます。

■対処

システム共通定義の dynamic_shmpool_size の指定した値を見直してください。定義値を変更するときは、Object Server を停止してください。システム管理者に連絡して今後の運用に影響しないか確認してください。

KFXO00103-E

共用メモリプールが破壊されました。ロケーション=XX (YY, ZZ)

XX: 破壊されたセグメントの共用メモリプールの先頭からのロケーション (10 進数)

YY: 破壊されたセグメントの先頭 8 バイトの内容

ZZ: 破壊されたセグメントの末尾 8 バイトの内容

■要因

共用メモリプールの先頭からロケーションで示すバイト位置のセグメントが破壊されました。

■対処

共用メモリプールが破壊された原因を調査してください。ユーザプログラムに原因がない場合、このメッセージで表示されたロケーション及びセグメントの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、コアファイルが出力されている場合、そのコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00104-E

共用メモリサブプールが破壊されました。ロケーション=XX (YY, ZZ)

XX: 破壊されたメモリブロックの共用メモリサブプールの先頭からのロケーション (10 進数)

YY: 破壊されたメモリブロックの先頭 8 バイトの内容

ZZ: 破壊されたメモリブロックの末尾 8 バイトの内容

■要因

共用メモリサブプールの先頭からロケーションで示すバイト位置のメモリブロックが破壊されました。

■対処

共用メモリサブプールが破壊された原因を調査してください。ユーザプログラムに原因がない場合、このメッセージで表示されたロケーション及びメモリブロックの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、コアファイルが出力されている場合、そのコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00105-E

XX(SS) (pid=YY) killed by code = ZZ info[TT]

XX: アボートプロセスのサーバ名(8 文字以内、サーバ名が決定できない場合は"*****"を表示)

SS: XX が示すサーバのサービスグループ名(31 文字以内)

ダウンしたプロセスが関連プログラムの場合は、
プログラム名、実行ファイル名
と表示されます。

プログラム名が特定できない場合は、 "*****"
実行ファイル名が特定できない場合は、 "*****"
と表示されます。

YY: XX が示すサーバのプロセス ID

ZZ: アボートコード (異常停止要因コード)

TT: Object Server 内部コード

■要因

異常が発生したため Object Server のサービスを停止しました。

■対処

異常停止した原因を調査し、Object Server 又は Object Server を使用しているプログラムを再度起動してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイル及びアボートした

日時（年、月、日、時、分、秒）をファイル名とするファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、この二つのファイルも同時に保存してください。

1. メッセージに「code=p000406 info [PRCIHEL,call_hello2=-00306 あるいは-00307]」が表示されている場合
通信エラーが発生しており、Windows NT 組み込み先ディレクトリ下の¥SYSTEM32¥DRIVERS ¥ETC¥HOSTS 又は DNS のうちどちらかに設定誤りがあると考えられますので、正しい設定にしてください。
2. メッセージに「code=r902101 info [PRC ERROR=238]」が表示されている場合
TCP/IP 環境で DNS サーバを使用してホスト名解決している場合はホスト名解決が正常に行われているか、NSLOOKUP コマンドなどで確認してください。

KFXO00106-E

XX failed, pid = YY, type = ZZ

XX: "malloc(aa....aa)", "realloc(bb....bb, aa....aa)", 又は"calloc(cc....cc, aa....aa)"のどれかが表示されます。

aa....aa: Object Server 内部で発行した malloc, realloc 又は calloc 関数に指定したサイズ

bb....bb: Object Server 内部で発行した realloc 関数に指定した領域のアドレス

cc....cc: Object Server 内部で発行した calloc 関数に指定した配列の要素数

YY: malloc, realloc 又は calloc 関数を実行したプロセスのプロセス ID

ZZ: 種別コード(Object Server の各コンポーネントで設定した識別情報)

■要因

C 標準関数の malloc, realloc 又は calloc がエラーとなったため、プロセス固有領域を確保できませんでした。

■対処

システムを継続して運用できる場合は、そのまま処理を続行します。継続できない場合は Object Server を異常終了します。

次に示す対処方法のどれかを実施してください。

- システムが処理を続行中であれば、必要のないプロセスを停止させてください。
- システム定義を見直してください。
- システムのスワップ領域を追加してください。
- 主記憶装置を増設してください。

このメッセージが繰り返し出力される場合は、メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00107-E

XX (YY) failed. errno = ZZ

XX: システムコール名

YY: システムコールを呼び出したモジュール又は関数名

ZZ: システムコールエラー時の errno 値

■要因

Object Server 内部で発行したシステムコールでエラーが発生しました。

■対処

システムコール名と errno 値を基に原因を調査して、ユーザプログラムを修正、システム定義を変更又はシステムのメモリ容量を見直してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00108-I

時刻の取得に失敗したので xodtrace ファイルにトレース情報を出力します。

■要因

Object Server 内部で発行したシステムコール time() でエラーが発生したので、xodtrace という名称のファイルにトレース情報を出力します。

KFXO00109-E

トレースファイルをオープンできませんでした。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールエラー時の errno 値

■要因

Object Server 内部で発行したシステムコール open() でエラーが発生しました。

■対処

コアファイル及びログファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% ¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00110-E

トレースファイルの書き込みに失敗しました。エラー位置：XX エラーコード：XX

エラー位置：エラーが発生した write を特定する番号

エラーコード：システムコールエラー時の errno 値

■要因

Object Server 内部で発行したシステムコール write() でエラーが発生しました。

■対処

コアファイル及びログファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR% ¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00112-E

トレースファイルの書き込みに失敗しました。エラー位置：XX

エラー位置：エラーが発生した write を特定する番号

■要因

ファイルに書き込みをするとき、残っている領域、又は記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO00200-E

オプションの指定方法に誤りがあります。

■要因

指定できないオプションを指定しています。又はオプションの後に指定値がありません。

■対処

正しいオプションを指定してください。

KFXO00202-E

コマンド引数又はオプションの長さが許容範囲を超えています。

■要因

コマンド引数の合計長 (バイト) は、(256-コマンド引数の指定数) 以下にしてください。また、フラグ引数 (オプションで指定した引数) の合計長 (バイト) は、(256-フラグ引数の指定数) 以下にしてください。

■対処

複数のファイル名、エリア名等を指定できるオプションに指定した引数の長さの総和が上限を超えないように、指定するファイル名及びエリア名等の指定数を減らしてください。複数のファイル名、エリア名等を指定できるオプションのないコマンドの場合は、オプションに指定した引数の文字数を減らしてください。

KFXO00212-W

XX 用のバッファが確保できなかったためトレース情報は取得できません。PID=YY バッファサイズ=ZZ

XX: 12 文字以内で"MODULE TRACE"又は"UAP TRACE"

YY: バッファが確保できなかったプロセス ID

ZZ: 確保しようとしたバッファのサイズ

■要因

トレース情報を出力するバッファがプロセス固有領域に確保できませんでした。

■対処

システムスワップ領域を追加してください。

KFXO00215-E

定義ファイルをオープンできません。ファイル名: XX エラー番号=YY

XX: 定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY: システムコールのエラー番号(errno)。なお、エラー番号が 0 の場合は、パス名の記述に誤りがあります。

■要因

定義ファイルをオープンできませんでした。

■対処

障害を取り除いた後で、Object Server を再起動してください。

KFXO00216-E

変数の指定値に誤りがあります。ファイル名：XX YY 行目 ZZ

XX：定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY：エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

ZZ：変数名(先頭から 31 文字目までを出力)

■要因

定義ファイルに記述されている変数の指定値が誤っています。

■対処

エラーとなった変数名の指定値を訂正してください。

KFXO00217-E

コマンド名に誤りがあります。ファイル名：XX YY 行目 ZZ

XX：定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY：エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

ZZ：コマンド名(先頭から最大 9 文字目までを出力)

■要因

定義ファイルに記述されているコマンド名が解析できません。

■対処

エラーとなったコマンド名を訂正してください。

KFXO00218-E

オプション名に誤りがあります。ファイル名：XX YY 行目 ZZ

XX：定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY：エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

ZZ：オプション名(先頭から最大 3 文字目までを出力)

■要因

定義ファイルに記述されているオプション名に誤りがあります。

■対処

エラーとなったオプション名を訂正してください。

KFXO00219-E

コマンドの引数に誤りがあります。ファイル名：XX YY 行目 ZZ

XX：定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY：エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

ZZ：コマンド名(先頭から最大 9 文字目までを出力)

■要因

定義ファイルに記述されているコマンド名が解析できません。

■対処

エラーとなったコマンドの引数を訂正してください。

KFXO00220-E

オプションの引数に誤りがあります。ファイル名: XX YY 行目 ZZ

XX: 定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY: エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

ZZ: オプション名(先頭から最大 3 文字目までを出力)

■要因

定義ファイルに記述されているオプションの引数に誤りがあります。

■対処

エラーとなったオプションの引数を訂正してください。

KFXO00221-E

メモリが足りないため、定義ファイルの解析ができません。要求メモリ量=XX

要求メモリ量: エラーが発生したときの要求メモリ量(最大 10 けたまで出力)

■要因

定義ファイルの解析処理で、メモリ容量が不足しました。

■対処

次に示す対処方法のどれかを実施してください。

- システムが処理を続行中であれば、必要のないプロセスを停止させてください。
- システム定義を見直してください。
- システムのスワップ領域を追加してください。
- 主記憶装置を増設してください。

このメッセージが繰り返し出力される場合は、メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00223-E

オプションの指定が重複しています。ファイル名: XX YY 行目 ZZ

XX: 定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY: エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

ZZ: オプション名(先頭から最大 3 文字目まで出力)

■要因

オプションの指定が重複しています。

■対処

重複して指定しているオプションの、どちらか一方を削除してください。

KFXO00224-E

XX システムコール (関数) でエラーが発生しました。エラー情報=YY エラーの発生した関数名 (コマンド): ZZ

XX: 発行したシステムコール名又は Object Server の関数名

YY：システムコール又は関数のリターンコード

ZZ：エラーが発生した Object Server 関数名又はコマンド名

■要因

プログラム内で発行したシステムコール、又は Object Server の関数がエラーとなりました。

■対処

システムコールの場合は、リターンコード (errno) を参照して原因を調査し、システム定義を変更してください。

Object Server の関数の場合は、モジュールトレース又はコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00241-E

I/O エラーが発生しました。ファイル名：XX

ファイル名：最大 63 文字まで出力

■要因

定義情報を解析するために使用する定義ファイルの読み出しがエラーとなりました。

■対処

障害を取り除き、Object Server を再起動してください。障害を取り除けない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00242-E

定義ファイルをオープンできません。定義ファイル名：XX エラー番号= YY

XX：定義ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY：システムコールのエラー番号(errno)。なお、エラー番号が 0 の場合は、パス名の記述に誤りはありません。

■要因

次に示す要因のため、定義ファイルをオープンできません。

1. システム共通定義ファイル(%XODDIR%\\$conf\\$xodrc)がない
2. 環境変数(XODDIR 又は XODCONFPATH)に Object Server のシステム管理者のホームディレクトリのパス名が設定されていない
3. 環境変数(XODDIR)に設定したパス名が存在しない
4. システム共通定義ファイルに参照権限がない

■対処

エラー番号で示す障害を取り除いてください。パス名に誤りがある場合は、そのパス名又はファイル名を訂正してください。

ただし、エラー番号は、一つのコードで複数の要因を記述している場合があります。上記の要因の中から該当する要因を特定し、それぞれ対処してください(要因と対処の番号は対応しています)。

1. システム共通定義ファイルを作成してください。システム共通ファイルの作成については、「Object Server システム管理者ガイド」を参照してください。
2. [コントロールパネル] - [システム] の [環境] タブを選択した画面で、環境変数 (XODDIR 及び XODCONFPATH) が設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、環境変数を設定してください。

3. コマンドプロンプトでコマンド `cd %XODDIR%` を実行してください。その後、このコマンドの実行によって表示されたパス名を、Object Server のシステム管理者のホームディレクトリのパス名と一致させてください。
4. Object Server のシステム管理者のユーザ ID を使って、システム共通定義ファイルに参照権限を与えてください。

KFXO00243-E

このレコードは最大レコード長を超えています。ファイル名：XX YY 行目

XX：ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY：エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

■要因

定義情報レコード長が最大レコード長 (80 バイト) を超えています。

■対処

エラーとなった定義情報を 1 行 80 バイトに収まるよう訂正するか、又は継続行に分けて記述してください。

KFXO00244-E

変数名の指定に誤りがあります。ファイル名：XX YY 行目

XX：ファイル名(最大 63 文字まで出力)

YY：エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

■要因

指定された変数に次の誤りがあるため、解析できません。

- 変数名が記述されていません。
- 指定された変数名に誤りがあります。

■対処

変数名を正しく指定してください。又は定義ファイルと定義内容の関係が正しいか見直してください。

KFXO00246-E

XX の記述形式に誤りがあります。ファイル名：YY ZZ 行目

XX：エラーが発生した定義名(set, putenv など)

YY：ファイル名(最大 63 文字まで出力)

ZZ：エラーが発生した行(最大 5 けたまで出力)

■要因

定義名の記述形式に誤りがあります。

■対処

該当する定義情報を訂正してください。

KFXO00247-E

コマンド名に誤りがあります。 XX

XX：コマンド名(先頭から 9 文字目まで出力)

■要因

コマンド名に誤りがあります。

■対処

コマンド名を訂正してください。

KFXO00248-E

オプション名に誤りがあります。 XX

XX：コマンド名(先頭から 9 文字目まで出力)

■要因

オプション名に誤りがあります。

■対処

コマンドのオプション名を訂正してください。

KFXO00249-E

コマンドの引数に誤りがあります。 XX

XX：コマンド名(先頭から 9 文字目まで出力)

■要因

コマンドの引数に誤りがあります。

■対処

コマンドの引数を訂正してください。

KFXO00250-E

オプションの引数に誤りがあります。 XX

XX：オプション名(先頭から 3 文字目まで出力)

■要因

オプションの引数に誤りがあります。

■対処

コマンドのオプションの引数を訂正してください。

KFXO00251-E

オプションの指定が重複しています。 XX

XX：オプション名(先頭から 3 文字目まで出力)

■要因

オプションの指定が重複しています。

■対処

同じオプションが二つ以上指定されている場合は、どちらか一方を削除してください。

KFXO00306-E

RPC のためのメモリ不足が発生しました。自プロセス ID = XX 自プロセスのポート番号 = YY

■要因

RPCのために発行した socket() や send() などのシステムコールがメモリ不足によって異常終了しました。

■対処

次のように対処してください。

- ネットワークが正常に動作しているか確認してください。
- システムの電源を切り、再起動してください。
- このエラーが繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO00330-W

AA(pid=BB)で不当なデータを受信しました。ポート番号=CC 受信データ=DD

AA：プロセスのサーバ名（8バイト以内、特定できない場合は“*****”）

pid：プロセスのID

ポート番号：送信したプロセスのポート番号

受信データ：受信データを先頭から16進で12バイト分表示

例) 000000000000000000000000

■要因

不当なデータを受信しました。受信したデータを無視します。

■対処

通信設定ファイルでメッセージ内の「ポート番号」に示すポート番号を使用していないか確認してください。

使用している場合は、設定値を変更してください。

使用していない場合は、このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO00340-W

プロセス間通信処理中にメモリ不足が発生しました。PID=XX ポート番号=YY

PID：プロセスのID

ポート番号：自ポート番号

■要因

プロセス間通信のために発行した socket() や send() などのシステムコールで一時的にメモリ不足が発生しました。

■対処

メモリ不足が解消されるまで通信処理を再試行するため、一時的に応答時間が長くなります。

システムの使用状況を調査して、実メモリの見積もりを見直してください。

KFXO00403-E

排他サービスを開始できません。理由コード= XX

■要因

排他サービスの開始・再開処理中に障害が発生しました。

■対処

次に理由コードとその対処を示します。

理由コード	内容	対処
10	定義解析開始処理でエラーが発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
20	通信障害が発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
30	領域が不足しています	メモリ資源を取りすぎていないか確認してください。メモリ資源を取りすぎている場合は、不要な資源を解放してください
40	共用メモリが不足しています	システム共通定義の共用メモリプールサイズを見直してください
50	ステータスファイルのアクセスエラーが発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
60	デッドロック情報を出力するディレクトリがありません	%XODDIR%¥spool ¥dclckinf ディレクトリを作成してください

KFXO00412-E

排他サービスの終了中にエラーが発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

■要因

他サービスの終了中にエラーが発生しました。

■対処

次に理由コードとその対処を示します。これらの方法で対処した後に、再起動してください。

理由コード	内容	対処
10	通信障害が発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください

KFXO00420-E

排他サービス関係の定義解析中にエラーが発生しました。

■要因

排他サービス関係の定義情報を解析中にエラーが発生しました。

■対処

排他サービス関係の定義情報を見直してください。

KFXO00430-E

XX コマンドが実行できませんでした。理由コード=YY

XX：コマンド名

YY：障害の内容を示す理由コード(10桁以内の数字)

■要因

パラメタの指定誤り及び実行時のエラーによって、コマンドの実行ができなくなったため、処理を中断しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
10	通信障害発生	システムの起動が完了しているか、確認してください。又は、前に出力された障害メッセージに従って対策してください
30	領域不足発生	メモリ資源を取りすぎていないか、確認してください。メモリ資源を取りすぎた場合は、不要な資源を開放してください
40	バージョン不一致	Object Server を再インストールしてください
50	ネームサーバデーモン未起動	ネームサーバデーモンが起動されているか、見直してください

KFXO00440-I

デッドロックが発生しました。サーバ名：XX

■要因

排他処理でデッドロックが発生しました。

■対処

デッドロックが発生した処理を再実行してください。

KFXO00441-I

デッドロック情報を出力しました。ファイル名：XX

■要因

デッドロックを検出したため、デッドロック情報をファイルに出力しました。

■対処

出力されたデッドロック情報を調べ、必要があればデッドロックの原因を取り除いてください。調査の終了したデッドロック情報や調査の必要がないデッドロック情報は削除してください。

KFXO00442-E

デッドロック情報が出力できません。理由コード= XX

■要因

障害のため、デッドロック情報が出力できません。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
10	環境変数 XODDIR の値の取得に失敗しました	XODDIR の値が設定されているかどうか、見直してください
20	ファイルのオープンに失敗しました	%XODDIR%\\$pool ¥dclckinf ディレクトリがあるか、確認してください。 ファイルの数が多すぎないか、確認してください。ファイルの数が多すぎる場合は不要なファイルを削除してください
30	ファイルへの書き込みに失敗しました	ファイルの数が多すぎないか、確認してください。ファイルの数が多すぎる場合は不要なファイルを削除してください
40	時刻の取得に失敗しました	繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください
50	領域不足が発生しました	メモリ資源を取りすぎているか確認してください。メモリ資源を取りすぎている場合は、不要な資源を解放してください

KFXO00460-E

メモリ不足が発生しました。サイズ=XX バイト 領域種別：YY

サイズ：確保しようとしたサイズ

領域種別：

メモリ不足が発生した領域の種別

次のどれかが表示されます。

STATIC_SHMPOOL：静的共用メモリ領域

DYNAMIC_SHMPOOL：動的共用メモリ領域

PROCESS：プロセス領域

■要因

メモリ不足が発生しました。

■対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、該当する定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00480-W

排他資源管理プールの使用量が 80%になりました。

■要因

排他資源管理プールの使用量が 80%に達しました。

■対処

システム共通定義の lck_limit 指定値を見直してください。

KFXO00481-E

排他資源管理プールが不足しました。

■要因

排他資源管理プールがすべて使用中で、新たに確保できませんでした。

■対処

システム共通定義の lck_limit 指定値を見直してください。

KFXO00601-E

ネームサービス実行中に共用メモリが不足しました。不足した共用メモリ=XX 不足したサイズ=YY

■要因

ネームサービス実行中に共用メモリ容量が不足しました。

■対処

共用メモリ容量を見直して、定義変数の指定値を変更してください。

KFXO00606-E

定義変数(local_domain_name)に指定されたノード名 (XX) は未定義です。定義ファイル: SERVER

■要因

「ネットワークの設定」の TCP/IP プロトコルの「DNS の構成」にホスト名が設定されていません。

■処置

「ネットワークの設定」にホスト名を設定して Object Server を再起動してください。

KFXO00700-E

XX システムコールでエラーが発生しました。リターン情報=YY エラーが発生した関数名: ZZ

XX: システムコール名

YY: システムコールのリターンコード (errno)

ZZ: エラーが発生した関数名

■要因

システムコールでエラーが発生しました。

■対処

システムコールのリターンコードに示された障害を取り除いてください。

KFXO00701-E

ファイルシステムの異常のため処理が続行できません。

■要因

ファイルを操作するシステムコールが異常終了しました。

■対処

補助記憶装置に電源が入っているか確認してください。システムの電源を切って、再起動してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO00703-E

メモリ不足が発生しました。サイズ= XX バイト 領域種別：YY

サイズ：確保しようとした領域のサイズ

領域種別：

メモリ不足が発生した領域の種別

次のどちらかが表示されます。

STATIC_SHMPOOL：静的共用メモリ領域

PROCESS：プロセス領域

■要因

メモリ不足が発生しました。

■対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00705-E

定義ファイルの解析中にエラーを検出しました。

■要因

定義ファイルを解析中にエラーを検出しました。

■対処

定義ファイルを訂正し、Object Server を再起動してください。

KFXO00710-E

共用メモリを利用できないため処理が続行できません。

■要因

プロセスサーバデーモン又はコマンドで共用メモリを利用できません。

■対処

Object Server が動作している場合は Object Server を終了して電源を切り、システムを再起動してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO00712-E

システム障害のため処理が続行できません。

■要因

プログラム不良，又はハードウェア不良のため処理が続行できません。

■対処

ログファイル及びコアファイルを保存して，システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は，Object Server を再起動する前に，shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO00713-E

サーバ名 XX に対するロードモジュール YY がありません。

■要因

%XODDIR%\\$lib\\$servers の下にロードモジュールがありません。

■対処

%XODDIR%\\$lib\\$servers の下にロードモジュールがあるか確認して，システムを組み込み直してください。

KFXO00714-E

サーバ名 XX に対するロードモジュール YY が実行可能ファイルではありません。

■要因

%XODDIR%\\$lib\\$servers の下のロードモジュールは実行可能ファイルではありません。

■対処

%XODDIR%\\$lib\\$servers の下のロードモジュールに実行許可を与えてください。

KFXO00717-E

システムが 3 回連続ダウンしました。

■要因

Object Server を再開始する処理で，システムが 3 回連続ダウンしました。

■対処

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って対策してください。

KFXO00719-E

メッセージ出力障害が発生しました。出力しようとしたメッセージ ID は XX です。

■要因

メッセージ出力障害が発生しました。

■対処

このメッセージの前の障害対策，及び出力しようとしたメッセージに従って対処してください。

KFXO00760-E

ユーティリティが動作しているため，サーバ実行モードを変更できません。

■要因

ユーティリティが動作しているため、サーバ実行モードを変更できません。

■対処

動作中のユーティリティの終了後、再実行してください。

KFXO00761-E

サーバ実行モードは既に AP 実行モードです。

■要因

サーバ実行モードは既に AP 実行モードであるため、サーバ実行モードの変更は不要です。

KFXO00762-I

サーバ実行モードを AP 実行モードに変更しました。

■要因

サーバ実行モードを AP 実行モードに変更しました。

KFXO00803-E

スケジューラを開始できません。理由コード=XX

■要因

スケジューラの正常開始・再開始処理中に障害が発生しました。

■対処

次に理由コードとその対処を示します。

理由コード	内容	対処
1	共用メモリを確保出来ません	定義で指定したメモリサイズを見直してください
2	定義情報を解析中にエラーが発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
3	閉塞（へいそく）用ファイルのアクセスに失敗しました	不要なファイルを削除してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください
4	ステータスファイルのアクセスに失敗しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
5	通信障害が発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
6	キュー情報ファイルのアクセスに失敗しました	不要なファイルを削除してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください

KFXO00855-E

メモリ不足が発生しました。サイズ=XX バイト 領域種別：YY

サイズ：確保しようとしたサイズ

領域種別：

メモリ不足が発生した領域の種別

次のどれかが表示されます。

STATIC_SHMPOOL：静的共用メモリ領域

DYNAMIC_SHMPOOL：動的共用メモリ領域

PROCESS：プロセス領域

■要因

領域の確保ができませんでした。

■対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00955-E

トランザクションサービスを開始できません。理由コード=XX

■要因

トランザクションサービスを開始できません。

■対処

次に理由コードとその対処を示します。

理由コード	内容	対処
0001	プロセスメモリが不足しました	プロセス数を少なくしてください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください
0100	共用メモリが不足しました	共用メモリを見積もり直し、適切な値に変更してください
0200	定義解析開始処理でエラーが発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
0201	トランザクションサービス定義の解析に失敗しました	トランザクションサービス定義を見直してください
0300	通信障害が発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
0600	ネームサービスへのサービス情報の登録に失敗しました	—
1800	回復プロセスの起動に失敗しました	—
1801	システムマネージャにサーバ完了報告時エラーが発生しました	—

KFXO00956-E

トランザクションサービスを終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

■要因

トランザクションサービスを終了中に障害が発生しました。

■対処

次に理由コードとその対処を示します。

理由コード	内容	対処
0001	プロセスメモリが不足しました	プロセス数を少なくしてから、再度 Object Server を起動してください。それでも多発する場合は、システム管理者に連絡してください
0300	通信障害が発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
0601	ネームサービスへのサービス情報の削除に失敗しました	—
1802	回復プロセスの終了に失敗しました	—

KFXO00958-I

システム終了中のため、新たなトランザクションの受付は中止します。

■要因

システムに計画停止、終了指示がされたため、新たなトランザクションの受け付けを中止します。トランザクションサービスは終了処理に備えます。

KFXO00961-E

トランザクション回復サービスを開始できません。理由コード= XX

■要因

トランザクション回復サービスの開始中に、理由コードに示すエラーが発生しました。トランザクション回復サービスを開始できません。

■対処

以下に理由コードとその対処を示します。対処してから、Object Server を再起動してください。

理由コード	内容	対処
0200	定義解析開始処理でエラーが発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
0300	通信障害が発生しました	—
0800	回復プロセスのスケジュールサービスの登録に失敗しました	—

理由コード	内容	対処
1801	システムマネージャへのサービス完了報告時にエラーが発生しました	—

KFXO00962-E

トランザクション回復サービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

■要因

トランザクション回復サービスの終了中に障害が発生しました。

■対処

次に理由コードとその対処を示します。

理由コード	内容	対処
0300	通信障害が発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください

KFXO00965-E

メモリ不足が発生しました。サイズ=XX バイト 領域種別=YY

XX：確保しようとしたサイズ

YY：メモリ不足が発生した領域の種別

次のどれかが表示されます。

STATIC_SHMPOOL：静的共用メモリ領域

DYNAMIC_SHMPOOL：動的共用メモリ領域

PROCESS：プロセス領域

■要因

領域を確保できませんでした。

■対処

次のように対処してください。

- 確保しようとした領域が共用メモリの場合は、該当する定義の指定値を見直してください。
- プロセス領域の場合は、プロセス数などを見直してください。
- 繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO00990-I

トランザクションの回復が完了しました。ルートノード名=WW トランザクション通番=XX，サーバ名=YY，完了種別=ZZ

WW：ルートの Object Server システムノード ID

XX：トランザクション通番

YY：サーバ名

ZZ：完了種別

c：コミット

r：ロールバック

■要因

トランザクションの回復が完了しました。

KFXO00991-W

トランザクションの回復ができません。ルートノード名=WW トランザクション通番=XX, サーバ名=YY, 決着種別=ZZ

WW：ルートの Object Server システムノード ID

XX：トランザクション通番

YY：サーバ名

ZZ：決着種別

c：コミット

r：ロールバック

■要因

トランザクションの回復ができません。

■対処

リソースマネージャで発生した障害(このメッセージの前に出力されたメッセージ)を取り除いてください。

KFXO01001-I

現用ステータス論理ファイルを XX に決定し、ステータスサービスを開始しました。

XX：現用ステータス論理ファイル名

■要因

ステータスサービスの開始処理を始めました。

KFXO01005-E

ステータスサービスを開始できません。理由コード：XX

XX：エラー内容を示す理由コード

■要因

ステータスサービス開始で理由コードによるエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策し、再度 Object Server を起動してください。

理由コード	内容	対処
0000000001	定義環境エラー	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000003	ステータスサービス定義エラー	ステータスサービス定義を見直してください
0000000004	現用ステータスファイルがありません	現用ステータスファイルを準備してください
0000000005	メモリ不足発生 (テーブル確保時)	プロセス数を減らしてください

理由コード	内容	対処
0000000006	メモリ不足発生 (テーブル確保時)	プロセス数を減らしてください
0000000007	ステータスファイル障害発生	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000008	ステータスファイル管理レコードバッファ常駐化エラー発生	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000009	スワップ処理エラー発生	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000010	ステータスファイル障害発生	ステータスファイル障害を取り除いてください
0000000011	ステータスファイル現用決定時刻取得エラー発生	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000012	プロセス間通信環境設定エラー発生	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000013	プロセス間通信に失敗しました	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000014	定義環境情報取得エラー	以前に出力されたエラーメッセージに従ってください
0000000015	現用ステータスファイルと、論理ファイル名が一致しません	sts_last_active_file 文に前回の Object Server までの最新の現用ステータス論理ファイル名を指定してください。 sts_lats_active_file 文に現用ステータス論理ファイル名が正しく指定してあった場合、再開できません。その場合は、全ステータスファイルを初期化(xodstsinit コマンドを使用)し、再度 Object Server を起動してください
0000000016	前回の Object Server までの最新の現用ステータスファイルが確定できません	sts_last_active_file 文に前回の Object Server までの最新の現用ステータス論理ファイル名を指定してください

KFXO01006-E

ステータスサービス定義の XX 文に指定誤りがあります。理由コード：YY

XX：ステータスサービス定義文

YY：エラーの内容を示す理由コード

■要因

ステータスサービス定義の解析中にエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策し、再度 Object Server を起動してください。

理由コード	内容	対処
0000000001	定義の内容が重複しています	ステータスサービス定義を見直してください
0000000002	定義文誤り	ステータスサービス定義を見直してください
0000000003	定義文指定値エラー	ステータスサービス定義を見直してください
0000000004	定義文指定文字数不正	ステータスサービス定義を見直してください
0000000005	定義に指定したファイル名がありません	ステータスサービス定義を見直してください
0000000006	定義の組み合わせで指定できない定義文があります	ステータスサービス定義を見直してください

KFXO01008-I

予備ステータスファイルとして使用できないファイルがあります。ファイル名：XX 理由コード：YY

XX：ステータスファイルのパス名，又はステータス論理ファイル名

YY：エラーの内容を示す理由コード

■要因

予備ステータスファイルとして使用できないファイルがあります。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
0000000001	現用ステータスファイルとレコード長が不一致	現用ステータスファイルのレコード長に合わせてください
0000000002	A系とB系ファイルのレコード数の不一致	A系とB系ファイルのレコード数をおなじにしてください
0000000003	A系とB系ファイルのレコード長の不一致	A系とB系ファイルのレコード長をおなじにしてください

KFXO01010-E

最新の情報を持つステータスファイルでエラーが発生しました。ステータス物理ファイル名：XX 理由コード：YY

XX：ステータス物理ファイル名

YY：エラーの内容を示す理由コード

■要因

最新の情報を持つステータスファイルでエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって以下の動作をします。A系、B系両方共障害が発生した場合は、開始処理を中止します。

理由コード	内容	対処
0000000001	A系とB系ファイルのレコード数または、レコード長の不一致	A系とB系ファイルのレコード数、又はレコード長を同じにして xodstsinit コマンドで初期設定してください
0000000002	A系とB系ファイルのレコード数または、レコード長の不一致、かつ異常検知	A系とB系ファイルのレコード数、又はレコード長を同じにして xodstsinit コマンドで初期設定してください
0000000003	A系とB系ファイルのレコード更新番号の不一致	B系ファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
0000000004	A系とB系ファイルのレコード更新不正検知	A系とB系ファイルをコマンドで初期設定してください
0000000005	レコード入力エラー発生	KFXO01040-E メッセージに従ってください
0000000006	ファイル更新未完了を検知しました	対策する必要はありません。ただし、A系とB系共に障害となった場合、xodstsinit コマンドで障害ファイルを初期設定してください

KFXO01040-E

ステータス物理ファイルで XX エラーが発生しました。ステータス物理ファイル名：YY 理由コード：ZZ

XX：エラー内容

- create：ファイルの作成
- fstat：ファイルの状態報告
- open：ファイルの open
- close：ファイルの close
- read：レコードの入力
- write：レコードの出力
- logicali：レコード整合性
- filecheck：レコード妥当性
- delete：ファイルの削除
- clsdel：ファイルのクローズ後削除

YY：ステータス物理ファイル名

ZZ：エラーの内容を示す理由コード

■要因

ステータス物理ファイルでエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
000000001	ステータスレコードの整合性番号不一致	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000003	ステータスファイルの更新未完了状態	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください。又は Object Server を起動してください
000000005	ステータスファイル管理レコード(SMR)内バイトマップ不正	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000006	このファイルはステータスファイルとして未定義	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000007	障害ファイル初期化エラー	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000008	定義したファイルとファイル実体の不一致(レコード長, レコード数)	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000009	ステータスファイル管理レコード(STR)内データプロトコルバージョン不正	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000010	ステータスファイル管理レコード(STR)内タイムスタンプ不正	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000011	ステータスファイル管理レコード(SHR)内ファイル状態情報不正	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
000000020	ファイルのアクセス権限がありません。又は、他のユーザにより暗号化されています	ステータスファイルのアクセス権限を付加してください。又は、暗号化の指定を外してください
000000022	排他エラー	ステータスファイルの排他解除後、再実行してください
000000023	ロックセグメント不足	ファイルシステムの環境を見直してください
000000024	ファイルの書き込み権限がありません	ステータスファイルの書き込み権限を付加してください

理由コード	内容	対処
0000000025	ファイル数, 上限値オーバー	ファイルシステムの環境を見直してください
0000000026	ステータスファイル用に未初期化	ファイルシステムを初期化してください
0000000027	I/O エラー	このファイルを xodstsinit コマンドで初期設定してください
0000000028	メモリ不足	プロセスの動作できるメモリを確保してください
0000000029	ファイルがありません	xodstsinit コマンドで初期設定してください。又はステータスサービス定義を見直してください
0000000031	ファイル名不正	コマンドの引数に指定したステータスファイル名, 又はステータスサービス定義を見直してください
0000000037	ファイルがありません	xodstsinit コマンドで初期設定してください。又はステータスサービス定義を見直してください
0000000038	領域を確保できません	ファイルシステムの環境を見直してください
0000000039	ファイルシステムバージョン不一致	ファイルシステムの環境を見直してください
上記以外	予期せぬエラーが発生しました	システム管理者に連絡してください

KFXO01041-I

ステータスサービスは、エラーが発生したファイルを close 後、閉塞状態にします。エラーが発生したファイルを xodstsrn コマンドで削除した後、xodstsinit コマンドと xodstsopn コマンドを使用して、予備ステータスファイルにしてください。

■要因

ステータスサービスで、エラーが発生しました。

■対処

このメッセージに従ってください。

KFXO01042-E

ステータス論理ファイルで容量不足エラーが発生しました。ステータス論理ファイル名：XX

XX：ステータス論理ファイル名

■要因

ステータス論理ファイル容量不足エラーが発生しました。

■対処

ステータスファイル容量を見直してください。

KFXO01043-I

ステータス論理ファイルでフラグメンテーションが発生しました。ステータス論理ファイル名：XX

XX：ステータス論理ファイル名

■要因

ステータス論理ファイルでフラグメンテーションが発生しました。

■対処

ステータスファイル容量を見直してください。

KFXO01050-E

プロセス間通信エラーが発生しました。

■要因

イーサネットボードやケーブルなどのハードウェア障害、ネットワーク定義の設定誤り。目的ノードが実行中ではありません。又はそのノードで Object Server が実行中ではありません。目的プロセスが実行中ではありません。

■対処

Object Server 動作環境を OS の提供するコマンドなどで調査して障害要因を取り除いた後、再度ステータスサービスにサービス要求をしてください。

KFXO01060-I

ステータスファイルの XX をオープンしました。

XX：ステータスファイルのパス名、又はステータス論理ファイル名

■要因

ステータスファイルのオープンを完了しました。

KFXO01061-I

ステータスファイルの XX をクローズしました。

XX：ステータスファイルのパス名、又はステータス論理ファイル名

■要因

ステータスファイルのクローズを完了しました。

KFXO01062-I

ステータスファイルの swap を開始しました。

■要因

ステータスファイルの swap を開始しました。

KFXO01063-I

ステータスファイルの swap を完了しました。現用ステータス論理ファイル名：XX

XX：現用ステータス論理ファイル名

■要因

ステータスファイルの swap を完了しました。

KFXO01064-E

ステータスファイルのスワップ処理でエラーが発生しました。理由コード：XX

XX：理由コード

■要因

ステータスファイルのスワップ処理でエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
0000000001	予備ステータスファイルがありません	ステータスファイルを準備し、再度 Object Server を起動してください
0000000002	スワップ用作業領域確保エラー	プロセス数を見直してください
0000000003	予備ステータスファイル用入出力バッファ確保エラー	プロセス数を見直してください
0000000004	スワップ処理ができる予備ステータスファイルがありません	ステータスファイルを準備してください
0000000005	現用 B 系ステータスファイルの管理レコードバッファリングエラー	ステータスファイルの障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください
0000000006	レコード入出力エラー	ステータスファイルの障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください
0000000007	タイムスタンプ取得エラー	システム管理者に連絡してください。障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください
0000000008	現用ファイルがありません	システム管理者に連絡してください。障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください
0000000009	現用ファイルの状態エラー	システム管理者に連絡してください。障害を取り除き、再度 Object Server を起動してください

KFXO01070-E

XX コマンド処理でエラーが発生しました。理由コード：YY

XX：コマンド名

YY：理由コード

■要因

コマンドでエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。以前に出力されたメッセージも調査してください。障害を取り除いた後、再度コマンドを入力してください。

理由コード	内容	対処
000000001	ステータスファイル管理レコード(STR)情報不正	コマンドに指定した引数を見直してください
000000002	ステータスファイル管理レコード(SHR)情報不正	コマンドに指定した引数を見直してください
000000003	現用ファイルとレコード長が異なります。又は A 系と B 系のファイル容量が異なります	xodstsls コマンドでステータスファイルのレコード長、レコード数を調査し、xodstsinic コマンドで初期設定してください
000000004	ファイルの状態がコマンドを入力できる状態ではありません	xodstsls コマンドでステータスファイルのレコード長、レコード数を調査し、ファイル状態を正しく設定してから再度コマンドを実行してください
000000005	基本ファイルシステムエラー	他のエラーメッセージに従って対策してください
000000006	ステータスサービス定義に定義されていないファイル名を指定しました	コマンドで指定した引数を見直してください
000000007	プロセス間通信エラー	Object Server 動作環境を OS の提供するコマンドなどで調査して障害要因を取り除いてください
000000008	スワップ先予備ファイルなし	予備ステータスファイルを準備してください
000000009	スワップ処理エラー	ステータスファイルを準備して、再度 Object Server を起動してください
000000010	システムコールエラー	障害を取り除き、再度コマンドを実行してください
000000011	ファイル使用中(open), 又は他のコマンドが実行中	ステータスファイルをクローズしてください。又は他のコ

理由コード	内容	対処
0000000011	ファイル使用中(open), 又は他のコマンドが実行中	マンドを終了を待ってください
0000000012	システム定義解析エラー	システム定義を見直してください
0000000013	プロセス間通信初期化エラー(xo_brpc_open, xo_bprc_close)	障害を取り除き, 再度コマンドを実行してください
0000000014	コマンドが受付状態ではありません	Object Server 起動中に再度コマンドを実行してください
0000000015	RPC 電文内データ長不正	システム管理者に連絡してください
0000000016	現用ファイルを指定しました	xodstsls コマンドでファイル状態を調査し, コマンドに指定した引数を見直してください。又はステータスファイルをスワップし, 再度コマンドを実行してください
0000000017	指定ファイルの状態は変更済みです	xodstsls コマンドでファイル状態を確認してください
0000000018	ファイルチェックで異常を検出しました	エラーが発生したファイルを xodstsininit コマンドで初期設定してください
0000000043	オンライン中のためステータスファイルを削除できません	オフラインで再度コマンドを実行してください

KFXO01091-E

メモリ不足が発生しました。

■要因

ステータスサービスのプロセスでメモリ不足が発生しました。

■対処

プロセス数を減らしてください。

KFXO01099-E

XX 関数でエラーが発生しました。エラーコード= YY OMS 関数をコールした関数名: ZZ

XX: 関数名

YY: Object Server 関数の内部リターンコード

ZZ: Object server 関数を発行した関数名

■要因

Object Server 関数でエラーが発生しました。

■対処

前後に出力された, メッセージによって原因を調査してください。

KFXO01101-I

ジャーナルサービスを回復中です。ラン ID=XX

■要因

ジャーナルサービスを回復中です。

KFXO01103-E

ジャーナルサービスを開始できません。理由コード=XX

XX：障害の内容を示す理由コード

■要因

ジャーナルサービスの開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください
405	定義解析エラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
504	サービスプロセス起動中にエラーが発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
508	チェックポイントダンプサービスプロセス起動中にエラーが発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください

KFXO01104-W

前回のジャーナルサービス状態をステータスファイルから回復できません。ステータスファイルなしで再開を続行します。理由コード=XX

XX：障害の内容を示すコード

■要因

前回のジャーナルサービス状態をステータスファイルから回復できません。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
502	前回のオンライン状態がステータスファイル中がない	前回立ち上げ時のステータスファイルの書き込みに失敗しています。再開不成功の場合

理由コード	内容	対処
502	前回のオンライン状態がステータスファイル中がない	合は、Object Server を再度立ち上げ直してください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください

KFXO01108-W

ジャーナルサービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

XX：障害の内容を示す理由コード

■要因

ジャーナルサービスを終了中に障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください

KFXO01109-W

ジャーナルサービス関係の定義解析中に軽度エラーが発生しました。解析中ファイル名：XX，レコード番号=YY，理由コード=ZZ

XX：解析中の定義ファイル名

YY：エラーのあったレコード番号(10 けた以内の数字)

ZZ：障害の内容をしめす理由コード(4 けた以内の数字)

■要因

ジャーナルサービス関係の定義解析中にエラーが発生しました。

■対処

必要があればシステムを停止し、理由コードによって対策した後、システムを再度立ち上げてください。

理由コード	内容	対処
408	jnladdfg 定義コマンドに誤りがあります	-g オプションが未指定の場合は、指定してください。ファイルグループ名が他と重複していないか確認してください

理由コード	内容	対処
409	jnladdpf 定義コマンドの-g オプション指定に誤りがあります	-g オプションが未指定の場合は、指定してください
411	jnladdpf 定義コマンドに-a オプション指定に誤りがあります	-a オプションが未指定の場合は、指定してください
413	jnladdfg 定義数が最大値を超えました	定義数を減らしてください
415	同一ファイルグループ名の jnladdpf 定義コマンドが二つ以上あります	定義を修正してください

KFXO01113-E

XX ジャーナルファイルサービスを開始できません。理由コード=YY

XX：ジャーナルファイルサービス種別(sys 固定)

YY：障害の内容をしめす理由コード

■要因

ジャーナルサービスの開始、再開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策した後、再度起動してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください
405	定義解析エラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
414	有効なジャーナルファイルグループの数が、最小世代数に達していません	ONL 指定された jnladdfg 定義を修正してください
416	jnladdpf 定義コマンドが定義されていないファイルグループがあります	定義を修正してください
503	ステータスファイルの入出力処理でエラー発生	原因を調査し、障害を回復後、再起動してください
504	ジャーナル I/O サービスプロセスの起動中にエラー発生	原因を調査し、障害を回復後、再起動してください

理由コード	内容	対処
510	ジャーナルファイルのチェック処理でエラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
513	サーバリカバリジャーナルサービスの起動中にエラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください

KFXO01114-W

XX ジャーナルファイルサービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=YY

XX：ジャーナルファイルサービス種別(sys 固定)

YY：障害の内容をしめす理由コード

■要因

ジャーナルファイルサービスの終了中に障害が発生しました。

■対処

必要があれば、理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	次回立ち上げに備えて、エラー原因を調査し、対策してください
511	ジャーナルファイル終了処理でエラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください

KFXO01115-E

XX ジャーナルファイルの I/O サービスを開始できません。理由コード=YY

XX：ジャーナルファイルサービス種別(sys 固定)

YY：障害の内容を示す理由コード

■要因

ジャーナルファイル I/O サービス開始中にエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください

理由コード	内容	対処
103	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください
405	定義解析エラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	原因を調査し障害を回復後、システムを再度起動してください

KFXO01116-W

XX ジャーナルファイルの I/O サービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=YY

XX：ジャーナルファイルサービス種別(sys 固定)

YY：障害の内容を示す理由コード

■要因

ジャーナルファイル I/O サービス開始中にエラーが発生しました。

■対処

必要があれば、理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	次回立ち上げに備えて、原因を調査し、対策してください

KFXO01119-E

ジャーナルのコマンドサービスを開始できません。理由コード=XX

XX：障害の内容を示す理由コード

■要因

ジャーナルのコマンドサービス開始中にエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください

理由コード	内容	対処
103	ネットワーク障害が発生しました	OSの提供するコマンドでノードの接続状態及びObject Serverの提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください
405	定義解析エラー発生	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	原因を調査し障害を回復後、システムを再度起動してください

KFXO01120-W

ジャーナルのコマンドサービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード=XX

XX：障害の内容を示す理由コード

■要因

ジャーナルのコマンドサービスの終了中にエラーが発生しました。

■対処

必要があれば、理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	OSの提供するコマンドでノードの接続状態及びObject Serverの提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください
503	ステータスファイルで入出力エラー発生	次回立ち上げに備えて、原因を調査、対策してください

KFXO01121-E

メモリ不足が発生しました。サイズ=XX，領域種別：YY

XX：確保しようとしたサイズ

YY：メモリ不足の発生した領域の種別

STATIC_SHMPOOL：静的共用メモリ領域

■要因

メモリ不足が発生しました。

■対処

システム定義を見直して再度立ち上げ直してください。

KFXO01125-E

サーバ：AA(BB)はジャーナルサービスを使用できません。理由コード=CC-DD

AA：サーバ名

BB：Object Server 内部コード

CC：障害の内容を示す理由コード

DD：Object Server 内部コード

■要因

ジャーナルサービスでエラーが発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
905	ステータスファイルでアクセスエラー発生	エラー原因を調査、対策してください

KFXO01180-E

ジャーナル読み込み時、ブロック抜けを検出しました。前入力位置：AA, BB, 現入力位置：CC, DD

AA：ブロック抜けの直後に読み込んだジャーナルファイルグループ名（読み込んだジャーナルブロックが存在しない場合*****を表示します）

BB：ブロック抜けの直後に読み込んだジャーナルブロック番号（読み込んだジャーナルブロックが存在しない場合*****を表示します）

CC：現在読み込んだジャーナルファイルグループ名

DD：現在読み込んだジャーナルブロック番号（16進形式）

■要因

ジャーナル読み込み時、ブロック抜けを検出しました。

■対処

KFXO01181-E, KFXO01183-E, KFXO01184-E のメッセージが出力されている場合は、このメッセージのプログラムの処置に従ってください。原因が不明の場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO01181-E

ジャーナル読み込み時、リード障害が発生しました。入力位置：AA, BB, 理由コード=CC-DD

AA：ファイルグループ名

BB：ジャーナルブロック番号（16進形式）

CC：理由コード

209：入力中のファイルグループで、入出力エラーが発生しました

213：入力中のファイルグループに、未オープン状態のファイルがあります

214：入力中のファイルグループに、閉塞中のファイルがあります

215：入力中のファイルグループに、読み込み不可状態のファイルがあります

DD：Object Server 内部コード

■要因

ジャーナル読み込み時、リード障害が発生しました。

■対処

このメッセージの理由コード、又は FXO01203-E メッセージが出力されている場合は、このメッセージのプログラムの処置に従って対策してください。

KFXO01182-I

ジャーナルブロックを読み込む世代を切り替えます。切り替え元：AA, BB, 切り替え先：CC, DD

AA：切り替え元のファイルグループ名

BB：切り替え元の世代番号（16 進形式）

CC：切り替え先のファイルグループ名

DD：切り替え先の世代番号（16 進形式）

■要因

ジャーナルブロックを読み込む世代を切り替えます。

KFXO01183-E

ジャーナルブロックを読み込み時、世代抜けを検出しました。入力範囲：AA, BB~CC, DD, 世代抜け範囲：EE~FF

AA：ジャーナルブロックを読み込む、先頭のファイルグループ名

BB：ジャーナルブロックを読み込む、先頭のジャーナル世代番号（16 進形式）

CC：ジャーナルブロックを読み込む、最終のファイルグループ名

DD：ジャーナルブロックを読み込む、最終のジャーナル世代番号（16 進形式）

EE：世代の抜けた先頭世代番号（16 進形式）

FF：世代の抜けた最終世代番号（16 進形式）

■要因

ジャーナルブロックを読み込むとき、世代抜けを検出しました。

■対処

KFXO01240-E メッセージを基に原因を調査してください。

KFXO01184-E

ジャーナル読み込み時、不正なジャーナルデータを検出しました。入力位置：XX, YY

XX：不正なジャーナルデータを検出したジャーナルファイルグループ名

YY：読み込もうとしたジャーナルブロック番号（16 進形式）

■要因

ジャーナル読み込み時、不正なジャーナルデータを検出しました。

■対処

ジャーナルファイルが破壊された可能性があります。このジャーナルファイルの運用を中止し、ジャーナルファイルを再作成してください。

KFXO01200-E

ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。要素ファイル名：AA，理由コード=BB-CC，DD-EE

AA：要素ファイル名

BB：a系理由コード

CC：a系 Object Server 内部コード

DD：b系理由コード

EE：b系 Object Server 内部コード

■要因

ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。

■対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
202	対応するファイルがありません	システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください
203	path 指定ファイル初期化不正	システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください
209	I/O エラー発生	他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。同じ現象が繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください
210	ファイルシステムのバージョン不一致	システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください
211	指定ファイルアクセス権限なし。又は、指定ファイルは他のユーザにより暗号化されています	アクセス権限を与えてください。又は、暗号化の指定を外してください
212	指定ファイルなし	システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください
218	指定ファイルは、ジャーナルファイルとして使用できない	再度ファイルを作成してください

理由コード	内容	対処
219	指定ファイルは、ジャーナルファイルとして使用できない	再度ファイルを作成してください
220	指定ファイルは、ジャーナルファイルではない	システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください
221	ロックセグメント不足発生	OS のシステム構築時に、指定したレコードロックセグメント数を見直してください
222	該当する要素ファイルは、他のプロセスで使用	要素ファイル、又は要素ファイルが存在するファイルグループの運用状態を確認してください

KFXO01201-E

ジャーナル要素ファイルのクローズに失敗しました。要素ファイル名：AA，理由コード=BB-CC，DD-EE

AA：要素ファイル名

BB：a系理由コード

CC：a系 Object Server 内部コード

DD：b系理由コード

EE：b系 Object Server 内部コード

■要因

ジャーナル要素ファイルのクローズに失敗しました。

■対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
209	I/O エラー発生	他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください
221	ロックセグメント不足発生	OS のシステム構築時に、指定したレコードロックセグメント数を見直してください

KFXO01202-E

ジャーナル要素ファイルのライトに失敗しました。要素ファイル名：AA，理由コード=BB-CC，DD-EE

AA：要素ファイル名

BB：a系理由コード

CC：a系 Object Server 内部コード

DD：b系理由コード

EE：b系 Object Server 内部コード

■要因

ジャーナル要素ファイルのライトに失敗しました。

■対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

理由コード	内容	対処
209	I/O エラー発生	他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。同じ現象が繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください

KFXO01203-E

ジャーナル要素ファイルのリードに失敗しました。要素ファイル名：AA，理由コード=BB-CC，DD-EE

AA：要素ファイル名

BB：a系理由コード

CC：a系 Object Server 内部コード

DD：b系理由コード

EE：b系 Object Server 内部コード

■要因

ジャーナル要素ファイルのリードに失敗しました。

■対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

理由コード	内容	対処
209	I/O エラー発生	他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。同じ現象が繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください

KFXO01204-E

ジャーナル要素ファイルの操作中に障害が発生しました。理由コード=XX-YY

XX：理由コード

YY：Object Server 内部コード

■要因

要素ファイルの操作中（オープン/クローズ、又はリード/ライト）に障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	OSの提供するコマンドでノードの接続状態及び、Object Serverの提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください

KFXO01215-I

XX ジャーナルの YY をオープンしました。

XX：オープンしたジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別（sys 固定）

YY：オープンしたファイルグループ名

■要因

ジャーナルファイルグループをオープンしました。

KFXO01216-I

XX ジャーナルの YY をクローズしました。

XX：クローズしたジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別（sys 固定）

YY：クローズしたファイルグループ名

■要因

ジャーナルファイルグループをクローズしました。

KFXO01220-E

XX ジャーナルのスワップ要因が発生しましたが、交代するジャーナルファイルグループがないため、スワップできません。

XX：ジャーナルファイル種別(sys 固定)

■要因

スワップ要因が発生しましたが、スワップできません。

■対処

待機中のジャーナルファイルがない場合は、ジャーナルファイルを追加してください。待機中のジャーナルファイルがアンロード待ち状態、Object Serverの回復処理でリード中、コマンド処理で使用中の場合はジャーナルファイルを、使用できる状態にしてください。

KFXO01221-I

AA を BB ジャーナルファイルの現用として割り当てました。世代番号=CC，先頭ブロック番号=DD

AA：割り当てたのジャーナルファイルグループのジャーナルファイルグループ名

- BB：ジャーナルファイル種別(sys 固定)
- CC：ジャーナル世代番号 (16 進形式)
- DD：ファイル内の先頭ジャーナルブロック番号 (16 進形式)

■要因

ジャーナルファイルグループにジャーナルファイルを割り当てました。

KFXO01222-I

AA を BB ジャーナルファイルから切り離しました。世代番号=CC, 先頭ブロック番号=DD, 最終ブロック番号=EE

- AA：切り離したジャーナルファイルグループのジャーナルファイルグループ名
- BB：ジャーナルファイル種別(sys 固定)
- CC：ジャーナル世代番号 (16 進形式)
- DD：ファイル内の先頭ジャーナルブロック番号 (16 進形式)
- EE：ファイル内の最終ジャーナルブロック番号 (16 進形式)

0 の場合は、ジャーナルが 1 件も出力されていないファイルを示します。

■要因

ジャーナルファイルグループにジャーナルファイルを切り離しました。

KFXO01223-E

ジャーナルのスワップ処理中に障害が発生しました。理由コード=XX

XX：理由コード

■要因

ジャーナルのスワップ処理中に障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	メモリ使用量を見直してください
103	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態及び、Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態をしらべてください
105	タイムアウトが発生しました	前に出力されているスワップ処理の障害メッセージに従って対策してください

KFXO01240-E

ジャーナルファイルとして使用できないファイルがあります。ファイル種別：AA, ファイルグループ名：BB, 要素ファイル名：CC, 系種別：DD, 理由コード=EE

- AA：障害の発生したジャーナルファイル種別(sys 固定)

BB：障害の発生したジャーナルファイルグループ名

CC：障害の発生したジャーナル要素ファイル名

DD：障害の発生した系種別(a：A系)

EE：障害の発生した理由コード

■要因

ジャーナルファイルとして使用できないファイルがあります。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
223	定義された最大レコードデータを取得できる容量がない	最大レコードデータ長が正しいか、確認してください。 ファイル容量の見積りが正しいか、確認してください
601	物理ファイルのオープンに失敗しました	KFXO01200-E, KFXO01203-E メッセージに従って対策してください
602	物理ファイルの管理情報の読み込みに失敗しました	KFXO01200-E, KFXO01203-E メッセージに従って対策してください
603	物理ファイル上の管理情報が破壊されています	KFXO01200-E, KFXO01203-E メッセージに従って対策してください
604	物理ファイル上の使用システム情報がこのファイルと違います	このシステムで使用してもいいファイルか確認してください。使用しても良い場合は、このファイルを初期化してください。他のシステムで使用している場合は、定義上のファイル構成を変更してください
605	物理ファイル上のファイル構成が現ファイル構成と違います	ファイル構成が変更されている場合は、定義上のファイル構成を元に戻してください。ファイル構成が変更されていない場合は、このファイルを初期化してください
606	このファイルは、前回の使用で障害が発生した可能性があります	ジャーナル情報を引き上げた後、ファイル状態の変更、又はファイルの初期化をしてください

KFXO01250-I

XX ジャーナルの YY はジャーナル情報が引上げられていません。ジャーナル情報を引上げてください。

XX：このジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別(sys 固定)

YY：ジャーナル情報が引上げられていないジャーナルファイルグループ名

■要因

このジャーナルファイルグループはジャーナル情報が引上げられていません。

■対処

xodjnlunl コマンドを入力して、ジャーナル情報を引き上げてください。

KFXO01251-E

XX ジャーナルの YY は状態が不正です。ファイルグループ状態を変更してください。

XX：このジャーナルファイルグループが存在するジャーナルファイル種別(sys 固定)

YY：ジャーナルファイルグループ状態が不正なジャーナルファイルグループ名

■要因

このジャーナルファイルグループはジャーナルファイルグループ状態が不正です。

■対処

xodjnlunl コマンドを入力して、ジャーナル情報を引き上げるか、xodjnlchg コマンドを入力してファイルグループ状態を変更してください。

KFXO01255-W

XX ジャーナルは使用可能ジャーナルファイルグループが最低必要な数を満たしていません。ジャーナルファイルグループをオープンしてください。

XX：このジャーナルファイルグループのオープンの必要なジャーナルファイル種別(sys 固定)

■要因

使用できるジャーナルファイルグループが必要な数を満たしていません。

■対処

xodjnl opn コマンドを入力して、クローズ中のファイルグループをオープンしてください。

KFXO01256-E

XX ジャーナルは使用可能ジャーナルファイルグループがありません。

XX：ジャーナルファイル種別(sys 固定)

■要因

ジャーナル情報の取得先として使用できるジャーナルファイルグループがないため、現用ジャーナルファイルグループが決定できません。

■対処

KFXO01113-E メッセージを基に対策してください。

KFXO01257-E

XX ジャーナルの現用ファイルグループが回復できません。

XX：ジャーナルファイル種別(sys 固定)

■要因

前回オンラインで使用したファイルがすべて初期化されているため、現用ジャーナルファイルグループを回復できません。

■対処

Object Server を正常開始してください。

KFXO01258-W

XX ジャーナルの交代先ジャーナルファイルグループが見つかりませんが、リランスワップの指定を無視して処理を続行します。

XX：ジャーナルファイル種別(sys 固定)

■要因

交代先ジャーナルファイルグループが見つかりません。

KFXO01260-E

システム回復対象のジャーナル世代ファイルが存在しないため、回復処理を中止します。

■要因

システム回復対象のジャーナル世代ファイルが存在しません。

■対処

KFXO01240-E メッセージを基に対策してください。

KFXO01261-E

ジャーナルブロック読み込み時に障害が発生したため、回復処理を中止します。

■要因

ジャーナルブロック読み込み時に障害が発生しました。

■対処

KFXO01180-E, KFXO01181-E, KFXO01183-E, KFXO01184-E メッセージを基に対策してください。

KFXO01262-I

ジャーナルブロックの読み込みを開始しました。読み込み開始位置：XX, YY, ZZ

XX：読み込み開始したファイルグループ名

YY：読み込み開始したジャーナル世代番号（16 進形式）

ZZ：読み込み開始したジャーナルブロック番号（16 進形式）

■要因

ジャーナルブロック読み込みを開始しました。

KFXO01263-I

ジャーナルブロックの読み込みを終了しました。読み込み終了位置：XX, YY, ZZ

XX：読み込み終了したファイルグループ名

YY：読み込み終了したジャーナル世代番号（16 進形式）

ZZ：読み込み終了したジャーナルブロック番号（16 進形式）

■要因

ジャーナルブロック読み込みを終了しました。

KFXO01270-E

ジャーナルファイルが I/O エラーのため使用できません。要素ファイル名：XX，系種別：YY

XX：障害の発生した要素ファイル名

YY：障害の発生した系種別(a 固定)

■要因

ジャーナルで I/O エラーが発生しました。

■対処

他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください。メッセージが出力されていない場合は、ファイルを再作成してください。

KFXO01271-I

アンロードが終了しました。開始ブロック番号=XX，終了ブロック番号=YY

XX：アンロード済先頭ジャーナルブロック番号(16 進数形式)

YY：アンロード済最終ジャーナルブロック番号(16 進数形式)

■要因

ジャーナルアンロードコマンドでのアンロードが終了しました

KFXO01272-E

ジャーナルファイルはアンロード可能な状態ではありません。要素ファイル名：AA，系種別：BB，理由コード=CC-DD

AA：障害の発生した要素ファイル名

BB：障害の発生した系(a 固定)

CC：理由コード

DD：Object Server 内部コード

■要因

アンロードしようとしたファイルグループに、アンロード可能でないものがあります。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
220	物理ファイルは、ジャーナルファイルではありません	ファイルグループの要素ファイル名を見直してください
603	物理ファイル上のジャーナル管理情報が破壊されています	該当するファイルグループのアンロードを中止し、Object Server から切り離してください
605	物理ファイル上の構成と定義ファイルの構成が異なります	ジャーナルの定義を変更していないか確認してください
1603	物理ファイルは、アンロード済です	コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください

理由コード	内容	対処
1607	物理ファイルは、Object Server で未使用です	コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください

KFXO01273-E

ジャーナルファイルはステータス変更可能な状態ではありません。要素ファイル名：AA，系種別：BB，理由コード=CC-DD

AA：障害の発生した要素ファイル名

BB：障害の発生した系(a 固定)

CC：理由コード

DD：Object Server 内部コード

■要因

ステータス変換しようとしたファイルグループに、ステータス変換できないものがあります。

■対処

理由コードによって対策してください。対策できない場合は、システム管理者に連絡してください。

理由コード	内容	対処
220	物理ファイルは、ジャーナルファイルではありません	ファイルグループの要素ファイル名を見直してください
603	物理ファイル上のジャーナル管理情報が破壊されています	該当するファイルグループのアンロードを中止し、Object Server から切り離してください
605	物理ファイル上の構成と定義ファイルの構成が異なります	ジャーナルの定義を変更していないか確認してください
1603	物理ファイルは、アンロード済です	コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください
1607	物理ファイルは、Object Server で未使用です	コマンドに指定したファイルグループ名を見直してください

KFXO01274-E

ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。要素ファイル名：AA，理由コード=BB-CC，DD-EE

AA：要素ファイル名

BB：a 系理由コード

CC：a 系 Object Server 内部コード

DD：b 系理由コード

EE：b 系 Object Server 内部コード

■要因

ジャーナル要素ファイルのオープンに失敗しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	現在実行中のプロセスの終了を待って、再度コマンドを実行してください
202	対応するファイルがありません	システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください
203	path 指定ファイル初期化不正	システムジャーナルサービス定義で使用する jnladdpf コマンドの物理ファイルの指定を見直してください
209	I/O エラー発生	他にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください

KFXO01280-E

XX コマンドが実行できませんでした。理由コード=YY-ZZ

XX：実行できなかったコマンド名

YY：理由コード（4けた以内の数字）

ZZ：Object Server 内部コード

■要因

コマンドが実行できませんでした。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
101	領域不足発生	現在実行中のプロセスの終了を待って、再度コマンドを実行してください
102	共用メモリのセグメント数が、最大値を超えています	直前にシステムコールのメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従ってください
103	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態をしらべてください
104	共用メモリ上の必要な情報が参照できません	Object Server の提供するコマンドでジャーナルサービス

理由コード	内容	対処
104	共用メモリ上の必要な情報が参照できません	の実行状態をしらべてください
106	共用メモリが使用できません	直前に出力されている、システムコールのメッセージに従って対策してください
107	システムコールでエラーが発生しました	直前に出力されている、システムコールのメッセージに従って対策してください
201	ファイル名が不正です	ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください
202	対応するファイルがありません	正しいファイル名を指定してください
204	ファイルが既に存在しています	ファイル名を見直してください。ファイル名が正しい場合は、ファイルを削除した後に、初期化してください
206	ファイルシステム初期化時に指定したファイル数の上限を超えました	ファイルを作成する装置を変更してください。又は、いらぬファイルを削除してください
209	I/O エラーが発生しました	I/O エラーの原因を調査してください
211	指定ファイルに対するアクセス権がありません。又は、指定ファイルは他のユーザにより暗号化されています	アクセス権の確認をしてください。又は、暗号化の指定を外してください
212	ファイルが存在しません	ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください
216	指定されたファイルは jnl ではありません	ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください
217	指定したファイルは Object Server で使用中です	xodjnlls コマンドでファイルを確認し、再度コマンドを実行してください
221	ロックセグメント不足発生	OS のシステム構築時に、指定したレコードロックセグメント数を見直してください
222	該当するジャーナルファイルは、他のプロセスで使用されています	ジャーナルファイルの運用状態を確認してください

理由コード	内容	対処
224	オンライン中のため、ジャーナルファイルを削除できません	オフラインで再度コマンドを実行してください
301	ファイルが既に存在します	ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください
302	指定したファイル名はディレクトリです	ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください
303	unload ジャーナルファイルのオープンに失敗しました	ファイル名を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください。直前にファイルのオープンエラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください
304	unload ジャーナルファイルのクローズに失敗しました	直前に出力されている、close システムコールのメッセージに従って対策してください
305	unload ジャーナルファイルのアクセスに失敗しました	直前に出力されている、write システムコールのメッセージに従って対策してください
403	ファイルのオープンエラーが発生しました	直前に出力されている、ファイルのオープンエラーメッセージに従って対策してください
404	ファイルのオープンエラーが発生しました	直前に出力されている、ファイルのオープンエラーメッセージに従って対策してください
701	ファイルグループが存在しません	xodjnlls コマンドでファイルを確認し、必要なら再度コマンドを実行してください。直前に定義解析エラーメッセージが出力されている場合は、このメッセージを基に対策してください
702	ファイルグループのオープンに失敗しました	KFXO01200-E, KFXO01201-E メッセージの理由コードによって、調査してください
703	ファイルグループのクローズに失敗しました	KFXO01200-E, KFXO01201-E メッセージの理由コードによって、調査してください

理由コード	内容	対処
704	このファイルグループは既にオープンされています	xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください
705	このファイルグループは既にクローズされています	xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください
706	このファイルグループはクローズできる状態ではありません	xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください
707	このファイルグループシステムで使用中です	xodjnlls コマンドでファイルを確認し、正しいファイルグループ名を指定して再度コマンドを実行してください
708	上書きできるファイルグループがなくなる為に、クローズできません	ファイルグループを構成する物理ファイルを増やすか、ファイルの内容をアンロードして上書きできる状態にしてから再度コマンドを実行してください
709	同一世代のファイルグループがあるので、オープンをやめました	このファイルグループを構成する物理ファイルを xodjnlrm コマンドで削除した後、xodjnlinit で再度作成してください
1101	オープン対象物理ファイルの全てのオープンに失敗しました	KFXO01240-E メッセージにしたがってください
1601	アンロード、又はステータス変更可能なジャーナルファイルがありません	指定したファイルグループ名を見直してください
1602	ジャーナルファイルのブロックぬけを検知しました	このファイルグループのアンロードを中止して、システム管理者に連絡してください
1603	このファイルグループはアンロード済み状態です	指定したファイルグループ名を見直してください
1604	-n オプションの指定値が範囲外です	指定値を 20~262144 の間にして再度コマンドを実行してください
1605	-s オプションの指定値が範囲外です	指定値を 80~1048576 の間にして再度コマンドを実行してください

理由コード	内容	対処
1606	OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態です	OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除してから再度コマンドを実行してください

KFXO01281-E

コマンドの形式が誤っています。

■要因

コマンドの形式が誤っています。

■対処

正しい使用方法で再度コマンドを入力してください。

KFXO01282-E

XX オプションで指定された YY が見つかりません。

XX：オプションコード (-g 固定)

YY：ファイルグループ名

■要因

s オプションの引数に誤りがあります。

■対処

オプションの引数を正しく指定し直し、再度コマンドを実行してください。

KFXO01285-E

スワップ処理中のためコマンドが実行できませんでした。

■要因

スワップ処理中のためコマンドが実行できません。

■対処

スワップ処理の終了を待って、再度コマンドを実行してください。

KFXO01286-E

交代用ジャーナルファイルグループがないためスワップできませんでした。

■要因

交代用ジャーナルファイルグループがないため、スワップできませんでした。

■対処

待ち状態のジャーナルファイルをアンロード状態にし、交代先を用意してください。又は予備状態のジャーナルファイルをオンラインに割り当て、交代先を用意してください。

KFXO01300-E

領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO01301-E

ジャーナル編集ファイルのオープンに失敗しました。エラーコード：XX

XX：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01302-E

ジャーナル編集ファイルの書き込みに失敗しました。エラーコード：XX

XX：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01303-E

ジャーナル編集ファイルの読み込みに失敗しました。エラーコード：XX

XX：システムコールの read() からリターンしたのエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01304-E

ジャーナル編集ファイルのポインタの移動に失敗しました。エラーコード：XX

XX：システムコールの lseek() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01305-W

ジャーナル編集ファイルのクローズに失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード：XX

XX：システムコールの close() からリターンしたエラーコード (errno)

■要因

システムコールの close() で、エラーが発生しました。

■対処

ジャーナル編集ファイルがあれば削除してください。

KFXO01306-W

ジャーナル編集ファイルの削除に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード：XX

XX：システムコールの unlink() で発生したエラーコード (errno)

■要因

ジャーナルファイルの削除をしようとしたとき、システムコールの unlink() で、エラーが発生しました。

■対処

ジャーナルファイルを削除してください。

KFXO01310-I

システムジャーナルの情報がありません。

■要因

システムジャーナルサービス定義(%XODDIR%¥conf¥sysjnl)にジャーナルファイルグループの定義が無かった場合に出力されます

■対処

システムジャーナルサービス定義にジャーナルファイルグループの定義を追加して、再度システムジャーナルの情報取得を実行してください

KFXO01311-E

ワークファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

XX：オープンに失敗したファイルのファイル名

YY：fopen()で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルをオープンしようとしたとき、fopen()でエラーが発生したため、処理が続行できません

■対処

エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除き、当該操作を再度実施してください

KFXO01312-E

ワークファイルのクローズに失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

XX：クローズに失敗したファイルのファイル名

YY：fclose()で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルをクローズしようとしたとき、fclose()でエラーが発生したため、処理が続行できません

■対処

エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除き、当該操作を再度実施してください

KFXO01321-E

ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01322-E

ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01323-E

ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの read() からリターンしたのエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01324-E

ジャーナルファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：

ポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：

システムコールの lseek() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO01325-W

ジャーナルファイルのクローズに失敗しましたが、処理を続行します。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：クローズに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの close() からリターンしたエラーコード (errno)

■要因

システムコールの close() で、エラーが発生しました。

■対処

エラー番号を参照してエラーの原因を取り除き、当該操作を再度実施してください

KFXO01326-W

ジャーナル取得時刻の設定に失敗しましたが、処理を続行します。

■要因

時刻の取得に失敗しました。

■対処

繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO01327-E

ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX

■要因

ジャーナルファイルに書き込みをしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除し、空き領域を作成してください。

KFXO01627-E

メモリ不足で処理を続行できません。

■要因

サービス・グループ登録処理でメモリ不足が発生したため、処理を打ち切りました。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、Object Server を再起動してください。

KFXO01628-E

ネットワーク障害のため、OMS を開始できません。

■要因

ネットワーク障害が発生したため、処理を打ち切りました。

■対処

ネットワーク機器が正常に動作しているか、また、ネットワークの設定が正しいか確認してください。このエラーが繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO01631-E

通信障害のため、OMS を開始できません。

■要因

通信障害が発生したため、処理を打ち切りました。

■対処

ネットワーク機器が正常に動作しているか、また、ネットワークの設定が正しいか確認してください。
このエラーが繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO01632-E

定義解析中にエラーが発生したため、OMS を開始できません。

■要因

定義解析中にエラーが発生したため、処理を打ち切りました。

■対処

直前に出力されているメッセージに従ってエラー原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

KFXO01644-I

デフォルト値を採用して、OMS を開始します。

■要因

デフォルト値（システム共通定義の省略値）を採用して、Object Server を開始しました。

KFXO01645-E

OMS を開始できません。理由コード=XX

■要因

理由コードで示すエラーが発生したため、Object Server を開始できません。

■対処

理由コードが示すエラー原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

理由コードを次に示します。

理由コード	内容	対処
-604	プロセス固有メモリの領域が確保できません	プロセス固有領域の大きさを見直してください
46200	Object Server の開始処理でエラーが発生しました	直前に出力されたメッセージに従って対策してください
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

KFXO01699-E

OMS が異常を検知しました。理由コード=XX 詳細コード=XX ファイル名=XX 場所=XX

理由コード：エラー原因を示す内部コード

詳細コード：エラーとなった関数の内部エラーコード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

理由コードで示すエラーが発生しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO01800-I

OMS 開始中です。

■要因

Object Server 開始中です。

KFXO01801-E

動作環境が整っていないので、開始できません。要因：XX

■要因

Object Server が開始できません。

■対処

要因コードから Object Server の動作環境を見直してください。Object Server の動作環境を修正してから、再起動してください。

要因コード	内容	対処
MEMORY	メモリ不足が発生しました	SHM_EINVAL, SHM_ENOMEM, SHM_ENOSPC を参照してください
PROGRAM	前提プログラムがありません	前提プログラムを組み込んでください
VERSION	OS のバージョンが異っています	正しいバージョンの OS を組み込んでください
SETUP	システム起動に失敗しました	システムを再起動してください
PAUSE	システム障害が発生又はシステムが前処理中です	同時に出力されているメッセージを参照してください。メッセージが出力されていない場合、しばらくしてから再実行してください
SHM_EINVAL	共用メモリ容量が制限を超えています	Object Server システム共通定義で指定する dynamic_shmpool_size 又

要因コード	内容	対処
SHM_EINVAL	共用メモリ容量が制限を超えています	は static_shmpool_size の値を小さくしてください
SHM_ENOMEM	要求された共用メモリ用マップドファイルが確保できません	Object Server をインストールしているディスクのファイルシステムの空きを大きくしてください
SHM_ENOSPC	要求された共用メモリ用マップドファイルが確保できません	Object Server をインストールしているディスクのファイルシステムの空きを大きくしてください
SHM_EMFILE	オープンファイル数が制限を超えています	オープンしているファイル数を減らしてください
SHM_EINTR	共用メモリを確保しようとしたときに、シグナルが発生しました	シグナル発生要因を調査し、再度 Object Server を起動してください
ENV_DCDIR	XODDIR の設定に誤りがあります。または、ディレクトリ参照時にエラーが発生しました	環境変数 XODDIR を設定又は設定内容を見直してください

KFXO01802-E

同じ OMS 識別子の OMS が動作中のため開始できません。

■要因

同じ OMS 識別子を持った Object Server が動作中のため開始できません。

■対処

動作中の Object Server の終了を待ってから再起動してください。

KFXO01803-I

OMS の開始モードを決定しました。開始モード：XX

XX：決定した開始モードを示します。

S：正常開始

R：再開

■要因

Object Server の開始モードを決定しました。

KFXO01809-I

OMS がオンライン状態になりました。

■要因

Object Server がオンライン状態になりました。

KFXO01812-E

サーバ XX 開始中にエラーが発生しました。要因：YY

■要因

開始できないサーバがあります。

■対処

要因コードから Object Server の動作環境を見直してください。Object Server の動作環境を修正してから、再起動してください。

要因コード	内容	対処
MEMORY	メモリ不足が発生しました	実メモリサイズ又はスワップエリアサイズを見直してください
LOCK	排他エラーが発生しました	排他サービスに関するメッセージに従って対処してください
SERVER DOWN	サーバが異常終了しました	このメッセージの前のメッセージに従って対処してください
NO_SERVER	サーバがありません	Object Server を組み込み直してください
DEFINE FILE UNREAD	定義の読み込みに失敗しました	このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください
SHARED MEMORY	共用メモリを確保できませんでした	システム共通定義の static_shmpool_size の指定値を見直してください。または、実メモリを増やしてください
FORK FAILED	起動に失敗しました	このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください
COMMUNICATION	プロセス間通信に障害が発生しました	このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください
STOPPING NOW	終了処理中です	終了の処理が完了してから、再起動してください
NO RPC ENVIRONMENT	RPC 環境が開始していません	このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください
PRC ERROR	プロセスサービスでエラーが発生しました	このメッセージの前の障害メッセージに従って対処してください
CONFIGURATION	定義解析に失敗しました	定義の記述を見直してください

KFXO01815-E

システムでエラーが発生しました。名称：XX 関数値=YY errno=ZZ

XX：異常終了したシステムコール又はサブルーチン名

YY：異常終了したシステムコール又はサブルーチンの関数値

ZZ：異常終了したときの errno の値

■要因

システムでエラーが発生しました。

■対処

エラーの原因を調査して取り除いてください。

KFXO01820-E

サーバ TT がダウンしました。pid：UU，サービスグループ名：VV，走行モード：WW，クリティカル状態：XX 0xYY，終了状態：ZZ

TT：異常終了したサーバ名

UU：異常終了したプロセスのプロセス ID

VV：異常終了したサーバのサービスグループ名(31 文字以内)

ダウンしたプロセスが関連プログラムの場合は、
プログラム名，実行ファイル名
と表示されます。

プログラム名が特定できない場合は，"*****"

実行ファイル名が特定できない場合は，"*****"

と表示されます。

WW：異常終了直前のサーバの走行モード

OMS：Object Server 処理中

USER：ユーザ処理中

XX：Y：クリティカル状態

N：クリティカル状態でない

YY：クリティカル情報

ZZ：プロセス終了状態

■要因

Object Server のサーバが停止しました。

■対処

このメッセージの前に出力されたメッセージ，又はトラブルシュート情報（ダンプ，トレースなど）によって，異常終了の要因を調査して，対策してください。

KFXO01821-E

OMS の続行が不可能なエラーが発生したため，OMS を停止します。

■要因

Object Server の続行が不可能なエラーが発生したため，Object Server を停止します。

■対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照して，エラー原因を取り除いてください。

KFXO01822-W

<警告> 共用メモリサイズが前回よりも小さくなっています。種別：XX

種別：サイズが小さくなった共用メモリの種別

static：静的共用メモリ

dynamic：動的共用メモリ

■要因

共用メモリが前回よりも小さくなっています。

■対処

定義を見直し、必要な場合は共用メモリサイズを変更して Object Server を再起動してください。

KFXO01826-I

OMS ディレクトリ=UU OMS バージョン=VV 静的共用メモリ量=WWKB 動的共用メモリ量=XXKB システムラン ID=YY OMS 識別子=ZZ

■要因

システムを開始するときに、その環境を表示します。

KFXO01827-I

OMS をユティリティ実行モードで起動しました。

■要因

Object Server をユティリティ実行モードで起動しました。

KFXO01828-I

OMS を回復ユティリティ実行モードで起動しました。

■要因

Object Server を回復ユティリティ実行モードで起動しました。

KFXO01829-E

前回 OMS が異常終了しリランが必要です。一旦通常モードで起動して DB を回復してください。DB をバックアップからリストアした場合は、強制正常開始してください。

■要因

前回起動時に、Object Server が正常終了していないため、DB が壊れている可能性があります。

■対処

DB をバックアップからリストアし、バックアップ時点の DB をそのまま使用する場合は、強制正常開始モードで Object Server を起動してください。データベース環境設定ユティリティ（データベースの初期化を除く）、及びデータベース保守ユティリティのデータベースの再編成を使用する場合は、一旦通常モードで Object Server を起動して DB を回復し、正常終了させた後、ユティリティ実行モードで起動してください。DB のバックアップを取得する場合は、正常終了後に取得してください。

KFXO01830-E

前回 OMS が異常終了しリランが必要です。一旦通常モードで起動して DB を回復してください。DB をバックアップからリストアした場合は、強制正常開始か、回復ユティリティ実行モードで起動してください。

■要因

前回起動時に、Object Server が正常終了していないため、DB が壊れている可能性があります。

■対処

DB をバックアップからリストアし、バックアップ時点の DB をそのまま使用する場合は、強制正常開始モードで Object Server を起動してください。データベース保守ユティリティのデータベースの回復とバックアウトを使用する場合は、回復ユティリティ実行モードで起動してください。データベース環境設定ユティリティ（データベースの初期化を除く）、及びデータベース保守ユティリティのデータベースの再編成を使用する場合は、一旦通常モードで Object Server を起動して DB を回復し、正常終了させた後、ユティリティ実行モードで起動してください。DB のバックアップを取得する場合は、正常終了後に取得してください。

KFXO01840-I

OMS 終了中です。

■要因

Object Server 終了中です。

KFXO01841-I

OMS が停止しました。

■要因

Object Server が停止しました。

KFXO01860-E

コマンドが誤っています。使用方法：XX

XX：該当するコマンドの形式。次のコマンドが表示されます。

xodclear：障害時リラン前環境クリアコマンド

xodpinfo：プロセス状態表示コマンド

■要因

コマンドに誤りがあります。

■対処

コマンドを再度入力してください。

KFXO01861-E

コマンドでエラーが発生しました。要因：XX

■要因

コマンドでエラーが発生しました。

■対処

要因コードで示されたエラーの原因を対策してください。その後、Object Server を再起動してください。対策できなかった場合は、システム管理者に連絡してください。

要因	内容
COMMUNICATION	プロセス間通信エラーが発生しました

要因	内容
TIMEOUT	時間内にシステム初期化処理が終了しませんでした
SYSTEM STATUS	システムのステータステーブルを参照できません
MEMORY	メモリ不足が発生しました
SHARED MEMORY	共用メモリのアクセスに失敗しました
STATUS	サーバの追加及び削除に失敗しました
DEFINE FILE	定義ファイルの内容に誤りがあります
PARAM	引数に誤りがあります
SERVER NAME LEN	サーバ名の長さが正しくありません
INITIALIZING	Object Server 起動処理中のため、コマンドを受け付けられません。Object Server の起動が完了するのを待って、再度コマンドを入力してください
FILE IO	ファイルの操作に失敗しました

KFXO01863-E

システムの状態が XX でないため、コマンドが実行できません。コマンド名：YY

XX：コマンド入力できる状態を示します。

ONLINE：オンライン中

OFFLINE：オフライン中

YY：入力したコマンド名を示します。

xodclear：障害時リラン前環境クリアコマンド

xodpinfo：プロセス状態表示コマンド

■要因

システムの状態と実行しようとしたコマンドが合っていません。

■対処

xodclear の場合、Object Server を正常終了させてから、再度コマンドを入力してください。

xodpinfo の場合、Object Server を稼働させてから、再度コマンドを入力してください。

KFXO01864-E

コマンドでタイムオーバが発生しました。コマンド名：xodstop

■要因

Object Server 停止でタイムオーバが発生しました。

■対処

コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してシステム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO01870-E

メモリ不足のため、定義ファイルを解析できません。

■要因

定義ファイルを解析中にメモリが不足しました。

■対処

プロセス数を少なくするか、他プロセスで使用しているメモリ量を少なくしてください。

KFXO01871-E

通信障害が発生しました。サーバ名：XX return_code=YY

■要因

通信エラーが発生しました。

■対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照して、エラー要因を取り除いてください。その後、再度 Object Server を起動してください。

KFXO01872-E

OMS 起動中のデータベースのバックアップが可能な状態です。OMS を停止できません。

■要因

OMS を停止できません。

■対処

OMS 起動中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除してから再度コマンドを実行してください。

KFXO01873-I

OMS 起動中のデータベースのバックアップが可能な状態です。OMS を強制停止します。

■要因

OMS を強制停止します。

■対処

バックアップ中のデータベースは有効です。バックアップ処理を続けてください。

KFXO01891-E

環境変数が設定されていません。

■要因

環境変数の XODDIR, XODCONFPATH が設定されていません。

■対処

インストールが失敗しているため、Object Server を再インストールしてください。

KFXO01896-E

環境をすべてクリアできませんでした。情報出力先：XX

XX：xodclear のメッセージを格納しているファイル名

■要因

xodclear コマンドが正常終了しませんでした。

■対処

情報出力先ファイルに出力されているメッセージをもとに対処してください。

KFXO01897-E

ディレクトリ(XX)がありません。

XX：存在しないディレクトリ名

■要因

ディレクトリがありません。

■対処

存在していないディレクトリを作成してください。存在しないディレクトリ名が%XODDIR%¥spool の場合、ユーザがディレクトリを移動した可能性がありますので、ディレクトリを作成してください。また、元の spool ディレクトリ下にジャーナルファイル(ファイル名：jnfile)が存在すれば、それを %XODDIR%¥spool 下にコピーしてください。

存在しないディレクトリ名が%XODDIR%¥spool 以外の場合、ディレクトリを作成してください。

KFXO01898-I

コマンド(XX)が正常に終了しました。

XX：コマンド名

■要因

コマンドが正常に終了しました。

KFXO01899-E

A P プロセスが動作中です。3 分間待っても終了しないため、Object Server を強制終了します。

■要因

Object Server の正常終了時、動作中の AP プロセスが存在したため 3 分間処理を待ちましたが、その間に AP プロセスが終了しませんでした。

■対処

Object Server の開始形態を「再開始」にして再起動してください。

KFXO01902-E

メモリ不足が発生したためログサービスを開始できません。

■要因

メモリが不足したため、ログサービスを開始できません。

■対処

不要なプロセスを消去してください。

KFXO01984-E

*** message(XXXXX) cannot be output : message file not found ***

XXXXXX：出力できなかったメッセージの番号

■要因

メッセージオブジェクトファイルがないために、メッセージが出力できません。

■対処

Object Server を再インストールしてください。

KFXO01985-E

*** message(XXXXX) cannot be output : message file I/O error ***

XXXXXX：出力できなかったメッセージの番号

■要因

メッセージオブジェクトファイルに入出力エラーが発生しました。

■対処

繰り返し発生する場合は、このメッセージ及び出力できなかったメッセージ ID を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO01986-E

*** message(XXXXX) cannot be output : message file access denied ***

XXXXXX：出力できなかったメッセージの番号

■要因

メッセージオブジェクトファイルにアクセス権がないために、メッセージが出力できません。

又は、メッセージオブジェクトファイルが他のユーザにより暗号化されています。

■対処

メッセージオブジェクトファイルに読み込み許可がない場合は、読み込み許可を与えてください。また、メッセージオブジェクトファイルのパスを構成するディレクトリに検索許可がない場合は、検索許可を与えてください。

メッセージオブジェクトファイルが暗号化されている場合は、暗号化の指定を外してください。

KFXO02102-E

チェックポイントダンプサービス XX が開始できません。理由コード= YY

XX：チェックポイントダンプ io プロセスのサーバ名

YY：障害の内容を示す理由コード

■要因

チェックポイントダンプサービスが開始できません。

■対処

理由コードによって対策し、再度 Object Server を開始してください。

理由コード	内容	対処
-147	共用メモリプールの容量不足	定義で指定した共用メモリサイズを見直してください

理由コード	内容	対処
-201	メモリ不足	プロセス固有, 及び共用メモリの使用状況を見直してください
-1807	メモリ不足	プロセス固有, 及び共用メモリの使用状況を見直してください
-2105	メモリ不足	プロセス固有, 及び共用メモリの使用状況を見直してください
-306	ネットワーク障害発生	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください
-641	ネットワーク障害発生	Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください
-363	定義読み込み失敗	前に出力された障害メッセージに従って対策してください
-604	メモリ不足	プロセス固有, 及び共用メモリの使用状況を見直してください
-700	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください
-1033	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください
-1851	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください
-1006	ステータスファイル I/O エラー	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください
-1012	作業領域不足	プロセス固有, 及び共用メモリの使用状況を見直してください
-1015	バッファ面数不足	ステータスサービス定義の内容を見直してください
-1018	ステータスファイル容量不足	ステータスサービス定義の内容を見直してください
-1039	スワップ処理エラー	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください

理由コード	内容	対処
-1800	ステータス書き込みエラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください
-1801	ステータス読み込みエラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください
-1802	定義解析エラー	システム管理者に連絡してください
-1806	内部ファイル書き込みエラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください

KFXO02104-W

前回のチェックポイントダンプサービス状態をステータスファイルから回復できません。ステータスファイルなしで回復を続行します。理由コード= XX

XX：障害の内容を示す理由コード

■要因

チェックポイントダンプサービスが開始できません。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
-1021	回復用のステータスコードがありません	ステータスサービス定義の内容を見直してください
-2117	ステータスファイルの内容不正	ステータスサービス定義の内容を見直してください
-2127	リソースのラン ID が不正	前回の Object Server で使用した定義と同一か確認してください

KFXO02105-W

チェックポイントダンプサービスの終了中に障害が発生しましたが、このまま続行します。理由コード= XX

XX：障害の内容を示す理由コード

■要因

チェックポイントダンプサービスの終了中に障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
-144	共用メモリのアクセスができません	システム管理者に連絡してください

理由コード	内容	対処
-604	プロセス固有メモリ, 又は共用メモリが不足しました	プロセス固有, 及び共用メモリの使用状況を見直してください
-607	指定された登録者 ID のサービス情報はありませ	システム管理者に連絡してください
-630	同一サービスグループ名とユーザキーで登録されているサービス情報が存在	システム管理者に連絡してください
-641	ネットワーク障害発生	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください
-700	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください
-1851	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください
-702	ステータス不正	エラー原因を調査し, 対策後システムを再起動してください

KFXO02110-E

XX サービスに対するチェックポイントダンプサービス実行中, プロセス固有の領域不足が発生しました。

XX: サービス名

■要因

チェックポイントダンプサービスの実行中に領域不足が発生しました。

■対処

プロセス数を減らしてください。

KFXO02111-E

XX サービスに対するチェックポイントダンプサービス実行中, 障害が発生しました。理由コード= YY 関数名: ZZ

XX: サービス名

YY: 理由コード

ZZ: エラーが発生した関数名

■要因

チェックポイントダンプサービスの実行中, 障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
-306	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください
-641	ネットワーク障害が発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください
-307	送受信タイムアウト	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください
-304	メモリ不足	メモリの使用量を見直してください
-318	予期しないエラーが発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください。Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください
-600	予期しないエラーが発生しました	OS の提供するコマンドでノードの接続状態を調べてください。Object Server の提供するコマンドで各サーバの実行状態を調べてください
-604	プロセス固有メモリ、又は共用メモリが確保できません	プロセス固有メモリ、及び共用メモリの使用状況を確認してください
-700	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください
-1851	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください
-2011	領域を確保できません	メモリ使用量を見直してください
-2021	領域を確保できません	メモリ使用量を見直してください
その他	予期しないエラーが発生しました	システム管理者に連絡してください

KFXO02157-E

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、共用メモリ障害が発生しました。理由コード = XX 関数名 : YY

XX : 理由コード

YY : エラーが発生した関数名

■要因

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、共用メモリ障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
-147	共用メモリ不足	定義で指定した共用メモリサイズを見直してください
-144	共用メモリアクセスエラー	システム管理者に連絡してください

KFXO02158-E

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、ステータスファイルに障害が発生しました。理由コード＝XX 関数名：YY

XX：理由コード

YY：エラーが発生した関数名

■要因

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、ステータスファイルに障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
-1006	I/O エラー	I/O エラーの発生した原因を調査し対策してください
-1012	作業領域不足	メモリの使用量を見直してください
-1015	バッファ面数不足	ステータスサービスの定義内容を見直してください
-1018	ステータスファイル容量不足	ステータスサービスの定義内容を見直してください
-1033	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再度起動してください
-1039	スワップ処理エラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください

KFXO02159-E

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、メモリ不足が発生しました。

■要因

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、メモリ不足が発生しました。

■対処

メモリ資源をとりすぎていないか確認してください。不要な資源は解放してください。又は定義で指定した共用メモリサイズを見直し、対策後、再度起動してください。

KFXO02160-E

チェックポイントダンプサービスの開始又は終了中、システムサービスへの要求で障害が発生しました。理由コード= XX 関数名: YY

XX: 理由コード

YY: エラーが発生した関数名

■要因

チェックポイントダンプサービスの開始、又は終了中に障害が発生しました。

■対処

理由コードによって対策してください。

理由コード	内容	対処
-1800	ステータス書き込みエラー	I/O エラーの発生した原因を調査し対策してください
-1801	ステータス読み込みエラー	メモリの使用量を見直してください
-1802	サーバの定義解析エラー	ステータスサービスの定義内容を見直してください
-1803	サーバダウン	ステータスサービスの定義内容を見直してください
-1807	メモリ不足	Object Server の提供するコマンドでサーバの実行状態を調べてください
-1809	強制停止使用としましたが、サーバはクリティカル状態です	エラー原因を調査し、対策後システムを再度起動してください
-1851	プロセス間通信エラー	エラー原因を調査し、対策後システムを再起動してください

KFXO02173-E

チェックポイントダンプ処理でステータスファイル障害が発生しました。理由コード= XX

XX: 理由コード

■要因

チェックポイントダンプ処理でステータスファイル障害が発生しました。

■対処

理由コードに従って対策してください。

理由コード	内容	対処
-1006	I/O エラー	I/O エラーの発生した原因を調査し対策してください
-1015	バッファ面数不足	ステータスサービスの定義を見直してください
-1018	ステータスファイル容量不足	ステータスサービスの定義を見直してください
-1033	プロセス間通信エラー	Object Server の提供するコマンドでサーバの実行状態を調べてください
その他	予期せぬエラーが発生しました	システム管理者に連絡してください

KFXO02179-I

XX サービスのチェックポイントダンプ取得契機をスキップしました。スキップ回数= YY ジャーナル世代番号= ZZ

XX：サービス名

YY：チェックポイントダンプ取得契機をスキップした回数の累計（10 進数）

ZZ：チェックポイントダンプ取得契機をスキップしたジャーナル世代番号（16 進数）

■要因

前回のチェックポイントダンプを取得中なので、チェックポイントダンプ取得契機をスキップしました。

■対処

システムサービス定義中の jnl_cdinterval の値を大きくする、又はジャーナルファイルの容量を大きくしてください。

KFXO02182-E

メモリ不足が発生しました。サイズ= XX 領域種別：YY

XX：確保しようとしたサイズ

YY：メモリ不足が発生した領域の種別

■要因

メモリ不足が発生しました。

■対処

システム定義を見直し、対策後、Object Server を再度起動してください。

KFXO02200-E

トランザクションジャーナルサービスを使用する XX サーバ用の共用メモリが取得できないため、当該サーバにサービスを提供できません。

XX：サーバ名

■要因

共用メモリ不足が発生しました。

■対処

共用メモリの容量を見直してから、Object Server を再起動してください。

KFXO02201-E

トランザクションジャーナルサービスを使用する XX サーバ用のプロセスメモリを取得できないため、当該サーバにサービスを提供できません。

XX：サーバ名

■要因

サーバメモリ不足が発生しました。

■対処

プロセス数を少なくして、再度 Object Server を起動してください。多発する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO02202-E

トランザクションジャーナルサービスを使用する各サーバの開始モードが不一致のため、サービスを提供できません。

■要因

トランザクションジャーナルサービスを使用する各サーバの開始モードが不一致です。

■対処

再度 Object Server を起動してください。多発する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO02210-E

メモリ不足が発生しました。サイズ= XX バイト 領域種別：YY

XX：確保しようとした領域サイズ

YY：メモリ不足が発生した領域の種別

STATIC_SHMPOOL：静的共用メモリ

DYNAMIC_SHMPOOL：動的共用メモリ

PROCESS：プロセス固有メモリ

■要因

プロセスメモリ不足が発生しました。

■対処

領域種別によって対策してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

静的共用メモリ：定義の指定値を見直してください。

動的共用メモリ：定義の指定値を見直してください。

プロセス固有メモリ：プロセス数を少なくしてください。

KFXO02220-E

ジャーナル不正を検知したため、トランザクションの回復ができません。

■要因

システムジャーナルファイルが壊れています。それにもかかわらず、この不正なジャーナルファイルを使って [High-end] を全面回復しようとしています。

■対処

[High-end] を再起動してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

(6) KFXO10000-KFXO19999

KFXO10000-E

アンロードジャーナルファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10001-E

指定されたファイルはアンロードジャーナルファイルではありません。ファイル名：XX

ファイル名：指定されたファイル名

■要因

指定されたファイルはアンロードジャーナルファイルではありませんでした。又は指定されたファイルが破壊されている可能性があります。

■対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10002-E

指定されたアンロードジャーナルファイルは存在しません。ファイル名：XX

ファイル名：存在しなかったファイル名

■要因

指定されたファイルが存在しませんでした。

■対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10003-E

指定されたアンロードジャーナルファイルにアクセスできません。ファイル名：XX

ファイル名：アクセスできなかったファイル名

■要因

指定されたファイルにアクセスできませんでした。

■対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10004-E

アンロードジャーナルファイルアクセス中に入出力エラーが発生しました。ファイル名：XX

ファイル名：入出力エラーが発生したファイル名

■要因

指定されたファイルをアクセスしているときに入出力エラーが発生しました。

■対処

指定したファイルを見直して再実行してください。

KFXO10005-E

アンロードジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ファイルの読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの read() で発生したエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10006-E

アンロードジャーナルファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの lseek() で発生したエラーコード

■要因

ファイルのポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10090-E

メモリ不足のためメッセージが出力できませんでした。メッセージ番号：XX

メッセージ番号：

出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

メモリ不足によりメッセージが出力できませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO10091-E

メッセージが出力できませんでした。エラーコード：XX メッセージ番号：YY

エラーコード：内部矛盾の要因を表すエラーコード

メッセージ番号：出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

内部矛盾によりメッセージが出力できませんでした。

■対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO10100-E

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの-n オペランドが指定されていません。

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの-n オペランドが指定されていません。

■対処

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの-n オペランドを指定してください。

KFXO10101-E

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの-e オペランドが指定されていません。

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの-e オペランドが指定されていません。

■対処

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの-e オペランドを指定してください。

KFXO10102-W

UJ 出力ファイルのオープンに失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：オープンに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10103-E

UJ 出力ファイルのオープンに失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：オープンに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。オープンできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10104-W

UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込みしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10105-E

UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込みしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。書き込みできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコード (erno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10106-W

UJ 出力ファイルの読み込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：読み込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの read() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを読み込みしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10107-E

UJ 出力ファイルの読み込みに失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：読み込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの read() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを読み込みしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。読み込みできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10108-W

システム共通定義ファイルに定義したファイルは UJ 出力ファイルではありませんでしたが処理を続行します。
ファイル名=XX

ファイル名：システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定したファイル名

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定したファイルは UJ 出力ファイルではありませんでした。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10109-E

システム共通定義ファイルに定義したファイルは UJ 出力ファイルではありませんでした。ファイル名=XX

ファイル名：システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定したファイル名

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定したファイルは UJ 出力ファイルではありませんでした。読み込みできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10110-E

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに定義したファイル名が重複しています。ファイル名=XX

ファイル名：システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定したファイル名

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタの -n オペランドと -e オペランドに指定したファイル名が重複しています。

■対処

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタを見直し、再実行してください。

KFXO10111-E

共用メモリの確保に失敗しました。

■要因

システムで使用する共用メモリの確保に失敗しました。

■対処

共用メモリの容量を見直してから、Object Server を再起動してください。

KFXO10112-W

UJ 出力ファイルのポインタの移動に失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：ポインタの移動に失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの lseek() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルのポインタを移動しようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10113-E

UJ 出力ファイルのポインタの移動に失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：ポインタの移動に失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの lseek() で発生したエラーコード

■要因

システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルのポインタを移動しようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。読み込みできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10114-W

UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名：書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

■要因

UJ 出力ファイルに書き込みしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10115-E

UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名：書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

■要因

UJ 出力ファイルに書き込みしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。書き込みできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10120-E

UAP 履歴情報取得中、領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO10121-E

UAP 履歴情報取得中、領域の増分に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO10123-E

UAP 履歴情報取得中、ロックの確保に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：Object Server の内部エラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、共用メモリのロックの確保に失敗しました。システム共通定義ファイルの `ujerror` パラメタの指定に従います。

■対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO10125-E

UAP 履歴情報取得中、ロックの解除に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：Object Server の内部エラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、共用メモリのロックの解除に失敗しました。システム共通定義ファイルの `ujerror` パラメタの指定に従います。

■対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10126-W

UAP 履歴情報取得中、UJ 出力ファイルのオープンに失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：オープンに失敗したシステム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの `open()` で発生したエラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの `ujfile` パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの `open()` でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10127-E

UAP 履歴情報取得中、UJ 出力ファイルのオープンに失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：オープンに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。システム共通定義ファイルの ujerror パラメタの指定に従います。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10128-W

UAP 履歴情報取得中、UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込みしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10129-E

UAP 履歴情報取得中、UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルを書き込みしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。システム共通定義ファイルの ujerror パラメタの指定に従います。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10130-W

UAP 履歴情報取得中、時刻の取得に失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：作成時刻の取得に失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとしたとき、システムコールの time() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10131-E

UAP 履歴情報取得中、時刻の取得に失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名: 作成時刻の取得に失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード: システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

UAP 履歴情報取得中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとしたとき、システムコールの time() でエラーが発生しました。システム共通定義ファイルの ujerror パラメタの指定に従います。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10132-W

UAP 履歴情報取得中、UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名: 書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

■要因

UJ 出力ファイルに書き込みしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。別の UJ 出力ファイルの処理を続行します。

KFXO10133-E

UAP 履歴情報取得中、UJ 出力ファイルの書き込みに失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX

UJ 出力ファイル名: 書き込みに失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

■要因

UJ 出力ファイルに書き込みしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。書き込みできる UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10140-W

UJ 出力ファイルのヘッダ作成中、時刻の取得に失敗しましたが処理を続行します。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名: 作成時刻の取得に失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード: システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

UJ 出力ファイルのヘッダ作成中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとしたとき、システムコールの time() でエラーが発生しました。別の UJ 出力ファイルがあるため、処理を続行します。

KFXO10141-E

UJ 出力ファイルのヘッダ作成中、時刻の取得に失敗しました。UJ 出力ファイル名=XX, エラーコード=YY

UJ 出力ファイル名：作成時刻の取得に失敗したシステム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

UJ 出力ファイルのヘッダ作成中、システム共通定義ファイルの ujfile パラメタに指定した UJ 出力ファイルの作成時刻を取得しようとしたとき、システムコールの time() でエラーが発生しました。UJ 出力ファイルがないため、処理を中止します。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10150-E

OMS システムが起動されていません。

■要因

Object Server が起動されていません。

■対処

Object Server が起動されていることを確認してから、再実行してください。

KFXO10151-E

共用メモリがアクセスできません。エラーコード=XX

エラーコード：Object Server の内部エラーコード

■要因

システムで使用する共用メモリがアクセスできません。

■対処

Object Server が起動されていることを確認してから、再実行してください。繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10152-E

UJ 出力ファイルのアンロードに失敗しました。ファイル名：XX, エラーコード=YY

ファイル名：アンロードしようとした UJ 出力ファイル名

エラーコード：システムコールの system() で発生したエラーコード

■要因

UJ 出力ファイルのアンロード時にシステムコールの system() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10153-E

UJ アンロード処理実行中、ロックの確保に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：Object Server の内部エラーコード

■要因

UJ アンロード処理実行中、共用メモリのロックの確保に失敗しました。

■対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10154-E

UJ アンロード処理実行中、ロックの解除に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：Object Server の内部エラーコード

■要因

UJ アンロード処理実行中、共用メモリのロックの解除に失敗しました。

■対処

エラーコードの詳細情報が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO10157-E

UJ 出力ファイル名とアンロード先ファイル名が重複しています。

■要因

[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティ、又は xodujunl コマンドに指定した UJ 出力ファイル名とアンロード先ファイル名が重複しています。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO10159-E

UJ 出力ファイルのアンロードに失敗しました。ファイル種別：XX

ファイル種別：アンロードしようとした UJ ファイル種別

n：正常用

e：異常用

■要因

システムコールの system() の cp でエラーが発生しました。

■対処

残りの記憶媒体の物理的なバイト数を調べ、UJ 出力ファイルのバイト数よりも多い空きを作成し、再実行してください。

KFXO10160-E

領域不足のため、メッセージが出力できませんでした。メッセージ番号：XX

メッセージ番号：出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

メモリ不足によりメッセージが出力できませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO10161-E

メッセージが出力できませんでした。エラーコード=XX, メッセージ番号:YY

エラーコード:内部矛盾の要因を表すエラーコード

メッセージ番号:出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

内部矛盾によりメッセージが出力できませんでした。

■対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO10162-E

UJ 出力ファイルの削除に失敗しました。ファイル名:XX, エラーコード=YY

ファイル名:削除しようとした UJ 出力ファイル名

エラーコード:システムコールの unlink()で発生したエラーコード

■要因

UJ 出力ファイルのアンロードができたため、UJ 出力ファイルを削除しようとしたとき、システムコールの unlink()でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO10163-I

UJ 出力ファイルのアンロードが終了しました。

■要因

[ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティ又は xodujunl コマンドでのアンロードが終了しました。

KFXO10164-I

OMS との接続に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード:エラーの発生した要因

■要因

OMS との接続に失敗しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中のエラーコードに対するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO10167-I

アンロード先ファイルが存在します。

■要因

xodujunl コマンドに指定したアンロード先ファイルは既に存在します。

■対処

既存のファイルを削除又は移動するか、あるいは使用していない別のファイル名を指定して再実行してください。

KFXO11000-E

使用方法：XX

使用方法：実行したコマンドの使用方法

■要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO11001-E

既に実行されています。コマンド名：XX

コマンド名：実行したコマンド名

■要因

このコマンドは既に実行されています。

KFXO11002-I

OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態になりました。

■要因

OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能です。

KFXO11003-I

OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除しました。

■要因

OMS稼働中のデータベースのバックアップはできません。

KFXO11004-E

コマンド(XX)が異常終了しました。

コマンド：異常終了したコマンド名

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーが発生したため、コマンドが異常終了しました。

■対処

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO11006-E

OMSが起動されていません。

■要因

OMSが起動されていないため、実行できませんでした。

■対処

OMS を起動してから、再実行してください。

KFXO11007-E

OMS の実行モードがアプリケーション実行モードではありません。

■要因

OMS をアプリケーション実行モードで起動していないため実行できません。

■対処

OMS をアプリケーション実行モードで起動し、再実行してください。

KFXO11008-E

コマンド(XX)がユーザの要求により中断されました。

コマンド：中断したコマンド名

■要因

ユーザの要求により、コマンドを中断しました。

中断したコマンド名が XOstrBK の場合：

XOstrBK コマンドの実行中に XOstpBK コマンドが投入されたため、XOstrBK コマンドの処理が中断しました。

KFXO11010-E

パラメタ値が不正です。オプション：XX

オプション：不正なパラメタ値を指定したオプション

■要因

パラメタ値が正しく設定されていません。

■対処

パラメタ値を正しく設定し、再実行してください。

KFXO11011-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：接続時に発生した詳細エラー番号

■要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11012-E

共用メモリの取得に失敗しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：取得失敗時の詳細エラー番号

■要因

共用メモリの取得に失敗しました。

■対処

OMS が起動しているか又は環境変数 XODDIR が正しいか確認してください。どちらでもない場合は、詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11013-E

メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：確保しようとした領域長(単位：バイト)

■要因

メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO11014-E

指定時間(XX)を超過したため強制終了しました。

指定時間：コマンド実行時に指定したタイムアウト時間(単位：秒)

■要因

指定時間を超過したため強制終了しました。

■対処

実行中のアプリケーションを終了して再実行してください。

KFXO11015-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを出力できません。理由コード：XX エラーコード：YY

理由コード：障害の内容を示す理由コード

エラーコード：出力失敗時のエラーコード

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを出力できません。

■対処

理由コードによって対策してください。理由コードが 999 以外はエラーコードを無視してください。

理由コード	意味	対処
1	稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションで指定したディレクトリが存在しません。	ディレクトリを作成してください。
2	稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションで指定したディレクトリにアクセス権限がありません。	アクセス権限を与えてください。
3	稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションで指定したディレクトリはローカルドライブではありません。	ローカルドライブを指定してください。

理由コード	意味	対処
5	稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションで指定したパスが正しくありません。	ドライブ名を含む絶対パスで指定してください。
999	—	エラーコード (errno) を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11016-I

稼働中バックアップバックアウトを開始します。

■要因

稼働中バックアップバックアウトを開始します。

KFXO11017-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルではありません。

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルではありません。

■対処

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを指定してください。

KFXO11018-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在しません。

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在しません。

■対処

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルを所定の場所に設定してください。

KFXO11019-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：オープン失敗時の詳細エラー番号

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11020-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：読み込み失敗時の詳細エラー番号

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11021-I

稼働中バックアップバックアウトコマンドが正常終了しました。

■要因

稼働中バックアップバックアウトコマンドが正常終了しました。

KFXO11022-E

稼働中バックアップバックアウトコマンドが異常終了しました。

■要因

稼働中バックアップバックアウトコマンドが異常終了しました。

■対処

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。このメッセージ以前にメッセージ「KFXO11024-E」が出力されている場合は、DB をバックアップから回復してください。出力されていない場合はDB をバックアップから回復する必要はありません。

KFXO11024-E

バックアウト処理で異常を検知しました。DB をバックアップから回復してください。

■要因

バックアウト処理で異常を検知しました。

■対処

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処し、DB をバックアップから回復してください。

KFXO11025-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。物理エリア名：XX ページ番号：YY エラーコード：ZZ

物理エリア名：回復情報を出力しようとした DB の物理エリア名

ページ番号：回復情報を出力しようとした DB のページ番号

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

稼働中バックアップ開始宣言コマンド実行中にエラーが出力された場合は、エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除き、コマンドを再実行してください。

上記以外でエラーが出力された場合は、バックアップを取得できます。したがって、エラーコードが示すエラーの要因を取り除いた後、バックアップの取得を続行してください。

KFXO11026-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルに書き込みをするとき、残っている又は記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除し、空き領域を作成してください。稼働中バックアップ開始宣言コマンド実行中にエラーが出力された場合は、空き領域を作成した後、コマンドを再実行してください。

上記以外でエラーが出力された場合は、バックアップを取得できます。したがって、空き領域を作成した後、バックアップの取得を続行してください。

KFXO11027-E

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在します。

■要因

稼働中バックアップ用ジャーナルファイルが存在します。

■対処

稼働中バックアップ開始宣言コマンドのジャーナルオプションを指定した場合は、指定したファイルを削除するか又はファイル名を変更してください。指定していない場合は、デフォルトのファイルを削除してください。

KFXO11028-E

OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態です。

■要因

OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態では実行できません。

■対処

バックアップの取得を続行してください。

KFXO11029-E

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO11030-W

OMS 稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態です。データベースへの更新を許可されていないため、停止しているプロセスがあります。

■要因

OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態であるため、データベースへの更新を許可されていません。

■対処

データベースのバックアップ後、OMS稼働中のデータベースのバックアップが可能な状態を解除してください。

(7) KFXO20000-KFXO29999

KFXO21000-E

OMS環境の初期化に失敗しました。原因対策をした上、サービスを再開してください。

■要因

サービスの開始処理中にOMS環境の初期化に失敗しました。サービスの開始を中止します。

■対処

前に出力された障害メッセージに従って対策してください。

KFXO21001-E

環境変数(XODDIR)の取得に失敗しました。

■要因

システム環境変数(XODDIR)の取得に失敗しました。サービスの開始を中止します。

■対処

システム環境変数(XODDIR)が正しく設定されていることを確認してください。なお、インストール直後の場合は、リブート後、サービスを開始してください。

KFXO21002-E

OMSシステムディレクトリの参照に失敗しました。関数名：XX：エラーコード=XX

関数名：エラーが発生した Win32API

エラーコード：エラーコード

■要因

OMSシステムディレクトリの参照に失敗しました。システム環境変数(XODDIR)が正しく設定されていないか、OMSシステムディレクトリが不正です。サービスの開始を中止します。

■対処

エラーの内容を対策し、再度サービスを開始してください。繰り返し発生する場合は、再インストールしてください。

KFXO21003-E

スタートアップパラメタが不正です。

■要因

サービス起動時のスタートアップパラメタの記述に誤りがあります。サービスの開始を中止します。

■対処

スタートアップパラメタを正しく指定し、再度サービスを開始してください。

KFXO21004-E

サービスでシステムコールエラーが発生しました。関数名：XX：エラーコード=XX

関数名：エラーが発生した Win32API 名。関数によっては付加情報有り

エラーコード：エラーコード (errno)

■要因

サービス制御で Win32API のシステムコールエラーが発生しました。サービスを終了します。

■対処

エラーの内容を対策し、再度サービスを開始してください。

KFXO21005-E

OMS 組み込みドライブに共用メモリのマップドファイルを作成するための十分な空きがありません。

■要因

Object Server 組み込みドライブに共用メモリのマップドファイルを作成するための十分な空きがありません。マップドファイルの容量は、システム共通定義の `static_shmpool_size`、及び `dynamic_shmpool_size` で指定した共用メモリサイズです。Object Server を異常終了します。

■対処

システム共通定義の `static_shmpool_size`、又は `dynamic_shmpool_size` を小さくするか、OMS 組み込みドライブに空き領域を確保してください。また、ほかに KFXO21007-W メッセージが出力されている場合は、このメッセージの処置に従ってください。

KFXO21006-E

仮想メモリに連続した空き領域がありません。

■要因

仮想メモリにシステム共通定義の `static_shmpool_size`、及び `dynamic_shmpool_size` で指定した共有メモリサイズ分の連続領域が確保できません。Object Server を異常終了します。

■対処

システム共通定義の `static_shmpool_size`、又は `dynamic_shmpool_size` を小さくしてください。

KFXO21007-W

他のプロセスがファイルを使用中のため、ファイルを削除できません。ファイル名=XX

ファイル名：削除できなかったファイル名

■要因

前回の Object Server の動作中に Object Server を使用していたプログラムが、終了していない可能性があります。

■対処

Object Server を使用するプログラムを終了させてください。

(8) KFXO30000-KFXO39999

KFXO30001-E

オブジェクト管理で異常を検知しました。理由コード=XX，詳細コード=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

理由コード：エラーの原因を示す内部コード

詳細コード：詳細コード

ファイル名：エラーが発生したファイル名

発生場所：エラーが発生したファイルの箇所

■要因

オブジェクト管理で内部矛盾を検出しました。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30002-E

コミット処理中にエラーが発生しました。理由コード=VV, 詳細コード=XX, 詳細エラー番号=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

理由コード：エラーの原因を示す内部コード

詳細コード：詳細コード

詳細エラー番号：発生したエラーの詳細エラー番号

ファイル名：エラーが発生したファイル名称

発生場所：エラーが発生したファイルの箇所

■要因

データベースのコミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO30003-E

指定された物理オブジェクト ID に対応するオブジェクトがデータベースに存在しません。又は物理オブジェクト ID の内容が不正です。物理オブジェクト ID=XX, 詳細コード=XX

物理オブジェクト ID：指定された物理オブジェクト ID

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

指定された物理オブジェクト ID に対応するオブジェクトがデータベースにありません。

■対処

データベースファイルを保存して、エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30004-E

OID インデックスから取得した物理オブジェクト ID による参照に失敗しました。OID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, 詳細コード=XX

物理オブジェクト ID：OID インデックスから取得した物理オブジェクト ID

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

OID インデックスから取得した物理オブジェクト ID が不正です。

■対処

データベースファイルを保存し、このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルも保存してください。

KFXO30005-E

オブジェクトの参照でエラーが発生しました。参照されたオブジェクト ID=XX, 参照元オブジェクト ID=XX, 参照元オブジェクト内のオフセット値=XX, 詳細コード=XX

参照されたオブジェクト ID: 参照に失敗したオブジェクト ID

参照元オブジェクト ID: 参照に失敗したオブジェクト ID を保持していたオブジェクトの ID

参照元オブジェクト内のオフセット値: 参照元オブジェクト内で、参照に失敗したオブジェクト ID を保持している領域を示すオフセットの値

詳細コード: エラーの要因を示す詳細コード

■要因

オブジェクトの参照でエラーが発生しました。

■対処

データベースファイルを保存して、このメッセージの内容を記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO30006-E

オブジェクト格納要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, エリア番号=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, サイズ=XX, クラスタリング用物理オブジェクト ID=XX, 詳細コード=XX

ファイル名: xo_sm_store()を発行しているファイル名

発生場所: xo_sm_store()を発行している行番号

エリア番号: 格納要求しているオブジェクトのエリア番号

タイプ番号: 格納要求しているオブジェクトの物理タイプ番号

OID: 格納要求しているオブジェクトの OID (ない場合はすべて 0)

サイズ: 格納要求しているオブジェクトのサイズ

クラスタリング用物理オブジェクト ID: クラスタリング指定 PID (ない場合はすべて 0)

詳細コード: エラーの要因を示す詳細コード

■要因

xo_sm_store()要求でエラーが返されました。

■対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30007-E

オブジェクト削除要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, 詳細コード=XX

ファイル名: xo_sm_delete()を発行しているファイル名

発生場所: xo_sm_delete()を発行している行番号

タイプ番号：削除要求しているオブジェクトの物理タイプ番号

OID：削除要求しているオブジェクトの OID (ない場合はすべて 0)

物理オブジェクト ID：削除要求しているオブジェクトの PID

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

xo_sm_delete() 要求でエラーが返されました。

■対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30008-E

オブジェクト ID インデクス削除要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, OID=XX, 詳細コード=XX

ファイル名：xo_sm_delete_oid() を発行しているファイル名

発生場所：xo_sm_delete_oid() を発行している行番号

OID：削除要求しているオブジェクトの OID

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

xo_sm_delete_oid() 要求でエラーが返されました。

■対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30009-E

オブジェクト ID インデクス追加要求でエラーが発生しました。ファイル名 = XX, 発生場所 = XX, OID = XX, 詳細コード = XX

ファイル名：xo_sm_add_oid() を発行しているファイル名

発生場所：xo_sm_add_oid() を発行している行番号

OID：追加要求しているオブジェクトの OID

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

xo_sm_add_oid() 要求でエラーが返されました。

■対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30010-E

オブジェクトサイズ変更あり更新要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, タイプ番号=XX, OID = XX, 物理オブジェクト ID=XX, 詳細コード=XX

ファイル名：xo_sm_amodify() を発行しているファイル名

発生場所：xo_sm_amodify() を発行している行番号

タイプ番号：更新要求しているオブジェクトの物理タイプ番号
 OID：更新要求しているオブジェクトの OID（ない場合はすべて 0）
 物理オブジェクト ID：更新要求しているオブジェクトの PID
 詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

xo_sm_amodify() 要求でエラーが返されました。

■対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30011-E

オブジェクト更新要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, 更新情報数=XX, 詳細コード=XX

ファイル名：xo_sm_pmodify() を発行しているファイル名
 発生場所：xo_sm_pmodify() を発行している行番号
 タイプ番号：更新要求しているオブジェクトの物理タイプ番号
 OID：更新要求しているオブジェクトの OID（ない場合はすべて 0）
 物理オブジェクト ID：更新要求しているオブジェクトの PID
 更新情報数：更新位置、データ等の更新情報の数
 詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

xo_sm_pmodify() 要求でエラーが返されました。

■対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30012-E

格納バッファフラッシュ要求でエラーが発生しました。ファイル名=XX, 発生場所=XX, 詳細コード=XX

ファイル名：xo_sm_buf_flush() を発行しているファイル名
 発生場所：xo_sm_buf_flush() を発行している行番号
 詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

xo_sm_buf_flush() 要求でエラーが返されました。

■対処

エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録してください。KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30013-E

ブランチ情報が不正です。ファイル名=XX, 発生場所=XX, エリア番号=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, サイズ=XX, ブランチ番号=XX, ブランチ位置=XX, ブランチ種別=XX, 次のブランチ情報位置=XX

ファイル名：矛盾を検出した処理が入っているファイル名
発生場所：矛盾を検出した処理のある行番号
エリア番号：矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号
タイプ番号：矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号
OID：矛盾を検出したオブジェクトのOID（ない場合はすべて0）
物理オブジェクトID：矛盾を検出したオブジェクトのPID（ない場合はすべて0）
サイズ：矛盾を検出したオブジェクトのサイズ
ブランチ番号：先頭からのブランチ情報順（0から開始）
ブランチ位置：矛盾を検出したブランチ情報のオフセット
ブランチ種別：矛盾を検出したブランチ情報の種別
次のブランチ情報位置：矛盾を検出したブランチ情報の次のブランチ情報へのオフセット

■要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで次のエラーが検出されました。

- ブランチ情報が不正
- 次のブランチ情報位置がオブジェクト領域から外れている

■対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録してください。KFXO30001-E 又は KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30014-E

最終ブランチ情報の位置情報が正しくありません。ファイル名=XX, 発生場所=XX, エリア番号=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, 物理オブジェクトID=XX, サイズ=XX, ヘッダ内最終ブランチ位置=XX, ブランチ位置=XX, ブランチ種別=XX, 次のブランチ情報位置=XX

ファイル名：矛盾を検出した処理が入っているファイル名
発生場所：矛盾を検出した処理のある行番号
エリア番号：矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号
タイプ番号：矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号
OID：矛盾を検出したオブジェクトのOID（ない場合はすべて0）
物理オブジェクトID：矛盾を検出したオブジェクトのPID（ない場合はすべて0）
サイズ：矛盾を検出したオブジェクトのサイズ
ヘッダ内最終ブランチ位置：オブジェクトヘッダ内に持つ最終ブランチ情報へのオフセット
ブランチ位置：矛盾を検出したブランチ情報のオフセット
ブランチ種別：矛盾を検出したブランチ情報の種別
次のブランチ情報位置：矛盾を検出したブランチ情報の次のブランチ情報へのオフセット

■要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで、オブジェクトヘッダ内の最終ブランチ情報への位置が指すブランチ情報が不正です。最終ブランチの次の位置情報がオブジェクトヘッダの位置を示すチェックも含まれます。

■対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録してください。KFXO30001-E 又は KFXO30002-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30016-E

格納しようとしたオブジェクトのオブジェクト識別子は既に存在します。ID=XX, タイプ番号=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

ID: 重複している OID

タイプ番号: 格納しようとしたオブジェクトのタイプ番号

ファイル名: xo_sm_add_oid()を発行しているファイル名

発生場所: xo_sm_add_oid()を発行している行番号

■要因

オブジェクト識別子が重複しています。

■対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力されている場合は、コアファイルも保持してください。KFXO30002-E 又は KFXO30018-E のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30017-E

オブジェクト管理で異常を検知しました。理由コード=XX, 詳細コード=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

理由コード: エラーの原因

詳細コード: エラーの要因を示す詳細コード

ファイル名: エラーが発生したファイル名

発生場所: エラーが発生したファイルの箇所

■要因

オブジェクト管理で異常を検知しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力前に別のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージも記録してください。

KFXO30018-E

コミット処理中にエラーが発生しました。理由コード=XX, 詳細コード=XX, 詳細エラー番号=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

理由コード: エラーの原因

詳細コード: エラーの要因を示すコード

詳細エラー番号: 発生したエラーの詳細エラー番号

ファイル名: エラーが発生したファイル名

発生場所: エラーが発生したファイルの箇所

■要因

オブジェクト管理で異常を検知しました。

■対処

詳細コード及び詳細エラー番号の対応方法を参照してください。このメッセージ出力前に別のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージも参照してください。

KFXO30019-E

オブジェクト内の矛盾を検知しました。オブジェクト ID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, オブジェクト種別=XX, オフセット位置=XX, 詳細コード=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

オブジェクト ID: 矛盾を検知したオブジェクトの OID

物理オブジェクト ID: 矛盾を検知したオブジェクトの物理オブジェクト ID

オブジェクト種別: 矛盾を検知したオブジェクトのオブジェクト種別

オフセット位置: 矛盾を検知したオブジェクト内のオフセット位置

詳細コード: エラーの要因を示す詳細コード

ファイル名: エラーが発生したファイル名

発生場所: エラーが発生したファイルの箇所

■要因

オブジェクト内の矛盾を検知しました。

■対処

データベースファイルを保存し、このエラーが発生するまでの操作、及びこのメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO30020-E

ブランチ情報が不正です。ファイル名=XX, 発生場所=XX, エリア番号=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, ブランチ番号=XX, ブランチ位置=XX, ブランチ種別=XX, ブランチ情報=XX

ファイル名: 矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所: 矛盾を検出した処理のある行番号

エリア番号: 矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号

タイプ番号: 矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号

OID: 矛盾を検出したオブジェクトの OID(ない場合はすべて 0)

物理オブジェクト ID: 矛盾を検出したオブジェクトの PID(ない場合はすべて 0)

ブランチ番号: 先頭からのブランチ情報順(0 から開始)

ブランチ位置: 矛盾を検出したブランチ情報のオフセット

ブランチ種別: 矛盾を検出したブランチ情報の種別

ブランチ情報: ブランチ情報のバイナリ表示

■要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで次の矛盾が検出されました。

- ブランチ情報が不正
- 次のブランチ情報位置がオブジェクト領域から外れている

■対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。KFXO30017-E, 又は KFXO30018-E のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30021-E

最終ブランチ情報の位置情報が正しくありません。ファイル名=XX, 発生場所=XX, エリア番号=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, ヘッダ内最終ブランチ位置=XX, ブランチ位置=XX, ブランチ種別=XX, ブランチ情報=XX

ファイル名：矛盾を検出した処理が入っているファイル名
 発生場所：矛盾を検出した処理のある行番号
 エリア番号：矛盾を検出したオブジェクトのエリア番号
 タイプ番号：矛盾を検出したオブジェクトの物理タイプ番号
 OID：矛盾を検出したオブジェクトの OID(ない場合はすべて 0)
 物理オブジェクト ID：矛盾を検出したオブジェクトの PID(ない場合はすべて 0)
 ヘッダ内最終ブランチ位置：オブジェクトヘッダ内に持つ最終ブランチ情報へのオフセット
 ブランチ位置：矛盾を検出したブランチ情報のオフセット
 ブランチ種別：矛盾を検出したブランチ情報の種別
 ブランチ情報：ブランチ情報のバイナリ表示

■要因

act 時又はコミット時のブランチ情報チェックで、オブジェクトヘッダ内の最終ブランチ情報への位置が指すブランチ情報が不正です。これは、最終ブランチの次の位置情報がオブジェクトヘッダの位置を示すチェックも含みます。

■対処

データベースファイルを保持し、エラーが発生するまでの操作、このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。KFXO30017-E, 又は KFXO30018-E のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30022-E

ブランチ情報に設定されている物理オブジェクト ID が不正です。ファイル名=XX, 発生場所=XX, 詳細コード=XX, タイプ番号=XX, OID=XX, ブランチ位置=XX, ブランチ種別=XX, ブランチ情報内の物理オブジェクト ID=XX

ファイル名：矛盾を検出した処理が入っているファイル名
 発生場所：矛盾を検出した処理の入っている行番号
 詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード
 タイプ番号：矛盾を検出したオブジェクトのタイプ番号
 OID：矛盾を検出したオブジェクトの OID
 ブランチ位置：矛盾を検出したブランチ情報のオフセット
 ブランチ種別：矛盾を検出したブランチ種別
 ブランチ情報内の物理オブジェクト ID：ブランチ情報が保持する物理オブジェクト ID

■要因

ブランチ情報に設定されている物理オブジェクト ID が不正です。

■対処

データベースファイルを保存し、ここのメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。KFXO30099-I, 又は KFXO41999-I のメッセージも出力されますので参照してください。

KFXO30023-E

ユニバーサル関連操作で矛盾を検知しました。関連 ID=XX, 関連種別=XX, 関連元オブジェクト ID=XX, 関連先オブジェクト ID=XX, 詳細エラーコード=XX, 物理オブジェクト ID=XX, オブジェクト種別=XX

関連 ID: 操作中のユニバーサル関連の関連 ID

関連種別: 操作中のユニバーサル関連の関連種別

関連元オブジェクト ID: 関連元オブジェクトの OID

関連先オブジェクト ID: 関連先オブジェクトの OID

詳細エラーコード: エラーの要因を示す詳細コード

物理オブジェクト ID: 矛盾を検知したシステムオブジェクトの物理オブジェクト ID

オブジェクト種別: 矛盾を検知したシステムオブジェクトのオブジェクト種別

■要因

ユニバーサル関連で矛盾を検知しました。

■対処

データベースファイルを保存し、このエラーが発生するまでの操作、及びこのメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。KFXO30001-E, 又は KFXO30017-E のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30024-E

ストリングオブジェクトの参照元オブジェクトが異なります。ファイル名=XX, 発生場所=XX, OID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, オフセット値=XX, ストリングオブジェクトの物理オブジェクト ID=XX, 参照元オブジェクトの OID=XX

ファイル名: 矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所: 矛盾を検出した処理の入っている行番号

OID: ストリングオブジェクトを保持しているオブジェクトの OID

物理オブジェクト ID: ストリングオブジェクトを保持しているオブジェクトの物理オブジェクト ID

オフセット値: ストリングオブジェクトを保持しているオブジェクト内の領域を示すオフセット値

ストリングオブジェクトの物理オブジェクト ID: ストリングオブジェクトの物理オブジェクト ID

参照元 OID: ストリングオブジェクトが保持する参照元オブジェクトの OID

■要因

ストリングが保持する参照元オブジェクトが本体オブジェクトと異なります。

■対処

データベースファイルを保存し、このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。KFXO30099-I, 又は KFXO41999-I のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30025-E

リストオブジェクトが不正です。ファイル名=XX, 発生場所=XX, 先頭 OID=XX, 先頭物理オブジェクト ID=XX, 物理オブジェクト ID=XX, 続きの物理オブジェクト ID=XX

ファイル名: 矛盾を検出した処理が入っているファイル名

発生場所: 矛盾を検出した処理の入っている行番号

先頭 OID: リストオブジェクトの先頭オブジェクトの OID

先頭物理オブジェクト ID：リストオブジェクトの先頭オブジェクトの物理オブジェクト ID

物理オブジェクト ID：矛盾を検知したリストオブジェクトの物理オブジェクト ID

続き物理オブジェクト ID：矛盾を検知したリストオブジェクトの続きリストオブジェクトの物理オブジェクト ID

■要因

リストオブジェクトが不正です。

■対処

データベースファイルを保存し、このエラーが発生するまでの操作、エラーログを保持して、システム管理者に連絡してください。KFXO30001-E、又は KFXO30017-E のメッセージが出力されますので参照してください。

KFXO30026-I

トランザクション情報：関連プログラム名=XX，ユーザ名=XX，付加情報=XX

関連プログラム名：このメッセージの前に出力しているメッセージを出力したトランザクションの関連プログラム名

ユーザ名：このメッセージの前に出力しているメッセージを出力したトランザクションのユーザ名

付加情報：トランザクション毎に関連プログラムが設定した付加情報（設定されていない場合は、何も出力しません）

■要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO30027-E

1 エリアに定義されたタイプの数が 1000 件を超えました。エリア名=XX

■要因

1 エリアに定義されたタイプの数が 1,000 件を超えました。

■対処

ほかのエリアに定義してください。又はエリア名に表示されたエリアの中の不要なタイプを削除してから、再実行してください。

エリア名が文書データベース用のとき、不要なフォーム文書データベースを削除してください。又は、文書データベース用にユーザデータベースのエリアを追加してください。

KFXO30028-E

1 エリアに定義されたインデックスの数が 2000 件を超えました。エリア名=XX

■要因

1 エリアに定義されたインデックスの数が 2,000 件を超えました。

■対処

ほかのエリアに定義してください。又はエリア名に表示されたエリアの中の不要なインデックスを削除してから、再実行してください。

エリア名が文書データベース用のとき、不要なフォーム文書データベースを削除してください。又は、文書データベース用にインデックスのエリアを追加してください。

KFXO30029-E

オブジェクト管理テーブルの不正を検知しました。OID=XX, PID=XX, タイプ番号=XX, オブジェクト管理テーブルの内容=XX

OID: 矛盾を検知したオブジェクト管理テーブルを持つオブジェクトのオブジェクト ID
PID: 矛盾を検知したオブジェクト管理テーブルを持つオブジェクトの物理オブジェクト ID
タイプ番号: 矛盾を検知したオブジェクト管理テーブルを持つオブジェクトの物理タイプ ID
オブジェクト管理テーブルの内容: 不正を検知したオブジェクト管理テーブルのバイナリ表示

■要因

オブジェクト管理テーブルで異常を検知しました。

■対処

このエラーが発生するまでの操作, エラーログ, 及びコアファイルを保持して, システム管理者に連絡してください。KFXO30001-E, 又は KFXO30017-E のメッセージが出力されるので参照してください。

KFXO30098-I

コンポジットオブジェクトの要素オブジェクト情報: 要素オブジェクト OID=XX, ブロック番号=XX, スロット番号=XX, 先頭ブロック OID=XX, ブロック PID=XX, コンポジットオブジェクト制御情報=XX

要素オブジェクト OID: コンポジットオブジェクトの要素オブジェクトのオブジェクト ID(ない場合はすべて 0)

ブロック番号: 要素オブジェクトのブロック番号 (1 から開始)

スロット番号: 要素オブジェクトのスロット番号 (0 から開始)

先頭ブロック OID: コンポジットオブジェクトの先頭ブロックのオブジェクト ID

ブロック PID: 要素オブジェクトを保持するブロックの物理オブジェクト ID

コンポジットオブジェクト制御情報: 要素オブジェクトを保持するブロックのコンポジットオブジェクト制御情報

■要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。このメッセージは, 前に出力しているメッセージの内容がコンポジットオブジェクトに関係がある場合の付加メッセージとして出力します。

KFXO30099-I

物理オブジェクト ID 情報: 物理オブジェクト ID=XX, エリア名=XX, エリア番号=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX

物理オブジェクト ID: このメッセージの前に出力しているメッセージに関連のある物理オブジェクト ID
エリア名: 物理オブジェクト ID に対応するエリア名 (エリア名が特定できないときは, "*****" を表示する)

エリア番号: 物理オブジェクト ID に対応するエリア番号

ページ ID: 物理オブジェクト ID に対応するページ ID

スロット番号: 物理オブジェクト ID に対応するスロット番号

■要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO30100-I

オブジェクト保守情報：OID=XX, PID=XX, タイプ番号=XX, 詳細コード=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

OID：オブジェクト ID
 PID：物理オブジェクト ID
 タイプ番号：物理タイプ ID
 詳細コード：詳細コード
 ファイル名：ファイル名称
 発生場所：ファイルの箇所

■要因

オブジェクト管理保守情報。

KFXO30101-I

関連保守情報：関連元 OID=XX, 関連先 OID=XX, RL=XX, 関連 ID=XX, 関連種別=XX, 詳細コード=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

関連元 OID：関連元オブジェクト ID
 関連先 OID：関連先オブジェクト ID
 RL：RL のオブジェクト ID
 関連 ID：関連 ID
 関連種別：関連種別
 詳細コード：詳細コード
 ファイル名：ファイル名称
 発生場所：ファイルの箇所

■要因

オブジェクト管理保守情報。

KFXO30200-W

コミット処理中にエラーが発生したため、トランザクションをロールバックしました。詳細コード=XX, 詳細エラー番号=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

詳細コード：ロールバック原因のエラーコード
 詳細エラー番号：ロールバック原因の詳細エラー番号
 ファイル名：エラーが発生したファイル名称
 発生場所：エラーが発生したファイルの箇所

■要因

コミット処理中にエラーが発生したため、トランザクションをロールバックしました。

■対処

必要であれば詳細コード、及び詳細エラー番号からロールバックの原因を取り除いてください。このメッセージ出力前に別のメッセージが出力されている場合は、参照してください。

KFXO38001-W

常駐指定の構文に誤りがあります。ファイル名=XX, 行番号=XX

ファイル名：エラーの発生したシステム共通定義ファイルの名称

行番号：エラーの発生した行番号

■要因

システム共通定義ファイル中の常駐指定の構文に誤りがあります。

■対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合、システム管理者に連絡してください。

KFXO38002-W

常駐指定されたスキーマ名に誤りがあります。スキーマ名=XX

スキーマ名：指定されたスキーマ名

■要因

システム共通定義ファイルで常駐指定されたスキーマ名は、作成済みのスキーマの名称と異なります。

■対処

常駐したい場合は、システム共通定義ファイルを訂正し、システムを再起動してください。常駐しなくてもよい場合は、対処する必要はありません。次のシステム起動までにシステム共通定義ファイルを訂正してください。

KFXO38003-W

常駐指定されたタイプが常駐可能なタイプではありません。スキーマ名=XX，タイプ名=XX

スキーマ名：指定されたスキーマ名

タイプ名：指定されたタイプ名

■要因

システム共通定義ファイルで常駐指定されたタイプが常駐可能なタイプではありません。

■対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38004-W

常駐指定されたタイプが定義されていません。スキーマ名=XX，タイプ名=XX

スキーマ名：指定されたスキーマ名

タイプ名：指定されたタイプ名

■要因

システム共通定義ファイルで常駐指定されたタイプが定義されていません。

■対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38005-E

常駐指定タイプの検索中に異常を検知しました。詳細コード=XX，詳細エラー番号=XX，ファイル名=XX，発生場所=XX

詳細コード：詳細コード

詳細エラー番号：詳細エラー番号

ファイル名：エラーが発生したファイル名称

発生場所：エラーが発生したファイルの箇所

■要因

常駐指定タイプの検索中にオブジェクト管理で内部矛盾を検知しました。

■対処

データベースファイルを保存して、エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO38006-W

常駐指定タイプの検索を正常に処理することができませんでした。詳細コード=XX, 詳細エラー番号=XX, ファイル名=XX, 発生場所=XX

詳細コード：詳細コード

詳細エラー番号：詳細エラー番号

ファイル名：エラーが発生したファイル名称

発生場所：エラーが発生したファイルの箇所

■要因

常駐指定タイプの検索を正常に処理できませんでした。

■対処

データベースファイルを保存して、エラーが発生するまでの操作と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO38007-W

常駐するオブジェクトのタイプが定義されていますが、常駐化ページプールが定義されていません。常駐化ページプールの用途=XX

常駐化ページプールの用途：指定した常駐化ページプールの用途

■要因

常駐するオブジェクトのタイプが定義されていますが、用途の一致した常駐化ページプールが定義されていません。

■対処

常駐したい場合は、用途の一致した常駐化ページプールをシステム共通定義ファイルに記述し、システムを再起動してください。常駐しなくてもよい場合は、対処する必要はありません。次回のシステム起動までに、システム共通定義ファイルを訂正してください。常駐対象にしないときは、常駐するオブジェクトのタイプ指定をシステム共通定義ファイルから外してください。

KFXO38008-W

常駐化ページプールが定義されていますが、常駐するオブジェクトのタイプが指定されていません。常駐化ページプールの用途=XX

常駐化ページプールの用途：指定した常駐化ページプールの用途

■要因

常駐化ページプールの用途と一致するタイプの常駐が定義されていません。

■対処

常駐したい場合は、常駐するオブジェクトのタイプをシステム共通定義ファイルに記述し、システムを再起動してください。常駐しなくてもよい場合は、対処する必要はありません。次のシステム起動までに、システム共通定義ファイルを訂正してください。常駐対象にしないときは、常駐化ページプールの用途に示す常駐化ページプールの定義をシステム共通定義ファイルから外してください。

KFXO38009-W

常駐指定のタイプ数が制限を超えています。最大数：XX

最大数：常駐指定可能なタイプ数の最大

■要因

常駐指定のタイプ数が制限を超えています。

■対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38010-E

定義解析処理でメモリ不足が発生しました。

■要因

定義解析処理中にメモリ不足が発生したため処理を打ち切りました。

■対処

以下の対処方法のどれかを実施してください。

- 必要のないプロセスを停止してください。
- UAP で必要のないエリアを確保していないか見直してください。
- システム定義を見直してください。
- システムのスワップ領域を追加してください。
- 主記憶装置を増設してください。

KFXO38011-E

常駐指定タイプが重複しています。タイプ名 = XX

タイプ名：重複しているタイプ名

■要因

システム共通定義ファイル内の常駐指定タイプが重複しています。

■対処

指定方法に間違いがないかチェックしてください。間違いがない場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO38012-E

定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

■要因

定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を打ち切りました。

■対処

作業を打ち切り、サーバを終了させてシステム管理者に連絡してください。

(9) KFXO40000-KFXO49999

KFXO40008-E

スロット値がページの範囲外です。物理タイプ ID=AA, ファイル名=BB, ページ番号=CC, スロット番号=DD

物理タイプ ID: 物理オブジェクトの物理タイプ ID

ファイル名: 不正を検知したページの存在するファイル名

ページ番号: 不正を検知したページのページ番号

スロット番号: 不正を検知したスロットのスロット番号

■要因

スロット値がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、%XODDIR%\\$pool ディレクトリの下
の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40009-E

ページの物理順スキャン処理において、スロットの不正を検知しました。スロット値はページの範囲外です。物理タイプ ID=AA, ファイル名=BB, ページ番号=CC, スロット番号=DD

物理タイプ ID: 物理オブジェクトの物理タイプ ID

ファイル名: 不正を検知したページの存在するファイル名

ページ番号: 不正を検知したページのページ番号

スロット番号: 不正を検知したスロットのスロット番号

■要因

次の要因が考えられます。エラーの詳細情報は、%XODDIR%\\$pool ディレクトリの下
の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

1. スロット値が ZCT2 長未満である。
2. スロット値が 8192-ZC T 1 長 - スロット長 * 割り当てスロット数で計算される値より大きい。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40010-E

ページの物理順スキャン処理において、スロットの不正を検知しました。ページ上の物理オブジェクトの終端がページの範囲外です。物理タイプ ID=AA, ファイル名=BB, ページ番号=CC, スロット番号=DD

物理タイプ ID: 物理オブジェクトの物理タイプ ID

ファイル名: 不正を検知したページの存在するファイル名

ページ番号: 不正を検知したページのページ番号

スロット番号: 不正を検知したスロットのスロット番号

■要因

ページ上の物理オブジェクトの終端がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、%XODDIR%
¥spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40120-E

ジャーナル不正を検知しました。物理オブジェクト ID のエリア番号、ページ ID、スロット番号のいずれかが NULL です。エリア番号=AA, ページ ID=BB, スロット番号=CC, 回復操作=DD

エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

回復操作：回復処理の操作を示す

■要因

次の要因が考えられます。

1. エリア番号が NULL
2. ページ ID が NULL
3. スロット番号が NULL

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40121-E

ジャーナル不正を検知しました。物理オブジェクトサイズが P 形式のサイズ (16 バイト) 未満になっています。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, オブジェクトサイズ=EE, 回復操作=FF

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

オブジェクトサイズ：ジャーナルレコード中のオブジェクトサイズ (バウンダリ調整前のサイズ)

回復操作：回復処理の操作を示す

■要因

amodify 対象の物理オブジェクトサイズが P 形式のサイズ (16 バイト) 未満になっています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40123-E

ジャーナル不正を検知しました。ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号が NULL です。エリア番号=XX, ページ ID=YY, 回復操作=ZZ

エリア番号：FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）中のエリア番号
 ページ ID：FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）中のページ ID
 回復操作：回復処理の操作を示す

■要因

FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）のエリア番号が NULL です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40124-E

ジャーナル不正を検知しました。ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のページ ID が NULL です。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, 回復操作=DD

エリア名：FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）のエリア番号から得られるエリア名
 エリア番号：FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）のエリア番号
 ページ ID：FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）のページ ID
 回復操作：回復処理の操作

■要因

FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）のページ ID が NULL です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40125-E

ジャーナル不正を検知しました。当該更新データサイズが総更新データサイズを超えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, 更新データカウンタ=EE, 更新データサイズ=FF, 総更新データサイズ=GG, 回復操作=HH

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名
 エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号
 ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID
 スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号
 更新データカウンタ：部分更新するデータのカウンタ（初期値は 0）
 更新データサイズ：部分更新するデータのサイズ
 総更新データサイズ：部分更新する総データサイズ
 回復操作：回復処理の操作

■要因

更新データサイズが総更新データサイズを超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40126-E

回復処理中にジャーナル不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ(16バイト)未満,又はページ長を越えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプID=CC, ページID=DD, スロット番号=EE, 物理オブジェクト長=FF, 回復操作=GG

エリア名: ジャーナルレコード中のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号: ジャーナルレコード中のエリア番号

物理タイプID: 物理オブジェクトの物理タイプID

ページID: ジャーナルレコード中のページID

スロット番号: ジャーナルレコード中のスロット番号

物理オブジェクト長: ジャーナルレコード中の物理オブジェクト長 (バウンダリ調整前のサイズ)

回復操作: 回復処理の操作

■要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長がP形式のサイズ(16バイト)未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

■対処

このメッセージの内容を記録して,システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は, コアファイルを保存してください。

KFXO40130-E

ジャーナルとDBの内容が不一致です。物理オブジェクトIDのエリア番号は常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか,常駐エリア情報エントリ中のエリア番号と不一致です。エリア番号=AA, ページID=BB, スロット番号=CC, 回復操作=DD

エリア番号: ジャーナルレコード中の物理オブジェクトIDから得られるエリア番号

ページID: ジャーナルレコード中の物理オブジェクトIDから得られるページID

スロット番号: ジャーナルレコード中の物理オブジェクトIDから得られるスロット番号

回復操作: 回復処理の操作

■要因

データベースの回復ユティリティ(xodbrstr コマンド)で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ(xodbrecv コマンド)ですべて指定されていないか,複数回に分けてデータベース回復ユティリティ(xodbrecv コマンド)を実行している場合,アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユティリティ(xodbkout コマンド)で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し,データベース回復ユティリティ(xodbrstr コマンド)から再実行してください。

KFXO40131-E

ジャーナルとDBの内容が不一致です。物理オブジェクトIDに該当する物理オブジェクトがページ内に存在しません。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページID=CC, スロット番号=DD, 割り当てスロット数=EE, 回復操作=FF

エリア名: ジャーナルレコード中の物理オブジェクトIDのエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号
 ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID
 スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号
 割り当てスロット数：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号
 回復操作：回復処理の操作

■要因

データベースの回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユーティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40132-E

ジャーナルと DB の内容が不一致です。物理オブジェクト ID に該当する物理オブジェクトが既にページ内に存在します。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, 割り当てスロット数=EE, 回復操作=FF

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名
 エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号
 ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID
 スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号
 割り当てスロット数：物理オブジェクト ID に該当するページに割り当てられているスロット数
 回復操作：回復処理の操作

■要因

データベースの回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユーティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40133-E

ジャーナルと DB の内容が不一致です。ページのコンパクションを行ないましたが、ページ中に物理オブジェクトの更新に必要な空き領域を確保できませんでした。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, オブジェクトサイズ=EE, 空き領域サイズ=FF, 回復操作=GG

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名
 エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号
 ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID
 スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

オブジェクトサイズ：全更新対象の物理オブジェクトサイズ（バウンダリ調整後のサイズ）

空き領域サイズ：データページ制御情報内の空き領域サイズ

回復操作：回復処理の操作

■要因

データベースの回復ユーティリティ（xodbrstr コマンド）で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユーティリティ（xodbrecv コマンド）ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユーティリティ（xodbrecv コマンド）を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユーティリティ（xodbkout コマンド）で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユーティリティ（xodbrstr コマンド）から再実行してください。

KFXO40134-E

ジャーナルと DB の内容が不一致です。ファイルジャーナルレコードヘッダ（FJN）のエリア番号が常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか、常駐エリア番号情報エントリ中のエリア番号と不一致です。エリア番号=XX, ページ ID=YY, 回復操作=ZZ

エリア番号：FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）のエリア番号

ページ ID：FJN（ファイルジャーナルレコードヘッダ）のページ ID

回復操作：回復処理の操作を示す

■要因

データベースの回復ユーティリティ（xodbrstr コマンド）で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユーティリティ（xodbrecv コマンド）ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユーティリティ（xodbrecv コマンド）を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユーティリティ（xodbkout コマンド）で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユーティリティ（xodbrstr コマンド）から再実行してください。

KFXO40135-E

ジャーナルと DB の内容が不一致です。コンパクション後に補間スロットの作成のための領域が確保できません。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, オブジェクトサイズ=EE, 空き領域サイズ=FF, 回復操作=GG

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

オブジェクトサイズ：全更新対象の物理オブジェクトサイズ（バウンダリ調整後のサイズ）

空き領域サイズ：データページ制御情報内の空き領域サイズ

回復操作：回復処理の操作

■要因

データベースの回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユーティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40136-E

ジャーナルと DB の内容が不一致です。データベース上の物理オブジェクトサイズとジャーナルレコードの部分更新データ情報のオフセットが不整合です。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, 更新データカウンタ=EE, 更新データサイズ=FF, 更新データ先頭オフセット=GG, 更新データ最終オフセット=HH, 更新前オブジェクトサイズ=II, 回復操作=JJ

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

更新データカウンタ：部分更新するデータのカウンタ

更新データサイズ：部分更新するデータのサイズ

更新データ先頭オフセット：部分更新するデータの先頭オフセット

更新データ最終オフセット：部分更新するデータの最終オフセット

更新前オブジェクトサイズ：部分更新する前のオブジェクトサイズ

回復操作：回復処理の操作

■要因

データベースの回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユーティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40137-E

ジャーナルと DB の内容が不一致です。サイズ縮小全更新処理のロールバック回復のため、DB ページ上の該当オブジェクトのページ内オフセットからジャーナルレコード上のオブジェクトサイズ分だけ更新するとページの範囲外を更新することになります。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, スロット値=EE, 更新前オブジェクトサイズ=FF, 更新後オブジェクトサイズ=GG, 回復操作=HH

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

スロット値：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号のスロット値
更新前オブジェクトサイズ：スロット値の示すデータベース上の更新前オブジェクトサイズ
更新後オブジェクトサイズ：ジャーナルレコード中の更新後オブジェクトサイズ
回復操作：回復処理の操作

■要因

データベースの回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユーティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユーティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO40140-E

回復処理中にページ不正を検知しました。物理オブジェクト ID から求められたスロット値はページの有効範囲外です。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, スロット値=EE, 割り当てスロット数=FF, 回復操作=GG

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名
エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号
ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID
スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号
スロット値：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号のスロット値
割り当てスロット数：物理オブジェクト ID に該当するページに割り当てられているスロット数
回復操作：回復処理の操作

■要因

次の要因が考えられます。

1. スロット値が ZCT2 長未満である
2. スロット値が 8192-ZCT1 長-スロット長*割り当てスロット数で計算される値より大きい

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40141-E

回復中にページ不正を検知しました。ページ上の回復対象物理オブジェクトのサイズがページの範囲を超えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, ページ ID=CC, スロット番号=DD, スロット値=EE, 更新前オブジェクトサイズ=FF, 更新後オブジェクトサイズ=GG, 回復操作=HH

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名
エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号
ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID
スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号
スロット値：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロットのスロット値

更新前オブジェクトサイズ：スロット値の示すデータベース上の更新前オブジェクトサイズ

更新後オブジェクトサイズ：ジャーナルレコード中の更新後オブジェクトサイズ

回復操作：回復処理の操作

■要因

ページ上の回復対象物理オブジェクトのサイズがページの範囲を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40142-E

回復処理中にページ不正を検知しました。物理オブジェクト ID から求められた物理オブジェクト長は P 形式のサイズ (16 バイト) 未満、又はページ長を超えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプ ID=CC, ページ ID=DD, スロット番号=EE, 物理オブジェクト長=FF, 回復操作=GG

エリア名：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるページ ID

スロット番号：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号

物理オブジェクト長：ジャーナルレコード中の物理オブジェクト ID から得られるスロット番号の物理オブジェクト長 (バウンダリ調整前のサイズ)

回復操作：回復処理の操作

■要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40150-E

データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、ページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を超えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプ ID=CC, ページ ID=DD, 転送先の先頭オフセット値=EE, 物理オブジェクト長=FF

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

転送先の先頭オフセット値：データ操作作業領域の先頭アドレスからのオフセット

物理オブジェクト長：転送しようとした物理オブジェクトの物理オブジェクト長 (バウンダリ調整後のサイズ)

■要因

データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、ページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を超えています。エラーの詳細情報（データ操作作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下 の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40151-E

データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長がP形式のサイズ（16バイト）未満です。エリア名=AA，エリア番号=BB，物理タイプID=CC，ページID=DD，スロット番号=EE，物理オブジェクト長=FF

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプID：物理オブジェクトの物理タイプID

ページID：不正を検知したページのページID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長：不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長（バウンダリ調整後のサイズ）

■要因

データページのコンパクション処理の物理オブジェクト転送時、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長がP形式のサイズ（16バイト）未満です。エラーの詳細情報は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下 の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40152-E

データページのコンパクション処理の未使用エリアの初期化時、ページの不正を検知しました。データ操作作業領域上に作成されたコンパクション後のページの未使用エリア先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を超えています。エリア名=AA，エリア番号=BB，物理タイプID=CC，ページID=DD，未使用エリア先頭オフセット=EE，未使用エリア長=FF

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプID：物理オブジェクトの物理タイプID

ページID：不正を検知したページのページID

未使用エリア先頭オフセット：データ操作作業領域上の未使用エリア先頭オフセット

未使用エリア長：データ操作作業領域上の未使用エリア長

■要因

データページのコンパクション処理の未使用エリアの初期化時、ページの不正を検知しました。データ操作作業領域上に作成されたコンパクション後のページの未使用エリア先頭オフセット又は終端オフセットがデータ操作作業領域の終端を超えています。エラーの詳細情報（データ操作作業領域上のペー

ジ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容) は、%XODDIR%\\$pool ディレクトリの下
の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファ
イルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40160-E

オブジェクトの削除において、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長は P 形式のサイズ
(16 バイト) 未満、又はページ長を越えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプ ID=CC, ペ
ージ ID=DD, スロット番号=EE, 物理オブジェクト長=FF

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長：不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長 (バウンダリ調整前のサイ
ズ)

■要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファ
イルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40161-E

オブジェクトの部分更新において、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長は P 形式のサ
イズ (16 バイト) 未満、又はページ長を越えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプ ID=CC,
ページ ID=DD, スロット番号=EE, 物理オブジェクト長=FF

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長：不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長 (バウンダリ調整前のサイ
ズ)

■要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40162-E

オブジェクトの全体更新において、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ(16バイト)未満、又はページ長を越えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプID=CC, ページID=DD, スロット番号=EE, 物理オブジェクト長=FF

エリア名: 当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号: 当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプID: 物理オブジェクトの物理タイプID

ページID: 不正を検知したページのページID

スロット番号: 不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長: 不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長(バウンダリ調整前のサイズ)

■要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長がP形式のサイズ(16バイト)未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40165-E

オブジェクトのフェッチにおいて、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長はP形式のサイズ(16バイト)未満、又はページ長を越えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプID=CC, ページID=DD, スロット番号=EE, 物理オブジェクト長=FF

エリア名: 当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号: 当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプID: 物理オブジェクトの物理タイプID

ページID: 不正を検知したページのページID

スロット番号: 不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長: 不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長(バウンダリ調整前のサイズ)

■要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長がP形式のサイズ(16バイト)未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40166-E

タイプスキャンにおいて、物理オブジェクト長の不正を検知しました。物理オブジェクト長は P 形式のサイズ (16 バイト) 未満、又はページ長を越えています。エリア名=AA, エリア番号=BB, 物理タイプ ID=CC, ページ ID=DD, スロット番号=EE, 物理オブジェクト長=FF

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

物理オブジェクト長：不正を検知した物理オブジェクトの物理オブジェクト長 (バウンダリ調整前のサイズ)

■要因

次の要因が考えられます。

1. 物理オブジェクト長が P 形式のサイズ (16 バイト) 未満である。
2. 物理オブジェクト長がページ長を超えている。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40401-E

エリア中のデータページが不足しました。エリア名 = XX

エリア名：当該エリア名

■要因

オブジェクトの挿入又は更新時に、エリアの増分に失敗しました。さらに、エリア中のすべてのデータページにも、領域不足のため挿入又は更新処理ができません。

■対処

エリアを拡張してください。

詳細は、このマニュアル内の「付録 D.6 KFXO40401-E, KFXO40402-E メッセージの対処」を参照してください。

KFXO40402-E

エリア中のインデクスページが不足しました。エリア名 = XX

エリア名：当該エリア名

■要因

インデクスに対する、キーの追加又は更新時に、エリアの増分に失敗しました。さらに、エリア中のすべてのインデクスページにも、領域不足のため挿入又は更新処理ができません。

■対処

エリアを拡張してください。

詳細は、このマニュアル内の「付録 D.6 KFXO40401-E, KFXO40402-E メッセージの対処」を参照してください。

KFXO40411-E

物理オブジェクトの挿入処理（当該ページの割り当てスロット数が割り当て可能最大スロット数と等しい，又はP形式の物理オブジェクト長の空き領域がない）において，ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
物理タイプID：物理オブジェクトの物理タイプID
ページID：当該ページのページID

■要因

物理オブジェクトの挿入処理（当該ページの割り当てスロット数が割り当て可能最大スロット数と等しい，又はP形式の物理オブジェクト長の空き領域がない）で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO40412-E

物理オブジェクトの挿入処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）において，ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
物理タイプID：物理オブジェクトの物理タイプID
ページID：当該ページのページID

■要因

物理オブジェクトの挿入処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO40413-E

物理オブジェクト挿入でのページ更新処理において，ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプID=XX，ページID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
物理タイプID：物理オブジェクトの物理タイプID
ページID：当該ページのページID

■要因

物理オブジェクト挿入でのページ更新処理で、ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40414-E

物理オブジェクトの削除処理において、ページ使用率管理ビットの更新要求（空き有）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプ ID=XX，ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクトの削除処理で、ページ使用率管理ビットを空き有に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40415-E

物理オブジェクトの全体又は部分更新でのページ更新処理において、ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプ ID=XX，ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクトの全体又は部分更新でのページ更新処理で、ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40416-E

物理オブジェクト挿入（ロードモード）処理（当該ページの割り当てスロット数が割り当て可能最大スロット数と等しい、又はP形式の物理オブジェクト長の空き領域がない）において、ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプ ID=XX，ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクト挿入（ロードモード）処理（当該ページの割り当てスロット数が割り当て可能最大スロット数と等しい，又は P 形式の物理オブジェクト長の空き領域がない）で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO40417-E

物理オブジェクト挿入（ロードモード）処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）において，ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプ ID=XX，ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクト挿入（ロードモード）処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO40418-E

物理オブジェクト挿入のためのページサーチ処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）において，ページ使用率管理ビットの更新要求（満杯）がエラーリターンしました。要因：当該ページは未使用状態 エリア名=XX，エリア番号=XX，物理タイプ ID=XX，ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクト挿入のためのページサーチ処理（当該ページに物理オブジェクトを挿入するだけの空き領域がない）で，ページ使用率管理ビットを満杯に更新しようとしたが，当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し，システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後，コアファイルが出力された場合は，コアファイルを保存してください。

KFXO40421-E

物理オブジェクトの全体更新での物理オブジェクト削除処理において、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクトの全体更新での物理オブジェクト削除処理で、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40422-E

物理オブジェクトの削除処理 (P 形式の物理オブジェクト削除後のページが空) において、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクトの削除処理 (P 形式の物理オブジェクト削除後のページが空) で、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40423-E

物理オブジェクトの削除処理 (P 形式以外の物理オブジェクト削除後のページが空) において、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

物理オブジェクトの削除処理 (P 形式以外の物理オブジェクト削除後のページが空) で、ページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40431-E

ページの物理順スキャン処理において、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

先頭セグメントの先頭ページ ID：当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID

■要因

ページの物理順スキャン処理で、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40432-E

ページの物理順スキャン処理において、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

ファイルの最終ページ ID：当該ファイルの最終ページ ID

■要因

ページの物理順スキャン処理で、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40433-E

ページの物理順スキャン処理において、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

ファイル番号：当該ページのファイル番号

エリア内最大ファイル番号：エリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号

■要因

ページの物理順スキャン処理で、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40434-E

ページの物理順スキャン処理において、取得したページが空ページであった時、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

先頭セグメントの先頭ページ ID：当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID

■要因

ページの物理順スキャン処理で、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40435-E

ページの物理順スキャン処理において、取得したページが空ページであった時、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

ファイルの最終ページ ID：当該ファイルの最終ページ ID

■要因

ページの物理順スキャン処理で、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40436-E

ページの物理順スキャン処理において、取得したページが空ページであった時、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

ファイル番号：当該ページのファイル番号

エリア内最大ファイル番号：エリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号

■要因

ページの物理順スキャン処理で、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40437-E

タイプスキャンにおいて、取得したページが空ページであった時、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

先頭セグメントの先頭ページ ID：当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID

■要因

タイプスキャンで、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40438-E

タイプスキャンにおいて、取得したページが空ページであった時、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

ファイルの最終ページ ID：当該ファイルの最終ページ ID

■要因

タイプスキャンで、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40439-E

タイプスキャンにおいて、取得したページが空ページであった時、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

ファイル番号：当該ページのファイル番号

エリア内最大ファイル番号：エリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号

■要因

タイプスキャンで、取得したページが空ページであったとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40440-E

タイプスキャンにおいて、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがない時、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

ページ ID：当該ページのページ ID

先頭セグメントの先頭ページ ID：当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID

■要因

タイプスキャンで、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがないとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの先頭セグメントの先頭ページ ID 以下です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40441-E

タイプスキャンにおいて、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがない時、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID
ページ ID：当該ページのページ ID
ファイルの最終ページ ID：当該ファイルの最終ページ ID

■要因

タイプスキャンで、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがないとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ページ ID が当該ファイルの最終ページ ID を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40442-E

タイプスキャンにおいて、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがない時、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=XX, エリア番号=XX, 物理タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID
ページ ID：当該ページのページ ID
ファイル番号：当該ページのファイル番号
エリア内最大ファイル番号：エリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号

■要因

タイプスキャンで、要求 ID 数分のオブジェクトを取得していない、又はページに該当するオブジェクトがないとき、カレントページ ID の不正を検知しました。ファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO40501-E

インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：確保しようとした領域長(単位：バイト)

■要因

インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO41001-E

ディレクトリに不正があります。要因：未使用の STMB 中にセグメント管理情報存在 エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX タイプ・インデクス ID = XX セグメント ID = XX ファイル名= XX

エリア名：不正なディレクトリが存在するエリア名

エリア番号：不正なディレクトリが存在するエリアの番号

ページ ID：不正なディレクトリのページ ID

タイプ・インデクス ID：STMP 中のタイプ又はインデクス ID

ファイル名：不正を検知したファイル名

■要因

未使用の STMB にセグメント管理情報が存在します。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41002-E

ディレクトリに不正があります。要因：STMB 中の次セグメント ID 不正 エリア名= XX エリア番号= XX タイプ・インデクス ID = XX 次セグメント ID = XX

エリア名：不正なディレクトリが存在するエリア名

エリア番号：不正なディレクトリが存在するエリアの番号

タイプ・インデクス ID：タイプ又はインデクス ID

次セグメント ID：STMB 中のセグメント ID

■要因

同一タイプ又はインデクスの STMB 検索中に STMB 中の次セグメント ID の不正を検出しました。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41003-E

ディレクトリに不正があります。要因：ARTM 中の先頭または最終セグメント ID 不正 エリア名=XX エリア番号=XX ページ ID=XX タイプ ID=XX 先頭セグメント ID=XX 最終セグメント ID=XX

エリア名：不正なディレクトリが存在するエリア名

エリア番号：不正なディレクトリが存在するエリアの番号

ページ ID：不正なディレクトリのページ ID

タイプ ID：タイプ又はインデクス ID

先頭セグメント ID：タイプの先頭セグメント ID

最終セグメント ID：タイプの最終セグメント ID

■要因

メッセージに示したタイプの先頭セグメント ID, 又は最終セグメント ID が 0 になっています。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41004-E

ディレクトリに不正があります。要因:SBMB に空きセグメントが存在するにもかかわらず該当ページが使用中
エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX セグメント ID = XX ファイル名= XX

エリア名：不正なディレクトリが存在するエリア名
エリア番号：不正なディレクトリが存在するエリアの番号
ページ ID：不正なディレクトリのページ ID
ファイル名：不正を検知したファイル名

■要因

新セグメントを確保しようとしたが、空きセグメント内の先頭ページ、又は 2 ページ目が使用中でした。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41005-E

ディレクトリに不正があります。要因：ARTM 中に同一タイプ ID 存在または ARIM 中に同一インデクス ID 存在
エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX タイプ・インデクス ID = XX ファイル名= XX

エリア名：不正なディレクトリが存在するエリア名
エリア番号：不正なディレクトリが存在するエリアの番号
ページ ID：不正なディレクトリのページ ID
タイプ・インデクス ID：タイプ又はインデクス ID
ファイル名：不正を検知したファイル名

■要因

タイプ又はインデクス定義を実行したときに、既に同一のタイプ ID 又はインデクス ID がありました。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41010-E

マスタディレクトリ中にタイプ及びインデクスを定義できるだけの領域がありません。

■要因

マスタディレクトリの中にタイプ及びインデクスを定義できるだけの領域がありません。マスタディレクトリの初期割り当て量が不足しています。

■対処

必要のないタイプ又はインデクスを削除した後、再実行してください。又はマスタディレクトリの初期割り当て量を大きくしてデータベースを再作成してください。

KFXO41011-E

1 エリア内に定義できるタイプの数が 1000 を超えました。エリア名 = XX

■要因

一つのエリア内に定義できるタイプの数が制限を超えました。

■対処

他のエリアに定義してください。又はこのエリアに既に定義されている不要なタイプを削除した後で、再実行してください。

KFXO41012-I

エリアの最終ファイルの XX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。エリア名 = YY

XX%目：最終ファイルのセグメント使用率（80%、90%、100%のどれかを表示）

エリア名：使用中のエリア名

■要因

エリアの最終ファイルの XX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。このメッセージは、[データベースの初期化]ユティリティ（xodbinit コマンド）と Object Server 開始時にタイプ又はインデクスが定義されていなかったエリア、及びタイプ又はインデクスの数が 2 以上であったエリアに対して出力されます。ただし、Object Server 開始時に KFXO41057-W 又は KFXO41058-W が出力されている場合は、Object Server 開始時に定義されていたタイプ又はインデクスの数が 1 であったエリアに対しても出力されます。

KFXO41013-E

データディレクトリにインデクス管理情報を定義できるだけの領域がありません。

■要因

データディレクトリにインデクス管理情報を定義できるだけの領域がありません。データディレクトリの初期割り当て量が不足しています。

■対処

[データベースへのファイルの追加] ユティリティ、若しくは xodfladd コマンドでデータディレクトリ用エリアにファイルを追加するか、又は必要のないインデクスを削除した後で、再実行してください。

KFXO41014-E

ファイルの増分処理でエラーが発生しました。

■要因

ファイルの増分処理でエラーが発生しました。

■対処

このメッセージの前に出力される、次に示すメッセージを参考にして、原因を調査してください。

- KFXO41059-E
- KFXO43160-E

- KFXO44120-E
- KFXO44130-E
- KFXO44135-E
- KFXO44140-E
- KFXO44150-E
- KFXO45130-E

KFXO41015-I

ファイル中のセグメント管理用領域をすべて使ったため、以降増分はできません。エリア名= XX

■要因

ファイルの中のセグメント管理用領域をすべて使いました。以降、このファイルの増分はできません。

■対処

必要があれば、[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドでデータベースを再編成してください。又は容量を拡張して、データベースを再作成してください。

KFXO41016-E

1 エリア内に定義できるインデックスの数が 2000 を超えました。エリア名= XX

■要因

一つのエリア内に定義できるインデックスの数が制限を超えました。

■対処

他のエリアに定義してください。又はこのエリアに既に定義されている必要のないインデックスを削除して、再実行してください。

KFXO41037-E

ファイルシステム満杯のため、ファイルの増分に失敗しました。エリア名=AA

■要因

ファイルシステムに、KFXO41999-I で示されたファイルを増分するための十分な領域がありません。

■対処

不要なファイルを削除するなどして、増分に必要な領域を確保した後、再実行してください。

KFXO41038-W

ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理においてデータベースの入力エラーが発生しましたが、このまま続行します。詳細コード= XX

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理でデータベースの入力エラーが発生しました。

■対処

必要があれば、直前に出力されているメッセージに従って対処してください。

KFXO41039-W

インデクスのルートページのメモリ常駐化処理においてデータベースの入力エラーが発生しましたが、このまま続行します。詳細コード= XX

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

インデクスのルートページのメモリ常駐化処理でデータベースの入力エラーが発生しました。

■対処

必要があれば、直前に出力されているメッセージに従って対処してください。

KFXO41043-W

ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理においてディレクトリの不正を検知しましたが、このまま続行します。詳細コード=XX

詳細コード：エラーの要因を示す詳細コード

■要因

ディレクトリ情報のメモリ常駐化処理でディレクトリの不正を検知しました。

■対処

必要があれば、直前に出力されているメッセージに従って対処してください。

KFXO41051-I

ファイルの大きさが最大割当量に達していたため、当該ファイルの増分は行いません。エリア名：XX

■要因

KFXO41999-I メッセージに表示されるファイルの大きさが最大割り当て量に達していました。

■対処

必要があれば、[データベースの再編成] ユティリティ、若しくは xodbreog コマンドでデータベースを再編成してください。又は [データベースのファイルの属性変更] ユティリティ、若しくは xodflalt コマンドでファイルの最大割り当て量を増やしてください。

KFXO41052-I

ファイルシステム満杯のため、以降当該ファイルの増分はできません。エリア名：XX

■要因

KFXO41999-I メッセージに示されるファイルを増分するための十分な領域が、ファイルシステムにありません。Object Server を終了するまで、該当するファイルを増分できません。

■対処

必要があれば、[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドでデータベースを再編成してください。又は不要なファイルを削除するなど増分に必要な領域を確保して、Object Server を再起動してください。

KFXO41053-I

ファイルの最大割当量の XX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。エリア名=XX

XX%目：ファイルの最大割当量に対するセグメント使用率（80%、90%、100%のいずれかを表示）

エリア名：当該エリアのエリア名

■要因

KFXO41999-I メッセージに示されるファイルの最大割当量の XX%目に当たるセグメントの使用を開始しました。

KFXO41054-I

ファイルの大きさが 2 ギガバイト以上になるため、当該ファイルの増分は行いませんでした。エリア名=XX

エリア名：当該エリアのエリア名

■要因

KFXO41999-I メッセージに示されるファイルの大きさが 2 ギガバイト以上になるため、増分は行いませんでした。

■対処

必要があれば、[データベースの再編成]ユティリティ、若しくは xodbreog コマンドでデータベースを再編成してください。又は[データベースへのファイルの追加]ユティリティ、若しくは xodfladd コマンドで当該エリアにファイルを追加してください。

KFXO41055-I

エリアの最終ファイルの XX%目に当たるページの使用を開始しました。エリア名=XX

XX%目：最終ファイルのページ使用率（80%、90%、95%のどれかを表示）

エリア名：使用中のエリア名

■要因

エリアの最終ファイルの XX%目に当たるページの使用を開始しました。このメッセージは Object Server 開始時に定義されていたタイプ又はインデクスの数が 1 であったエリアに対して出力されます。

■対処

必要があれば、[データベースの再編成] ユティリティ（xodbreog コマンド）でデータベースを再編成してください。

KFXO41056-I

ファイルの増分を行いました。エリア名=XX ファイルサイズ=XXKB

エリア名：ファイルの増分を行ったファイルの定義されているエリア名

ファイルサイズ：増分後のファイルサイズ（キロバイト）

■要因

KFXO41999-I メッセージに示されたファイルの増分を行いました。

■対処

必要があれば、[データベースの再編成] ユティリティ（xodbreog コマンド）でデータベースを再編成してください。

KFXO41057-W

エリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得に失敗しました。タイプ又はインデクスの数が 1 のエリアに対しても KFXO41012-I メッセージでエリアの使用率を通知する場合があります。エラーコード=XX 詳細エラー番号=XX

エラーコード：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの詳細コード

■要因

ディクショナリからのエリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得に失敗しました。

■対処

メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。メッセージ中の詳細エラー番号が0のときは、このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO41058-W

エリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得処理が実行できませんでした。タイプ又はインデクスの数が1のエリアに対しても KFXO41012-I メッセージでエリアの使用率を通知します。

■要因

ディクショナリからのエリア内の物理タイプ数・インデクス数の取得処理が実行できませんでした。

■対処

このメッセージの出力前のメッセージに従って対処してください。

KFXO41059-E

現在時刻の取得に失敗しました。エリア名=XX エリア番号=XX

エリア名：現在時刻の設定対象エリア名

エリア番号：現在時刻の設定対象エリア番号

■要因

現在時刻の取得に失敗しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41101-E

ファイルの増分回復でジャーナル不正を検知しました。要因：ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号が NULL です。

■要因

ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号が NULL です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41102-E

ファイルの増分回復でジャーナルとデータベースの内容不一致を検知しました。要因：ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号がエリア情報常駐テーブル中の最大エリア番号を超えているか、エリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア番号と一致していません。エリア番号=AA

エリア番号：ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号

■要因

データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している

場合、アンロードジャーナルファイルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルファイルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO41103-E

ファイルの増分回復でジャーナル不正を検知しました。要因：ジャーナルレコード中のファイル番号が0未満です。エリア名=XX エリア番号=YY ファイル番号=ZZ

エリア名：不正なジャーナルのファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：不正なジャーナルのファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号

ファイル番号：不正なジャーナルレコード中のファイル番号

■要因

ジャーナルレコード中のファイル番号が0未満です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41104-E

ファイルの増分回復でジャーナルとデータベースの内容不一致を検知しました。要因：ジャーナルレコード中のファイル番号がエリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号を超えています。エリア名=AA エリア番号=BB エリア内最大ファイル番号=CC ファイル番号=DD

エリア名：ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：ファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号

エリア内最大ファイル番号：エリア情報常駐テーブルエントリ中のエリア内最大ファイル番号

ファイル番号：ジャーナルレコード中のファイル番号

■要因

データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) で指定したバックアップファイルの取得以降のアンロードジャーナルファイルがデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) ですべて指定されていないか、複数回に分けてデータベース回復ユティリティ (xodbrecv コマンド) を実行している場合、アンロードジャーナルファイルの入力順が時系列になっていません。又はデータベース回復ユティリティ (xodbkout コマンド) で指定したアンロードジャーナルファイルが正しくありません。

■対処

アンロードジャーナルファイルの指定が正しいか確認し、データベース回復ユティリティ (xodbrstr コマンド) から再実行してください。

KFXO41105-E

ファイルの増分回復でジャーナル不正を検知しました。要因：ジャーナルレコード中の増分セグメント数が0以下です。エリア名=AA エリア番号=BB ファイル番号=CC 増分セグメント数=DD

エリア名：不正なジャーナルのファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号から得られるエリア名

エリア番号：不正なジャーナルのファイルジャーナルレコードヘッダ (FJN) 中のエリア番号

ファイル番号：不正なジャーナルレコード中のファイル番号

増分セグメント数：不正なジャーナルレコード中の増分セグメント数

■要因

ジャーナルレコード中の増分セグメント数が0以下です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41201-E

マスタディレクトリの不正を検知しました。MICB 中の ARIM のエントリ番号が 1~2000 ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページ ID=XX オフセット=XX インデクス ID=XX ARIM のエントリ番号=XX ファイル名= XX

エリア名：マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：マスタディレクトリのエリア番号

ページ ID：不正な MICB が存在するページのページ ID

オフセット：不正な MICB のページの先頭からのオフセット

インデクス ID：不正な MICB のインデクス ID

ARIM のエントリ番号：MICB 中の ARIM のエントリ番号

ファイル名：不正を検知したファイル名

■要因

MICB 中の ARIM のエントリ番号が 1~2000 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41202-E

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。インデクス管理情報中のブロック名称が DDXC ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページ ID=XX オフセット=XX インデクス ID=XX ブロック名称=XX ファイル名= XX

エリア名：データディレクトリのエリア名

エリア番号：データディレクトリのエリア番号

ページ ID：不正なインデクス管理情報が存在するページのページ ID

オフセット：不正なインデクス管理情報のページの先頭からのオフセット

インデクス ID：不正なインデクス管理情報のインデクス ID

ブロック名称：不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

ファイル名：不正を検知したファイル名

■要因

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。インデクス管理情報中のブロック名称が DDXC ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41203-E

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC 中のキーの構成属性数が 1～16 ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページ ID=XX オフセット=XX インデクス ID=XX キーの構成属性数=XX ファイル名= XX

エリア名：データディレクトリのエリア名
エリア番号：データディレクトリのエリア番号
ページ ID：不正な DDXC が存在するページのページ ID
オフセット：不正な DDXC のページの先頭からのオフセット
インデクス ID：不正な DDXC のインデクス ID
キーの構成属性数：DDXC 中のキーの構成属性数
ファイル名：不正を検知したファイル名

■要因

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC 中のキーの構成属性数が 1～16 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41204-E

インデクス管理情報の取得時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC 中のキーの構成属性数が 1～16 ではありません。エリア名=XX エリア番号=XX ページ ID=XX オフセット=XX インデクス ID=XX キーの構成属性数=XX ファイル名= XX

エリア名：データディレクトリのエリア名
エリア番号：データディレクトリのエリア番号
ページ ID：不正な DDXC が存在するページのページ ID
オフセット：不正な DDXC のページの先頭からのオフセット
インデクス ID：不正な DDXC のインデクス ID
キーの構成属性数：DDXC 中のキーの構成属性数
ファイル名：不正を検知したファイル名

■要因

インデクス管理情報の取得時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC 中のキーの構成属性数が 1～16 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41205-E

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC エントリが存在するにもかかわらず DDFC 中の DDXC 使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX エリア番号=XX DDFC のページ ID=XX DDXC のページ ID=XX オフセット=XX インデクス ID=XX

エリア名：データディレクトリのエリア名
エリア番号：データディレクトリのエリア番号

DDFC のページ ID : DDFC のページ ID
 DDXC のページ ID : DDXC のページ ID
 オフセット : DDXC のページの先頭からのオフセット
 インデクス ID : インデクス ID

■要因

インデクス管理情報の削除時、データディレクトリの不正を検知しました。DDXC エントリが存在するにもかかわらず DDFC 中の DDXC 使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41307-E

エリア内の使用済ページ数がエリア内の割当ページ数を超えています。エリア名=XX エリア番号=XX 使用済ページ数=XX 割当ページ数=XX

エリア名 : 該当するエリアのエリア名
 エリア番号 : 該当するエリアのエリア番号
 使用済ページ数 : エリア内の使用済ページ数
 割当ページ数 : エリア内の割当ページ数

■要因

エリア内の使用済ページ数がエリア内の割当ページ数を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO41506-E

インデクス定義のルートページ作成処理においてインデクス ID の不正を検出しました。エリア名:XX エリア番号:XX インデクス ID : XX

エリア名 : インデクスを定義しようとしたエリア名
 エリア番号 : インデクスを定義しようとしたエリアの番号
 インデクス ID : 定義しようとしたインデクスのインデクス ID

■要因

インデクス定義のルートページ作成中に、ディレクトリ及びメモリ内のテーブル破壊又は内部矛盾によってインデクス ID の不正を検出しました。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO41998-E

ファイル名 = XX

ファイル名 : このメッセージの前に出力されたメッセージに関連のあるファイル名

■要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO41999-I

ファイル名 = XX

ファイル名：このメッセージの前に出力されたメッセージに関連のあるファイル名

■要因

このメッセージの前に出力しているメッセージを参照してください。

KFXO42000-E

インデックスページのページ制御情報が破壊されています。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, 要因コード = XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

インデックスページのページ制御情報が破壊されています。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42001-E

インデクスエントリが破壊されています。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, スロット番号 = XX, 要因コード = XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

■要因

インデクスエントリが破壊されています。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42003-E

インデックスページのページ種別が不正です。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, 要求されたページ種別 = XX, 実際のページ種別 = XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
 インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
 ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

インデクスページポインタのポイント先が不正です。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42004-E

インデクスページポインタが自ページをポイントしています。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, ポインタ種別 = XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
 エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
 インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
 ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

インデクスページポインタが自ページをポイントしています。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42005-E

インデクスのルートページのページ種別、またはレベルが不正です。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, ページ種別 = XX, レベル = XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
 エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
 インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
 ページ ID：当該ページのページ ID
 ページ種別：当該ページのページ種別
 レベル：当該ページのレベル

■要因

インデクスのルートページのページ種別又はレベルが不正です。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42006-E

インデクスのリーフページのページ種別、またはレベルが不正です。エリア名= XX, エリア番号= XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, ページ種別= XX, レベル= XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
ページ ID：当該ページのページ ID
ページ種別：当該ページのページ種別
レベル：当該ページのレベル

■要因

インデクスのリーフページのページ種別又はレベルが不正です。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42007-E

インデクスページのページ制御情報が破壊されています。インデクス上位ページが垂直ポインタを保持していません。又は、リーフページが垂直ポインタを保持しています。エリア名= XX, エリア番号= XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, ページレベル= XX, 垂直ポインタ= XX

■要因

インデクス上位ページが垂直ポインタを保持していません。又はリーフページが垂直ポインタを保持しています。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42010-E

インデクスページのコンパクション処理において、スロットの不正を検知しました。スロット値がページの範囲外です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, スロットのオフセット値 =XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名
インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号
インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
ページ ID：不正を検知したページのページ ID
スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号
スロットのオフセット値：不正を検知したスロットのオフセット値

■要因

インデクスページのコンパクション処理において、スロットの不正を検知しました。スロット値がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下のパdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42011-E

インデクスページのコンパクション処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。ページ上のインデクスエントリの終端がページの範囲外です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号。

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスページのコンパクション処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。ページ上のインデクスエントリの終端がページの範囲外です。エラーの詳細情報は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下のパdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42012-E

インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがコンパクション用作業領域の終端を越えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, 転送先の先頭オフセット値=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

転送先の先頭オフセット値：コンパクション用作業領域の先頭アドレスからのオフセット

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスページの不正を検知しました。転送先の先頭オフセット又は終端オフセットがコンパクション用作業領域の終端を超えています。エラーの詳細情報（コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下のパdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42013-E

インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長 (8 バイト) 未満です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスページのコンパクション処理のインデクスエントリ転送時、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長がインデクスエントリの最小長 (8 バイト) 未満です。エラーの詳細情報は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42014-E

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたインデクスエントリ領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。作業領域からバッファ上に転送しようとしたインデクスエントリ領域長がページ長を越えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, インデクスエントリ領域長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

インデクスエントリ領域長：転送しようとしたインデクスエントリ領域の長さ

■要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたインデクスエントリ領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。作業領域からバッファ上に転送しようとしたインデクスエントリ領域長がページ長を超えています。エラーの詳細情報 (コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42015-E

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送先オフセットがバッファの終端を越えています。又は、転送先オフセットにスロット領域長を加算した値がバッファの終端を越えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, 転送先のオフセット値=XX, スロット領域長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値：バッファの先頭アドレスからのオフセット

スロット領域長：転送しようとしたスロット領域の長さ

■要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送先オフセットがバッファの終端を超えています。又は、転送先オフセットにスロット領域長を加算した値がバッファの終端を超えています。エラーの詳細情報（コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容）は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下のパdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42016-E

インデクスエントリの挿入処理において、インデクスページの不正を検知しました。インデクスエントリの転送先オフセットがバッファの終端を越えています。又は、転送先オフセットにインデクスエントリ長を加算した値がバッファの終端を越えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, 転送先のオフセット値=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値：バッファの先頭アドレスからのオフセット

インデクスエントリ長：転送しようとしたインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスエントリの挿入処理において、インデクスページの不正を検知しました。インデクスエントリの転送先オフセットがバッファの終端を超えています。又は、転送先オフセットにインデクスエントリ長を加算した値がバッファの終端を超えています。エラーの詳細情報は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下のパdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42017-E

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送元の先頭アドレスがコンパクション用作業領域の先頭アドレス+ ZCT2 長未満です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, 転送先のオフセット値=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値：コンパクション用作業領域の先頭アドレスからスロット領域の転送元の先頭アドレスまでのオフセット

■要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送元の先頭アドレスがコンパクション用作業領域の先頭アドレス+ ZCT2 長未満です。エラーの詳細情報(コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容)は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42018-E

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送先の先頭アドレスがバッファの先頭アドレス+ ZCT2 長未満です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, 転送先のオフセット値=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

転送先のオフセット値：バッファの先頭アドレスからスロット領域の転送先の先頭アドレスまでのオフセット

■要因

インデクスページのコンパクション処理において、作業領域上でコンパクションされたスロット領域の転送時、インデクスページの不正を検知しました。スロット領域の転送先の先頭アドレスがバッファの先頭アドレス+ ZCT2 長未満です。エラーの詳細情報(コンパクション用作業領域上のページ及びコンパクション前のキャッシュ上のページの内容)は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下の pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42021-E

インデクス検索の次リーフページの検索処理において、水平ポインタが示すリーフページを入力した時、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが 1 ではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX, レベル=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
 エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
 インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
 ページ種別：当該ページのページ種別
 レベル：当該ページのレベル

■要因

インデクス検索の次リーフページの検索処理で、水平ポインタが示すリーフページを入力したとき、リーフページのページ種別が上位又はリーフでないか、又はレベルが 1 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42022-E

インデクス検索開始エントリを求める処理でのルートページから検索対象のリーフページを求める処理において、上位ページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが直前に入力したページのレベル-1 ではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX, レベル=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
 エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
 インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
 ページ種別：当該ページのページ種別
 レベル：当該ページのレベル

■要因

インデクス検索開始エントリを求める処理でのルートページから検索対象のリーフページを求める処理で、上位ページのページ種別が上位又はリーフでないか、又はレベルが直前に入力したページのレベル-1 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42023-E

インデクス検索開始エントリを求める処理でのリーフページから検索対象のインデクスエントリのサーチ処理において、水平ポインタが示すリーフページを入力した時、リーフページのページ種別が上位またはリーフでない

か、またはレベルが1ではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX, レベル=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
ページ種別：当該ページのページ種別
レベル：当該ページのレベル

■要因

インデクス検索開始エントリを求める処理でのリーフページから検索対象のインデクスエントリのサーチ処理で、水平ポインタが示すリーフページを入力したとき、リーフページのページ種別が上位又はリーフでないか、又はレベルが1ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42024-E

インデクス検索の検索開始または再位置付け処理での PID/OID リストページの検索処理において、PID/OID ディレクトリページからポイントされるページのページ種別が PID/OID リストページではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
ページ種別：当該ページのページ種別

■要因

インデクス検索の検索開始又は再位置付け処理での PID/OID リストページの検索処理で、PID/OID ディレクトリページからポイントされるページのページ種別が PID/OID リストページではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42025-E

インデクス検索の次 PID/OID リストページの検索処理において、水平ポインタが示すページを入力した時、ページ種別が PID/OID リストページではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ種別：当該ページのページ種別

■要因

インデクス検索の次 PID/OID リストページの検索処理で、水平ポインタが示すページを入力したとき、ページ種別が PID/OID リストページではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42026-E

インデクスメンテナンスのルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理において、上位ページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが直前に入力したページのレベル-1 ではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX, レベル=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ種別：当該ページのページ種別

レベル：当該ページのレベル

■要因

インデクス更新のルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理で、上位ページのページ種別が上位又はリーフでないか、又はレベルが直前に入力したページのレベル-1 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42027-E

インデクスメンテナンスのルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理において、リーフページのページ種別が上位またはリーフでないか、またはレベルが 1 ではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX, レベル=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ種別：当該ページのページ種別

レベル：当該ページのレベル

■要因

インデクス更新のルートページからメンテナンス対象のリーフページを検索する処理で、リーフページのページ種別が上位又はリーフでないか、又はレベルが 1 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42028-E

インデクスメンテナンスの PID/OID ディレクトリページからメンテナンス対象の PID/OID リストページを検索する処理において、PID/OID ディレクトリページの水平ポインタが示すページを入力した時、ページ種別が PID/OID ディレクトリページではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ種別：当該ページのページ種別

■要因

インデクス更新の PID/OID ディレクトリページからメンテナンス対象の PID/OID リストページを検索する処理で、PID/OID ディレクトリページの水平ポインタが示すページを入力したとき、ページ種別が PID/OID ディレクトリページではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42029-E

インデクスメンテナンスの PID/OID ディレクトリページからメンテナンス対象の PID/OID リストページを検索する処理において、PID/OID ディレクトリページからポイントされるページのページ種別が PID/OID リストページではありません。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ポイント元ページ ID=XX, ポインタ種別=XX, ポイント先ページ ID=XX, ページ種別=XX

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名

エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ種別：当該ページのページ種別

■要因

インデクス更新の PID/OID ディレクトリページからメンテナンス対象の PID/OID リストページを検索する処理で、PID/OID ディレクトリページからポイントされるページのページ種別が PID/OID リストページではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42031-E

インデクスマンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理において、PID/OID ディレクトリページのエン트리ポイントが指す PID/OID リストページ内の総 PID/OID 数が 0 となったため、PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, PID=XX, キー値=XX

エリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

エリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：当該ページのページ ID

PID：物理オブジェクトの PID

キー値：インデクスから削除しようとしたキー値(最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する)

■要因

インデクスマンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、PID/OID ディレクトリページのエン트리ポイントが指す PID/OID リストページ内の総 PID/OID 数が 0 となったため、PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42032-E

インデクスマンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理において、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, PID=XX, キー値=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：当該ページのページ ID

PID：物理オブジェクトの PID

キー値：インデクスから削除しようとしたキー値(最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する)

■要因

インデクスマンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページのページ使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42033-E

インデクスメンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理において、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID ディレクトリページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, PID=XX, キー値=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：当該ページのページ ID

PID：物理オブジェクトの PID

キー値：インデクスから削除しようとしたキー値(最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する)

■要因

インデクスメンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID ディレクトリページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42034-E

インデクスメンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理において、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID ディレクトリページの垂直ポインタが指す PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。エリア名=XX, エリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, PID=XX, キー値=XX

エリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

エリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：当該ページのページ ID

PID：物理オブジェクトの PID

キー値：インデクスから削除しようとしたキー値(最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する)

■要因

インデクスメンテナンスの重複 PID/OID エントリから PID/OID を削除する処理で、当該キー値の持つ総重複キー数が 0 となったため、PID/OID ディレクトリページの垂直ポインタが指す PID/OID リストページを解放しようとしたが、当該ページの使用・未使用管理ビットが未使用状態です。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42040-E

インデクスメンテナンスの重複キーエントリから PID/OID を削除する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長 (8 バイト) 未満、又はページ長を越え

ています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスメンテナンスの重複キーエントリから PID/OID を削除する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長 (8 バイト) 未満、又はページ長を超えています。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42041-E

インデクスメンテナンスのインデクスエントリ削除処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長 (8 バイト) 未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスメンテナンスのインデクスエントリ削除処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長 (8 バイト) 未満、又はページ長を超えています。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42042-E

インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット前半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長 (8 バイト) 未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット前半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を超えています。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42043-E

インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット後半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID =XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長 =XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスメンテナンスのページスプリットでのスプリット後半部の作成処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を超えています。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42044-E

重複 PID/OID ディレクトリ/リストページ作成のリーフエントリメンテナンス処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8バイト）未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID =XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

重複 PID/OID ディレクトリ/リストページ作成のリーフエントリメンテナンス処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満、又はページ長を超えています。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42045-E

インデクスメンテナンスの重複キーエントリに PID/OID を追加する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号 =XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

インデクスメンテナンスの重複キーエントリに PID/OID を追加する処理において、インデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満、又はページ長を超えています。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42046-E

回復処理中にインデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満、又はページ長を超えています。インデクスエリア名=XX, インデクスエリア番号=XX, インデクス ID=XX, ページ ID=XX, スロット番号=XX, インデクスエントリ長=XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：不正を検知したページのページ ID

スロット番号：不正を検知したスロットのスロット番号

インデクスエントリ長：不正を検知したインデクスエントリのインデクスエントリ長

■要因

回復処理中にインデクスエントリ長の不正を検知しました。インデクスエントリ長はインデクスエントリの最小長（8 バイト）未満、又はページ長を超えています。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42105-E

インデクスメンテナンスにおいて、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。登録しようとした PID は既に存在します。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクス ID = XX, データエリア名 = XX, データエリア番号 = XX, 物理タイプ ID = XX, PID = XX, キー値 = XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

データエリア名：物理オブジェクトの存在するデータエリア名

データエリア番号：物理オブジェクトの存在するデータエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

PID：物理オブジェクトの PID

キー値：インデクスに登録しようとしたキー値（最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する）

■要因

インデクスの更新中に、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。登録しようとした PID は既に存在します。エラーの詳細情報は %XODDIR%\\$pool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に %XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42106-E

インデクスメンテナンスにおいて、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削除しようとした PID がインデクスに存在しません。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクス ID = XX, データエリア名 = XX, データエリア番号 = XX, 物理タイプ ID = XX, PID = XX, キー値 = XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

データエリア名：物理オブジェクトの存在するデータエリア名

データエリア番号：物理オブジェクトの存在するデータエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

PID：物理オブジェクトの PID

キー値：インデクスに登録しようとしたキー値（最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する）

■要因

インデクスの更新中に、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削除しようとした PID がインデクスに存在しません。エラーの詳細情報は %XODDIR%\\$pool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に %XODDIR%\\$pool ディ

レクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42108-E

インデクスマンテナンスにおいて、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削除しようとしたキー値がインデクスに存在しません。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクス ID = XX, データエリア名 = XX, データエリア番号 = XX, 物理タイプ ID = XX, PID = XX, キー値 = XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

データエリア名：物理オブジェクトの存在するデータエリア名

データエリア番号：物理オブジェクトの存在するデータエリア番号

物理タイプ ID：物理オブジェクトの物理タイプ ID

PID：物理オブジェクトの PID

キー値：インデクスから削除しようとしたキー値（最大 80 文字の 16 進数。80 文字を超える場合は、前 80 文字を表示する）

■要因

インデクスの更新中に、インデクスとデータエリアの矛盾を検知しました。削除しようとしたキーがインデクスに存在しません。エラーの詳細情報は %XODDIR%\\$spool ディレクトリの下に pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に %XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42117-E

インデクスマンテナンスにおいて、インデクスページ間の矛盾を検知しました。上位ページに追加しようとしたキーが、既に上位ページに存在しています。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX, スロット番号 = XX, キー値 = XX

■要因

インデクスの更新中に、インデクスページ間の矛盾を検知しました。上位ページに追加しようとしたキーが、既に上位ページに存在しています。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に %XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42119-E

不正なジャーナルを検知しました。ファイル名 = XX, 場所 = YY ファイル名 = エラーを検知したファイル名 場所 = ファイル中の行番号

ファイル名：エラーを検知したファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

回復処理中に不正なジャーナルを検知しました。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、ジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO42120-E

ジャーナルの内容と DB の内容が合っていません。エリア名=AA, エリア番号=BB, インデクス ID=CC, ページ ID=DD, ファイル名= EE, 場所= FF エリア名=当該エリアのエリア名称 エリア番号=当該エリアのエリア番号 インデクス ID=当該インデクスのインデクス ID ページ ID=当該ページのページ ID ファイル名=エラーを検知したファイル名 場所=ファイル中の行番号

エリア名：当該エリアのエリア名

エリア番号：当該エリアのエリア番号

インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

ページ ID：当該ページのページ ID

ファイル名：エラーを検知したファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

回復処理中にジャーナルとデータベースの不整合を検知しました。

■対処

アンロードジャーナルを使用して回復した場合は、指定したアンロードジャーナルが正しいか確認し、正しいアンロードジャーナルを指定して回復をやり直してください。全面回復、及び部分回復処理中に発生した場合は、このメッセージで表示された内容を記録し、ジャーナルとデータベースを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO42121-E

インデクスのロールバック中にインデクスページが不足したためインデクスの回復ができません。インデクスを閉塞状態にします。エリア名=AA, エリア番号=BB, インデクス ID=CC, 物理タイプ ID=DD エリア名=当該インデクスの存在するインデクスエリア名 エリア番号=当該インデクスの存在するインデクスエリア番号 インデクス ID=当該インデクスのインデクス ID 物理タイプ ID=物理オブジェクトの物理タイプ ID

■要因

Object Server の再開始時、トランザクションの異常終了時、及びデータベース回復ユーティリティ (xodbkout) でのインデクスのロールバック処理中にインデクスページが不足したためファイル増分を試みたが失敗しました。

■対処

データベース再編成ユーティリティ (xodbreog) のインデクス再作成機能を使用してインデクス ID, 物理タイプ ID で示されたインデクスを再作成してください。エリア名で示されたものが OID インデクスの場合、オブジェクトの再編成機能を使用してください。オブジェクトの再編成機能を実行することで、OID インデクスが再作成されます。また、繰り返しこのエラーが発生しないように、ファイルシステム中に空きを十分確保するか、構成変更ユーティリティ (xodfladd) によりエリアにファイルを追加しインデクスページを十分確保するか、最大割当量の指定を見直す必要があれば構成変更ユーティリティ (xodflalt) によって最大割当量を大きくしてください。

KFXO42124-I

データベースの入力エラーが発生したため、エラー情報ファイルの編集出力処理を行いませんでした。エリア名=AA, エリア番号=BB, インデクス ID=CC, ページ ID=DD, 詳細コード=EE エリア名=当該ページを格納するエリアのエリア名 エリア番号=当該ページを格納するエリアのエリア番号 インデクス ID=当該インデクスのインデクス ID ページ ID=当該ページのページ ID 詳細コード=エラーの要因を示すコード

エリア名：当該ページを格納するエリアのエリア名
 エリア番号：当該ページを格納するエリアのエリア番号
 インデクス ID：当該ページのページ ID
 ページ ID：当該ページのページ ID
 詳細コード：エラーの要因を示すコード

■要因

データベースの入力エラーが発生したため、当該ページのエラー情報ファイルの編集出力処理を行いませんでした。

KFXO42400-E

インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクスエリア番号が不正です。インデクスエリア番号=XX, インデクス ID = XX

インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号
 インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

■要因

インデクスの更新中に、インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクスエリア番号が不正です。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42401-E

インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクス ID が不正又は当該インデクス ID のインデクスは当該エリアに存在しません。インデクスエリア名= XX, インデクスエリア番号= XX, インデクス ID = XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名
 インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号
 インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID

■要因

インデクス情報テーブルの不正を検知しました。インデクス ID が不正です。又はメッセージに示したインデクス ID のインデクスはこのエリアにありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42402-E

インデクス情報テーブルの不正を検知しました。キー長が 1～255 ではありません。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, インデクス ID = XX, キー長 = XX

インデクスエリア名：当該インデクスの存在するインデクスエリア名
インデクスエリア番号：当該インデクスの存在するインデクスエリア番号
インデクス ID：当該インデクスのインデクス ID
キー長：不正キー長

■要因

インデクスの更新中に、インデクス情報テーブルの不正を検知しました。キー長が 1～255 ではありません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO42533-E

インデクスロードにおいて、ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、インデクス ID の不正を検知しました。インデクスエリア名 = XX, インデクスエリア番号 = XX, 処理中のインデクス ID = XX, 入力したインデクス ID = XX

インデクスエリア名：インデクスロード処理中のインデクスエリア名
インデクスエリア番号：インデクスロード処理中のインデクスエリア番号
処理中のインデクス ID：インデクスロード処理中のインデクス ID
入力したインデクス ID：上位エントリレコード中のインデクス ID

■要因

ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、処理しようとしたインデクス ID と入力したインデクス ID が不整合です。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42534-E

インデクスロードにおいて、ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、直前のキーより昇順でないキー値を検出しました。インデクスエリア名=XX インデクスエリア番号=XX インデクス ID=XX 直前のキー値=XX 入力したキー値=XX

インデクスエリア名：インデクスロード処理中のインデクスエリア名
インデクスエリア番号：インデクスロード処理中のインデクスエリア番号
インデクス ID：インデクスロード処理中のインデクス ID
直前のキー値：直前に入力した上位エントリレコード中のキー値
入力したキー値：不正を検出したキー値

■要因

ワークファイルから上位エントリレコードの入力時、直前のキーより昇順でないキー値を検出しました。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録し、システム管理者に連絡してください。またコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO42535-E

インデクスロードにおいて、ワークファイル中の上位エントリレコード数が不正です。インデクスエリア名= XX, インデクスエリア番号= XX, インデクス ID = XX, 出力済みのレコード数= XX, 入力したレコード数= XX

インデクスエリア名：インデクスロード処理中のインデクスエリア名

インデクスエリア番号：インデクスロード処理中のインデクスエリア番号

インデクス ID：インデクスロード処理中のインデクス ID

出力済みのレコード数：直前に出力した上位エントリレコード数

入力したレコード数：入力した上位エントリレコード数

■要因

直前に出力した上位エントリレコード数と入力した上位エントリレコード数が不一致です。

■対処

このメッセージで表示された内容を記録して、システム管理者に連絡してください。このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43110-E

物理エリア中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名= XX, エリア番号= XX, タイプ ID = XX, ページ ID = XX

エリア名：当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

■要因

システム運用時、物理エリアの中のページ（データ/インデクス）の更新カウンタが一致していません。エラーの詳細情報は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR% ¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43111-E

スレーブディレクトリページ又はデータディレクトリページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX, エリア番号=XX, ページ ID =XX

エリア名：当該ページが存在する物理エリアの名称

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

ページ ID : ページ ID

■要因

システム運用時、スレーブディレクトリページ、又はデータディレクトリページの更新カウンタが一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43120-E

要求されたページ種別と、実際のページ種別が一致していません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, タイプ ID = XX, ページ ID = XX

エリア名 : 当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号 : 物理エリアの存在するエリア番号

■要因

要求されたページ種別と、実際にバッファに読み込んだページ種別が一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43130-E

ページ中のエリア番号と、ページの存在するエリアが一致していません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, タイプ ID = XX, ページ ID = XX

エリア名 : 当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号 : 物理エリアの存在するエリア番号

■要因

ページの中のエリア番号と、ページのあるエリアが一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43140-E

ページ中の ID タイプ番号と、ページの存在する物理タイプが一致していません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, タイプ ID = XX, ページ ID = XX

エリア名 : 当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号 : 物理エリアの存在するエリア番号

■要因

ページの中の ID タイプ番号と、ページのある物理タイプが一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43150-E

ファイル中のページのページ番号が、ファイル中のページ位置と対応していません。エリア名= XX, エリア番号= XX, タイプ ID = XX, ページ ID = XX

エリア名：当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

■要因

ファイルの中のページのページ番号が、ファイル中のページ位置と対応していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に、%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43160-E

ファイルに書き込もうとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX, エリア番号=XX, タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

■要因

ファイルに書き込もうとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エラーの詳細情報は、%XODDIR%\\$spool ディレクトリの下のパンプ プロセス ID ファイルに出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43161-E

更新しようとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX, エリア番号=XX, タイプ ID=XX, ページ ID=XX

エリア名：当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

■要因

更新しようとしたキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43162-E

更新した後のキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。エリア名=XX, エリア番号=XX, タイプID=XX, ページID=XX

エリア名：当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

■要因

更新した後のキャッシュ中のページの更新カウンタが一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO43170-E

要求されたインデクス ID と、ページ中のインデクス ID が一致していません。エリア名= XX, エリア番号= XX, インデクス ID = XX, ページ ID = XX

エリア名：当該ページが存在する物理エリア名

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

■要因

要求されたインデクス ID と、ページ中のインデクス ID が一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後に、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO43180-E

データベースへの書き込み中にエラーが発生しました。OMS を停止します。

■要因

データベースへの書き込み中にエラーが発生しました。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策をしてください。

KFXO43200-I

常駐ページプールの使用率が 100%になりました。プール名= XX, 用途= XX

プール名：使用率が 100%になった常駐ページプール名

用途：使用率が 100%になった常駐ページプールの用途

■要因

常駐ページプールの使用率が 100%になりました。

■対処

このメッセージを出力した後は、この常駐ページプールへの常駐処理はされませんが、処理を続行します。システム共通定義 (xodrc) の resiojb パラメータを追加した場合や、ユーザ数の増加など、連携プ

プログラムの業務規模が当初の見積りより大きくなっている場合は、システム共通定義 (xodrc) の resipool パラメタの指定値を見直してください。

KFXO44120-E

物理エリアオープン処理でエラーが発生したため、物理エリアがオープンできませんでした。エリア名= XX, エリア番号= XX, 物理エリア番号= XX, エラー番号= XX

エリア名：エラーの発生したページがあるエリア名 (物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります)

エリア番号：オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：オープンしようとした物理エリアの番号

エラー番号：open()システムコールで返されたエラー番号

■要因

open()システムコールで、エラー番号で示されたエラーが発生しました。このメッセージに続いてエラーの発生したファイル名が出力されます。

■対処

エラー番号 (errno) から原因を調べて、対策してください。

KFXO44125-E

物理エリアのファイルまたはパスが存在しないため、物理エリアがオープンできません。エリア名= XX, エリア番号= XX, 物理エリア番号= XX

エリア名：オープンしようとした物理エリアがあるエリア名

エリア番号：オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：オープンしようとした物理エリアの番号

■要因

オープンしようとした物理エリアのファイル又はパスがありません。このメッセージに続いてエラーの発生したファイル名が出力されます。

■対処

データベースをバックアップから回復してください。バックアップからの回復ができないとき、ユーザーエリア又はインデクス用エリアの場合は、データベースのエリアの再初期化ユティリティ (xodarint) でエリアを再初期化してください。

KFXO44126-E

物理エリアのファイルは存在しますが、サイズが0バイトです。エリア名= XX, エリア番号= XX, 物理エリア番号= XX

エリア名：物理エリアのあるエリア名

エリア番号：物理エリアのあるエリアの番号

物理エリア番号：物理エリアの番号

■要因

物理エリアのファイルサイズが何らかの原因で0バイトになっています。このメッセージに続いてエラーの発生したファイル名が出力されます。

■対処

データベースをバックアップから回復してください。バックアップからの回復ができないとき、ユーザーエリア又はインデクス用エリアの場合は、データベースのエリアの再初期化ユティリティ (xodarint) でエリアを再初期化してください。

KFXO44130-E

物理エリアに対するアクセス権がないため、オープンすることができません。エリア名= XX, エリア番号= XX, 物理エリア番号= XX

エリア名：エラーの発生したページがある物理エリア名 (物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります)

エリア番号：オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：オープンしようとした物理エリアの番号

■要因

この物理エリア (ファイル) が他のプログラムで使用なか、ファイルの属性が「書き込み禁止」になっているか、あるいは、そのファイル又はディレクトリにアクセス権がないため、オープンできませんでした。又は、そのファイルは他のユーザにより暗号化されています。エラーの発生したファイル名は、このメッセージに続いて出力される KFXO41999-I のメッセージに表示されます。

■対処

このメッセージに続いて出力される KFXO46991-I のメッセージで示される「エラーコード= x x」を参照し、以下のように対処してください。

エラーコード	対処
5	ファイル又は、ディレクトリのアクセス権が正しく設定されていません。ファイル又は、ディレクトリのアクセス権には、Object Server サービスのログオンに設定しているアカウントに対してフルコントロールを設定してください。ログオンアカウントがシステムアカウントの場合は、Administrators グループ又は、Everyone に対してフルコントロールを設定してください。 このファイルの暗号化属性が、「暗号化する」指定になっている場合は、暗号化の指定を外してください。
32	ファイルが他のプログラムで使用中です。使用中のプログラムの完了を待って再実行してください。例えば、Windows NT のバックアッププログラムでこのファイルをバックアップしているとファイルは使用中になります。
上記以外の場合	ファイルが他のプログラムで使用なか、ファイルの属性が「書き込み禁止」になっているか、あるいは、そのファイル又はディレクトリにアクセス権がないかのどれかです。ファイルの属性が「書き込み禁止」になっている場合は、「書き込み許可」に変更し、再実行してください。

KFXO44135-E

DB 初期設定ユティリティが実行中、または、他のプロセスが物理エリアを使用中のため、オープンすることができません。エリア名= XX, エリア番号= XX, 物理エリア番号= XX

エリア名：エラーの発生したファイルがあるエリア名 (物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります)

エリア番号：オープンしようとした物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：オープンしようとした物理エリアの番号

■要因

データベースの初期設定が実行中である、又は他のプロセスがこの物理エリアを使用中であるため、オープンできませんでした。

■対処

同時に実行中のプログラムを確認して、プログラムが終了した後に再実行してください。

KFXO44140-E

物理エリア制御でエラーが発生しました。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, 物理エリア番号 = XX, エラー番号 = XX

エリア名：エラーの発生したファイルがあるエリア名（物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります）

エリア番号：物理エリアの存在するエリア番号

物理エリア番号：物理エリアの番号

エラー番号：fcntl()システムコールで返されたエラー番号

■要因

fcntl()システムコールで、エラー番号で示されたエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) から原因を調べて対策してください。

KFXO44150-E

割り当てセグメント数と物理エリアに割り当たっているセグメント数が一致していません。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, 物理エリア番号 = XX

エリア名：エラーの発生したファイルがあるエリア名（物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります）

エリア番号：物理エリアのあるエリアの番号

物理エリア番号：物理エリアの番号

■要因

ディレクトリ及び共用メモリ上で管理している物理エリアの割り当てセグメント数（ページ数）と、実際の物理エリアに割り当てられているセグメント数（ページ数）が一致していません。使用中のデータベースを [データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドで初期化した場合、Object Server ではこのエラーが発生します。

■対処

Object Server を再起動してください。初期化してはならないデータベースを誤って初期化した場合は、Object Server を停止して、バックアップによりデータベースを回復した後で再起動してください。

KFXO45110-E

物理エリアの読み込みで、エラーが発生しました。エリア名 = XX, エリア番号 = XX, 物理エリア番号 = XX, ページ番号 = XX, エラー番号 = XX

エリア名：エラーの発生したページがあるエリア名（物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります）

エリア番号：物理エリアのあるエリア番号

物理エリア番号：物理エリアの番号

ページ番号：ページ番号

エラー番号：read()システムコールのエラー番号

■要因

read()システムコールで、エラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) から原因を調べて対策してください。

KFXO45120-E

物理エリアの読み込みで、読み込みできたサイズと、ページ長とが一致していません。エリア名= XX, エリア番号= XX, 物理エリア番号= XX, ページ番号= XX

エリア名：エラーの発生したページがあるエリア名（物理エリアがマスタディレクトリの場合は、エリア名が表示されない場合があります）

エリア番号：物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：物理エリアの番号

ページ番号：ページ番号

■要因

実際に read()したサイズと、ページのサイズが一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージの出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

KFXO45130-E

物理エリアの書き込みで、エラーが発生しました。エリア名= XX, エリア番号= XX, 物理エリア番号= XX, ページ番号= XX, エラー番号= XX

エリア名：エラーの発生したページがあるエリア名

エリア番号：物理エリアがあるエリアの番号

物理エリア番号：物理エリアの番号

ページ番号：ページ番号

エラー番号：write()システムコールのエラー番号

■要因

write()システムコールで、エラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) から原因を調べて対策してください。

KFXO46001-E

定義解析処理でメモリ不足が発生しました。

■要因

定義解析処理中にメモリ不足が発生したため、処理を打ち切りました。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

KFXO46002-E

定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

■要因

定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を打ち切りました。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

KFXO46003-E

マスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

■要因

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名が指定されていないため、処理が続行できません。

■対処

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を追加して、Object Server を再起動してください。

KFXO46004-E

マスタディレクトリ用入力バッファ領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ: 確保しようとした領域長 (単位: バイト)

■要因

マスタディレクトリの入力バッファ領域を確保するときに、メモリ容量が不足したため、処理を続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから Object Server を再起動してください。

KFXO46005-E

マスタディレクトリのオープンに失敗しました。エラー番号= XX

エラー番号: open()システムコールで返されたエラー番号

■要因

マスタディレクトリのオープン時、open()システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理を続行できません。オープンしようとしたファイル名は、このメッセージに続いて出力されます。

■対処

システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名が正しいか ([データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドでマスタディレクトリを作成するときに、このファイル名を指定したか)、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するか確認し、又はエラー番号 (errno) を参照して、エラーの原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

エラー番号が 13 の場合、マスタディレクトリのファイルが他のプログラムで使用中心か、ファイルの属性が「書き込み禁止」になっているか、あるいは、マスタディレクトリのファイル又はそのディレクトリにアクセス権がありません。又は、マスタディレクトリのファイルが他のユーザにより暗号化されています。

- 他のプログラムが使用中の場合は、使用中のプログラムの完了を待って再実行してください。例えば、Windows NT のバックアッププログラムでこのファイルをバックアップしているとファイルは使用中になります。
- ファイルの属性が「書き込み禁止」になっている場合は、「書き込み許可」に変更し、再実行してください。
- マスタディレクトリのファイル又はそのディレクトリのアクセス権が正しく設定されてない場合、次のようにアクセス権を設定してください。ファイル又はそのディレクトリのアクセス権に、Object Server サービスのログオンに設定しているアカウントに対してフルコントロールを設定してください。ログオンアカウントがシステムアカウントの場合は、Administrators グループ又は Everyone に対してフルコントロールを設定してください。
- マスタディレクトリのファイルが暗号化されている場合は、暗号化の指定を外してください。

KFXO46006-E

マスタディレクトリの入力時、lseek()システムコールでエラーが発生しました。エラー番号= XX 制御ブロック名= XX

エラー番号：lseek()システムコールで返されたエラー番号

制御ブロック名：lseek()システムコールでエラーとなった制御ブロック名

■要因

マスタディレクトリ中の各制御ブロックの入力時、lseek()システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理を続行できません。入力しようとしたファイル名は、このメッセージの後に出力されます。

■対処

エラー番号 (errno) を参照して、エラーの原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

KFXO46007-E

マスタディレクトリの入力に失敗しました。エラー番号= XX 制御ブロック名= XX

エラー番号：read()システムコールで返されたエラー番号

制御ブロック名：入力に失敗した制御ブロック名

■要因

マスタディレクトリ中の各制御ブロックの入力時、read()システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理を続行できません。入力しようとしたファイル名は、このメッセージの後に出力されます。

■対処

エラー番号 (errno) を参照して、エラーの原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

KFXO46008-E

マスタディレクトリが初期化されていません。

■要因

マスタディレクトリが初期化されていない又は正常終了していないため、処理を続行できません。又は、システム共通定義の dbm_master パラメタで指定したマスタディレクトリのファイル名は、マスタディレクトリでないか、マスタディレクトリの内容が不正である場合もあります。このメッセージに続いてシステム共通定義の dbm_master パラメタに指定されたマスタディレクトリのファイル名が出力されます。

■対処

システム共通定義の dbm_master パラメタを見直すか、マスタディレクトリが不正な（例えば、他のファイルの内容を誤って上書きしてしまった）場合は、バックアップから回復した後、又は初期化されていない／初期化が完了してない場合はマスタディレクトリを [データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドで初期化した後、Object Server を再起動してください。このエラーが [データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドの実行時に発生した場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO46009-E

マスタディレクトリへの出力に失敗しました。エラー番号=XX 制御ブロック名= XX

エラー番号：write()システムコールで返されたエラー番号

制御ブロック名：出力に失敗した制御ブロック名

■要因

マスタディレクトリ中の各制御ブロックへの出力時、write()システムコールで、エラー番号に示すエラーが発生したため、処理が続行できません。出力しようとしたファイル名は、このメッセージに続いて出力されます。

■対処

エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除いて、Object Server を再起動してください。

KFXO46010-I

マスタディレクトリのクローズに失敗しました。エラー番号= XX

エラー番号：close()システムコールで返されたエラー番号

■要因

マスタディレクトリのクローズ時、close()システムコールでエラー番号 (errno) で示すエラーが発生しました。このメッセージに続いてマスタディレクトリのファイル名が出力されます。

KFXO46011-E

共有メモリの確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

静的共用メモリの確保時、メモリ容量が不足したため、処理が続行できません。計算によって得られた領域長がオーバーフローした場合、要求サイズに-1を表示します。

■対処

システム共通定義の static_shmpool_size を増やしてから Object Server を再起動してください。構成変更ユティリティでエリアを追加した場合、追加したエリア数分だけ static_shmpool_size の指定値を増やす必要があります。static_shmpool_size の指定値を増やせない場合及び要求サイズに-1 が表

示された場合は、静的共用メモリの所要量を削減できるように、システム共通定義の定義値を見直して、変更してから Object Server を再起動してください。

KFXO46012-E

ローカルメモリの確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

ローカルメモリの確保時、メモリ容量が不足したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから Object Server を再起動してください。

KFXO46013-E

ジャーナル使用開始処理時、メモリ不足が発生しました。

■要因

ジャーナル使用開始処理でメモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから Object Server を再起動してください。

KFXO46014-E

エリア情報の取得時に、エラーが発生しました。理由コード= XX エリア名= XX エリア番号= XX ファイル番号= XX

理由コード：エラーの要因及びその内容

エリア名：エラーが発生したエリア名（ファイルがマスタディレクトリの場合、エリア名が表示されない場合がある）

エリア番号：エラーが発生したエリア番号（1：マスタディレクトリ その他：ユーザ情報）

ファイル番号：エラーが発生したファイル番号

■要因

エリア情報の取得時に、理由コードで示すエラーが発生したため、処理を続行できません。このメッセージの後に、エラーが発生したファイル名が出力されます。

■対処

原因を取り除いて、Object Server を再起動してください。次に理由コードを示します。

理由コード	内容	対処
41004	マスタディレクトリの内容が不正です。	初期設定ユーティリティコマンドが正常終了しているか確認してください。正常に終了していた場合は、データベースをバックアップから回復してください。
41005	スレイブディレクトリの内容が不正です。	初期設定ユーティリティコマンドが正常終了しているか確認してください。正常に終了していた場合は、データベースをバックアップから回復してください。バックアップからの回復ができな

理由コード	内容	対処
41005	スレイブディレクトリの内容が不正です。	い場合、ユーザ用エリア又はインデクス用エリアの場合は、データベースのエリアの再初期化ユーティリティコマンドでエリアを再初期化してください。
その他	Object Server の内部にエラーが発生しました。	直前に出力されているメッセージに従って対策してください。

KFXO46018-E

ジャーナルサーバのサービス情報取得に失敗しました。理由コード= XX

理由コード：エラーの原因を示す

■要因

ジャーナルサーバのサービス情報取得時、理由コードで示すエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

理由コードから原因を取り除き、Object Server を再起動してください。

KFXO46019-E

格納制御のプロセス初期化処理で、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

格納制御のプロセス初期化処理でメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか又はシステムのメモリサイズを増やして、Object Server を再起動してください。

KFXO46020-E

格納制御定義解析処理で、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

格納制御定義解析処理で、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから Object Server を再起動してください。

KFXO46021-E

グローバルキャッシュ名が重複しています。グローバルキャッシュ名= XX

グローバルキャッシュ名：重複しているグローバルキャッシュ名

■要因

システム定義ファイルの gcache パラメタで指定したグローバルキャッシュ名が重複しているため、処理が続行できません。

■対処

システム定義ファイルの gcache パラメタのグローバルキャッシュ名が重複しないように定義し直して Object Server を再起動してください。

KFXO46022-E

グローバルキャッシュの用途が重複しています。グローバルキャッシュの用途 = XX

グローバルキャッシュの用途：重複しているグローバルキャッシュの用途

■要因

システム定義ファイルの gcache パラメタで指定したグローバルキャッシュの用途が重複しているため、処理が続行できません。

■対処

システム定義ファイルの gcache パラメタのグローバルキャッシュの用途が重複しないように定義し直して、Object Server を再起動してください。

KFXO46023-E

常駐ページプール名が重複しています。常駐ページプール名 = XX

常駐ページプール名：重複している常駐ページプール名

■要因

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプール名が重複しているため、処理が続行できません。

■対処

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプール名を他と重複しないように指定し直して、Object Server を再起動してください。

KFXO46024-E

常駐ページプールの用途が重複しています。常駐ページプールの用途 = XX

常駐ページプールの用途：重複している常駐ページプールの用途

■要因

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプールの用途が重複しているため、処理が続行できません。

■対処

システム共通定義ファイル中の resipool パラメタで指定した常駐ページプールの用途を他と重複しないように指定し直して、Object Server を再起動してください。

KFXO46025-E

グローバルキャッシュ名の指定がありません。ファイル名 = XX 行番号 = XX

ファイル名：エラーの発生したシステム定義ファイルの名称

行番号：エラーの発生した gcache パラメタのある行番号

■要因

ファイル名に示されるシステム定義ファイルの gcache パラメタに、グローバルキャッシュ名の定義 (-n オペランド) がないため、処理が続行できません。

■対処

エラーのあった gcache パラメタにグローバルキャッシュ名の定義 (-n オペランド) を追加し、Object Server を再起動してください。

KFXO46027-E

常駐ページプール名の指定がありません。ファイル名 = XX, 行番号 = XX

ファイル名: エラーの発生したシステム定義ファイルの名称

行番号: エラーの発生した resipool パラメタのある行番号

■要因

ファイル名で示すシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタの定義に常駐ページプール名の定義 (-n オペランド) がないため、処理が続行できません。

■対処

エラーのあったシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタに常駐ページプール名の定義 (-n オペランド) を追加して、Object Server を再起動してください。

KFXO46028-E

常駐ページプールの用途の指定がありません。ファイル名 = XX, 行番号 = XX

ファイル名: エラーの発生したシステム定義ファイルの名称

行番号: エラーの発生した resipool パラメタのある行番号

■要因

ファイル名で示すシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタの定義に常駐ページプールの用途の定義 (-u オペランド) がないため、処理が続行できません。

■対処

エラーのあったシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタに常駐ページプールの用途の定義 (-u オペランド) を追加して、Object Server を再起動してください。

KFXO46029-E

常駐ページプールの面数の指定がありません。ファイル名 = XX, 行番号 = XX

ファイル名: エラーの発生したシステム定義ファイルの名称

行番号: エラーの発生した resipool パラメタのある行番号

■要因

ファイル名で示すシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタの定義に常駐ページプールの面数の定義 (-m オペランド) がないため、処理が続行できません。

■対処

エラーのあったシステム共通定義ファイル中の resipool パラメタに常駐ページプールの面数の定義 (-m オペランド) を追加して、Object Server を再起動してください。

KFXO46030-E

全面回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生しました。

■要因

全面回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO46031-E

全面回復処理中にデータベースのロールフォワード処理でエラーが発生しました。

■要因

全面回復処理中にデータベースのロールフォワード処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO46032-E

全面回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生しました。

■要因

全面回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。

KFXO46035-E

バックグラウンドライトプロセスの起動に失敗しました。理由コード=XX

理由コード：エラーの要因

■要因

バックグラウンドライトプロセスの起動時に理由コードで示すエラーが発生しました。

■対処

理由コードからエラーの要因を取り除き、Object Server を再起動してください。

理由コード	内容	対処
-1800	ステータス書き込みエラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください
-1802	バックグラウンドライトプロセスの定義解析エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください
-1803	起動中にバックグラウンドライトプロセスがダウンした	直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください
-1851	プロセス間通信エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策を行ってください
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください

KFXO46039-E

部分回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生しました。理由コード=XX

理由コード：エラーの原因

■要因

部分回復処理中にシステム制御ジャーナル入力処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO46040-E

部分回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生しました。理由コード=XX

理由コード：エラーの原因

■要因

部分回復処理中にデータベースのロールバック処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO46041-E

最大追加エリア数を越えたため、エリア追加を回復できません。エリア名= XX, エリア番号= YY

エリア名：エリア追加の回復ができなかったエリア名

エリア番号：エリア追加の回復ができなかったエリアの番号

■要因

データベースの回復に使用したバックアップの取得以降に追加されたエリアの数が、システム共通定義の add_area_limit で指定した最大追加エリア数を越えていたため、エリア追加を回復できません。

■対処

構成変更ユーティリティ (xodaradd コマンド) の処理結果 (xodresult ファイル) から、データベースの回復に使用したバックアップの取得以降に追加したユーザ用、インデクス用エリアの数を確認し、システム共通定義の add_area_limit を見直す。そして、データベース回復ユーティリティ (xodbrstr) の再実行後、システム共通定義の add_area_limit を追加したエリア数以上に変更し、Object Server を再起動しデータベース回復ユーティリティ (xodbrecv, xodbkout) を実行してください。

KFXO46042-E

全面回復処理中に FJ 通番不正を検知しました。

■要因

全面回復処理中に FJ 通番不正を検知しました。

■対処

このメッセージ、及びこのメッセージの次に出力されたメッセージの内容を記録し、データベースとジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO46043-E

ジャーナルにより回復しようとしたページが DB 中にありません。エリア名=XX, エリア番号=YY, ページ ID=ZZ

エリア名：当該エリアのエリア名称

エリア番号：当該エリアのエリア番号

ページ ID：当該ページのページ ID

■要因

ジャーナルにより回復しようとしたページがデータベース中にありません。

■対処

このメッセージ、及びこのメッセージの次に出力されたメッセージの内容を記録し、データベースとジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO46044-E

データベースとジャーナルの不整合を検知しました。

■要因

データベースとジャーナルの不整合が発生しました。

■対処

不整合を検知した後、Object Server が異常終了しなかった場合は、スタートアップパラメタに「normal」を指定して、Object Server を再起動してください。

不整合を検知した後、Object Server が異常終了した場合は、スタートアップパラメタに「normal」を指定しないで「recvutl」を指定して、回復ユティリティ実行モードで起動してください。異常終了時に「normal」が指定されていると、回復ユティリティを実行しないで再起動するため、データベースが壊れる可能性があります。

Object Server を再起動した後、不適切なバックアップからデータベースをリストアしたり、誤ってシステムをリランしていないか確認してください。それでも不整合が生じる場合は、データベースとジャーナルを保存してシステム管理者に連絡してください。

KFXO46990-I

ジャーナル種別 = AA, ジャーナル識別子 = BB, ジャーナルレコード番号 = CC, ジャーナル取得日時 = DD

ジャーナル種別:

更新ジャーナルの種別を示すコード

次のどれかが表示されます。

F: データベース更新ジャーナル

C: メモリ更新ジャーナル

上記以外: 上記以外のジャーナル

ジャーナル識別子: ジャーナルを取得した処理を識別するコード (10 進数)

ジャーナルレコード番号: ジャーナルレコード番号 (10 進数)

ジャーナル取得日時: yy-mm-dd hh:mm:ss

(西暦の下 2 けた-月-日 時:分:秒)

■要因

このメッセージの前に出力されたメッセージに関連のあるジャーナルの詳細情報を表示します。要因についてはこのメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。

KFXO46991-I

関数名=XX, エラーコード=XX

関数名: エラーが発生した Win32API の関数名

エラーコード: Win32API のエラーコード

■要因

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。

■対処

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。

KFXO46999-E

OMS 格納制御が異常を検知しました。理由コード = XX 詳細コード = XX ファイル名 = XX 場所 = XX

理由コード：エラーの要因及びその内容

詳細コード：エラーとなった関数のエラーコード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

データベースが不正です。又は Object Server 格納制御で内部矛盾を検知しました。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください。

(10) KFXO50000-KFXO59999

KFXO50000-I

DB 初期設定ユーティリティを開始します。

■要因

[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO50002-E

ノード ID が不正な値です。

■要因

ノード ID に半角数字(0~9)以外の値を指定しています。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO50003-E

ノード ID が指定すべき範囲を越えています。最小値：XX 最大値：XX

最小値：指定できるノード ID の最小値

最大値：指定できるノード ID の最大値

■要因

ノード ID は 1 以上 16382 以下の値を指定しなければなりません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO50004-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドの項目が正しく指定されていません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO50006-E

領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO50007-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

システムコールの time() の引数が不正のためエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO50008-E

ディクショナリ定義中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細コード：XX

エラーコード：ディクショナリ定義中に発生したエラーコード

詳細コード：ディクショナリ定義中に発生した詳細コード

■要因

ディクショナリ定義中にエラーが発生しました。

■対処

次に、各エラーコードに対する対処を示します。

エラーコード	対処
46200	このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。
45110	このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの read() で発生したエラーコードです。
45130	このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの write() で発生したエラーコードです。

エラーコード	対処
45120	このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。
44120	このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの open() で発生したエラーコードです。
44140	このエラーメッセージより前に出力されたエラーメッセージで示された障害を取り除いて、再実行してください。詳細コードはシステムコールの fcntl() で発生したエラーコードです。
41014	マスタディレクトリ又はデータディレクトリの容量を大きくして、再実行してください。どちらの容量が不足しているかは、このエラーメッセージより前のエラーメッセージを参照してください。
40402	OID インデクスの容量を大きくして、再実行してください。
40401	ディクショナリの容量を大きくして、再実行してください。
その他	他の OMS を起動中でないことを確認して、再実行してください。

KFXO50009-E

エリアの定義が不足しています。

■要因

必須のエリアが定義されていません。

■対処

初期設定パラメタファイルを見直し、不足しているエリアを定義してください。そして、再実行してください。

KFXO50010-E

ファイルの定義が不足しています。エリア名：XX

エリア名：ファイルの定義が不足していたエリア名

■要因

エリアに対応するファイルが定義されていません。

■対処

初期設定パラメタファイルを見直し、メッセージに表示されたエリアに対応するファイルを定義してください。そして、再実行してください。

KFXO50100-E

ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。次の要因が考えられます。

- ファイル名中に指定されているパスがファイルシステムに存在しない (エラーコード 2)
- アクセス中のファイルが削除されました。
- オープンしているファイルを、再度オープンしようとしてしました。

■対処

エラーコード (errno) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50103-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

ファイル名: 書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード: システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50104-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名: XX

ファイル名: 書き込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

ファイルに書き込みをするとき、記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。システムコールの ulimit() を使用して、プロセスで書き込めるファイルの限界を設定している場合、その限界より多いバイトの書き込みを要求したときもこのエラーになります。

■対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO50105-E

ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

ファイル名: 読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード: システムコールの read() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50107-E

ファイルが既に存在しています。ファイル名: XX

ファイル名: 既に存在していたファイルのファイル名

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、既に同じ名称のファイルがありました。[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドが割り込みなどで強制終了したとき、初期化の途中のファイルが残っている場合があるために、このエラーになることがあります。

■対処

既存のファイルを削除又は移動するか、あるいは使用していない別のファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO50108-E

ファイルの削除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：削除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの unlink() で発生したエラーコード

■要因

[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドの実行中に生成したファイルを削除するときに、システムコールの unlink() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドを再実行してください。

KFXO50109-E

ファイルのロックに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：書き込みロックに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの fcntl() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックをしようとしたとき、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50110-E

ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：書き込みロックの解除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの fcntl() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとしたとき、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50111-E

ファイルフラグの設定に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：ファイルフラグの設定に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

■要因

ファイルに対して同期書きのためのファイルフラグを設定しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (`errno`) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50112-E

ファイルフラグの解除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：ファイルフラグの解除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

■要因

ファイルの同期書きのためのファイルフラグを解除しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (`errno`) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50113-E

これ以上ファイルをオープンできません。

■要因

一つのプロセスでオープンできるファイルの最大数 100 を超えたのでオープンできませんでした。オープンしたファイルは書き込みが終了した後、必ずクローズしています。しかし、クローズエラーになった場合には、処理が続行されて、オープンしたままのファイルが発生することがあります。そのようなファイルが、100 を超えた場合にこのメッセージが出力されます。

■対処

再実行してください。

KFXO50114-E

ファイルステータスの取得に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：ステータスの取得に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

■要因

ファイルのステータスを取得しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (`errno`) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50115-E

ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `lseek()` からエラーリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) を参照して、エラーの要因を取り除いてから、再実行してください。

KFXO50200-E

ユーザ用、インデクス用エリアの合計が最大数を超過しています。最大数：XX

最大数：ユーザ用、インデクス用エリア数の合計の最大数

■要因

初期設定パラメタファイルに定義されたユーザのエリアとインデクスのエリアの合計数が 3,174 個を超過しています。

■対処

ユーザ用、インデクス用エリア数の合計を 3,174 個以下に定義し直して、再実行してください。

KFXO50201-E

エリア名が重複しています。エリア名：XX

エリア名：重複したエリア名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義されたエリア名が重複しています。

■対処

エリア名が重複しないように定義し直して、再実行してください。

KFXO50202-E

エリア数が最大数を超過しています。エリア名：XX 用途：XX 最大数：XX

エリア名：最大数を超過していたエリアのエリア名

用途：最大数を超過していたエリアの用途

最大数：最大数を超過していたエリアの最大数

■要因

初期設定パラメタファイルに定義されたエリアの定義数が最大値を超過しています。

■対処

該当するエリアの定義数を最大値以下に定義し直して、再実行してください。

KFXO50203-E

エリアの定義順序が不正です。エリア名：XX

エリア名：不正な位置に定義されたエリアのエリア名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義されたエリアの定義順序が不正です。

■対処

初期設定パラメタファイルに定義順序に従ってエリアを定義して、再実行してください。

KFXO50204-E

area コマンドが定義されていません。

■要因

初期設定パラメタファイルに、エリアを定義するための area コマンドが定義されていません。

■対処

初期設定パラメタファイルに area コマンドによってエリアを定義して、再実行してください。

KFXO50205-E

1 エリア中のファイル数が最大数を超過しています。エリア名：XX 最大数：XX

エリア名：ファイルの最大数を超過して定義されたエリアのエリア名

最大数：1 エリアに定義できるファイルの最大数

■要因

初期設定パラメタファイルに、一つのエリアの中のファイル数が最大数 16 を超過して定義されています。

■対処

一つのエリアの中のファイル数が最大数以下になるように定義し直して、再実行してください。

KFXO50206-E

ファイル名が重複しています。エリア名：XX ファイル名：XX

エリア名：重複したファイルを持つエリアのエリア名

ファイル名：重複したファイル名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義したファイル名が重複しています。

■対処

ファイル名が重複しないように定義し直して、再実行してください。

KFXO50208-E

area コマンドのオプションが定義されていません。エリア名：XX オプション：XX

エリア名：オプションが定義されていないエリアのエリア名

オプション：定義不足のオプション名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義した area コマンドのオプションが定義されていません。

■対処

area コマンドのオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50209-E

file コマンドのオプションが定義されていません。ファイル名：XX オプション：XX

ファイル名：オプションが定義されていないファイルのファイル名

オプション：定義不足のオプション名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義した file コマンドのオプションが定義されていません。

■対処

file コマンドのオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50211-E

セグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名：XX ファイル名：XX 最大値：XX

エリア名：当該セグメントサイズが定義してあるエリアのエリア名

ファイル名：当該初期割当量が定義してあるファイルのファイル名

最大値：セグメントサイズと初期割当量を掛けた場合の最大値

オプション：定義不足のオプション名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義したエリアのセグメントサイズとファイルの初期割当量の積が最大値を超えています。

■対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO50212-E

XX 番目の area コマンドのオプションが定義されていません。オプション：XX

オプション：定義不足のオプション名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義したエリアのオプションが定義されていません。

■対処

area コマンドにオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50213-E

エリア名< XX >の XX 番目の file コマンドのオプションが定義されていません。オプション：XX

オプション：定義不足のオプション名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義したファイルのオプションが定義されていません。

■対処

file コマンドにオプションを定義して、再実行してください。

KFXO50214-E

最大割当量が初期割当量より大きく定義されていません。エリア名：XX ファイル名：XX

エリア名：当該最大割当量が定義されているファイルを持つエリアのエリア名

ファイル名：当該最大割当量が定義されているファイルのファイル名

■要因

初期設定パラメタファイルに定義した最大割当量が初期割当量より大きく定義されていません。

■対処

最大割当量に初期割当量より大きい値を指定して、再実行してください。

KFXO50215-E

セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名：XX ファイル名：XX 最大値：XX

エリア名：当該セグメントサイズが定義してあるエリアのエリア名

ファイル名：当該最大割当量が定義してあるファイルのファイル名

最大値：セグメントサイズと最大割当量を掛けた場合の最大値

■要因

初期設定パラメタファイルに定義したエリアのセグメントサイズとファイルの最大割当量の積が最大値を超えています。

■対処

セグメントサイズと最大割当量を見直して、再実行してください。

KFXO50216-E

ファイル名の長さが定義範囲を超えています。エリア名：XX ファイル名：XX 最小値：XX 最大値：XX

エリア名：定義範囲を超えたファイル名が定義されているエリアのエリア名

ファイル名：定義範囲を超えたファイル名

最小値：ファイル名の長さの最小値

最大値：ファイル名の長さの最大値

■要因

初期設定パラメタファイルのファイル名の長さが、定義できる範囲を超えています。

■対処

ファイル名の長さを定義できる範囲で定義し直して、再実行してください。

KFXO50220-W

ジャーナルファイルの削除に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの unlink() で発生したエラーコード

■要因

ジャーナルファイルを削除しようとしたとき、システムコールの unlink() でエラーが発生しました。

■対処

ジャーナルファイルを削除してください。

KFXO50221-E

ファイルのサイズが最大値を超えます。エリア名：XX ファイル名：XX ファイルサイズ：XXKB 最大値：XXKB

エリア名：ファイルサイズが最大値を超えるファイルを定義してあるエリアのエリア名

ファイル名：ファイルサイズが最大値を超える定義がしてあるファイルのファイル名

ファイルサイズ：初期設定パラメタファイルに定義してあるセグメントサイズと初期割当量から計算されたファイルサイズ (単位：キロバイト)

最大値：ファイルサイズの最大値（単位：キロバイト）

■要因

初期設定パラメタファイルに定義してあるエリアのセグメントサイズとファイルの初期割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズの計算式は、マニュアルの付録の「ファイル容量の計算式」を参照してください。

■対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO50300-I

DB 初期設定ユーティリティが正常終了しました。

■要因

[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドが正常終了しました。

KFXO50301-E

DB 初期設定ユーティリティが異常終了しました。再起動してください。

■要因

このエラーメッセージより前に出力されたエラーに示す原因で、[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージより前に出力されたエラーに対処した後で、再起動してください。

KFXO50997-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

Object Server システムディレクトリのファイル xodresult 中に出力された KFXO50300-I メッセージが出力されていない場合、必要であれば再実行してください。

KFXO51000-I

DB 回復中です。

■要因

データベースの回復を開始したときに出力されます。

KFXO51006-E

領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO51100-E

ジャーナルファイルのオープンに失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51103-E

ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。status：XX エラーコード：YY

status：トランザクション ID

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51104-E

ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。物理エリア名：XX ページ番号：YY エラーコード：ZZ

物理エリア名：回復情報を出力しようとした DB の物理エリア名

ページ番号：回復情報を出力しようとした DB のページ番号

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51105-E

ジャーナルファイルの読み込みに失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの read() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51106-E

ジャーナルファイルの情報取得に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの stat() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイル情報を取得しようとしたとき、システムコールの stat() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51107-E

ジャーナルファイルの書き込みに失敗しました。

■要因

ファイルに書き込みをするとき、残っている領域又は記憶媒体の最大容量を上回るバイト数の書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO51108-E

ジャーナルファイルの切捨てに失敗しました。status : XX エラーコード : XX

status : トランザクション ID

エラーコード : システムコールの SetEndOfFile () で発生したエラーコード

■要因

ファイルを切捨てようとしたとき、システムコールの SetEndOfFile () でエラーが発生しました。

■対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO51115-E

ジャーナルファイルのポインタの移動に失敗しました。エラーコード : XX

エラーコード : システムコールの lseek() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51116-W

ジャーナルファイルのバックアップ取得に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード : XX

エラーコード : システムコールの system() からリターンしたエラーコード

■要因

システムコールの system() で、エラーが発生しました。

■対処

ジャーナルファイルのバックアップを取得してください。

KFXO51117-W

ジャーナルファイルの削除に失敗しましたが、処理を続行します。エラーコード : XX

エラーコード：システムコールの unlink() で発生したエラーコード

■要因

ジャーナルファイルの削除をしようとしたとき、システムコールの unlink() で、エラーが発生しました。

■対処

ジャーナルファイルを削除してください。

KFXO51118-W

ジャーナルファイルのバックアップ取得に失敗しましたが、処理を続行します。

■要因

システムコールの system() の cp で、エラーが発生しました。ジャーナルファイルのバイト数が残りの記憶媒体の容量を上回ったため、バックアップが取得できなかった可能性があります。

■対処

残りの記憶媒体のバイト数を調べて空き領域を作成し、ジャーナルファイルのバックアップを取得してください。

KFXO51140-I

前回の起動時に設定したジャーナルファイルは XX です。

XX：前回のジャーナルファイル名

■要因

簡易ジャーナルファイルの設定が変更されています。

KFXO51141-I

前回のジャーナルファイルはありません。ファイル名：XX

ファイル名：前回のジャーナルファイル名

■要因

前回のジャーナルファイルがないときに出力します。

KFXO51142-E

前回の起動時に設定したジャーナルファイル中に、回復しなければならないジャーナルが存在しています。前回設定ジャーナルファイル名：XX

前回設定ジャーナルファイル名：前回の起動時に設定したジャーナルファイル名

■要因

ジャーナルの出力先ファイル名が定義によって変更されましたが、前回の起動時に設定したジャーナルファイル中に回復しなければならないジャーナルが残っています。

■対処

まず、前回設定したジャーナルファイル中に存在するジャーナルを回復するために、ジャーナルの出力先ファイル名の定義を前回の定義に戻して Object Server を起動してください。その後、Object Server を正常終了させてから、ジャーナルの出力先ファイル名の定義を変更してください。

データベースをバックアップから回復したとき等、前回のジャーナルが不要な場合は Object Server を強制正常開始モードで起動してください。

KFXO51143-E

ジャーナル情報ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX 要因：YY エラーコード：ZZ

ファイル名：ジャーナル情報ファイルのファイル名

要因：エラーが発生したシステムコール

エラーコード：システムコールのエラーコード (errno)

■要因

ジャーナル情報ファイルの読み込み処理でシステムコールエラーが発生しました。

■対処

前回、Object Server が正常終了している場合は、ファイル名の指すファイルを削除して、Object Server を起動してください。

前回、Object Server が正常終了していない場合は、ファイル名、要因、エラーコードに基いて対処してください。

要因	内容	対処
open()	ファイル名の指すファイルにアクセスできません。	システム共通定義の dbm_master パラメタの指定が正しいか、見直してください。 又はファイルと、ファイルの存在するディレクトリに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。 又はエラーコードを参照して対処してください。
read()	ファイル名の指すファイルが読み込めません。	ファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。 又はエラーコードを参照して対処してください。

KFXO51144-E

ジャーナル情報ファイルの内容不正を検知しましたが、処理を続行します。ファイル名：XX

ファイル名：ジャーナル情報ファイルのファイル名

■要因

ジャーナル情報ファイルの内容が不正であることを検知しました。ジャーナルファイルの変更チェックをスキップします。

■対処

前回のジャーナルファイルの変更チェックを行いませんので、前回のジャーナルが回復されていない場合があります。次の項目すべてに該当する場合、対処が必要です。

- 前回の起動時以降、システム共通定義の jnl_output_file パラメタでジャーナルの出力先ファイル名の定義を変更した。
- 前回、Object Server が異常終了している。

上記2点とも該当する場合、次の手順で対処してください。

1. Object Server を正常終了させてください。
2. システム共通定義の jnl_output_file パラメタを、変更前の定義に戻してください。変更前の定義については、前回の起動時に出力された KFXO51150-I メッセージを参照してください。
3. ファイル名の指すジャーナル情報ファイルを削除してください。
4. Object Server を起動してください。

又、ファイル名の指すファイルがユーザのファイルとしてすでに存在していた場合にも、このメッセージを出力します。Object Server はそのファイルをジャーナル情報ファイルとして使用しますが、その場合、元にあったファイルは%XODDIR%\\$pool¥xodjnlinfo2 として待避しています。必要ならばそこから復元してください。ただし、ジャーナル情報ファイルとは別名称にしてください。

KFXO51145-E

ジャーナル情報ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX 要因：YY エラーコード：ZZ

ファイル名：ジャーナル情報ファイルのファイル名

要因：エラーが発生したシステムコール

エラーコード：システムコールのエラーコード

■要因

ジャーナル情報ファイルの書き込み処理でシステムコールエラーが発生しました。

■対処

ファイル名の指すファイルを削除して、Object Server を起動してください。

ファイル名の指すファイルが存在しない場合、ファイルを削除して起動しても繰り返し、このメッセージが出力される場合は、ファイル名、要因、エラーコードに基いて対処してください。

要因	内容	対処
open()	ファイル名の指すファイルの作成又は書き込みができません。	システム共通定義の dbm_master パラメタの指定が正しいか、見直してください。 又はファイルと、ファイルの存在するディレクトリに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。 又はエラーコードを参照して対処してください。
write()	ファイル名の指すファイルに書き込めません。	ディスクが満杯の場合は空きを用意してください。 又はファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。 又はエラーコードを参照して対処してください。

KFXO51146-E

ジャーナル情報ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX

ファイル名：ジャーナル情報ファイルのファイル名

■要因

ジャーナル情報ファイルに全ての情報が書き込めませんでした。

■対処

以下を見直した後、ファイル名の指すファイルを削除して、Object Server を起動してください。

- ディスクが満杯の場合は空きを用意してください。
- ファイル名の指すファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、見直してください。

KFXO51147-E

前回のジャーナルファイルの読み込みに失敗しましたが、処理を続行します。ファイル名：XX 要因：YY エラーコード：ZZ

ファイル名：前回のジャーナルファイルのファイル名
 要因：エラーが発生したシステムコール
 エラーコード：システムコールのエラーコード (errno)

■要因

ジャーナルの出力先ファイル名が定義によって変更されましたので前回のジャーナルファイルのチェックを行いました。ジャーナルファイルの読み込み処理中にシステムコールエラーが発生しました。

■対処

前回のジャーナルファイル中に回復しなければならないジャーナルが存在するかのチェックをスキップしますが、前回、Object Server が正常終了している場合は問題ありません。

前回、Object Server が異常終了している場合は、次の手順で対処してください。

1. Object Server を正常終了させてください。
2. システム共通定義の jnl_output_file パラメータを、変更前の定義に戻してください。
3. ジャーナル情報ファイルを削除してください。ジャーナル情報ファイルのファイル名は<マスタディレクトリファイルの格納ディレクトリ>%xodjnlinfo です。
4. ファイル名、要因、エラーコードに基づいてジャーナルファイルの対処をしてください。

要因	内容	対処
open()	ファイル名の指すファイルにアクセスできません。	ファイルと、ファイルの存在するディレクトリに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、又は、暗号化の指定が行われていないか、見直してください。 又はエラーコードを参照して対処してください。
read()	ファイル名の指すファイルが読み込めません。	ファイルに Object Server の読み取り権限と更新権限があるか、又は、暗号化の指定が行われていないか、見直してください。 又はエラーコードを参照して対処してください。

5. Object Server を起動してください。

KFXO51150-I

ジャーナルファイルを設定します。ファイル名：XX

ファイル名：ジャーナルファイル名

■要因

Object Server の開始時に出力されます。ただし、High-end Object Server では出力されません。

KFXO51200-E

物理エリアのオープンに失敗しました。物理エリア名：XX エラーコード：YY

物理エリア名：オープンに失敗した物理エリア名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

物理エリアをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51201-E

ポインタの移動に失敗しました。物理エリア名：XX ページ番号：YY エラーコード：ZZ

物理エリア名：回復情報を出力しようとした DB の物理エリア名

ページ番号：回復情報を出力しようとした DB のページ番号

エラーコード：システムコールの lseek() で発生したエラーコード

■要因

ポインタを移動しようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51202-E

物理エリアの書き込みに失敗しました。物理エリア名：XX ページ番号：YY エラーコード：ZZ

物理エリア名：回復情報を出力しようとした DB の物理エリア名

ページ番号：回復情報を出力しようとした DB のページ番号

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

物理エリアに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO51203-E

物理エリアのロックに失敗しました。物理エリア名：XX エラーコード：YY

物理エリア名：ロックに失敗した物理エリア名

エラーコード：システムコールの fcntl() からリターンしたエラーコード

■要因

物理エリアの読み込みをしようとしたとき、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。エラーコードが 13 の場合は、Object Server と連携するプログラムをすべて停止してから再実行してください。

KFXO51300-I

DB 回復が正常終了しました。

■要因

データベースの回復が正常終了しました。

KFXO51301-E

DB 回復が異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージの前に出力されたエラーが原因で、データベースの回復が異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージの前に出力されたエラーを対処した後で、再起動してください。

KFXO51400-E

領域不足のためメッセージが出力できませんでした。メッセージ番号：XX

メッセージ番号：出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

領域不足のために、メッセージが出力できませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大するか、又は不要なプロセスを終了させてください。

KFXO51401-E

メッセージが出力できませんでした。エラーコード：XX メッセージ番号：YY

エラーコード：内部矛盾の要因を表すエラーコード

メッセージ番号：出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

内部矛盾が発生したために、メッセージが出力できませんでした。

■対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO52000-I

DB バックアップを開始します。ファイル名= XX

ファイル名：DB バックアップファイル名

■要因

当該データベースのバックアップファイルの処理を開始します。

KFXO52001-I

DB バックアップが正常終了しました。ファイル名= XX

ファイル名：DB バックアップファイル名

■要因

当該データベースのバックアップファイルの処理が正常に終了しました。

KFXO52002-E

DB バックアップを中止します。ファイル名= XX

ファイル名：DB バックアップファイル名

■要因

当該データベースのバックアップファイルの処理を中止します。

■対処

このメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後で、再実行してください。

KFXO52010-I

DB エリアのバックアップを開始します。エリア名 = XX

エリア名：処理する DB エリア名

■要因

当該データベースのエリアのバックアップ処理を開始します。

KFXO52011-I

DB エリアのバックアップが正常終了しました。エリア名 = XX

エリア名：処理した DB エリア名

■要因

当該データベースのエリアのバックアップ処理が正常に終了しました。

KFXO52012-E

DB エリアのバックアップを中止します。エリア名 = XX

エリア名：処理しようとした DB エリア名

■要因

当該データベースのエリアのバックアップ処理を中止します。

■対処

このメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後で、再実行してください。

KFXO52013-W

DB エリアが障害閉塞中です。エリア名 = XX

エリア名：処理しようとしている DB エリア名

■要因

処理しようとしているデータベースのエリアが、障害閉塞中です。

■対処

エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52014-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

KFXO52090-I

DB バックアップユーティリティを開始します。

■要因

[データベースのバックアップ] ユティリティ又は xodbckup コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO52091-I

DB バックアップユーティリティが正常終了しました。

■要因

[データベースのバックアップ] ユティリティ又は xodbckup コマンドが正常終了しました。

KFXO52092-E

DB バックアップユーティリティが異常終了しました。

■要因

このメッセージ以前に出力されたエラーによって [データベースのバックアップ] ユティリティ又は xodbckup コマンドが異常終了しました。

■対処

このメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後で、再実行してください。

KFXO52093-E

DB バックアップユーティリティが正常終了しました。警告エラーが発生していますので、必要なら再実行してください

■要因

障害が発生しましたが処理を続行し、[データベースのバックアップ] ユティリティ又は xodbckup コマンドが正常終了したときに出力されます。

■対処

必要があれば、警告エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO52100-E

システム共通定義にデータベースの指定がありません。

■要因

システム共通定義にデータベースの指定がないため、処理を続行できません。

■対処

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を追加した後で、再実行してください。

KFXO52101-E

定義されたデータベースは、Bibliotheca/OM で初期化されたものです。ファイル名= XX

ファイル名：定義されたデータベースのマスタディレクトリファイル名

■要因

システム共通定義で指定されたデータベースは、Bibliotheca/OM で初期化されているため、処理を続行できません。

■対処

環境変数 XODCONFPATH 及び PATH の値、システム共通定義の dbm_master の指定を正しくするか、Object Server の [データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドで初期化した後で、再実行してください。

KFXO52102-E

バージョンが不正です。ユティリティのバージョン= XX データベースのバージョン= YY ファイル名= ZZ

ユティリティのバージョン：実行させた DB バックアップユティリティのバージョンリビジョン番号

データベースのバージョン：定義されたデータベースのバージョンリビジョン番号

ファイル名：定義されたデータベースのマスタディレクトリファイル名

■要因

実行したユティリティのバージョンリビジョン番号は、データベースを初期化した [データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドのバージョンリビジョン番号より以前のものであるため、処理を続行できません。

■対処

データベースのバージョンリビジョン番号以降のユティリティで、再実行してください。

KFXO52103-E

データベースが初期化されていません。ファイル名= XX

ファイル名：定義されたデータベースのマスタディレクトリファイル名

■要因

データベースが初期化されていないか、初期化が正常終了していないため、処理を続行できません。

■対処

データベースを [データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドで初期化した後で、再実行してください。

KFXO52108-E

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生しました。

■要因

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO52109-E

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

■要因

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い原因を取り除き、再実行してください。

KFXO52110-I

使用方法: xodbckup {-b DBバックアップファイル名 | -f パラメタファイル名}

■要因

引数の指定に誤りがあります。

■対処

使用方法に従い、再実行してください。

KFXO52111-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

引数の指定が誤っています。

■対処

KFXO52110-I で表示する使用方法に従い、再実行してください。

KFXO52120-E

DBバックアップファイル名の指定に誤りがあります。

■要因

データベースのバックアップファイル名が 175 バイトを超過しています。

■対処

バックアップファイル名を正しく指定して、再実行してください。

KFXO52121-E

パラメタファイル名の指定に誤りがあります。

■要因

パラメタファイル名が 175 バイトを超過しています。

■対処

パラメタファイル名を正しく指定して、再実行してください。

KFXO52200-E

backup パラメタがパラメタファイルの先頭に存在しません。

■要因

backup パラメタがパラメタファイルの先頭に存在しません。

■対処

パラメタファイル名を正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52201-E

backup パラメタがパラメタファイルの先頭以外に存在しています。

■要因

backup パラメタがパラメタファイルの先頭以外に存在しています。

■対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52210-E

backup パラメタにオペランドが指定されていません。XX 行目 オペランド：YY

XX 行目：パラメタファイル中での backup パラメタの開始行位置

オペランド：指定不足のオペランド

■要因

backup パラメタにオペランドが指定されていません。

■対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52220-E

area パラメタにオペランドが指定されていません。XX 行目 オペランド：YY

XX 行目：パラメタファイル中での area パラメタの開始行位置

オペランド：指定不足のオペランド

■要因

area パラメタにオペランドが指定されていません。

■対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52221-E

エリア名が重複しています。エリア名 = XX

エリア名：重複した DB エリア名

■要因

area パラメタにエリア名を重複指定しています。

■対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52222-E

指定されたエリアは存在しません。エリア名 = XX

エリア名：指定された DB エリア名

■要因

指定されたエリアはデータベースに定義されていません。

■対処

パラメタファイルを正しく定義し直して、再実行してください。

KFXO52800-E

物理エリアのオープンに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：オープンしようとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

open()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52801-E

これ以上物理エリアをオープンできません。ファイル名= XX

ファイル名：オープンしようとしたファイル名

■要因

1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超過しました。

■対処

エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52807-E

物理エリアのステータス取り出しに失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

ファイル名：ステータスを取り出そうとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

fstat()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52808-E

物理エリアのファイル制御に失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

ファイル名：制御しようとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

fcntl()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52809-E

物理エリアのクローズに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：クローズしようとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

close()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52810-E

物理エリアのポインタ移動に失敗しました。ファイル名= XX ページ番号= YY エラー番号= ZZ

ファイル名: ポインタ移動しようとしたファイル名

エラー番号: システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

lseek()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52811-E

物理エリアの読み込みに失敗しました。ファイル名= XX ページ番号= YY エラー番号= ZZ

ファイル名: 読み込もうとしたファイル名

エラー番号: システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

read()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52812-E

物理エリアの読み込みサイズが、ページ長と一致していません。ファイル名= XX ページ番号= YY

ファイル名: 読み込もうとしたファイル名

■要因

実際に読み込みしたサイズが、ページ長と一致していません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。またこのメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO52880-E

ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名: オープンしようとしたファイル名

エラー番号: システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

open()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52881-E

ファイルが既に存在しています。ファイル名= XX

ファイル名：既に存在していたファイル名

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、既に同一名のファイルが存在していました。

■対処

既存のファイルを削除するか、移動した後、再実行してください。

KFXO52882-E

これ以上ファイルをオープンできません。ファイル名= XX

ファイル名：オープンしようとしたファイル名

■要因

1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでオープンできませんでした。

■対処

エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52887-E

ファイルのステータス取り出しに失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

ファイル名：ステータスを取り出そうとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

stat()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52888-E

ファイルの制御に失敗しました。ファイル名：XX エラー番号：YY

ファイル名：制御しようとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

fcntl()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52889-E

ファイルのクローズに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：クローズしようとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

close()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52890-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：書き込もうとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値 (10 進数)

■要因

write()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号を参照してエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

エラー番号	意味	対処
22	ファイルサイズが2ギガバイト以上になりました。	複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得してください。 バックアップパラメタファイル中に area パラメタを記述することによって、エリア単位にバックアップを取得できます。これによって、複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得できます。
27	ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。	複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得してください。 バックアップパラメタファイル中に area パラメタを記述することによって、エリア単位にバックアップを取得できます。これによって、複数のバックアップファイルに分割してバックアップを取得できます。
上記以外	—	エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除いてください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO52891-E

ファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名= XX

ファイル名：書き込もうとしたファイル名

■要因

ファイルに書き込もうとしたとき、ユーザ限界(ulimit)の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除し、空き領域を確保した後、再実行してください。

KFXO52899-E

DB バックアップファイルの削除に失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：削除しようとしたファイル名

エラー番号：システムコールで返された errno 値（10 進数）

■要因

実行中にエラーが発生したため、生成したデータベースのバックアップファイルを削除しようとしたとき、unlink()システムコールでエラーが発生しました。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO52900-E

XX システムコールでエラーが発生しました。エラー番号 = YY

エラー番号：システムコールで返された errno 値（10 進数）

■要因

システムコールでエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO52901-E

DB バックアップに必要なメモリの確保に失敗しました。要求サイズ = XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

データベースのバックアップに必要なメモリ確保に失敗したため、処理を続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO53000-I

DB リストアユーティリティを開始します。

■要因

[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO53001-I

DB リストアユーティリティが正常終了しました。

■要因

[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドが正常終了しました。

KFXO53002-E

DB リストアユーティリティが異常終了しました。

■要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因によって、[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドが異常終了しました。

■対処

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53003-I

DB エリアのリストアを開始します。エリア名 = XX

エリア名：データベースのリストアユティリティがリストアするエリア名

■要因

当該データベースのエリアのリストアを開始します。

KFXO53004-I

DB エリアのリストアが正常終了しました。エリア名 = XX

エリア名：データベースリストアユティリティがリストアしたエリア名

■要因

当該データベースのエリアのリストアが正常終了しました。

KFXO53005-E

マスタディレクトリエリアのリストアが異常終了しました。

■要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因によって、マスタディレクトリエリアのリストアが異常終了しました。

■対処

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53006-E

DB エリアのリストアが異常終了しました。エリア名 = XX

エリア名：データベースリストアユティリティがリストアしようとしたエリア名

■要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因によって、マスタディレクトリエリア以外のデータベースのエリアのリストアが異常終了しました。

■対処

当該データベースのエリアのリストアを行ないたい場合は、当該エラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53007-E

回復したエリアが1つありません。

■要因

バックアップファイルに無いエリア名を指定しているか、非マスタディレクトリエリア以外のエリアが何らかの要因で全てエラーとなったときに出力されます。

■対処

エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO53008-E

DB リストアユーティリティの一部のエリア回復に異常が発生しました。

■要因

[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドの一部のエリア回復に異常が発生したときに出力されます。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO53100-E

マスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

■要因

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名が指定されていないため、処理が続行できません。

■対処

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を追加して再起動してください。

KFXO53101-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO53102-E

バックアップファイル名の指定が誤っています。

■要因

バックアップファイル名が 175 バイトを超えています。

■対処

バックアップファイル名を正しく指定し、再実行してください。

KFXO53103-E

制御文ファイル名の指定が誤っています。

■要因

制御文ファイル名が 175 バイトを超えています。

■対処

制御文ファイル名を正しく指定し、再実行してください。

KFXO53104-E

制御文ファイル中に誤りがあります。

■要因

制御文の指定が誤っています。

■対処

制御文ファイル中のエラー要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53105-E

制御文ファイルにバックアップファイル名の指定がありません。

■要因

制御文ファイル中にバックアップファイル名の指定がありません。

■対処

バックアップファイル名を指定し、再実行してください。

KFXO53106-E

制御文ファイルにエリア名の指定がありません。

■要因

制御文ファイル中にエリア名の指定がありません。

■対処

エリア名を指定し、再実行してください。

KFXO53107-E

制御文ファイル中に指定したエリア名が誤っています。

■要因

- エリア名が 30 バイトを超えています。
- エリア名が重複しています。

■対処

エリア名を正し、再実行してください。

KFXO53109-I

使用方法：xodbrstr {-b バックアップファイル名 | -f ファイル名}

■要因

xodbrstr コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO53110-E

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生しました。

■要因

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO53111-E

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

■要因

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除き、再実行してください。

KFXO53112-E

先頭のバックアップレコードのサイズに不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。ファイル名=XX

ファイル名：データベースバックアップファイル名

■要因

先頭のバックアップレコードのサイズに不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。

■対処

[データベースのバックアップ] ユティリティ又は xodbckup コマンドで取得したデータベースバックアップファイルを指定して、再実行してください。

KFXO53113-E

先頭のバックアップレコードの種別に不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。ファイル名=XX

ファイル名：データベースバックアップファイル名

■要因

先頭のバックアップレコードの種別に不正を検知しました。指定したファイルはデータベースバックアップファイルではありません。

■対処

[データベースのバックアップ] ユティリティ又は xodbckup コマンドで取得したデータベースバックアップファイルを指定して、再実行してください。

KFXO53114-E

バックアップレコードのサイズに不正を検知しました。レコードサイズ 1=AA レコードサイズ 2=BB データベースバックアップファイル名=CC オフセット=DD

レコードサイズ 1：要求したバックアップレコードのサイズ

レコードサイズ 2：入力したバックアップレコードのサイズ

データベースバックアップファイル名：指定したデータベースバックアップファイル

オフセット：エラーが発生したバックアップレコードのオフセット

■要因

バックアップレコードのサイズに不正を検知しました。

■対処

当該メッセージの内容とデータベースバックアップファイルを保存し、システム管理者に連絡してください。

KFXO53115-E

バックアップレコードの種別に不正を検知しました。データベースバックアップファイル名=XX オフセット=YY

データベースバックアップファイル名：指定したデータベースバックアップファイル

オフセット：エラーが発生したバックアップレコードのオフセット

■要因

バックアップレコードの種別に不正を検知しました。

■対処

当該メッセージの内容とデータベースバックアップファイルを保存し、システム管理者に連絡してください。

KFXO53116-E

バックアップレコードの順序に不正を検知しました。レコード種別 1=AA レコード種別 2=BB データベースバックアップファイル名=CC オフセット=DD

レコード種別 1：一つ前に処理したバックアップレコードの種別

レコード種別 2：不正を検知したバックアップレコードの種別

データベースバックアップファイル名：指定したデータベースバックアップファイル

オフセット：エラーが発生したバックアップレコードのオフセット

■要因

バックアップレコードの順序に不正を検知しました。

■対処

当該メッセージの内容とデータベースバックアップファイルを保存し、システム管理者に連絡してください。

KFXO53117-E

データベースバックアップファイルとシステム共通定義ファイルのマスタディレクトリファイル名が一致していません。ファイル名 1=XX ファイル名 2=YY

ファイル名 1：データベースバックアップファイル中のマスタディレクトリファイル名

ファイル名 2：システム共通定義ファイル中のマスタディレクトリファイル名

■要因

システム共通定義ファイルで定義していないデータベースをリストアしようとしています。

■対処

指定したデータベースバックアップファイルは、現在運用しているデータベースで取得されたものか確認してください。

KFXO53200-E

ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53201-E

ファイルが存在しません。ファイル名：XX

ファイル名：エラーとなったファイルのファイル名

■要因

指定されたファイルが存在しません。

■対処

正しいファイルを指定して、再実行してください。

KFXO53202-E

ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの read() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53203-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53204-E

ファイルのクローズに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：クローズに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの close() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをクローズしようとしたとき、システムコールの close() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラー要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53205-E

ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名
エラーコード：システムコールの `lseek()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53206-E

ファイルのロックに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：書き込みロックに失敗したファイルのファイル名
エラーコード：システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックをしようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53207-E

ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：書き込みロックの解除に失敗したファイルのファイル名
エラーコード：システムコールの `fcntl()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (`errno`) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO53208-E

領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO53209-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの `time()` で発生したエラーコード

■要因

システムコールの `time()` の引数が不正であるためエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO53210-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除し、空き領域を作成してください。

KFXO53211-E

ファイルの削除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：削除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの unlink() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルを削除しようとしたとき、システムコールの unlink() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、当該ファイルを削除してください。

KFXO53902-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば、再実行してください。

KFXO54000-I

DB 回復ユーティリティを開始します。

■要因

[データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO54001-I

DB 回復ユーティリティが正常終了しました。

■要因

[データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンドが正常終了しました。

KFXO54002-I

完結していないトランザクションが存在しています。データベースは不完全な状態です。

■要因

指定されたアンロードジャーナルによってデータベースを回復しましたが、完結していないトランザクションがあります。

■対処

以降のアンロードジャーナルを使用してデータベースを回復するか、[データベースのバックアウト] ユティリティ又は `xodbkout` コマンドを使用して当該トランザクションをロールバックさせる必要があります。

KFXO54003-E

DB 回復ユティリティが異常終了しました。

■要因

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラー要因によって、[データベースの回復] ユティリティ又は `xodbrecv` コマンドが異常終了しました。

■対処

当該エラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。ただし、KFXO54019-E メッセージが出力されている場合はデータベースが不完全な状態である可能性があるため、[データベースのリストア] ユティリティ又は `xodbrstr` コマンドから再実行してください。

KFXO54004-E

引数の指定に誤りがあります。オペランド名：XX

オペランド名：エラーを検出したオペランド名

■要因

引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO54005-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

文法上の誤りがあります。

■対処

正しい指定をして、再実行してください。

KFXO54006-E

使用方法：`xodbrecv -j アンロードジャーナルファイル名 [-s y/n]`

■要因

`xodbrecv` コマンドを正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO54007-E

マスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

■要因

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名が指定されていないため、処理が続行できません。

■対処

システム共通定義にマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を追加して再起動してください。

KFXO54010-E

領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO54011-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

現在時刻の取得に失敗しました。

■対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO54012-E

ソートマージでエラーが発生しました。

■要因

ソートマージ・プログラムでエラーが発生しました。

■対処

ソートマージ・プログラムから出力されているメッセージを参照し、エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54014-E

物理エリアファイルの内容が不正です。ファイル名：XX

ファイル名：不正物理エリアのファイル名

■要因

データベースが正しい状態ではありません。[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドによって、すべての RD エリアが正しく回復されていることを確認してください。

■対処

エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54015-E

アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。ファイル名：XX

ファイル名：不正ファイルのファイル名

■要因

アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。指定されたファイルはアンロードジャーナルファイルでないか、ファイルが破壊されているか、もしくはアンロードジャーナルファイルの内容が重複していることが考えられます。

■対処

アンロードジャーナルファイル名を確認し、正しい指定をして、再実行してください。

KFXO54016-E

指定されたアンロードジャーナルファイルは既に回復されています。ファイル名：XX

ファイル名：エラーとなったファイルのファイル名

■要因

指定されたアンロードジャーナルファイルの内容は既に回復されています。前回実行で使用したアンロードジャーナルファイルに続くファイルを指定してください。もし、再度データベースの回復をする場合は、[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。

■対処

前回実行で使用したアンロードジャーナルファイルに続くファイルを指定して、再実行してください。もし、再度データベースの回復をやり直す場合は、"%XODDIR%\\$pool¥xodbrecinf"のファイルを削除し、[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO54017-E

アンロードジャーナルファイルの指定が不正です。

■要因

アンロードジャーナルファイルの指定が不正です。アンロードジャーナルファイルが欠落しています。

■対処

アンロードジャーナルファイル名を確認し、正しい指定をして、再実行してください。

KFXO54018-E

バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイル名：XX

ファイル名：バックアウト情報ファイルのファイル名

■要因

バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイルが破壊されていることが考えられます。

■対処

バックアウト情報ファイルが正しく削除されていることを確認し [データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO54019-E

DB 回復処理中に異常が発生しました。

■要因

[データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンド実行時、データベース更新途中で異常が発生しました。データベースが不完全な状態である可能性があります。

■対処

直前に出力されているメッセージの要因を取り除き、[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO54020-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば、再実行してください。

KFXO54021-E

ロールフォワード回復に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：ロールフォワード回復で発生したエラーコード

■要因

データベースのロールフォワード回復でエラーが発生しました。

■対処

イベントログに出力されている当該エラー要因のメッセージを参照し、エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54022-E

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生しました。

■要因

システム共通定義解析中にメモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO54023-E

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生しました。

■要因

システム共通定義解析中にワークファイルのアクセスエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除き、再実行してください。

KFXO54024-E

アンロードジャーナルファイルのジャーナルレコードに不正を検知しました。詳細コード= AA ファイル名= BB ブロック番号= CC レコード番号= DD ジャーナル取得日時= EE

詳細コード：

エラー詳細コード

ファイル名：

不正を検知したアンロードジャーナルファイル名

ブロック番号：

不正を検知したブロック番号

レコード番号：

不正を検知したレコード番号

ジャーナル取得時期：

ジャーナルレコードの取得時期

■要因

アンロードジャーナルファイルのジャーナルレコードに不正を検知した。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。なお、このメッセージ出力時に、不正を検知したジャーナルレコードのレコードダンプが xodresult へ出力されます。

KFXO54025-E

XX システムコールでエラーが発生しました。エラー番号= YY

エラー番号：システムコールで返された errno 値

■要因

システムコールでエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54100-E

ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：

オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：

システムコールの open() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54101-E

ファイルが存在しません。ファイル名：XX

ファイル名：エラーとなったファイルのファイル名

■要因

指定されたファイルが存在しません。

■対処

正しいファイルを指定して、再実行してください。

KFXO54102-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラー番号からエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

エラー番号	意味	対処
22	ファイルサイズが 2 ギガバイト以上になりました。	最新のバックアップファイルを使用して、回復に使用するアンロードジャーナルファイルの数を減らしてから、xodbrstr コマンドから再実行してください。
27	ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。	最新のバックアップファイルを使用して、回復に使用するアンロードジャーナルファイルの数を減らしてから、xodbrstr コマンドから再実行してください。
上記以外	—	エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除いてください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO54103-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除し、空き領域を作成してください。

KFXO54104-E

ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：読み込みに失敗したファイルのファイル名
エラーコード：システムコールの read() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54105-E

ファイルのロックに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：書き込みロックに失敗したファイルのファイル名
エラーコード：システムコールの fcntl() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックをしようとしたとき、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54106-E

ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：書き込みロックの解除に失敗したファイルのファイル名
エラーコード：システムコールの fcntl() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとしたとき、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54107-E

ファイルフラグの設定に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ファイルフラグの設定に失敗したファイルのファイル名
エラーコード：システムコールの fcntl() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルに対して同期書きのためのファイルフラグを設定しようとしたとき、システムコールの fcntl() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54108-E

ファイルフラグの解除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ファイルフラグの解除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルに対して行なった同期書きのためのファイルフラグの解除をしようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54109-E

これ以上ファイルをオープンできません。

■要因

ファイルをオープンしようとしたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数 100 を超えたのでオープンできませんでした。

■対処

再実行してください。

KFXO54110-E

ファイルステータスの取得に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ステータスの取得に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `stat()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルのステータスを取得しようとしたとき、システムコールの `stat()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54111-E

ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `lseek()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO54112-E

ファイルの削除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：削除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `unlink()` からリターンしたエラーコード

■要因

[データベースの回復] ユティリティ又は `xodbrecv` コマンドを実行中に、エラーが発生したため、[データベースのバックアウト] ユティリティ又は `xodbkout` コマンドへ引き継ぐ情報を格納したファイルを削除しようとしたとき、システムコールの `unlink()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、表示されているファイルを削除してください。

KFXO54113-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：接続時に発生した詳細エラー番号

■要因

Object Server との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細エラー番号の対応方法を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO54114-E

OMS の実行モードが回復ユティリティ実行モードではありません。

■要因

Object Server を回復ユティリティ実行モードで起動していないため、データベースの回復ユティリティを実行できません。

■対処

回復ユティリティ実行モードで OMS を再起動し、データベースの回復ユティリティを再起動してください。

KFXO54115-E

同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、データベースの回復ユティリティが実行できません。

■対処

同時に実行できない他のユティリティの終了を待って、データベースの回復ユティリティを再起動してください。

KFXO54116-E

OMS が起動されていません。

■要因

Object Server が起動されていないため、データベースの回復ユティリティが実行できませんでした。

■対処

Object Server が起動されていない場合は、Object Server を起動して、再実行してください。

KFXO54800-E

Windows NT SORT のライブラリファイルの操作に失敗しました。関数名：XX エラーコード：YY

関数名：エラーが発生したシステムコール名

エラーコード：システムコールのエラーコード

■要因

SORT のライブラリファイルの操作に失敗しました。

■対処

SORT がインストールされているか確認してください。インストールされている場合は、SORT の動作環境が正しく設定されていることを確認してください。その他の場合は、エラーコードからエラーの要因を取り除き再実行してください。

KFXO54801-E

使用方法：xodbrecv -j アンロードジャーナルファイル名,・・・ [-s y'n] [-t ソート一時ファイルディレクトリ名] [-y ソートワークバッファサイズ]

■要因

xodbrecv コマンドを正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO54802-E

SORT でエラーが発生しました。エラーメッセージ= AA エラーコード= BB

エラーメッセージ：SORT のメッセージコード及びメッセージテキスト

エラーコード：SORT のメッセージコードの下3けた

■要因

SORT でエラーが発生しました。

■対処

Windows NT ソートマージのマニュアルのエラーメッセージを参照してエラーの要因を取り除いた後、再実行してください。なお、エラーメッセージに"*****"が表示された場合は、Windows NT ソートマージのメッセージコード(KBLSxxx)の下3けたにエラーコードを当てはめたメッセージを Windows NT ソートマージのマニュアルから参照してください。

KFXO55000-I

DB バックアウトユーティリティを開始します。

■要因

[データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO55001-I

DB バックアウトユーティリティが正常終了しました。

■要因

[データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンドが正常終了しました。

KFXO55002-E

DB バックアウトユーティリティが異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって、[データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンドが異常終了しました。

■対処

このメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。ただし、KFXO55020-E メッセージが出力されている場合はデータベースが不完全な状態である可能性があるため、[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO55003-E

引数指定に誤りがあります。

■要因

引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定し、再実行してください。

KFXO55004-E

使用方法: xodbkout -j アンロードジャーナルファイル名

■要因

引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO55005-E

領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO55006-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード: XX

エラーコード: システムコールの time() からリターンしたエラーコード

■要因

システムコールの time() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO55007-E

アンロードジャーナルファイルの内容が重複しています。ファイル名: XX

ファイル名: 重複したアンロードジャーナルファイル名称

■要因

同じ内容のアンロードジャーナルファイルを指定しています。

■対処

正しく指定して、再実行してください。

KFXO55008-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：接続時に発生した詳細エラー番号

■要因

Object Server との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO55009-E

ロールバック回復に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：ロールバック回復で発生したエラーコード

■要因

データベースのロールバック回復でエラーが発生しました。

■対処

ログに出力されている当該エラー要因のメッセージを参照し、エラーの要因を取り除き、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO55010-I

バックアウト処理を行う未完結ジャーナルが存在しません。

■要因

[データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンドで回復したアンロードジャーナル中のすべてのトランザクションは完結している為、[データベースのバックアウト] ユティリティ及び xodbkout コマンドの実行は不要です。

KFXO55011-E

バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイル名：XX

ファイル名：バックアウト情報ファイルのファイル名称

■要因

バックアウト情報ファイルの内容が不正です。ファイルが破壊されていることが考えられます。

■対処

エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO55012-E

バックアウト情報ファイルが存在しません。

■要因

[データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンドが実行されていないか, [データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンドが実行済みです。

■対処

既に [データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンドが実行済みであれば, 対処は不要です。それ以外であれば [データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO55013-E

アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。ファイル名: XX

ファイル名: アンロードジャーナルファイルのファイル名称

■要因

アンロードジャーナルファイルの内容が不正です。ファイル名の指定が誤っているか, ファイルが破壊されていることが考えられます。

■対処

正しいアンロードジャーナルファイルを指定し, 再実行してください。

KFXO55014-E

指定したアンロードジャーナルファイルは, 正しくありません。

■要因

指定したアンロードジャーナルファイル名は, [データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンドで回復されていません。

■対処

正しいアンロードジャーナルファイルを指定し, 再実行してください。

KFXO55015-E

アンロードジャーナルファイルの指定が不足しています。

■要因

アンロードジャーナルファイルは, [データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンドで回復済みのファイルで, かつ未完結トランザクションを含む必要があります。指定したアンロードジャーナルファイルは, [データベースの回復] ユティリティ又は xodbrecv コマンドで回復したアンロードジャーナルファイルで, バックアウトが必要な未完結トランザクションがすべて含まれていません。

■対処

正しいアンロードジャーナルファイルを指定し, 再実行してください。

KFXO55016-E

OMS の実行モードが回復ユティリティ実行モードではありません。

■要因

OMS を回復ユティリティ実行モードで起動していないため, ユティリティを実行できません。

■対処

回復ユティリティ実行モードで OMS を再起動し, 再実行してください。

KFXO55017-E

同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できない他のユティリティが実行中のため、ユティリティが実行できません。

■対処

同時に実行できない他のユティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO55018-E

OMS が起動されていません。

■要因

Object Server が起動されていないため、[データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンドが実行できませんでした。

■対処

Object Server が起動されていない場合は、Object Server を起動して、再実行してください。

KFXO55019-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば、再実行してください。

KFXO55020-E

DB 回復処理中に異常が発生しました。

■要因

[データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンド実行時、データベース更新途中で異常が発生しました。データベースが不完全な状態である可能性があります。

■対処

直前に出力されているメッセージの要因を取り除き、[データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。

KFXO55021-E

DB バックアウトユティリティが異常終了しました。一部のインデクスが回復されていません。

■要因

インデクスの回復処理で、インデクスエリアの容量不足によって、一部のインデクスが回復できませんでした。インデクスが不完全な状態です。エラーの詳細については、ログファイルのこのメッセージの前に出力されているメッセージ(KFXO42121-E)を参照してください。

■対処

KFXO42121-E のメッセージの対策に従ってください。又は [データベースのリストア] ユティリティ又は xodbrstr コマンドから再実行してください。なお、繰り返しこのエラーが発生しないようにファ

イルシステム中に空きを十分確保してください。ファイルシステム中に十分な空きを確保してもこのエラーが発生する場合は、最大割り当て量に達していることが考えられるため、KFXO42121-E の対策に従ってください。

KFXO55100-E

ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO55101-E

ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの lseek() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO55102-E

ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの read() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO55103-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：YY

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO55104-E

読み込みファイルの長さが正しくありません。ファイル名：XX

ファイル名：読み込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

ファイルの長さが不正です。ファイルが破壊されていることが考えられます。

■対処

正しいファイルを指定し、再実行してください。

KFXO55999-E

DB バックアウトユーティリティが異常を検知しました。理由コード= AA 詳細コード= BB ファイル名= CC 場所= DD

理由コード：何の要因でアボートしたか、何の異常かを表すコード

詳細コード：アボートする要因となった（エラーリターンした）関数のエラーコード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

[データベースのバックアウト] ユティリティ又は xodbkout コマンドで内部矛盾を検出しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO56000-I

DB 再編成ユーティリティを開始します。

■要因

[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO56001-I

DB 再編成ユーティリティが正常終了しました。

■要因

[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO56002-E

DB 再編成ユーティリティが異常終了しました。再起動してください。

■要因

[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドが異常終了したときに出力されます。

■対処

エラー要因を取り除き再実行してください。なお、データベースの回復は不要です。

KFXO56003-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO56004-I

使用方法：xodbreog -f DB再編成パラメタファイルのファイル名

■要因

xodbreog コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO56005-E

領域の確保に失敗しました。

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO56006-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

システムコールの time() の引数が不正であるためエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO56016-E

オブジェクト操作メモリプールの管理テーブル領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：確保しようとした領域長 (単位：バイト)

■要因

オブジェクト操作メモリプールの管理テーブル領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56017-E

オブジェクト操作メモリプール領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ=XX

要求サイズ：確保しようとした領域長 (単位：バイト)

■要因

オブジェクト操作用メモリプール領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56018-E

パラメタファイル解析用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

パラメタファイル解析用の作業領域確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56019-E

指定されたパラメタファイル中にパラメタの指定がありません。

■要因

指定されたパラメタファイル中に、パラメタの指定が無いため、処理が続行できません。

■対処

パラメタが正しく記述されたパラメタファイルを指定して、再実行してください。

KFXO56020-E

XX コマンドのオプションが定義されていません。オプション=XX

コマンド：不正なコマンド名

オプション名：定義不足のオプション名

■要因

定義ファイルに定義した reorg 又は recreate のオプションが指定されていません。

■対処

reorg 又は recreate のオプションを定義して、再実行してください。

KFXO56021-E

ファイル名の長さが定義範囲を超えています。コマンド=VV オプション=WW ファイル名=XX 最小値=YY 最大値=ZZ

オプション：定義範囲を超えたファイル名が指定されているオプション名

ファイル名：定義範囲を超えたファイル名

最小値：ファイル名の長さの最小値

最大値：ファイル名の長さの最大値

■要因

定義ファイルに定義したファイル名の長さが定義範囲を超えています。

■対処

ファイル名の長さを定義範囲内に定義し直して、再実行してください。

KFXO56023-E

メモリ不足のためメッセージが出力できませんでした。メッセージ番号= XX

メッセージ番号：出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

メモリ不足によってメッセージが出力できませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください。

KFXO56024-E

メッセージが出力できませんでした。エラーコード= XX メッセージ番号= XX

エラーコード：内部矛盾の要因を表すエラーコード

メッセージ番号：出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

内部矛盾によってメッセージが出力できませんでした。

■対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO56025-E

OMS が起動されていません。

■要因

Object Server が起動されていないため、実行できませんでした。

■対処

Object Server が起動されていない場合は、Object Server を起動して、再実行してください。

KFXO56026-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：接続時に発生した詳細エラー番号

■要因

Object Server との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO56027-E

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= YY

エラーコード：トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO56028-E

コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= YY

エラーコード：コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：コミット処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO56029-E

OMS の実行モードがユティリティ実行モードではありません。

■要因

Object Server をユティリティ実行モードで起動していないため、実行できません。

■対処

ユティリティ実行モードで Object Server を再起動し、再実行してください。

KFXO56030-E

同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できないほかのユティリティが実行中のため、実行できません。

■対処

同時に実行できないほかのユティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO56031-E

ディクショナリ情報再常駐化処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= YY

エラーコード：ディクショナリ情報再常駐化処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ情報再常駐化処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ再常駐化処理中にエラーが発生したため、実行できません。

■対処

エラーコード及び詳細エラー番号からエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32520	ロックエラー	直前に出力されているメッセージ及び詳細コードの対応方法に従い, 対策してください
32500	データベース入出力エラー	直前に出力されているメッセージ及び詳細コードの対応方法に従い, 対策してください
その他	—	このメッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください

KFXO56032-E

インデクス名の長さ, またはインデクス番号の大きさが定義範囲を超えています。オプション:XX インデクス:XX 最小値:XX 最大値:XX

オプション: 定義範囲を超えたインデクス名又はインデクス番号が指定されているオプション名

インデクス: 定義範囲を超えたインデクス名又はインデクス番号

最小値: インデクス名の長さ, 又はインデクス番号の最小値

最大値: インデクス名の長さ, 又はインデクス番号の最大値

■要因

定義ファイルに定義したインデクス名の長さ, 又はインデクス番号の大きさが定義範囲を超えています。

■対処

インデクス名の長さ, 又はインデクス番号の大きさを定義範囲内に定義し直し, 再実行してください。

KFXO56033-E

タイプ名の長さ, またはタイプ番号の大きさが定義範囲を超えています。オプション:XX タイプ:XX 最小値:XX 最大値:XX

オプション: 定義範囲を超えたタイプ名又はタイプ番号が指定されているオプション名

タイプ: 定義範囲を超えたタイプ名又はタイプ番号

最小値: タイプ名の長さ又はタイプ番号の最小値

最大値: タイプ名の長さ又はタイプ番号の最大値

■要因

定義ファイルに定義したタイプ名の長さ, 又はタイプ番号の大きさが定義範囲を超えています。

■対処

タイプ名の長さ, 又はタイプ番号の大きさを定義範囲内に定義し直し, 再実行してください。

KFXO56034-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー又は中断キーが押されたか, kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

処理結果ファイル(xodresult)によって, どこまで処理が完了しているかを確認した後で, 必要があれば再実行してください。

KFXO56035-E

DB 再編成ユーティリティが異常終了しました。DB をバックアップから回復し再起動してください。

■要因

[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドが異常終了しました。

■対処

エラー原因を取り除いて, データベースをバックアップから回復し, [データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドを再実行してください。

KFXO56036-I

DB 再編成ユーティリティが正常終了しました。警告エラーが発生していますので, 必要なら再実行してください。

■要因

警告エラーが発生しましたが処理を続行し, [データベースの再編成]ユーティリティ, 又は xodbreog コマンドが正常終了したときに出力されます。

■対処

[データベースの再編成]ユーティリティ, 又は xodbreog コマンドは正常終了しました。しかし, 警告エラーが発生していますので, 必要なら直前に出力されているメッセージに従い, 対処してください。

KFXO56037-I

DB 再編成ユーティリティ (reorg) が正常終了しました。

■要因

DB 再編成ユーティリティ (reorg: オブジェクトの再編成) が正常終了したときに出力されます。

KFXO56038-I

DB 再編成ユーティリティ (reorg) が正常終了しました。警告エラーが発生していますので, 必要なら再実行してください。

■要因

障害が発生しましたが処理を続行し, DB 再編成ユーティリティ (reorg: オブジェクトの再編成) が正常終了したときに出力されます。

■対処

必要なら警告エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO56039-I

DB 再編成ユーティリティ (recreate) が正常終了しました。

■要因

DB 再編成ユーティリティ (recreate: インデクス再作成) が正常終了したときに出力されます。

KFXO56040-I

DB 再編成ユーティリティ (recreate) が正常終了しました。警告エラーが発生していますので, 必要なら再実行してください。

■要因

障害が発生しましたが処理を続行し、DB 再編成ユティリティ (recreate: インデクス再作成) が正常終了したときに出力されます。

■対処

必要なら警告エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO56041-I

再編成処理によるエリアの更新が終了しました。エリア数 = XX

エリア数: 更新されたエリア数

■要因

DB 再編成ユティリティのオブジェクトの再編成 area 文指定あり時及びインデクス再作成、又は DB 再構成ユティリティ (エリア再作成) により更新されたエリア数を示します。

KFXO56042-I

再編成処理によるエリアの更新が終了しました。エリア名 = XX

エリア名: 更新されたエリア名

■要因

DB 再編成ユティリティのオブジェクトの再編成 area 文指定あり時及びインデクス再作成、又は DB 再構成ユティリティ (エリア再作成) により更新されたエリア名を示します。また、直前に出力されているメッセージ (KFXO56041-I) のエリア数分、このメッセージが出力されていない場合は、何らかの矛盾により全ての更新されたエリア名を表示できていません。

KFXO56043-E

area コマンドの前に reorg コマンドが存在しません。

■要因

area コマンドの前に reorg コマンドが存在しません。

■対処

area コマンドの前に reorg コマンドを指定して、再実行してください。

KFXO56044-W

更新エリア名の出力処理時に、エリア名の取得処理に失敗しました。エリア番号 = XX

エリア番号: 該当するエリア番号

■要因

更新エリア名の出力処理時に、エリア名の取得処理に失敗しましたが、処理を続行します。

KFXO56045-E

アンロードファイル名が指定されていません。コマンド: XX

コマンド: コマンド名

■要因

アンロードファイル名が指定されていないため、処理が続行できません。

■対処

アンロードファイル名を指定して、再起動してください。

KFXO56047-E

DB 再編成時刻の設定処理に失敗しました。エラーコード = XX

エラーコード：DB 再編成時刻の設定処理中に発生したエラーコード

■要因

DB 再編成時刻の設定処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56048-E

オブジェクト常駐の解除処理に失敗しました。エラーコード = XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：オブジェクト常駐の解除処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：オブジェクト常駐の解除処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

オブジェクト常駐の解除処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56049-E

ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定個数が 128 を超えています。コマンド = XX オプション = XX

コマンド：エラーの発生したコマンド名

オプション：エラーの発生したオプション名

■要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名個数が 128 を超えています。

■対処

アンロードファイル名の指定個数を 128 以下に定義し直し、再編成ユーティリティを再起動してください。

KFXO56050-E

ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定が重複しています。コマンド = XX オプション = XX ファイル名 = XX

コマンド：エラーの発生したコマンド名

オプション：エラーの発生したオプション名

ファイル名：重複して指定されたアンロードファイル名

■要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名が重複しています。

■対処

アンロードファイル名を正しく指定し直し、再編成ユーティリティを再起動してください。

KFXO56100-E

スキーマ中にタイプ定義が存在しません。

■要因

スキーマ中にタイプ定義がないため、オブジェクトの引き上げ処理が続行できません。

■対処

スキーマ中にタイプを定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56101-E

オブジェクトの引き上げ用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

オブジェクトの引き上げ用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56102-E

オブジェクトの引き上げ用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

オブジェクトの引き上げ用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56103-E

タイプ中に物理形式のオブジェクト識別子を持つ本体オブジェクトが存在します。タイプ名 = XX

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

■要因

タイプ中に物理形式のオブジェクト識別子を持つ本体オブジェクトが存在したため、処理が続行できません。

■対処

エリア単位のオブジェクトの再編成はできません。オブジェクトの再編成を行なうときは、area 文を指定せずに実行してください。

KFXO56104-E

指定されたエリア名は存在しません。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

area コマンドで指定されたエリア名は存在しないため、処理が続行できません。

■対処

エリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56105-E

指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名です。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名のため、処理が続行できません。

■対処

ディクショナリエリア又はユーザエリアを指定して、再起動してください。

KFXO56106-E

ユーザデータベースのエリアが指定されているにもかかわらず、ユーザエリア用のアンロードファイルが指定されていません。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

area コマンドにユーザデータベースのエリアが指定されているにもかかわらず、ユーザエリア用のアンロードファイルが指定されていないため、処理が続行できません。

■対処

ユーザエリア用のアンロードファイルを指定して、再起動してください。

KFXO56107-E

ディクショナリのエリアが指定されているにもかかわらず、ディクショナリ用のアンロードファイルが指定されていません。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

area コマンドにディクショナリのエリアが指定されているにもかかわらず、ディクショナリ用のアンロードファイルが指定されていないため、処理が続行できません。

■対処

ディクショナリ用のアンロードファイルを指定して、再起動してください。

KFXO56108-E

エリア名の指定が重複しています。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

area コマンドに指定されているエリア名が重複しているため、処理が続行できません。

■対処

エリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56109-E

システムオブジェクトの入力に失敗しました。

■要因

システムオブジェクトの入力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56111-W

オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュテーブルの生成処理で、エラーが発生しました。アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。エラーコード= XX

エラーコード：エラー要因

■要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュテーブルの生成処理で、エラーが発生しましたが、処理を続行します。ただし、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。

■対処

必要なら、エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	意味	対策
33001	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。
その他		このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56112-W

オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュテーブルの削除処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラー要因

■要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュテーブルの削除処理で、エラーが発生しましたが、処理を続行します。

KFXO56113-W

オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュエントリの登録処理で、エラーが発生しました。以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。エラーコード= XX

エラーコード：エラー要因

■要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュエントリの登録処理で、エラーが発生しましたが、処理を続行します。ただし、このメッセージ以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません

■対処

必要なら、エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	意味	対策
33001	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他		このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56200-E

アンロードファイルの内容が不正です。ファイル名= XX レコード種別= YY

ファイル名: アンロードファイル名

レコード種別: 不正を検知したレコードの種別

■要因

アンロードファイルの内容が、再編成処理で正常に作成されたものではありません。又は何らかの原因でアンロードファイルが破壊されています。

■対処

再編成処理時に、アンロードファイルが破壊されたときには、再実行してください。また、アンロードファイルが破壊されていないときには、システム管理者に連絡してください。

KFXO56201-E

オブジェクトの再登録用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

オブジェクトの再登録用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56202-E

オブジェクトの再登録用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

オブジェクトの再登録用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56203-E

アンロードファイルの入力に失敗しました。レコード種別= XX

レコード種別: 入力しようとしたレコード

■要因

アンロードファイルから、レコード種別で示すレコードの入力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56204-E

新旧物理オブジェクト識別子の対応表初期化処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード: エラー要因

■要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表初期化処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

エラーコード	意味	対策
33001	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再起動させてください
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

KFXO56205-E

新旧物理オブジェクト識別子の対応表後処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラー要因

■要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表後処理でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56206-E

アンロードファイル中にタイプ定義が存在しないタイプが登録されています。

■要因

アンロードファイル中にタイプ定義がないタイプが登録されているため、処理が続行できません。

■対処

オブジェクトの引き上げ後にタイプ定義を変更していないか確認してください。変更している場合は、もう一度オブジェクトを引き上げてから、再実行してください。

KFXO56207-E

アンロードファイル中にユニバーサル関連定義が存在しないユニバーサル関連が登録されています。

■要因

アンロードファイル中にユニバーサル関連定義がないユニバーサル関連が登録されているため、処理が続行できません。

■対処

オブジェクトの引き上げ後にタイプ定義を変更していないか確認してください。変更している場合は、もう一度オブジェクトを引き上げてから、再実行してください。

KFXO56208-E

データベースへのオブジェクトの出力で終了処理に失敗しました。タイプ名= XX

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

■要因

オブジェクトのデータベースへの出力で終了処理ができなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56209-E

データベースへのオブジェクトの出力で終了処理に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX

ユニバーサル関連名：処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

■要因

オブジェクトのデータベースへの出力で終了処理ができなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56210-E

未使用の物理タイプ ID の解放処理に失敗しました。エラーコード = XX

エラーコード：未使用の物理タイプ ID の解放処理中に発生したエラーコード

■要因

未使用の物理タイプ ID の解放処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
46202	ロックエラー	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください
その他	—	直前にメッセージが出力されている場合はそのメッセージの内容と、このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

KFXO56211-E

オブジェクトの削除処理に失敗しました。タイプ名 = XX エラーコード = YY

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

エラーコード：オブジェクトの削除処理中に発生したエラーコード

■要因

オブジェクトの削除処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56212-E

オブジェクトの削除処理に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX エラーコード = YY

ユニバーサル関連名：処理中のユニバーサル関連の名称

エラーコード：オブジェクトの削除処理中に発生したエラーコード

■要因

オブジェクトの削除処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56213-E

OID インデクス情報ファイル作成の開始処理に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード：OID インデクス情報ファイル作成の開始処理中に発生したエラーコード

■要因

OID インデクス情報ファイル作成の開始処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
56613	ワークファイルに対する SetFilePointer()システムコールでエラーが発生した	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

KFXO56214-E

OID インデクス情報ファイル作成の終了処理に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード：OID インデクス情報ファイル作成の終了処理中に発生したエラーコード

■要因

OID インデクス情報ファイル作成の終了処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
56616	ワークファイルに対する WriteFile()システムコールでエラーが発生した	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

KFXO56215-W

所有者が存在しないクラスタードストリングタイプが登録されています。タイプ名= XX

タイプ名：該当するタイプ名

■要因

データベース中に所有者が存在しないクラスタードストリングタイプが登録されています。そのタイプ中のオブジェクトを参照しているオブジェクトは、存在しないものとして、処理を続行します。

KFXO56216-W

クラスタードストリングタイプの所有者のタイプ定義が存在しません。タイプ名= XX 所有者のタイプ番号= XX

タイプ名：該当するクラスタードストリングタイプ名

タイプ番号：該当するクラスタードストリングタイプの所有者のタイプ番号

■要因

データベース中にクラスタードストリングタイプの所有者のタイプ定義が存在しません。そのクラスタードストリングタイプ中のオブジェクトを参照しているオブジェクトは、存在しないものとして、処理を続行します。

KFXO56217-E

システムオブジェクトの入力に失敗しました。

■要因

システムオブジェクトの入力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56300-E

スキーマ中にタイプ定義が存在しません。

■要因

スキーマ中にタイプ定義がないため、処理が続行できません。

■対処

スキーマ中にタイプを定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56301-E

指定したタイプは、定義されていません。タイプ名 = XX

タイプ名：処理対象のタイプのタイプ名

■要因

指定したタイプは、定義されていないため、処理が続行できません。

■対処

正しいタイプ名を指定して、再実行してください。

KFXO56302-E

指定したタイプには、インデクス定義が存在しません。タイプ名 = XX

タイプ名：処理対象のタイプのタイプ名

■要因

指定したタイプには、インデクス定義がないため、処理が続行できません。

■対処

インデクスを定義してあるタイプを指定して、再実行してください。

KFXO56303-E

指定したインデクスは、タイプ中に存在しません。タイプ名 = XX インデクス名 = YY

タイプ名：処理対象のタイプのタイプ名

インデクス名：処理対象のインデクスのインデクス名

■要因

指定したインデクスは、タイプ中不在のため、処理が続行できません。

■対処

正しいインデクス名を指定して、再実行してください。

KFXO56304-E

指定したタイプは、定義されていません。タイプ番号 = XX

タイプ番号：処理対象のタイプのタイプ番号

■要因

指定したタイプは、定義されていないため、処理が続行できません。

■対処

正しいタイプ番号を指定して、再実行してください。

KFXO56305-E

指定したタイプには、インデクス定義が存在しません。タイプ番号 = XX

タイプ番号：処理対象のタイプのタイプ番号

■要因

指定したタイプには、インデクス定義がないため、処理が続行できません。

■対処

インデクスを定義してあるタイプを指定して、再実行してください。

KFXO56306-E

指定したインデクスは、タイプ中に存在しません。タイプ番号 = XX インデクス番号 = YY

タイプ番号：処理対象のタイプのタイプ番号

インデクス番号：処理対象のインデクスのインデクス番号

■要因

指定したインデクスはタイプ中に不在のため、処理が続行できません。

■対処

正しいインデクス番号を指定して、再実行してください。

KFXO56307-E

インデクス情報ファイルの作成処理に失敗しました。エラーコード = XX

エラーコード：エラーの要因を示すコード

■要因

エラーコードで示す要因によって、インデクス情報ファイルの作成処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
42400	インデクス情報テーブル不正(インデクスエリア不正)	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください
42402	インデクス情報テーブル不正(キー長不正)	
56613	ワークファイルに対する SetFilePointer()システムコールでエラーが発生した	
56616	ワークファイルに対する WriteFile()システムコールでエラーが発生した	
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

KFXO56308-E

指定されたエリア名は存在しません。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

指定されたエリア名は存在しないため、処理が続行できません。

■対処

エリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56309-E

指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名です。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

指定されたエリア名は指定できない用途のエリア名のため、処理が続行できません。

■対処

ディクショナリエリア又はユーザエリアを指定して、再起動してください。

KFXO56310-E

指定されたエリアにインデクスは存在しません。エリア名 = XX

エリア名：該当するエリア名

■要因

指定されたエリアにインデクスは存在しないため、処理が続行できません。

■対処

必要であればエリア名を正しく指定して、再起動してください。

KFXO56311-W

ディクショナリ中にタイプ定義が存在しないインデクスが登録されています。インデクス名 = XX タイプ番号 = XX

インデクス名：該当するインデクス名
 タイプ番号：該当するタイプのタイプ番号

■要因

ディクショナリ中にタイプ定義が存在しないインデクスが登録されています。このインデクスを無視して、処理を続行します。

KFXO56312-W

ディクショナリ中のタイプ定義とインデクス定義の内容に矛盾があります。インデクス名= XX タイプ番号= XX

インデクス名：該当するインデクス名
 タイプ番号：該当するタイプのタイプ番号

■要因

ディクショナリ中のタイプ定義とインデクス定義の内容に矛盾があります。このインデクスを無視して、処理を続行します。

KFXO56313-E

OID インデクス情報ファイルの作成処理に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

エラーコードで示す要因により、OID インデクスインデクス情報ファイルの作成処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
56613	ワークファイルに対する lseek()システムコールでエラーが発生した。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
56616	ワークファイルに対する write()システムコールでエラーが発生した。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56314-E

エリア情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

エリア情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	意味	対策
59010	入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO56315-E

スキーマ情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX 種別= XX

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

■要因

スキーマ情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	意味	対策
59010	入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO56316-E

タイプ情報一覧の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX 種別= XX

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

■要因

タイプ情報一覧の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	意味	対策
59010	入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO56317-E

ユニバーサル関連情報一覧の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX 種別= XX

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

■要因

ユニバーサル関連情報一覧の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	意味	対策
59010	入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

KFXO56318-E

スキーマが定義されていません。

■要因

スキーマが定義されていないため、処理が続行できません。

■対処

スキーマが定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56350-E

インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

インデクス情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56351-E

インデクスロード処理に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

エラーコードで示す要因によって、インデクスロード処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
42400	インデクス情報テーブル不正(インデクスエリア不正)	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
42401	インデクス情報テーブル不正(インデクス ID 不正又はインデクスが存在しない)	
40402	インデクス格納領域不足	
56613	ワークファイルに対する SetFilePointer() システムコールでエラーが発生した	
56615	ワークファイルに対する ReadFile() システムコールでエラーが発生した	
56616	ワークファイルに対する WriteFile() システムコールでエラーが発生した	
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56352-E

インデクスロード用作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ = XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

インデクスロード用作業領域の確保時、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56353-E

インデクス情報作成処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

インデクス情報作成処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
45110	read() システムコールエラー	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
45120	ページ破壊(リードしたサイズがページ長と不一致)	
45130	write() システムコールエラー	
44110	既に、1 プロセスで使用可能な最大物理エリア数を使用している	
44120	open() システムコールエラー	

エラーコード	内容	対処	
44130	物理エリアに対するアクセス権がない, DB 初期設定ユーティリティが実行中, 又はほかのプロセスが物理エリアを使用中。 又は, 他のユーザにより暗号化されています。	直前に出力されているメッセージに従って, 対策してください。	
44140	fcntl()システムコールエラー		
44150	ファイルサイズ不一致		
43110	ファイル内更新カウンタ不一致		
43120	ページ種別不一致		
43130	エリア不一致		
43140	物理タイプ不一致		
43150	ページ ID 不正		
43160	キャッシュ内更新カウンタ不一致		
41016	エリア障害		
その他	—		このメッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。

KFXO56354-E

OID インデクスの再作成時, オブジェクト識別子の重複を検知しました。

■要因

OID インデクスの再作成時, オブジェクト識別子の重複を検知したため, 処理が続行できません。

■対処

このメッセージの内容を記録し, システム管理者に連絡してください。なお, このメッセージの出力後に不正を検知した OID インデクスの情報が, xodresult に出力されます。

KFXO56355-E

OID インデクスの更新時, オブジェクト識別子の重複を検知しました。

■要因

オブジェクトの再編成においてエリア名を指定した場合, OID インデクスの更新時に, オブジェクト識別子の重複を検知したため, 処理が続行できません。

■対処

このメッセージの内容を記録し, システム管理者に連絡してください。なお, このメッセージの出力後に不正を検知した OID インデクスの情報が, xodresult に出力されます。

KFXO56356-E

OID インデクスの更新処理に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード: エラーの要因

■要因

エラーコードで示す要因により、OID インデクスの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再起動してください。

エラーコード	内容	対処
40402	インデクス格納領域不足	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56357-E

OID インデクスの更新作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ = XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

OID インデクスの更新作業領域の確保時、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56400-E

スキーマ定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX 種別 = YY

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER = ユーザ用

DICTIONARY = デイクショナリ用

■要因

スキーマ定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56401-E

タイプ定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード = XX 種別 = YY

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER = ユーザ用

DICTIONARY = ディクショナリ用

■要因

タイプ定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56402-E

ユニバーサル関連定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX 種別= YY

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER = ユーザ用

DICTIONARY = ディクショナリ用

■要因

ユニバーサル関連定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56403-E

属性定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX 種別= YY

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER = ユーザ用

DICTIONARY = ディクショナリ用

■要因

属性定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56404-E

ユニバーサル関連属性定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

ユニバーサル関連属性定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

次にエラーコードとその対処を示します。エラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56405-E

インデクス定義情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

インデクス定義情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除いて、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56406-E

スキーマが定義されていません。

■要因

スキーマが定義されていないため、処理が続行できません。

■対処

スキーマが定義してあるデータベースに対して、再実行してください。

KFXO56407-E

エリア情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

エリア情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
32002	キャッシュ一杯	
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56408-E

ユニバーサル関連番号から物理タイプ番号の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

ユニバーサル関連番号から物理タイプ番号の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56409-E

クラスタードストリングタイプを使うタイプ番号の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

クラスタードストリングタイプを使うタイプ番号の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
32520	ロック取得エラー	
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56410-E

エリア中のインデクス情報の取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

エリア中のインデクス情報の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
32005	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。

エラーコード	内容	対処
32520	ロック取得エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56411-W

ページ内に不正なスロットを検知しました。タイプ番号 = XX

タイプ番号：不正なスロットが存在するタイプのタイプ番号

■要因

ページ内に不正なスロットを検知しました。当該スロットを無視して処理を続行します。当該スロットの詳細な内容は%XODDIR%¥spool ディレクトリ下の pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

■対処

不正なスロットを検知したページがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、再編成ユティリティのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56412-W

スロットの内容が不正なため、オブジェクトの入力に失敗しました。タイプ番号 = XX

タイプ番号：不正なスロットが存在するタイプのタイプ番号

■要因

スロットの内容が不正なため、オブジェクトの入力に失敗しました。当該スロットの詳細な内容は、%XODDIR%¥spool ディレクトリ下の pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

■対処

入力に失敗したオブジェクトがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、再編成ユティリティのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56413-W

データページが破壊されているため、ページの入力に失敗しました。タイプ番号 = XX

タイプ番号：破壊されたデータページが存在するタイプのタイプ番号

■要因

データページが破壊されているため、ページの入力に失敗しました。不正なページを無視して処理を続行します。不正なページの詳細な内容は、%XODDIR%¥spool ディレクトリ下の pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

■対処

入力に失敗したページがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、再編成ユティリティのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56414-W

データページが破壊されているため、オブジェクトの入力に失敗しました。タイプ番号= XX

タイプ番号：破壊されたデータページが存在するタイプのタイプ番号

■要因

データページが破壊されているため、オブジェクトの入力に失敗しました。不正なページの詳細な内容は、%XODDIR%\%spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

■対処

入力に失敗したオブジェクトがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、再編成ユーティリティのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56500-E

アンロードファイルのレコード編集領域の確保時、メモリ不足が発生しました。レコード種別= XX

レコード種別：メモリ不足が発生したレコード編集領域の用途

■要因

アンロードファイルのレコード編集領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、データベースをバックアップから回復し、再実行してください。

KFXO56501-E

システムオブジェクトの入力に失敗しました。タイプ名= XX オブジェクト種別= YY

タイプ名：システムオブジェクトがあるタイプのタイプ名

オブジェクト種別：システムオブジェクトの種別

■要因

タイプ名で示すシステムオブジェクトの入力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56502-E

オブジェクトの編集領域の確保時、メモリ不足が発生しました。オブジェクト種別= XX

オブジェクト種別：システムオブジェクトの種別

■要因

オブジェクトの編集領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56503-E

アンロードファイルの入力に失敗しました。タイプ名= XX レコード種別= YY

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

レコード種別：入力しようとしたレコード

■要因

アンロードファイルから、レコード種別で示すレコードの入力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56504-E

データベースへのオブジェクトの出力処理に失敗しました。タイプ名= XX オブジェクト種別= YY

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

オブジェクト種別：出力しようとしたオブジェクト

■要因

オブジェクトをデータベースへ出力できなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56505-E

オブジェクトの更新処理に失敗しました。タイプ名= XX オブジェクト種別= YY

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

オブジェクト種別：更新しようとしたオブジェクト

■要因

オブジェクトの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56506-E

コンポジットオブジェクト更新用領域の確保時、メモリ不足が発生しました。

■要因

コンポジットオブジェクト更新用領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56507-E

B+tree オブジェクトのソート用作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

B+tree オブジェクトのソート用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56508-E

新旧物理オブジェクト識別子の対応表作成処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX PID 登録数=YY

エラーコード：エラー要因

PID 登録数：新旧物理オブジェクト識別子の対応表に登録済みのエントリ数

■要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表作成処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

次にエラーコードとその対処を示します。エラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
56651, 33001	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56509-E

新旧物理オブジェクト識別子の対応表検索処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラー要因

■要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表検索処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56510-E

アンロードファイルの出力に失敗しました。タイプ名= XX レコード種別= YY

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

レコード種別：出力しようとしたレコード

■要因

アンロードファイルへの出力時、レコード種別で示すレコードの出力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56511-E

B+tree オブジェクトのソート用作業領域の確保時、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

B+tree オブジェクトのソート用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56512-E

オブジェクト識別子の変換用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

オブジェクト識別子の変換用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56513-E

B+tree 情報ファイルのレコード編集領域の確保時、メモリ不足が発生しました。レコード種別 = XX

レコード種別：メモリ不足が発生した B+tree 情報ファイルのレコード編集領域の用途

■要因

B+tree 情報ファイルのレコード編集領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56514-E

システムオブジェクトの入力に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX オブジェクト種別 = YY

ユニバーサル関連名：システムオブジェクトが存在するユニバーサル関連のユニバーサル関連名

オブジェクト種別：システムオブジェクトの種別

■要因

ユニバーサル関連名で示すシステムオブジェクトの入力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56515-E

アンロードファイルの入力に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX レコード種別 = YY

ユニバーサル関連名：処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

レコード種別：入力しようとしたレコード

■要因

アンロードファイルから、レコード種別で示すレコードの入力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56516-E

データベースへのオブジェクトの出力処理に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX オブジェクト種別 = YY

ユニバーサル関連名：処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

オブジェクト種別：出力しようとしたオブジェクト

■要因

オブジェクトをデータベースへ出力できなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56517-E

オブジェクトの更新処理に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX オブジェクト種別 = YY

ユニバーサル関連名：処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

オブジェクト種別：更新しようとしたオブジェクト

■要因

オブジェクトの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56518-E

B+tree オブジェクトの出力処理に失敗しました。

■要因

B+tree オブジェクトをデータベースへ出力できなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56519-E

B+tree オブジェクトの更新処理に失敗しました。

■要因

B+tree オブジェクトの更新処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56520-E

アンロードファイルの出力に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX レコード種別 = YY

ユニバーサル関連名：処理中のユニバーサル関連のユニバーサル関連名

レコード種別：出力しようとしたレコード

■要因

アンロードファイルへの出力時、レコード種別で示すレコードの出力に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56521-E

コンポジットオブジェクト中にタイプ定義が存在しない要素があります。タイプ名 = XX

タイプ名：コンポジットオブジェクトのタイプ名

■要因

コンポジットオブジェクト中にタイプ定義が存在しない要素があるため、処理が続行できません。

■対処

コンポジットオブジェクト中の要素のタイプ定義を行なうか、不正な要素を削除した後、再実行してください。

KFXO56522-E

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗しました。タイプ名 = XX

タイプ名：処理中のタイプのタイプ名

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56523-E

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗しました。ユニバーサル関連名 = XX

ユニバーサル関連名：処理中のユニバーサル関連の関連名称

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクトの検索処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56524-E

クラスタードストリングオブジェクト入力作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ = XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

クラスタードストリングオブジェクト入力作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56525-E

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクト識別子の取得処理に失敗しました。エラーコード = XX

エラーコード：オブジェクト識別子の取得処理中に発生したエラーコード

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、オブジェクト識別子の取得処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラーコード	内容	対処
31017	ロック取得に失敗した。	直前に出力されているメッセージに従って、対策してください。
31025	データベース入出力エラー	
その他	—	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。

KFXO56526-W

ポイント先 B+tree オブジェクトまたは、順序付きコレクションオブジェクトが見つかりません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX オフセット = XX ポイント先のオブジェクト識別子 = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクトの先頭からポイント先のオブジェクト識別子までのオフセット

ポイント先のオブジェクト識別子：ポイント先 B+tree オブジェクト、又は順序付きコレクションオブジェクトへのオブジェクト識別子

■要因

ポイント先 B+tree オブジェクト、又は順序付きコレクションオブジェクトが見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56527-W

ストリングオブジェクトが見つかりません。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX オフセット = XX ストリングオブジェクトの PID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクトの先頭からストリングオブジェクトへの PID までのオフセット

ストリングオブジェクトの PID：本体オブジェクトが指すストリングオブジェクトへの PID

■要因

ストリングオブジェクトが見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56528-W

新オブジェクト識別子の参照時に、クラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名 = XX オブジェクト識別子 = XX PID = XX オフセット = XX クラスタードストリングの PID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

PID：本体オブジェクトの PID

オフセット：オブジェクトの先頭からクラスタードストリングのPIDまでのオフセット
クラスタードストリングのPID：クラスタードストリングのPID

■要因

新オブジェクト識別子の参照時に、クラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56529-W

オブジェクト識別子の変換処理時に、コンポジットオブジェクトの要素よりポイントされたクラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名= XX 先頭コンポジットオブジェクトのオブジェクト識別子= XX 不正なコンポジットオブジェクトのPID = XX オフセット= XX クラスタードストリングのPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

先頭コンポジットオブジェクトのオブジェクト識別子：先頭のコンポジットオブジェクトのオブジェクト識別子

不正なコンポジットオブジェクトのPID：不正なクラスタードストリングへのPIDがあるコンポジットオブジェクトのPID

オフセット：オブジェクトの先頭からクラスタードストリングのPIDまでのオフセット

クラスタードストリングのPID：クラスタードストリングのPID

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、コンポジットオブジェクトの要素からポイントされたクラスタードストリングタイプのストリングオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56530-W

リストオブジェクトが見つかりません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX リストオブジェクトのオブジェクト識別子= XX エラー種別= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクトの先頭からリストオブジェクトへのオブジェクト識別子までのオフセット

リストオブジェクトのオブジェクト識別子：本体オブジェクトが指すリストオブジェクトへのオブジェクト識別子

エラー種別：エラーが発生した要因

■要因

リストオブジェクトが見つかりませんでした。リストオブジェクト生成抑止の定義がなかった場合は、初期化されたリストオブジェクトを生成し、処理を続行します。また、リストオブジェクト生成抑止の定義があった場合は、ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56531-W

続きのリストオブジェクトが見つかりません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX
続きのリストオブジェクトのPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO_COL_LIST(コレクション種別)までのオフセット

続きのリストオブジェクトのPID：続きのリストオブジェクトへのPID

■要因

続きのリストオブジェクトが見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56532-W

リレーション管理オブジェクト(RC)が見つかりません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX RC のPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RC のPID：リレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

■要因

リレーション管理オブジェクト(RC)が見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56533-W

続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が見つかりません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 続きのRC のPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きのRC のPID：続きのリレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

■要因

続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56534-W

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーション管理オブジェクト(RC)中の関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX RC のPID = XX オフセット= XX 関連先のオブジェクト識別子= XX RC 要素= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RC のPID：リレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

オフセット：リレーション管理オブジェクト(RC)の先頭から関連先のオブジェクト識別子までのオフセット

関連先のオブジェクト識別子：関連先オブジェクトのオブジェクト識別子

RC 要素：リレーション管理オブジェクト(RC)中の不正な要素

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーション管理オブジェクト(RC)中の関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56535-W

リレーションリストオブジェクト(RL)が見つかりません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX RL のオブジェクト識別子= XX 要素情報= XX エラー種別= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭からリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子までのオフセット

RL のオブジェクト識別子：リレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子

要素情報：要素(ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

エラー種別：エラーが発生した要因

■要因

リレーションリストオブジェクト(RL)が見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56536-W

続きのリレーションリストオブジェクト(RL)が見つかりません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 続きの RL の PID = XX オフセット= XX 要素情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RL の PID：続きのリレーションリストオブジェクト(RL)への PID

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：要素(ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

■要因

続きのリレーションリストオブジェクト(RL)が見つかりませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56537-W

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト(RL)中の関連元のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX RL の PID = XX 関連元のオブジェクト識別子= XX オフセット= XX 要素情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RL の PID：リレーションリストオブジェクト(RL)の PID

関連元のオブジェクト識別子：関連元のオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：要素(ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト(RL)中の関連元のオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56538-W

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト(RL)中の関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX RL の PID = XX 関連先のオブジェクト識別子= XX オフセット= XX 要素情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RL の PID：リレーションリストオブジェクト(RL)の PID

関連先のオブジェクト識別子：関連先のオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時は、本体オブジェクト。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：要素(ディクショナリ時は、本体オブジェクト中の属性情報。ユーザエリア時は、リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リレーションリストオブジェクト(RL)中の関連先のオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56539-W

新オブジェクト識別子の参照時に、リレーションメンバオブジェクト(RM)中の関連元またはリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクトが存在しないことを検知しました。ユニバーサル関連名= XX RM の PID = XX タイプ番号= XX 論理タイプ番号= XX 関連元または RL のオブジェクト識別子= XX

ユニバーサル関連名：該当するオブジェクトがあるユニバーサル関連名

RM の PID：リレーションメンバオブジェクト(RM)の PID

タイプ番号：リレーションメンバオブジェクト(RM)のタイプ番号

論理タイプ番号：論理タイプ番号

関連元または RL のオブジェクト識別子：

関連元又はリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子

[High-end]の場合

物理形式のアンロード前の旧オブジェクト識別子

■要因

新オブジェクト識別子の参照時に、リレーションメンバオブジェクト(RM)中の関連元、又はリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクトが存在しないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56540-W

オブジェクト識別子の変換処理時に、ディクショナリ本体オブジェクト中のディクショナリ用関連属性部にある関連先のオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX PID = XX オフセット= XX 関連先のオブジェクト識別子= XX 属性情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

PID：本体オブジェクトのPID

オフセット：本体オブジェクトの先頭からディクショナリ用関連属性までのオフセット

関連先のオブジェクト識別子：関連先のオブジェクト識別子

属性情報：本体オブジェクト中のディクショナリ用関連属性

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、ディクショナリ本体オブジェクト中のディクショナリ用関連属性部にある関連先のオブジェクトがないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56541-W

オブジェクト識別子の変換処理時に、リストオブジェクトの XO_DATA_OID 型中のオブジェクト識別子に該当するオブジェクトが存在しないことを検知しました。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX PID = XX XO_DATA_OID 型のオフセット= XX XO_DATA_OID 型中のオブジェクト識別子= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO_COL_LIST(コレクション種別)までのオフセット

PID：不正なオブジェクト識別子があるオブジェクトのPID

XO_DATA_OID 型のオフセット：オブジェクトの先頭から XO_DATA_OID 型までのオフセット

XO_DATA_OID 型中のオブジェクト識別子：XO_DATA_OID 型中のオブジェクト識別子

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リストオブジェクトの XO_DATA_OID 型中のオブジェクト識別子に該当するオブジェクトが存在しないことを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56542-W

ユニバーサル関連定義が存在しないユニバーサル関連が登録されています。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 関連 ID = XX

タイプ名：該当するオブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

関連 ID：該当するユニバーサル関連の関連 ID

■要因

データベース中にユニバーサル関連定義が存在しないユニバーサル関連が登録されています。処理を続行します。

KFXO56543-W

新オブジェクト識別子の参照時に、続きのリストオブジェクトが2つ以上のリストオブジェクトよりポイントされていることを検知しました。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 続きのリストオブジェクトのPID = XX 続きのリストオブジェクトをポイントしているオブジェクトのPID = XX

タイプ名：該当するオブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きのリストオブジェクトのPID：続きのリストオブジェクトへのPID

続きのリストオブジェクトをポイントしているオブジェクトのPID：続きのリストオブジェクトをポイントしているオブジェクトへのPID

■要因

新オブジェクト識別子の参照時に、続きのリストオブジェクトが2つ以上のリストオブジェクトからポイントされていることを検知しました。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56544-W

ページ内に不正なスロットを検知しました。タイプ番号= XX

タイプ番号：不正なスロットが存在するタイプの番号

■要因

ページ内に不正なスロットを検知しました。不正と思われるスロットを無視して処理を続行します。このスロットの詳細な内容は、%XODDIR%¥spool ディレクトリ下の pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

■対処

不正なスロットを検知したページがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、再編成ユーティリティのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56545-W

リロードしなかった不要なリストオブジェクトのオブジェクト識別子または、不正なオブジェクトのオブジェクト識別子の削除に失敗しました。タイプ名=XX オブジェクト識別子=XX オブジェクト種別=XX エラーコード=XX 詳細エラー番号=XX

タイプ名：該当するオブジェクトが存在するタイプ名

オブジェクト識別子：該当するオブジェクト識別子

オブジェクト種別：該当するオブジェクトのオブジェクト種別

エラーコード：オブジェクト識別子の削除時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：オブジェクト識別子の削除時に発生した詳細エラー番号

■要因

リロードしなかった不要なリストオブジェクトのオブジェクト識別子又は、不正なオブジェクトのオブジェクト識別子の削除に失敗しました。該当するエラーを無視して処理を続行します。不正なオブジェクトの場合は、このメッセージ以前に修復された旨のメッセージが出力されています。また、OID インデクスに不要なエントリが残っているので、必要ならインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) 又は、オブジェクトの再編成 (area 文指定なし) を再実行してください。

KFXO56546-W

データページが破壊されているため、ページの入力に失敗しました。タイプ番号= XX

タイプ番号：破壊されたデータページが存在するタイプのタイプ番号

■要因

データページが破壊されているため、ページの入力に失敗しました。不正なページを無視して処理を続行します。不正なページの詳細な内容は、%XODDIR%¥spool ディレクトリの下での pdmp プロセス ID ファイルを参照してください。

■対処

入力に失敗したページがディクショナリエリアの場合は、ディクショナリエリアをバックアップから回復した後、再編成ユティリティのインデクス再作成 (OID インデクスエリアを指定) を実行してください。

KFXO56547-W

ポイント先 B+tree オブジェクトまたは、順序付きコレクションオブジェクトが入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX ポイント先のオブジェクト識別子= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクトの先頭からポイント先のオブジェクト識別子までのオフセット

ポイント先のオブジェクト識別子：ポイント先 B+tree オブジェクト、又は順序付きコレクションオブジェクトへのオブジェクト識別子

■要因

ポイント先 B+tree オブジェクト、又は順序付きコレクションオブジェクトが入力できませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56548-W

ストリングオブジェクトが入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX ストリングオブジェクトの PID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクトの先頭からストリングオブジェクトへの PID までのオフセット

ストリングオブジェクトの PID：本体オブジェクトが指すストリングオブジェクトへの PID

■要因

ストリングオブジェクトが入力できませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56549-W

リストオブジェクトが入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX リストオブジェクトのオブジェクト識別子= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクトの先頭からリストオブジェクトへのオブジェクト識別子までのオフセット

リストオブジェクトのオブジェクト識別子：本体オブジェクトが指すリストオブジェクトへのオブジェクト識別子

■要因

リストオブジェクトが入力できませんでした。リストオブジェクト生成抑止の定義が無かった場合は、初期化されたリストオブジェクトを生成し、処理を続行します。また、リストオブジェクト生成抑止の定義が有った場合は、ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56550-W

続きのリストオブジェクトが入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX
 続きのリストオブジェクトのPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO_COL_LIST(コレクション種別)までのオフセット

続きのリストオブジェクトのPID：続きのリストオブジェクトへのPID

■要因

続きのリストオブジェクトが入力できませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56551-W

リレーション管理オブジェクト(RC)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX RC のPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RC のPID：リレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

■要因

リレーション管理オブジェクト(RC)が入力できませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56552-W

続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 続きのRC のPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きのRC のPID：続きのリレーション管理オブジェクト(RC)へのPID

■要因

続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が入力できませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56553-W

リレーションリストオブジェクト(RL)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX RL のオブジェクト識別子= XX 要素情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時：本体オブジェクト、ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭からリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子までのオフセット

RL のオブジェクト識別子：リレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子

要素情報：要素(ディクショナリ時：本体オブジェクト中の属性情報、ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

■要因

リレーションリストオブジェクト(RL)が入力できませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56554-W

続きのリレーションリストオブジェクト(RL)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 続きの RL の PID = XX オフセット= XX 要素情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RL の PID：続きのリレーションリストオブジェクト(RL)への PID

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時：本体オブジェクト，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：要素(ディクショナリ時：本体オブジェクト中の属性情報，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

■要因

続きのリレーションリストオブジェクト(RL)が入力できませんでした。ポイント情報をクリアし、処理を続行します。

KFXO56555-E

オブジェクト識別子の変換処理時に，リレーションリストオブジェクト(RL)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX RL のオブジェクト識別子= XX 要素情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時：本体オブジェクト，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭からリレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子までのオフセット

RL のオブジェクト識別子：リレーションリストオブジェクト(RL)のオブジェクト識別子

要素情報：要素(ディクショナリ時：本体オブジェクト中の属性情報，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に，リレーションリストオブジェクト(RL)が入力できなかったため，処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って，エラーの原因を取り除いて，再実行してください。

KFXO56556-E

オブジェクト識別子の変換処理時に，続きのリレーションリストオブジェクト(RL)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 続きの RL の PID = XX オフセット= XX 要素情報= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RL の PID：続きのリレーションリストオブジェクト(RL)への PID

オフセット：オブジェクト(ディクショナリ時：本体オブジェクト，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC))の先頭から要素情報までのオフセット

要素情報：要素(ディクショナリ時：本体オブジェクト中の属性情報，ユーザエリア時：リレーション管理オブジェクト(RC)中の要素)の内容

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に，続きのリレーションリストオブジェクト(RL)が入力できなかったため，処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って，エラーの原因を取り除いて，再実行してください。

KFXO56557-E

オブジェクト識別子の変換処理時に，リレーション管理オブジェクト(RC)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX RC の PID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

RC の PID：リレーション管理オブジェクト(RC)への PID

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に，リレーション管理オブジェクト(RC)が入力できなかったため，処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って，エラーの原因を取り除いて，再実行してください。

KFXO56558-E

オブジェクト識別子の変換処理時に，続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX 続きの RC の PID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

続きの RC の PID：続きのリレーション管理オブジェクト(RC)への PID

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に，続きのリレーション管理オブジェクト(RC)が入力できなかったため，処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って，エラーの原因を取り除いて，再実行してください。

KFXO56559-E

オブジェクト識別子の変換処理時に，リストオブジェクトが入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX リストオブジェクトのオブジェクト識別子= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：本体オブジェクトの先頭からリストオブジェクトへのオブジェクト識別子までのオフセット

リストオブジェクトのオブジェクト識別子：本体オブジェクトが指すリストオブジェクトへのオブジェクト識別子

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、リストオブジェクトが入力できなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56560-E

オブジェクト識別子の変換処理時に、続きのリストオブジェクトが入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX 続きのリストオブジェクトのPID = XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：本体オブジェクトの先頭から当該オブジェクトがある XO_COL_LIST(コレクション種別)までのオフセット

続きのリストオブジェクトのPID：続きのリストオブジェクトへのPID

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、続きのリストオブジェクトが入力できなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56561-E

オブジェクト識別子の変換処理時に、順序付きコレクションオブジェクトが入力できません。タイプ名= XX オブジェクト識別子= XX オフセット= XX ポイント先のオブジェクト識別子= XX

タイプ名：当該オブジェクトがあるタイプ名

オブジェクト識別子：本体オブジェクトのオブジェクト識別子

オフセット：オブジェクトの先頭から順序付きコレクションオブジェクトのオブジェクト識別子までのオフセット

ポイント先のオブジェクト識別子：順序付きコレクションオブジェクトへのオブジェクト識別子

■要因

オブジェクト識別子の変換処理時に、順序付きコレクションオブジェクトが入力できなかったため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って、エラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56562-W

オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュエントリの登録処理で、エラーが発生しました。以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。エラーコード= XX

エラーコード：エラー要因

■要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュエントリの登録処理で、エラーが発生しましたが、処理を続行します。ただし、このメッセージ以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。

■対処

必要なら、エラーコードからエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラー番号	要因	対処
33001	メモリ不足	不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてください。
その他		このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56563-E

不要なクラスタードストリングオブジェクトの削除処理に失敗しました。PID = XX エラーコード = XX

PID：当該オブジェクトのPID

エラーコード：オブジェクトの削除処理中に発生したエラーコード

■要因

不要なクラスタードストリングオブジェクトの削除処理に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56601-E

アンロードファイルの入出力バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

アンロードファイルの入出力バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56602-E

アンロードファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = XX エラー番号 = YY

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの open() で返されたエラー番号

■要因

アンロードファイルのオープン時、open() システムコールでエラー番号で示すエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

エラー番号	要因	対処
2	再編成パラメタファイル、又は再構成パラメタファイルに指定したアンロードファイルのパスが存在しません。	ディレクトリを作成するか、既に存在するディレクトリ名称にパスを変更してください。

エラー番号	要因	対処
17	再編成パラメタファイル, 又は再構成パラメタファイルに指定したファイルは既に存在しています。	当該ファイルがアンロードファイルであれば, ファイルを削除してください。又は, 再編成パラメタファイル若しくは再構成パラメタファイルに指定したアンロードファイル名称を変更してください。

KFXO56603-E

アンロードファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名: ファイルの読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号: システムコールの read() で返されたエラー番号

■要因

アンロードファイルの読み込みをしようとしたとき, システムコールの read() でエラーが発生したため, 処理が続行できません。

■対処

エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除き, 再実行してください。

KFXO56605-E

アンロードファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名: ポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラー番号: システムコールの lseek() で返されたエラー番号

■要因

アンロードファイルのポインタの移動をしようとしたとき, システムコールの lseek() でエラーが発生したため, 処理が続行できません。

■対処

エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除いて, 再実行してください。

KFXO56606-E

アンロードファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名: 書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号: システムコールの write() で返されたエラー番号

■要因

アンロードファイルの書き込みをしようとしたとき, システムコールの write() でエラーが発生したため, 処理が続行できません。

■対処

エラー番号を参照してエラーの要因を取り除いて, 再実行してください。

エラー番号	意味	対処
27	ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。	再編成パラメタファイル又は再構成パラメタファイルの-u オペランドに, ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称を追加して再実行してください。ただし, ユーザデータベースエリアのアンロードファイルには, 空

エラー番号	意味	対処
27	ファイルが大きすぎます。プロセスで書き込めるファイルの大きさの限界又は最大ファイルの大きさに達しました。	き領域が十分にあるパーティションのディレクトリを指定してください。また、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称は、128 個まで指定できます。
28	デバイス内に空き領域がありません。	再編成パラメタファイル又は再構成パラメタファイルの-u オペランドに、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称を追加して再実行してください。ただし、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルには、空き領域が十分にあるパーティションのディレクトリを指定してください。また、ユーザデータベースエリアのアンロードファイルの名称は、128 個まで指定できます。
上記以外	—	エラー番号 (errno) が示すエラーの要因を取り除いてください。また、必要に応じてシステム管理者に連絡してください。

KFXO56607-E

アンロードファイルのクローズに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：クローズに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの close() で返されたエラー番号

■要因

アンロードファイルをクローズしようとしたとき、システムコールの close() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

KFXO56608-E

処理結果ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの open() で返されたエラー番号

■要因

処理結果ファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

■対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56609-E

処理結果ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの write() で返されたエラー番号

■要因

処理結果ファイルに書き込みをしようとしたとき、システムコールの write() でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

■対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56610-E

処理結果ファイルのクローズに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：クローズに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの close() で返されたエラー番号

■要因

処理結果ファイルをクローズしようとしたとき、システムコールの close() でエラーが発生しましたが、処理を続行します。

■対処

処理結果ファイルの出力を正しく行ないたい場合は、エラー番号 (errno) を参照してエラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56611-E

ワークファイルのオープンに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの CreateFile() で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの CreateFile() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号が示すエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

エラー番号	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません。
3	システムは指定されたパスを見つけることができません。
4	システムがファイルをオープンできません。
5	アクセスは拒否されました。
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません。
112	ディスク上に十分な容量がありません。
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO56612-E

ワークファイルの削除に失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：削除に失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの DeleteFile() で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルを削除しようとしたとき、システムコールの DeleteFile() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号が示すエラーの原因を取り除いて、再実行してください。

エラー番号	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません。
3	システムは指定されたパスを見つけることができません。
4	システムがファイルをオープンできません。
5	アクセスは拒否されました。
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません。
112	ディスク上に十分な容量がありません。
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO56613-E

ワークファイルのポインタの移動に失敗しました。ファイル名 = XX エラー番号 = YY

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの SetFilePointer() で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルのファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの SetFilePointer() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号が示すエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラー番号	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません。
3	システムは指定されたパスを見つけることができません。
4	システムがファイルをオープンできません。
5	アクセスは拒否されました。
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません。
112	ディスク上に十分な容量がありません。
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO56615-E

ワークファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：ファイルの読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの ReadFile() で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの ReadFile() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号が示すエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラー番号	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません。
3	システムは指定されたパスを見つけることができません。
4	システムがファイルをオープンできません。
5	アクセスは拒否されました。
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません。
112	ディスク上に十分な容量がありません。
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO56616-E

ワークファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの WriteFile() で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルの書き込みをしようとしたとき、システムコールの WriteFile() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号を参照してエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

エラー番号	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません。
3	システムは指定されたパスを見つけることができません。
4	システムがファイルをオープンできません。
5	アクセスは拒否されました。
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません。
112	ディスク上に十分な容量がありません。

エラー番号	要因
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO56617-E

ワークファイルのクローズに失敗しました。ファイル名= XX エラー番号= YY

ファイル名：クローズに失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの CloseHandle() で返されたエラー番号

■要因

ワークファイルをクローズしようとしたとき、システムコールの CloseHandle() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラー番号が示すエラーの原因を取り除き、再実行してください。

エラー番号	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません。
3	システムは指定されたパスを見つけることができません。
4	システムがファイルをオープンできません。
5	アクセスは拒否されました。
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません。
112	ディスク上に十分な容量がありません。
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO56618-E

アンロードファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名= XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

アンロードファイルに書き込もうとしたとき、ユーザ限界(ulimit)の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除し、再実行してください。

KFXO56619-E

処理結果ファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名= XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

アンロードファイルに書き込もうとしたとき、ユーザ限界(ulimit)の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。また、処理は続行しますが、このメッセージ出力以降は、処理結果ファイルへの処理結果の出力は行ないません。

■対処

処理結果ファイルの出力を正しく行ないたい場合は、不要なファイルを削除し、再実行してください。

KFXO56620-E

ワークファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名 = XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

ワークファイルに書き込もうとしたとき、ユーザ限界(ulimit)の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除し、再実行してください。

KFXO56622-E

ワークファイル用の作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ = XX

要求サイズ：確保しようとした領域長 (単位：バイト)

■要因

ワークファイル用の作業領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56623-E

アンロードファイルの削除に失敗しました。ファイル名 = XX エラー番号 = XX

ファイル名：削除に失敗したファイルのファイル名

エラー番号：システムコールの unlink() で返されたエラー番号 (errno)

■要因

データベースの再編成の正常終了時にアンロードファイルを削除しようとしたとき、システムコール unlink() でエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

データベースの再編成は正常に終了しています。アンロードファイルが不要であれば、削除してください。

KFXO56624-E

オブジェクト識別子重複情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

オブジェクト識別子重複情報ファイル用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56625-E

オブジェクト識別子重複チェック用ハッシュエントリの検索処理で、エラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：エラー要因

■要因

オブジェクト識別子重複チェック用のハッシュエントリの検索処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO56626-E

オブジェクト識別子の重複エラーを検知したため、OID インデクスから OID 情報を入力しようとしたがエラーが発生しました。エラーコード=XX

エラーコード：エラー要因

■要因

オブジェクト識別子の重複エラーを検知したため、OID インデクスから OID 情報を入力しようとしたがエラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い、エラーの原因を取り除き、再実行してください。

KFXO56627-W

アンロードファイルサイズが2ギガバイトを超えました。

■要因

アンロードファイルのサイズが2ギガバイトを超えましたが、処理を続行します。

■対処

次回の実行時は、アンロードファイルサイズの4ギガバイト超対応版（処理方式2：「xoduflg -y」で変更）での実行を推奨します。

KFXO56628-E

アンロードファイルサイズが4ギガバイトを超えました。

■要因

アンロードファイルのサイズが4ギガバイトを超えたため、処理が続行できません。

■対処

アンロードファイルサイズの4ギガバイト超対応版（処理方式2：「xoduflg -y」で変更）に切替え後、再実行してください。

KFXO56651-E

新旧物理オブジェクト識別子の対応表領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX PID 登録数= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

PID 登録数：新旧物理オブジェクト識別子の対応表に登録済みのエントリ数

■要因

新旧物理オブジェクト識別子の対応表領域の確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO56652-W

オブジェクト識別子重複チェック用テーブルの領域確保時に、メモリ不足が発生しました。以降、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。要求サイズ=XX PID 登録数= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

PID 登録数：新旧物理オブジェクト識別子の対応表に登録済みのエントリ数

■要因

オブジェクト識別子重複チェック用テーブルの領域の確保時に、メモリ不足が発生しましたが、処理を続行します。ただし、アンロード処理でのオブジェクト識別子の重複チェックは行ないません。

KFXO56998-E

再編成の処理で異常を検知しました。DB をバックアップから回復してください。理由コード= XX 詳細コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード：何の要因でアボートしたか、何の異常かを表すコード

詳細コード：詳細コード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

内部矛盾を検知したため、アボートしました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルを保存してください。また、データベースをバックアップによって回復する必要があります。

KFXO56999-E

再編成の処理で異常を検知しました。理由コード= XX 詳細コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード：エラーの原因を示す内部コード

詳細コード：詳細コード

ファイル名：エラーが発生したファイル名

場所：エラーが発生したファイルの箇所

■要因

内部矛盾を検出しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルを保存してください。なお、データベースの回復は不要です。

KFXO57000-I

DB 構成変更ユーティリティ（エリア追加）を開始します。

■要因

[データベースへのエリアの追加] ユティリティ、又は xodaradd コマンドを開始したときに出力されます。ユーティリティ処理結果（システムディレクトリのファイル「xodresult」）には、一つのエリア追加処理が正常終了するごとに出力されます。

KFXO57001-I

DB 構成変更ユーティリティ（エリア追加）が正常終了しました。

■要因

[データベースへのエリアの追加] ユティリティ、又は xodaradd コマンドが正常終了したときに出力されます。コマンドの処理結果（システムディレクトリのファイル「xodresult」）には、一つのエリアの追加処理が正常終了するごとに出力されます。

KFXO57002-E

DB 構成変更ユーティリティ（エリア追加）が異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって、[データベースへのエリアの追加] ユティリティ、又は xodaradd コマンドが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO57015-I

DB 構成変更ユーティリティ（エリア削除）を開始します。

■要因

[データベースの構成変更] ユティリティ（エリア削除）又は xodararm コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO57016-I

DB 構成変更ユーティリティ（エリア削除）が正常終了しました。

■要因

[データベースの構成変更] ユティリティ（エリア削除）又は xodararm コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO57017-E

DB 構成変更ユーティリティ（エリア削除）が異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって [データベースの構成変更] ユティリティ (エリア削除) 又は xodarm コマンドが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57018-I

DB 構成変更ユティリティ (ファイル追加) を開始します。

■要因

[データベースへのファイルの追加] ユティリティ又は xodfladd コマンドを開始したときに出力されません。

KFXO57019-I

DB 構成変更ユティリティ (ファイル追加) が正常終了しました。

■要因

[データベースへのファイルの追加] ユティリティ又は xodfladd コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO57020-E

DB 構成変更ユティリティ (ファイル追加) が異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって [データベースへのファイルの追加] ユティリティ又は xodfladd コマンドが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処後、再起動してください。

KFXO57021-I

DB 構成変更ユティリティ (ファイル属性変更) を開始します。

■要因

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティ, 又は xodflalt コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO57022-I

DB 構成変更ユティリティ (ファイル属性変更) が正常終了しました。

■要因

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティ, 又は xodflalt コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO57023-E

DB 構成変更ユティリティ (ファイル属性変更) が異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって [データベースのファイルの属性変更] ユティリティ、又は xodflalt コマンドが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57024-I

エリア追加は完了済みです。エリア名：XX

エリア名：追加したエリアのエリア名

■要因

エリアの追加完了後にエラーが発生したときに出力されます。

KFXO57025-I

ファイル追加は完了済みです。エリア名：XX ファイル名：YY

エリア名：ファイル追加したエリアのエリア名

ファイル名：追加したファイルのファイル名

■要因

ファイルの追加完了後にエラーが発生したときに出力されます。このメッセージ以前にエラーが発生しましたが、ファイル追加は完了しているため、ファイル追加処理は無効にしないで処理を続行します。

KFXO57026-I

ファイル属性変更は完了済みです。エリア名：XX ファイル名：YY

エリア名：ファイル属性変更したエリアのエリア名

ファイル名：属性変更するファイルのファイル名

■要因

ファイル属性変更完了後にエラーが発生したときに出力されます。このメッセージ以前にエラーが発生しましたが、ファイル属性変更は完了しているため、ファイル属性変更処理は無効にしないで処理を続行します。

KFXO57027-I

DB 構成変更ユティリティ (エリア追加) の一部のエリア追加に異常が発生しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって、[データベースへのエリアの追加] ユティリティ、又は xodaradd コマンドの一部のエリア追加ができませんでした。

■対処

イベントログ、又はこのエラーメッセージ以前に出力されたダイアログのメッセージを参照して、エラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO57029-I

エリア削除は完了済みです。エリア名：XX

エリア名：削除したエリアのエリア名

■要因

エリア削除の完了後にエラーが発生したときに出力されます。

■対処

このメッセージ以前に、KFXO57508-E が出力されている場合は、メッセージに表示されているファイルを削除、又は移動してください。

KFXO57030-I

DB 再構成ユーティリティ（エリア再作成）を開始します。

■要因

データベース再構成ユーティリティの xodbrcons コマンド（エリア再作成）を開始した時に出力されます。

KFXO57031-I

DB 再構成ユーティリティ（エリア再作成）が正常終了しました。

■要因

データベース再構成ユーティリティの xodbrcons コマンド（エリア再作成）が正常終了した時に出力されます。

KFXO57032-E

DB 再構成ユーティリティ（エリア再作成）が異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによりデータベース再構成ユーティリティの xodbrcons コマンド（エリア再作成）が異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57033-I

DB 再構成ユーティリティ（エリア再作成）の一部のエリア再作成に異常が発生しました。

■要因

データベース再構成ユーティリティの xodbrcons コマンド（エリア再作成）の一部のエリア再作成に異常が発生した時に出力されます。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再起動してください。

KFXO57034-I

エリアの再初期化を開始します。エリア名：XX

■要因

エリアの再初期化を開始する時に出力されます。

KFXO57035-I

エリアのアンロードを開始します。エリア名：XX

■要因

エリアのアンロードを開始する時に出力されます。

KFXO57036-I

エリアのリロードを開始します。エリア名：XX

■要因

エリアのリロードを開始する時に出力されます。

KFXO57037-I

インデクスの再作成を開始します。エリア名：XX

■要因

インデクスの再作成を開始する時に出力されます。

KFXO57051-E

OMS が起動されていません。

■要因

Object Server が起動されていないため、データベースの構成を変更するユーティリティが実行できませんでした。

■対処

Object Server を起動してから、再度データベースの構成を変更するユーティリティを実行してください。

KFXO57052-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード：XX，詳細エラー番号：XX

エラーコード：接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：接続時に発生したエラーの詳細コード

■要因

Object Server との接続時にエラーが発生しました。

■対処

次にエラーコードに対する対処を示します。

エラーコード	内容	対処
85	オブジェクトキャッシュ割り当てでメモリ不足が発生しました	Object Server のメモリ所要量を見直してください
その他	—	詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください

KFXO57053-E

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX, 詳細エラー番号：XX

エラーコード：トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：トランザクション開始中に発生したエラーの詳細コード

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO57055-E

コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：コミット処理中に発生したエラーの詳細コード

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57056-E

ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エラーコード：ロールバック処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57057-E

バッファフラッシュ処理中にエラーが発生しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：バッファフラッシュ処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

このメッセージの詳細エラー番号から詳細エラー番号（詳細コード）を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO57058-E

コミット開始処理宣言でエラーが発生しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：コミット開始処理宣言で発生した詳細エラー番号

■要因

コミット開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

このメッセージの詳細エラー番号から詳細エラー番号（詳細コード）を参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO57059-E

OMS の実行モードがユティリティ実行モードではありません。

■要因

Object Server をユティリティ実行モードで起動していないため実行できません。

■対処

Object Server を停止させて、ユティリティ実行モードで再起動し、再実行してください。

KFXO57060-E

同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できないほかのユティリティが実行中のため、ユティリティが実行できません。

■対処

同時に実行できないほかのユティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO57100-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

引数が正しく指定されていません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57101-I

使用方法：XX -f ファイル名

XX：実行したコマンドの名称を示します。

■要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57103-E

ファイルの定義が不足しています。エリア名：XX

エリア名：ファイル定義が不足していたエリア名

■要因

エリアに対応するファイルが定義されていません。

■対処

パラメタファイルを見直して、不足しているエリアに対応するファイルを定義して、再実行してください。

KFXO57105-E

area パラメタが定義されていません。

■要因

パラメタファイルに、エリアを定義するための area パラメタが定義されていません。

■対処

パラメタファイルに area パラメタによってエリアを定義して、再実行してください。

KFXO57106-E

ファイル名が重複しています。エリア名：XX ファイル名：XX

エリア名：重複したファイルを持つエリアのエリア名

ファイル名：重複したファイル名

■要因

パラメタファイルに定義したファイル名が重複しています。

■対処

- ファイル名が重複しないように定義し直して、再実行してください。

KFXO57107-E

area パラメタのオプションが定義されていません。エリア名：XX オプション：XX

エリア名：オプションが定義されていない area パラメタに指定したエリア名

オプション名：定義不足のオプション名

■要因

パラメタファイルに定義した area パラメタにオプションが定義されていません。

■対処

area パラメタのオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57108-E

file パラメタのオプションが定義されていません。エリア名：XX ファイル名：XX オプション：XX

エリア名：area パラメタに指定したエリア名

ファイル名：オプションが定義されていない file パラメタに指定したファイル名

オプション名：定義不足のオプション名

■要因

パラメタファイルに定義した file パラメタにオプションが定義されていません。

■対処

file パラメタのオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57109-I

使用方法：XX -n エリア名 -f ファイル名 -m 最大割当量

XX：実行したコマンドの名称を示します。

■要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57110-E

エリアの用途が不正です。エリア名：XX 用途：XX

エリア名：不正な用途を指定したエリアのエリア名

用途：-u オプションに指定した不正な用途

■要因

構成変更パラメタファイルに定義した area パラメタの-u オプションに指定したエリアの用途が不正です。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57112-E

XX 番目の area パラメタのオプションが定義されていません。オプション：XX

XX 番目：パラメタファイル中の、オプションが定義されていない area パラメタの位置

オプション名：定義不足のオプション名

■要因

パラメタファイルに定義したエリアにオプションが定義されていません。

■対処

area パラメタにオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57113-E

エリア名< XX >の XX 番目の file パラメタのオプションが定義されていません。オプション：XX

エリア名：オプションが定義されていないファイルをもつエリアのエリア名

XX 番目：パラメタファイル中の、オプションが定義されていないファイルの位置

オプション名：定義不足のオプション名

■要因

パラメタファイルに定義したファイルにオプションが定義されていません。

■対処

file パラメタにオプションを定義し直して、再実行してください。

KFXO57114-E

1つのエリア中に定義できるファイル数が最大数を超過しています。エリア名：XX 最大数：XX

エリア名：ファイルの最大値 16 個を超えて定義されたエリアのエリア名
最大数：1 エリアに定義できるファイルの最大数（単位：個）

■要因

一つのエリア中に定義できるファイル数が最大数 16 個を超えて定義されています。

■対処

一つのエリア中のファイル数が最大数以下になるように定義し直して、再実行してください。

KFXO57116-E

ファイル名の長さが定義範囲を超えています。エリア名：XX ファイル名：XX 最小値：XX 最大値：XX

エリア名：定義範囲を超えたファイル名が定義されているエリアのエリア名

ファイル名：定義範囲を超えたファイル名

最小値：ファイル名の長さ（単位：バイト）の最小値

最大値：ファイル名の長さ（単位：バイト）の最大値

■要因

パラメタファイルに定義したファイル名の長さが定義範囲を超えています。

■対処

ファイル名の長さを定義範囲内に定義し直して、再実行してください。

KFXO57118-E

指定した最大割当量の値が不正な値です。

■要因

xodflalt コマンドに指定した最大割当量の値に半角数字 0~9 以外の値を指定しています。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57119-E

指定した最大割当量の値が指定すべき範囲を超えています。最小値：XX 最大値：YY

最小値：指定できる最大割当量（単位：セグメント）の最小値

最大値：指定できる最大割当量（単位：セグメント）の最大値

■要因

xodflalt コマンドに指定した最大割当量の値は 1 以上 524,288 以下の値を指定しなければなりません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57120-E

area パラメタが 2 つ以上指定されています。

■要因

構成変更パラメタファイルに area パラメタが 2 個以上指定されています。

■対処

area パラメタを 1 個にして、再実行してください。

KFXO57121-E

エリア名 < XX > の file パラメタが 2 つ以上指定されています。

エリア名：2 個以上 file パラメタが定義されているエリアのエリア名

■要因

構成変更パラメタファイルに file パラメタが 2 個以上指定されています。

■対処

file パラメタを 1 個にして、再実行してください。

KFXO57123-E

ユーザ用、インデクス用エリアの合計が最大数を超過しています。最大数：XX

最大数：定義可能なユーザ用、インデクス用エリアの合計の最大数

■要因

パラメタファイルに定義されたユーザ用、インデクス用エリアの合計が最大数 3,174 個を超過しています。

■対処

ユーザ用、インデクス用エリアの合計を最大数以下に定義し直して、再実行してください。

KFXO57124-E

エリア名の長さが定義範囲を超えています。エリア名：XX 最小値：YY 最大値：ZZ

エリア名：定義範囲を超えたエリア名

最小値：エリア名の長さ（単位：バイト）の最小値

最大値：エリア名の長さ（単位：バイト）の最大値

■要因

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティのエリア名、又は xodflalt コマンドのオプション (-n) に指定したエリア名は、長さが定義範囲を超えています。

■対処

エリア名の長さを定義範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO57125-E

用途が OIDINDEX の area パラメタを複数指定しています。

■要因

[データベースへのエリアの追加] ユティリティ、又は xodaradd コマンドの構成変更パラメタ中に -u OIDINDEX 指定の area パラメタが複数あります。

■対処

構成変更パラメタ中の -u OIDINDEX 指定の area パラメタを一つにして再実行してください。

KFXO57126-E

ファイル名の長さが定義範囲を超えています。エリア名：XX 最小値：YY 最大値：ZZ

エリア名：定義範囲を超えたエリア名

最小値：ファイル名の長さ（単位：バイト）の最小値

最大値：ファイル名の長さ（単位：バイト）の最大値

■要因

xodflalt コマンドに指定したファイル名は長さが定義範囲を超えています。

■対処

エリア名の長さを定義範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO57127-E

recreate 文を複数指定しています。

■要因

recreate 文を複数指定しています。

■対処

パラメタファイルを修正して、再実行してください。

KFXO57128-E

recreate 文がありません。

■要因

recreate 文がありません。

■対処

パラメタファイルを修正して、再実行してください。

KFXO57129-E

用途が DICTIONARY の area パラメタを複数指定しています。

■要因

用途が DICTIONARY の area パラメタを複数指定しています。

■対処

パラメタファイルを修正して、再実行してください。

KFXO57130-E

パス名の長さが定義範囲を超えています。コマンド：XX オプション：XX パス名：XX 最小値：XX 最大値：XX

コマンド：定義範囲を超えたパス名が指定されているコマンド名

オプション：定義範囲を超えたパス名が定義されているオプション名

パス名：定義範囲を超えたパス名

最小値：パス名の長さ（単位：バイト）の最小値

最大値：パス名の長さ（単位：バイト）の最大値

■要因

定義ファイルに定義したパス名の長さが定義範囲を超えています。

■対処

ファイル名の長さを定義範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO57131-E

パス名が '/' から始まっていません。コマンド：XX オプション：XX パス名：XX

コマンド： '/' から始まっていないパス名が指定されているコマンド名

オプション： '/' から始まっていないパス名が定義されているオプション名

パス名： '/' から始まっていないパス名

■要因

定義ファイルに定義したパス名が '/' から始まっていません。

KFXO57132-E

用途が OIDINDEX の area パラメタを複数指定しています。

■要因

用途が OIDINDEX の area パラメタを複数指定しています。

■対処

パラメタファイルを修正して、再実行してください。

KFXO57133-E

ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定個数が 128 を超えています。コマンド：XX オプション：YY

コマンド：エラーの発生したコマンド名

オプション：エラーの発生したオプション名

■要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名個数が 128 を超えています。

■対処

アンロードファイル名の指定個数を 128 以下に定義し直し、再度実行してください。

KFXO57134-E

ユーザエリア用のアンロードファイル名の指定が重複しています。コマンド：XX オプション：YY ファイル名：ZZ

コマンド：エラーの発生したコマンド名

オプション：エラーの発生したオプション名

ファイル名：重複して指定されたアンロードファイル名

■要因

定義ファイルの -u オプションに指定したアンロードファイル名が重複しています。

■対処

アンロードファイル名を正しく指定し直し、再度実行してください。

KFXO57200-E

指定できない用途のエリアが指定されています。エリア名：XX 用途：YY

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

■要因

定義ファイルの area パラメタのオプション (-n), [データベースのファイルの属性変更] ユティリティのエリア名, xodflalt コマンドのオプション (-n), [データベースのエリアの削除] ユティリティのエリア名, 又は xodarrm コマンドのオプション (-n) に指定したエリア名は, 指定できない用途のエリアが指定されています。

■対処

正しい用途のエリアを指定して, 再実行してください。

KFXO57202-E

指定したエリアは既にシステム内に定義されています。エリア名：XX

エリア名：指定したエリア名

■要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタに指定したエリア名は既にシステム内に定義されています。

■対処

システム内に定義されていないエリア名を指定して, 再実行してください。

KFXO57203-E

指定したファイルは既にシステム内に定義されています。エリア名：XX ファイル名：YY

エリア名：指定したエリア名

ファイル名：指定したファイル名

■要因

構成変更パラメタファイルの file パラメタに指定したファイル名は既にシステム内に定義されています。

■対処

システム内に定義されていないファイル名を指定して, 再実行してください。

KFXO57204-E

指定したエリアはシステム内に定義されていません。エリア名：XX

エリア名：指定したエリア名

■要因

定義ファイルの area パラメタのオプション (-n), [データベースのファイルの属性変更] ユティリティのエリア名, xodflalt コマンドのオプション (-n), [データベースのエリアの削除] ユティリティのエリア名, 又は xodarrm コマンドのオプション (-n) に指定したエリア名はシステム内に定義されていません。

■対処

システム内に定義されているエリア名を指定して, 再実行してください。

KFXO57205-E

指定したファイルはエリア内に定義されていません。エリア名：XX ファイル名：YY

エリア名：指定したエリア名

ファイル名：指定したファイル名

■要因

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティ又は xodflalt コマンドに指定したファイル名はエリア内に定義されていません。

■対処

エリア内に定義されているファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO57206-E

指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できなかったエリアであるため、このエリアに対して操作ができません。エリア名：XX

エリア名：指定したエリア名

■要因

定義ファイルの area パラメタのオプション (-n), [データベースのファイルの属性変更] ユティリティのエリア名, xodflalt コマンドのオプション (-n), [データベースのエリアの削除] ユティリティのエリア名, 又は xodarm コマンドのオプション (-n) に指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できる個数を超えて追加されたエリアであるため、当該エリアに対して操作ができませんでした。

■対処

指定したエリアに対して操作する場合は、Object Server を再起動後、再実行してください。

KFXO57209-E

セグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名：XX ファイル名：XX 最大値：XX

エリア名：該当するセグメントサイズが定義してあるエリアのエリア名

ファイル名：該当する初期割当量が定義してあるファイルのファイル名

最大値：セグメントサイズと初期割当量を掛けた場合の最大値

■要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタに定義したセグメントサイズと file パラメタに定義したファイルの初期割当量を掛けた値が最大値を超えています。

■対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57210-E

最大割当量が初期割当量より大きく定義されていません。エリア名：XX ファイル名：XX

エリア名：該当する最大割当量が定義されているファイルが構成するエリアのエリア名

ファイル名：該当する最大割当量が定義されているファイルのファイル名

■要因

構成変更パラメタファイルに定義した最大割当量が初期割当量より小さく定義されています。

■対処

最大割当量と初期割当量を見直して、最大割当量が初期割当量より大きくなるように定義して、再実行してください。

KFXO57215-E

セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名：XX ファイル名：XX 最大値：XX

エリア名：該当するセグメントサイズが定義してあるエリアのエリア名
ファイル名：該当する最大割当量が定義してあるファイルのファイル名
最大値：セグメントサイズと最大割当量を掛けた場合の最大値

■要因

構成変更パラメタファイルの area パラメタに定義したセグメントサイズと file パラメタに指定したファイルの最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。

■対処

セグメントサイズと最大割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57216-E

指定した最大割当量と指定したエリアのセグメントサイズを掛けた値が最大値を超えています。エリア名：WW ファイル名：XX セグメントサイズ：YY 最大値：ZZ

エリア名：指定したエリア名
ファイル名：指定したファイル名
セグメントサイズ：指定したエリアのセグメントサイズ
最大値：エリアのセグメントサイズとファイルの最大割当量を掛けた場合の最大値

■要因

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティ、又は xodflalt コマンドに指定したファイルの最大割当量と、エリア名に指定したエリアのセグメントサイズを掛けた値が最大値を超えています。

■対処

セグメントサイズと最大割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57217-I

エリアを追加するための共有メモリ上の管理領域で、管理できる個数以上のエリア追加が行われました。エリア名：XX

エリア名：追加したエリアのエリア名

■要因

一度 Object Server を起動してから終了するまでに、33 個以上のエリアを追加した場合に発生します。メッセージに出力されたエリアの追加処理は正常に終了していますが、Object Server を再起動するまで、このエリアに対して、Object Server と連携するプログラムのデータベースを作成できません。

KFXO57218-E

1つのエリア中に定義できるファイル数が最大数に達しているため、追加できません。エリア名：XX 最大数：YY

エリア名：ファイルの最大値 16 個を超えて追加しようとしたエリアのエリア名

最大数：1 エリアに定義できるファイルの最大数（個）

■要因

一つのエリア中に定義できるファイル数が最大数 16 個を超えて追加しようとしています。

■対処

誤ったエリア名を指定している場合は、エリア名を見直して再実行してください。エリア名が正しい場合は、これ以上ファイルを追加できないので、[データベースのファイルの属性変更] ユティリティ、又は xodflalt コマンドで該当するエリアの既存ファイルの最大割当量を変更するか、[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドを実行して空き領域を確保してください。

KFXO57219-E

OID インデクス用エリアは既に定義されています。エリア名：XX

エリア名：OID インデクス用エリア

■要因

既に OID インデクス用エリアが Object Server に定義されているのに、[データベースへのエリアの追加] ユティリティ、又は xodaradd コマンドの構成変更パラメタ中に -u OIDINDEX 指定の area パラメタがありました。

■対処

構成変更パラメタ中の -u オペランドを見直し、必要があれば再実行してください。

KFXO57220-E

削除しようとしたエリアにタイプ、インデクス又は拡張関連が定義されているため、削除できませんでした。エリア名：XX

エリア名：削除しようとしたエリアのエリア名

■要因

タイプ、インデクス、又は拡張関連が定義されているエリアを削除しようとしたときに出力されます。

■対処

誤ったエリアを指定した場合はエリアを見直して、再実行してください。エリア名が正しい場合は、エリア名に表示されたエリアに作成されている連携するプログラムの環境を削除してから、再実行してください。

KFXO57221-E

ファイルのサイズが最大値を超えます。エリア名：XX ファイル名：XX ファイルサイズ：XXKB 最大値：XXKB

エリア名：ファイルサイズが最大値を超えるファイルを定義してあるエリアのエリア名

ファイル名：ファイルサイズが最大値を超える定義がしてあるファイルのファイル名

ファイルサイズ：

[データベースへのエリアの追加] ユティリティ (xodaradd コマンド) の場合、構成変更パラメタファイルに定義してあるセグメントサイズと初期割当量から計算されたファイルサイズ

[データベースへのファイルの追加] ユティリティ (xodfladd コマンド) の場合、該当するエリアのセグメントサイズと構成変更パラメタファイルに定義してある初期割当量から計算されたファイルサイズ

[データベースへのエリアの再作成] ユティリティ (xodbrncs コマンド) の場合、再構成パラメタファイルに定義してあるセグメントサイズと初期割当量から計算されたファイルサイズ

(単位：キロバイト)

最大値：ファイルサイズの最大値 (単位：キロバイト)

■要因

[データベースへのエリアの追加] ユティリティ (xodaradd コマンド) の場合、構成変更パラメタファイルに定義してあるエリアのセグメントサイズとファイルの初期割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。[データベースへのファイルの追加] ユティリティ (xodfladd コマンド) の場合、該当するエリアのセグメントサイズと構成変更パラメタファイルに定義してあるファイルの初期割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズの計算式は、マニュアルの付録の「ファイル容量の計算式」を参照してください。[データベースへのエリアの再作成] ユティリティ (xodbrcons コマンド) の場合、再構成パラメタファイルに定義してあるエリアのセグメントサイズとファイルの初期割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズの計算式は、マニュアルの付録の「ファイル容量の計算式」を参照してください。

■対処

セグメントサイズと初期割当量を見直して、再実行してください。

KFXO57222-E

指定したエリアはシステム内に定義されていません。エリア名：XX

エリア名：指定したエリア名

■要因

パラメタファイルに定義した area パラメタに指定したエリア名はシステム内に定義されていません。

■対処

システム内に定義されているエリア名を指定して、再実行してください。

KFXO57223-E

area パラメタで指定された用途がシステム内のエリアの用途と不一致です。エリア名：XX 用途：XX

エリア名：不適切な用途を指定したエリアのエリア名

用途：-u オプションに指定した不適切な用途

■要因

パラメタファイルに定義した area パラメタの-u オプションに指定したエリアの用途がシステム内のエリアの用途と不一致です。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO57224-E

指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できていないため、このエリアに対して操作ができません。エリア名：XX

エリア名：指定したエリア名

■要因

パラメタファイルに定義した area パラメタに指定したエリアは、共有メモリ上の管理領域で管理できる個数を超えて追加されたエリアであるため、このエリアに対して操作ができませんでした。

■対処

このエリアに対して操作する場合は、Object Server を再起動後、再実行してください。

KFXO57225-E

指定したファイルは既にシステム内の他エリアに定義されています。エリア名：XX ファイル名：XX

エリア名：指定したエリア名

ファイル名：指定したファイル名

■要因

パラメタファイルに定義した file パラメタに指定したファイル名は既にシステム内に定義されていません。

■対処

システム内に定義されていないファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO57500-E

領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ：XX

確保しようとした領域の大きさ：確保に失敗した領域の大きさ（単位：バイト）

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO57501-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード：XX

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

システムコールの time() の引数が不正であるため、エラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO57502-E

ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたときに、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57503-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの write() で発生したエラーコード

■要因

ファイルに書き込もうとしたときに、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57504-E

ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名: XX

ファイル名: 書き込みに失敗したファイルのファイル名

■要因

ファイルに書き込もうとしたときに、記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。システムコールの ulimit() を使用して、プロセスで書き込めるファイルの限界を設定している場合、その限界より多いバイトの書き込み要求をしたときもこのエラーになります。

■対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO57505-E

ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

ファイル名: 読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード: システムコールの read() からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルを読み込もうとしたときに、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57506-E

ファイルが既に存在しています。ファイル名: XX

ファイル名: 既に存在していたファイルのファイル名

■要因

ファイルをオープンしようとしたときに、指定したファイルが既に存在していました。データベースの構成変更ユティリティ又は再構成ユティリティが割り込みなどで強制終了したとき、初期化の途中のファイルが残っている場合があるために、このエラーになることがあります。

■対処

既存のファイルを削除又は移動するか、又は使用していない別のファイル名を指定して、再実行してください。

KFXO57508-E

ファイルの削除に失敗しました。ファイル名: XX エラーコード: XX

ファイル名: 削除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード: システムコールの unlink() で発生したエラーコード

■要因

コマンド実行中にエラーが発生したため、生成したファイルを削除しようとしたときに、システムコールの `unlink()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57509-E

ファイルのロックに失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：書き込みロックに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックをしようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57510-E

ファイルのロック解除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：書き込みロックの解除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

■要因

ファイルに対して書き込みロックの解除をしようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57511-E

ファイルフラグの設定に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：ファイルフラグの設定に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

■要因

ファイルに対して同期書きのためのファイルフラグ(O_SYNC)を設定しようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57512-E

ファイルフラグの解除に失敗しました。ファイル名：XX エラーコード：XX

ファイル名：ファイルフラグの解除に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` で発生したエラーコード

■要因

ファイルに対して実行した同期書きのためのファイルフラグ(O_SYNC)の解除をしようとしたときに、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57513-E

これ以上ファイルをオープンできません。

■要因

ファイルをオープンしようとしたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数 100 個を超えたのでオープンできませんでした。

■対処

再実行してください。再実行してもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO57514-E

ファイルステータスの取得に失敗しました。ファイル名：XX，エラーコード：XX

ファイル名：ステータスの取得に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `fcntl()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルのステータスを取得しようとしたとき、システムコールの `fcntl()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57515-E

ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名：XX，エラーコード：XX

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの `lseek()` からリターンしたエラーコード

■要因

ファイルポインタを移動しようとしたとき、システムコールの `lseek()` でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) が示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO57700-E

ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：構成変更処理中のエリアのエリア名

エラーコード：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの詳細コード

■要因

ディクショナリ処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57701-E

ディクショナリ更新処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：ディクショナリ更新中のエリアのエリア名

エラーコード：ディクショナリ更新中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ更新中に発生したエラーの詳細コード

■要因

ディクショナリ更新中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57702-E

ディレクトリ更新処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：ディレクトリ更新処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：ディレクトリ更新中に発生したエラーの詳細コード

■要因

ディレクトリ更新処理中にエラーが発生しました。

■対処

次に詳細コードに対するオペレータの処置を示します。

詳細コード	内容	対処
41029 41032 41033 41040 41041 41042	ディレクトリ更新処理中にエラーが発生しました	このメッセージを記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください
上記以外	ディレクトリ更新処理中にエラーが発生しました	詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください

KFXO57703-E

グローバルキャッシュ割当て処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：グローバルキャッシュを割り当てるエリアのエリア名

詳細エラー番号：グローバルキャッシュ割当て処理中に発生したエラーの詳細コード

■要因

グローバルキャッシュ割当て処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO57704-E

ディクショナリ操作中にロック取得が失敗しました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：構成変更処理中のエリアのエリア名

エラーコード：ロック取得時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ロック取得時に発生したエラーの詳細コード

■要因

ディクショナリ操作中にロック取得が失敗しました。

■対処

次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

エラーコード	内容	対処
10~11 14~16 17~19	ディクショナリ検索処理中にロック取得が失敗しました	詳細コードを参照して、メッセージ中の 詳細エラー番号に対応するユーザの処 置に従ってください
12~13, 39	ディクショナリ更新処理中にロック取得が失敗しました	

KFXO57705-E

ディクショナリ操作中にキャッシュが満杯になりました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：ディクショナリ操作中のエリアのエリア名

エラーコード：ディクショナリ操作中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ操作中に発生したエラーの詳細コード

■要因

ディクショナリ操作中にキャッシュが満杯になりました。

■対処

次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

エラーコード	内容	対処
20~24 26	ディクショナリ検索処理中にキャッシュが満杯になりました	詳細コードを参照して、メッセージ中の 詳細エラー番号に対応するユーザの処 置に従ってください
40	ディクショナリ更新処理中にキャッシュが満杯になりました	

KFXO57706-E

ディクショナリ操作中に入出力エラーが発生しました。エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：操作中のエリアのエリア名

エラーコード：ディクショナリ操作中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ操作中に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ操作中に入出力エラーが発生しました。

■対処

次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

エラーコード	内容	対処
30~31 34~36 38~39	ディクショナリ検索処理中に入出力エラーが発生しました	このメッセージの前に出力されたエラーメッセージ及び詳細エラー番号を参照して、障害を取り除き、再実行してください
32~33 37 41	ディクショナリ更新処理中に入出力エラーが発生しました	

KFXO57707-E

ディレクトリ操作中にロック取得が失敗しました。 エリア名：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：操作中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：ロック取得時に発生した詳細エラー番号

■要因

ディレクトリ操作中にロック取得が失敗しました。

■対処

このメッセージの詳細エラー番号を参照して、ユーザの処置に従ってください。

KFXO57708-E

ディクショナリ更新処理中にエラーが発生しました。エリア名：XX エリア情報管理オブジェクトのOID：XX
エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：ディクショナリ更新処理中のエリア名

エリア情報管理オブジェクトのOID：更新要求したエリア情報管理オブジェクトのOID

エラーコード：ディクショナリ更新中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ更新中に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ更新中にエラーが発生しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO57709-E

ディクショナリ操作中にメモリ不足が発生しました。 エリア名：XX エラーコード：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：操作中のエリアのエリア名

エラーコード：メモリ確保時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：メモリ確保時に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ操作中にメモリ不足が発生しました。

■対処

次にエラーコードに対する対処を示します。

エラーコード	内容	対処
49~51	ディクショナリ検索処理中にメモリ不足が発生しました	このメッセージの詳細エラー番号から詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください

KFXO57720-E

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいてエラーが発生しました。エリア名：XX

エリア名：再作成処理中のエリアのエリア名

■要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいてエラーが発生しました。

■対処

このメッセージの以前に出力されたエラーメッセージのエラー要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO57731-E

システム内の定義済みエリア数が最大数に達しています。エリア名：XX 用途：XX 最大数：XX

エリア名：最大数を越えていたエリアのエリア名

用途：最大数を越えていたエリアの用途

最大数：エリアの最大数（単位：個）

■要因

定義済みエリア数が最大数である 3,200 個に達しているため、これ以上エリアを追加できません。

■対処

必要であれば、[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドでデータベースを再作成してください。

KFXO57732-E

ユーザ用とインデクス用のエリアの合計数が最大数に達しています。エリア名：XX 用途：XX 最大数：XX

エリア名：最大数を越えていたエリアのエリア名

用途：最大数を越えていたエリアの用途

最大値：ユーザ用、インデクス用エリア数の合計の最大数（単位：個）

■要因

ユーザ用とインデクス用のエリアの合計数が最大数である 3,174 個に達しているため、これ以上ユーザ用、又はインデクス用のエリアを追加できません。

■対処

必要であれば、[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドでデータベースを再作成してください。

KFXO57733-E

マスタディレクトリ用エリアの容量が不足しました。

■要因

マスタディレクトリ用エリア中にエリアを定義できるだけの領域がありません。

■対処

不要なタイプ、又はインデクスを削除して、再実行してください。削除してもこのメッセージが出力される場合は、マスタディレクトリの初期割当量を大きくして、[データベースの初期化] ユティリティ又は xodbinit コマンドでデータベースを再作成してください。

KFXO57740-E

指定した最大割当量は、ファイルで管理できる大きさを超えています。エリア名：XX ファイル名：YY 管理できる最大セグメント数：ZZ

エリア名：指定したエリア名

ファイル名：指定したファイル名

管理できる最大セグメント数：ファイルで管理できる最大セグメント数

■要因

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティ、又は xodflalt コマンドに指定した最大割当量は、ファイルで管理できるセグメント数より大きい値を指定しています。

■対処

管理できる最大セグメント数以下の値を指定して、再実行してください。

KFXO57741-E

指定した最大割当量が現在のセグメント数以下です。エリア名：XX ファイル名：YY 現在のセグメント数：ZZ

エリア名：指定したエリア名

ファイル名：指定したファイル名

現在のセグメント数：指定したファイルの現在のセグメント数

■要因

[データベースのファイルの属性変更] ユティリティ、又は xodflalt コマンドに指定した最大割当量は現在のセグメント数以下の値を指定しています。

なお、当該エリアを初期化したときに指定したファイルの最大割当量は、指定値よりも大きな値に補正されている場合があります。その場合、現在のセグメント数は、当該エリアを初期化したときに指定したファイルの最大割当量よりも大きくなっている場合があります。どのように補正されるかについては、マニュアルの「オブジェクトサーバのファイル」の章の「初期設定パラメタの項目」の file パラメタ、-m オペランドの説明を参照してください。

■対処

現在のセグメント数より大きい値を指定して、再実行してください。

KFXO57742-E

削除しようとしたエリアのエリア番号がマスタディレクトリ中の最大エリア番号を超えています。エリア名：XX エリア番号：XX 最大エリア番号：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：指定したエリア名

エリア番号：指定したエリアのエリア番号

最大エリア番号：マスタディレクトリ中の最大エリア番号

詳細エラー番号：ディレクトリ更新中に発生した詳細エラー番号

■要因

削除しようとしたエリアのエリア番号が、マスタディレクトリ中の最大エリア番号を超えています。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57743-E

タイプに定義されたインデクスを作成未完状態にできませんでした。エリア名：XX エリア番号：XX タイプID：XX 詳細エラー番号：XX

エリア名：タイプが定義されているエリアのエリア名

エリア番号：タイプが定義されているエリアのエリア番号

タイプID：該当するタイプのタイプID

詳細エラー番号：ディレクトリ更新中に発生した詳細エラー番号

■要因

タイプに定義されたインデクスを作成未完状態にできない場合に出力されます。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57744-W

アンロード処理で警告エラーが発生しました。

■要因

アンロード処理で警告エラーが発生しました。

■対処

必要であれば警告エラー要因を取り除いてください。

KFXO57745-E

アンロード処理でエラーが発生しました。

■要因

アンロード処理でエラーが発生しました。

■対処

エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO57746-W

リロード処理で警告エラーが発生しました。

■要因

リロード処理で警告エラーが発生しました。

■対処

必要があれば警告エラー要因を取り除いてください。

KFXO57747-E

リロード処理でエラーが発生しました。

■要因

リロード処理でエラーが発生しました。

■対処

エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO57748-W

インデクス再作成処理で警告エラーが発生しました。

■要因

インデクス再作成処理で警告エラーが発生しました。

■対処

必要があれば警告エラー要因を取り除いてください。

KFXO57749-E

インデクス再作成処理でエラーが発生しました。

■要因

インデクス再作成処理でエラーが発生しました。

■対処

エラー要因を取り除き再実行してください。

KFXO57977-E

データベースの更新処理でエラーが発生しました。再構成ユーティリティの処理を中断します。

■要因

再構成ユーティリティにおいて、データベースの更新処理でエラーが発生しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処し、バックアップからデータベースを回復した後、Object Server を再起動して、再実行してください。

KFXO57978-E

再構成ユーティリティが異常を検知しました。理由コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード：何の要因でアボートしたか、何の異常かを示すコード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

再構成ユーティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

■対処

このメッセージの内容及び、このメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO57979-E

削除したエリアの回復処理中にジャーナル中の削除したエリアの用途不正を検知しました。エリア名= XX エリアの用途= XX ファイル名= XX

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名
エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途
ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

■要因

エリア削除ジャーナルを使って、回復中に削除したエリアの用途の不正を検知しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57980-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のエリアの番号が共有メモリ上の最大エリア番号を超えていることを検知しました。エリア名= AA エリア番号= BB 最大エリア番号= CC ユティリティ名= DD

エリア名：回復しようとしたエリアのジャーナル中のエリア名称
エリア番号：回復しようとしたエリアのジャーナル中のエリア番号
最大エリア番号：共有メモリ上の最大エリア番号
ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ
xodaradd：ARADD
xodarm：ARRMV
xodfladd：FLADD

■要因

ジャーナル中にあるエリア番号が、共有メモリ上の最大エリア番号を超えている場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57981-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のファイル番号の不正を検知しました。エリア名= AA ファイル名= BB ファイル番号= CC ユティリティ名= DD

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名
ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名
ファイル番号：回復しようとしたファイルのジャーナル中の不正なファイル番号
ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ
xodaradd：ARADD
xodarm：ARRMV
xodfladd：FLADD
xodbrcons：BRCNS

■要因

ジャーナル中のファイル番号が0~15の範囲外の場合、又はエリア追加で追加したファイルのファイル番号が昇順連続でない場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57982-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のセグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えていることを検知しました。エリア名= AA エリアの用途= BB セグメントサイズ= CC ファイル名= DD
最大割当量= EE ユティリティ名= FF

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名
エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途
セグメントサイズ：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズ
ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名
最大割当量：回復中のファイルのジャーナル中の最大割当量の値（単位：セグメント）
ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd：ARADD

xodarm：ARRMV

xodfladd：FLADD

xodbrcons：BRCNS

以外：*****

■要因

ジャーナル中のセグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えている場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57983-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のファイル名、又はファイル名の長さ不正を検知しました。エリア名= XX ファイル名= XX ファイル名の長さ= XX ユティリティ名= XX

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名
ファイル名：回復しようとしたジャーナル中の不正なファイルのファイル名（ファイル名の長さが0バイト以下のときは*****を出力する。ファイル名の長さが175バイトを超えている場合は、200バイトまで出力する）

ファイル名の長さ：回復しようとしたファイルのファイル名の長さ（単位：バイト）

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd：ARADD

xodarm：ARRMV

xodfladd：FLADD

xodbrcons：BRCNS

以外：*****

■要因

ジャーナル中の回復しようとするファイル名が2~175バイトの範囲外である場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57984-E

ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のエリア名、又はエリア名の長さ不正を検知しました。エリア名 = AA エリア名の長さ = BB ユティリティ名 = CC

エリア名: 回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名を示します。エリア名の長さが0バイト以下のときは*****を出力します。エリア名の長さが30バイトを超えている場合は、50バイトまで出力します。

エリア名の長さ: 回復しようとしたファイルのエリアのエリア名の長さ (単位: バイト)

ユティリティ名:

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd: ARADD

xodarm: ARRMV

xodfladd: FLADD

xodbrcons: BRCNS

以外: *****

■要因

ジャーナル中の回復しようとするファイルのあるエリアのエリア名称が1~30バイトの範囲外である場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57985-E

ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の最大割当量の値の不正を検知しました。エリア名 = AA エリアの用途 = BB セグメントサイズ = CC ページ長 = DD ファイル名 = EE 初期割当量 = FF 最大割当量 = GG ユティリティ名 = HH

エリア名: 回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途: 回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

セグメントサイズ: 回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズ

ページ長: 回復しようとしたファイルのジャーナル中のページ長 (単位: バイト)

ファイル名: 回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

初期割当量: 回復しようとしたファイルのジャーナル中の初期割当量の値 (単位: セグメント)

ユティリティが xodarm の場合は、現在割当量

最大割当量: 回復しようとしたファイルのジャーナル中の最大割当量の値 (単位: セグメント)

ユティリティ名:

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd: ARADD

xodarm: ARRMV

xodfladd: FLADD

xodbrcons : BRCNS

■要因

ジャーナル中の最大割当量が 0 を除く 2~524,288 の範囲外である場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57986-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中の初期割当量の値の不正を検知しました。エリア名= AA エリアの用途= BB セグメントサイズ= CC ページ長= DD ファイル名= EE 初期割当量= FF ユティリティ名= GG

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

セグメントサイズ：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズ

ページ長：回復しようとしたファイルのジャーナル中のページ長（単位：バイト）

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

初期割当量：回復しようとしたファイルの初期割当量の値（単位：セグメント）

ユティリティが xodarm の場合は現在割当量

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd : ARADD

xodarm : ARRMV

xodfladd : FLADD

xodbrcons : BRCNS

■要因

ジャーナル中の初期割当量が 1~524,288 の範囲外である場合に出力します。但し、ディクショナリ用エリアの場合は 15~524,288 の範囲外である場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57987-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のセグメントサイズの不正を検知しました。エリア名= AA エリアの用途= BB セグメントサイズ= CC ファイル名= DD ユティリティ名= EE

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

セグメントサイズ：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズ

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd : ARADD

xodarm : ARRMV

xodfladd : FLADD

xodbrcons : BRCNS

■要因

ジャーナル中のセグメントサイズが1~16,000の範囲外である場合に出力します。但し、データディレクトリ用エリアの場合は50以外、データディクショナリ用エリアの場合は8以外である場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57988-E

ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の最大割当量が初期割当量よりも大きくないことを検知しました。エリア名= AA エリアの用途= BB セグメントサイズ= CC ページ長= DD ファイル名= EE 初期割当量= FF 最大割当量= GG ユティリティ名= HH

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

セグメントサイズ：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズ

ページ長：回復しようとしたファイルのジャーナル中のページ長（単位：バイト）

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

初期割当量：回復しようとしたファイルのジャーナル中の初期割当量の値（単位：セグメント）
ユティリティが xodarrrm の場合は現在割当量

最大割当量：回復しようとしたファイルのジャーナル中の最大割当量の値（単位：セグメント）

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd：ARADD

xodarrrm：ARRMV

xodfladd：FLADD

xodbrcons：BRCNS

■要因

ジャーナル中の最大割当量が初期割当量以下の場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57989-E

ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中のセグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超えていることを検知しました。エリア名= AA エリアの用途= BB セグメントサイズ= CC ファイル名= DD 初期割当量= EE ユティリティ名= FF

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

セグメントサイズ：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのセグメントサイズ

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

初期割当量：

回復中のファイルのジャーナル中の初期割当量の値（単位：セグメント）

ユティリティが xodarrrm の場合は現在割当量

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd : ARADD

xodarm : ARRMV

xodfladd : FLADD

xodbrcons : BRCNS

■要因

ジャーナル中のセグメントサイズと初期割当量を掛けた値が最大値を超えている場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57990-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中の 1 エリア内のファイル数の不正を検知しました。エリア名 = AA エリアの用途 = BB ファイル数 = CC ファイル名 = DD ユティリティ名 = EE

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

ファイル数：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリア内のファイル数（単位：個）

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd : ARADD

xodarm : ARRMV

xodfladd : FLADD

xodbrcons : BRCNS

■要因

ジャーナル中の 1 エリア内の回復対象のファイルの数が 16 個を超えている場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57991-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のエリア番号の不正を検知しました。エリア名 = AA エリア番号 = BB エリアの用途 = CC ファイル名 = DD ユティリティ名 = EE

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリア番号：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア番号

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd : ARADD

xodarm : ARRMV

xodfladd : FLADD

xodbrcons : BRCNS

■要因

回復するファイルのエリアのエリア番号が3~3,200の範囲外である場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57992-E

ファイル追加/削除の回復処理中にジャーナル中の構成変更ユティリティのオペレーションコード不正を検知しました。エリア名= AA エリアの用途= BB ファイル名= CC ユティリティのオペレーションコード= DD

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

ユティリティのオペレーションコード：ユティリティの不正なオペレーションコード

■要因

ジャーナル中のファイルを追加したコマンドのオペレーションコードが不正である場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57993-E

追加したファイルの回復処理中にジャーナル中の追加したファイルのあるエリアの用途不正を検知しました。エリア名= XX エリアの用途= XX ファイル名= XX

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

■要因

ファイル追加ジャーナルを使って回復中にファイル追加したファイルのあるエリアのエリア用途不正を検知しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57994-E

追加したファイルの回復処理中にジャーナル中の追加したエリアの用途不正を検知しました。エリア名= AA エリアの用途= BB ファイル名= CC

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名

エリアの用途：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアの用途

ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名

■要因

エリア追加ジャーナルを用いて回復中にエリア追加したエリアの用途不正を検知した場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57995-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のファイル情報のアイキャッチャ名が不正であることを検知しました。エリア名= AA ファイル名= BB アイキャッチャ名= CC ユティリティ名= DD

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名
ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名
アイキャッチャ名：ジャーナル中のファイル情報の不正なアイキャッチャ名
ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd：ARADD

xodarm：ARRMV

xodfladd：FLADD

xodbrcons：BRCNS

■要因

ジャーナル中のファイル情報のアイキャッチャ名が SAFJ でない場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57996-E

ファイル追加／削除の回復処理中にジャーナル中のエリア情報のアイキャッチャ名が不正であることを検知しました。エリア名= AA ファイル名= BB アイキャッチャ名= CC したユティリティ名= DD

エリア名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のエリアのエリア名
ファイル名：回復しようとしたファイルのジャーナル中のファイル名
アイキャッチャ名：ジャーナル中のファイル情報の不正なアイキャッチャ名
ユティリティ名：

ジャーナルを取得したユティリティ

xodaradd：ARADD

xodarm：ARRMV

xodfladd：FLADD

xodbrcons：BRCNS

■要因

ジャーナル中のエリア情報のアイキャッチャ名が SAAJ でない場合に出力します。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO57997-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば再実行してください。[データベースへのエリアの追加] ユティリティ, 又は xodaradd コマンドで指定した構成変更パラメタファイル中に複数の area パラメタを指定している場合は, Object Server システムディレクトリのファイル xodresult 中に出力された KFXO57001-I メッセージを参照して, どのエリアの処理までが完了しているかを確認してください。xodbrcons コマンドでパラメタファイル中に複数の area パラメタを指定している場合は, xodresult 中に出力された KFXO57030-I メッセージを参照して, どのエリアの処置までが完了しているかを確認してください。

KFXO57999-E

構成変更ユティリティが異常を検知しました。理由コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード: アボートした要因, 又は何らかの異常

ファイル名: アボートしたファイル名

場所: ファイル中の行番号

■要因

データベースの構成を変更するユティリティで内部矛盾を検知したため, アボートしました。

■対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO58006-E

スキーマ情報表示ユティリティが異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによってスキーマ情報表示ユティリティが異常終了したときに出力されます。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後, 再実行してください。

KFXO58100-I

ロールバック処理を行ないました。

■要因

ロールバック処理を完了したときに出力されます。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーに対処した後, 再実行してください。

KFXO58101-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード: XX 詳細エラー番号: XX

エラーコード: 接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号: 接続時に発生した詳細エラー番号

■要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58102-E

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58104-E

コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：コミット処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58105-E

ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：ロールバック処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58106-E

同時に実行できない他のユーティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できない他のユーティリティが実行中のため、ユーティリティが実行できません。

■対処

同時に実行できない他のユーティリティの終了を待って、再実行してください。

KFXO58107-E

OMS が起動されていません。

■要因

Object Server が起動されていないため、コマンドが実行できませんでした。

■対処

Object Server が起動されていない場合は、Object Server を起動して、再実行してください。

KFXO58108-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

各処理の終了メッセージによって、どこまで処理が完了しているか確認した後で、必要であれば再実行してください。

KFXO58205-I

定義しているスキーマ数は XX 件です。

■要因

定義しているスキーマ名取得に成功した場合に出力されます。

KFXO58206-I

定義しているスキーマはありません。

■要因

定義しているスキーマが存在しない場合に出力されます。

KFXO58300-E

領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ：XX

確保しようとした領域の大きさ：確保に失敗した領域の大きさ（単位：バイト）

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再実行してください。

KFXO58403-E

スキーマ情報取得中にロック取得が失敗しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：スキーマ情報取得中に発生した詳細エラー番号

■要因

スキーマ情報取得中にロック取得が失敗しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58404-E

スキーマ情報取得中に入出力エラーが発生しました。詳細エラー番号：XX

詳細エラー番号：スキーマ情報取得中に発生した詳細エラー番号

■要因

スキーマ情報取得中に入出力エラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO58405-E

スキーマ情報取得中に回復不可能なエラーが発生しました。エラーコード：XX 詳細エラー番号：YY

エラーコード：スキーマ情報取得中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：スキーマ情報取得中に発生した詳細エラー番号

■要因

スキーマ情報取得中に回復不可能なエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO59000-E

ユティリティ実行中ダイアログ出力用スレッドの生成に失敗したため、ユティリティを実行できません。エラーコード：XX

エラーコード：システムコール CreateThread()のエラーコード

■要因

エラーコードで示す原因で、ユティリティ実行中ダイアログ出力用スレッドの生成に失敗したため、ユティリティを実行できません。

■対処

エラーコードに出力されている CreateThread()関数のエラーコードの対応方法に従い、対策してください。

エラーコード	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません
3	システムは指定されたパスを見つけることができません
4	システムがファイルをオープンできません
5	アクセスは拒否されました
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません

エラーコード	要因
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください

KFXO59001-E

ユティリティ実行中ダイアログ出力用スレッドの閉塞に失敗したため、ユティリティを実行できません。エラーコード：XX

エラーコード：システムコール CreateHandle()のエラーコード

■要因

エラーコードで示す原因で、ユティリティ実行中ダイアログ出力用スレッドの閉塞に失敗したため、ユティリティを実行できません。

■対処

エラーコードに出力されている CloseHandle()関数のエラーコードの対応方法に従い、対策してください。

エラーコード	要因
2	システムは指定されたファイルを見つけることができません
3	システムは指定されたパスを見つけることができません
4	システムがファイルをオープンできません
5	アクセスは拒否されました
8	利用可能な格納域が不足しているため、このコマンドを処理できません
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください

KFXO59002-E

イベントログ出力処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX メッセージ番号= XX

エラーコード：イベントログ出力処理中に発生したエラーコード

メッセージ番号：出力しようとしたメッセージのメッセージ番号

■要因

エラーコードに示す原因で、イベントログ出力処理中にエラーが発生しました。

■対処

次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

エラーコード	対処
-21004	メモリ不足が発生したため、スワップファイルサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させてください
その他	このメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

KFXO59010-E

ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX エラーコード= XX 付加情報= XX ファイル名= XX 発生場所= XX

エリア名：ディクショナリのエリア名

エリア番号：ディクショナリのエリアの番号

ページ ID：エラーが発生したページのページ ID

エラーコード：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

付加情報：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの付加情報

ファイル名：エラーを発生したファイル名

発生場所：エラーを発生したファイルの場所

■要因

ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。

■対処

エラーコードからエラーの要因を取り除き、再度実行してください。次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

エラーコード	内容	対処
164	ディクショナリの内容不正（ファイル定義なし）です	バックアップからディクショナリエリアを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したディクショナリエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）を、バックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユーティリティ（xodbreog）を使用して OID インデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユーティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください
115	ディクショナリの内容不正(タイプなし)です	同上
その他	ディクショナリの内容不正です	同上

KFXO59012-E

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、ディクショナリの不正を検知しました。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID= XX 付加情報= XX ファイル名= XX 発生場所= XX

エリア名：ディクショナリのエリア名

エリア番号：ディクショナリのエリア番号

ページ ID：エラーが発生したページのページ ID

付加情報：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーの付加情報

ファイル名：エラーを発生したファイル名称

発生場所：エラーを発生したファイルの個所

■要因

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、ディクショナリの不正を検知しました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。また、このメッセージ出力後、コアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。

KFXO59013-I

ファイル名 = XX

ファイル名：このメッセージの前に出力されているメッセージに関連のあるファイル名

■要因

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。このメッセージは、ファイル名の表示であり、ほかのメッセージの付加メッセージとして出力されます。

KFXO59014-E

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのオープンに失敗しました。ファイル名 = XX エラーコード = XX

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名を示します。

エラーコード：システムコールの open() で発生したエラーコードを示します。

■要因

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルをオープンしようとしたとき、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59015-E

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのオープン時、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を越えたのでファイルをオープンできません。

■要因

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルをオープンしようとしたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を越えたのでオープンできませんでした。

■対処

再度実行してください。再度実行してもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59016-E

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名 = XX エラーコード = XX

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの lseek() からリターンしたエラーコード

■要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動をしようとしたとき、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行して下さい。

KFXO59017-E

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名= XX エラーコード= XX

ファイル名：読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：システムコールの read() からリターンしたのエラーコード

■要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルの読み込みをしようとしたとき、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59050-E

マスタディレクトリのファイルではありません。または、マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが正しく初期化されていません。ファイル名= XX

ファイル名：システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名

■要因

ユティリティ共通のディクショナリアクセスにおいて、システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイルがマスタディレクトリでないことを検知しました。又は、マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが初期化されていないか、初期化が正常終了していません。

■対処

このメッセージに続いて出力されるユティリティのメッセージに従ってください。

KFXO59070-E

ユティリティ共通のディクショナリアクセスでのマスタディレクトリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。エリア番号= XX ページ ID= XX オフセット= XX ブロック名称= XX

エリア番号：マスタディレクトリのエリア番号

ページ ID：不正な MACB が存在するページのページ ID

オフセット：不正な MACB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

■要因

マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。

■対処

次の手順でデータベースをバックアップから回復した後、再度実行してください。

1. バックアップからマスタディレクトリを回復してください。
2. その後、回復したマスタディレクトリと同期が取れるようにオブジェクトサーバ管理ファイル及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。
3. データベース再編成ユーティリティ（xodbreog）で OID インデクスを再作成してください。

KFXO59071-E

ユーティリティ共通のディクショナリアクセスでのディクショナリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報にディクショナリ用エリアのエリア情報がありません。エリア番号= XX ページID= XX オフセット= XX

エリア番号：マスタディレクトリのエリア番号

ページID：不正なMACBが存在するページのページID

オフセット：不正なMACBのページの先頭からのオフセット

■要因

マスタエリア制御情報にディクショナリ用エリアのエリア情報がありません。

■対処

次の手順でデータベースをバックアップから回復した後、再度実行してください。

1. バックアップからマスタディレクトリを回復してください。
2. 回復したマスタディレクトリと同期が取れるようにオブジェクトサーバ管理ファイル及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル（ユーザエリア、インデクスエリア）をバックアップから回復してください。
3. データベース再編成ユーティリティ（xodbreog）で OID インデクスを再作成してください。

KFXO59080-E

ユーティリティ共通のディクショナリアクセス処理中にロック取得が失敗しました。エリア名= XX 詳細エラー番号= XX

エリア名：ディクショナリのエリア名

詳細エラー番号：ロック取得時に発生した詳細エラー番号

■要因

ユーティリティ共通のディクショナリアクセス処理中にロック取得が失敗しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59099-E

ユーティリティ共通のディクショナリアクセス処理中に異常を検知しました。理由コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード：アボート、又は異常の理由コード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

ユーティリティ共通のディクショナリアクセス処理中に内部矛盾を検知したため、アボートしました。

■対処

このメッセージの内容及び、このメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルを保存してください。

KFXO59100-I

DB エリア再初期化ユティリティを開始します。

■要因

DB エリア再初期化ユティリティを開始したときに出力されます。

KFXO59101-I

DB エリア再初期化ユティリティが正常終了しました。

■要因

DB エリア再初期化ユティリティが正常終了したときに出力されます。連携するプログラムのデータの格納されていないユーザ用エリア及びインデクスが作成されていないインデクス用エリアの場合に出力されます。

KFXO59102-E

DB エリア再初期化ユティリティが異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって DB エリア再初期化ユティリティが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再度実行してください。

KFXO59103-I

DB エリア再初期化ユティリティが正常終了しました。このエリアのオブジェクトはすべて削除されています。データベースの整合性の確保のため、データベース全体を再編成して下さい。その後、連携するプログラムにより、オブジェクトの再登録や整合性確保を実行して下さい。エリア名 = XX

エリア名：ユーザ用エリア名

■要因

連携するプログラムのデータの格納されているユーザ用エリアの再初期化が正常終了しました。

■対処

再初期化によって、このエリアのオブジェクトはすべて削除されています。データベースの整合性の確保のため、データベース全体をデータベース再編成ユティリティ (xodbreog) を使用して再編成して下さい。その後、連携するプログラムで、オブジェクトの再登録や整合性確保を実行して下さい。

KFXO59104-I

DB エリア再初期化ユティリティが正常終了しました。このエリア内のインデクスはすべて削除され未作成状態になっています。インデクスを再作成するか、又はデータベース全体を再編成して下さい。エリア名 = XX

エリア名：インデクス用エリア名

■要因

インデクスの作成されているインデクス用エリアの再初期化が正常終了しました。

■対処

再初期化によって、このエリア内のインデクスはすべて削除され、未作成の状態になっています。データベース再編成ユーティリティ (xodbreog) のインデクス再作成機能を使用して、エリア名で示されたインデクスエリアのインデクスを再作成してください。又は、データベース全体を再編成してください。

KFXO59109-I

ファイル名 = XX

ファイル名：このメッセージの前に出力されているメッセージに関連のあるファイル名

■要因

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。このメッセージは、ファイル名の表示であり、ほかのメッセージの付加メッセージとして出力されます。

KFXO59120-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

引数が正しく指定されていません。

■対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59121-I

使用方法：xodarnt -n エリア名 [-i 割当量]

■要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59124-E

エリア名の長さが定義範囲を超えています。エリア名 = XX 最小値 = XX 最大値 = XX

エリア名：定義範囲を超えたエリア名

最小値：エリア名の長さ（単位：バイト）の最小値

最大値：エリア名の長さ（単位：バイト）の最大値

■要因

指定したエリア名称の長さが有効範囲を超えています。

■対処

エリア名の長さを定義範囲内に指定し直して、再度実行してください。

KFXO59125-E

指定した割当量の値が不正な値です。

■要因

指定した割当量の値に半角数字[0-9]以外の値を指定しています。

■対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59126-E

指定した割当量の値が指定すべき範囲を超えています。最小値 = XX 最大値 = XX

最小値：指定できる割当量（単位：セグメント）の最小値

最大値：指定できる割当量（単位：セグメント）の最大値

■要因

指定した割当量の値は 1 以上 524288 以下の値を指定しなければなりません。

■対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59127-E

指定したエリアはシステム内に定義されていません。エリア名 = XX

エリア名：指定したエリア名

■要因

指定したエリア名はシステム内に定義されていません。

■対処

システム内に定義されているエリア名を指定して、再度実行してください。

KFXO59130-E

システム共通定義解析処理でエラーが発生しました。

■要因

システム共通定義解析処理でエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従って原因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59131-E

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

■要因

システム共通定義にマスタディレクトリ指定がないため、処理を続行できません。

■対処

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を追加した後で、再度実行してください。

KFXO59132-E

システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたファイル名は、マスタディレクトリのファイル名ではありません。または、マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが正しく初期化されていません。

■要因

システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたファイル名は、マスタディレクトリのファイル名ではありません。又は、マスタディレクトリの内容が不正か、マスタディレクトリが初期化されていないか、或いは初期化が正常終了していません。このメッセージに続いてシステム共通定義の dbm_master パラメタに指定されたマスタディレクトリのファイル名が出力されます。

■対処

システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名の定義 (dbm_master) を確認し、正しいファイル名を定義して再度実行してください。マスタディレクトリが不正な場合 (例えば、ほかのファイルの内容を誤って上書きしてしまったり、ファイルシステムの異常でファイルが不正になったりした場合)、バックアップから回復した後、再度実行してください。初期化されていない/初期化が完了していない場合は、データベースをデータベース初期化ユーティリティで初期化してください。

KFXO59140-E

セグメントサイズと割当量を掛けた値が最大値を超えています。エリア名= XX セグメントサイズ= XX 割当量= XX 最大値= XX

エリア名：指定したエリア名

セグメントサイズ：エリアのセグメントサイズ

割当量：指定した割当量

最大値：セグメントサイズと割当量を掛けた場合の最大値

■要因

セグメントサイズと割当量を掛けた値が最大値を超えています。

■対処

割当量を見直して、再度実行してください。

KFXO59141-E

ファイルのサイズが最大値を超えます。エリア名= XX ファイル名= XX セグメントサイズ= XX 割当量= XX 最大割当量= XX ファイルサイズ= XX 最大値= XX

エリア名：指定したエリア名

ファイル名：ファイルサイズが最大値を超えるファイル名

セグメントサイズ：エリアのセグメントサイズ

割当量：指定した割当量

最大割当量：常に 0 を表示

ファイルサイズ：エリアのセグメントサイズと割当量、及び最大割当量から計算されたファイルサイズ (単位：キロバイト)

最大値：ファイルサイズの最大値 (単位：キロバイト)

■要因

エリアのセグメントサイズとファイルの割当量及び最大割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えています。ファイルサイズの計算式は、マニュアルの付録の「ファイル容量の計算式」を参照してください。

■対処

割当量を見直して、再度実行してください。

KFXO59142-E

指定したエリア中のすべてのファイルの実体が存在し、それらのファイルのサイズが0以外なので、再初期化不要な正常なエリアであると判断しました。エリア名= XX

エリア名：指定したエリア名

■要因

指定したエリア中のすべてのファイルが存在し、それらのファイルのサイズが0以外です。

■対処

誤ったエリアを指定した場合はエリア名を見直して、再度実行してください。エリア名の指定が正しい場合は、そのエリア中のどれかのファイルを削除又は移動して、再度実行してください。

KFXO59143-E

指定できない用途のエリアが指定されています。エリア名= XX 用途= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

■要因

指定したエリアには、指定できない用途のエリアが指定されています。

■対処

ユーザ用又はインデクス用のエリアを指定して、再度実行してください。

KFXO59160-E

領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ= XX

確保しようとした領域の大きさ：確保に失敗した領域の大きさ（単位：バイト）

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO59161-E

再初期化エリアのファイルのオープンに失敗しました。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX エラーコード= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：オープンに失敗したファイル名

エラーコード：システムコールの open() で返されたエラーコード

■要因

再初期化エリアのファイルをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59162-E

再初期化エリアのファイルのオープン時、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでファイルをオープンできません。

■要因

再初期化エリアのファイルをオープンしようとしたますが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでオープンできませんでした。

■対処

再度実行してください。それでもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59163-E

再初期化エリアのファイルのファイルポインタの移動に失敗しました。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX エラーコード= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイル名

エラーコード：システムコールの lseek() で返されたエラーコード

■要因

再初期化エリアのファイルのファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59164-E

再初期化エリアのファイルの読み込みに失敗しました。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX ページ番号= XX エラーコード= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：読み込みに失敗したファイル名

ページ番号：ページ番号

エラーコード：システムコールの read() で返されたエラーコード

■要因

再初期化エリアのファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59165-E

再初期化エリアのファイルの書き込みに失敗しました。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX エラーコード= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：書き込みに失敗したファイル名

エラーコード：システムコールの write() で返されたエラーコード

■要因

再初期化エリアのファイルに書き込みをしようとした時、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59166-E

再初期化エリアのファイルの書き込みに失敗しました。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：書き込みに失敗したファイル名

■要因

再初期化エリアのファイルに書き込みをしようとした時、write が残っている領域、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。

■対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO59172-E

再初期化エリアのファイルの読み込みで、読み込みできたサイズと、ページ長とが一致していません。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX ページ番号= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：読み込めたサイズとページ長とが一致しないファイル名

ページ番号：ページ番号

■要因

実際に read() したサイズと、ページのサイズが一致していません。

KFXO59175-E

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのオープンに失敗しました。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX エラーコード= XX

エリア名：指定したエリア名（用途がマスタディレクトリの場合、エリア名が表示されない場合があります）

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：オープンに失敗したファイル名

エラーコード：システムコールの open() で返されたエラーコード

■要因

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルをオープンしようとした時、システムコールの open() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。エラーの発生したエリアがマスタディレクトリの場合 (表示された用途が MASTER の場合)、システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名が正しいか (データベース初期化ユーティリティでマスタディレクトリを作成するときに、このファイル名を指定したかどうか)、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中にあるかどうかを確認してから、再度実行してください。

KFXO59176-E

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのオープン時、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでファイルをオープンできません。

■要因

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルをオープンしようとしたましたが、1 プロセスでオープンできるファイルの最大数を超えたのでオープンできませんでした。

■対処

再度実行してください。それでもエラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59177-E

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動に失敗しました。エリア名 = XX
用途 = XX ファイル名 = XX エラーコード = XX

エリア名：指定したエリア名 (用途がマスタディレクトリの場合、エリア名が表示されない場合があります)

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイル名

エラーコード：システムコールの lseek() で返されたエラーコード

■要因

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルのファイルポインタの移動をしようとした時、システムコールの lseek() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59178-E

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルの読み込みに失敗しました。エリア名 = XX 用途 = XX
ファイル名 = XX ページ番号 = XX エラーコード = XX

エリア名：指定したエリア名 (用途がマスタディレクトリの場合、エリア名が表示されない場合があります)

用途：指定したエリアの用途

ファイル名：読み込みに失敗したファイル名

ページ番号：ページ番号

エラーコード：システムコールの read() で返されたエラーコード

■要因

マスタディレクトリ、又はディクショナリファイルの読み込みをしようとした時、システムコールの read() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59179-E

マスタディレクトリ, 又はディクショナリファイルの読み込みで, 読み込みできたサイズと, ページ長とが一致していません。エリア名= XX 用途= XX ファイル名= XX ページ番号= XX

エリア名: 指定したエリア名 (用途がマスタディレクトリの場合, エリア名が表示されない場合があります)

用途: 指定したエリアの用途

ファイル名: 読み込んだサイズとページ長とが一致していないファイル名

ページ番号: ページ番号

■要因

実際に read()したサイズと, ページのサイズが一致していません。

■対処

バックアップからエラーの発生したエリアを回復した後, 再度実行してください。その後, マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して, 回復したエリアと同期が取れるように, オブジェクトサーバ管理ファイル, 及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル (ユーザエリア, インデクスエリア) をバックアップから回復してください。そして, データベース再編成ユティリティ (xodbreog) を使用して OID インデクスを再作成してください。その後, データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59181-W

処理結果ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名= XX エラーコード= XX

ファイル名: オープンに失敗したファイル名

エラーコード: システムコールの open() で返されたエラーコード

■要因

処理結果ファイルをオープンしようとした時, システムコールの open() でエラーが発生しましたが, 処理を続行します。

■対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は, エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き, 再度実行してください。

KFXO59182-W

処理結果ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名= XX エラーコード= XX

ファイル名: 書き込みに失敗したファイル名

エラーコード: システムコールの write() で返されたエラーコード

■要因

処理結果ファイルに書き込みをしようとした時, システムコールの write() でエラーが発生しましたが, 処理を続行します。

■対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59183-W

処理結果ファイルの書き込み中に容量不足となりました。ファイル名= XX

ファイル名：書き込みに失敗したファイル名

■要因

処理結果ファイルの出力先に十分な空き領域がないため、要求分を書き込めませんでした。或いは、ユーザ限界(ulimit)の設定値、又は記憶媒体の物理的な最大容量より多い書き込み要求をしたため、要求分を書き込めませんでした。処理は続行されます、このメッセージ出力以降は、処理結果ファイルへの処理結果の出力は行われません。

■対処

処理結果ファイルを正しく出力したい場合は、不要なファイルを削除し、再度実行してください。

KFXO59190-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード：システムコールの time() で返されたエラーコード

■要因

システムコールの time() の引数が不正であるためエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再度実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO59200-E

ディクショナリ用エリアの先頭物理エリア名の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX オフセット= XX ブロック名称= XX

エリア名：マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号

ページ ID：不正な MACB があるページのページ ID

オフセット：不正な MACB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：不正なブロック名称 (先頭 4 バイト)

■要因

マスタエリア制御情報のブロック名称が MACB ではありません。

■対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ (xodbreog) を使用して OID インデ

クスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59201-E

タイプ情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称が MFCB ではありません。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX オフセット = XX ブロック名称= XX

エリア名：マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号

ページ ID：不正な MFCB があるページのページ ID

オフセット：不正な MFCB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

■要因

マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称が MFCB ではありません。

■対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ(xodbreog)を使用して OID インデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59202-E

インデクス情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称が MFCB ではありません。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX オフセット= XX ブロック名称= XX

エリア名：マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号

ページ ID：不正な MFCB があるページのページ ID

オフセット：不正な MFCB のページの先頭からのオフセット

ブロック名称：不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

■要因

マスタディレクトリ使用状態管理情報のブロック名称が MFCB ではありません。

■対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ(xodbreog)を使用して OID インデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59203-I

既存ファイルから現在割当量、及び最大割当量の情報の取得処理において、スレイブディレクトリの不正を検知しました。物理エリア情報のブロック名称が DSMB ではありません。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID= XX オフセット= XX ブロック名称= XX

エリア名：指定したエリア名
エリア番号：指定したエリアの番号
ページ ID：不正な DSMB があるページのページ ID
オフセット：不正な DSMB のページの先頭からのオフセット
ブロック名称：不正なブロック名称（先頭 4 バイト）

■要因

物理エリア情報のブロック名称が DSMB ではありません。

KFXO59204-W

既存ファイルから現在割当量、及び最大割当量の情報の取得処理において、エラーが発生しました。ファイルの割当量を XX、最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名= XX

割当量：割当量（指定値、又は 1）（単位：セグメント）
エリア名：指定したエリア名

■要因

既存ファイルから現在割当量、及び最大割当量の情報の取得処理で、エラーが発生しましたが、処理は続行されます。

■対処

割当量が 1 になった場合、割当量の変更が必要であれば、再構成ユーティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。また、最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユーティリティ (xodflalt) を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59205-E

インデクス管理情報 (ARIM) のエントリ番号取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。MICB 中の ARIM のエントリ番号が 1~2000 ではありません。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID= XX オフセット= XX インデクス ID= XX ARIM のエントリ番号= XX

エリア名：マスタディレクトリのエリア名
エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号
ページ ID：不正な MICB があるページのページ ID
オフセット：不正な MICB のページの先頭からのオフセット
インデクス ID：不正な MICB のインデクス ID
ARIM のエントリ番号：MICB 中の ARIM のエントリ番号

■要因

MICB 中の ARIM のエントリ番号が 1~2000 ではありません。

■対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップ

から回復してください。そして、データベース再編成ユーティリティ(xodbreog)を使用して OID インデックスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユーティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59206-E

ディクショナリ用エリアの先頭物理エリア名の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報にディクショナリ用エリアのエリア情報がありません。エリア名= XX エリア番号= XX ページID= XX オフセット= XX

エリア名：マスタディレクトリのエリア名
 エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号
 ページID：不正な MACB があるページのページID
 オフセット：不正な MACB のページの先頭からのオフセット

■要因

マスタエリア制御情報のブロック名称がMACBではありません。

■対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユーティリティ(xodbreog)を使用してOIDインデックスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユーティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59207-E

マスタディレクトリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報のブロック名称がMACBではありません。エリア番号= XX ページID= XX オフセット= XX ブロック名称= XX

エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号
 ページID：不正な MACB があるページのページID
 オフセット：不正な MACB のページの先頭からのオフセット
 ブロック名称：不正なブロック名称(先頭4バイト)

■要因

マスタエリア制御情報のブロック名称がMACBではありません。

■対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユーティリティ(xodbreog)を使用してOIDインデックスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユーティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージ、又は KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。

KFXO59208-E

マスタディレクトリ用エリアのエリア情報の取得処理において、マスタディレクトリの不正を検知しました。マスタエリア制御情報にマスタディレクトリ用エリアのエリア情報がありません。エリア番号= XX ページID= XX オフセット= XX

エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号
ページID：不正な MACB があるページのページID
オフセット：不正な MACB のページの先頭からのオフセット

■要因

マスタエリア制御情報のブロック名称がMACBではありません。

■対処

バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したマスタディレクトリと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ(xodbreog)を使用してOIDインデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力されるKFXO59103-Iメッセージ、又はKFXO59104-Iメッセージの指示に従ってください。

KFXO59209-W

既存ファイルの物理エリア情報から取得した現在割当量の値が、範囲外である不正を検知しました。ファイルの割当量をXXとして処理を続行します。エリア名= XX 用途= XX 現在割当量= XX

割当量：変更後の割当量（指定値、又は1）（単位：セグメント）
エリア名：指定したエリア名
用途：指定したエリアの用途
現在割当量：既存のファイルの物理エリア情報から取得した不正な現在割当量（単位：セグメント）

■要因

物理エリア情報中の現在割当量が1～524288の範囲外である場合に出力されます。

■対処

割当量が1になった場合、割当量の変更が必要であれば、再構成ユティリティ(xodbrcons)のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59210-W

既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量の値が、範囲外である不正を検知しました。ファイルの最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名= XX 用途= XX 最大割当量= XX

エリア名：指定したエリア名
用途：指定したエリアの用途
最大割当量：既存のファイルの物理エリア情報から取得した不正な最大割当量（単位：セグメント）

■要因

物理エリア情報中の最大割当量が0を除く2～524288の範囲外である場合に出力されます。

■対処

最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユティリティ(xodflalt)を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59211-E

ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズの値が範囲外である不正を検知しました。エリア名 = XX 用途 = XX セグメントサイズ = XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

セグメントサイズ：不正なセグメントサイズ

■要因

セグメントサイズが 1~16000 の範囲外である場合に出力されます。

■対処

バックアップからディクショナリエリアを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したディクショナリエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ(xodbreog)を使用してOIDインデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力されるKFXO59103-Iメッセージ、又はKFXO59104-Iメッセージの指示に従ってください。

KFXO59212-W

ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズと既存ファイルの物理エリア情報から取得した現在割当量を掛けた値が、最大値を超えている不正を検知しました。ファイルの割当量を XX として処理を続行します。エリア名 = XX 用途 = XX セグメントサイズ = XX 現在割当量 = XX 最大値 = XX

割当量：変更後の割当量（指定値、又は 1）（単位：セグメント）

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

セグメントサイズ：ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズ

現在割当量：既存のファイルの物理エリア情報から取得した現在割当量（単位：セグメント）

最大値：セグメントサイズと現在割当量を掛けた場合の最大値

■要因

セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。

■対処

割当量が 1 になった場合、割当量の変更が必要であれば、再構成ユティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59213-W

ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズと既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量を掛けた値が、最大値を超えている不正を検知しました。ファイルの最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名 = XX 用途 = XX セグメントサイズ = XX 最大割当量 = XX 最大値 = XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

セグメントサイズ：ディクショナリのエリア情報から取得したセグメントサイズ

最大割当量：既存のファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量（単位：セグメント）

最大値：セグメントサイズと最大割当量を掛けた場合の最大値

■要因

セグメントサイズと最大割当量を掛けた値が最大値を超えています。

■対処

最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユティリティ (xodflalt) を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59214-W

既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量の値が、割当量より大きくないためファイルの最大割当量を指定なしとして処理を続行します。エリア名= XX 用途= XX 最大割当量= XX 割当量= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

最大割当量：既存のファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量 (単位：セグメント)

割当量：エリアの割当量 (単位：セグメント)

■要因

既存ファイルの物理エリア情報から取得した最大割当量の値が、割当量より大きくない場合に出力されます。

■対処

最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユティリティ (xodflalt) を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59215-W

既存ファイルから情報を参照し、割当量及び最大割当量を求めましたが、ファイルサイズが最大値を超えます。ファイルの割当量を XX として処理を続行します。エリア名= XX 用途= XX セグメントサイズ= XX 割当量= XX 最大割当量= XX ファイルサイズ= XX 最大値= XX

割当量：変更後の割当量 (指定値) (単位：セグメント)

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

セグメントサイズ：エリアのセグメントサイズ

割当量：既存のファイルの情報を参照して求められた割当量 (単位：セグメント)

最大割当量：既存のファイルの情報を参照して求められた最大割当量 (単位：セグメント)

ファイルサイズ：エリアのセグメントサイズと割当量及び最大割当量から計算されたファイルサイズ (単位：キロバイト)

最大値：ファイルサイズの最大値 (単位：キロバイト)

■要因

エリアのセグメントサイズとファイルの割当量及び最大割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えている場合に出力されます。ファイルサイズの計算式は、マニュアルの付録の「ファイル容量の計算式」を参照してください。

■対処

割当量が 1 になった場合、割当量の変更が必要であれば、再構成ユティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59216-W

インデクス管理情報 (ARIM) の復旧処理において、マスタディレクトリの不正 (MICB 中の ARIM のエントリ番号が重複) を検知しました。当該インデクスを復旧しないで、処理を続行します。エリア名= XX エリア番号= XX ページ ID = XX オフセット= XX インデクス ID = XX ARIM のエントリ番号= XX

エリア名：マスタディレクトリのエリア名

エリア番号：マスタディレクトリのエリアの番号

ページ ID：不正な MICB があるページのページ ID

オフセット：不正な MICB のページの先頭からのオフセット

インデクス ID：不正な MICB のインデクス ID (復旧しなかったインデクスのインデクス ID)

ARIM のエントリ番号：MICB 中の ARIM のエントリ番号

■要因

MICB 中の ARIM のエントリ番号が重複しています。

KFXO59217-W

既存ファイルから情報を参照し、割当量及び最大割当量を求めましたが、ファイルサイズが最大値を超えます。ファイルの割当量を 1 として処理を続行します。エリア名= XX 用途= XX セグメントサイズ= XX 割当量= XX 最大割当量= XX ファイルサイズ= XX 最大値= XX

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

セグメントサイズ：エリアのセグメントサイズ

割当量：既存のファイルの情報を参照して求められた割当量 (単位：セグメント)

最大割当量：既存のファイルの情報を参照して求められた最大割当量 (単位：セグメント)

ファイルサイズ：エリアのセグメントサイズと割当量から計算されたファイルサイズ (単位：キロバイト)

最大値：ファイルサイズの最大値 (単位：キロバイト)

■要因

エリアのセグメントサイズとファイルの割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えている場合に出力されます。ファイルサイズの計算式は、マニュアルの付録の「ファイル容量の計算式」を参照してください。

■対処

割当量の変更が必要であれば、再構成ユーティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。

KFXO59218-W

ファイルの割当量を XX, 最大割当量を指定なしとして処理を続行しましたが、ファイルサイズが最大値を超えます。ファイルの割当量を 1 として処理を続行します。エリア名= XX 用途= XX セグメントサイズ= XX ファイルサイズ= XX 最大値= XX

割当量：割当量 (指定値, 又は 1) (単位：セグメント)

エリア名：指定したエリア名

用途：指定したエリアの用途

セグメントサイズ：エリアのセグメントサイズ

ファイルサイズ：エリアのセグメントサイズと割当量から計算されたファイルサイズ (単位：キロバイト)

最大値：ファイルサイズの最大値 (単位：キロバイト)

■要因

既存ファイルから現在割当量、及び最大割当量の情報の取得処理で、エラーが発生し、エリアのセグメントサイズと仮定したファイルの割当量及び最大割当量から計算されるファイルサイズが、最大値を超えている場合に出力されます。ファイルサイズの計算式は、マニュアルの付録の「ファイル容量の計算式」を参照してください。

■対処

割当量の変更が必要であれば、再構成ユーティリティ (xodbrcons) のエリア再作成機能を使用して、エリア名で示されたエリアを再作成してください。また、最大割当量の指定が必要であれば、構成変更ユーティリティ (xodflalt) を使用して、最大割当量を指定してください。

KFXO59220-E

スレイブディレクトリ中のタイプ管理情報 (ARTM) の更新処理でエラーが発生しました。エリア名 = XX 詳細エラー番号 = XX タイプ ID = XX

エリア名：スレイブディレクトリ更新処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：スレイブディレクトリ更新中に発生した詳細エラー番号

タイプ ID：マスタディレクトリから求めた不正なタイプ ID

■要因

スレイブディレクトリ中のタイプ管理情報 (ARTM) の更新処理でエラーが発生しました。

■対処

次に、詳細エラー番号に対する対処を示します。

詳細エラー番号	内容	対処
59220	マスタディレクトリから求めたタイプ ID 中のセグメント番号、エントリ番号のどちらかが範囲外です。	バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア、インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユーティリティ (xodbreog) を使用して OID インデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユーティリティ正常終了時に出力される KFXO59103-I メッセージの指示に従ってください。バックアップからマスタディレクトリを回復しても、このエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59221-E

スレイブディレクトリ中のインデクス管理情報 (ARIM) の更新処理でエラーが発生しました。エリア名 = XX 詳細エラー番号 = XX インデクス ID = XX

エリア名：スレイブディレクトリ更新処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：スレイブディレクトリ更新中に発生した詳細エラー番号

インデクス ID：マスタディレクトリから求めた不正なインデクス ID

■要因

スレイブディレクトリ中のインデクス管理情報 (ARIM) の更新処理でエラーが発生しました。

■対処

次に、詳細エラー番号に対する対処を示します。

詳細エラー番号	内容	対処
59221	マスタディレクトリから求めたインデクス ID 中のセグメント番号, エントリ番号のどちらかが範囲外です。	バックアップからマスタディレクトリを回復した後、再度実行してください。その後、マニュアルの「データベースの運用」の章の「データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する」を参照して、回復したエリアと同期が取れるように、オブジェクトサーバ管理ファイル、及び再初期化エリア以外の連携プログラム用データ格納ファイル(ユーザエリア, インデクスエリア)をバックアップから回復してください。そして、データベース再編成ユティリティ(xodbreog)を使用して OID インデクスを再作成してください。その後、データベース再初期化ユティリティ正常終了時に出力される KFXO59104-I メッセージの指示に従ってください。バックアップからマスタディレクトリを回復しても、このエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KFXO59397-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば再度実行してください。

KFXO59399-E

DB エリア再初期化ユティリティが異常を検知しました。理由コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード：何の要因でアボートしたか、何の異常かを示すコード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

DB エリア再初期化ユティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

■対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときは、コアファイルを保存してください。

KFXO59400-I

DB エリア情報表示ユティリティを開始します。

■要因

DB エリア情報表示ユティリティを開始したときに出力されます。

KFXO59401-I

DB エリア情報表示ユーティリティが正常終了しました。

■要因

DB エリア情報表示ユーティリティが正常終了したときに出力されます。

KFXO59402-E

DB エリア情報表示ユーティリティが異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーによって DB エリア情報表示ユーティリティが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再度実行してください。

KFXO59410-E

OMS が起動されていません。

■要因

OMS が起動されていないため、DB エリア情報表示ユーティリティが実行できませんでした。

■対処

OMS が起動されていない場合は、OMS を起動して、再度実行してください。

KFXO59411-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：接続時に発生した詳細エラー番号

■要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO59412-E

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO59413-E

コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：コミット処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59414-E

ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：ロールバック処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59415-E

同時に実行できない他のユティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できないほかのユティリティが実行中のため、DB エリア情報表示ユティリティが実行できません。

■対処

同時に実行できないほかのユティリティの終了を待って、再度実行してください。

KFXO59416-E

OMS の実行モードが回復ユティリティ実行モードのため、実行できません。

■要因

Object Server を回復ユティリティ実行モードで起動しているため、DB エリア情報表示ユティリティが実行できません。

■対処

アプリケーション実行モード、又はユティリティ実行モードで Object Server を再起動して、再度実行してください。

KFXO59420-E

エリア数の取得処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：エリア数の取得処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：エリア数の取得処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

エリア数の取得処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59421-E

エリア情報の参照処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：エリア情報の参照処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：エリア情報の参照処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

エリア情報の参照処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59430-E

ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。エリア名= XX エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エリア名：ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名

エラーコード：ディクショナリ検索処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ディクショナリ検索処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ検索処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59431-E

ディクショナリ検索処理中にロック取得が失敗しました。エリア名= XX 詳細エラー番号= XX

エリア名：ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：ロック取得時に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ検索処理中にロック取得が失敗しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59432-E

ディクショナリ検索処理中にオブジェクトキャッシュが満杯になりました。エリア名= XX 詳細エラー番号= XX

エリア名：ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：ディクショナリ検索処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ検索処理中にオブジェクトキャッシュが満杯になりました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO59433-E

ディクショナリ検索処理中に入出力エラーが発生しました。エリア名 = XX 詳細エラー番号 = XX

エリア名：ディクショナリ検索処理中のエリアのエリア名

詳細エラー番号：ディクショナリ検索処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ディクショナリ検索処理中に入出力エラーが発生しました。

■対処

このメッセージの前に出力されたエラーメッセージ及び詳細エラー番号を参照して、障害を取り除き、再実行してください。

KFXO59440-E

ディクショナリから取得したエリア番号は常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか、常駐エリア情報エントリ中のエリア番号と不一致です。エリア名 = XX エリア番号 = XX

エリア名：ディクショナリから取得したエリア名

エリア番号：ディクショナリから取得した不正なエリア番号

■要因

ディクショナリから取得したエリア番号は、常駐エリア情報中の最大エリア番号を超えているか、常駐エリア情報エントリ中のエリア番号と不一致です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59441-E

常駐エリア情報と常駐ファイル情報の矛盾を検知しました。ファイル番号が常駐ファイル情報エントリ中のファイル番号と不一致です。エリア名 = XX エリア番号 = XX ファイル番号 = XX

エリア名：ディクショナリ、又は常駐エリア情報から取得したエリア名

エリア番号：ディクショナリから取得したエリア番号

ファイル番号：常駐ファイル情報エントリ中のファイル番号と不一致のファイル番号

■要因

常駐エリア情報と常駐ファイル情報の矛盾を検知しました。ファイル番号が常駐ファイル情報エントリ中のファイル番号と不一致です。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59450-E

領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ = XX

確保しようとした領域の大きさ：確保に失敗した領域の大きさ（単位：バイト）

■要因

スワップエリア不足のため、処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

スワップエリアサイズを拡大したり、不要なプロセスを終了させて、再度実行してください。

KFXO59497-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー又は中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば再度実行してください。

KFXO59499-E

DB エリア情報表示ユーティリティが異常を検知しました。理由コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード：アボート又は異常の理由コード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

DB エリア情報表示ユーティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

■対処

このメッセージの内容、及びこのメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

KFXO59500-I

ディクショナリ情報表示ユーティリティを開始します。

■要因

ディクショナリ情報表示ユーティリティを開始したときに出力されます。

KFXO59501-I

ディクショナリ情報表示ユーティリティが正常終了しました。

■要因

ディクショナリ情報表示ユーティリティが正常終了したときに出力されます。

KFXO59502-E

ディクショナリ情報表示ユーティリティが異常終了しました。

■要因

ディクショナリ情報表示ユーティリティが異常終了したときに出力されます。

■対処

エラー要因を取り除き、再度実行してください。

KFXO59503-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

xoddicls ユティリティの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59504-I

使用方法：xoddicls [-d ディクショナリエリアのファイル名] [-a]

■要因

xoddicls ユティリティの引数を正しく指定していません。このメッセージは、KFXO59003-E とともに出力されます。

■対処

正しい値を指定して、再度実行してください。

KFXO59505-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

システムコールの time() の引数が不正であるためエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除いて、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO59506-I

オンラインとして動作します。

■要因

オンラインユティリティとして動作したときに出力されます。

KFXO59507-I

オフラインとして動作します。

■要因

オフラインユティリティとして動作したときに出力されます。

KFXO59510-E

システム共通定義解析処理でエラーが発生しました。

■要因

システム共通定義解析処理でエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い原因を取り除き、再実行してください。

KFXO59511-E

パラメタファイル解析用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

パラメタファイル解析用の作業領域確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

KFXO59512-E

ファイル名の長さが定義範囲を超えています。オプション= XX 最小値= XX 最大値= XX

オプション：定義範囲を超えたファイル名が指定されているオプション名

最小値：ファイル名の長さの最小値

最大値：ファイル名の長さの最大値

■要因

定義ファイルに定義したファイル名の長さが定義範囲を超えています。

■対処

ファイル名の長さを定義範囲内に定義し直し、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

KFXO59513-E

ディクショナリエリアのファイル名 (-d オプション) の指定がなく、環境変数 XODCONFPATH も設定されていません。

■要因

ディクショナリエリアのファイル名(-d オプション)の指定がなく、環境変数 XODCONFPATH も設定されていないため、処理が続行できません。

■対処

ディクショナリエリアのファイル名(-d オプション)を指定するか、環境変数 XODCONFPATH を設定して、再実行してください。

KFXO59514-E

システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名が不正です。

■要因

システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名が不正なため、処理が続行できません。

■対処

システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を確認し、正しいファイル名を指定して再起動してください。

KFXO59515-E

マスタディレクトリからディクショナリのファイル名の取得に失敗しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

マスタディレクトリからディクショナリのファイル名の取得に失敗したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名がシステム共通定義の dbm_master パラメタに指定された内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、システム共通定義の dbm_master パラメタで指定されたマスタディレクトリのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59070	マスタディレクトリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59516-E

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

■要因

システム共通定義にマスタディレクトリ指定がないため、処理を続行できません。

■対処

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を追加した後で、再実行してください。

KFXO59529-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー又は中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

KFXO59530-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：接続時に発生した詳細エラー番号

■要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO59531-E

同時に実行できない他のユーティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できないほかのユーティリティが実行中のため、ディクショナリ情報表示ユーティリティが実行できません

■対処

同時に実行できないほかのユーティリティの終了を待って、再度実行してください。

KFXO59532-E

OMS の実行モードが回復ユーティリティ実行モードのため、実行できません。

■要因

Object Server を回復ユーティリティ実行モードで起動しているため、ディクショナリ情報表示ユーティリティが実行できません。

■対処

必要であれば、データベースの回復ユーティリティを実行後、アプリケーション実行モードか、ユーティリティ実行モードで Object Server を再起動後、又は OMS を停止後、再度実行してください。

KFXO59533-E

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：トランザクション開始中に発生した詳細エラー番号

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO59534-E

コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード= XX 詳細エラー番号= XX

エラーコード：コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：コミット処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO59550-E

ディクショナリアクセスの準備処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

ディクショナリアクセスの準備処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が-d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59551-E

-d オプションで指定されたディクショナリエリアのファイル名は、ディクショナリエリアの先頭ファイルではありません。

■要因

-d オプションで指定されたディクショナリエリアのファイル名は、ディクショナリエリアの先頭ファイルでないため、処理が続行できません。

■対処

-d オプションで指定されたディクショナリエリアのファイル名を確認し、正しいファイル名を指定して再起動してください。

KFXO59552-E

システム情報取得処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

システム情報取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が-d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59080	ロックエラー	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59553-E

スキーマ情報取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX, 種別: XX

エラーコード: エラーの要因

種別:

USER: ユーザ用

DICTIONARY: ディクショナリ用

■要因

スキーマ情報取得の処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が -d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59554-W

スキーマが定義されていません。

■要因

スキーマが定義されていない。

KFXO59555-E

ディクショナリ情報取得用バッファの確保時に、メモリ不足が発生しました。要求サイズ= XX

要求サイズ：確保しようとした領域長（単位：バイト）

■要因

ディクショナリ情報取得用バッファの確保時に、メモリ不足が発生したため、処理が続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

KFXO59556-E

エリア情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

エリア情報一覧取得の処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が-d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59557-E

タイプ情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX 種別= XX

エラーコード：エラーの要因

種別：

USER：ユーザ用

DICTIONARY：ディクショナリ用

■要因

タイプ情報一覧取得の処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が-d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59558-E

ユニバーサル関連情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

ユニバーサル関連情報一覧取得の処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が-d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59559-E

インデクス情報一覧取得の処理で、エラーが発生しました。エラーコード= XX

エラーコード：エラーの要因

■要因

インデクス情報一覧取得の処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコードからエラーの原因を取り除き、ディクショナリ情報表示ユーティリティを再起動してください。

エラーコード	内容	対処
59010	入出力エラー	直前に KFXO59014-E メッセージが出力され、ファイル名が-d オプションに指定した内容で、エラーコードが「2」となっている場合は、-d オプションに指定したディクショナリエリアのファイル名が正しいか、及びパス中に指定されたディレクトリがシステム中に存在するかも確認してください。それ以外の場合は、直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
59020	ディクショナリの内容不正	直前に出力されているメッセージに従い、対策してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO59599-E

ディクショナリ情報表示の処理で異常を検知しました。理由コード= XX 詳細コード= XX ファイル名= XX 場所= XX

理由コード：アボート，又は異常の理由コード

詳細コード：詳細コード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

ディクショナリ情報表示の処理で内部矛盾を検知したため、アボートしました。

■対処

このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

(11) KFXO60000-KFXO69999

KFXO60004-I

Database Extension Check Failed(Signal Interruption Received.)

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンド又は端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば再実行してください。

KFXO60008-E

Database Extension Check Failed(Transaction Initiation Error. errcode=XX errno=XX)

errcode：トランザクション開始処理中に発生したエラーのエラーコード

errno：トランザクション開始処理中に発生したエラーの詳細エラー番号

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO60010-E

Database Extension Check Failed(File Write Error. file=XX function=XX code=XX)

file：書き込みに失敗したファイルのファイル名

function：エラーが発生したシステムコール名

code：システムコールの write() で発生したエラーのエラーコード

■要因

ファイルに書き込もうとした時に、システムコールの write() でエラーが発生しました。

■対処

エラーコードが示すエラーの要因を取り除いて、再実行してください。

KFXO60011-E

Database Extension Check Failed(Disk Space Not Enough. file=XX function=XX)

file：書き込みに失敗したファイルのファイル名

function：エラーが発生したシステムコール名

■要因

ファイルに書き込もうとした時に、記録媒体の物理的な最大容量より多いバイトの書き込み要求をしたため、要求バイト数分書き込めませんでした。システムコールの ulimit() を使用して、プロセスで書き込めるファイルの限界を設定している場合、その限界より多いバイトの書き込み要求をした時もこのエラーになります。

■対処

不要なファイルを削除して、空き領域を作成してください。

KFXO60012-E

Database Extension Check Failed(Get Database Use Information From Directory Failed. errno=XX)

errno：ディレクトリからのデータベース使用状況の取得中に発生したエラーの詳細エラー番号

■要因

ディレクトリからのデータベース使用状況の取得に失敗しました。

■対処

次に詳細エラー番号に対する対処を示します。

詳細エラー番号	対処
41002, 41300, 41301	このメッセージを記録してシステム管理者に連絡してください。このメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。
41016, 41307	以前に出力しているメッセージに従ってください。
上記以外	詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO60013-E

Database Extension Check Failed(Get File Extension Time And Database Reorganization Utility Execution Time From Directory Failed. errno=XX)

errno：ディレクトリからのファイル増分時刻・データベース再編成ユーティリティ実行時刻の取得中に発生したエラーの詳細エラー番号

■要因

ディレクトリからのファイル増分時刻・データベース再編成ユーティリティ実行時刻の取得に失敗しました。

■対処

次に詳細エラー番号に対する対処を示します。

詳細エラー番号	対処
41300, 41301	このメッセージを記録してシステム管理者に連絡してください。どのメッセージ出力後にコアファイルが出力された場合は、コアファイルを保存してください。
上記以外	詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応するユーザの処置に従ってください。

KFXO60014-E

Database Extension Check Failed(Commitment Error. errcode=XX errno=XX)

errcode：コミット処理中に発生したエラーのエラーコード

errno：コミット処理中に発生したエラーの詳細エラー番号

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO60015-E

Database Extension Check Failed(Rollback Error. errcode=XX errno=XX)

errcode：ロールバック処理中に発生したエラーのエラーコード

errno：ロールバック処理中に発生したエラーの詳細エラー番号

■要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、ユーザの処置に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO60999-E

Database Extension Check Failed(Abnormality Detected. reasoncode=XX filename=XX location=XX)

reasoncode：エラーの原因を示す内部コード

filename：アボートしたファイル名

location：ファイル中の行番号

■要因

DB 増分契機チェックユーティリティで内部矛盾を検出しました。

■対処

このメッセージの内容及びこのメッセージ以前に出力されているエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている時はコアファイルを保存してください。

KFXO61000-I

DB エリア使用状況表示ユーティリティを開始します。

■要因

DB エリア使用状況表示ユーティリティの xodbuse コマンドを開始したときに出力されます。

KFXO61001-I

DB エリア使用状況表示ユーティリティが正常終了しました。

■要因

DB エリア使用状況表示ユーティリティの xodbuse コマンドが正常終了したときに出力されます。

KFXO61002-E

DB エリア使用状況表示ユーティリティが異常終了しました。

■要因

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーにより、DB エリア使用状況表示ユーティリティの xodbuse コマンドが異常終了しました。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO61003-W

定義されていないエリアが指定されたため、エリアの使用状況を表示できません。エリア名称=XX

エリア名称：定義されていないエリア名称

■要因

システム内に定義されていないエリア名称が -a でオプションで指定されています。

■対処

システム内に定義されているエリア名を指定して、再実行してください。

KFXO61008-I

オンラインとして動作します。

■要因

オンラインユティリティとして動作したときに出力されます。

KFXO61009-I

オフラインとして動作します。

■要因

オフラインユティリティとして動作したときに出力されます。

KFXO61010-E

領域の確保に失敗しました。確保しようとした領域の大きさ=XX

確保しようとした領域の大きさ：確保に失敗した領域の大きさ(単位：バイト)

■要因

処理を実行するための作業領域の確保ができませんでした。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO61011-E

システム共通定義解析処理でエラーが発生しました。

■要因

システム共通定義解析処理でエラーが発生したため、処理を続行できません。

■対処

直前に出力されているメッセージに従い原因を取り除き、再実行してください。

KFXO61013-E

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の指定がありません。

■要因

システム共通定義にマスタディレクトリ指定がないため、処理を続行できません。

■対処

システム共通定義ファイルにマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を追加した後で、再実行してください。

KFXO61014-E

現在時刻の取得に失敗しました。エラーコード=XX

エラーコード：システムコールの time() で発生したエラーコード

■要因

システムコールの time()の引数が不正であるため、エラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。繰り返し発生する場合はシステム管理者に連絡してください。

KFXO61015-E

指定された全てのエリアの使用状況を表示できませんでした。

■要因

-a オプションで指定した全てのエリアの使用状況を表示できませんでした。

■対処

このエラーメッセージ以前に出力されたエラーを対処した後、再実行してください。

KFXO61016-E

タイプ/インデクス名の取得処理でエラーが発生しました。タイプ/インデクス ID=XX エラーコード=YY 詳細エラー番号=ZZ

タイプ/インデクス ID：タイプ/インデクス名を取得しようとしたタイプ/インデクス ID

エラーコード：タイプ/インデクス名の取得処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：タイプ/インデクス名の取得処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

タイプ/インデクス名の取得処理で、エラーが発生したため、処理が続行できません。

■対処

エラーコード及び詳細エラー番号からエラーの要因を取り除き、再実行してください。次にエラーコードに対するオペレータの処置を示します。

エラーコード	内容	対処
32500	データベースの入出力エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対処してください。
32520	ロック取得エラー	直前に出力されているメッセージに従い、対処してください。
その他	—	このメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO61017-E

マスタディレクトリのファイル名の指定がなく、環境変数 XODCONFPATH も設定されていません。

■要因

マスタディレクトリのファイル名の指定がなく、環境変数 XODCONFPATH も設定されていません。

■対処

マスタディレクトリのファイル名を指定するか、環境変数 XODCONFPATH を設定して、再実行してください。

KFXO61018-W

指定されたエリアの使用状況は表示できません。エリア名称=XX

エリア名称：使用状況を表示できないエリア名称

■要因

-a オプションで使用状況を表示できないエリア名称が指定されています。

KFXO61019-E

マスタディレクトリが不正です。

■要因

-m オプションで指定したマスタディレクトリのファイル名、又はシステム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名(dbm_master)が不正に定義されています。

■対処

-m オプションで指定したマスタディレクトリのファイル名を確認し、正しいファイル名を指定して再実行してください。

又は、システム共通定義ファイルのマスタディレクトリのファイル名の定義(dbm_master)を確認し、正しいファイル名を定義して再実行してください。

KFXO61050-E

OMS との接続時にエラーが発生しました。エラーコード=XX 詳細エラー番号=YY

エラーコード：接続時に発生したエラーコード

詳細エラー番号：接続時発生した詳細エラー番号

■要因

OMS との接続時にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応する「ユーザの処置」に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61051-E

同時に実行できない他のユーティリティが実行中です。

■要因

同時に実行できない他のユーティリティが実行中のため、DB エリア使用状況表示ユーティリティが実行できません。

■対処

同時に実行できない他のユーティリティが終了した後、再実行してください。

KFXO61052-E

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。エラーコード=XX 詳細エラー番号=YY

エラーコード：トランザクション開始処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：トランザクション開始処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

トランザクション開始処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応する「ユーザの処置」に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61053-E

コミット処理中にエラーが発生しました。エラーコード=XX 詳細エラー番号=YY

エラーコード：コミット処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：コミット処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

コミット処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応する「ユーザの処置」に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61054-E

ロールバック処理中にエラーが発生しました。エラーコード=XX 詳細エラー番号=YY

エラーコード：ロールバック処理中に発生したエラーコード

詳細エラー番号：ロールバック処理中に発生した詳細エラー番号

■要因

ロールバック処理中にエラーが発生しました。

■対処

詳細コードを参照して、メッセージ中の詳細エラー番号に対応する「ユーザの処置」に従ってください。また、必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

KFXO61055-E

OMS の実行モードが回復ユーティリティ実行モードのため、実行できません。

■要因

Object Server を回復ユーティリティ実行モードで起動しているため、DB エリア使用状況表示ユーティリティが実行できません。

■対処

アプリケーション実行モード、又はユーティリティ実行モードで Object Server を再起動して、再度実行してください。

KFXO61060-E

ディレクトリから取得したファイル名がエリア情報常駐テーブルに定義されていません。ファイル名=XX

ファイル名：エリア情報常駐テーブルに定義されていないファイルのファイル名

■要因

ディレクトリから取得したファイル名で示すファイルが、エリア情報常駐テーブルに定義されていません。構成変更ユティリティ(xodaradd)により、エリア情報常駐テーブルで管理できる個数以上のエリアが追加されたときに出力されます。

■対処

Object Server を再起動して、再実行してください。

KFXO61061-E

ファイルのオープンに失敗しました。ファイル名=XX エラーコード=YY

ファイル名：オープンに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：fopen()関数で発生したエラーコード

■要因

ファイルをオープンしようとしたとき、fopen()関数でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO61062-E

ファイルポインタの移動に失敗しました。ファイル名=XX エラーコード=YY

ファイル名：ファイルポインタの移動に失敗したファイルのファイル名

エラーコード：fseek()関数からリターンしたときのエラーコード

■要因

ファイルポインタを移動しようとしたとき、fseek()関数でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO61063-E

ファイルの読み込みに失敗しました。ファイル名=XX エラーコード=YY

ファイル名：読み込みに失敗したファイルのファイル名

エラーコード：fread()関数からリターンしたときのエラーコード

■要因

ファイルを読み込もうとしたとき、fread()関数でエラーが発生しました。

■対処

エラーコード (errno) からエラーの要因を取り除き、再実行してください。

KFXO61100-E

引数の指定に誤りがあります。

■要因

引数が正しく指定されていません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO61101-I

使用方法：xodbuse [-m マスタディレクトリファイル名称] [-a エリア名称[,エリア名称,...]]

■要因

コマンドの引数を正しく指定していません。

■対処

正しい値を指定して、再実行してください。

KFXO61102-E

パラメタ解析用作業領域の確保時に、メモリ不足が発生しました。

■要因

パラメタ解析用作業領域を確保する時、メモリ不足が発生したため、処理を続行できません。

■対処

不要なプロセスを終了させるか、システムのメモリサイズを増やしてから、再実行してください。

KFXO61103-E

ファイル名称の長さが有効範囲を超えています。オプション=AA ファイル名称=BB 最小値=CC 最大値=DD

オプション：有効範囲を超えたファイル名称が指定されているオプション名

ファイル名称：有効範囲を超えているファイル名称

最小値：ファイル名称の長さ(単位：バイト)の最小値

最大値：ファイル名称の長さ(単位：バイト)の最大値

■要因

指定したファイル名称の長さが有効範囲を超えています。

■対処

ファイル名称の長さを有効範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO61104-E

エリア名称の長さが有効範囲を超えています。オプション=AA エリア名称=BB 最小値=CC 最大値=DD

オプション：有効範囲を超えたエリア名称が指定されているオプション名

ファイル名称：有効範囲を超えているエリア名称

最小値：エリア名称の長さ(単位：バイト)の最小値

最大値：エリア名称の長さ(単位：バイト)の最大値

■要因

指定したエリア名称の長さが有効範囲を超えています。

■対処

エリア名称の長さを有効範囲内に指定し直して、再実行してください。

KFXO61997-I

シグナル割り込みを受け付けました。処理を中止します。

■要因

割り込みキー及び中断キーが押されたか、kill コマンドまたは端末のハングアップによるシグナルを受け付けました。

■対処

必要があれば再実行してください。

KFXO61999-E

DB エリア使用状況表示ユーティリティが異常を検知しました。理由コード=XX ファイル名=YY 場所=ZZ

理由コード：何の理由でアボートしたかを示すコード

ファイル名：アボートしたファイル名

場所：ファイル中の行番号

■要因

DB エリア使用状況表示ユーティリティで内部矛盾を検知したため、アボートしました。

■対処

このメッセージの内容及び、このメッセージ以前に出力されたエラーメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されているときはコアファイルを保存してください。

(12) KFXO70000-KFXO79999

KFXO71001-E

XX がみつかりません。

XX：ユーティリティコマンドの実行ライブラリ

■要因

ユーティリティコマンドの実行ライブラリ (exe ファイル) がみつかりません。環境変数 PATH に設定されていない可能性があります。

■対処

システム管理者に連絡してください。

KFXO71003-E

ユーティリティの起動に失敗しました。理由コード：XX

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

ユーティリティの起動に失敗しました。

■対処

理由コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO71004-E

スレッドの生成に失敗しました。理由コード：XX

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

スレッドの生成に失敗しました。

■対処

理由コードを記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO71012-E

整数を入力してください。

■要因

入力された値が数値ではありません。半角数字(0~9)を使った文字列を入力してください。小数点は入力できません。

■対処

半角数字(0~9)を使った文字列を入力してください。

KFXO71013-E

XX から YY 迄の整数を入力してください。

■要因

入力された値が指定可能な範囲内ではありません。

■対処

最小値から最大値の範囲内で入力してください。

KFXO71014-E

XX から YY 文字以内で入力してください。

■要因

入力された文字数が指定可能な範囲内ではありません。

■対処

最小文字数から最大文字数の範囲内で入力してください。

KFXO71015-E

使用可能な文字を入力してください。

■要因

使用できない文字列を指定しています。文字列として空白を使用するときはダブルクォーテーション ("") で囲んでください。

■対処

使用可能な文字を入力してください。

KFXO71016-E

ファイルが存在しません。

■要因

入力されたファイルが存在しません。

■対処

存在するファイル名を入力してください。

KFXO71017-E

ファイルが存在します。

■要因

入力されたファイルは既に存在しています。

■対処

存在しないファイル名を入力してください。

KFXO71020-E

パラメタの合計長が 256 バイトを超えています。

■要因

ダイアログのファイル名一覧に指定したファイル数が多すぎます (ダイアログのファイル名一覧に指定したファイル名の長さの総和が上限を超えました)。又は、ダイアログに指定された文字数が多すぎます。

■対処

ファイル名一覧に指定したファイル名の長さの総和が上限を超えないように、指定するファイル数を減らしてください。

ファイル名一覧が存在しないダイアログでこのエラーになった場合は、ダイアログに指定した文字数を減らしてください。

KFXO71101-E

環境情報取得処理の開始に失敗しました。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

環境情報取得処理の開始に失敗しました。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71102-E

環境情報数の取得に失敗しました。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

環境情報数の取得に失敗しました。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71103-E

環境情報取得処理の終了に失敗しました。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32のエラーコード

■要因

環境情報取得処理の終了に失敗しました。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71104-E

メモリ不足が発生しました。

■要因

メモリが不足しています。

■対処

スワップエリアサイズを含めたメモリ所容量を見直してください。

KFXO71105-E

Object Server 管理ツールでエラーが発生しました。ファイル名：XX 場所：YY

場所：エラーが発生した場所

■要因

Object Server 管理ツールでエラーが発生しました。

■対処

ファイル名と場所を記録し、システム管理者に連絡してください。

KFXO71106-E

環境情報に誤りがあります。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32のエラーコード

■要因

環境情報に誤りがあります。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71107-E

環境情報の入力処理に失敗しました。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32のエラーコード

■要因

環境情報の入力処理に失敗しました。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71108-E

管理情報の更新処理に失敗しました。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

環境情報の更新処理に失敗しました。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71109-E

環境情報更新処理の開始に失敗しました。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

環境情報更新処理の開始に失敗しました。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71110-E

環境情報更新処理の終了に失敗しました。詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

環境情報更新処理の終了に失敗しました。Object Server の環境情報が破壊されています。

■対処

再インストールしてください。

KFXO71111-W

次回の GUI ダイアログの表示の為に、GUI ダイアログに指定された情報をシステム管理者用のレジストリに保存しようとしたのですが、書き込みが許可されていないため保存しませんでした。

当該 GUI の実行ユーザが Administrators グループに属しているか確認して下さい。当該 GUI の実行ユーザが Administrators グループに属している場合は、システム管理者用のレジストリが書き込み禁止になっていないか確認して下さい。

詳細情報：XX 理由コード：YY

詳細情報：レジストリのパス名

理由コード：Win32 のエラーコード

■要因

今回の GUI ダイアログの表示のために、GUI ダイアログに指定された情報をシステム管理者用のレジストリに保存しようとしたのですが、書き込みが許可されていないため保存しませんでした。

■対処

当該 GUI の実行ユーザが Administrators グループに属しているか確認してください。当該 GUI の実行ユーザが Administrators グループに属している場合は、システム管理者用のレジストリが書き込み禁止になっていないか又は、アクセス権の設定が正しいか確認してください。

(13) KFXO90000-KFXO90315

KFXO90000-I

Administrators グループ権限を持つユーザで実行してください

■要因

Administrators グループ権限を持たないユーザが実行した。

■対処

Administrators グループ権限を持つユーザで再実行する。

KFXO90001-I

起動できる環境が作成されていません

■要因

本プログラムが動作するためのディレクトリ、環境情報が作成されていない。
または、環境が壊れている。

■対処

Object Server または Hi-end Object Server を再インストールした後、再実行する。

KFXO90002-E

初期化に失敗しました

■要因

起動時の初期化処理が失敗した。

■対処

本メッセージの出力時に KAFXO9xxxx(xxxx=0000~9999)を出力するので、これを参照する。

KFXO90003-E

バージョン情報の取得に失敗しました

■要因

起動時に取得する Object Server のバージョン情報の取得に失敗した。

■対処

本メッセージの出力時に KAFXO9xxxx(xxxx=0000~9999)を出力するので、これを参照する。

KFXO90050-E

ポート番号登録に失敗しました

■要因

ポート番号の設定処理中に障害が発生した。

■対処

本メッセージの出力時に KAFXO9xxxx(xxxx=0000~9999)を出力するので、これを参照する。

KFXO90051-I

設定しました

■要因

ポート番号を設定した。

■対処

なし。

KFXO90052-I

プログラム名のポート番号が設定されていません

■要因

設定対象としてチェックしたプログラム名で示すプログラムのポート番号が指定されていない。

■対処

設定対象としてチェックしたプログラム名で示すプログラムのポート番号を設定した後、再実行する。

KFXO90053-I

プログラム名のポート番号が不正です ポート番号の設定範囲はです 5001~49999

■要因

設定対象としてチェックしたプログラム名で示すプログラムのポート番号に設定範囲外の値を指定している。

■対処

設定対象としてチェックしたプログラム名で示すプログラムのポート番号を設定範囲内の値に変更した後、再実行する。

KFXO90054-I

以下のプログラムのポート番号が重複しています 変更してください

・プログラム名

■要因

設定対象としてチェックしたプログラム名で示すプログラムのポート番号が、SERVICES ファイルに既に設定されている。

■対処

設定対象としてチェックしたプログラム名で示すプログラムのポート番号を変更するか、SERVICES ファイル中で重複したポート番号を変更した後、再実行する。

KFXO90055-I

通信設定ファイル(SERVICES)の内容が不正です 以下のプログラムの設定内容を確認してください

・プログラム名

■要因

プログラム名で示すプログラムのポート番号設定状況の妥当性チェックを行った結果、本来設定されているべきサービス名の一部が SERVICES ファイルに記述されていない。

■対処

プログラム名で示すプログラムが使用するべきサービス名、プロトコル名、ポート番号を SERVICES ファイルに設定するか、プログラム名で示すプログラムのエントリを SERVICES ファイルから全て削除した後、再実行する。

KFXO90070-I

指定されたパラメタは既に存在しますパラメタ名称を変更してください

■要因

データベース定義ファイルの作成を選択した時に指定するパラメタ名称が既に存在する。

■対処

パラメタ名称を変更した後、再実行する。

KFXO90071-I

存在しないパラメタを指定しています

■要因

データベース定義ファイルの削除またはシステム環境への登録を選択した時に指定するパラメタ名に存在しないパラメタ名を指定した。

■対処

パラメタ名称を変更した後、再実行する。

KFXO90072-I

パラメタ名称を選択してください

■要因

データベース定義ファイルの削除を選択した時にパラメタ名を選択していない。

■対処

パラメタ名を選択または入力した後、再実行する。

KFXO90073-I

パラメタ名称を入力してください

■要因

データベース定義ファイルの参照・更新を選択した時にパラメタ名を指定していない。

■対処

パラメタ名を選択または入力した後、再実行する。

KFXO90074-I

指定されたパラメタは存在しませんパラメタ名称を変更してください

■要因

データベース定義ファイルの参照・更新を選択した時に指定するパラメタ名に存在しないパラメタ名を指定した。

■対処

パラメタ名称を変更した後、再実行する。

KFXO90075-I

パラメタを作成しました

■要因

パラメタを作成した。

■対処

なし。

KFXO90076-E

パラメタの作成に失敗しました

■要因

パラメタの作成に失敗した。

■対処

本メッセージの出力時に KAFXO9xxxx(xxxx=0000~9999)を出力するので、これを参照する。

KFXO90077-E

パラメタの読み込みに失敗しました

■要因

データベース定義ファイルの参照・更新またはシステム環境への登録を選択した時に指定したパラメタ情報の読み込みに失敗した。

■対処

本メッセージの出力時に KAFXO9xxxx(xxxx=0000~9999)を出力するので、これを参照する。

KFXO90078-E

削除に失敗しました

■要因

データベース定義ファイルの削除を指定した時に指定したパラメタ情報の削除に失敗した。

■対処

本メッセージの出力時に KAFXO9xxxx(xxxx=0000~9999)を出力するので、これを参照する。

KFXO90079-I

削除しました

■要因

データベース定義ファイルの削除を指定した時に指定したパラメタ情報を削除した。

- 対処
なし。

KFXO90080-E

登録に失敗しました

- 要因
システム共通定義ファイルのシステム環境への登録が失敗した。
- 対処
本メッセージの出力時に KAFXO9xxxx(xxxx=0000~9999)を出力するので、これを参照する。

KFXO90081-I

登録しました

- 要因
システム共通定義ファイルをシステム環境へ登録した。
- 対処
なし。

KFXO90082-I

データを更新しました

- 要因
データベース定義ファイルを作成する際の情報を詳細設定ダイアログで指定した値に更新した。
- 対処
なし。

KFXO90083-I

削除しますか？

- 要因
データベース定義ファイルの削除を実行した。
- 対処
処理を続行する場合は「はい」を処理を中断する場合は「いいえ」を選択する。

KFXO90084-I

登録しますか？

- 要因
システム共通定義ファイルをシステム環境へ登録を実行した。
- 対処
処理を続行する場合は「はい」を処理を中断する場合は「いいえ」を選択する。

KFXO90085-I

指定されたパラメタは登録できません

■要因

UNIX 用に作成したシステム共通定義ファイルを Windows NT 上の Object Server に登録しようとした。

■対処

Windows NT 用に作成したシステム共通定義ファイルを指定する。

KFXO90100-I

フロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

データベース定義ファイルの作成、参照・更新時に指定するデータベース作成ディレクトリまたはアンロードディレクトリにフロッピーディスクやネットワークドライブを指定した。

■対処

ディレクトリを変更した後、再実行する。

KFXO90101-I

システム内の全ユーザ数を範囲で指定する場合は選択してください

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するシステム内の全ユーザ数の範囲指定が不正である。

■対処

範囲指定は、本ユーティリティで提供している数値以外には指定はできないので、本ユーティリティで提供している数値を選択する。

KFXO90102-I

このサーバに登録するユーザ数を範囲で指定する場合は選択してください

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するこのサーバに登録するユーザ数の範囲指定が不正である。

■対処

範囲指定は、本ユーティリティで提供している数値以外には指定はできないので、本ユーティリティで提供している数値を選択する。

KFXO90103-I

全組織数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログで指定する全組織数を指定していない。

■対処

全組織数を指定する。

KFXO90104-I

送信メール 1 通あたりの宛先数の平均が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログで指定する送信メール 1 通あたりの宛先数の平均を指定していない。

■対処

送信メール 1 通あたりの宛先数の平均を指定する。

KFXO90105-I

全マスタ掲示板数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログで指定する全マスタ掲示板数を指定していない。

■対処

全マスタ掲示板数を指定する。

KFXO90106-I

1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログで指定する 1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均を指定していない。

■対処

1 つのメールボックスが保持する受信メールの平均を指定する。

KFXO90107-I

1 人が 1 日に送信するメール数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログで指定する 1 人が 1 日に送信するメール数を指定していない。

■対処

1 人が 1 日に送信するメール数を指定する。

KFXO90108-I

電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの電子アドレス帳/メールで指定すべきディレクトリ名称が設定されていない。

■対処

ディレクトリ名称を設定する。

KFXO90109-I

電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称が不正です

■要因

詳細設定ダイアログの電子アドレス帳/メールで指定すべきディレクトリ名称が不正である。

■対処

ディレクトリ名称を正しく設定する。

KFXO90110-I

文書データベース数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき文書データベース数が設定されていない。

■対処

文書データベース数を設定する。

KFXO90111-I

全文書数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき全文書数が設定されていない。

■対処

全文書数を指定する。

KFXO90112-I

分類索引数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき分類索引数が設定されていない。

■対処

分類索引数を設定する。

KFXO90113-I

文書管理のディレクトリ名称が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべきディレクトリ名称が設定されていない。

■対処

文書管理のディレクトリ名称を設定する。

KFXO90114-I

文書管理のディレクトリ名称が不正です

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべきディレクトリ名称が不正である。

■対処

文書管理のディレクトリ名称を正しく設定する。

KFXO90115-I

電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

詳細設定ダイアログの電子アドレス帳/メールのディレクトリ指定で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名, ディレクトリ名を変更する。

KFXO90116-I

文書管理のディレクトリ名称にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理のディレクトリ指定で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名, ディレクトリ名を変更する。

KFXO90117-I 1

日あたりのワーク数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべき1日あたりのワーク数が設定されていない。

■対処

1日あたりのワーク数を設定する。

KFXO90118-I

ワーク処理日数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべきワーク処理日数が設定されていない。

■対処

ワーク処理日数を設定する。

KFXO90119-I

ワーク保存日数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべきワーク保存日数が設定されていない。

■対処

ワーク保存日数を設定する。

KFXO90120-I 1

ビジネスプロセスあたりの定義ノード数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべき1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数が設定されていない。

■対処

1ビジネスプロセスあたりの定義ノード数を設定する。

KFXO90121-I

ビジネスプロセス定義数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべきビジネスプロセス定義数が設定されていない。

■対処

ビジネスプロセス定義数を設定する。

KFXO90122-I

ワーク内のケース数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべきワーク内のケース数が設定されていない。

■対処

ワーク内のケース数を設定する。

KFXO90123-I

ケース内の文書数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべきケース内の文書数が設定されていない。

■対処

ケース内の文書数を設定する。

KFXO90124-I

ロール数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべきロール数が設定されていない。

■対処

ロール数を設定する。

KFXO90125-I

最大ログインユーザ数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで設定すべき最大ログインユーザ数が設定されていない。

■対処

最大ログインユーザ数を設定する。

KFXO90127-I

ワークフローのディレクトリ名称が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで指定すべきディレクトリ名称が設定されていない。

■対処

ワークフローのディレクトリ名称を設定する。

KFXO90128-I

ワークフローのディレクトリ名称が不正です

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで指定すべきディレクトリ名称が不正である。

■対処

ワークフローのディレクトリ名称を正しく設定する。

KFXO90129-I

ワークフローのディレクトリ名称にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローのディレクトリ指定で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名, ディレクトリ名を変更する。

KFXO90130-I

アンロードファイルのディレクトリ名称を入力してください

■要因

再編成または再構成パラメタ作成時に指定するディレクトリ名が設定されていない。

■対処

ディレクトリ名称を設定する。

KFXO90131-I

アンロードファイルのディレクトリ作成の指定が間違っています

■要因

再編成または再構成パラメタ作成時に指定するディレクトリ名称が不正である。

■対処

ディレクトリ名称を正しく設定する。

KFXO90132-I

アンロードファイルのディレクトリ名称にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

再編成または再構成パラメタ作成時に設定するディレクトリ指定で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名, ディレクトリ名を変更する。

KFXO90133-I

アンロードファイル名称に Object Server インストールディレクトリ下は指定できません

■要因

再編成または再構成パラメタ作成時に設定するディレクトリ指定で指定してはならない Object Server インストールディレクトリ下で指定しようとしていた。

■対処

Object Server インストールパス名を含まないディレクトリに変更する。

KFXO90150-I

システム内の全ユーザ数の最大値は 99999 です

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するシステム内の全ユーザ数が指定可能な最大値を超えた。

■対処

システム内の全ユーザ数を変更する。

KFXO90151-I

システム内の全ユーザ数の最小値は 1 です

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するシステム内の全ユーザ数が指定可能な最小値を超えた。

■対処

システム内の全ユーザ数を変更する。

KFXO90152-I

このサーバに登録するユーザ数の最大値は 5000 です

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するこのサーバに登録するユーザ数が指定可能な最大値を超えた。

■対処

このサーバに登録するユーザ数を変更する。

KFXO90153-I

このサーバに登録するユーザ数の最小値は 1 です

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するこのサーバに登録するユーザ数が指定可能な最小値を超えた。

■対処

このサーバに登録するユーザ数を変更する。

KFXO90154-I

メモリサイズの最大値は 2048 です

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するメモリサイズが指定可能な最大値を超えた。

■対処

メモリサイズを変更する。

KFXO90155-I

メモリサイズの最小値は 64 です

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するメモリサイズが指定可能な最小値を超えた。

■対処

メモリサイズを変更する。

KFXO90156-I

メモリサイズが指定されていません

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するメモリサイズが指定されていない。

■対処

メモリサイズを指定する。

KFXO90157-I

データベース作成ディレクトリの指定が間違っています

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するデータベース作成ディレクトリ名称が不正である。

■対処

ディレクトリ名称を正しく設定する。

KFXO90158-I

データベース名称が指定されていません

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するデータベース作成ディレクトリ名称が設定されていない。

■対処

ディレクトリ名称を設定する。

KFXO90159-I

システム内の全ユーザ数が指定されていません

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するシステム内の全ユーザ数が指定されていない。

■対処

システム内の全ユーザ数を設定する。

KFXO90160-I

このサーバに登録するユーザ数が指定されていません

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するこのサーバに登録するユーザ数が指定されていない。

■対処

このサーバに登録するユーザ数を設定する。

KFXO90161-I

データベース作成ディレクトリ名称にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

システム構成の設定ダイアログで設定するディレクトリ指定で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名、ディレクトリ名を変更する。

KFXO90162-I

システム内の全ユーザ数よりこのサーバに登録するユーザ数が多いです

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するこのサーバに登録するユーザ数が不正である。

■対処

システム内の全ユーザ数 > サーバに登録するユーザ数になるように設定する。

KFXO90163-I

1 ユーザあたりの同時アクセス文書数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき 1 ユーザあたりの同時アクセス文書数が設定されていない

■対処

1 ユーザあたりの同時アクセス文書数を設定する。

KFXO90164-I

1 つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき 1 つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が設定されていない。

■対処

1 つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値を設定する。

KFXO90165-I

1 つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値が設定されていない。

■対処

1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値を設定する。

KFXO90166-I

フォルダ数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべきフォルダ数が設定されていない。

■対処

フォルダ数を設定する。

KFXO90167-I

フォルダ数の設定範囲は2~1000000です

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべきフォルダ数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

2~1000000の範囲の値を設定する。

KFXO90168-I

サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの電子アドレス帳/メールで指定すべきサーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均が設定されていない。

■対処

サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均を設定する。

KFXO90169-I

データベース名称（スキーマ名称）に不正な文字または文字列が指定されています

■要因

システム構成の設定ダイアログで指定するデータベース名称（スキーマ名称）に不正な文字または文字列が指定されている。

■対処

指定可能な文字または文字列をデータベース名称（スキーマ名称）に指定する。

KFXO90170-W

データベース作成ディレクトリ長が145文字を超えていたため、145文字に補正しました

■要因

旧VRのシステム構成の設定ダイアログで指定したデータベース作成ディレクトリ長が145文字を超えていたため、本VRで指定可能なディレクトリ長に補正した。

■対処

必要ならば、再度データベース作成ディレクトリを指定する。

KFXO90171-W

プログラム毎の設定で指定したディレクトリ長が 145 文字を超えていたため、145 文字に補正しました

プログラム名：プログラム名・・・

■要因

旧 VR のプログラム毎に指定したデータベース作成ディレクトリ名のうち、プログラム名で示すプログラムで指定したデータベース作成ディレクトリ長が 145 文字を超えていたため、本 VR で指定可能なディレクトリ長に補正した。

■対処

必要ならば、再度データベース作成ディレクトリを指定する。

KFXO90172-I

クラス A のエージェント数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべきクラス A のエージェント数が設定されていない。

■対処

クラス A のエージェント数を設定する。

KFXO90173-I

クラス A のエージェント数の設定範囲は 1～32 です

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべきクラス A のエージェント数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～32 の範囲の値を設定する。

KFXO90174-I

クラス B のエージェント数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべきクラス B のエージェント数が設定されていない。

■対処

クラス B のエージェント数を設定する。

KFXO90175-I

クラス B のエージェント数の設定範囲は 1～32 です

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべきクラス B のエージェント数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～32 の範囲の値を設定する。

KFXO90176-I

クラス C のエージェント数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべきクラス C のエージェント数が設定されていない。

■対処

クラス C のエージェント数を設定する。

KFXO90177-I

クラス C のエージェント数の設定範囲は 1～32 です

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべきクラス C のエージェント数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～32 の範囲の値を設定する。

KFXO90178-I

接続する PP サーバ数の最大が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべき接続する PP サーバ数の最大が設定されていない。

■対処

接続する PP サーバ数の最大を設定する。

KFXO90179-I

接続する PP サーバ数の最大の設定範囲は 1～64 です

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントでサーバ指定すべき接続する PP サーバ数の最大の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～64 の範囲の値を設定する。

KFXO90180-I

ユーザが所属する組織の数が指定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべきユーザが所属する組織の数が設定されていない。

■対処

ユーザが所属する組織の数を指定する。

KFXO90181-I

ユーザが所属する組織の数の設定範囲は 1～9999 です

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべきユーザが所属する組織の数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～9999 の範囲の値を設定する。

KFXO90182-I

当該サーバに登録する施設数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの施設管理で指定すべき当該サーバに登録する施設数が設定されていない。

■対処

当該サーバに登録する施設数を設定する。

KFXO90183-I

施設に登録する組織の階層数の最大値が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべき施設に登録する組織の階層数の最大値が設定されていない。

■対処

施設に登録する組織の階層数の最大値を設定する。

KFXO90184-I

E-mail アドレスの平均長が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの電子アドレス帳／メールで指定すべき E-mail アドレスの平均長が設定されていない。

■対処

E-mail アドレスの平均長を設定する。

KFXO90185-I

同時に接続するユーザ数の最大が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのエージェントサーバで指定すべき同時に接続するユーザ数の最大が設定されていない。

■対処

同時に接続するユーザ数の最大を設定する。

KFXO90186-I

同時に接続するユーザ数の最大の設定範囲は 1～256 です

■要因

詳細設定ダイアログの同時に接続するユーザ数の最大の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～256 の範囲の値を設定する。

KFXO90187-I

全フォーム文書数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき全フォーム文書数が設定されていない。

■対処

全フォーム文書数を設定する。

KFXO90188-I

全フォーム文書数の設定範囲は 0～1000000 です

■要因

詳細設定ダイアログの全フォーム文書数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～1000000 の範囲の値を設定する。

KFXO90189-I

文書あたりに保持するバージョン数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき文書あたりに保持するバージョン数が設定されていない。

■対処

文書あたりに保持するバージョン数を設定する。

KFXO90190-I

文書あたりに保持するバージョン数の設定範囲は 0～99 です

■要因

詳細設定ダイアログの文書あたりに保持するバージョン数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～99 の範囲の値を設定する。

KFXO90191-I

分類、分類索引の総数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき分類、分類索引の総数が設定されていない。

■対処

分類、分類索引の総数を設定する。

KFXO90192-I

分類、分類索引の総数の設定範囲は 0~1000000 です

■要因

詳細設定ダイアログの分類、分類索引の総数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0~1000000 の範囲の値を設定する。

KFXO90193-I

フォーム文書データベース数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべきフォーム文書データベース数が設定されていない。

■対処

フォーム文書データベース数を設定する。

KFXO90194-I

フォーム文書データベース数の設定範囲は 0~5000 です

■要因

詳細設定ダイアログのフォーム文書データベース数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0~5000 の範囲の値を設定する。

KFXO90195-I

一般文書データベース数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき一般文書データベース数が設定されていない。

■対処

一般文書データベース数を設定する。

KFXO90196-I

一般文書データベース数の設定範囲は 1~5000 です

■要因

詳細設定ダイアログの一般文書データベース数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～5000 の範囲の値を設定する。

KFXO90197-I

配布文書グループ数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき配布文書グループ数が設定されていない。

■対処

配布文書グループ数を設定する。

KFXO90198-I

配布文書グループ数の設定範囲は 0～1500 です

■要因

詳細設定ダイアログの配布文書グループ数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～1500 の範囲の値を設定する。

KFXO90199-I

配布で取り込まれた文書の総数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき配布で取り込まれた文書の総数が設定されていない。

■対処

配布で取り込まれた文書の総数を設定する。

KFXO90200-I

配布で取り込まれた文書の総数の設定範囲は 0～1000000 です

■要因

詳細設定ダイアログの配布で取り込まれた文書の総数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～1000000 の範囲の値を設定する。

KFXO90201-I

全一般文書数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき全一般文書数（旧：全文書数（一般文書のみ））が設定されていない。

■対処

全一般文書数（旧：全文書数（一般文書のみ））を設定する。

KFXO90202-I

全一般文書数の設定範囲は 0~1000000 です

■要因

詳細設定ダイアログの全一般文書数（旧：全文書数（一般文書のみ））の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0~1000000 の範囲の値を設定する。

KFXO90203-I

サービス名:popcfg のポート番号が不正です。指定範囲は 106 または 5001~49999 です。

■要因

サービス名 popcfg のポート番号に指定範囲外の値を指定している。

■対処

サービス名 popcfg のポート番号に指定範囲内の値に変更した後、再度実行する。

KFXO90204-I

サービス名:pop3 のポート番号が不正です。指定範囲は 110 または 5001~49999 です。

■要因

サービス名 pop3 のポート番号に指定範囲外の値を指定している。

■対処

サービス名 pop3 のポート番号に指定範囲内の値に変更した後、再度実行する。

KFXO90204-I

1 ユーザあたりの同時接続セッション数が設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき 1 ユーザあたりの同時接続セッション数が設定されていない。

■対処

1 ユーザあたりの同時接続セッション数を設定する。

KFXO90205-I

1 ユーザあたりの同時接続セッション数の設定範囲は 1~5 です

■要因

詳細設定ダイアログの 1 ユーザあたりの同時接続セッション数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1~5 の範囲の値を設定する。

KFXO90206-I

キャッシュメモリサイズが設定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべきキャッシュメモリサイズが設定されていない。

■対処

キャッシュメモリサイズを設定する。

KFXO90207-I

キャッシュメモリサイズの設定範囲は 1～32 です

■要因

詳細設定ダイアログのキャッシュメモリサイズの設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～32 の範囲の値を設定する。

KFXO90208-I

サービス名:imap のポート番号が不正です。指定範囲は 143 または 5001～49999 です。

■要因

サービス名 imap のポート番号に指定範囲外の値を指定している。

■対処

サービス名 imap のポート番号に指定範囲内の値に変更した後、再度実行する。

KFXO90209-I

ワークフローデータベースへの同時アクセス数が設定されていません。

■要因

ワークフローデータベースへの同時アクセス数が設定されていない。

■対処

ワークフローデータベースへの同時アクセス数を設定する。

KFXO90210-I

ワークフローデータベースへの同時アクセス数の設定範囲は 1～32 です

■要因

ワークフローデータベースへの同時アクセス数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～4096 の範囲の値を設定する。

KFXO90211-I

セッション確立要求のデータベース同時アクセス数が設定されていません。

■要因

セッション確立要求のデータベース同時アクセス数が設定されていない。

■対処

セッション確立要求のデータベース同時アクセス数を設定する。

KFXO90212-I

セッション確立要求のデータベース同時アクセス数の設定範囲は 0～8 です

■要因

セッション確立要求のデータベース同時アクセス数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～8の範囲の値を設定する。

KFXO90213-I

案件一覧表示要求のデータベース同時アクセス数が設定されていません。

■要因

案件一覧表示要求のデータベース同時アクセス数が設定されていない。

■対処

案件一覧表示要求のデータベース同時アクセス数を設定する。

KFXO90214-I

案件一覧表示要求のデータベース同時アクセス数の設定範囲は 0～16 です

■要因

案件一覧表示要求のデータベース同時アクセス数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～16の範囲の値を設定する。

KFXO90215-I

マルチサーバの総サーバ数が設定されていません。

■要因

マルチサーバの総サーバ数が設定されていない。

■対処

マルチサーバの総サーバ数を設定する。

KFXO90216-I

マルチサーバの総サーバ数の設定範囲は 0～400 です

■要因

マルチサーバの総サーバ数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～400の範囲の値を設定する。

KFXO90217-I

管理者用最大ログインユーザ数が設定されていません。

■要因

管理者用最大ログインユーザ数が設定されていない。

■対処

管理者用最大ログインユーザ数を設定する。

KFXO90218-I

管理者用最大ログインユーザ数の設定範囲は 1～200 です

■要因

管理者用最大ログインユーザ数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～200 の範囲の値を設定する。

KFXO90219-I

同時ログインユーザ数が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき同時ログインユーザ数が設定されていない。

■対処

同時ログインユーザ数を設定する。

KFXO90220-I

同時ログインユーザ数の設定範囲は 1～256 です

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理指定で指定された同時ログインユーザ数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～256 の範囲の値を設定する。

KFXO90221-I

High-end Object Sever が自動的に選択されました

■要因

システム構成の設定ダイアログのプログラム選択で、文書管理及びワークフローをハイエンド文書及びハイエンドワークフローを選択したので、Object Server を High-end Object Server に切り替えました。

■対処

なし

KFXO90222-I

文書管理のエリア数が変わりました。

対処方法については、Groupmax 情報発信の再構成手順をご覧ください。

■要因

文書管理のパラメタ作成時、エリアの数に変更が発生しました。

■対処

Groupmax 情報発信の再構成手順をご覧ください

KFXO90224-I

簡易ジャーナルファイル名称が不正です

■要因

オプション設定ダイアログの簡易ジャーナルファイル名称で指定すべきファイルパス名が不正である。

■対処

簡易ジャーナルファイル名称を正しく設定する。

KFXO90225-I

簡易ジャーナルファイル名称にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

オプション設定ダイアログの簡易ジャーナルファイル名称で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名を変更する。

KFXO90226-I

簡易ジャーナルファイル名称に Object Server インストールディレクトリ下は指定できません

■要因

オプション設定ダイアログの簡易ジャーナルファイル名称で指定してはならない Object Server インストールディレクトリ下で指定しようとしていた。

■対処

Object Server インストールパス名を含まないディレクトリに変更する。

KFXO90227-I

簡易ジャーナルファイル名称に、実際に存在するファイルは指定できません

■要因

オプション設定ダイアログの簡易ジャーナルファイル名称で指定してはならない実際に存在するファイル名で指定しようとしていた。

■対処

存在しないファイル名を指定する。

KFXO90228-I

ステータスサービス定義の設定の個数が不正です。

指定個数は1~7個です

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の個数が範囲以外である。

■対処

定義数は1~7個になるようにする。

KFXO90229-I

論理ファイル名が設定されていません

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の論理ファイル名称で指定すべきファイル名が設定されていない。

■対処

論理ファイル名称を設定する。

KFXO90230-I

論理ファイル名が不正です

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の論理ファイル名称で指定すべき論理ファイル名が不正である。

■対処

論理ファイル名称を正しく設定する。

KFXO90231-I

A 系ステータスファイル名が設定されていません

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の A 系ステータスファイル名称で指定すべきファイルパス名が設定されていない。

■対処

A 系ステータスファイル名称を設定する。

KFXO90232-I

A 系ステータスファイル名が不正です"

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の A 系ステータスファイル名称で指定すべきファイルパス名が不正である。

■対処

A 系ステータスファイル名称を正しく設定する。

KFXO90233-I

A 系ステータスファイル名にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の A 系ステータスファイル名称で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名を変更する。

KFXO90234-I

B 系ステータスファイル名が設定されていません

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の B 系ステータスファイル名称で指定すべきファイルパス名が設定されていない。

■対処

B 系ステータスファイル名称を設定する。

KFXO90235-I

B 系ステータスファイル名が不正です

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の B 系ステータスファイル名称で指定すべきファイルパス名が不正である。

■対処

B 系ステータスファイル名称を正しく設定する。

KFXO90236-I

B 系ステータスファイル名にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

オプション設定ダイアログのステータスサービス定義の B 系ステータスファイル名称で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名を変更する。

KFXO90237-I

システムジャーナルファイル定義の設定の個数が不正です

指定個数は 2~30 個です

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義の個数が範囲以外である。

■対処

定義数は 2~30 個になるようにする。

KFXO90238-I

ファイルグループ名が設定されていません

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義のファイルグループ名称で指定すべきグループ名が設定されていない。

■対処

ファイルグループ名称を設定する。

KFXO90239-I

ファイルグループ名が不正です

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義のファイルグループ名称で指定すべきグループ名が不正である。

■対処

ファイルグループ名称を正しく設定する。

KFXO90240-I

物理ファイル名が設定されていません"

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義の物理ファイル名称で指定すべきファイルパス名が設定されていない。

■対処

物理ファイル名称を設定する。

KFXO90241-I

物理ファイル名が不正です

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義の物理ファイル名称で指定すべきファイルパス名が不正である。

■対処

物理ファイル名称を正しく設定する。

KFXO90242-I

物理ファイル名にフロッピーディスクドライブやネットワークドライブは指定できません

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義の物理ファイル名称で指定してはならないドライブを指定した。

■対処

ドライブ名を変更する。

KFXO90243-I

レコード数が設定されていません

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義のレコード数で指定すべきレコード数が設定されていない。

■対処

レコード数を設定する。

KFXO90244-I

レコード数の設定範囲は 20～262144 です

■要因

オプション設定ダイアログのシステムジャーナルサービス定義のレコード数で指定するレコード数の設定数が範囲外である。

■対処

20～262144 範囲内を設定する。

KFXO90245-I

データを更新しました

■要因

データベース定義ファイルを作成する際の情報をオプション設定ダイアログの指定した値に更新した。

■対処

なし

KFXO90246-I

データを追加しました

■要因

データベース定義ファイルを作成する際の情報をオプション設定ダイアログの指定した内容に新しくデータを追加した。

■対処

なし

KFXO90247-I

空き容量の足りないドライブが存在しています。

確認してください。

■要因

データベース容量が不足しているドライブがある。

■対処

データベース初期化あるいは構成変更処理起動までにディスク容量を確保しなければならない。データベース作成に必要なディスク容量を削減したい場合には、[システム構成の設定] ダイアログまたは [詳細設定] ダイアログで設定した値を見直す必要がある。

KFXO90249-I

1日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数が指定されていません。

■要因

1日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数が指定されていない。

■対処

1日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数を指定する。

KFXO90250-I

1日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数の設定範囲は 0～8000 です

■要因

1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～8000 の範囲の値を設定する。

KFXO90251-I

1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数が指定されていません。

■要因

1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数が指定されていない。

■対処

1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数を指定する。

KFXO90252-I

1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数の設定範囲は 0～nnnn です

■要因

1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数の設定範囲外の値を設定した。
nnnn には「1 日あたりのワーク数」の値が入る。

■対処

0～nnnn の範囲の値を設定する。

KFXO90253-I

Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値が指定されていません。

■要因

Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値が指定されていない。

■対処

Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値を指定する。

KFXO90254-I

Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値の設定範囲は 0～70560 です"

■要因

Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値の設定範囲外の値を設定した。

■対処

0～70560 の範囲の値を設定する。

KFXO90255-I

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均が設定されていません

■要因

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均が指定されていない。

■対処

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均を指定する。

KFXO90256-I

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均の設定範囲は 1~8 です

■要因

1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1~8 の範囲の値を設定する。

KFXO90257-I

ワーク下のオブジェクト数（最大値）が設定されていません

■要因

ワーク下のオブジェクト数（最大値）が指定されていない。

■対処

ワーク下のオブジェクト数（最大値）を指定する。

KFXO90258-I

ワーク下のオブジェクト数（最大値）の設定範囲は 1~32766 です

■要因

ワーク下のオブジェクト数（最大値）の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1~32766 の範囲の値を設定する。

KFXO90259-I

OMS 識別子が設定されていません

■要因

オプション設定ダイアログの OMS 識別子が設定されていない。

■対処

OMS 識別子を設定する。

KFXO90260-I

OMS 識別子が不正です

■要因

オプション設定ダイアログの OMS 識別子が不正である。

■対処

OMS 識別子を正しく設定する。

KFXO90261-I

施設が所属する組織の数が指定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべき施設が所属する組織の数が設定されていない。

■対処

施設が所属する組織の数を指定する。

KFXO90262-I

施設が所属する組織の数の設定範囲は 1～9999 です

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべき施設が所属する組織の数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～9999 の範囲の値を設定する。

KFXO90263-I

ユーザを登録する組織の階層数の最大値が指定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべきユーザを登録する組織の階層数の最大値が設定されていない。

■対処

ユーザを登録する組織の階層数の最大値を指定する。

KFXO90264-I

ユーザを登録する組織の階層数の最大値の設定範囲は 1～50 です

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべきユーザを登録する組織の階層数の最大値の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～50 の範囲の値を設定する。

KFXO90265-I

施設を登録する組織の階層数の最大値の設定範囲は 1～50 です

■要因

詳細設定ダイアログのスケジュール管理／施設管理で指定すべき施設を登録する組織の階層数の最大値の設定範囲外の値を設定した。

■対処

1～50 の範囲の値を設定する。

KFXO90267-I

プログラムの選択の文書管理の指定 PP が選択されていません

■要因

詳細設定ダイアログの文書管理で指定すべき文書管理 PP の種類が選択されていない

■対処

文書管理 PP の種類を選択する。

KFXO90268-I

プログラムの選択のワークフローの指定 PP が選択されていません

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで指定すべき文書管理 PP の種類が選択されていない

■対処

ワークフロー PP の種類を選択する。

KFXO90269-I

ユーザ内履歴数が指定されていません。

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで指定すべきユーザ内履歴数が設定されていない。

■対処

ユーザ内履歴数を指定する。

KFXO90270-I

ユーザ内履歴数の設定範囲は 50～1023 です

■要因

詳細設定ダイアログのワークフローで指定すべきユーザ内履歴数の設定範囲外の値を設定した。

■対処

50～1023 の範囲の値を設定する。

KFXO90271-I

指定した論理ファイル名は既に使用されています

■要因

指定した論理ファイル名は既に使用されています。

■対処

使用されていない論理ファイル名を指定してください。

KFXO90272-I

指定した A 系ステータスファイル名は、以下のいずれかのファイル名として既に使用されています

- ・ A 系ステータスファイル名
- ・ B 系ステータスファイル名
- ・ 物理ファイル名

■要因

指定した A 系ステータスファイル名は、既に使用されています。

■対処

使用されていないファイル名を指定してください。

KFXO90273-I

指定した B 系ステータスファイル名は、以下のいずれかのファイル名として既に使用されています

- ・ A 系ステータスファイル名
- ・ B 系ステータスファイル名
- ・ 物理ファイル名

■要因

指定した B 系ステータスファイル名は、既に使用されています。

■対処

使用されていないファイル名を指定してください。

KFXO90274-I

指定したファイルグループ名は既に使用されています

■要因

指定したファイルグループ名は既に使用されています。

■対処

使用されていないファイルグループ名を指定してください。

KFXO90275-I

指定した物理ファイル名は、以下のいずれかのファイル名として既に使用されています

- ・ A 系ステータスファイル名
- ・ B 系ステータスファイル名
- ・ 物理ファイル名

■要因

指定した物理ファイル名は、既に使用されています。

■対処

使用されていないファイル名を指定してください。

KFXO90276-I

A 系ステータスファイル名と B 系ステータスファイル名が重複しています

■要因

A 系ステータスファイル名と B 系ステータスファイル名が重複しています。

■対処

それぞれ別のファイル名を指定してください。

KFXO90277-I

詳細設定ダイアログの xxxxxxxx のディレクトリ名称が設定されていません

■要因

詳細設定ダイアログのディレクトリ名称が設定されていません。
xxxxxxx には、エラーを検出したサーバの名称が入ります。

■対処

ディレクトリ名称を指定してください。

KFXO90278-I

「プログラム毎の設定」項目が設定されました。「詳細」ボタンをクリックして各サーバの「ディレクトリ名称」の設定内容を確認後、「更新」ボタンにより設定内容を有効にしてください。

■要因

「プログラム毎の設定」項目が設定されたため、詳細設定画面のディレクトリ名称についての確認を促すためのメッセージです。

■対処

詳細設定画面のディレクトリ名称を確認後、更新ボタンにより内容を有効にしてください。

KFXO90279-I

詳細設定ダイアログの xxxxxxx のディレクトリ名称が不正です

■要因

詳細設定ダイアログで指定されているディレクトリ名称が正しくありません。
xxxxxxx には、エラーを検出したサーバの名称が入ります。

■対処

正しいディレクトリ名称を指定してください。

KFXO90280-I

詳細設定ダイアログの xxxxxxx のディレクトリ名称にフロッピーディスクドライブまたはネットワークドライブは指定出来ません。

■要因

詳細設定ダイアログで指定されているディレクトリ名称が正しくありません。
xxxxxxx には、エラーを検出したサーバの名称が入ります。

■対処

正しいディレクトリ名称を指定してください。

KFXO90281-I

指定されている A 系ステータスファイル名は、以下のいずれかのファイル名と重複しています

- ・ A 系ステータスファイル名
- ・ B 系ステータスファイル名
- ・ 物理ファイル名

重複しているファイル名 xxxxxxx

■要因

指定されている A 系ステータスファイル名は、他のファイル名と重複しています。

xxxxxxx には、重複しているファイルの名称が入ります。

■対処

重複しないファイル名を指定してください。

KFXO90282-I

指定されている B 系ステータスファイル名は、以下のいずれかのファイル名と重複しています

- ・ A 系ステータスファイル名
- ・ B 系ステータスファイル名
- ・ 物理ファイル名

重複しているファイル名 xxxxxxx

■要因

指定されている B 系ステータスファイル名は、他のファイル名と重複しています。

xxxxxxx には、重複しているファイルの名称が入ります。

■対処

重複しないファイル名を指定してください。

KFXO90283-I

指定されている物理ファイル名は、以下のいずれかのファイル名と重複しています

- ・ A 系ステータスファイル名
- ・ B 系ステータスファイル名
- ・ 物理ファイル名

重複しているファイル名 xxxxxxx

■要因

指定されている物理ファイル名は、他のファイル名と重複しています。

xxxxxxx には、重複しているファイルの名称が入ります。

■対処

重複しないファイル名を指定してください。

KFXO90284-I

重複して指定されているファイルグループ名が存在します

重複しているファイルグループ名 xxxxxxx

■要因

重複して指定されているファイルグループ名が存在します。

xxxxxxx には、重複しているファイルグループの名称が入ります。

■対処

重複しないファイルグループ名を指定してください。

KFXO90285-I

重複して指定されている論理ファイル名が存在します

重複している論理ファイル名 xxxxxxxx

■要因

重複して指定されている論理ファイル名が存在します。
xxxxxxx には、重複している論理ファイルの名称が入ります。

■対処

重複しない論理ファイル名を指定してください。

KFXO90286-I

簡易ジャーナルファイル名称が 145 バイトを超えて指定されています

■要因

ファイル名称が 145 バイトを超えて指定されています。

■対処

145 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90287-I

データベース作成ディレクトリが 145 バイトを超えて指定されています

■要因

ディレクトリが 145 バイトを超えて指定されています。

■対処

145 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90288-I

電子アドレス帳/メールのディレクトリ名称が 145 バイトを超えて入力されています

■要因

ディレクトリが 145 バイトを超えて指定されています。

■対処

145 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90289-I

文書管理のディレクトリ名称が 145 バイトを超えて入力されています

■要因

ディレクトリが 145 バイトを超えて指定されています。

■対処

145 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90290-I

ワークフローのディレクトリ名称が 145 バイトを超えて入力されています

■要因

ディレクトリが 145 バイトを超えて指定されています。

■対処

145 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90291-I

詳細設定ダイアログの xxx のディレクトリ名称が 145 バイトを超えて指定されています
xxx には、PP 名が入ります。

■要因

ディレクトリが 145 バイトを超えて指定されています。

■対処

145 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90292-I

B 系ステータスファイル名が 63 バイトを超えて指定されています

■要因

ファイル名称が 63 バイトを超えて指定されています。

■対処

63 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90293-I

物理ファイル名が 63 バイトを超えて指定されています

■要因

ファイル名称が 63 バイトを超えて指定されています。

■対処

63 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90294-I

A 系ステータスファイル名が 63 バイトを超えて指定されています

■要因

ファイル名称が 63 バイトを超えて指定されています。

■対処

63 バイト以下にするように指定してください。

KFXO90300-E

システムコール (システムコール名) でエラーが発生しました。

詳細内容： 要因

■要因

システムコール名で示すシステムコール実行中に詳細内容で示す要因によりエラーが発生した。

■対処

詳細内容で示す要因を取り除いた後、再実行する。

KFXO90301-E

システムコール（システムコール名）でエラーが発生しました。

エラー番号： 番号

■要因

システムコール名で示すシステムコール実行中にエラー番号で示す番号のエラーが発生した。

■対処

エラー番号で示す番号のエラー要因を取り除いた後、再実行する。

KFXO90302-E

ファイルをオープンできません。

ファイル名： ファイル名詳細内容： 要因

■要因

ファイル名で示すファイルのオープン時に詳細内容で示す要因によりファイルがオープンできない。

■対処

詳細内容で示す要因を取り除いた後、再実行する。

KFXO90303-E

メモリ不足が発生しました。

■要因

メモリ不足により、本プログラムが動作できない。

■対処

メモリ不足を解消した後、再実行する。

KFXO90304-E

環境変数（環境変数名）が設定されていません。

■要因

環境変数名で示す環境変数が設定されていない。

■対処

環境変数名で示す環境変数を設定した後、再実行する。

KFXO90305-E

ファイルが削除できません。

ファイル名： ファイル名エラー番号： エラー番号

■要因

ファイル名で示すファイルが、エラー番号で示すエラーにより削除できない。

■対処

エラー番号で示すエラー要因を取り除いた後、再実行する。

KFXO90306-E

ディレクトリが作成できません。

ディレクトリ名： ディレクトリ名エラー番号： エラー番号

■要因

ディレクトリ名で示すディレクトリが、エラー番号で示すエラーにより作成できない。

■対処

エラー番号で示すエラー要因を取り除いた後、再実行する。

KFXO90307-E

システム共通定義ファイルが存在しません。

■要因

システム共通定義ファイルが存在しない。

■対処

システム共通定義ファイルを設定した後、再実行する。

KFXO90308-E

システム共通定義ファイルの記述が間違っています。

■要因

システム共通定義ファイルの記述に誤りがある。

■対処

システム共通定義ファイルを見直し、誤りを取り除いた後、再実行する。

KFXO90309-E

ディレクトリが削除できません。

ディレクトリ名： ディレクトリ名エラー番号： エラー番号

■要因

ディレクトリ名で示すディレクトリが、エラー番号で示すエラーにより削除できない。

■対処

エラー番号で示すエラー要因を取り除いた後、再実行する。

KFXO90313-W

以下のプログラムの指定値では初期化可能なデータベースサイズを超えるため、初期化可能なサイズに補正しました。

プログラム名： プログラム名 . . .

■要因

プログラム名で示すプログラムで指定する指定値が大きすぎるため、データベースの初期化ができない。よって、初期化可能なサイズに補正（小さく）した。

■対処

必要ならばプログラム名で示すプログラムで指定する指定値を小さくした後、再実行する。

KFXO90314-W

初期設定/構成変更/再構成パラメタファイルの file パラメタの指定が 90 個を超えました。(作成 file パラメタ : xxx 個) file パラメタの指定が 90 個を超えると、エラーが発生したり性能が低下する場合があります。

生成されたパラメタファイルを修正して、file パラメタの指定が 90 個以内になるように調整してください。

xxx には、数字が入ります。

■要因

file パラメタ指定の総数が 90 個を超えています。

■対処

初期設定/構成変更/再構成パラメタファイルを修正して、file パラメタの指定が 90 個以内になるように調整する。

KFXO90315-W

static_shmpool_size の値が上限を超えました。

resipool パラメタ DICTIONARY の-m オペランド値を減らしてパラメタ生成処理を続行する場合、「OK」をクリックして下さい。

但し、この場合、Groupmax システム全体の性能が低下する可能性があります。

パラメタの調整を行う場合は、「キャンセル」をクリックして、以下のパラメタの見直しを行ってください。

- ・一般文書データベース数
- ・フォーム文書データベース数
- ・1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- ・1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- ・複数グループアクセス権機能

■要因

static_shmpool_size の値が上限を超えています。

■対処

メッセージの内容の通りに対処してください。

(14) アボートコード

アボートコードは、Object Server が異常終了した場合に、メッセージ KFXO00105-E に表示されるコードで、異常終了の原因を表す保守情報です。以下に Object Server のアボートコードを示します。なお、このメッセージの前に KFXO46999, KFXO57999, 又は KFXO30000 のメッセージが出力されている場合は、それによって、異常が発生したファイル及びファイル中の行番号を調べられます。

また、表にないアボートコードが表示された場合、直前にメッセージが出力されていれば、そのメッセージに従って対処してください。メッセージが出力されていない場合は、コアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください。

コード	要因	ユーザの処置
areau21	サーバの起動中にエラーが発生しました	直前に表示されているメッセージに従って対策してください

コード	要因	ユーザの処置
areau22	同上	同上
areau23	同上	同上
areau25	同上	同上
areau26	同上	同上
areau28	同上	同上
areru21	サーバの起動中にエラーが発生しました	直前に表示されているメッセージに従って対策してください
areru22	同上	同上
areru24	同上	同上
areru25	同上	同上
areru26	同上	同上
atpre09	サーバの終了中にエラーが発生しました	ログ, 又は標準エラー出力に出力されている KFXO20006-I のメッセージに従って対処してください
fa00000	ファイルサービスで異常が発生しました	正しくインストールされているか確認の上, 再実行し, それでも発生する場合は取得情報を退避して, システム管理者に連絡してください
fa00001	同上	同上
fa00002	同上	同上
fa00003	同上	同上
fa10000	同上	同上
fa10002	同上	同上
fa10003	同上	同上
fa10004	同上	同上
fa10006	同上	同上
fa10007	同上	同上
fa20000	同上	同上
fa20001	同上	同上
fa20003	同上	同上
fa20004	同上	同上
fa20005	同上	同上
fa30000	同上	同上
fa30001	同上	同上
fa30002	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
fa30003	同上	同上
fa30004	同上	同上
fa30005	同上	同上
fa30006	同上	同上
fa30007	同上	同上
fa30008	同上	同上
fa30009	同上	同上
fa40000	同上	同上
fa40001	同上	同上
fa50000	同上	同上
fa50001	同上	同上
fa50002	同上	同上
fa50003	同上	同上
fa50004	同上	同上
fa00005	同上	同上
fa60000	同上	同上
fa60001	同上	同上
fa70000	同上	同上
fa70001	同上	同上
fa80000	同上	同上
fa80001	同上	同上
fa80002	同上	同上
fa80003	ファイルサービスで異常が発生しました	正しくインストールされているか確認の上、再実行し、それでも発生する場合は取得情報を退避して、システム管理者に連絡してください
fa80004	同上	同上
fa90000	同上	同上
fa90001	同上	同上
fa90002	同上	同上
g000001	ログサービスで異常が発生しました	本コード及び直前に出力されたメッセージがあればその内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、

コード	要因	ユーザの処置
g000001	ログサービスで異常が発生しました	Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
g000051	同上	同上
g000052	同上	同上
g000053	同上	同上
g000054	同上	同上
g000055	同上	同上
g000056	同上	同上
g000100	同上	同上
g100001	同上	同上
g200001	メッセージを出力しようとしたが、メッセージテキストが編集できませんでした	Object Server が正しくインストールされているか確認して、再実行してください。それでもエラーが発生する場合は取得情報を退避してシステム管理者に連絡してください
jclos20	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jcmdc25	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	Object Server の組み込みが正しく行われているか確認してください
jjcmdc27	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jcnt151	ジャーナルファイルサービスプロセス、又はコマンドサービスプロセスの停止中にエラーが発生しました	KFXO01108-E メッセージに従って対策してください
jcnt152	チェックポイントサービスプロセスの停止中にエラーが発生しました	KFXO01108-E メッセージに従って対策してください
jcnt160	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	Object Server の組み込みが正しく行われているか確認してください
jcnt194	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jcom06	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	同上
jcom15		同上
jcsta04		同上
jefio25	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	Object Server の組み込みが正しく行われているか確認してください
jefio52	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jfct140	ジャーナル IO プロセスの停止中にエラーが発生しました	KFXO01108-E メッセージに従って対策してください

コード	要因	ユーザの処置
jfct184	jnl 開始に必要なシステムファイルがオープンできません	Object Server の組み込みが正しく行われているか確認してください
jfct189	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jlock07	管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。又は待ち状態で、異常が発生しました	エラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください。エラーメッセージが出力されていない場合は、コアファイルを保存し、システム管理者に連絡してください
jlock08	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jlock12		同上
jlock17		同上
jmio103	ネットワーク障害が発生しました	KFXO01204-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再実行してください
jmio104 jmio105	メモリ不足が発生しました	再度メモリを見積もってください
jmio111	ネットワーク障害が発生しました	KFXO01204-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再実行してください
jmio227	メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました	同上
jmio228		同上
jmio229		同上
jmio230		同上
jopen20	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jput08	スワップ先がありません	ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください
jput84	同上	同上
jput85	同上	同上
jput20	続行不可能なエラーが発生しました	KFXO02111-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再実行してください
jput21	管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。又は待ち状態で、異常が発生しました	エラーメッセージが出力されている場合は、そのメッセージに従って対策してください。エラーメッセージが出力されていない場合は、コアファイルを保存し、システム管理者に連絡してください
jput27	メモリ不足、ネットワーク障害、又はタイムアウトが発生しました	KFXO01223-E メッセージの理由コードから、原因を調査し、対策してから、再実行してください
jput29	メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました	原因を調査し対策してから、再実行してください

コード	要因	ユーザの処置
jput35	排他解除待ちが発生しましたが、管理ブロックを使い果たしたため、待ち状態にできません。OS ライブラリで管理するプロセス対応領域を確保できません	再度メモリを見積もってください
jput36	同上	同上
jput38	同上	同上
jput41	同上	同上
jput45	同上	同上
jput47	同上	同上
jput49	同上	同上
jput52	同上	同上
jput54	同上	同上
jput55	同上	同上
jput57	同上	同上
jput59	同上	同上
jswp104	同上	同上
jswp202	同上	同上
jswp204	同上	同上
jput81	スワップ先がありません	ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください
jstat03	メモリ不足が発生しました	不要なプロセスを消してください
jswp107	スワップ先がありません	ファイルを追加するか、アンロードし、ファイルが使用できるようにしてください
jswp116	続行不可能なエラーが発生しました	KFXO02111-E メッセージの理由コードからエラーの原因を調査し対策してから、再実行してください
jswp205	メモリ不足、又はネットワーク障害が発生しました	原因を調査し、対策してから、再実行してください
jswp210	メモリ不足、ネットワーク障害、又はタイムアウトが発生しました	KFXO01223-E メッセージに従って対策してください
l040018	システムが異常終了しました	直前に出力されているメッセージに従って対策してください
namdmnA	ネームサービス(内部プロセス)を開始できないエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください

コード	要因	ユーザの処置
namdmnB	同上	同上
namdmnC	同上	同上
namdmnD	ネームサービス(内部プロセス)を終了できないエラーが発生しました	
namdmnE	同上	同上
namdmnF	同上	同上
namdmnG	同上	同上
namdmn1	ネームサービス(内部プロセス)を開始できないエラーが発生しました	
namdmn2	同上	同上
namdmn3	同上	同上
namdmn4	同上	同上
namdmn5	同上	同上
namdmn6	同上	同上
namdmn7	同上	同上
namdmn8	同上	同上
namdmn9	同上	同上
namsrv1	ネームサービス(内部プロセス)の実行中に異常が発生しました	
namsrv2	同上	同上
namuti1	同上	同上
namuti2	同上	同上
namuti3	同上	同上
namuti4	同上	同上
namuti5	同上	同上
namuti6	同上	同上
namuti7	同上	同上
namuti8	同上	同上
olktl01	内部での排他処理中にシステムダウンを検知しました	システムダウンの原因を取り除き、再実行してください
olkts01	同上	同上
olksl01	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
p000201	開始処理中に、システム障害が発生しました	このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
p000202	プロセスサーバが使用している共有メモリの内容が破壊されています	同上
p000406	通信関連のエラーが発生しました	Windows NT 組み込み先ディレクトリ下の ¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS, DNS, 又は WINS のうちどれかの設定が誤っている可能性があります。正しい設定にしてください
p000415	開始処理中にメモリ不足が発生しました	メモリを再度見積もり、再実行してください
p000416	同上	同上
p000702	共有メモリの排他確保に失敗しました	このコード及び直前に出力されたメッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
p000710	共有メモリの排他解除に失敗しました	同上
p000713	開始処理中に、定義ファイルのオープンエラー又は I/O エラーが発生しました	同上
p000715	同上	同上
p000717	開始処理中に解析エラーが発生しました	定義ファイルの内容に誤りがあります。定義ファイルの内容を見直し、再実行してください
p000719	同上	同上
p000721	同上	同上
p000726	同上	同上
p000733	開始処理中に、setgid システムコールがエラーリターンしました	直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査し、再実行してください
p000734	開始処理中に、setuid システムコールがエラーリターンしました	同上
p000736	開始処理中に、メモリ不足が発生しました	メモリを再度見積もり、再実行してください
p000737	同上	同上
p000738	同上	同上
p000739	開始処理中に、定義ファイルの解析エラーが発生しました	定義ファイルの内容に誤りがあります。定義ファイルの内容を見直し、再実行してください

コード	要因	ユーザの処置
p000741	同上	同上
p000743	同上	同上
p000745	開始処理中にメモリ不足又は通信障害が発生しました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p000748	xodstart コマンドの実行時に、exec システムコールがエラーリターンしました	直前に表示されたメッセージからエラーの原因を調査して、再実行してください
p000749	開始処理中に、定義情報の解析中にメモリ不足が発生しました	メモリを見積もり直して、再実行してください
p000750	同上	同上
p001005	共用メモリの排他確保に失敗しました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p002001	共用メモリの排他解除に失敗しました	同上
p100155	強制停止時に排他解除に失敗しました	同上
p100211	終了処理が完了したときに、システム障害が発生しました	同上
p100212	同上	同上
p200001	システム管理者のユーザ id, グループ id の取得に失敗しました	同上
p200004	開始時に、共用メモリの初期化に失敗しました	直前に表示されているメッセージからエラーの原因を調査して、再実行してください
p200007	開始時に、カレントディレクトリの作成に失敗しました	同上
p200008	開始時に、定義ファイルの I/O エラーが発生しました	同上
p200009	開始時に、定義ファイルの解析エラーが発生しました	定義ファイルの内容を見直して、再実行してください
p200011	共用メモリプールを対応付けるために十分なサイズの仮想空間がありません	メモリを見積もり直して、再実行してください
p200012	システムで規定されている許容最大共用メモリアタッチ数の限度を超えました	直前に表示されているメッセージからエラーの原因を調査して、再実行してください
p200013	共用メモリの確保に失敗しました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力さ

コード	要因	ユーザの処置
p200013	共用メモリの確保に失敗しました	れている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p200017	開始時に、ネットワーク障害が発生しました	同上
p200018	開始時に、ネームサービス情報の登録に失敗しました	同上
p200019	開始時に、シグナルハンドラの登録に失敗しました	同上
p200020	同上	同上
p200024	開始時に、ネットワーク障害が発生しました	同上
p200051	開始時に、共用メモリの入出力エラーが発生しました	同上
p200052	同上	同上
p210003	共用メモリの排他解除に失敗しました	同上
p212007	異常終了後の後処理時に、メモリ不足が発生しました	メモリを見積もり直して、再実行してください
p212008	共用メモリの内容が破壊されました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
p212009	同上	同上
p212010	内部プロセスの異常終了後の後処理に失敗しました	同上
p260000	共用メモリの内容が破壊されました	同上
p260012	プロセスの固有メモリが確保できません。又は内部プロセス開始処理中、終了処理中、停止中のいずれかの状態です	同上
p260013	RPC に失敗しました	同上
q005040	API サービスプロセスの起動に失敗しました	OS システム上で起動可能なプロセス数、又は 1 ユーザが起動可能なプロセス数が上限を超えていないか確認してください
q0050d0	API サービスプロセスの起動に失敗しました	インストールが正しく行われているか確認してください。OS システム上で起動可能なプロセス数、又は 1 ユーザが起動可能なプロセス数が上限を超えていないか確認してください
r140002	内部で開始処理が 2 回実行されました	このコードの内容とコアファイルを保存して、システム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
r140004	同上	

コード	要因	ユーザの処置
r230091	プロセス間通信でエラーが発生しました	ネットワーク環境を見直してください。物理的な障害が発生している可能性があります。このエラーが繰り返し発生する場合は、コアファイルを保存してシステム管理者に連絡してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
r320002	プロセス間通信に失敗しました	システムのファイル識別子の上限を超えました。不要なプロセスを終了させるか、又はシステムのファイル識別子の上限値を大きくしてください
r320013	作業領域の確保に失敗しました	直前に表示されたメッセージに従って対策してください
r390001	スタックオーバーフローが発生しました	システム共通定義のメインスタック量を適正值にチューニング(メインスタック量の定義値を増やす)してください
tb03002	メモリ不足が発生しました	プロセス数を見直して、不要なプロセスを終了させてください。このエラーが繰り返し発生する場合は、システム管理者に連絡してください
td00002	同上	
t860004	トランザクションサービスを開始できないエラーが発生しました	直前に表示されたメッセージに従って対策してください
xc0o001	プロセス開始時にトレースエリアが取得できません	メモリを再度見積もり、再実行してください
xc0s000	Object Server の内部で続行不可能な障害が発生しました	このコード及び直前に出力されている KFX046999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に、shmdump ファイルも同時に保存してください
xc0s001	同上	同上
xc0s002	同上	同上
xc0s003	同上	同上
xc0s004	同上	同上
xc0s005	同上	同上
xc0s006	同上	同上
xc0s007	同上	同上
xc0s008	同上	同上
xc0s009	同上	同上
xc0s010	同上	同上
xc0s011	同上	同上
xc0s012	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
xc0s013	同上	同上
xc0s014	同上	同上
xc0s015	同上	同上
xc0s016	同上	同上
xc0s017	同上	同上
xc0s018	同上	同上
xc0s019	同上	同上
xc0s020	同上	同上
xc0s021	同上	同上
xc0s022	同上	同上
xc0s023	同上	同上
xc0s024	同上	同上
xc0s025	同上	同上
xj00001	同上	直前に表示されたメッセージに従って対策してください
xj00002	同上	同上
xj00003	同上	同上
xj00004	同上	同上
xj00005	同上	同上
xj00006	同上	同上
xj00021	簡易ジャーナルファイルの設定でエラーが発生しました	同上
xj00022	同上	同上
xj00024	簡易ジャーナルファイルのチェック処理でエラーが発生しました	同上
xm0E000	XO_connect 関数で予期しないエラーが発生しました	このコード及び以前に出力されているメッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。
xm0E001	XO_trn_begin 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E002	格納制御の関数(xo_sd_get_used_indexpage_inf)で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E003	格納制御の関数(xo_sd_get_ext_reog_inf)で予期しないエラーが発生しました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm0E004	XO_trn_commit 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E005	XO_trn_rollback 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0E006	XO_bucp_parse_start 関数で予期しないエラーが発生しました	同上
xm0M001	OMS と接続するときのエラーコードに不正な値が返されました	このコード及び直前に出力されている KFX057999-E の内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください
xm0M002	トランザクション開始処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M003	エリア存在チェック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M004	OID インデクスのエリア存在チェック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M005	ディレクトリ管理にエリアの追加を要求するときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M006	グローバルキャッシュを割り当てるときに、エリアのページサイズを満たすバッファ長を持つグローバルキャッシュが見つかりません	同上
xm0M007	グローバルキャッシュを割り当てるときに、追加エリアの用途にあたるグローバルキャッシュが見つかりません	同上
xm0M008	グローバルキャッシュを割り当てるときに、追加エリアが共用メモリ上の管理領域で管理されていませんでした	同上
xm0M009	ディクショナリ管理にエリアの追加を要求したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M010	ディクショナリ管理にファイルの追加を要求したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M011	エリア名からエリア情報を取得したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M012	エリア名からファイル情報を取得したときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M013	ディレクトリ管理にファイルの変更を要求するときの回復不能なエラーが発生しました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm0M014	ディクショナリ管理からシステム情報を取得するときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M015	ディクショナリ管理からファイル名を検査するときのエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M017	コミット処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M018	ディレクトリ管理にファイル追加を要求したときに回復不能なエラーが発生しました	同上
xm0M019	ロールバック処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M022	グローバルキャッシュ割り当て時に要因コード xm0M006～xm0M008 以外のエラーが発生しました	同上
xm0M023	バッファフラッシュ処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M024	コミット開始処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm0M977	データベースを再構成するユーティリティにおいて、データベースの更新処理でエラーが発生しました	直前に出力されている KFXO57977-E メッセージに従って対策してください
xm0O000	【データベースの再編成】ユーティリティ、又は xodbreog コマンドにおいて、処理結果出力要求でエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は、コアファイルを保存してください
xm0O001	【データベースの再編成】ユーティリティ、又は xodbreog コマンドにおいて、ワークファイルの入出力処理でエラーが発生しました	同上
xm0O002	同上	同上
xm0O003	【データベースの再編成】ユーティリティ、又は xodbreog コマンドにおいて、ワークファイルのオープン処理でエラーが発生しました	同上
xm0O004	【データベースの再編成】ユーティリティ、又は xodbreog コマンドにおいて、パラメタファイルの解析処理でエラーが発生しました	同上
xm0O005	【データベースの再編成】ユーティリティ、又は xodbreog コマンドにおいて、コネクト関数でエラーが発生しました	同上
xm0O006	【データベースの再編成】ユーティリティ、又は xodbreog コマンドにおいて、トランザクション開始処理でエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して、システム管理者に連絡してください

コード	要因	ユーザの処置
xm00006	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, トランザクション開始処理でエラーが発生しました	てください。コアファイルが出力されている場合は, コアファイルを保存してください
xm00007	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, パラメタ解析処理でエラーが発生しました	同上
xm00008	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, コミット処理でエラーが発生しました	同上
xm00009	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 格納制御でエラーが発生しました	同上
xm00010	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, タイプ定義情報の定義種別でエラーが発生しました	同上
xm00011	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 論理オブジェクト種別にエラーが発生しました	同上
xm00020	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, オブジェクトデータ追加処理でエラーが発生しました	同上
xm00021	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, ディクショナリ情報にエラーが発生しました	同上
xm00022	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, インデクス再編成処理でエラーが発生しました	同上
xm00023	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, ワークファイルのオープン処理でエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は, コアファイルを保存してください
xm00024	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, タイプ定義情報取得処理でエラーが発生しました	同上
xm00025	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, ユニバーサル関連情報取得処理でエラーが発生しました	同上
xm00026	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, タイプ定義情報取得処理でエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は, コアファイルを保存してください
xm00030	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, インデクス情報ファイルにエラーが発生しました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm00031	同上	同上
xm00040	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 定義情報取得処理でエラーが発生しました	同上
xm00041	同上	同上
xm00042	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, ディクショナリ管理処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm00043	同上	同上
xm00044	同上	同上
xm00045	同上	同上
xm00046	同上	同上
xm00050	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 格納制御処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm00051	同上	同上
xm00052	同上	同上
xm00053	同上	同上
xm00055	同上	同上
xm00056	同上	同上
xm00057	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 内部処理でエラーが発生しました	同上
xm00058	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 格納制御処理時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xm00059	同上	同上
xm00060	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, サポートされていないデータ型を検知しました	同上
xm00061	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 内部矛盾でエラーが発生しました	同上
xm00062	同上	同上
xm00063	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
xm00064	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 内部矛盾が検知されました	同上
xm00065	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, オブジェクトのソート情報に不正が検知されました	同上
xm00066	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, タイプ定義情報処理でエラーが発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は, コアファイルを保存してください
xm00067	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, タイプ番号不正が検知されました	同上
xm00070	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, アンロードファイルアクセス要求でエラーが発生しました	同上
xm00071	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 処理結果ファイルアクセス要求でエラーが発生しました	同上
xm00072	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, 物理 OID 対応表アクセス要求でエラー発生しました	このコード及び直前に出力されている KFXO56999-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は, コアファイルを保存してください
xm00073	[データベースの再編成] ユティリティ, 又は xodbreog コマンドにおいて, ハッシュテーブル終了処理でエラーが発生しました	同上
xo00001	内部矛盾を検出しました	このコード及び直前に出力されている KFXO30001-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合は, コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は, Object Server を再起動する前に, shmdump ファイルも同時に保存してください
xo00002	コミット処理中にエラーが発生しました	本コード及び直前に出力されている KFXO30002-E メッセージの内容を記録して, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されていれば, コアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は, Object Server を再起動する前に, shmdump ファイルも同時に保存してください
xs0B000	ファイル中のマスタディレクトリページの更新カウンタが不一致です	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力さ

コード	要因	ユーザの処置
xs0B000	ファイル中のマスタディレクトリページの更新カウンタが不一致です	れている場合は、Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
xs0B001	バッファ中のマスタディレクトリページの更新カウンタが不一致です	同上
xs0B002	データベース初期化時のバッファ中のページ更新カウンタが不一致です	同上
xs0B003	データベース初期化時のバッファ中のページ更新カウンタが不一致です	同上
xs0B004	システム運用時のファイル中のページ(データ/インデクス/スレーブディレクトリ)の更新カウンタが不一致です	同上
xs0B005	要求されたページ種別と GET したページ種別が異なる	同上
xs0B006	ページ中のエリア番号とページの存在するエリアが異なる	同上
xs0B007	ページ中の ID タイプ番号とページの存在する物理タイプが異なる	同上
xs0B008	ファイル中のページ番号がページ位置と対応していない	同上
xs0B010	バッファ制御ブロックの status 値が不正である	同上
xs0B011	ロックモードが不正である	同上
xs0B012	ロック要求エラーリターンした	同上
xs0B100	データ/インデクスページ GET 関数に対してディレクトリページの GET 要求が行われた	同上
xs0B103	ディレクトリページ GET 関数に対してデータページ/インデクスページの GET 要求が行われた	同上
xs0B104	同一ディレクトリに対して 2 度以上の参照要求があった	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
xs0B105	参照 GET されているディレクトリページに対する更新要求 GET が行われた	同上
xs0B106	参照/更新 GET されていないページに対する解放要求が行われた	同上
xs0B107	更新要求されていないページに対するフリー要求が行われた	同上

コード	要因	ユーザの処置
xsOB108	未更新データページに対する PUT 要求, 又はデータページ PUT 関数を用いてディレクトリ/インデクスページの PUT 要求が行われた	同上
xsOB109	未更新データページに対する PUT 要求, 又はインデクスページ PUT 関数を用いてデータ/ディレクトリページの PUT 要求が行われた	同上
xsOB110	未更新ディレクトリページに対する PUT 要求, 又はディレクトリページ PUT 関数を用いてディレクトリ/インデクスページの PUT 要求が行われた	同上
xsOB111	未更新ページに対する PUT & FREE 要求が行われた	同上
xsOB112	指定タイプ ID のページが GET 中にタイプ ID のフリー要求が行われた	同上
xsOB113	指定インデクス ID のページが GET 中にインデクス ID のフリー要求が行われた	同上
xsOB114	指定 ID ページフリー関数で ID 種別に誤りがある	同上
xsOB115	要求モードに誤りがある	同上
xsOB117	グローバルバッファのスレッド間ロック処理において, xo_bolk_thdlock 関数がエラーリターンした	同上
xsOB118	グローバルバッファのスレッド間アンロック処理において, xo_bolk_thdunlock 関数がエラーリターンした	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は, Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
xsOB119	不当にローカルキャッシュ満杯エラーが発生した	同上
xsOB120	不当に OID インデクス用キャッシュ満杯エラーが発生した	同上
xsOB121	RELEASE 時, GET カウンタ不正	同上
xsOB122	FREE 時, GET カウンタ不正	同上
xsOB123	FREE 又は PFREE 以外の要求コードが指定された	同上
xsOB124	PUT 時, GET カウンタ不正	同上
xsOB125	参照 GET ページに対して PUT 要求された	同上
xsOB126	マスタディレクトリページの実更新に失敗した	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0B127	未確保新ページを入力しようとした	同上
xs0B128	スレッド間ウエイトでエラーが発生した	同上
xs0B129	スレッド間ポストでエラーが発生した	同上
xs0B130	PUT 時, ページ種別不正	同上
xs0B131	スレッドウエイトでエラーが発生した	同上
xs0B138	キャッシュページ破壊を検知した	同上
xs0F000	ファイル read 時の lseek の引数に誤りがある	同上
xs0F001	書き込み時にファイルに割当てられたページ番号より大きなページ番号が指定された	同上
xs0F002	ファイル write 時の lseek の引数に誤りがある	同上
xs0F003	ディスク容量が不足し, 1 ページ分の書き込みができない	同上
xs0F004	引数不正	同上
xs0F005	非同期 write 出力要求時, ステータスフラグの取り出し, 及びセットの為 fcntl システムコールがエラーリターンした	同上
xs0M001	ページ使用中のときディレクトリ管理からページ未使用エラーが返された	同上
xs0M002	データ操作のロック要求で引数不正を検出した	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は, Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
xs0M003	8 バイトバウンダリ調整後のオブジェクト長に不正がある	同上
xs0M004	フリーページ時の割当てスロット数が 0 でない	同上
xs0M005	割当てスロット数と使用スロット数が異なるにもかかわらず, 削除スロットが存在しない	同上
xs0M006	スロットのオフセット値に不正がある	同上
xs0M007	ページ GET でエラーが発生した	同上
xs0M010	オブジェクトが存在しない	同上
xs0M012	ロード挿入ページサーチ時に新ページ以外のページが返された	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0M014	作業領域が確保されていない	同上
xs0M015	指定されていない物理オブジェクト形式が格納されている	同上
xs0M016	データ制御情報である使用スロット数が正しく格納されていない	同上
xs0M017	割当てたスロット番号とページ制御情報が一致しない	同上
xs0M019	インデクスメンテナンスおよびインデクスIDリスト作成関数から、引数不正エラーが返却された	同上
xs0M020	インデクスIDメンテナンスリスト作成関数から、不正なエラーコードが返されました	同上
xs0M021	インデクス再作成用インデクス情報レコード作成関数から、不正なエラーコードが返されました	同上
xs0M022	インデクスロード関数から、不正なエラーコードが返されました	同上
xs00000	ファイルオープン時、指定されたエリア番号が大きすぎます	同上
xs00001	オープンできるファイル数をオーバーしてオープンしようとしてしました	同上
xs0T001	Object Server の内部で続行不可能な障害が発生しました	同上
xs0T002	同上	同上
xs0T010	同上	同上
xs0T020	同上	同上
xs0T021	同上	同上
xs0T022	同上	同上
xs0T023	同上	同上
xs0T024	同上	同上
xs0T030	同上	同上
xs0T031	同上	同上
xs0T032	同上	同上
xs0T033	同上	同上
xs0T040	同上	同上
xs0T041	同上	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0T042	同上	同上
xs0T043	同上	同上
xs0T050	同上	同上
xs0T051	同上	同上
xs0T052	同上	同上
xs0T060	Cのライブラリ関数(fopen)でエラーが発生しました	同上
xs0T061	Cのライブラリ関数(fwrite)でエラーが発生しました	同上
xs0T062	Cのライブラリ関数(fputc)でエラーが発生しました	同上
xs0T070	Object Server の内部で続行不可能な障害が発生しました	同上
xs0T071	同上	同上
xs0T080	同上	同上
xs0T081	同上	同上
xs0T090	同上	同上
xs0T100	同上	同上
xs0T101	同上	同上
xs0T110	同上	同上
xs0x011	ワークファイルのオープン時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X012	ワークファイルの入力時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X013	ワークファイルの出力時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X014	物理オブジェクト NEXT 検索時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs0X015	物理オブジェクト NEXT 検索中断時のエラーコードに不正な値が返されました	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し、システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%¥spool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は、Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
xs0X016	インデクスエントリ追加時のエラーコードに不正な値が返されました	同上

コード	要因	ユーザの処置
xs0X017	ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました (インデクス ID が不正です)	同上
xs0X018	ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました (キーが上昇順ではありません)	同上
xs0X019	ワークファイルの上位エントリレコードの不正を検知しました (レコード数が不正です)	同上
xs0X020	新ページへのインデクスエントリ追加時に満杯を検知しました	同上
xs0X021	インデクス情報ファイル作成開始及びインデクス情報レコード作成関数のコールシーケンス不正を検知しました	同上
xs0X022	インデクス情報ファイル作成開始及びインデクス情報ファイル作成終了関数のコールシーケンス不正を検知しました	同上
xs0X023	OID インデクスへの追加時, 同一 OID を検知しました	同上
xs03001	ロック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs03002	アンロック時のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs03011	キャッシュ管理のエラーコードに不正な値が返されました	同上
xs03033	内部関数のエラーコードに不正な値が返されました	このコード及び直前に出力されている KFXO46999-E メッセージの内容を記録し, システム管理者に連絡してください。コアファイルが出力されている場合はコアファイルを保存してください。同時に%XODDIR%\\$pool ディレクトリ下に shmdump ファイルが出力されている場合は, Object Server を再起動する前に shmdump ファイルも同時に保存してください
xs03101	ユーザ用エリアにタイプがない, 又はインデクス用エリアにインデクスがない, 又はディレクトリ管理に対する入力情報に不正がありました	同上
xs03540	インデクスの定義情報に不正がありました	同上
xs03550	解放すべきインデクス管理情報が存在しません	同上
xs05003	グローバルキャッシュの用途が不正です	同上

(15) 詳細コード

Object Server の詳細コードは、Object Server を使用するプログラム、又は Object Server のメッセージに表示されるコードです。メッセージの説明に参照指示があったときには、次の表から対処を調べてください。

コード	要因	ユーザの処置
-106	このサーバは起動していません	システムが異常終了している場合は、異常終了時の対策をとってください
-450	このリソースは使用中です	操作を再実行してください
-452	デッドロックが発生しました	操作を再実行してください
-453	排他制御の待ち時間が経過して要求がキャンセルされました	操作を再実行してください
-454	排他資源が不足しています	システム共通定義の lck_limit の値を増やして、Object Server を再起動してください。又は、データベースの排他資源の使用数が多くならないように、エラーになった又は実行中の Groupmax アプリケーションプログラムの指定を見直してください
-714	最大接続プロセス数を超えました	クライアントの終了を待って再実行してください
-725	Object Server が終了処理中です	Object Server を再起動してください
-726	このサービスを提供するプロセスがありません	Object Server が動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください
-727	RPC 環境が開始されていません	Object Server が動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください
-734	共用メモリを確保していません	Object Server が動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください
-738	初期化できませんでした	次のどれかの方法で対処してください (1)Object Server が起動処理中の場合は、Object Server が動作してから操作を再実行してください (2)Object Server のシステムディレクトリを示す環境変数が正しいかどうか見直してください (3)メモリ不足の場合は、不要なプロセスを終了させて、再実行してください
-739	次の要因が考えられます (1)Object Server が起動されていません (2)ファイルシステム、メモリなどの資源不足によって接続できませんでした	Object Server が動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください。動作中の場合はファイル及びメモリ使用状況を調べ、不足していれば、不要ファイル又はプロセスを終了させてください
-741	開始時のモードが不正です	このアプリケーションを実行できる開始時のモードで Object Server を起動してください。
-742	他のユーティリティが動作中です	動作中のユーティリティが終了した後、操作を再実行してください
-905	関数は不当なコンテキストです	このプロセスを終了させて、再実行してください

コード	要因	ユーザの処置
-906	リソースマネージャにエラーが発生しました	メモリ不足のため、不要なプロセスを終了させて再実行してください
-907	次の要因が考えられます (1)Object Server がダウンしました (2)トランザクション管理領域のメモリ割り当てに失敗しました (3)並行して実行するトランザクション数の上限を越えました	(1)Object Server が動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください (2)メモリ不足の場合は、不要なプロセスを終了させて再実行してください (3)システム共通定義の trn_tran_process_count の値を増やして、Object Server を再起動してください。 trn_tran_process_count の値がクライアント数よりも多い場合は、メモリ不足のため、不要なプロセスを終了させて再実行させてください
-1814	サーバが起動していません	Object Server が動作中でない場合は、動作してから操作を再実行してください。Object Server をインストール後システムをリポートしていない場合は、リポートし直してから再実行してください
-1816	環境変数が設定されていません	Object Server のシステムディレクトリを示す環境変数が正しいかどうか見直してください
-1907	メッセージテキストファイル中に指定メッセージ ID が存在していない(Object Server が正しく組み込まれていない)	Object Server の組み込み手順に誤りがないか確認し、再実行してください
-1909	指定メッセージテキストファイルが存在しない(Object Server が正しく組み込まれていない)	Object Server の組み込み手順に誤りがないか確認し、再実行してください
-1910	メッセージテキストファイルの I/O エラー	ファイルの I/O エラーの要因を取り除き、再実行してください
-1911	メッセージテキストファイルのアクセス権限がない	誤ってアクセス権限が変更されていないか確認し、再実行してください
2 17	システム作業用メモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
83	ロックの取得に失敗しました	排他資源が不足している場合は、システム共通定義の lck_limit の値を増やして、オブジェクトサーバを再起動してください。その他の場合は、操作を再実行してください
85 166	システム作業用メモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
188	OID インデクスが定義されていない	OID インデクス用エリアを追加して、再実行してください
31030	フェッチ管理情報の割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
31055	指定したオブジェクトは既に削除されている	既に削除したオブジェクトの OID を指定していないか確認してください

コード	要因	ユーザの処置
32002	ディクショナリ操作でキャッシュが一杯です	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
32003	スキーマ定義中に OID をすべて使用しました	今後オブジェクトの生成はできません。オブジェクトの参照だけができます
32005	ディクショナリ操作でメモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
33001	ハッシュ登録時にメモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
33004	ハッシュディレクトリのサイズが大きくなり過ぎました	操作を再実行してください
34001	検索処理用のメモリの割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
34511	SCB 領域のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
34522	インデクス情報作成領域のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
35001	システム作業領域の割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
36001	カーソル処理用のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
40109	指定した OID がありません	既に削除されたオブジェクトの OID を指定していないか確認してください
40110	OID 指定のオブジェクトがありません	既に削除されたオブジェクトの OID を指定していないか確認してください
40111	オブジェクト転送領域のメモリ割り当てに失敗しました	不要なプロセスを終了させて、操作を再実行してください
42122	ロールバック処理が完了していない (KFXO42121-E エラーになったままインデクスの再作成が行われていない) インデクスをアクセスしました	Object Server の再開始時、トランザクションの異常終了時及び [データベースのバックアウト] ユティリティ、又は xodbkout コマンドでのインデクスのロールバック処理中に出力された KFXO42121-E エラーメッセージの対処に従ってください
42123	[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドが正常に終了していないためインデクスが正しく作成されていません。又は、アクセスしようとしたインデクスは、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティ (xodarint コマンド) で再初期化されたため未作成状態です	[データベースの再編成] ユティリティ、又は xodbreog コマンドの実行前に取得したバックアップによってデータベースを回復してください。又は、[データベースのエリアの再初期化] ユティリティ (xodarint コマンド) で出力された KFXO59104-I メッセージの対処に従って、[データベースの再編成] ユティリティ又は xodbreog コマンドを使用してインデクスを再作成するか、データベース全体を再編成してください
44110	連携するプログラムが、一つのプロセスから、90 個を超えたファイルにアクセスしました	本エラーが多発する場合は、Object Server の一つの初期設定パラメタで指定したマスタディレクトリ、

コード	要因	ユーザの処置
44110	連携するプログラムが、一つのプロセスから、90個を超えたファイルにアクセスしました	データディレクトリ、ディクショナリ、OID インデクスのファイルの総数と、連携する一つのプログラムが使用するエリアのファイルの総数との和が90個以下になるように、Object Server のデータベースを [データベースの初期化] ユティリティ、又は xodbinit コマンドで初期化し、再作成してください
4xyyy (x, y は 0~9 のどちらか)	Object Server の格納制御でエラーが発生しました。又は Object Server のオブジェクト管理の指定したパラメタに誤りがありました (内部矛盾発生)	Object Server のログメッセージを調査して、KFX04xnnn(4x はコードと共通。n は 0~9 のいずれか) のメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処に従ってください。出力されていない場合 (内部矛盾発生時) には、このコードの内容を記録して、システム管理者に連絡してください
上記以外	内部矛盾が発生しました	システム管理者に連絡してください

(16) errno のコード一覧

errno は、一つのコードで複数の要因を記述している場合があります。この場合は、そのエラーを出力した使用状況から要因を特定してください。

コード	要因
2	指定されたパス、又はファイルがありません
	指定された関数がありません
	ファイルシステムの破壊を検知しました
3	ファイルのアクセスに失敗しました
	指定された関数がありません
5	指定されたデバイスの入出力に失敗しました
6	デバイスが使用できません
	ファイルのオープンに失敗しました
	指定された関数がありません
11	スレッドの生成に失敗しました
12	メモリ不足が発生しました
13	アクセス権がありません
	ファイルは書き込み禁止です
	他のユーザにより該当ファイルは暗号化されています
	ディレクトリ又はファイルの作成に失敗しました
	ファイルのロックに失敗しました
14	メモリ破壊を検知しました
	メモリ不足が発生しました

コード	要因
17	指定されたファイルは、すでに作成されています
19	指定されたドライブがありません
21	ディレクトリの削除に失敗しました
	指定されたものは、ディレクトリです
22	指定された資源に対する操作が不正です。資源はすでに削除されています
	ファイルポインタの設定に失敗しました
	シグナルの操作に失敗しました
24	ファイルのオープンに失敗しました
	共用ファイルのオープン数が多すぎます
27	セマフォの操作に失敗しました
28	ディスクが満杯になりました
上記以外	このメッセージの直前にメッセージが表示されている場合はそのメッセージに従って対処してください。メッセージが表示されていない場合はシステム管理者に連絡してください。

付録 J Groupmax 環境設定のヘルプ

付録 J.1 通信環境の設定

(1) ポート番号の設定

Groupmax のサーバプログラムでは、ネットワーク環境に TCP/IP を使用しています。このため、オペレーティングシステムの通信設定ファイル (services ファイル) に、Groupmax の各サーバプログラムで使用するポート番号の設定が必要です。[ポート番号設定] ダイアログは、Groupmax のサーバプログラムで使用するポート番号とサービス名称を一括して通信設定ファイルに設定します。但し、既に通信設定ファイルに、使用するポート番号とサービス名が設定されていた場合は、設定されている番号を有効とします。また、複数のポート番号を使用するプロダクトで、一部のポート番号だけが通信設定ファイルに設定されていた場合、通信設定ファイル不正と判断し、そのプログラムを設定対象から除外します。通信設定ファイル (services ファイル) を参照し、エラーとなった原因をとり除いてください。

! 注意事項

通信設定ファイル (SERVICES) の内容不正で設定できない状態になる場合があります。この場合は、通信設定ファイル (SERVICES) 内の Groupmax サーバ関連のサービス名、ポート番号、および、コメントを全て削除した後、再実行をしてください。

プログラム名称の表示：

ポート番号とサービス名の設定が必要な Groupmax のサーバプログラムの名称一覧が表示されます。

設定対象の選択：

通信設定ファイル (services ファイル) にポート番号を設定するかどうか選択するためのチェックボックスです。Groupmax のサーバプログラムで使用するポート番号とサービス名が、既に通信設定ファイル (services ファイル) に設定されている場合は、そのプログラムの「設定対象」のチェックボックスをチェックすることはできません。

「設定対象」のチェックボックスをチェックした場合：

通信設定ファイル (services ファイル) へ設定する対象とします。

「設定対象」のチェックボックスをチェックしない場合：

通信設定ファイル (services ファイル) へ設定する対象としません。

ポート番号の表示：

Groupmax のサーバプログラムで使用するポート番号の推奨値を表示します。推奨値は変更することができますが、クライアントのポート番号の設定と同期して変更する必要があります。各サーバプログラムで使用するポート番号とサービス名が、既に通信設定ファイル (services ファイル) に設定されていた場合は、設定されていた番号を表示します。この時、番号を変更することはできません。

[設定] ボタン：

設定対象のポート番号とサービス名が通信設定ファイル (services ファイル) に格納されます。設定対象のポート番号が重複していた場合は、エラーメッセージを出し、全てのプログラムの設定処理を中止します。通信設定ファイル (services ファイル) を参照し、エラーとなったプログラムのポート番号を変更して、再度 [設定] ボタンを押下して下さい。

[キャンセル] ボタン

[ポート番号の設定] ダイアログの指定内容が無効になり、ダイアログボックスが閉じます。

(a) ポート番号とサービス名称

Groupmax のサーバプログラムのサービス名と推奨するポート番号は次のとおりです。

! 注意事項

Mail/Address Server で使用するサービス名称

- popcfg
- pop3
- imap

のポート番号は変更できません。

プログラム名称	サービス名称	推奨するポート番号	グルーピング
Address Server	p1am_tcp	7800/tcp	(a)
Mail Server	x400cfg_srv	7801/tcp	(b)
	x400cfg_agt	7802/tcp	(b)
	x400cfg_mng	7803/tcp	(b)
	popcfg	106/tcp	(c)
	pop3	110/tcp	(d)
	imap	143/tcp	(e)
	adrshd	20141/tcp	(f)
	上記以外	9000~9999/tcp	(a)
Mail Administrator Utilities	gadmutil	20017/tcp	(g)
Scheduler Server	ikisaki	20013/tcp	(h)
	appoman	20014/tcp	(h)
Facilities Manager	appoarea	20102/tcp	(h)
	roomman	20103/tcp	(h)
Document manager	infoshare	40005/tcp	(i)
Form Server	grpoa2sv	20006/tcp	(j)
Workflow Server	workflow	40076/tcp	(k)
Remote Installation Server	netmdm	30000/tcp	(n)
	netmdmw	30000/udp	(n)
	netmdmclt	30001/tcp	(n)
		30002/tcp	
System Manager - Extenson System Agent - Extension	smadmutil	20042/tcp	(o)
	smgetras	20043/tcp	(o)
	smrshd	20080/tcp	(p)
	smbkupsche	20074/tcp	(p)
	sysmngagt	20113/tcp	(q)
Agent Server	gmaxwasrv	20026/tcp	(l)
Agent Mail Option	agcscom	20027/tcp	(l)
Agent - Mail Server	agsrvcon	20028/tcp	(l)
Agent - Mail Function	aggml	20039/tcp	(l)
Agent - Document Manager	gmaxmasrv	20081/tcp	(m)

プログラム名称	サービス名称	推奨するポート番号	グルーピング
Agent - Workflow Server	gmaxmafsrv	20082/tcp	(m)
	gmaxdasrv	20083/tcp	(m)

※ ポート番号指定時のグルーピングについて

ポート番号は、同じ (x) を一つのグループとし、その単位に service ファイルに追記/更新しています。二個以上のポート番号が一つのグループにある場合、service ファイル内に一つでも欠けると、エラーメッセージを出力します。

付録 J.2 Object Server 簡易設定

(1) データベース定義ファイルとは

Object Server のデータベースを操作するためのシステム制御ファイルです。次のようなファイルがあります。

初期設定パラメタファイル：

データベースを初期化するための情報が記述されたファイルです。最初にデータベースを作成する場合に必要です。

構成変更パラメタファイル：

いったん初期化したデータベースの構成を変更するための情報が記述されたファイルです。データベース構成変更ユーティリティを使って、エリアを追加するなどの構成変更ができます。新たにプログラムを追加する場合に必要です。

再編成パラメタファイル：

オブジェクトの追加、削除によるデータベースのフラグメンテーションを解消して、オブジェクトを適切に配置し直すための情報が記述されたファイルです。再編成を実行すると、データベースのオブジェクトはいったんファイルにアンロードされてから、再びデータベースに登録されます。

再構成パラメタファイル：

オブジェクトの追加によるデータベースの再構成をするための情報が記述されたファイルです。再構成を実行すると、データベースのオブジェクトはいったんファイルにアンロードされてから、再びデータベースに登録されます。

システム共通定義ファイル：

Object Server のシステムに共通する環境を決めるための情報が記述されたファイルです。

(2) [Object Server 簡易設定] ダイアログ

[Object Server 簡易設定] ダイアログでは、Object Server または High-end Object Server のデータベース定義ファイルに対する操作種別を選択します。

オプションボタンの選択：

データベース定義ファイルの作成：

データベース定義ファイルを作成します。選択した場合、データベース定義ファイルの作成ダイアログが表示されます。

データベース定義ファイルの参照・更新：

作成済みのデータベース定義ファイルの内容を参照したり、更新したりします。選択した場合、データベース定義ファイルの参照・更新ダイアログが表示されます。

データベース定義ファイルの削除：

作成済みのデータベース定義ファイルの内容を削除します。選択した場合、データベース定義ファイルの削除ダイアログが表示されます。

システム環境への登録：

作成したデータベース定義ファイルをシステム環境に登録します。選択した場合、システム環境への登録ダイアログが表示されます。

[次へ>] ボタン：

オプションボタンで選択した項目に対するダイアログが表示されます。

[閉じる] ボタン：

[Object Server 簡易設定] ダイアログが閉じます。

(3) [データベース定義ファイルの作成] ダイアログ

[データベース定義ファイルの作成] ダイアログでは、データベース定義ファイルの種別を選択します。

パラメタ名称：

データベース定義ファイルに付与する 31 バイト以内の任意の名称を半角の英数字で入力します。既に存在するパラメタ名称を入力するとエラーになります。なお、画面上にはデフォルトのパラメタ名称が表示されます。

オプションボタンの選択：

データベース初期化用パラメタの作成：

システム導入後、最初にデータベースを作成する場合に選択します。データベースの初期設定パラメタファイルとシステム共通定義パラメタファイルを作成することができます。選択した場合、[システム構成の設定] ダイアログが表示されます。

データベース構成変更用パラメタの作成：

いったん初期化したデータベースに、新たにプログラムを追加する場合に選択します。データベースの構成変更パラメタファイルとシステム共通定義パラメタファイルを作成することができます。選択した場合、[システム構成の設定] ダイアログが表示されます。なお、既に初期化済みのプログラムに対するエリア追加の構成変更パラメタを作成することはできません。また、Windows 以外のパラメタを作成することはできません。

データベース再編成用パラメタの作成：

オブジェクトの追加、削除によるデータベースのフラグメンテーションを解消して、オブジェクトを適切に配置し直す場合に選択します。データベースの再編成パラメタファイルを作成することができます。選択した場合、[再編成パラメタの作成] ダイアログが表示されます。なお、Windows 以外のパラメタを作成することはできません。

データベース再構成用パラメタの作成：

オブジェクトの追加によるデータベースの再構成をする場合に選択します。データベースの再構成パラメタファイルを作成することができます。選択した場合、[再構成用パラメタの作成] ダイアログが表示されます。

[閉じる] ボタン：

データベース定義ファイルの作成機能を終了し、ダイアログボックスを閉じます。

[<戻る] ボタン：

[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

[次へ>] ボタン：

オプションボタンで選択した項目に対するダイアログが表示されます。

(a) [システム構成の設定] ダイアログ

[システム構成の設定] ダイアログは、データベース初期化用パラメタまたはデータベース構成変更用パラメタを作成するための情報を設定します。[データベース初期化用パラメタの作成] を選択して、このダイアログを開いた場合は、データベースの初期設定パラメタとシステム共通定義パラメタを作成します。[データベース構成変更用パラメタの作成] を選択している場合は、データベースの構成変更パラメタとシステム共通定義パラメタを作成します。

システム環境の設定：

システム内の全ユーザ数：

システム全体のユーザ数を選択します。なお、任意のユーザ数を直接入力することもできます。

このサーバに登録するユーザ数：

このサーバをホームサーバとするユーザ数を選択します。なお、任意のユーザ数を直接入力することもできます。

メモリサイズ：

ハードウェアに実装されたメモリサイズを入力します。

OS 種別：

作成したパラメタを使用してデータベースを運用する OS 環境を選択します。

性能優先モード(共用メモリ上限値拡大)：

共用メモリの上限値を拡大して性能向上するかを選択します。チェックすると、共用メモリ上限値を拡大します。

プログラムの選択：

データベース初期設定用パラメタを作成する場合は、使用するプログラムを選択します。データベース構成変更用パラメタを作成する場合は、追加するプログラムを選択します。

データベースの作成：

データベース名称：

データベースに付与するデータベース名称(スキーマ名称)を指定します。デフォルト値として 'gmax' が表示されています。データベース名称が既に登録されていた場合は、その名称を表示します。

データベースディレクトリ名称：

データベースを作成するディレクトリのパス名称を指定します。

[参照] ボタン：

ディレクトリ一覧から目的のディレクトリパス名称を選択することができます。ただし、OS 種別に Windows 以外を指定した場合には、[参照] ボタンは押下できず、手入力のみ可能となります。

プログラム毎の設定チェックボックス：

このチェックボックスを選択すると、プログラム毎に異なるディレクトリにデータベースを作成することができます。プログラム毎のデータベース作成ディレクトリのパス名称は [詳細設定] ダイアログで設定します。

[詳細] ボタン：

[詳細設定] ダイアログを表示します。

[オプション] ボタン：

Object Server(High-end Object Server)のオプションに関する設定です。[オプション設定] ダイアログを表示します。

[完了] ボタン：

データベース初期設定用パラメタまたはデータベース構成変更用パラメタを作成します。[完了] を押下すると [データベース容量の確認] ダイアログを表示します。

[キャンセル] ボタン：

パラメタの作成を行わずに、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

(b) データベース名称 (スキーマ名称)

データベースに付ける任意の名称です。次の文字を 63 バイト以内で指定して下さい。

- 1 バイトコードの英大文字, 英小文字, 数字及び ‘_’。
- 空白以外の 2 バイトコード

なお, ‘WF_’, ‘I S_’, ‘_’ で始まる名称及び ‘MA S T E R’ は使用できません。各プログラムの環境設定でも, ここで指定したデータベース名称と同じ名称を指定する必要があります。

(c) [詳細設定] ダイアログ

[詳細設定] ダイアログでは, [システム構成の設定] で指定した内容から算出した各プログラム固有のパラメタを参照したり, 更新したりすることができます。

プログラム固有のパラメタ：

想定するシステム構成に合わせて, 次のパラメタを変更することができます。

電子アドレス帳：

- 全組織数
- 1 人あたりのユーザ任意情報の定義数の平均

メール：

- 送信メール 1 通あたりの宛て先数の平均
- 全マスタ掲示板数
- 1 つのメールボックスが保持する受信メール数の平均
- 1 人が 1 日に送信するメール数の平均
- サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均
- E-mail アドレスの平均長

文書管理：

- 1 ユーザあたりの同時アクセス文書数
- 全フォーム文書数
- 文書あたりに保持するバージョン数
- 分類, 分類索引の総数
- 全一般文書数 (旧: 全文書数(一般文書のみ))
- フォーム文書データベース数
- 一般文書データベース数

- 配布文書グループ数
- 配布で取り込まれた文書の総数
- 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値
- フォルダ数
- 同時ログインユーザ数
- 複数グループアクセス権機能

ワークフロー：

ここで求められる値は1サーバの値です。workflowの複数サービス機能（HP-UXのみ）を使用する場合は、各サーバの値で作成した個々のカーネルパラメタ変更情報ファイルを手作業でマージする必要があります。

- 1日あたりのワーク数
- ワーク処理日数
- ワーク保存日数
- 1ビジネスプロセスあたりのノード数
- ビジネスプロセス定義数
- ワーク内のケース数
- ケース内の文書数
- ロール数
- 最大ログインユーザ数
- ユーザ内ヒストリ数
- 1ユーザあたりの同時接続セッション数
- キャッシュメモリサイズ
- ワークフローデータベースへの同時アクセス数
- マルチサーバの総サーバ数
- 管理者用最大ログインユーザ数
- ワーク ID 採番用管理情報遅延機能
- 1日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数
- 1日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数
- Workflowの環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で設定した値
- ワーク下のオブジェクト数（最大値）

エージェント：

- 同時に動作するエージェント数（クラス B）
- 同時に動作するエージェント数（クラス C）
- 接続する PP サーバ数の最大
- 同時に接続するユーザ数の最大

スケジュール管理/施設管理：

- ユーザが所属する組織の数（旧：全組織数）

- 施設が所属する組織の数
- 当該サーバに登録する施設数
- ユーザに登録する組織の階層数の最大値
- 施設に登録する組織の階層数の最大値 (旧: 施設に登録した全階層数)

データベースディレクトリ名称:

データベースを作成するディレクトリのパス名称を指定します。[システム構成の設定] ダイアログでプログラム毎の設定チェックボックスを選択した場合のみ、指定することができます。

[参照] ボタン:

ディレクトリ一覧から目的のディレクトリパス名称を選択することができます。ただし、OS 種別に Windows 以外を指定した場合には、[参照] ボタンは押下できず、手入力のみ可能となります。

[デフォルト] ボタン:

アクティブウィンドウ (一番前に表示しているウィンドウ) のプログラムのパラメタの設定値を、[システム構成の設定] ダイアログの内容からシステムが算出したデフォルト値に戻します。

[更新] ボタン:

設定した値を有効にして、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン:

設定した情報を無効にして、[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

(d) 全組織数

1人以上のユーザから構成される集まりが組織であり、会社の構造に例えると部や課に相当します。この組織の総数を指定します。

(e) 1人あたりのユーザ任意情報の定義数の平均

見出し(項目)の数を指定します。

ユーザ任意情報を使用しない場合は1を指定します。

(f) 送信メール1通あたりの宛先数の平均

メールを送信する場合の宛て先数の平均値を入力します。個人メール中心であれば1~2、業務上、宛先数が多いことが判明している場合は、その値を指定します。

(g) 全マスタ掲示板数

掲示物を登録するものが掲示板であり、マスタ掲示板とレプリカ(マスタ掲示板の複写)掲示板から構成されます。全ての掲示板のうち、レプリカ掲示板を除いた掲示板の総数を指定します。

(h) 1つのメールボックスが保持する受信メール数の平均

メールボックスは組織、ユーザ単位に作成します。この1つのメールボックスが保持する受信メール数の平均を指定します。

(i) 1人が1日に送信するメール数の平均

1人のユーザが1日に送信するメール数の平均を指定します。

(j) サーバ1台が1日あたりに受信するメール数の平均

1つのサーバが1日に受信するメール数の平均を指定します。

(k) E-mail アドレスの平均長

E-mail アドレスの平均長を指定します。

(l) 1 ユーザあたりの同時アクセス文書数

ログイン時に操作する一般文書とフォーム文書の平均数を指定します。

(m) 全フォーム文書数

全てのフォーム文書データベースに格納される文書の総数を指定します。

(n) 文書あたりに保持するバージョン数

一般文書がもてるバージョン数です。

文書管理サーバの環境設定「文書の最大バージョン数」に設定した値を指定します。

(o) 分類, 分類索引の総数

分類索引とは、一般文書を分類する第二の分類体系です。

サーバに対し複数体系定義することができます。

また、分類とは分類索引を構成する節のことです。

ここでは、分類索引と分類の総数を指定します。

(p) 全一般文書数 (旧: 全文書数(一般文書のみ))

全ての一般文書データベースに格納される文書の総数を指定します。

(q) フォーム文書データベース数

フォーム文書データベースとは、日報などの定型文書の情報を主体に管理するデータベースです。

定型文書の種類毎にフォーム文書データベースを定義して使用します。

一般文書データベースと同様、上記定型文書固有の情報はユーザ定義属性として定義します。

属性の登録には Groupmax Form で作成したフォーム(電子帳票)を使用します。

アプリケーションファイルは添付ファイルとして操作できます。

ここでは、このフォーム文書データベースの総数を指定します。

(r) 一般文書データベース数

文書データベースとは、議事録や営業日報など目的別に分類した文書のまとまりを管理する単位で、一般文書データベースとフォーム文書データベースから構成されています。

このうち一般文書データベース数を指定します。

(s) 配布文書グループ数

あるサーバに存在する一般文書を別のサーバに配布することを文書配布といい、元のサーバを配布元サーバ、配布されるサーバを配布先サーバといいます。

文書配布は配布元サーバで配布対象となる文書群を定義することで可能となります。

これらの文書群を文書配布対象グループといいます。

ここでは、この文書配布対象グループの総数を指定します。

(t) 配布で取り込まれた文書の総数

文書配布機能を使用して取り込まれる一般文書の総数を指定します。

配布先サーバでは、一般文書数は本総数を含みます。

(文書配布で取り込まれる文書の総数 \leq 一般文書数)

(u) 1つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値

一般文書データベースにユーザ固有の情報を定義することができます。

この情報をユーザ定義属性と呼びます。

例えば「会議録」データベースに開催日といった属性を定義できます。

ここでは、一般文書データベースに登録する文字列型のユーザ定義属性の定義数の平均値を指定します。

(v) 1つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値

フォーム文書データベースも一般文書データベースと同様、可変長文字列型(フォームの項目の定義ではリッチテキストを含む)の定義数の平均値を設定します。

(w) フォルダ数

フォルダとは、一般文書を分類する第一の分類体系です。

サーバに対し1体系存在します。

このフォルダは物理的格納位置(OSのファイルシステムのディレクトリ)との対応付けが可能です。

ここでは、サーバ上に作成されるフォルダの総数を指定します。

(x) 複数グループアクセス権機能

文書データベース中に、複数グループアクセス権機能で使用するかを指定する。

(y) 1日あたりのワーク数

1日の投入件数の平均値を指定します。

(z) ワーク処理日数

ソースノードから投入した回覧データがシンクノードで終了するまでの平均処理日数を指定します。

(aa) ワーク保存日数

終了したワークを保存する日数を指定します。保存日数を過ぎたワークはワーク削除ユーティリティで削除することができます。

(ab) 1ビジネスプロセスあたりのノード数

ビジネスプロセス上で、ユーザまたはシステムが何らかの処理をする場所をノードと呼びます。ビジネスプロセス上の平均ノード数を指定します。

(ac) ビジネスプロセス定義数

基本フローモデルに基づいて表現した業務の流れをビジネスプロセスと呼びます。このビジネスプロセス定義の総数を指定します。

(ad) ワーク内のケース数

ワークフローで閲覧される文書又はメモを格納する入れ物をケースと呼びます。ケースには、ビジネスプロセス定義で定義するケースの他にシステムが自動的に作成するルートケースがあります。ワーク内の平均ケース数を指定します。

(ae) ケース内の文書数

ケースに格納して送付する書類を文書と呼びます。文書は、各種アプリケーション固有の形式で作成された文書実体ファイルと、文書全体を管理する文書オブジェクトで構成されます。ケースに格納する平均文書数を指定します。

(af) ロール数

ロールは仕事をする上での役割です。複数のユーザをロールとしてグループ化し、ビジネスプロセス定義のノード上の作業員として割り当てることができます。このロールの総数を指定します。

(ag) 最大ログインユーザ数

同時にログインするユーザ数の最大値を指定します。

- Groupmax Workflow Server の場合は、1～1,000 の範囲で指定します。
- Groupmax High-end Workflow Server の場合は、1～4,096 の範囲で指定します。

(ah) ユーザ内履歴数

ユーザ履歴の取得最大数を指定します。

ユーザ履歴は、ユーザ単位に取得する案件の投入、遷移、相談、回答、差し戻し、引き戻しの作業履歴です。一つの操作ごとに一つのユーザ履歴が取得され、ユーザ履歴取得最大数の数だけ保持されます。

(ai) 1 ユーザあたりの同時接続セッション数

1 ユーザあたりに同時に接続するセッションする数の平均値を指定します。

(aj) キャッシュメモリサイズ

アドレス情報をキャッシュするメモリサイズを指定します。単位は MB です。

(ak) ワークフローデータベースへの同時アクセス数

Groupmax High-end Workflow Server からワークフローデータベースへ同時にアクセスする数を指定します。(セッション確立要求データベース同時アクセス数) + (案件一覧表示要求データベース同時アクセス数) + 2 以上の値を指定してください。

(al) マルチサーバの総サーバ数

マルチサーバ構成時のサーバ数を指定する。ジングルサーバ構成の場合は '0' を指定する。

(am) 管理者用最大ログインユーザ数

Windows の場合

64 (固定) を指定します。

HI-UX/WE2,HP-UX および AIX の場合

同時にログインする管理者用ログインユーザ数の最大値を指定します。

(an) ワーク ID 採番用の管理情報遅延機能

ワーク ID 採番用管理情報遅延機能を使用するかを指定する。

(ao) 1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数

1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数を指定します。

(ap) 1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数

1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数を指定します。

ただし、ワークフローの 1 日あたりのワーク数の内数で指定します。

(aq) Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で設定した値

Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で指定した値を指定します。

単位は分です。

(ar) ワーク下のオブジェクト数 (最大値)

ワーク下のオブジェクト数 (最大値) を指定します。

ワーク下のオブジェクト数は、次の計算式で求めてください。

ワーク内ケース定義数×(ケース内文書数+ケース内メモ数)×複写ノードでの送付先総数

! 注意事項

複写ノードがない場合、複写ノードでの送付先総数は 1 としてください。

複写ノードをループする場合も考慮して加算してください。

(as) 同時に動作するエージェント数 (クラス B)

同時に動作させるクラス B のエージェントの数を指定します。

(at) 同時に動作するエージェント数 (クラス C)

同時に動作させるクラス C のエージェントの数を指定します。

(au) 接続する PP サーバの最大

エージェントサーバに接続する最大 P P サーバ数を指定します。

(av) 同時に接続するユーザ数の最大

エージェントサーバに同時に接続する最大ユーザ数を指定します。

(aw) ユーザが所属する組織の数 (旧: 全組織数)

1人以上のユーザから構成される集まりが、組織であり、会社の構造にたとえると部や課に相当します。この組織の総数を指定します。

(ax) 施設が所属する組織の数

1箇所以上の施設から構成される集まりが、組織であり、会社の構造にたとえると部や課に相当します。この組織の総数を指定します。

(ay) 当該サーバに登録する施設数

会議室や体育館などの施設の総数を指定します。

(az) ユーザに登録する組織の階層数の最大値

ユーザに登録する組織を階層化したときの階層数の最大値を指定します。

(ba) 施設に登録する組織の階層数の最大値 (旧: 施設に登録した全階層数)

施設に登録する組織を階層化したときの階層数の最大値を指定します。

(bb) [オプション設定] ダイアログ

[オプション設定] ダイアログでは、Object Server 及び High-end Object Server の必須指定項目を参照したり、更新したりすることができます。

[システム構成の設定] ダイアログで、プログラムの選択で Object Server か High-end Object Server を選択することにより、指定できる定義内容が異なります。

Object Server を選択した場合は、簡易ジャーナルファイル名のみ参照・更新できます。

High-end Object Server を選択した場合は、ステータスサービス定義の設定及びシステムジャーナルサービス定義の設定の参照、更新できます。また、HP-UX のみ、マルチサービス対応の設定ができます。

(bc) Object Server 指定**(1) 簡易ジャーナルファイル名**

簡易ジャーナルファイルの出力先のファイル名を設定します。

(Windows 指定の場合)

デフォルト値として“(Object Serverのインストールディレクトリ)¥SP00L¥jnlfile”が表示されます。デフォルト以外のディレクトリに変更指定する場合、“(ObjectServerのインストールディレクトリ)”のパスを含まないディレクトリを指定するようにしてください。

また、“(Object Serverのインストールディレクトリ)¥SP00L¥jnlfile”以外を指定するときは、存在するファイルを指定しないでください。

(HI-UX/WE2,HP-UX および AIX 指定の場合)

デフォルト値は、スペースが表示されます。

[参照] ボタン:

ディレクトリ一覧から目的のディレクトリパス名称を選択することができます。ただし、OS 種別に Windows 以外を指定した場合には、[参照] ボタンは押下できず、手入力のみ可能となります。

(bd) High-end Object Server 指定

(1) ステータスサービス定義の設定

Hi-end Object server 環境下で動作する各システム状態を管理するための情報を表示します。

●論理ファイル名

ステータスの論理ファイル名が表示されます。

●A系ステータスファイル名 (ディレクトリ指定)

●B系ステータスファイル名 (ディレクトリ指定)

論理ファイルを構成するA系及びB系ステータスファイル名が表示されます。

論理ファイルおよびステータスファイルのデフォルト値として、以下のように表示されます。

Windows の場合

- 論理ファイル名 : `stsfile1`

A系ステータスファイル名 : `f:¥0BJSVFILE¥XODFILESTS1¥(論理ファイル名)A`

B系ステータスファイル名 : `g:¥0BJSVFILE¥XODFILESTS2¥(論理ファイル名)B`

- 論理ファイル名 : `stsfile2`

A系ステータスファイル名 : `f:¥0BJSVFILE¥XODFILESTS1¥(論理ファイル名)A`

B系ステータスファイル名 : `f:¥0BJSVFILE¥XODFILESTS1¥(論理ファイル名)B`

- 論理ファイル名 : `stsfile3`

A系ステータスファイル名 : `g:¥0BJSVFILE¥XODFILESTS2¥(論理ファイル名)A`

B系ステータスファイル名 : `g:¥0BJSVFILE¥XODFILESTS2¥(論理ファイル名)B`

HI-UX/WE2,HP-UX および AIX の場合

- 論理ファイル名 : `stsfile1`

A系ステータスファイル名 : `/0BJSVFILE1/XODFILESTS1/(論理ファイル名)A`

B系ステータスファイル名 : `/0BJSVFILE2/XODFILESTS2/(論理ファイル名)B`

- 論理ファイル名 : `stsfile2`

A系ステータスファイル名 : `/0BJSVFILE1/XODFILESTS1/(論理ファイル名)A`

B系ステータスファイル名 : `/0BJSVFILE1/XODFILESTS1/(論理ファイル名)B`

- 論理ファイル名 : `stsfile3`

A系ステータスファイル名 : `/0BJSVFILE2/XODFILESTS2/(論理ファイル名)A`

B系ステータスファイル名 : `/0BJSVFILE2/XODFILESTS2/(論理ファイル名)B`

[追加] ボタン :

「ステータスサービス定義の設定」ダイアログが表示され、ステータスファイルの追加を行います。

論理ファイル及びステータスファイルは最大7個まで登録することができます。

[削除] ボタン :

現在選択されているステータスファイルの情報を削除します。

[修正] ボタン :

現在選択されているステータスファイルの情報を「ステータスサービス定義の設定」ダイアログにより修正します。

(1)-(a) 「ステータスサービス定義の設定」ダイアログ

「オプション設定」のステータスサービス定義の設定で選択されたボタンにより、ステータスファイルの追加及び修正を行います。

●論理ファイル名

ステータスファイルの論理ファイル名を 1～8 バイトの半角英数字、及び半角の ' _ ' で指定してください。

●A 系ステータスファイル名 (ディレクトリ指定)

●B 系ステータスファイル名 (ディレクトリ指定)

論理ファイルを構成する A 系及び B 系ステータスファイル名を 63 バイト以下のドライブ名から始まる絶対パス名で指定してください。

※ 性能および運用の観点から、ステータスファイルはデータベースが格納されているドライブとは別のディスクに作成することを推奨する。

ハードディスクの障害によりすべてのステータスファイルが障害とならないようにするため、A 系ファイル名と B 系ファイル名はできるだけ別ディスクに作成することを推奨する。また、それぞれの論理ファイルも、できるだけ別ディスクに作成することを推奨する。

※ すべてのステータスファイルが障害となった場合、high-end Object Server は異常終了して、自動再開始が行えない状態となる。

[OK] ボタン:

設定を有効にして、「オプション設定」ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン:

設定を無効にして、「オプション設定」ダイアログに戻ります。

※ A 系、B 系ステータスファイルのレコード数は 32 固定となる。High-end Object Server は、レコード数 32 を超えて使用しないので、生成されたパラメタを変更する必要はない。

(2) システムジャーナルサービス定義の設定

Hi-end Object server 環境下で使用するシステムジャーナルに関する情報を表示します。

●ファイルグループ名

システムジャーナルファイルのグループ名が表示されます。

●物理ファイル名

ファイルグループを構成する物理ファイル名が表示されます。

●レコード数

初期設定するレコード数が表示されます。

システムジャーナルファイルのデフォルト値として、以下のように表示されます。

開始状態はすべてオープンとなります。レコード数はすべて、25000 になっています。

Windows の場合

- グループ名: jnlfile1 物理ファイル名: f:%0BJSVFILE%XODFILEJNL1%jnlfile1
- グループ名: jnlfile2 物理ファイル名: f:%0BJSVFILE%XODFILEJNL1%jnlfile2
- グループ名: jnlfile3 物理ファイル名: f:%0BJSVFILE%XODFILEJNL1%jnlfile3
- グループ名: jnlfile4 物理ファイル名: f:%0BJSVFILE%XODFILEJNL1%jnlfile4
- グループ名: jnlfile5 物理ファイル名: g:%0BJSVFILE%XODFILEJNL2%jnlfile5
- グループ名: jnlfile6 物理ファイル名: g:%0BJSVFILE%XODFILEJNL2%jnlfile6
- グループ名: jnlfile7 物理ファイル名: g:%0BJSVFILE%XODFILEJNL2%jnlfile7
- グループ名: jnlfile8 物理ファイル名: g:%0BJSVFILE%XODFILEJNL2%jnlfile8

HI-UX/WE2,HP-UX および AIX の場合

- グループ名：jnlfile1 物理ファイル名：/OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile1
- グループ名：jnlfile2 物理ファイル名：/OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile2
- グループ名：jnlfile3 物理ファイル名：/OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile3
- グループ名：jnlfile4 物理ファイル名：/OBJSVFILE1/XODFILEJNL/jnlfile4
- グループ名：jnlfile5 物理ファイル名：/OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile5
- グループ名：jnlfile6 物理ファイル名：/OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile6
- グループ名：jnlfile7 物理ファイル名：/OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile7
- グループ名：jnlfile8 物理ファイル名：/OBJSVFILE2/XODFILEJNL/jnlfile8

[追加] ボタン：

「システムジャーナルサービス定義の設定」ダイアログが表示され、ジャーナルファイルの追加を行うことができます。

ジャーナルファイルは最低 2 個、最大 30 個まで登録することができます。

[削除] ボタン：

現在選択されているジャーナルファイルの情報を削除します。

[修正] ボタン：

現在選択されているステータスファイルの情報を「システムジャーナルサービス定義の設定」ダイアログにより修正します。

(2)-(a) [システムジャーナルサービス定義の設定]ダイアログ

[オプション設定] のシステムジャーナルサービス定義の設定で選択されたボタンにより、システムジャーナルファイルの追加及び修正を行います。

●ファイルグループ名

ジャーナルファイルのグループ名を 1～8 バイトの半角英数字' で指定してください。但し、先頭文字に数字を使用することはできません。

●物理ファイル名

ファイルグループを構成する物理ファイル名を 63 バイト以下のドライブ名から始まる絶対パス名で指定してください。

※ 性能および運用の観点から、物理ファイルはデータベースが格納されているドライブとは別のディスクに作成することを推奨します。ハードディスクの障害によりすべての物理ファイルが障害とならないようにするため、複数のディスクに物理ファイルを作成することを推奨します。

●レコード数

初期設定するレコード数(20～262144)を指定してください。

デフォルト値として 25000 が表示されます。

● [OK] ボタン

設定を有効にして、「オプション設定」ダイアログに戻ります。

● [キャンセル] ボタン

設定を無効にして、「オプション設定」ダイアログに戻ります。

(3) マルチサービス対応の設定(HP-UX のみ)

マルチサービス機能を使用するかの指定をします。

● [マルチサービス対応] チェックボックス

マルチサービス対応の使用可否をチェックボックスにて設定します。

●OMS 識別子

オブジェクトサーバを識別する記号を設定します。

マルチサービス対応の使用可否をチェックボックスにて設定します。

先頭が半角英字である半角英数字 2 文字で指定してください。

[OK] ボタン：

設定した値を有効にして，[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン：

設定した情報を無効にして，[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

(be) [データベース容量の確認] ダイアログ

[データベース容量の確認] ダイアログでは，作成するデータベース容量を確認することができます。データベースを作成するディスクの容量が不足していてもパラメタを作成することはできますが，Object Server 管理ツールのデータベース環境設定ユーティリティを起動するまでにディスクの空き容量を確保する必要があります。なお，データベース容量を小さくしたい場合は，[システム構成の設定] ダイアログまたは [詳細設定] ダイアログの設定値を見直して下さい。メール/電子アドレス帳では「ユーザ数」，文書管理では「全文書数」，ワークフローでは「1 日あたりのワーク数」がデータベース容量に大きく影響します。

必要なディスク容量：

データベースを作成する時に必要となるディスク容量をドライブ単位(Windows 指定の場合)または，プログラム毎(HI-UX/WE2,HP-U Xおよび AIX 指定の場合)に表示します。プログラム毎に必要なディスク容量が 200GB を超過した場合は，エラーとなり，「*****」を表示します。

ディスク空き容量：

データベースを作成するドライブのディスク空き容量を表示します。

[OK] ボタン：

データベース初期化用パラメタまたはデータベース構成変更用パラメタを作成します。作成したパラメタはファイルとして格納されます。作成完了後，[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン：

データベース初期化用パラメタまたはデータベース構成変更用パラメタを作成せずに，[システム構成の設定] ダイアログに戻ります。

(bf) Object Server 管理ツール

[Groupmax サーバ (共通)] ウィンドウ内に提供されており，Object Server で使用するユーティリティが格納されています。ユーティリティには，「データベースの環境設定」や「データベースの再編成」などがあります。

(bg) [再編成パラメタの作成] ダイアログ

[再編成パラメタの作成] ダイアログは，データベースへのオブジェクトの追加，削除によって生じたオブジェクト配置の乱れを再編成するためのパラメタを作成することができます。なお，Windows 以外のパラメタを作成することはできません。

アンロードファイルを作成するディレクトリ名称：

データベースを再編成用のアンロードファイルを作成するディレクトリのパス名称を指定します。デフォルト値として，(Object Server のインストールディレクトリ)¥SPOOL¥WORK が表示されます。

[参照] ボタン：

ディレクトリ一覧から目的のディレクトリパス名称を選択することができます。

[完了] ボタン：

入力されたパラメタ名称でデータベースの再編成パラメタを作成します。
作成完了後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン：

再編成パラメタの作成を行わずに、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

(bh) [再構成パラメタの作成] ダイアログ

[再構成パラメタの作成] ダイアログは、データベースへのオブジェクトの追加によって再構成するためのパラメタを作成することができます。

パラメタ名称：

データベース定義ファイルに付与した名称一覧から、参照・更新するパラメタを選択するか、または直接入力します。存在しないパラメタ名称を入力した場合はエラーとなります。パラメタ名称を選択、または入力すると、パラメタを作成した種別（初期化、構成変更、再編成、再構成のいずれか）と日付が表示されます。

選択できるのは、作成した種別が初期化のものだけです。

アンロードファイルを作成するディレクトリ名称：

データベースを再構成用のアンロードファイルを作成するディレクトリのパス名称を指定します。
デフォルト値として、以下のように表示されます。

Windows の場合

- (Object Serverのインストールディレクトリ)¥SPPOOL¥WORK

HI-UX/WE2,HP-UX および AIX の場合

- /usr/OMSDB

[参照] ボタン：

ディレクトリ一覧から目的のディレクトリパス名称を選択することができます。

[<戻る] ボタン：

[データベース定義ファイルの作成] ダイアログに戻ります。

[次へ>] ボタン：

[システム構成の設定] ダイアログが表示されます。

(4) [データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログ

[データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログは、作成済みのデータベース定義ファイルの設定内容を参照したり、一部の設定情報を更新したりすることができます。

パラメタ名称：

データベース定義ファイルに付与した名称一覧から、参照・更新するパラメタを選択するか、または直接入力します。存在しないパラメタ名称を入力した場合はエラーとなります。パラメタ名称を選択、または入力すると、パラメタを作成した種別（初期化、構成変更、再編成、再構成のいずれか）と日付が表示されます。

[<戻る] ボタン：

[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

[次へ>] ボタン：

[システム構成の設定] ダイアログが表示されます。

(5) [データベース定義ファイルの削除] ダイアログ

[データベース定義ファイルの削除] ダイアログは、作成済みのデータベース定義ファイルを削除することができます。

パラメタ名称：

データベース定義ファイルに付与した名称一覧から、参照・更新するパラメタを選択するか、または直接入力します。存在しないパラメタ名称を入力した場合はエラーとなります。パラメタ名称を選択、または入力すると、パラメタを作成した種別（初期化、構成変更、再編成、再構成のいずれか）と日付が表示されます。

[削除] ボタン：

選択したパラメタを削除した後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。パラメタを格納したディレクトリ下にパラメタファイル以外のファイルが存在すると削除がエラーとなります。ディレクトリ下の内容を確認してエラーの要因を取り除いて下さい。

[キャンセル] ボタン：

パラメタを削除しないで、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

(6) [システム環境への登録] ダイアログ

作成したデータベース定義ファイルをシステム環境に登録します。システム環境に登録すると、Object Server 管理ツール内の各ユティリティに、ここで作成したパラメタを引き継ぐことができます。なお、[システム構成の設定] ダイアログで OS 種別に Windows 以外を指定してデータベース定義ファイルを作成した場合には、システム環境への登録はできません。

パラメタ名称：

データベース定義ファイルに付与した名称一覧から、参照・更新するパラメタを選択するか、または直接入力します。存在しないパラメタ名称を入力した場合はエラーとなります。パラメタ名称を選択、または入力すると、パラメタを作成した種別（初期化、構成変更、再編成、再構成のいずれか）と日付が表示されます。

[登録] ボタン：

選択したパラメタをデータベース定義ファイルをシステム環境に登録した後、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン：

パラメタを登録しないで、[Object Server 簡易設定] ダイアログに戻ります。

(7) パラメタファイルの格納

作成したパラメタは次のディレクトリ下に格納されます。

(Object Serverインストールディレクトリ)

```

├── ¥eset
│   └── ¥usr - データベース定義ファイル格納ディレクトリ
│       └── ¥(パラメタ名称)
│           ├── ¥esetrc.txt - システム共通定義パラメタファイル
│           ├── ¥esetinit.txt - 初期設定パラメタファイル
│           ├── ¥esetcons.txt - 構成変更パラメタファイル
│           ├── ¥esetreog.txt - 再編成パラメタファイル
│           ├── ¥esetreco.txt - 再構成パラメタファイル
│           ├── ¥esetsts.txt - ステータスサービス定義ファイル
│           ├── ¥esetjnl.txt - システムジャーナルサービス定義ファイル
│           ├── ¥esetknl.txt - カーネルパラメタの変更情報通知ファイル
│           └── ¥DBSINT.BAT - システムファイル作成用バッチファイル

```

データベース初期化用パラメタの場合、esetrc.txt と esetinit.txt が作成されます。なお、パラメタ作成時の OS 種別に Windows 以外を指定した場合のみ、esetknl.txt が作成されます。データベース構成変更用パラメタの場合、esetrc.txt と esetcons.txt が作成されます。データベース再編成用パラメタの場合、esetreog.txt が作成されます。データベース再構成用パラメタの場合、esetrc.txt と esetreco.txt が作成されます。

付録 J.3 カーネルパラメタ情報設定

(1) [カーネルパラメタの作成] ダイアログ

[カーネルパラメタの作成] ダイアログでは、HI-UX/WE2、HP-UX および AIX サーバで用いるカーネルパラメタ変更情報ファイルに対する情報を指定します。

パラメタ名称入力エリア：

カーネルパラメタファイルに付与する論理的な名称を入力します。

既に存在するパラメタ名称を入力した場合、エラーとなります。

パラメタ名称の長さは 1～31 バイトとします。使用可能な文字は半角英数字（小文字は大文字として扱います。）です。デフォルト値として、“myhost” が表示されます。

[閉じる] ボタン：

[カーネルパラメタの作成] ダイアログを終了し、[カーネルパラメタ情報設定] ウィンドウに戻ります。

[次へ>] ボタン：

[カーネルパラメタ設定] ダイアログを開きます。

(2) [カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログ

[カーネルパラメタの参照・更新] ダイアログは、作成済みのカーネルパラメタ変更情報ファイルの設定内容を参照したり、一部の設定情報を更新したりすることができます。

パラメタ名称：

カーネルパラメタ変更情報ファイルに付与した名称一覧から、参照・更新するパラメタを選択するか、または直接入力します。存在しないパラメタ名称を入力した場合はエラーとなります。パラメタ名称を選択、または入力すると、パラメタを作成した種別（初期化、構成変更、再編成、再構成のいずれか）と日付が表示されます。

[<戻る] ボタン：

[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

[次へ>] ボタン：

[カーネルパラメタ設定] ダイアログが表示されます。

(3) [カーネルパラメタの削除] ダイアログ

[カーネルパラメタの削除] ダイアログは、作成済みのカーネルパラメタ変更ファイルを削除することができます。

パラメタ名称：

カーネルパラメタ変更情報ファイルに付与した名称一覧から、削除パラメタを選択するか、または直接入力します。存在しないパラメタ名称を入力した場合はエラーとなります。パラメタ名称を選択、また

は入力すると、パラメタを作成した種別（初期化、構成変更、再編成、再構成のいずれか）と日付が表示されます。

[削除] ボタン：

選択したパラメタを削除した後、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。パラメタを格納したディレクトリ下にパラメタファイル以外のファイルが存在すると削除がエラーとなります。ディレクトリ下の内容を確認してエラーの要因を取り除いて下さい。

[キャンセル] ボタン：

パラメタを削除しないで、[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログに戻ります。

(4) [カーネルパラメタ情報設定] ダイアログ

[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログでは、HI-UX/WE2,HP-UX および AIX サーバで用いるカーネルパラメタ変更情報ファイルに対する操作種別を選択します。

オプションボタンの選択：

カーネルパラメタの作成：

カーネルパラメタ変更情報ファイルを作成します。選択した場合、カーネルパラメタの作成ダイアログが表示されます。

カーネルパラメタの参照・更新：

作成済みのカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容を参照したり、更新したりします。選択した場合、カーネルパラメタの参照・更新ダイアログが表示されます。

カーネルパラメタの削除：

作成済みのカーネルパラメタ変更情報ファイルの内容を削除します。選択した場合、カーネルパラメタの削除ダイアログが表示されます。

[次へ>] ボタン：

オプションボタンで選択した項目に対するダイアログが表示されます。

[閉じる] ボタン：

[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログが閉じます。

(5) [カーネルパラメタ設定] ダイアログ

[カーネルパラメタ設定] ダイアログは、HI-UX/WE2, HP-UX および AIX 用のカーネルパラメタ変更情報ファイルを設定します。

基本的に [システム構成の設定] ダイアログと同じです。

相違点を以下に示します。

- OS 種別
HI-UX/WE2, HP-UX, 及び AIX のどれかを選択します。
- データベースの作成
データベースは作成しないため、淡色表示になります。

[完了] ボタン：

[カーネルパラメタ設定] ダイアログを終了し、[Groupmax 設定] ウィンドウに戻ります。

[キャンセル] ボタン：

[カーネルパラメタ変更情報作成] ダイアログに戻ります。

付録 J.4 使用上の注意

(1) 環境設定ユーティリティのサポート範囲

環境設定ユーティリティは以下の条件の時、DB 設定用パラメタファイルの計算で正しい値を出力します。

1. 全てのサーバについて

- 設定可能な範囲でパラメタ値を入力した場合

2. Address/Mail を使用する場合

- (システム内の全ユーザ数) ÷ (このサーバに登録するユーザ数) が 400 以下
- (システム内の全ユーザ数) が 32500 以下
- 各サーバに登録するユーザ数が平均化されている
- このサーバに登録するユーザ数は、1~5000

3. Workflow を使用する場合

- ワーク処理日数とワーク保存日数の合計が 30 日以内

上記以外のシステム構成でパラメタファイルを作成する場合、各サーバプロダクトのマニュアル・“Readme” ファイルを参照し、パラメタファイルの作成を行ってください。

また、環境設定ユーティリティでは DB 設定用パラメタファイルの計算式で、仮定値を用いて計算している部分があります。この仮定値と実際の値が大きく違う場合、DB 容量不足などの障害が発生する場合があります。その場合も上記と同様にパラメタファイルを作成してください。

参考

■本製品のパラメタを Windows 版 Groupmax 各 PP 製品にて利用する場合

- Groupmax Mail/Address Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編(3020-3-D10)
Groupmax Object Server と Groupmax High-end Object Server のデータベースファイルの例
- Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B59)
ディスク占有量の計算式

■本製品のパラメタを HP-UX, HI-UX/WE2, および AIX 版 Groupmax 各 PP 製品にて利用する場合

- Groupmax Mail/Address Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編(3000-3-A81)
Groupmax Object Server と Groupmax High-end Object Server のデータベースファイルの例
 - Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド (3000-3-477)
ディスク占有量の計算式
-

参照

電子アドレス帳／メールの仮定値

文書管理の仮定値

ワークフローの仮定値

(a) 電子アドレス帳／メールの仮定値

電子アドレス帳／メールの仮定値を、次に示します。

仮定値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま仮定値となることを示します。また、仮定値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

項目	記号	算出値
送信メール 1 通あたりの宛先数の平均	a	入力値
全マスタ掲示板数 (下位掲示板も含む)	B	入力値
全レプリカ掲示板数 (下位掲示板も含む)	b	$B \times 0.3$
全掲示板に 1 日あたりに掲示される全記事数の平均	C	B と同じ値
全サーバ数	e	T/Z
E-mail アドレス利用者数	E	T と同じ値
全グループ数	g	o と同じ値
ユーザ 1 人が権利を所有する組織の数	h	1
組織 1 つが保持する保留メール数の平均	k	5
データベースの運用期間 (日数)	n	30
全組織数	o	入力値
サーバ 1 台に登録する組織メールボックス数	O	o/e
掲示板 1 つあたりのレプリカ数の平均	p	※3
1 つのメールボックスが保持する受信メール数の平均	r	入力値
サーバ 1 台が 1 日あたりに受信するメール数の平均	R	入力値
1 つのメールボックスが保持する送信メール数の平均	s	r と同じ値
サーバ 1 台が 1 日あたりに発信するメール数の平均	S	R/a
全最上位組織数	t	$T/500$
全ユーザ	T	入力値
Mail のメールボックスを持つ全ユーザ数	u	T と同じ値
宛先ユーザと Mail のメールボックスを持つ全ユーザ数	U	T と同じ値
送信メール 1 通あたりの送信先サーバ数の平均	v	※1
サーバ 1 台に登録するメールボックス数	x	$Z+o/e$
E-mail アドレスの平均長(byte)	X	入力値
Scheduler ユーザ数	Y	※2
1 人が 1 日に送信するメール数	z	入力値
当該サーバに登録するユーザ数	Z	入力値
1 ユーザあたりのユーザ任意情報の定義数の平均	HE	入力値

注 表中の商はすべて切り上げです。

「入力値」は画面から入力できる値

※1 a と e のどちらか小さい方の値になります。

※2 Scheduler が指定されている場合は T と同じ値になります。指定されていない場合は 0 になります。

※3 e と 250 の小さいほうの値

(b) 文書管理の仮定値

文書管理の仮定値を、次に示します。

仮定値が「入力値」となっている場合は、ユーザが入力した値がそのまま仮定値となることを示します。また、仮定値に使用している英字は、記号の欄に記載されている英字に対応します。

項目	記号	算出値
文書データベース数	N	$n+j$
分類あたりのリンク文書数	x	m/v^{*3}
全文書数	M	$m+q$
一般文書データベースあたりの一般文書数	b	m/n
総分類数	v	入力値
バージョン数	p	入力値
サーバに登録するユーザ数	u	入力値
1 ユーザあたりの文書アクト数	k	2
フォルダ数	f	入力値
1 フォルダあたりの平均格納文書数	h	m/f
同時ログインユーザ数	A	※1
全フォーム文書数	q	入力値
フォーム文書データベース数	j	入力値
1 ユーザあたりの同時アクセス文書数	E	入力値
1 文書あたりのファイル数	F	2
全一般文書数 (旧: 全文書数(一般文書のみ))	m	入力値
一般文書データベース数	n	入力値
1 つの一般文書データベースのユーザ定義属性数の平均値	a	s と同じ値
1 つの一般文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値	s	入力値
1 つの文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性の平均長	l	64
1 つの文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性数の平均値	fa	$s*0.9$
1 つのフォーム文書データベースのユーザ定義属性数の平均値	ab	$sb+4$
1 つのフォーム文書データベースの符号付き整数型ユーザ定義属性数の平均値	ib	2
1 つのフォーム文書データベースの日付型ユーザ定義属性数の平均値	tb	2
1 つのフォーム文書データベースの文字列型ユーザ定義属性数の平均値	sb	入力値
1 つのフォーム文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性数の平均値	fb	$sb*0.9$

項目	記号	算出値
全フォーム文書データベースの固定長文字列型ユーザ定義属性の平均属性長	lb	64
配布文書グループ数	g	入力値※4
1 サーバ内の配布対象文書の総数	w	$m*0.8$
1 配布文書グループあたりの配布先サーバ数の平均	y	※2
配布で取り込まれた文書の総数	r	入力値
複数グループアクセス権機能	o	1:on/0:off
1 文書データベースに追加される平均ユーザ定義属性数 (オブジェクトリスト型)	oo	0
1 フォーム文書データベースに追加される平均ユーザ定義属性数 (オブジェクトリスト型)	ob	0
一般文書 DB 及び フォーム文書 DB 中のユーザ定義属性の総数	AA	$a*n+ab*j$
一般文書 DB 及び フォーム文書 DB 中のユーザ定義属性のインデクスの総数	I	$a*n+ab*j$
一般文書 DB 及び フォーム文書 DB 中のユーザ定義属性の属性型が文字列型の総数	C	$s*n+sb*j$
文書配布機能の環境有無 (1:on/0:off)	H	1

※ 表中の商は全て切り上げ。「入力値」は画面から入力できる値

※1: Document Manager は, $max=256$, High-end Document Manager は, $max=1000$ 。

※2: $g=0$ の時 0。 $g>0$ の時は (システムに登録するユーザ数) / u 。

※3: $v=0$ の場合は 0 にします。

※4: $(m*0.8/100+2)$ の値が 1500 を越える場合は, 1500 とします。

(c) ワークフローの仮定値

ワークフローの仮定値を, 次に示します。

仮定値が「入力値」となっている場合は, ユーザが入力した値がそのまま仮定値となることを示します。また, 仮定値に使用している英字は, 記号の欄に記載されている英字に対応します。

項目	記号	算出値
再構成間隔	a	30
1 日あたりのワーク数	b	入力値
ワーク処理日数	c	入力値
ワーク保存日数	d	入力値
1 ケースあたりの Workflow データベース格納メモ数	e	1
1 メモの Workflow データベース格納メモサイズ (KB)	f	2
1 ロールあたりの自動配布キー	g	1
1 ビジネスプロセスあたりの定義ノード数	h	入力値

項目	記号	算出値
Workflow マネージャスリープ時間 (秒)	i	60
1日あたりの運用時間 (時)	j	8
全ビジネスプロセス定義数	k	入力値
最大ワーク数	m	$b*(c+d)$
ワーク内のケース数	n	入力値
ワーク内のヒストリ数	o	※1
ワーク内のロール数	p	※2
最大ケース数	q	$m*n$
ケース内のメモ数	r	1
ケース内の文書数	s	入力値
ケース内の下位ケース数	t	1
ケース内の相談件数	u	2
ケース内の拡張ユーザ属性数	v	2
1ビジネスプロセスあたりのケース定義数	w	1
ケース属性数	x	$v+15$
ロール数	y	入力値
サーバに登録するユーザ数	z	入力値
自動配布キー総数	A	$g*y$
階層連携ビジネスプロセスの最大ケース数	B	$q*0.3$
階層連携ビジネスプロセスの案件を処理したユーザ数	C	$h*0.5$
全データオブジェクト数	D	$q*e$
データオブジェクトサイズ (KB)	E	fと同じ値
全ワーク数 (削除分も含む)	F	$a*b$
全ノード数	G	$h*k*ss$
全ケース定義数	H	$ss*w*k$
全ケース数	I	$n*F$
全代行数	J	$F*0.01$
全文書数	K	$s*I$
全メモ数	L	$r*I$
全データオブジェクト数	M	$e*I$
ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の種類	N1	Fと同じ値

項目	記号	算出値
ワーク ID の重複が 200 個以下のワーク ID の平均重複数	O1	1
ワークの処理期限の重複が 200 個以下のワークの処理期限の種類	P1	※3
ワークの処理期限の重複が 200 個以下のワークの処理期限の平均重複数	Q1	※4
ワークの処理期限の重複が 201 個以上のワークの処理期限の種類	P2	※5
ワークの処理期限の重複が 201 個以上のワークの処理期限の平均重複数	Q2	※6
ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の種類	R1	※7
ワークの遷移状態の重複が 200 個以下のワークの遷移状態の平均重複数	S1	※8
ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の種類	R2	※9
ワークの遷移状態の重複が 201 個以上のワークの遷移状態の平均重複数	S2	※10
送付待ち案件数	T	※11
自動配布キーあたりのユーザ数	U	1
全サーバ数	V	ZZ/z
転送待ち案件数	W	1
ユーザが属する作業机数	X	k*pp*0.02
最大ログインユーザ数 (旧: 同時ログインユーザ数)	Y	入力値
1 メモあたりのメモサイズ (KB)	Z	0.01
1 ビジネスプロセスあたりのユーザ数	cc	pp*hh
ユーザ処理リスト数	dd	k*h
ユーザ処理リスト内作業数	ee	2
ロールに留まっている案件数	ff	1
ロールに関連するビジネスプロセス数	gg	2
1 ロールあたりのユーザ数	hh	z/y
ユーザに留まっているケース数	ii	b*c*n/z
ユーザ内ヒストリ数	jj	入力値
ユーザに関連するロール数	kk	5
1 ユーザあたりの代行者数	mm	1

項目	記号	算出値
ビジネスプロセス定義の最大実行形式サイズ (KB)	nn	150
ソースノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数	oo	k*0.8
BP 内ロール数	pp	h*0.6
ノードにユーザを割り当てたビジネスプロセス定義数	qq	k*0.8
ビジネスプロセス定義あたりの BP 管理者数	rr	NN/k
定義更新世代	ss	5
最大文書数と最大メモ数の和	tt	q*(r+s)
ユーザに関連するビジネスプロセス数	uu	kk と同じ値
ビジネスプロセス定義あたりの BP モニタリング権限者数	vv	rr*0.1
全ケース定義数	ww	k*w
全組織ロール数	xx	YY*0.5
そのサーバをロール登録サーバとする組織ロール数	yy	xx/V
階層化ロール数	zz	y*0.1
階層化ロールに含まれるロール数	AA	5
平均ロール内ユーザ数	CC	hh と同じ値
ロール配布権限を持つユーザ数	DD	PP と同じ値
ロール更新権限を持つユーザ数	EE	HH と同じ値
自動配布キーあたりのビジネスプロセス定義数	FF	k/A
全階層ロール数	GG	zz と同じ値
ドメイン管理者, ワークフロー運用管理者, ビジネスプロセス管理者のどれかである又はビジネスプロセス定義に参照権限を持っているユーザの数	HH	ZZ*0.05
ビジネスプロセス定義あたりの BP 配布権限者数	JJ	rr*0.1
ロール定義あたりの自動配布キー数	KK	g と同じ値
代行者を持つユーザ数	LL	z*0.1
1 ユーザあたりの, ビジネスプロセス管理者に指定されているビジネスプロセス数	MM	k/NN
ビジネスプロセス管理者数	NN	HH と同じ値
1 ユーザあたりの, ビジネスプロセス配布権限を持つビジネスプロセス数	OO	k/PP
ビジネスプロセス配布権限を持つユーザ数	PP	ZZ*0.01
1 ユーザあたりの, 参照権限を持つビジネスプロセス数	QQ	k/RR

項目	記号	算出値
ビジネスプロセス定義の参照権限を持つユーザ数	RR	HH と同じ値
1 ユーザあたりの、ロール配布権限を持つロール数	SS	y/DD
1 ユーザあたりの、ロール更新権限を持つロール数	TT	y/EE
1 ビジネスプロセス定義あたりの自動配布キー数	UU	A/k
全組織数	YY	※12
全ユーザ数	ZZ	入力値
ビジネスプロセス定義名称長 (平均値)	aaa	32
ビジネスプロセスファイル名称長 (平均値)	bbb	32
添付ファイル名称長 (平均値)	ccc	32
V1 のビジネスプロセス定義で他のビジネスプロセスで処理中の案件数 (平均値)	ddd	1
そのサーバをビジネスプロセス登録サーバとするビジネスプロセス定義での他のサーバで処理中の案件数 (平均値) 及びそのサーバに配布されたビジネスプロセス定義で処理中の案件数 (平均値)	eee	T と同じ値
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセス定義の種類	BB1	k と同じ値
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 200 個以下のビジネスプロセス定義の平均重複数	BB2	1
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセス定義の種類	BB3	0
そのサーバに登録されたビジネスプロセス定義名称の重複が 201 個以上のビジネスプロセス定義の平均重複数	BB4	0
1 ユーザあたりの同時接続セッション数	as	入力値
キャッシュメモリサイズ(MB)	cm	入力値
ワークフローデータベースへの同時アクセス数	fff	入力値※13
マルチサーバの総サーバ数	ggg	入力値
管理者用最大ログインユーザ数 (旧: 最大ログインユーザ数 (02-10 より前のバージョン))	hhh	入力値※14
ワーク ID 採番用管理情報遅延更新機能	ID	入力値
1 日あたりのドメイン間連携ノードに到達するケース数	lll	入力値
1 日あたりのドメイン間連携機能で投入されるワーク数	mmm	入力値※15
Workflow の環境設定の「ドメイン間連携管理情報最大保存期間」で設定した値	nnn	入力値
ワーク下のオブジェクト数 (最大値)	ooo	入力値

※ 表中の商は全て切り上げ。「入力値」は画面から入力できる値

※1: $\uparrow((\text{通過ノード数/ワーク}) * 2 + (\text{応用フローモデル数/ワーク})) / 2 \uparrow$

(通過ノード数/ワーク): h*通過率, (応用フローモデル数/ワーク): l

通過率は、次に示すようにノード数に対応します。

ノード数	通過率
1~10	0.75
11~50	0.5
51~100	0.3
101~	0.25

※2: $\uparrow((\text{通過ノード数/ワーク}) * 0.6) / 2 \uparrow$

※3: $b \leq 200 \dots a, b > 200 \dots 0$

※4: $b \leq 200 \dots b, b > 200 \dots 0$

※5: $b > 200 \dots a, b \leq 200 \dots 0$

※6: $b > 200 \dots b, b \leq 200 \dots 0$

※7: $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ の場合...3, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ の場合...0

※8: $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ の場合... $\uparrow m * 0.01 \uparrow$, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ の場合...0

※9: $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ の場合...2, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ の場合...5

※10: $\uparrow m * 0.01 \uparrow \leq 200$ の場合... $\uparrow m * 0.99 \uparrow$, $\uparrow m * 0.01 \uparrow > 200$ の場合...m

※11: $\uparrow (b * (\text{通過ノード数/ワーク})) / (j * 3600 / i) \uparrow$

(通過ノード数/ワーク) は※1 参照

※12: $\uparrow ZZ / 20 \uparrow + \uparrow ZZ / 100 \uparrow + \uparrow ZZ / 500 \uparrow$

※13: Workflow Server は、2 固定, High-end Workflow Server は、max=32

※14: Windows のときは、64 固定, HI-UX/WE2, HP-UX および AIX のときは、max=200

※15: 1 日あたりのワーク数の内数で指定。

(2) ハイエンド系のサーバプログラムの選択について

「Groupmax サーバ環境設定ユーティリティ」の「プログラムの選択」項目で、ハイエンド系のサーバプログラム(ハイエンド文書管理,ハイエンドワークフローまたはハイエンド WF(ドメイン))を選択した場合、設定対象として自動的に High-end Object Server が選択されますが、ハイエンド系のサーバプログラムを再度ローエンドに変更した場合でも、Object Server は High-end Object Server が選択されたままの状態となります。再度ローエンドの Object Server に変更する場合には、サーバプログラムをすべてローエンドに変更した後に、「オプション」ボタンにより[オプション設定]ダイアログを表示して、「Object Server」を選択してください。なお、ハイエンド系を選択しているサーバプログラムが1つでもある場合(当該サーバプログラムのチェックボックスがオフとなっていて非活性表示となっている状態も含む)、ローエンドの Object Server は選択できない仕様となっておりますのでご注意願います。

付録 K 用語解説

Object Server だけの用語については、用語の後ろに (Object Server) と付けて表記しています。また、High-end Object Server だけの用語については、用語の後ろに (High-end Object Server) と付けて表記しています。

(英字)

OMS

Object Management Server。システムで使用される略語で、オブジェクトサーバを指しています。

OMS 識別子

オブジェクトサーバを識別する記号です。ログメッセージなどに出力されます。OMS 識別子は、システム共通定義の「system_id」で定義します。

(ア行)

エリア

オブジェクトサーバのディレクトリ、ディクショナリ、ユーザデータベースなどを格納する領域です。エリアは、一つ又は複数のファイルから構成されます。その名称などは初期設定パラメタ又は構成変更パラメタで定義します。

オブジェクト

オブジェクトサーバで管理されるデータのことです。

オブジェクト管理ファイル

オブジェクトサーバのデータである、オブジェクトを格納するファイルのことです。マニュアル中では、オブジェクト管理ファイルのことをデータベースとも呼んでいます。

オブジェクトサーバ

マニュアル中では、Object Server 及び High-end Object Server を総称して「オブジェクトサーバ」と表しています。

(カ行)

簡易ジャーナル(Object Server)

データベースの整合性を保証するために、その時点でのデータベース更新情報を一時的に保存するファイルです。連携するプログラムに障害が起こったとき、Object Server は、簡易ジャーナルの情報によって、データベースを障害発生時の処理が開始される前の状態へと復旧します。

クライアント

データベースを利用する側を指します。オブジェクトサーバでは、Groupmax シリーズのクライアントプログラムが動作するパーソナルコンピュータを指します。

グローバルキャッシュ

オブジェクトサーバのデータベースページの入出力用のバッファキャッシュです。グローバルキャッシュは、システム共通定義ファイルの gcache パラメタに定義します。

構成変更

いったん初期化したオブジェクトサーバの、データベースの構成を変更することです。データベース構成変更ユーティリティを使って、エリアを追加するなどの構成変更ができます。

例えば、新たにオブジェクトサーバと連携するプログラムを追加するときは、データベースの構成を変更する必要があります。

(サ行)

サーバ

データベースを提供する側を指します。オブジェクトサーバが動作するサーバマシンのことです。

再初期化

オペレーティングシステム障害、ファイルシステム障害、運用誤りなどが原因でデータベースエリア中のファイルが削除されたり不正になったりしたデータベースエリアを初期化し直すことです。

再編成

オブジェクトの追加、削除による、データベース中のオブジェクトの配置の乱れを修正して、オブジェクトを適切に配置し直すことです。データベースの再編成を実行すると、データベースのオブジェクトはいったんファイルにアンロードされた後、再びデータベースに登録されます。

システム管理者

オブジェクトサーバを運用管理するユーザです。オブジェクトサーバのシステム管理者がオブジェクトサーバのコマンドを実行できます。

システム共通定義

オブジェクトサーバシステムに共通する環境を決めるための情報です。システム共通定義は、システム共通定義ファイル「%XODCONFPATH%\%xodrc」に記述します。このファイルは、オブジェクトサーバのシステム管理者が環境を設定するときに作成します。

システムジャーナル (High-end Object Server)

High-end Object Server が取得する履歴情報です。次に示すような履歴情報を取得します。

- システムの全面回復・部分回復に必要な情報
- システムのトレース情報

システムジャーナルは、システムに障害が発生したときに、データベースを回復するために使用します。

システムディレクトリ

オブジェクトサーバのプログラムを組み込むためのディレクトリです。オブジェクトサーバのシステム管理者は、プログラムを組み込む前にシステムディレクトリを決定してください。

ジャーナル情報ファイル (Object Server)

Object Server が現在使用している簡易ジャーナルファイルの情報を格納するファイルです。マスタディレクトリファイルと同じディレクトリ内に xodjnlinfo という名称で作成されます。

Object Server の簡易ジャーナルファイルは任意に変更できるため、このジャーナル情報ファイルで管理され、次回 Object Server を開始又は再開するとき参照されます。

次の場合は、ジャーナル情報ファイルを Object Server の停止中に削除できます。

- Object Server が正常終了している場合
- Object Server を強制正常開始する場合

初期設定パラメタ

オブジェクトサーバのデータベースファイルを初期化するための情報です。初期設定パラメタの設定値は、初期設定パラメタファイル（名称は任意）に記述します。このファイルは、オブジェクトサーバのシステム管理者がデータベースを初期化する前に作成します。

ステータスファイル (High-end Object Server)

システムの稼働状況や構成状況を格納するファイルです。ステータスファイルに格納される情報をシステムステータス情報といい、次のような情報が記録されます。

- システムの開始状態を自動的に決定するための情報
- システムの状態情報

システムステータス情報は、サーバの開始、終了、ファイルのオープン、クローズなど、状態が変化した時点で、最新の情報が格納されます。格納された情報は、システムに障害が発生した場合の回復に使用します。

セグメント

オブジェクトサーバのデータベースファイルの初期割り当て及び増分の単位です。セグメントの大きさは、初期設定、構成変更、再構成、パラメタ「area -s」に、ページ数で指定します。

(ハ行)

ページ

オブジェクトサーバでの、データの入出力の単位です。1 ページは 8,192 バイトです。

(ヤ行)

ユーザジャーナル

Groupmax Workflow Server の履歴情報を出力するファイルです。出力する情報の内容は、Groupmax Workflow Server で決まっています。オブジェクトサーバでは、正常時用ユーザジャーナル出力ファイル及び障害時用ユーザジャーナル出力ファイルを割り当てて使用します。

索引

記号

%XODCONFPATH% ¥ sysjnl 203, 209
%XODCONFPATH% ¥ xodrc 15
%XODDIR% ¥ bin 98
%XODDIR% ¥ conf ¥ sts 98
%XODDIR% ¥ conf ¥ sysjnl 18, 99
%XODDIR% ¥ conf ¥ xodrc 98
%XODDIR% ¥ lib ¥ servers 98
%XODDIR% ¥ sample ¥ DBSINT.BAT 100
%XODDIR% ¥ sample ¥ sts 100
%XODDIR% ¥ sample ¥ sysjnl 100
%XODDIR% ¥ sample ¥ xodrc 100
%XODDIR% ¥ spool ¥ 99
%XODDIR% ¥ spool ¥ jnlfile 99
%XODDIR% ¥ spool ¥ jnlfile2 99
%XODDIR% ¥ spool ¥ pdmp プロセス ID 99
%XODDIR% ¥ spool ¥ save 91
%XODDIR% ¥ spool ¥ save ¥_サーバ名 N 99
%XODDIR% ¥ spool ¥ save ¥ xodtrace 99
%XODDIR% ¥ spool ¥ save
¥ YMMDDhhmmss 99
%XODDIR% ¥ spool ¥ work 128, 130, 133, 168
%XODDIR% ¥ spool ¥ xodrecinf 169, 170
%XODDIR% ¥ tmp ¥ home ¥ 99
-a 115
-a オペランド 130
-c 211
-d 203, 208
-d オプション 129
-d オペランド 128, 133
-e オペランド 107
-f 191, 205, 207, 210-213
-g 114, 115, 203, 205, 206, 208
-i オペランド 121, 125, 130, 134
-j 203-208
-m オペランド 108, 109, 122, 125, 134
-n 135, 136, 205, 209, 210, 212
-n オプション 129
-n オペランド 107-109, 119, 121, 124, 125, 133,
134
-o 208
-r 192, 204, 207, 209
-s 205
-s オペランド 110, 120, 125, 134
-t オペランド 110, 129

-u オペランド 108, 109, 119, 125, 128, 133, 134
-w オペランド 128, 130, 133

A

add_area_limit 106
area パラメタ 118, 124, 129, 133, 136
A 系 74
A 系ステータスファイル 112

B

backup パラメタ 135
bin 13
B 系 74
B 系ステータスファイル 112

C

conf 13

D

DATADIR 119
dbm_master 106
DICTIONARY 119
dynamic_shmpool_size 105

E

errno のコード一覧 338
eset 13

F

FAT 10
file パラメタ 120, 125, 134

G

gcache 107
Groupmax Address/Mail Server 5
Groupmax Document Manager 5
Groupmax Document Manager によって付けられ
た文書の属性 5
Groupmax Workflow Server 5
Groupmax 環境設定ウィンドウ 236
Groupmax サーバ環境設定ユティリティで使用する
ウィンドウとダイアログ 236

Groupmax サーバ環境設定ユーティリティによる環境
設定 224
Groupmax サーバ環境設定ユーティリティの機能 224
Groupmax シリーズのシステム構成 5

H

HCD_INST.EXE 12
High-end Object Server 2
High-end Object Server で使用する運用コマンド
199
High-end Object Server の運用コマンド一覧 200
High-end Object Server のユーティリティで使用する
ウィンドウとダイアログ 142

I

INDEX 120

J

jnl_cdinterval 114
jnl_output_file 107
jnl_rerun_swap 114
jnl_unload_check 113
jnladdfg 114
jnladdpf 115

K

KFXO 88

L

lck_limit 104
lib 13

M

MASTER 119

N

NTFS 10, 72

O

Object Server 2, 20
Object Server から High-end Object Server への移
行手順 283
Object Server 簡易設定ダイアログ 238
[Object Server 管理ツール] ウィンドウ 140
Object Server のユーティリティで使用するウィンドウ
とダイアログ 141

Object Server を使用する場合の設定項目 259
OIDINDEX 119
OID インデクス 102, 118, 119, 122
OMS 863
OMS サーバ 98
OMS 識別子 863
ONL 114
OS の機能による回復方法 53
OS の機能による取得方法 49

P

PATH 13
prc_process_count 104

R

recreate パラメタ 129, 132
reorg パラメタ 127
resiobj 109
resipool 109

S

sample 13
set 形式 113
set 形式の例 18
spool 13
static_shmpool_size 105
sts_file_name_1~sts_file_name_7 111
system_id 104

T

tmp 13
tools 13
trn_tran_process_count 104

U

ujerror 106
ujfile 107
USER 119

W

Windows NT クラスタでのオブジェクトサーバの環
境設定 295

X

xodaradd 150
xodarint 176

xodarls 180
 xodarm 152
 xodbckup 163
 xodbinit 148
 xodbkout 172
 xodbrcons 173
 xodbrecv 169
 xodbreog 160
 xodbrstr 166
 xodbuse 179
 xodclear 194
 XODCONFPATH 13
 xoddicls 181
 XODDIR 13
 xodfladd 154
 xodflalt 157
 xodjnlchg 203
 xodjnlcls 204
 xodjnlinfo 99
 xodjnlinit 205
 xodjnlopn 206
 xodjnlrm 207
 xodjnlswp 207
 xodjnlunl 208
 xodpinfo 195
 xodresult 16, 26, 28, 30, 32, 34, 50, 57-59, 62
 xodstscls 210
 xodstsinit 211
 xodstsopn 212
 xodstsrn 213
 xodstsswp 214
 xodujunl 191
 xodusta 193

あ

アプリケーション実行モードへの変更 192
 [アプリケーション実行モードへの変更] ユティリティ
 192
 アプリケーションプログラムごとに回復する 54
 アプリケーションプログラムごとに取得する 48
 アプリケーションプログラム実行モード 21
 アポートコード 307
 アンロード 82
 アンロードジャーナルファイル 82, 167
 アンロードジャーナルファイルのソート 168

い

異常終了時の回復方法 88

インストールプログラム 12
 インデクス 102, 119, 120
 インデクスエリアの見積もり 42

う

運用コマンドの指定方法 201

え

エラー情報ファイル 99
 エリア 863
 エリアの再作成 61
 エリアの再初期化 67
 エリアの削除 28
 エリアの追加 26, 125
 エリアの追加に使用するユティリティ 26
 エリアの用途, 定義順序及び定義数 118
 エリアの用途と識別子 119

お

オフィスで使われるオブジェクトサーバ 3
 オブジェクト 863
 オブジェクト管理ファイル 863
 オブジェクトサーバ 863
 オブジェクトサーバが提供するユティリティ 3
 オブジェクトサーバ簡易設定 226
 オブジェクトサーバ管理ファイル 102
 オブジェクトサーバで使用するユティリティ 137
 オブジェクトサーバとは 2
 オブジェクトサーバの異常終了時の処置の流れ 93
 オブジェクトサーバの環境設定 7
 オブジェクトサーバの環境設定の順序 8
 オブジェクトサーバの起動と終了 19
 オブジェクトサーバのシステムファイル 72
 オブジェクトサーバのファイル 97
 オプション 143
 [オプション設定] ダイアログ 259
 オプションの形式 143
 オプションの指定規則 144
 オプションフラグ 143

か

[カーネルパラメタ情報設定] ダイアログ 268
 カーネルパラメタの変更情報の作成 235
 カーネルパラメタの変更情報の通知ファイル 228
 開始時のモード 21
 開始方法 20
 回復に使用するファイル 95
 回復の対象となるファイル 53

回復ユティリティ実行モード 22
 各 OS 使用時の注意事項 304
 カレントワーキングディレクトリ 99
 簡易ジャーナル 79, 863
 簡易ジャーナルの構成 79
 簡易ジャーナルの目的 79
 簡易ジャーナルファイル 72, 79, 99
 環境設定 304
 環境設定の準備 10
 環境設定の手順 229
 環境変数 12

き

起動 20
 強制正常開始 21

く

組み込み 12
 組み込みファイル一覧 13
 クライアント 863
 クラスタ環境で使用する場合の注意事項 276
 クラスタリング機能 295
 グローバルキャッシュ 107, 863

け

現用 75, 81
 現用のファイルが出力障害になった場合 82
 現用のファイルグループが一杯になった場合 81

こ

構成変更 863
 構成変更パラメタ 98
 構成変更パラメタの形式 124
 構成変更パラメタの項目 124
 構成変更パラメタの指定方法 125
 構成変更パラメタファイル 124, 227
 構成変更パラメタファイルの作成 30
 コマンド 98
 コマンド一覧 200
 コマンドおよびバッチファイルの実行 305
 コマンド形式 113
 コマンド形式の例 18
 コマンドによるスワップ 82
 コマンド引数 144
 コマンドプロンプトから実行できるユティリティ 145
 コマンド名 143
 コマンドを使用したユティリティの実行 143
 コマンドを使用して開始する場合 21

さ

サーバ 864
 サーバ管理ユティリティ 195
 サービス登録 20
 サービスの開始・終了 304
 サービスへの登録 20
 サービス名 20
 再開始 20
 再構成パラメタ 98
 再構成パラメタに指定する値の見積もり 40
 再構成パラメタの形式 132
 再構成パラメタの項目 132
 [再構成パラメタの作成] ダイアログ 246
 再構成パラメタファイル 132
 再構成パラメタファイルの作成 61
 再初期化 864
 最大割り当て量 156
 再編成 864
 再編成パラメタ 98
 再編成パラメタの形式 127
 再編成パラメタの項目 127
 [再編成パラメタの作成] ダイアログ 245
 再編成パラメタファイル 127, 227
 再編成パラメタファイルの作成 33
 削除 13
 作成されるファイル 228
 作成ファイルを他のサーバで使用する場合 274
 参照ダイアログ 143
 サンプルファイル 100, 221
 サンプルファイルの内容 222

し

識別子 119, 120
 システム移行時の障害予防 283
 システム移行時の注意 283
 システム運用支援 182
 システム回復用ジャーナル情報 80
 [システム環境への登録] ダイアログ 244
 システム環境を設定及び変更する 278
 システム管理者 864
 システム管理者による環境設定 12
 システム管理者の権限 11
 システム管理者の設定 11
 システム管理者の登録 11
 システム共通定義 98, 864
 システム共通定義の形式 103
 システム共通定義の項目 104
 システム共通定義ファイル 103, 228

- システム共通定義ファイルサンプル 100
 - システム共通定義ファイルの作成 15
 - [システム構成の設定] ダイアログ 248
 - システムジャーナル 80, 864
 - システムジャーナルサービス定義 99
 - システムジャーナルサービス定義の形式 113
 - システムジャーナルサービス定義の項目 113
 - システムジャーナルサービス定義ファイル 113, 228
 - システムジャーナルサービス定義ファイルサンプル 100
 - システムジャーナルサービス定義ファイルの作成 18
 - [システムジャーナルのアンロード] ダイアログ 187
 - [システムジャーナルのアンロード] ユティリティ 187
 - [システムジャーナルの情報] ダイアログ 183
 - システムジャーナルの情報の表示とアンロード 182
 - [システムジャーナルの情報] ユティリティ 183
 - システムジャーナルファイル 72, 99
 - システムジャーナルファイルのアンロード 82
 - システムジャーナルファイルの上書き 82
 - システムジャーナルファイルのオープンとクローズ 84
 - システムジャーナルファイルの構成 80
 - システムジャーナルファイルのコマンド 84
 - システムジャーナルファイルの再使用 83
 - システムジャーナルファイルの作成 18, 80
 - システムジャーナルファイルの状態 80
 - システムジャーナルファイルの状態遷移 83
 - システムジャーナルファイルの情報の表示 84
 - システムジャーナルファイルのステータスの変更 84
 - システムジャーナルファイルのスワップ 81
 - システムジャーナルファイルの目的 80
 - システム情報ファイル 99
 - システムステータス情報 74
 - システム制御ファイル 98
 - システム制御ファイル一覧 98
 - システムディレクトリ 12, 864
 - システム統合運用管理からオブジェクトサーバを起動する場合 21
 - システム統合運用管理からオブジェクトサーバを終了する場合 23
 - (システムドライブ) : ¥ Win32app ¥ HITACHI ¥ Groupmax ¥ ObjectSV 12
 - [システムの運用支援] ダイアログ 182
 - システムファイル 72
 - システムファイル, NTFS 及びデータベースファイルの関係 73
 - システムファイル作成用バッチファイル 100, 228
 - システムファイルの運用 71
 - システムファイルの作成 17
 - システムファイルの保護 73
 - ジャーナル情報ファイル 79, 99, 864
 - ジャーナルのファイルグループの指定 114
 - ジャーナルの物理ファイルの指定 115
 - ジャーナルファイル管理 203
 - ジャーナルファイルのアンロード 208
 - ジャーナルファイルの運用 79
 - ジャーナルファイルのオープン 206
 - ジャーナルファイルのクローズ 204
 - ジャーナルファイルの削除 207
 - ジャーナルファイルの初期設定 205
 - ジャーナルファイルのステータス変更 203
 - ジャーナルファイルのスワップ 207
 - ジャーナルファイル容量不足の対処 285
 - 終了 23
 - 障害回復に必要なファイル 94
 - 障害時の運用 194
 - 障害対策 87
 - 障害発生後の起動環境の修復 92, 194
 - [障害発生後の起動環境の修復] ユティリティ 92, 194
 - 障害予防と対処 277
 - 詳細コード 334
 - [詳細設定] ダイアログ 252
 - 常駐ページプール 109
 - 省略値を使用したシステム共通定義の例 15
 - 初期設定パラメタ 98, 864
 - 初期設定パラメタの形式 116
 - 初期設定パラメタの項目 117
 - 初期設定パラメタの指定値一覧 118
 - 初期設定パラメタの指定例 216
 - 初期設定パラメタファイル 116, 227
 - 初期設定パラメタファイルの作成 14
- ## す
-
- スキーマ名の表示 37, 178
 - [スキーマ名の表示] ユティリティ 178
 - ステータスサービス定義 98
 - ステータスサービス定義の形式 111
 - ステータスサービス定義の項目 111
 - ステータスサービス定義ファイル 111, 228
 - ステータスサービス定義ファイルサンプル 100
 - ステータスサービス定義ファイルの作成 17
 - ステータスサービス定義ファイルの例 17
 - ステータスファイル 72, 74, 99, 865
 - ステータスファイル管理 210
 - ステータスファイルに障害が起こったとき 90
 - ステータスファイルの運用 74
 - ステータスファイルのオープン 212
 - ステータスファイルのオープンとクローズ 77

ステータスファイルのクローズ 210
 ステータスファイルの構成 74, 75
 ステータスファイルのコマンド 77
 ステータスファイルの削除 77, 213
 ステータスファイルの作成 17, 76
 ステータスファイルの作成と定義 76
 ステータスファイルの状態 75
 ステータスファイルの状態遷移 77
 ステータスファイルの状態表示 77
 ステータスファイルの情報 188
 [ステータスファイルの情報] ダイアログ 189
 [ステータスファイルの情報] ユティリティ 188
 ステータスファイルの初期設定 211
 ステータスファイルのスワップ 76, 214
 ステータスファイルの操作 76
 ステータスファイルの定義 76
 スワップ 76
 スワップ先のファイルグループがない場合 83

せ

正常開始 20
 正常終了 23
 静的共用メモリ 105
 セグメント 120, 865
 セグメントサイズ 120
 全面回復 82
 全面回復時に使用するジャーナルファイル 82
 全面回復時のシステムジャーナルファイルの状態回復 84
 全面回復時の予約状態のオープン 83

そ

その他の障害 90
 その他のファイルに障害が起こったとき 91
 それぞれのサーバプログラムでの設定項目 254

た

ダイアログを使用したユティリティの実行 140
 待機 81
 他のプログラムとの関係 5
 ダンプ退避ファイル 99

つ

通信環境設定 226, 229
 通信設定ファイル 11
 通信設定ファイルの設定 11

て

定義ファイル 98
 定義ファイルの作成 14
 デクショナリ 102, 118, 119, 122
 デクショナリの情報表示 45, 181
 [デクショナリの情報表示] ユティリティ 181
 [デクショナリの情報表示] ユティリティの処理結果の出力項目 46
 [デクショナリの情報表示] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 46
 ディレクトリ構成の決定 10
 データディレクトリ 119
 データディレクトリ 102, 118, 122
 データベースエリアの使用状況の表示 37, 179
 [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティ 179
 [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティの処理結果の出力項目 38
 [データベースエリアの使用状況の表示] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 38
 データベース環境設定 146
 データベース構成変更 231
 データベース再構成 233
 データベース再編成 232
 データベース障害のメッセージが出力されていないとき 88
 データベース障害のメッセージが出力されているとき 88
 データベース初期化 230
 データベース初期化後の構造 116
 データベース診断 178
 [データベース定義ファイルの削除] ダイアログ 243
 データベース定義ファイルの作成ダイアログ 240
 [データベース定義ファイルの参照・更新] ダイアログ 242
 データベースの運用 25
 データベースのエリアの再作成 173
 [データベースのエリアの再作成] ユティリティ 173
 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力項目 65
 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (インデクス用エリアを再作成する場合) 65
 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (デクショナリ用エリアを再作成する場合) 63
 [データベースのエリアの再作成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (ユーザ用エリアを再作成する場合) 64

- データベースのエリアの再初期化 176
- データベースのエリアの再初期化に使用するユーティリティ 67
- [データベースのエリアの再初期化] ユティリティ 176
- [データベースのエリアの再初期化] ユティリティの処理結果の出力項目 68
- [データベースのエリアの再初期化] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 68
- データベースのエリアの削除 151
- [データベースのエリアの削除] ダイアログ 152
- [データベースのエリアの削除] ユティリティ 151
- [データベースのエリアの削除] ユティリティの処理結果の出力項目 29
- [データベースのエリアの削除] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 29
- データベースのエリアの情報表示 42, 180
- [データベースのエリアの情報表示] ユティリティ 180
- [データベースのエリアの情報表示] ユティリティの処理結果の出力項目 44
- [データベースのエリアの情報表示] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 44
- データベースの回復 53, 58, 166
- [データベースの回復] ダイアログ 167
- データベースの回復に使用するユーティリティの位置付け 55
- データベースの回復に使用するユーティリティの運用の流れ 56
- [データベースの回復] ユティリティ 166
- [データベースの回復] ユティリティの処理結果の出力項目 58
- [データベースの回復] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 58
- [データベースの環境設定] ダイアログ 146
- データベースの構成変更 26
- データベースの再構成 61, 173
- データベースの再初期化 67, 176
- データベースの再編成 33, 158
- データベースの再編成が有効なエリア 40
- [データベースの再編成] ダイアログ 160
- [データベースの再編成] ユティリティ 158
- [データベースの再編成] ユティリティの処理結果の出力項目 36
- [データベースの再編成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (インデクスの再作成) 36
- [データベースの再編成] ユティリティの処理結果の出力フォーマット (オブジェクトの再編成) 35
- データベースの状態表示 37
- データベースの初期化 15, 146
- [データベースの初期化] ダイアログ 147
- [データベースの初期化] ユティリティ 146
- [データベースの初期化] ユティリティの処理結果の出力項目 16
- [データベースの初期化] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 16
- [データベースの診断] ダイアログ 178
- データベースのバックアウト 59, 170
- [データベースのバックアウト] ダイアログ 171
- [データベースのバックアウト] ユティリティ 170
- [データベースのバックアウト] ユティリティの処理結果の出力項目 59
- [データベースのバックアウト] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 59
- データベースのバックアップ 162
- [データベースのバックアップ] ダイアログ 163
- データベースのバックアップの取得 48
- [データベースのバックアップ] ユティリティ 162
- [データベースのバックアップ] ユティリティの処理結果の出力項目 51
- [データベースのバックアップ] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 51
- データベースのファイルの属性変更 155
- [データベースのファイルの属性変更] ダイアログ 156
- [データベースのファイルの属性変更] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 32
- [データベースの保守] ダイアログ 158
- データベースの満杯状態に近づいているエリア 40
- データベースのリストア 57, 164
- [データベースのリストア] ダイアログ 165
- [データベースのリストア] ユティリティ 164
- [データベースのリストア] ユティリティによる回復方法 53
- [データベースのリストア] ユティリティの処理結果の出力項目 57
- [データベースのリストア] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 57
- データベースファイル 101
- データベースファイル一覧 101
- データベースファイルを一括して回復する 54
- データベースファイルを一括して取得する 48
- データベースファイルを削除する 278
- データベースへのエリアの追加 149
- [データベースへのエリアの追加] ダイアログ 150
- [データベースへのエリアの追加] ユティリティ 149
- [データベースへのエリアの追加] ユティリティの処理結果の出力項目 27
- [データベースへのエリアの追加] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 27
- データベースへのファイルの追加 153

[データベースへのファイルの追加] ダイアログ 154
 [データベースへのファイルの追加] ユティリティ 153
 [データベースへのファイルの追加] ユティリティの処理結果の出力フォーマット 31
 データベース保守 158
 データベース満杯状態の回避 279
 [データベース容量の確認] ダイアログ 265
 データベース容量の決定 10
 データベースを再編成する 278
 データベースを障害発生時点からみて最新の同期点の状態に回復する (High-end Object Server) 55
 データベースをバックアップ取得時点の状態に回復する 54

と

動的共用メモリ 105
 登録情報 5
 トレースファイル 99

は

バージョンアップ時の障害予防 284
 バックアップからのデータベースファイルの回復方法 53
 バックアップの取得 277
 バックアップの取得する時点 277
 バックアップの対象となるファイル 48
 バックアップパラメタ 98
 バックアップパラメタの形式 135
 バックアップパラメタの項目 135
 バックアップパラメタファイル 135
 バックアップパラメタファイルの作成 50
 バッチファイルによる High-end Object Server のシステムファイル環境設定 221
 バッチファイルの使用方法 221

ふ

ファイアウォール 305
 ファイル一覧 98
 ファイルグループ 80, 102
 ファイルの最大割り当て量 122
 ファイルの初期割り当て量 121
 ファイルの増分 39
 ファイルの属性変更 31
 ファイルの追加 29, 126
 ファイル名 121
 ファイル容量の計算式 218
 物理ファイル 80
 不要なオブジェクトを削除する 282

フラグ引数 144
 プログラムの組み込みと削除 12
 プログラムライブラリ 98
 プロセスの状態表示 195

へ

閉塞 75
 ページ 120, 865

ほ

ポート番号の設定ダイアログ 237

ま

マスタディレクトリ 119
 マスタディレクトリ 102, 118, 121

め

メッセージ 307
 メッセージ ID 307
 メッセージの形式 307
 メッセージの番号 307
 メッセージへの対処 88

ゆ

ユーザジャーナル 85, 865
 ユーザジャーナルのアンロード 190
 [ユーザジャーナルのアンロード] ダイアログ 191
 [ユーザジャーナルのアンロード] ユティリティ 190
 ユーザジャーナルファイル 72
 ユーザデータベース 102, 118, 119
 ユーザデータベースのエリアの見積もり 41
 ユティリティー一覧 138
 ユティリティー実行モード 22
 ユティリティー実行モードによる開始 193
 [ユティリティー実行モードによる開始] ユティリティー 193
 ユティリティー等結果ファイル 99
 ユティリティーによる取得方法 50
 ユティリティーの実行方法 140
 ユティリティーの処理結果 16, 26, 28, 30, 32, 34, 37, 43, 45, 50, 57-59, 62

よ

用語解説 863
 要素ファイル 80
 予備 75
 予約 75, 81

れ

- 連携するアプリケーションプログラム 5
- 連携プログラム用データ格納ファイル 102

ろ

- 論理ファイル 74
- 論理ファイル名 111

わ

- ワークフロー管理情報 5